2022年度
シラバス
（講義要綱）

四日市大学

目　　次

【総合政策学部】卒業必要単位数

【2017年度以降入学生】

<table>
<tr><th colspan="3">区　　分</th><th colspan="4">卒業必要単位数</th></tr>
<tr><td rowspan="19">全学共通教育科目</td><td colspan="2" rowspan="2">基礎科目</td><td>必修</td><td colspan="3">6単位</td><td rowspan="19">50単位以上</td><td rowspan="24">全学共通教育科目・専門教育科目から自由に18単位以上</td><td rowspan="26">合計130単位以上</td></tr>
<tr><td rowspan="2">必修</td><td colspan="3">4単位
留学生は日本語で4単位</td></tr>
<tr><td colspan="2">語学科目</td><td>選択</td><td colspan="3">4単位以上
留学生は日本語で4単位以上</td></tr>
<tr><td colspan="2" rowspan="2">情報科目</td><td>必修</td><td colspan="3">6単位</td></tr>
<tr><td>選択</td><td colspan="3"></td></tr>
<tr><td colspan="2">地域科目</td><td>選択</td><td colspan="3">4単位以上</td></tr>
<tr><td rowspan="3">一般教養科目</td><td>社会科学系列</td><td>選択</td><td colspan="3">4単位以上</td></tr>
<tr><td>人文科学系列</td><td>選択</td><td colspan="3">4単位以上</td></tr>
<tr><td>自然科学系列</td><td>選択</td><td colspan="3">4単位以上</td></tr>
<tr><td colspan="2" rowspan="2">キャリア科目</td><td>必修</td><td colspan="3">4単位</td></tr>
<tr><td>選択</td><td colspan="3"></td></tr>
<tr><td colspan="2">※特別科目</td><td>選択</td><td colspan="3"></td></tr>
<tr><td rowspan="5">スキル科目</td><td>社会調査士養成ユニット</td><td>選択</td><td colspan="3" rowspan="5">いずれかのユニットから10単位以上</td></tr>
<tr><td>公務員養成ユニット</td><td>選択</td></tr>
<tr><td>おもてなし経営ユニット</td><td>選択</td></tr>
<tr><td>英語力養成ユニット</td><td>選択</td></tr>
<tr><td>メディアデザインユニット</td><td>選択</td></tr>
<tr><td rowspan="8">専門教育科目</td><td colspan="2">学部基礎科目</td><td>必修</td><td colspan="3">6単位</td><td rowspan="8">62単位以上</td></tr>
<tr><td colspan="2">演習科目</td><td>必修</td><td colspan="3">12単位</td></tr>
<tr><td colspan="2" rowspan="2">地域・まちづくり分野</td><td>選択必修</td><td rowspan="6">いずれかの分野を選択し、分野必修6単位と同じ分野から18単位以上</td><td rowspan="6">選択した以外の分野および分野共通科目から12単位以上</td><td rowspan="6">左記の条件を満たし、さらに8単位以上</td></tr>
<tr><td>選択</td></tr>
<tr><td colspan="2" rowspan="2">スポーツ・人間分野</td><td>選択必修</td></tr>
<tr><td>選択</td></tr>
<tr><td colspan="2" rowspan="2">国際・経営分野</td><td>選択必修</td></tr>
<tr><td>選択</td></tr>
<tr><td colspan="2">分野共通科目</td><td>選択</td><td></td></tr>
</table>

※特別科目の他大学開放科目については、全学共通教育科目の必要単位数を超えて修得した科目として認定し、10単位まで含めることができる。

カリキュラム表の見方

区　　分	基礎や専門、分野・コースなどの区分を記載します。
授業科目名	科目の名称・サブタイトルを記載します。
単　位　数	科目ごとの単位数を記載します。丸付数字は必修科目を表します。
年　　次	科目が開講されている学年・学期を記載します。 ○　…半期週１回開講 ◎　…半期週２回開講 集　…集中講義 ▲　…その他の開講 　…不開講科目
講師区分	本学の教員かそうでないかを記載します。 兼　…他学部所属教員 非　…他大学、他組織所属教員 空白　…本学部所属の教員を表します。
担当教員	科目を担当する教員名を記載します。
地　　域	地域志向科目（地域と結び付き具体的に学び、実践する科目）
ベーシック	ファンタジスタ科目ー三重創生ファンタジスタ（ベーシック）資格科目
実　　践	実践交流科目ー三重創生ファンタジスタ（アドヴァンス）資格科目
実　　務	実務家教員授業科目（本編科目名末尾に実務と記載します。）

区分			2017年度以降入学生 授業科目名	単位数	配当年次 1年次 前期	1年次 後期	2年次 前期	2年次 後期	3年次 前期	3年次 後期	4年次 前期	4年次 後期	講師区分	担当教員	ページ	地域	ベーシック	実践	実務	備考
全学共通教育科目	基礎科目	必修	「人間たれ」	②	○									岩崎恭典	1					
			入門演習Ⅰ	②	○									岩崎祐子	1					
														奥原貴士						
														加納光						
														川崎綾子						
														鶴田利恵						
														富田与						
														永井博						
														本部賢一						
														三田泰雅						
													兼	李修二						
			入門演習Ⅱ	②		○								岩崎祐子	2					
														奥原貴士						
														加納光						
														川崎綾子						
														鶴田利恵						
														富田与						
														永井博						
														本部賢一						
														三田泰雅						
													兼	李修二						
	語学科目	必修	基礎英語Ⅰ	②	○									ゴードン・リース	3					
														フェリペ・フェハーリ						
													非	ケント・スコット						
													非	柴田啓文						
			基礎英語Ⅱ	②		○								ゴードン・リース	4					
														フェリペ・フェハーリ						
													非	ケント・スコット						
													非	柴田啓文						
			基礎日本語Ⅰ	②	◎									加納光	4					
													非	角田延之						
													非	安田由紀子						
			基礎日本語Ⅱ	②		◎								加納光	5					
													非	角田延之						
													非	安田由紀子						
		選択必修	英語コミュニケーションⅠ	2			○							ゴードン・リース	6					
													兼	樋口晶子	6					
													非	柴田啓文	5					
			英語コミュニケーションⅡ	2				○						ゴードン・リース	7					
													兼	樋口晶子	8					
													非	柴田啓文	7					
			中国語Ⅰ	2			○							加納光	8					
													兼	吉山青翔	9					
			中国語Ⅱ	2				○						加納光	9					
													兼	吉山青翔	10					
			ポルトガル語Ⅰ	2			○							フェリペ・フェハーリ	10					
			ポルトガル語Ⅱ	2				○						フェリペ・フェハーリ	11					
			海外語学研修a（英語）	2				▲					兼		11					不開講
			海外語学研修b（中国語）	2			▲													不開講
			日本語中級Ⅰ	2			○							加納光	12					
													非	伊藤晴苗						
													非	角田延之						
													非	安田由紀子						
			日本語中級Ⅱ	2				○						加納光	12					
													非	角田延之						
													非	安田由紀子						
			日本語上級Ⅰ	2					○					加納光	13					
													非	伊藤晴苗						
													非	角田延之						
													非	安田由紀子						

総合政策学部

区分			2017年度以降入学生 授業科目名	単位数	配当年次 1年次 前期	1年次 後期	2年次 前期	2年次 後期	3年次 前期	3年次 後期	4年次 前期	4年次 後期	講師区分	担当教員	ページ	地域	ベーシック	実践	実務	備考
全学共通教育科目	語学科目	選択必修	日本語上級Ⅱ	2						○				加納光	13					
													非	角田延之						
													非	安田由紀子						
	情報科目	必修	コンピュータリテラシー	④	◎								兼	田中伊知郎	14					
													非	石田修二						
													非	楓森博						
													非	杉谷克芳						
													非	山本敦也						
			情報倫理	②		○							兼	池田幹男	14					
													兼	片山清和						
													兼	田中伊知郎						
													兼	田中雅章						
		選択	情報科学	2	○								兼	池田幹男	15					
			情報と職業	2	○								非	井岡幹博	15					
			アプリケーション演習Ⅰ	2		○							兼	池田幹男	16					
			アプリケーション演習Ⅱ	2			○						兼	田中雅章	16					
	地域科目		四日市学	2	○									岡良浩	17	○	○			
														永井博						
													兼	鬼頭浩文						
													兼	李修二						
			地域社会の歴史	2		○							非	岡佑哉	17	○	○			
			市民教育	2	○									松井真理子	18	○	○			
			人権論	2		○								松井真理子	18	○	○			
			地域社会と環境	2	○								兼	野呂達哉	19	○	○		○	
			地域防災	2	○								兼	鬼頭浩文	19	○	○		○	
			地域連携特別講義a	2		▲								小林慶太郎	20	○	○	○	○	
			地域連携特別講義b	2		▲										○	○	○	○	不開講
	一般教養科目	社会科学系列	経営学	2	○									川崎綾子	20					
			経済学	2		○							兼	鬼頭浩文	21					
			政治学	2	○									小林慶太郎	21					
			社会学	2	○									三田泰雅	22					
			ジェンダー論	2		○								高田晴美	22					
														三田泰雅						
			メディアリテラシー	2	○								兼	関根辰夫	23					
													兼	前川督雄						
			社会福祉概論	2	○								兼	李修二	23					
			日本国憲法	2		○								中西紀夫	24					
			法学	2	○									中西紀夫	24					
			民法入門	2	○								非	土志田佳枝	25				○	
		人文科学系列	倫理学	2		○								フェリペ・フェハーリ	25					
			哲学	2	○									フェリペ・フェハーリ	26					
			文学	2	○									永井博	26					
			文章表現論	2	○	○								永井博	27					【留学生クラス】
													非	杉谷克芳	27					【留学生以外】
			文化論	2		○							兼	前川督雄	28					
			教育学	2	○															不開講
			日本史概論	2	○								非	岡佑哉	28					
			世界史概論	2		○							兼	李修二	29					
			地理学概論	2		○														不開講
			地誌	2		○														不開講
		自然科学系列	科学的思考論	2		○							兼	吉山青翔	29					
			科学思想史	2	○								兼	吉山青翔	30					
			自然科学概論	2		○							兼	田中伊知郎	30					
			数学概論	2	○								兼	山本敦也	31					
			化学概論	2	○								兼	牧田直子	31					
			地学概論	2	○								非	森康則	32					
			生物学概論	2	○								兼	田中伊知郎	32					
			生物と進化	2		○							兼	田中伊知郎	33					
			環境論	2		○							兼	吉山青翔	33					
			心理学	2		○							兼	田中伊知郎	34					

区分			2017年度以降入学生 授業科目名	単位数	配当年次 1年次 前期	1年次 後期	2年次 前期	2年次 後期	3年次 前期	3年次 後期	4年次 前期	4年次 後期	講師区分	担当教員	ページ	地域	ベーシック	実践	実務	備考
全学共通教育科目	キャリア科目	必修	キャリア基礎Ⅰ	②		○								岩崎祐子	34				○	
														岡良浩						
														永井博						
													兼	田中伊知郎						
													兼	樋口晶子						
													兼	牧田直子						
													兼	吉山青翔						
													兼	李修二						
														高田晴美	35				○	【公務員クラス】
														中西紀夫						
			キャリア基礎Ⅱ	②			○							岩崎祐子	35				○	
														岡良浩						
														永井博						
													兼	鬼頭浩文						
													兼	田中伊知郎						
													兼	樋口晶子						
													兼	牧田直子						
													兼	吉山青翔						
													兼	李修二						
														高田晴美	36				○	【公務員クラス】
														中西紀夫						
		選択	キャリア基礎Ⅲ	2				○						岩崎祐子	36				○	
														岡良浩						
														永井博						
													兼	田中伊知郎						
													兼	樋口晶子						
													兼	牧田直子						
													兼	吉山青翔						
													兼	李修二						
														高田晴美	37				○	【公務員クラス】
														中西紀夫						
	特別科目		ボランティア活動a	2	▲									松井真理子	37	○	○			
			ボランティア活動b	2	▲										38	○	○			
			国際協力研修	2		▲								岩崎祐子	38					
			インターンシップ	2			▲						兼	鬼頭浩文	39	○	○			
			他大学開放科目a	2			▲													
			他大学開放科目b	2			▲													
			他大学開放科目c	2			▲													
			他大学開放科目d	2			▲													
			他大学開放科目e	2			▲													
	総合政策学部スキル科目	社会調査士養成ユニット	社会調査入門	2	○									三田泰雅	39					
			社会調査の技法	2		○								三田泰雅	40					
			データ分析の基礎	2			○						兼	田中伊知郎	40					
			統計的分析	2				○					兼	田中伊知郎	41					
			データ解析の技法	2				○					兼	山本敦也	41					
			フィールドワーク論	2			○							富田与	42					
			社会調査実習1	2					○					三田泰雅	42	○	○			
			社会調査実習2	2						○				三田泰雅	43	○	○			
		公務員養成ユニット	公務のための数的推理	2		○								高田晴美	43					
			公務のための判断推理	2	○									高田晴美	44					
			公務のための現代文	2		○								高田晴美	44					
			公務のための政治学	2				○						小林慶太郎	45					
			公務のための経済学	2				○					兼	鬼頭浩文	45					
			公務のための法学	2			○							中西紀夫	46					
			公務のための人文科学	2			○						兼	李修二	46					
			公務のための自然科学	2					○					高田晴美	47					
			公務のための英文理解	2						○				ゴードン・リース	47					
			公務のための論文・面接	2							◎			小林慶太郎	48					

区分			2017年度以降入学生 授業科目名	単位数	配当年次 1年次 前期	1年次 後期	2年次 前期	2年次 後期	3年次 前期	3年次 後期	4年次 前期	4年次 後期	講師区分	担当教員	ページ	地域	ベーシック	実践	実務	備考
全学共通教育科目	総合政策学部スキル科目	おもてなし経営ユニット	ビジネスマナー	2		○								岡 良浩ほか	48				○	
			サービス経営論	2	○									岡 良浩	49					
			販売士講座	2			○						非	山川 和美	49				○	
			ビジネスコミュニケーション	2			○							岡 良浩ほか	50				○	
			グローバルコミュニケーション	2				○						富田 与	50					
			オペレーション演習	2			集							岡 良浩 川崎 綾子 永井 博	51	○	○	○		
			ビジネスマネジメント	2					○					岩崎 祐子 奥原 貴士	51					
			マーケティング演習	2						○				岡 良浩 岩崎 祐子	52	○	○		○	
			おもてなし特別講義a	2			○							岩崎 祐子 岡 良浩	52	○	○		○	
			おもてなし特別講義b	2				○					兼	池田 幹男 岩崎 祐子 岡 良浩	53	○	○		○	
		英語力養成ユニット	観光英語Ⅰ	2	○									ゴードン・リース	53					
			観光英語Ⅱ	2		○								ゴードン・リース	54					
			コンピュータ英語Ⅰ	2	○								非	柴田 啓文	54					
			コンピュータ英語Ⅱ	2		○							非	柴田 啓文	55					
			英語表現Ⅰ	2			○							ゴードン・リース	55					
			英語表現Ⅱ	2				○						ゴードン・リース	56					
			ビジネス英語Ⅰ	2			○						兼	樋口 晶子	56					
			ビジネス英語Ⅱ	2				○					兼	樋口 晶子	57					
			検定英語Ⅰ	2					○				兼	武藤 和成	57					
			検定英語Ⅱ	2						○			兼	武藤 和成	58					
		メディアデザインユニット	メディアツールa	2	○								非 非 非	池上 貴文 西尾 秀樹 堀内 敬弘	58				○	
			メディアツールb	2		○							非 非 非	池上 貴文 西尾 秀樹 山本 努武	59				○	
			メディアツールc	2			○						非	田中 麻衣	59				○	
			メディアツールd	2				○					非	柳澤 翔士	60				○	
			Webデザインa	2				○					非	堀内 敬弘	60				○	
			Webデザインb	2					○				非	堀内 敬弘	61				○	
			Webプログラミングa	2		○							兼 兼 兼	池田 幹男 片山 清和 田中 雅章	61					
			Webプログラミングb	2			○						兼 兼	池田 幹男 田中 雅章	62					
			インターネット論	2			○						兼	田中 雅章	62					
専門教育科目	学部基礎科目	必修	政策科学入門	②	○									永井 博ほか	66					
			総合政策論Ⅰ	②		○								永井 博ほか	66					
			総合政策論Ⅱ	②			○							岡 良浩ほか	67					
	演習科目	必修	基礎演習a	②			○							奥原 貴士 小泉 大亮 小林慶太郎 高田 晴美 鶴田 利恵 富田 与 中西 紀夫 フェリペ・フェハーリ 三田 泰雅 若山 裕晃 鬼頭 浩文	67 68 69 69 70 70 71 71 72 72 68					

区分			2017年度以降入学生 授業科目名	単位数	配当年次 1年次 前期	1年次 後期	2年次 前期	2年次 後期	3年次 前期	3年次 後期	4年次 前期	4年次 後期	講師区分	担当教員	ページ	地域	ベーシック	実践	実務	備考
専門教育科目	演習科目	必修	基礎演習b	②				○						奥原貴士	73					
														小泉大亮	74					
														小林慶太郎	74					
														高田晴美	75					
														鶴田利恵	75					
														富田与	76					
														中西紀夫	76					
														フェリペ・フェハーリ	77					
														三田泰雅	77					
														若山裕晃	78					
													兼	鬼頭浩文	73					
			専門演習a	②					○					奥原貴士	78					
														小泉大亮	79					
														小林慶太郎	80					
														高田晴美	80					
														鶴田利恵	81					
														富田与	81					
														中西紀夫	82					
														フェリペ・フェハーリ	82					
														松井真理子	83					
														三田泰雅	83					
														若山裕晃	84					
													兼	鬼頭浩文	79					
			専門演習b	②						○				奥原貴士	84					
														小泉大亮	85					
														小林慶太郎	86					
														高田晴美	86					
														鶴田利恵	87					
														富田与	87					
														中西紀夫	88					
														フェリペ・フェハーリ	88					
														松井真理子	89					
														三田泰雅	89					
														若山裕晃	90					
													兼	鬼頭浩文	85					
			専門演習c	②							○			奥原貴士	90					
														小泉大亮	91					
														小林慶太郎	92					
														高田晴美	92					
														鶴田利恵	93					
														富田与	93					
														中西紀夫	94					
														松井真理子	94					
														三田泰雅	95					
														若山裕晃	95					
													兼	鬼頭浩文	91					
			専門演習d	②								○		奥原貴士	96					
														小泉大亮	97					
														小林慶太郎	97					
														高田晴美	98					
														鶴田利恵	98					
														富田与	99					
														中西紀夫	99					
														松井真理子	100					
														三田泰雅	100					
														若山裕晃	101					
													兼	鬼頭浩文	96					

区分			2017年度以降入学生 授業科目名	単位数	配当年次 1年次 前期	1年次 後期	2年次 前期	2年次 後期	3年次 前期	3年次 後期	4年次 前期	4年次 後期	講師区分	担当教員	ページ	地域	ベーシック	実践	実務	備考
専門教育科目	地域・まちづくり分野	分野必修	地方自治論	②		○								小林慶太郎	101					
			地域経済論	②			○							岡 良浩	102					
			政策過程論	②				○						小林慶太郎	102					
		政策の理論	現代財政学	2			○							鶴田利恵	103					
			行政法	2				○						小林慶太郎ほか	103	○	○		○	
			行政学	2				○					非	藤本和弘	104				○	
			都市法	2					○					中西紀夫	104					
			政策法務	2						○				中西紀夫	105					
		地域と社会	地域産業論	2			○							岡 良浩	105	○	○			
			地域開発論	2				○						岡 良浩	106	○	○			
			地域福祉論	2			○						非	柴田啓文	106					
			社会保障論	2				○					兼	李 修二	107					
			地域社会学	2			○							三田泰雅	107					
			環境社会学	2				○					非	村田静昭	108				○	
			女性学	2				○												不開講
		まちづくり	食とまちづくり	2	○									小林慶太郎	108	○	○	○	○	
			祭りとまちづくり	2			○							岩崎恭典ほか	109	○	○	○	○	
			音楽とまちづくり	2				○					兼 兼	鬼頭浩文 前川督雄	109	○	○	○	○	
			鉄道とまちづくり	2				○						岩崎恭典	110	○	○	○	○	
			コミュニティ論	2		○								岩崎恭典	110	○	○			
			地方議会論	2			○									○	○			不開講
			NPO論	2			○							松井真理子	111	○	○		○	
		地域政策	マイノリティ政策	2	○									小林慶太郎	111					
			環境政策	2			○						兼 兼	岡 良浩 鬼頭浩文 千葉 賢	112					
			観光政策	2			○						兼	岡 良浩 千葉 賢	112	○	○	○		
			経済政策	2				○					兼	鬼頭浩文	113					
			都市政策	2			○						非	藤本和弘	113					
			交通政策	2				○						本部賢一	114					
			都市計画論	2					○					岡 良浩	114					
	スポーツ・人間分野	分野必修	からだとこころ	②			○						非 非 非	大西信行 杉崎一美 別所史子	115					
			こころの科学	②				○						若山裕晃	115					
			スポーツ政策論	②		○								小泉大亮	116					
		スポーツ基礎	スポーツ指導論	2	○									若山裕晃	116					
			スポーツトレーニング論	2	○									若山裕晃	117					
			スポーツ心理学	2		○								若山裕晃	117					
			スポーツ社会学	2				○						若山裕晃	118					
			スポーツ生理学	2			○							小泉大亮	118					
			健康スポーツ論	2				○						小泉大亮	119					
			スポーツ栄養学	2				○					非	櫻井智美	119				○	
		スポーツ実践	アスリート育成論	2	○									若山裕晃	120					
			スポーツ応用科学	2			○							小泉大亮	120					
			スポーツメディカル論	2				○						小泉大亮	121					
			地域スポーツ論	2			○							小泉大亮	121					
			スポーツ実技	2	○									若山裕晃	122					
		こころと健康	介護予防スポーツ	2			○						非	池田裕美子	122				○	
			健康スポーツ実技	2			○							小泉大亮	123					
			こころの健康	2		○							非 非 非	柿原加代子 工藤安史 後藤由紀	123					
			こころと文学	2			○							高田晴美	124					

総合政策学部

区分			2017年度以降入学生 授業科目名	単位数	配当年次 1年次 前期	1年次 後期	2年次 前期	2年次 後期	3年次 前期	3年次 後期	4年次 前期	4年次 後期	講師区分	担当教員	ページ	地域	ベーシック	実践	実務	備考
専門教育科目	国際・経営分野	分野必修	国際経済事情	②		○								鶴田利恵	124					
			国際関係論	②			○							富田与	125					
			経営管理論	②				○						川崎綾子	125					
		国際理解	日本経済事情	2		○							非	杉谷克芳	126					
			金融論	2			○							岩崎祐子	126					
			国際経営論	2				○					非	吉成亮	127					
			国際協力論	2				○						富田与	127					
			開発経済学	2			○							鶴田利恵	128					
		ビジネス経営	簿記入門	2	○									奥原貴士	128					
			会計学総論	2		○								奥原貴士	129					
			財務諸表論	2			○							奥原貴士	129					
			経営戦略論	2		○								川崎綾子	130					
			マーケティング論	2				○						川崎綾子	130					
			中小企業論	2				○						岡良浩	131					
			人事管理論	2					○					川崎綾子	131					
			ものづくり経営	2				○					非	西浦尚夫	132					
			流通論	2			○							川崎綾子	132					
			農業経営論	2				○						鶴田利恵 非 杉谷克芳	133					
			起業論	2			○							岡良浩ほか	133	○	○		○	
	分野共通科目	特別講義	総合政策特別講義Ⅰ	2	○															不開講
			総合政策特別講義Ⅱ	2	○															不開講
			総合政策特別講義Ⅲ	2		○							兼 兼 兼	前川督雄 片山清和 千葉賢	134					
		文化論	出版文化論	2			○						非	稲葉年計	134				○	
			日本文化論	2			○							永井博	135					
			東洋文化論	2				○						加納光	135					
			西洋文化論	2				○					非	山本伸	136					
			地域文化論	2					○				非	前田憲司	136	○	○		○	

総合政策学部　実務経験教員　授業科目

授業科目名	単位数	配当年次 1年次 前期	1年次 後期	2年次 前期	2年次 後期	3年次 前期	3年次 後期	4年次 前期	4年次 後期	講師区分	担当教員	ページ	備考
地域社会と環境	2	○								兼	野呂達哉	19	
地域防災	2	○								兼	鬼頭浩文	19	
地域連携特別講義a	2		▲								小林慶太郎	20	
地域連携特別講義b	2		▲										不開講
民法入門	2	○								非	土志田佳枝	25	
キャリア基礎Ⅰ	②		○								岩崎祐子	34	
											岡良浩		
											永井博		
										兼	田中伊知郎		
										兼	樋口晶子		
										兼	牧田直子		
										兼	吉山青翔		
										兼	李修二		
											高田晴美	35	
											中西紀夫		
キャリア基礎Ⅱ	②			○							岩崎祐子	35	
											岡良浩		
											永井博		
										兼	鬼頭浩文		
										兼	田中伊知郎		
										兼	樋口晶子		
										兼	牧田直子		
										兼	吉山青翔		
										兼	李修二		
											高田晴美	36	
											中西紀夫		
キャリア基礎Ⅲ	2				○						岩崎祐子	36	
											岡良浩		
											永井博		
										兼	田中伊知郎		
										兼	樋口晶子		
										兼	牧田直子		
										兼	吉山青翔		
										兼	李修二		
											高田晴美	37	
											中西紀夫		
ビジネスマナー	2		○								岡良浩ほか	48	
販売士講座	2			○						非	山川和美	49	
ビジネスコミュニケーション	2			○							岡良浩ほか	50	
マーケティング演習	2						○				岡良浩	52	
											岩崎祐子		
おもてなし特別講義a	2			○							岩崎祐子	52	
											岡良浩		
おもてなし特別講義b	2				○					兼	池田幹男	53	
											岩崎祐子		
											岡良浩		
メディアツールa	2	○								非	池上貴文	58	
										非	西尾秀樹		
										非	堀内敬弘		
メディアツールb	2		○							非	池上貴文	59	
										非	西尾秀樹		
										非	山本努武		
メディアツールc	2			○						非	田中麻衣	59	
メディアツールd	2				○					非	柳澤翔士	60	

総合政策学部　実務経験教員　授業科目

授業科目名	単位数	配当年次 1年次 前期	1年次 後期	2年次 前期	2年次 後期	3年次 前期	3年次 後期	4年次 前期	4年次 後期	講師区分	担当教員	ページ	備考
Webデザインa	2				○					非	堀内敬弘	60	
Webデザインb	2					○				非	堀内敬弘	61	
行政法	2				○						小林慶太郎ほか	103	
行政学	2				○					非	藤本和弘	104	
環境社会学	2				○					非	村田静昭	108	
食とまちづくり	2	○									小林慶太郎	108	
祭りとまちづくり	2			○							岩崎恭典ほか	109	
音楽とまちづくり	2				○					兼 兼	鬼頭浩文 前川督雄	109	
鉄道とまちづくり	2				○						岩崎恭典	110	
コミュニティ論	2		○								岩崎恭典	100	
NPO論	2			○							松井真理子	111	
スポーツ栄養学	2				○					非	櫻井智美	119	
介護予防スポーツ	2			○						非	池田裕美子	122	
起業論	2			○							岡　良浩ほか	133	
出版文化論	2			○						非	稲葉年計	134	
地域文化論	2					○				非	前田憲司	136	

科目ナンバリングについて

・科目ナンバリングは、四日市大学で開講している科目（17カリキュラム）に付けられたナンバーのことです。
・科目ナンバリングは、その科目の分野略号、授業水準、履修順序等をあらわします。
・科目ナンバリングによって、教育課程の体系的な編成が理解できます。

科目ナンバリングの構造

科目ナンバーは分野略号と2種類のコードから構成されています。
ひとつの科目ナンバーの仕組みは以下のとおりです。
・**分野略号**：アルファベット３～４文字で、分野名をあらわします。
・**水準コード**：科目のレベルをあらわします。
・**番号（ナンバー）**：科目分野内での履修順序を示すこともあります。

例

ＸＸＸＸ	1	001
分野略号	水準	番号

開講科目名「人間たれ」の科目ナンバリング「**GEF1001**」は以下の内容をあらわします。
分野略号：全学共通科目（GE）の基礎科目（Foundation Courses）⇒GEF
水準コード：全学共通科目（一般教養レベル）⇒1
番号（ナンバー）：001

水準コードは次の通り。

科目のレベル	水準コード
全学共通科目（一般教養レベル）	1
専門科目（基礎科目・実践科目）	2
専門科目（発展科目・応用科目）	3
専門科目（卒業研究、卒業論文等）	4
留学生科目	9
卒業用件外科目	0

分類略号は次の通りです

総合政策学部

科目区分	分類略号	分野名	領域名
全学共通科目	GEF	基礎科目	
	GEL	語学科目	
	GEI	情報科目	
	GEC	地域科目	
	GLAS	一般教養科目	社会科学系列
	GLAH		人文科学系列
	GLAN		自然科学系列
	GECC	キャリア科目	
	GESC	特別科目	
	GSSR	スキル科目	社会調査士養成ユニット
	GSPO		公務員養成ユニット
	GSHM		おもてなし経営ユニット
	GSET		英語力養成ユニット
	GSMD		メディアデザインユニット
	GSMS		数理・統計力養成ユニット
総合政策学部専門科目	PFC	学部基礎科目	必修
	PSS	演習科目	必修
	PCD	地域・まちづくり分野	分野必修
			政策の理論
			地域と社会
			まちづくり
			地域政策
	PSH	スポーツ・人間分野	分野必修
			スポーツ基礎
			スポーツ実践
			こころと健康
	PIM	国際・経営分野	分野必修
			国際理解
			ビジネス経営
	PCF	分野共通科目	特別講義
			文化論

＜2017カリ全学共通教育科目＞

科目区分	分類略号	分野英語名	分野名	領域英語名	領域名	単位数	科目名	配当年次	配当学期	科目ナンバリング
全学共通科目	GEF	Foundation Courses	基礎科目		必修	2	「人間たれ」	1	前	GEF1001
						2	入門演習Ⅰ	1	前	GEF1002
						2	入門演習Ⅱ	1	後	GEF1003
	GEL	Language study	語学科目		必修 選択必修	2	基礎英語Ⅰ	1	前	GEL1001
						2	基礎英語Ⅱ	1	後	GEL1002
						2	基礎日本語Ⅰ	1	前	GEL9001
						2	基礎日本語Ⅱ	1	後	GEL9002
						2	英語コミュニケーションⅠ	2	前	GEL1003
						2	英語コミュニケーションⅡ	2	後	GEL1004
						2	中国語Ⅰ	2	前	GEL1005
						2	中国語Ⅱ	2	後	GEL1006
						2	ポルトガル語Ⅰ	2	前	GEL1007
						2	ポルトガル語Ⅱ	2	後	GEL1008
						2	海外語学研修a（英語）	2	前	GEL1009
						2	海外語学研修b（中国語）	2	前	GEL1010
						2	日本語中級Ⅰ	2	前	GEL9003
						2	日本語中級Ⅱ	2	後	GEL9004
						2	日本語上級Ⅰ	3	前	GEL9005
						2	日本語上級Ⅱ	3	後	GEL9006
	GEI	Information subject	情報科目		必修	4	コンピュータリテラシー	1	前	GEI1001
						2	情報倫理	1	後	GEI1002
					選択	2	情報科学	1	前	GEI1003
						2	情報と職業	1	前	GEI1004
						2	アプリケーション演習Ⅰ	1	後	GEI1005
						2	アプリケーション演習Ⅱ	2	前	GEI1006
	GEC	Community-oriented courses	地域科目			2	四日市学	1	前	GEC1001
						2	地域社会の歴史	1	後	GEC1002
						2	市民教育	1	後	GEC1003
						2	人権論	1	後	GEC1004
						2	地域社会と環境	1	後	GEC1005
						2	地域防災	1	前	GEC1006
						2	地域連携特別講義a	1	前	GEC1007
						2	地域連携特別講義b	1	後	GEC1008
	GLAS	Liberal Arts	一般教養科目	Society	社会科学系列	2	経営学	1	前	GLAS1001
						2	経済学	1	後	GLAS1002
						2	政治学	1	前	GLAS1003
						2	社会学	1	後	GLAS1004
						2	ジェンダー論	1	後	GLAS1005
						2	メディアリテラシー	1	前	GLAS1006
						2	社会福祉概論	1	後	GLAS1007
						2	日本国憲法	1	後	GLAS1008
						2	法学	1	前	GLAS1009
						2	民法入門	1	前	GLAS1010
	GLAH			Humanities	人文科学系列	2	倫理学	1	前	GLAH1001
						2	哲学	1	後	GLAH1002
						2	文学	1	前	GLAH1003
						2	文章表現論	1	前･後	GLAH1004
						2	文化論	1	前･後	GLAH1005
						2	教育学	1	後	GLAH1006
						2	日本史概論	1	前	GLAH1007
						2	世界史概論	1	後	GLAH1008
						2	地理学概論	1	後	GLAH1009
						2	地誌	1	後	GLAH1010

＜2017カリ全学共通教育科目＞

科目区分	分類略号	分野英語名	分野名	領域英語名	領域名	単位数	科目名	配当年次	配当学期	科目ナンバリング
全学共通科目	GLAN	Liberal Arts	一般教養科目	Natural Science	自然科学系列	2	科学的思考論	1	前	GLAN1001
						2	科学思想史	1	後	GLAN1002
						2	自然科学概論	1	後	GLAN1003
						2	数学概論	1	前	GLAN1004
						2	化学概論	1	前	GLAN1005
						2	地学概論	1	前	GLAN1006
						2	生物学概論	1	前	GLAN1007
						2	生物と進化	1	後	GLAN1008
						2	環境論	1	後	GLAN1009
						2	心理学	1	後	GLAN1010
	GECC	Career courses	キャリア科目			2	キャリア基礎Ⅰ	1	後	GECC1001
						2	キャリア基礎Ⅱ	2	前	GECC1002
						2	キャリア基礎Ⅲ	2	後	GECC1003
	GESC	Special courses	特別科目			2	ボランティア活動a	1	前	GESC1001
						2	ボランティア活動b	1	前	GESC1002
						2	国際協力研修	1	後	GESC1003
						2	インターンシップ	2	前	GESC1004
						2	他大学開放科目a	2	前	GESC1005
						2	他大学開放科目b	2	前	GESC1006
						2	他大学開放科目c	2	前	GESC1007
						2	他大学開放科目d	2	前	GESC1008
						2	他大学開放科目e	2	前	GESC1009
	GSSR	Skills courses	スキル科目	Social Researcher	社会調査士養成ユニット	2	社会調査入門	1	前	GSSR1001
						2	社会調査の技法	1	後	GSSR1002
						2	データ分析の基礎	2	前	GSSR1003
						2	統計的分析	2	後	GSSR1004
						2	データ解析の技法	2	後	GSSR1006
						2	フィールドワーク論	2	前	GSSR1005
						2	社会調査実習1	3	前	GSSR1007
						2	社会調査実習2	3	後	GSSR1008
	GSPO			Public officials	公務員養成ユニット	2	公務のための数的推理	1	前	GSPO1001
						2	公務のための判断推理	1	後	GSPO1002
						2	公務のための現代文	1	後	GSPO1003
						2	公務のための政治学	2	前	GSPO1004
						2	公務のための経済学	2	前	GSPO1005
						2	公務のための法学	2	後	GSPO1006
						2	公務のための人文科学	2	後	GSPO1007
						2	公務のための自然科学	3	前	GSPO1008
						2	公務のための英文理解	3	後	GSPO1009
						2	公務のための論文・面接	4	前	GSPO1010
	GSHM			Hospitality management	おもてなし経営ユニット	2	ビジネスマナー	1	前	GSHM1001
						2	サービス経営論	1	後	GSHM1002
						2	販売士講座	2	前	GSHM1003
						2	ビジネスコミュニケーション	2	前	GSHM1004
						2	グローバルコミュニケーション	2	後	GSHM1005
						2	オペレーション演習	2	前	GSHM1006
						2	ビジネスマネジメント	3	前	GSHM1007
						2	マーケティング演習	3	後	GSHM1008
						2	おもてなし特別講義a	2	前	GSHM1009
						2	おもてなし特別講義b	2	後	GSHM1010

＜2017カリ全学共通教育科目＞

科目区分	分類略号	分野英語名	分野名	領域英語名	領域名	単位数	科目名	配当年次	配当学期	科目ナンバリング
全学共通科目	GSET	Skills courses	スキル科目	English training	英語力養成ユニット	2	観光英語Ⅰ	1	前	GSET1001
						2	観光英語Ⅱ	1	後	GSET1002
						2	コンピュータ英語Ⅰ	1	前	GSET1003
						2	コンピュータ英語Ⅱ	1	後	GSET1004
						2	英語表現Ⅰ	2	前	GSET1005
						2	英語表現Ⅱ	2	後	GSET1006
						2	ビジネス英語Ⅰ	2	前	GSET1007
						2	ビジネス英語Ⅱ	2	後	GSET1008
						2	検定英語Ⅰ	3	前	GSET1009
						2	検定英語Ⅱ	3	後	GSET1010
	GSMD			Media Design	メディアデザインユニット	2	メディアツールa	1	前	GSMD1001
						2	メディアツールb	1	後	GSMD1002
						2	メディアツールc	2	前	GSMD1003
						2	メディアツールd	2	後	GSMD1004
						2	Webデザインa	2	後	GSMD1005
						2	Webデザインb	3	前	GSMD1006
						2	Webプログラミングa	1	後	GSMD1007
						2	Webプログラミングb	2	前	GSMD1008
						2	インターネット論	2	前	GSMD1009
	GSMS			Mathematical and statistical force	数理・統計力養成ユニット	2	基礎数学	1	前	GSMS1001
						2	統計リテラシー	1	後	GSMS1002
						2	確率基礎	2	前	GSMS1003
						2	微分積分	2	前	GSMS1004
						2	線型代数	2	前	GSMS1005
						2	データ分析の基礎	2	前	GSMS1006
						2	統計的分析	2	後	GSMS1007
						2	データ解析の技法	2	後	GSMS1008
						2	データ統計処理	3	前	GSMS1009

＜2017カリ総合政策学部専門科目＞

科目区分	分類略号	分野英語名	分野名	領域英語名	領域名	単位数	科目名	配当年次	配当学期	科目ナンバリング
総合政策学部専門科目	PFC	Foundation Courses	学部基礎科目		必修	2	政策科学入門	1	前	PFC1001
						2	総合政策論Ⅰ	1	後	PFC2001
						2	総合政策論Ⅱ	2	前	PFC2002
	PSS	Seminar subjects	演習科目		必修	2	基礎演習a	2	前	PSS2001
						2	基礎演習b	2	後	PSS2002
						2	専門演習a	3	前	PSS3001
						2	専門演習b	3	後	PSS3002
						2	専門演習c	4	前	PSS4001
						2	専門演習d	4	後	PSS4002
	PCD	Community development	地域・まちづくり分野		分野必修	2	地方自治論	1	後	PCD2001
						2	地域経済論	2	前	PCD2002
						2	政策過程論	2	後	PCD2003
				Policy theory	政策の理論	2	現代財政学	2	前	PPT2001
						2	行政法	2	前	PPT2002
						2	行政学	2	後	PPT2003
						2	都市法	3	前	PPT3001
						2	政策法務	3	後	PPT3002
				Community and society	地域と社会	2	地域産業論	2	前	PCD2001
						2	地域開発論	2	後	PCD2004
						2	地域福祉論	2	前	PCD2002
						2	社会保障論	2	後	PCD2005
						2	地域社会学	2	前	PCD2003
						2	環境社会学	2	後	PCD2006
						2	女性学	2	後	PCD2007
				City planning	まちづくり	2	食とまちづくり	1	後	PCP2001
						2	祭りとまちづくり	2	前	PCO2003
						2	音楽とまちづくり	2	後	PCO2006
						2	鉄道とまちづくり	2	後	PCO2007
						2	コミュニティ論	1	後	PCO2002
						2	地方議会論	2	前	PCO2004
						2	NPO論	2	前	PCO2005
				Regional policy	地域政策	2	マイノリティ政策	1	前	PRP2001
						2	環境政策	2	前	PRP2002
						2	観光政策	2	前	PRP2003
						2	経済政策	2	後	PRP2005
						2	都市政策	2	前	PRP2004
						2	交通政策	2	後	PRP2006
						2	都市計画論	3	前	PRP3001

＜2017カリ総合政策学部専門科目＞

科目区分	分類略号	分野英語名	分野名	領域英語名	領域名	単位数	科目名	配当年次	配当学期	科目ナンバリング
総合政策学部専門科目	PSH	Sport and human	スポーツ・人間分野		分野必修	2	からだとこころ	2	前	PSH2002
						2	こころの科学	2	後	PSH2003
						2	スポーツ政策論	1	後	PSH2001
				Sports basics	スポーツ基礎	2	スポーツ指導論	1	前	PSB2001
						2	スポーツトレーニング論	1	前	PSB2002
						2	スポーツ心理学	1	後	PSB2003
						2	スポーツ社会学	2	前	PSB2004
						2	スポーツ生理学	2	前	PSB2005
						2	健康スポーツ論	2	後	PSB2006
						2	スポーツ栄養学	2	後	PSB2007
				Sports practice	スポーツ実践	2	アスリート育成論	1	前	PSP2001
						2	スポーツ応用科学	2	前	PSP2003
						2	スポーツメディカル論	2	後	PSP2005
						2	地域スポーツ論	2	前	PSP2004
						2	スポーツ実技	1	後	PSP2002
				Heart and health	こころと健康	2	介護予防スポーツ	2	前	PHH2002
						2	健康スポーツ実技	2	後	PHH2004
						2	こころの健康	1	後	PHH2001
						2	こころと文学	2	前	PHH2003
	PIM	International / Management	国際・経営分野		分野必修	2	国際経済事情	1	後	PIM2001
						2	国際関係論	2	前	PIM2002
						2	経営管理論	2	後	PIM2003
				International understanding	国際理解	2	日本経済事情	1	後	PIU2001
						2	金融論	2	前	PIU2002
						2	国際経営論	2	前	PIU2003
						2	国際協力論	2	後	PIU2004
						2	開発経済学	2	後	PIU2005
				Business management	ビジネス経営	2	簿記入門	1	前	PBM2001
						2	会計学総論	1	後	PBM2002
						2	財務諸表論	2	前	PBM2004
						2	経営戦略論	1	後	PBM2003
						2	マーケティング論	2	前	PBM2005
						2	中小企業論	2	後	PBM2008
						2	人事管理論	3	前	PBM3001
						2	ものづくり経営	2	前	PBM2006
						2	流通論	2	前	PBM2007
						2	農業経営論	2	後	PBM2009
						2	起業論	2	後	PBM2010
	PCF	Common field	分野共通科目	Special lecture	特別講義	2	総合政策特別講義Ⅰ	1	前	PSL2001
						2	総合政策特別講義Ⅱ	1	前	PSL2002
						2	総合政策特別講義Ⅲ	1	後	PSL2003
					文化論	2	出版文化論	2	前	PCF2001
						2	日本文化論	2	前	PCF2002
						2	東洋文化論	2	後	PCF2003
						2	西洋文化論	2	後	PCF2004
						2	地域文化論	3	前	PCF2005

シラバスの見方

①「人間たれ」　実務

②岩崎恭典

科目ナンバリング	④学年	⑤単位
③GCS001	⑥開講期	⑦必修

授業のねらい

本学に入学した環境情報・総合政策両学部の全新入生が、本学の建学の理念、歴史・伝統を学ぶとともに、今後激変する社会に出る準備として大学で学ぶということ、大学での生活上の留意点、卒業後を見通したキャリア形成、生活設計など大学生としての基本事項を学ぶことを本講義のねらいとします。⑨

到達目標

1．本学の建学の精神を理解する。
2．満30周年を迎えた本学の歴史を、まもなく満75周年を迎える学校法人暁学園の歴史を、昭和・平成・令和という時代とともに振り返り、今後の社会に生きていくために何かについて理解を深める。
3．地域志向科目等本学の特徴的な学び、また、学友会主催事業等についての理解を深める。⑩

成績評価方法・課題・フィードバックの方法

出席することを基本として、時折実施する小テスト（50%）、定期試験の成績（50%）により評価する。なお、講義のフィードバックは、「大福帳」を通じて行う。
コロナ禍が続いている場合は、オンデマンド方式となる。その場合は、ムードルによる出席確認小レポートが課せられる。また、定期試験代替のレポート試験となるので注意が必要である。⑫

事前・事後学習

大学は社会に出るための準備期間です。講義の中では、時事問題も積極的に触れるので、新聞を読む習慣をつけておいてください（1日30分以上）。⑭

授業の位置づけ

「基礎科目」では、本学の建学の精神を学ぶとともに、大学生として身に付けておかなければならない基本的な学修・研究方法の習得をめざします。⑧

授 業 計 画

第1講で、講師のスケジュールを確定させたうえで、改めて詳細な講義計画を示す。
第1講　ガイダンス　成長スケールの記入
第2講　大学生活を充実させるボランティア活動
第3講　地震・風水害に備える、そして、被災地を支援すること
第4講　本学の建学の精神について
第5講　暁学園・四日市大学の歴史　昭和時代の暁学園
第6講　暁学園・四日市大学の歴史　平成時代・令和の四日市大学
第7講　本学の建学の精神と君たちの将来　人口減少社会
第8講　本学の建学の精神と君たちの将来　シンギュラリティ、Society5.0
第9講　日本の財政状況と税金、家計、金融知識（財務省津財務事務所）
第10講　人口減少社会を生きる力
第11講　SDGsとGAFA
第12講　目指すべき職業人とは　ジョブキャラバン　大学1年生で何をなすべきか
第13講　人生の先輩に聴く①　社会人学生OBが語る
第14講　人生の先輩に聴く②　就職活動を終えて
第15講　夏休みを前に　産婦人科医は語る
定期試験　⑪

テキスト・教材（参考文献含む）

できるだけレジメと資料を配布する。⑬

担当者から一言

私立大学には「建学の精神」というものがあります。本学の「建学の精神」とその精神に由来する教育目標・教育課程の全体像を理解し、有意義な4年間を過ごすための基礎を、この講義を通じて、作っていってください。⑮

①本年度開講の授業科目名です。実務経験のある教員が担当する科目は科目名の後に 実務 と記載があります。
②授業科目担当者です。
③科目ナンバリングを表記しています。前掲の科目ナンバリングを参照のこと。
④学年（年次）は、その科目を履修することができる最低学年を表記しています（配当年次）。
⑤単位数を表記しています。
⑥開講期は、授業科目がいつ開講されるかを表記しています。
⑦「必修」は、卒業のために必ず単位修得しなければならない科目です。「選択」は選択科目を表しています。各学部・各専攻で必要な科目かどうかは異なります。
⑧授業の位置づけ：卒業認定・学位授与の方針（DP）と当該授業科目の関連が記載されています。
⑨授業のねらい：どのような授業科目か、この授業の目的・意義を簡潔に示しています。
⑩到達目標：具体的に習得すべき知識や技能等について記載されています。授業の終了時点でどのような知識や技能（スキル）を身につけることが出来るか、教育目標としているかについて記載されています。
⑪授業計画：15回の授業について、各回の「テーマ」「内容」を明記しています。なお、授業の進行具合や受講学生の興味・関心に合わせて適宜変更する授業科目もあります。
⑫成績 評価方法・課題・フィードバック方法：定期試験 60%、小テスト 40%のように、評価（ポイント）基準を明記しています。また、課題の内容や提出方法、また、それらのフィードバック方法が記載されています。
⑬テキスト・教材（参考文献含む）：テキストには，授業内で実際に使用する教科書を明記しています。授業開始前までに必ず準備してから授業に臨んでください。参考文献については、各授業担当にお尋ねください。
⑭事前・事後学習：事前・事後学習とは、毎回の授業に出席する際の予習及び復習と考えて取り組んでください。また、履修上他の科目を先行して履修することが望ましい科目がある場合は、こちらに『「○○○Ⅰ」を先行して履修していることが望ましい』など記載されています。
⑮担当者から一言：履修上の注意の他、シラバスの他の項目で書ききれなかった内容を補足して記載されています。
その他
・授業形態（面接授業、オンデマンド授業などのオンライン授業等）が変更になる場合があります。
・所属学科ごとに履修条件が異なるので、必ず「履修要綱」で確認をしてください。

目　　次

【環境情報学部】卒業必要単位数

【2017年度以降入学生】

<table>
<tr><th colspan="3">区分</th><th colspan="5">卒業必要単位数</th></tr>
<tr><td rowspan="19">全学共通教育科目</td><td colspan="2">基礎科目</td><td>必修</td><td colspan="3">6単位</td><td rowspan="19">50単位以上</td><td rowspan="28">全学共通教育科目・専門教育科目から自由に18単位以上</td><td rowspan="28">合計130単位以上</td></tr>
<tr><td colspan="2" rowspan="2">語学科目</td><td>必修</td><td colspan="3">4単位　留学生は日本語で4単位</td></tr>
<tr><td>選択</td><td colspan="3">4単位以上
留学生は日本語で4単位以上</td></tr>
<tr><td colspan="2" rowspan="2">情報科目</td><td>必修</td><td colspan="3" rowspan="2">6単位</td></tr>
<tr><td>選択</td></tr>
<tr><td colspan="2">地域科目</td><td>選択</td><td colspan="3">4単位以上</td></tr>
<tr><td rowspan="3">一般教養科目</td><td>社会科学系列</td><td>選択</td><td colspan="3">4単位以上</td></tr>
<tr><td>人文科学系列</td><td>選択</td><td colspan="3">4単位以上</td></tr>
<tr><td>自然科学系列</td><td>選択</td><td colspan="3">4単位以上</td></tr>
<tr><td colspan="2" rowspan="2">キャリア科目</td><td>必修</td><td colspan="3">4単位</td></tr>
<tr><td>選択</td><td colspan="3"></td></tr>
<tr><td colspan="2">※特別科目</td><td>選択</td><td colspan="3"></td></tr>
<tr><td rowspan="5">スキル科目</td><td>社会調査士養成ユニット</td><td>選択</td><td colspan="3" rowspan="5">いずれかのユニットから10単位以上</td></tr>
<tr><td>公務員養成ユニット</td><td>選択</td></tr>
<tr><td>おもてなし経営ユニット</td><td>選択</td></tr>
<tr><td>英語力養成ユニット</td><td>選択</td></tr>
<tr><td>メディアデザインユニット</td><td>選択</td></tr>
<tr><td rowspan="9">専門教育科目</td><td colspan="2">学部基礎科目</td><td>必修</td><td colspan="3">6単位</td><td rowspan="9">62単位以上</td></tr>
<tr><td colspan="2">セミナー</td><td>必修</td><td colspan="3">12単位</td></tr>
<tr><td colspan="2">自然環境分野</td><td rowspan="2">選択必修</td><td rowspan="4">いずれかの分野を選択し、分野必修6単位と同じ分野から18単位以上</td><td rowspan="5">選択した以外の分野および分野共通科目から12単位以上</td><td rowspan="5">左記の条件を満たし、さらに8単位以上</td></tr>
<tr><td colspan="2">メディア情報分野</td></tr>
<tr><td colspan="2">自然環境分野</td><td rowspan="2">選択</td></tr>
<tr><td colspan="2">メディア情報分野</td></tr>
<tr><td colspan="2">分野共通科目</td><td>選択</td><td></td></tr>
</table>

※特別科目の他大学開放科目については、全学共通教育科目の必要単位数を超えて修得した科目として認定し、10単位まで含めることができる。

カリキュラム表の見方

区　　分	基礎や専門、分野・コースなどの区分を記載します。
授業科目名	科目の名称・サブタイトルを記載します。
単　位　数	科目ごとの単位数を記載します。丸付数字は必修科目を表します。
年　　次	科目が開講されている学年・学期を記載します。 ○　…半期週１回開講 ◎　…半期週２回開講 集　…集中講義 ▲　…その他の開講 　…不開講科目
講師区分	本学の教員かそうでないかを記載します。 兼　…他学部所属教員 非　…他大学、他組織所属教員 空白　…本学部所属の教員を表します。
担当教員	科目を担当する教員名を記載します。
地　　域	地域志向科目（地域と結び付き具体的に学び、実践する科目）
ベーシック	ファンタジスタ科目ー三重創生ファンタジスタ（ベーシック）資格科目
実　　践	実践交流科目ー三重創生ファンタジスタ（アドヴァンス）資格科目
実　　務	実務家教員授業科目（本編科目名末尾に実務と記載します。）

環境情報学部（2017年度以降入学生）

区分		科目名（テーマ）	単位数	配当年次 1年次 前期	1年次 後期	2年次 前期	2年次 後期	3年次 前期	3年次 後期	4年次 前期	4年次 後期	講師区分	担当教員	ページ	地域	ベーシック	実践	実務	備考
全学共通教育科目	基礎科目	「人間たれ」	②	○									岩崎恭典	1					
		入門演習Ⅰ	②	○									大八木麻希 樋口晶子 廣住豊一 前川督雄 武藤和成	2					代表教員
		入門演習Ⅱ	②		○								大八木麻希 樋口晶子 廣住豊一 前川督雄 武藤和成	3					代表教員
	語学科目	基礎英語Ⅰ	②	○									樋口晶子 武藤和成	3					代表教員
		基礎英語Ⅱ	②		○								樋口晶子 武藤和成	4					代表教員
		基礎日本語Ⅰ	②	○								兼 非 非	加納光 角田延之 安田由紀子	4					代表教員 留学生対象科目
		基礎日本語Ⅱ	②		○							兼 非 非	加納光 角田延之 安田由紀子	5					代表教員 留学生対象科目
		英語コミュニケーションⅠ	2			○						非	樋口晶子 柴田啓文	6 5					
		英語コミュニケーションⅡ	2				○					非	樋口晶子 柴田啓文	8 7					
		中国語Ⅰ	2			○						兼	吉山青翔 加納光	9 8					
		中国語Ⅱ	2				○					兼	吉山青翔 加納光	10 9					
		ポルトガル語Ⅰ	2			○						兼	フェリペ・フェハーリ	10					
		ポルトガル語Ⅱ	2				○					兼	フェリペ・フェハーリ	11					
		海外語学研修a（英語）	2				▲							11					不開講
		海外語学研修b（中国語）	2			▲													不開講
		日本語中級Ⅰ	2			○						兼 非 非 非	加納光 伊藤晴苗 角田延之 安田由紀子	12					代表教員 留学生対象科目
		日本語中級Ⅱ	2				○					兼 非 非	加納光 角田延之 安田由紀子	12					代表教員 留学生対象科目
		日本語上級Ⅰ	2					○				兼 非 非 非	加納光 伊藤晴苗 角田延之 安田由紀子	13					代表教員 留学生対象科目
		日本語上級Ⅱ	2						○			兼 非 非	加納光 角田延之 安田由紀子	13					代表教員 留学生対象科目
	情報科目	コンピュータリテラシー	④	○									池田幹男 片山清和	14					代表教員
		情報倫理	②		○								池田幹男 片山清和 田中伊知郎 田中雅章	14					代表教員

環境情報学部（2017年度以降入学生）

区分			科目名（テーマ）	単位数	配当年次 1年次 前期	1年次 後期	2年次 前期	2年次 後期	3年次 前期	3年次 後期	4年次 前期	4年次 後期	講師区分	担当教員	ページ	地域	ベーシック	実践	実務	備考
全学共通教育科目	情報科目		情報科学	2	○									池田幹男	15					
			情報と職業	2	○								非	井岡幹博	15					
			アプリケーション演習Ⅰ	2		○								池田幹男	16					
			アプリケーション演習Ⅱ	2			○							田中雅章	16					
	地域科目		四日市学	2	○								兼	鬼頭浩文	17	○	○			代表教員
													兼	李修二						
													兼	岡良浩						
													兼	永井博						
			地域社会の歴史	2		○							非	岡佑哉	17	○	○			
			市民教育	2	○								兼	松井真理子	18	○	○			
			人権論	2		○							兼	松井真理子	18	○	○			
			地域社会と環境	2	○									野呂達哉	19	○	○		○	
			地域防災	2	○									鬼頭浩文ほか	19	○	○	○	○	
			地域連携特別講義a	2		▲							兼	小林慶太郎ほか	20	○	○	○	○	
			地域連携特別講義b	2		▲											○		○	不開講
	一般教養科目	社会系列科目	経営学	2	○									川崎綾子	20					
			経済学	2		○								鬼頭浩文	21					
			政治学	2	○								兼	小林慶太郎	21					
			社会学	2	○								兼	三田泰雅	22					
			ジェンダー論	2		○							兼	高田晴美	22					代表教員
													兼	三田泰雅						
			メディアリテラシー	2	○									関根辰夫	23					
														前川督雄						代表教員
			社会福祉概論	2	○									李修二	23					
			日本国憲法	2		○							兼	中西紀夫	24					
			法学	2	○								兼	中西紀夫	24					
			民法入門	2	○								非	土志田佳枝	25				○	
		人文科学系列	倫理学	2		○							兼	フェリペ・フェハーリ	25					
			哲学	2	○								兼	フェリペ・フェハーリ	26					
			文学	2	○								兼	永井博	26					
			文章表現論	2	○	○							兼	永井博	27					留学生クラス
													兼	杉谷克芳						
			文化論	2		○								前川督雄	28					
			教育学	2	○															不開講
			日本史概論	2	○								非	岡佑哉	28					
			世界史概論	2		○							兼	李修二	29					
			地理学概論	2		○														不開講
			地誌	2		○														不開講
		自然科学系列	科学的思考論	2		○								吉山青翔	29					
			科学思想史	2	○									吉山青翔	30					
			自然科学概論	2		○								田中伊知郎	30					
			数学概論	2	○								非	山本敦也	31					
			化学概論	2	○									牧田直子	31					
			地学概論	2	○								非	森康則	32					
			生物学概論	2	○									田中伊知郎	32					
			生物と進化	2		○								田中伊知郎	33					
			環境論	2		○								吉山青翔	33					
			心理学	2		○								田中伊知郎	34					

区分		科目名（テーマ）	単位数	配当年次 1年次 前期	1年次 後期	2年次 前期	2年次 後期	3年次 前期	3年次 後期	4年次 前期	4年次 後期	講師区分	担当教員	ページ	地域	ベーシック	実践	実務	備考
全学共通教育科目	キャリア科目	キャリア基礎Ⅰ	②		○								田中伊知郎	34				○	代表教員
													樋口晶子						
													牧田直子						
													吉山青翔						
													李修二						
												兼	岩崎祐子						
												兼	岡良浩						
												兼	永井博						
												兼	高田晴美	35				○	【公務員クラス】
												兼	中西紀夫						
		キャリア基礎Ⅱ	②			○							鬼頭浩文	35				○	代表教員
													田中伊知郎						
													樋口晶子						
													牧田直子						
													吉山青翔						
													李修二						
												兼	岩崎祐子						
												兼	岡良浩						
												兼	永井博						
												兼	高田晴美	36				○	【公務員クラス】
												兼	中西紀夫						
		キャリア基礎Ⅲ	2				○						田中伊知郎	36	○			○	代表教員
													樋口晶子						
													牧田直子						
													吉山青翔						
													李修二						
												兼	岩崎祐子						
												兼	岡良浩						
												兼	永井博						
												兼	高田晴美	37				○	【公務員クラス】
												兼	中西紀夫						
	特別科目	ボランティア活動a	2	▲								兼	松井真理子	37	○				
		ボランティア活動b	2	▲								兼	松井真理子	38	○				
		国際協力研修	2		▲							兼	岩崎祐子	38					
		インターンシップ	2			▲						兼	鬼頭浩文	39	○	○			
		他大学開放科目a	2			○													
		他大学開放科目b	2			○													
		他大学開放科目c	2			○													
		他大学開放科目d	2			○													
		他大学開放科目e	2			○													
	スキル科目 公務員養成ユニット	公務のための数的推理	2		○							兼	高田晴美	43					
		公務のための判断推理	2	○								兼	高田晴美	44					
		公務のための現代文	2		○							兼	高田晴美	44					
		公務のための政治学	2			○						兼	小林慶太郎	45					
		公務のための経済学	2			○						兼	鬼頭浩文	45					
		公務のための法学	2			○						兼	中西紀夫	46					
		公務のための人文科学	2			○							李修二	46					
		公務のための自然科学	2					○				兼	高田晴美	47					
		公務のための英文理解	2						○			兼	ゴードン・リース	47					
		公務のための論文・面接	2							○		兼	小林慶太郎	48					

環境情報学部（2017年度以降入学生）

区分			科目名（テーマ）	単位数	配当年次 1年次 前期	1年次 後期	2年次 前期	2年次 後期	3年次 前期	3年次 後期	4年次 前期	4年次 後期	講師区分	担当教員	ページ	地域	ベーシック	実践	実務	備考
全学共通教育科目	スキル科目	おもてなし経営ユニット	ビジネスマナー	2		○							兼	岡　良浩ほか	48				○	
			サービス経営論	2	○								兼	岡　良浩	49					
			販売士講座	2			○						非	山川和美	49				○	
			ビジネスコミュニケーション	2			○						兼	岡　良浩ほか	50				○	
			グローバルコミュニケーション	2				○					兼	富田　与	50					
			オペレーション演習	2			○						兼 兼 兼	岡　良浩 川崎綾子 永井　博	51	○	○	○		 代表教員
			ビジネスマネジメント	2					○				兼 兼	岩崎祐子 奥原貴士	51					代表教員
			マーケティング演習	2						○			兼 兼	岩崎祐子 岡　良浩	52	○	○		○	 代表教員
			おもてなし特別講義a	2			○						兼 兼	岩崎祐子 岡　良浩	52	○	○		○	代表教員
			おもてなし特別講義b	2				○					 兼 兼	池田幹男 岩崎祐子 岡　良浩	53	○	○		○	代表教員
		英語力養成ユニット	観光英語Ⅰ	2	○								兼	ゴードン・リース	53					
			観光英語Ⅱ	2		○							兼	ゴードン・リース	54					
			コンピュータ英語Ⅰ	2	○								非	柴田啓文	54					
			コンピュータ英語Ⅱ	2		○							非	柴田啓文	55					
			英語表現Ⅰ	2			○						兼	ゴードン・リース	55					
			英語表現Ⅱ	2				○					兼	ゴードン・リース	56					
			ビジネス英語Ⅰ	2			○							樋口晶子	56					
			ビジネス英語Ⅱ	2				○						樋口晶子	57					
			検定英語Ⅰ	2					○					武藤和成	57					
			検定英語Ⅱ	2						○				武藤和成	58					
		メディアデザインユニット	メディアツールa	2	○								非 非 非	池上貴文 西尾秀樹 堀内敬弘	58				○	
			メディアツールb	2		○							非 非 非	池上貴文 西尾秀樹 山本努武	59				○	
			メディアツールc	2			○						非	田中麻衣	59				○	
			メディアツールd	2				○					非	柳澤翔士	60				○	
			Webデザインa	2				○					非	堀内敬弘	60				○	
			Webデザインb	2					○				非	堀内敬弘	61				○	
			Webプログラミングa	2		○							 	池田幹男 片山清和 田中雅章	61					 代表教員
			Webプログラミングb	2			○						 	池田幹男 田中雅章	62					代表教員
			インターネット論	2			○							田中雅章	62					
		数理・統計力養成ユニット	基礎数学	2		○							非	山本敦也	63					
			統計リテラシー	2		○							非	井岡幹博	63					
			確率基礎	2			○						非	金岩　稔	64					
			微分積分	2			○							片山清和	64					
			線型代数	2			○						非	金岩　稔	65					
			データ分析の基礎	2			○							田中伊知郎	40					
			統計的分析	2				○						田中伊知郎	41					
			データ解析の技法	2				○					非	山本敦也	41					
			データ統計処理	2					○					片山清和	65					

環境情報学部（2017年度以降入学生）

区分			科目名（テーマ）	単位数	配当年次 1年次 前期	1年次 後期	2年次 前期	2年次 後期	3年次 前期	3年次 後期	4年次 前期	4年次 後期	講師区分	担当教員	ページ	地域	ベーシック	実践	実務	備考
専門教育科目	学部基礎科目	必修	環境情報学概論Ⅰ	②	○									鬼頭浩文ほか	137					代表教員
			環境情報学概論Ⅱ	②		○								大八木麻希	137					自然環境分野
														田中伊知郎						自然環境分野　代表教員
														野呂拓哉						自然環境分野
														廣住豊一						自然環境分野
														牧田直子						自然環境分野
														池田幹男	138					メディア情報分野
														片山清和						メディア情報分野
														黒田淳哉						メディア情報分野
														関根辰夫						メディア情報分野
														田中雅章						メディア情報分野
														樋口晶子						メディア情報分野
														前川督雄						メディア情報分野　代表教員
														武藤和成						メディア情報分野
			四日市公害論	②			○							千葉　賢ほか	138	○	○		○	
	演習科目	必修	基礎演習a	②			○							片山清和	139					代表教員
														田中雅章						
														前川督雄						
														関根辰夫	139					代表教員
														黒田淳哉						
														柳瀬元志						
														野呂拓哉	140					
														廣住豊一						代表教員
														牧田直子						
			基礎演習b	②				○						片山清和	140					代表教員
														田中雅章						
														前川督雄						
														関根辰夫	141					代表教員
														黒田淳哉						
														柳瀬元志						
														大八木麻希	141					
														野呂拓哉						
														廣住豊一						代表教員
			専門演習a	②					○					池田幹男	142					
														大八木麻希	142					
														片山清和	143					
														黒田淳哉	143					
														関根辰夫	144					
														千葉　賢	144					
														野呂達哉	145					
														廣住豊一	145					
														前川督雄	146					
														牧田直子	146					
														柳瀬元志	147					

環境情報学部（2017年度以降入学生）

区分			科目名（テーマ）	単位数	配当年次 1年次 前期	1年次 後期	2年次 前期	2年次 後期	3年次 前期	3年次 後期	4年次 前期	4年次 後期	講師区分	担当教員	ページ	地域	ベーシック	実践	実務	備考
専門教育科目	演習科目	必修	専門演習b	②						○				池田幹男	147					
														大八木麻希	148					
														片山清和	148					
														黒田淳哉	149					
														関根辰夫	149					
														千葉賢	150					
														野呂達哉	150					
														廣住豊一	151					
														前川督雄	151					
														牧田直子	152					
														柳瀬元志	152					
			専門演習c	②							○			池田幹男	153					
														大八木麻希	153					
														片山清和	154					
														黒田淳哉	154					
														関根辰夫	155					
														千葉賢	155					
														野呂達哉	156					
														廣住豊一	156					
														前川督雄	157					
														牧田直子	157					
														柳瀬元志	158					
			専門演習d	②								○		池田幹男	158					
														大八木麻希	159					
														片山清和	159					
														黒田淳哉	160					
														関根辰夫	160					
														千葉賢	161					
														野呂達哉	161					
														廣住豊一	162					
														前川督雄	162					
														牧田直子	163					
														柳瀬元志	163					
	自然環境分野	分野必修	地球環境学総論	2		○								廣住豊一	164					
			生態学	2			○							大八木麻希	164					
			環境保全学	2				○						野呂拓哉	165				○	
		環境基礎	環境化学	2		○								牧田直子	165					
			環境化学実験	2	○	○								牧田直子	166					
			自然調査法	2			○							大八木麻希	166					
		環境保全	地域環境論	2	○									千葉賢	167	○	○		○	
			環境エネルギー論	2						○			非	森康則	167				○	
			資源循環論	2						○			非	村田静昭	168					
			地理情報システム論	2					○				非	井岡幹博	168					
			環境倫理学	2	○									吉山青翔	169					
			環境政策	2			○							鬼頭浩文	112					代表教員
														千葉賢						
													兼	岡良浩						
			環境保全とツーリズム	2			○							千葉賢	112	○	○	○		代表教員
													兼	岡良浩						
			環境社会学	2				○					非	村田静昭	108					
			環境法	2					○				兼	中西紀夫	104					
			都市環境論	2						○			兼	岡良浩	114					

環境情報学部（2017年度以降入学生）

区分			科目名（テーマ）	単位数	配当年次 1年次 前期	1年次 後期	2年次 前期	2年次 後期	3年次 前期	3年次 後期	4年次 前期	4年次 後期	講師区分	担当教員	ページ	地域	ベーシック	実践	実務	備考
専門教育科目	自然環境分野	環境生態学	海洋学	2		○								千葉賢	169					
			生物分類学	2				○						大八木麻希	170					
			海洋調査法	2			○							千葉賢	170	○	○	○		
			環境実験・調査a	2			○							大八木麻希 廣住豊一	171					代表教員
			陸水学	2				○						大八木麻希	171					
			森林学	2						○				田中伊知郎	172					
			土壌学	2					○					廣住豊一	172	○	○			
		食糧と環境	食糧生産学	2		○								廣住豊一	173					
			食品微生物学	2			○							大八木麻希	173					
			食品衛生学	2				○						廣住豊一	174					
			環境実験・調査b	2				○						大八木麻希 廣住豊一	174					代表教員
			農産物流論	2					○				兼	川崎綾子	132					
			農業経営論	2						○			兼 非	鶴田利恵 杉谷克芳	133					代表教員
	メディア情報分野	分野必修	メディア情報と文化	2		○								山本伸	175					
			脳・音・光の科学Ⅰ	2			○							前川督雄 関根辰夫	175				○	代表教員
			ソフトウェア論	2				○						池田幹男	176					
		メディアと社会	メディアの歴史	2	○								非	木村眞知子	176				○	
			情報と感性	2		○													○	不開講
			音楽とまちづくり	2		○								鬼頭浩文 前川督雄	109	○	○	○	○	代表教員
			脳・音・光の科学Ⅱ	2				○						前川督雄 関根辰夫	177				○	代表教員
			グラフィックデザイン概論	2			○						非	池上貴文	177				○	
			コミュニケーションデザイン論	2						○			非	木村眞知子	178				○	
			次世代メディア社会	2					○					前川督雄	178					
			コンピュータ音楽論	2					○				非	柳澤翔士	179				○	
			コンピュータグラフィックス	2						○			非	山本努武	179					
			ポップカルチャー論	2					○											不開講
		スタジオと制作	感性と創造	2		○							非	池上貴文	180				○	
			表現と思想	2			○						非	木村眞知子	180				○	
			映像概論	2			○							柳瀬元志	181				○	
			照明概論	2			○							黒田淳哉	181				○	
			音響概論	2				○						関根辰夫	182				○	
			クリエイティブワークⅠ	2				○						柳瀬元志	182				○	
			クリエイティブワークⅡ	2					○					柳瀬元志	183				○	
			スタジオ技術論	2					○										○	不開講
			イベント制作演習	2						○				黒田淳哉 柳瀬元志	183				○	代表教員
		情報	ハードウェア論	2		○								片山清和	184					
			プログラミング	2				○						田中雅章	184					
			コンピュータ動作論	2			○							片山清和	185					
			システム管理論	2				○					非	井岡幹博	185					
			データベースプログラミング	2					○					田中雅章	186					
			情報システム論	2						○				池田幹男	186					
			メディア情報産業論	2						○				前川督雄	187					
	分野共通科目	特別講義	環境情報特別講義Ⅰ	2		○														不開講
			環境情報特別講義Ⅱ	2			○													不開講
			環境情報特別講義Ⅲ	2				○						片山清和 千葉賢 前川督雄	134					代表教員

環境情報学部（2017年度以降入学生）

区分			科目名（テーマ）	単位数	配当年次 1年次 前期	1年次 後期	2年次 前期	2年次 後期	3年次 前期	3年次 後期	4年次 前期	4年次 後期	講師区分	担当教員	ページ	地域	ベーシック	実践	実務	備考
専門教育科目	分野共通科目	文化論	音楽史	2	○									関根辰夫	187				○	
			生命－情報－環境	2			○							前川督雄	188					
			日本文化論	2			○						兼	永井博	135					
			出版文化論	2			○						非	稲葉年計	134				○	
			アジア文化論	2				○					兼	加納光	135					
			欧米文化論	2				○						山本伸	136					

実務経験教員　授業科目

科目名（テーマ）	単位数	配当年次 1年次 前期	1年次 後期	2年次 前期	2年次 後期	3年次 前期	3年次 後期	4年次 前期	4年次 後期	講師区分	担当教員	ページ	備考
地域社会と環境	2	○									野呂達哉	19	
地域防災	2	○									鬼頭浩文ほか	19	
地域連携特別講義a	2		▲							兼	小林慶太郎ほか	20	
地域連携特別講義b	2		▲										不開講
民法入門	2	○								非	土志田佳枝	25	
キャリア基礎Ⅰ	②		○								田中伊知郎	34	
											樋口晶子		
											牧田直子		
											吉山青翔		
											李修二		
										兼	岩崎祐子		
										兼	岡良浩		
										兼	永井博		
										兼	高田晴美	35	
										兼	中西紀夫		
キャリア基礎Ⅱ	②			○							鬼頭浩文	35	
											田中伊知郎		
											樋口晶子		
											牧田直子		
											吉山青翔		
											李修二		
										兼	岩崎祐子		
										兼	岡良浩		
										兼	永井博		
										兼	高田晴美	36	
										兼	中西紀夫		
キャリア基礎Ⅲ	2				○						田中伊知郎	36	
											樋口晶子		
											牧田直子		
											吉山青翔		
											李修二		
										兼	岩崎祐子		
										兼	岡良浩		
										兼	永井博		
										兼	高田晴美	37	
										兼	中西紀夫		
ビジネスマナー	2		○							兼	岡良浩ほか	48	
販売士講座	2			○						非	山川和美	49	
ビジネスコミュニケーション	2			○						兼	岡良浩ほか	50	
マーケティング演習	2						○			兼	岩崎祐子	52	
										兼	岡良浩		
おもてなし特別講義a	2			○						兼	岩崎祐子	52	
										兼	岡良浩		
おもてなし特別講義b	2				○						池田幹男	53	
										兼	岩崎祐子		
										兼	岡良浩		
メディアツールa	2	○								非	池上貴文	58	
										非	西尾秀樹		
										非	堀内敬弘		
メディアツールb	2		○							非	池上貴文	59	
										非	西尾秀樹		
										非	山本努武		
メディアツールc	2			○						非	田中麻衣	59	
メディアツールd	2				○					非	柳澤翔士	60	

科目名（テーマ）	単位数	配当年次 1年次 前期	1年次 後期	2年次 前期	2年次 後期	3年次 前期	3年次 後期	4年次 前期	4年次 後期	講師区分	担当教員	ページ	備考
Ｗｅｂデザインａ	2				○					非	堀内敬弘	60	
Ｗｅｂデザインｂ	2					○				非	堀内敬弘	61	
四日市公害論	②			○							千葉賢ほか	138	
環境保全学	2				○						野呂拓哉	165	
地域環境論	2	○									千葉賢	167	
環境エネルギー論	2						○			非	森康則	167	
脳・音・光の科学Ⅰ	2			○							前川督雄 関根辰夫	175	
メディアの歴史	2	○								非	木村眞知子	176	
情報と感性	2		○										不開講
音楽とまちづくり	2		○								鬼頭浩文 前川督雄	109	
脳・音・光の科学Ⅱ	2				○						前川督雄 関根辰夫	177	
グラフィックデザイン概論	2			○						非	池上貴文	177	
コミュニケーションデザイン論	2						○			非	木村眞知子	178	
次世代メディア社会	2					○					前川督雄	178	
コンピュータ音楽論	2					○				非	柳澤翔士	179	
感性と創造	2		○							非	池上貴文	180	
表現と思想	2			○						非	木村眞知子	180	
映像概論	2			○							柳瀬元志	181	
照明概論	2			○							黒田淳哉	181	
音響概論	2				○						関根辰夫	182	
クリエイティブワークⅠ	2				○						柳瀬元志	182	
クリエイティブワークⅡ	2					○					柳瀬元志	183	
スタジオ技術論	2					○							不開講
イベント制作演習	2						○				黒田淳哉 柳瀬元志	183	
音楽史	2	○									関根辰夫	187	
出版文化論	2			○						非	稲葉年計	134	

科目ナンバリングについて

・科目ナンバリングは、四日市大学で開講している科目（17カリキュラム）に付けられたナンバーのことです。
・科目ナンバリングは、その科目の分野略号、授業水準、履修順序等をあらわします。
・科目ナンバリングによって、教育課程の体系的な編成が理解できます。

科目ナンバリングの構造

科目ナンバーは分野略号と2種類のコードから構成されています。
ひとつの科目ナンバーの仕組みは以下のとおりです。
・**分野略号**：アルファベット３～４文字で、分野名をあらわします。
・**水準コード**：科目のレベルをあらわします。
・**番号（ナンバー）**：科目分野内での履修順序を示すこともあります。

例

ＸＸＸＸ	1	001
分野略号	水準	番号

開講科目名「人間たれ」の科目ナンバリング「**GEF1001**」は以下の内容をあらわします。
分野略号：全学共通科目（GE）の基礎科目（Foundation Courses）⇒GEF
水準コード：全学共通科目（一般教養レベル）⇒1
番号（ナンバー）：001

水準コードは次の通り。

科目のレベル	水準コード
全学共通科目（一般教養レベル）	1
専門科目（基礎科目・実践科目）	2
専門科目（発展科目・応用科目）	3
専門科目（卒業研究、卒業論文等）	4
留学生科目	9
卒業用件外科目	0

分類略号は次の通りです

環境情報学部

科目区分	分類略号	分野名	領域名
全学共通科目	GEF	基礎科目	
	GEL	語学科目	
	GEI	情報科目	
	GEC	地域科目	
	GLAS	一般教養科目	社会科学系列
	GLAH		人文科学系列
	GLAN		自然科学系列
	GECC	キャリア科目	
	GESC	特別科目	
	GSSR	スキル科目	社会調査士養成ユニット
	GSPO		公務員養成ユニット
	GSHM		おもてなし経営ユニット
	GSET		英語力養成ユニット
	GSMD		メディアデザインユニット
	GSMS		数理・統計力養成ユニット
環境情報学部専門科目	EFC	学部基礎科目	必修
	ESS	演習科目	必修
	ENE	自然環境分野	分野必修
			環境基礎
			環境保全
			環境生態学
			食糧と環境
	EMI	メディア情報分野	分野必修
			メディアと社会
			スタジオと制作
			情報
	ECF	分野共通科目	特別講義
			文化論

＜2017カリ全学共通教育科目＞

科目区分	分類略号	分野英語名	分野名	領域英語名	領域名	単位数	科目名	配当年次	配当学期	科目ナンバリング
全学共通科目	GEF	Foundation Courses	基礎科目		必修	2	「人間たれ」	1	前	GEF1001
						2	入門演習Ⅰ	1	前	GEF1002
						2	入門演習Ⅱ	1	後	GEF1003
	GEL	Language study	語学科目		必修	2	基礎英語Ⅰ	1	前	GEL1001
						2	基礎英語Ⅱ	1	後	GEL1002
						2	基礎日本語Ⅰ	1	前	GEL9001
						2	基礎日本語Ⅱ	1	後	GEL9002
					選択必修	2	英語コミュニケーションⅠ	2	前	GEL1003
						2	英語コミュニケーションⅡ	2	後	GEL1004
						2	中国語Ⅰ	2	前	GEL1005
						2	中国語Ⅱ	2	後	GEL1006
						2	ポルトガル語Ⅰ	2	前	GEL1007
						2	ポルトガル語Ⅱ	2	後	GEL1008
						2	海外語学研修a（英語）	2	前	GEL1009
						2	海外語学研修b（中国語）	2	前	GEL1010
						2	日本語中級Ⅰ	2	前	GEL9003
						2	日本語中級Ⅱ	2	後	GEL9004
						2	日本語上級Ⅰ	3	前	GEL9005
						2	日本語上級Ⅱ	3	後	GEL9006
	GEI	Information subject	情報科目		必修	4	コンピュータリテラシー	1	前	GEI1001
						2	情報倫理	1	後	GEI1002
					選択	2	情報科学	1	前	GEI1003
						2	情報と職業	1	前	GEI1004
						2	アプリケーション演習Ⅰ	1	後	GEI1005
						2	アプリケーション演習Ⅱ	2	前	GEI1006
	GEC	Community-oriented courses	地域科目			2	四日市学	1	前	GEC1001
						2	地域社会の歴史	1	後	GEC1002
						2	市民教育	1	後	GEC1003
						2	人権論	1	後	GEC1004
						2	地域社会と環境	1	後	GEC1005
						2	地域防災	1	前	GEC1006
						2	地域連携特別講義a	1	前	GEC1007
						2	地域連携特別講義b	1	後	GEC1008
	GLAS	Liberal Arts	一般教養科目	Society	社会科学系列	2	経営学	1	前	GLAS1001
						2	経済学	1	後	GLAS1002
						2	政治学	1	前	GLAS1003
						2	社会学	1	後	GLAS1004
						2	ジェンダー論	1	後	GLAS1005
						2	メディアリテラシー	1	前	GLAS1006
						2	社会福祉概論	1	後	GLAS1007
						2	日本国憲法	1	後	GLAS1008
						2	法学	1	前	GLAS1009
						2	民法入門	1	前	GLAS1010
	GLAH			Humanities	人文科学系列	2	倫理学	1	前	GLAH1001
						2	哲学	1	後	GLAH1002
						2	文学	1	前	GLAH1003
						2	文章表現論	1	前･後	GLAH1004
						2	文化論	1	前･後	GLAH1005
						2	教育学	1	後	GLAH1006
						2	日本史概論	1	前	GLAH1007
						2	世界史概論	1	後	GLAH1008
						2	地理学概論	1	後	GLAH1009
						2	地誌	1	後	GLAH1010

＜2017カリ全学共通教育科目＞

科目区分	分類略号	分野英語名	分野名	領域英語名	領域名	単位数	科目名	配当年次	配当学期	科目ナンバリング
全学共通科目	GLAN	Liberal Arts	一般教養科目	Natural Science	自然科学系列	2	科学的思考論	1	前	GLAN1001
						2	科学思想史	1	後	GLAN1002
						2	自然科学概論	1	後	GLAN1003
						2	数学概論	1	前	GLAN1004
						2	化学概論	1	前	GLAN1005
						2	地学概論	1	前	GLAN1006
						2	生物学概論	1	前	GLAN1007
						2	生物と進化	1	後	GLAN1008
						2	環境論	1	後	GLAN1009
						2	心理学	1	後	GLAN1010
	GECC	Career courses	キャリア科目			2	キャリア基礎Ⅰ	1	後	GECC1001
						2	キャリア基礎Ⅱ	2	前	GECC1002
						2	キャリア基礎Ⅲ	2	後	GECC1003
	GESC	Special courses	特別科目			2	ボランティア活動a	1	前	GESC1001
						2	ボランティア活動b	1	前	GESC1002
						2	国際協力研修	1	後	GESC1003
						2	インターンシップ	2	前	GESC1004
						2	他大学開放科目a	2	前	GESC1005
						2	他大学開放科目b	2	前	GESC1006
						2	他大学開放科目c	2	前	GESC1007
						2	他大学開放科目d	2	前	GESC1008
						2	他大学開放科目e	2	前	GESC1009
	GSSR	Skills courses	スキル科目	Social Researcher	社会調査士養成ユニット	2	社会調査入門	1	前	GSSR1001
						2	社会調査の技法	1	後	GSSR1002
						2	データ分析の基礎	2	前	GSSR1003
						2	統計的分析	2	後	GSSR1004
						2	データ解析の技法	2	後	GSSR1006
						2	フィールドワーク論	2	前	GSSR1005
						2	社会調査実習1	3	前	GSSR1007
						2	社会調査実習2	3	後	GSSR1008
	GSPO			Public officials	公務員養成ユニット	2	公務のための数的推理	1	前	GSPO1001
						2	公務のための判断推理	1	後	GSPO1002
						2	公務のための現代文	1	後	GSPO1003
						2	公務のための政治学	2	前	GSPO1004
						2	公務のための経済学	2	前	GSPO1005
						2	公務のための法学	2	後	GSPO1006
						2	公務のための人文科学	2	後	GSPO1007
						2	公務のための自然科学	3	前	GSPO1008
						2	公務のための英文理解	3	後	GSPO1009
						2	公務のための論文・面接	4	前	GSPO1010
	GSHM			Hospitality management	おもてなし経営ユニット	2	ビジネスマナー	1	前	GSHM1001
						2	サービス経営論	1	後	GSHM1002
						2	販売士講座	2	前	GSHM1003
						2	ビジネスコミュニケーション	2	前	GSHM1004
						2	グローバルコミュニケーション	2	後	GSHM1005
						2	オペレーション演習	2	前	GSHM1006
						2	ビジネスマネジメント	3	前	GSHM1007
						2	マーケティング演習	3	後	GSHM1008
						2	おもてなし特別講義a	2	前	GSHM1009
						2	おもてなし特別講義b	2	後	GSHM1010

＜2017カリ全学共通教育科目＞

科目区分	分類略号	分野英語名	分野名	領域英語名	領域名	単位数	科目名	配当年次	配当学期	科目ナンバリング
全学共通科目	GSET	Skills courses	スキル科目	English training	英語力養成ユニット	2	観光英語Ⅰ	1	前	GSET1001
						2	観光英語Ⅱ	1	後	GSET1002
						2	コンピュータ英語Ⅰ	1	前	GSET1003
						2	コンピュータ英語Ⅱ	1	後	GSET1004
						2	英語表現Ⅰ	2	前	GSET1005
						2	英語表現Ⅱ	2	後	GSET1006
						2	ビジネス英語Ⅰ	2	前	GSET1007
						2	ビジネス英語Ⅱ	2	後	GSET1008
						2	検定英語Ⅰ	3	前	GSET1009
						2	検定英語Ⅱ	3	後	GSET1010
	GSMD			Media Design	メディアデザインユニット	2	メディアツールa	1	前	GSMD1001
						2	メディアツールb	1	後	GSMD1002
						2	メディアツールc	2	前	GSMD1003
						2	メディアツールd	2	後	GSMD1004
						2	Webデザインa	2	後	GSMD1005
						2	Webデザインb	3	前	GSMD1006
						2	Webプログラミングa	1	後	GSMD1007
						2	Webプログラミングb	2	前	GSMD1008
						2	インターネット論	2	前	GSMD1009
	GSMS			Mathematical and statistical force	数理・統計力養成ユニット	2	基礎数学	1	前	GSMS1001
						2	統計リテラシー	1	後	GSMS1002
						2	確率基礎	2	前	GSMS1003
						2	微分積分	2	前	GSMS1004
						2	線型代数	2	前	GSMS1005
						2	データ分析の基礎	2	前	GSMS1006
						2	統計的分析	2	後	GSMS1007
						2	データ解析の技法	2	後	GSMS1008
						2	データ統計処理	3	前	GSMS1009

＜2017カリ環境情報学部専門科目＞

分野名	分野英語名	領域英語名	単位数	科目名	配当年次	配当学期	科目ナンバリング
学部基礎科目		必修	2	環境情報学概論Ⅰ	1	前	EFC1001
			2	環境情報学概論Ⅱ	1	後	EFC1002
			2	四日市公害論	2	前	EFC2001
演習科目		必修	2	基礎演習a	2	前	ESS2001
			2	基礎演習b	2	後	ESS2002
			2	専門演習a	3	前	ESS3001
			2	専門演習b	3	後	ESS3002
			2	専門演習c	4	前	ESS4001
			2	専門演習d	4	後	ESS4002
自然環境分野		分野必修	2	地球環境学総論	1	後	ENE2001
			2	生態学	2	前	ENE2002
			2	環境保全学	2	後	ENE2003
	Environment basics	環境　基礎	2	環境化学	1	後	EEB2001
			2	環境化学実験	1	前・後	EEB2002
			2	自然調査法	2	後	EEB2003
	Environmental protection	環境保全	2	地域環境論	1	前	EEP2001
			2	環境エネルギー論	3	前	ENE3001
			2	資源循環論	3	後	ENE3002
			2	地理情報システム論	3	後	ENE3003
			2	環境倫理学	1	後	EEP2002
			2	環境政策	2	前	EEP2003
			2	環境保全とツーリズム	2	前	EEP2004
			2	環境社会学	2	後	EEP2005
			2	環境法	3	前	EEP3004
			2	都市環境論	3	後	EEP3005
	Environmental ecology	環境生態学	2	海洋学	1	後	EEE2001
			2	生物分類学	2	前	EEE2002
			2	海洋調査法	2	前	EEE2003
			2	環境実験・調査a	2	前	EEE2004
			2	陸水学	2	後	EEE3001
			2	森林学	3	前	EEE3002
			2	土壌学	3	後	EEE3003
	Food and environment	食糧と環境	2	食糧生産学	1	後	EFE2001
			2	食品微生物学	2	前	EFE2002
			2	食品衛生学	2	後	EFE2003
			2	環境実験・調査b	2	後	EFE2004
			2	農産物流論	3	前	EFE3001
			2	農業経営論	3	後	EFE3002
メディア情報分野		分野必修	2	メディア情報と文化	1	後	EMI2001
			2	脳・音・光の科学Ⅰ	2	前	EMI2002
			2	ソフトウェア論	2	後	EMI2003
	Media and society	メディアと社会	2	メディアの歴史	1	前	EMS2001
			2	情報と感性	1	後	EMS2002
			2	音楽とまちづくり	1	後	EMS2003
			2	脳・音・光の科学Ⅱ	2	後	EMS2004
			2	グラフィックデザイン概論	2	後	EMS2005
			2	コミュニケーションデザイン論	3	前	EMS3001
			2	次世代メディア社会	3	前	EMS3002
			2	コンピュータ音楽論	3	後	EMS3003
			2	コンピュータグラフィックス	3	後	EMS3004
			2	ポップカルチャー論	3	後	EMS3005

＜2017カリ環境情報学部専門科目＞

分野名	分野英語名	領域英語名	単位数	科目名	配当年次	配当学期	科目ナンバリング
メディア情報分野	Studio and production	スタジオと制作	2	感性と創造	1	後	ESP2001
			2	表現と思想	2	前	ESP2002
			2	映像概論	2	前	ESP2003
			2	照明概論	2	前	ESP2004
			2	音響概論	2	後	ESP2005
			2	クリエイティブワークⅠ	2	後	ESP3001
			2	クリエイティブワークⅡ	3	前	ESP3002
			2	スタジオ技術論	3	前	ESP3003
			2	イベント制作演習	3	後	ESP3004
	Information field	情報	2	ハードウェア論	1	後	EIF2001
			2	プログラミング	2	後	EIF2002
			2	コンピュータ動作論	2	前	EIF2003
			2	システム管理論	2	後	EIF2004
			2	データベースプログラミング	3	前	EIF3001
			2	情報システム論	3	前	EIF3002
			2	メディア情報産業論	3	後	EIF3003
分野共通科目	Special lecture	特別講義	2	環境情報特別講義Ⅰ	1	後	ESL2001
			2	環境情報特別講義Ⅱ	2	前	ESL2002
			2	環境情報特別講義Ⅲ	2	後	ESL2003
		文化論	2	音楽史	1	前	ECF2001
			2	生命－情報－環境	2	前	ECF2002
			2	日本文化論	2	前	ECF2003
			2	出版文化論	2	前	ECF2004
			2	アジア文化論	2	後	ECF2005
			2	欧米文化論	2	後	ECF2006

シラバスの見方

①「人間たれ」 実務

②岩崎恭典

科目ナンバリング	④学年	⑤単位
③GOS001	⑥開講	⑦必修

授業のねらい

本学に入学した環境情報・総合政策両学部の全新入生が、本学の建学の理念、歴史・伝統を学ぶとともに、今後激変する社会に出る準備として大学で学ぶということ、大学での生活上の留意点、卒業後を見通したキャリア形成、生活設計など学生としての基本事項を学ぶことを本講義のねらいとします。⑨

到達目標

1．本学の建学の精神を理解する。
2．満30周年を迎えた本学の歴史を、まもなく満75周年を迎える学校法人暁学園の歴史を、昭和・平成・令和という時代とともに振り返り、今後の社会に生きていくために何かについて理解を深める。
3．地域志向科目等本学の特徴的な事業、また、学友会主催事業等についての理解を深める。⑩

成績評価方法・課題・フィードバックの方法

出席することを基本として、時折実施する小テスト（50%）、定期試験の成績（50%）により評価する。なお、講義のフィードバックは、「大福帳」を通じて行う。
コロナ禍が続いている場合は、オンデマンド方式となる。その場合は、ムードルによる出席確認小レポートが課せられる。また、定期試験代替のレポート試験となるので注意が必要である。⑫

事前・事後学習

大学は社会に出るための準備期間です。講義の中では、時事問題も積極的に触れるので、新聞を読む習慣をつけておいてください（1日30分以上）。⑭

授業の位置づけ

「基礎科目」では、本学の建学の精神を学ぶとともに、大学生として身に付けておかなければならない基本的な学修・研究方法の習得をめざします。⑧

授 業 計 画

第1講で、講師のスケジュールを確定させたうえで、改めて詳細な講義計画を示す。⑪
第1講　ガイダンス　成長スケールの記入
第2講　大学生活を充実させるボランティア活動
第3講　地震・風水害に備える、そして、被災地を支援すること
第4講　本学の建学の精神について
第5講　暁学園・四日市大学の歴史　昭和時代の暁学園
第6講　暁学園・四日市大学の歴史　平成時代・令和の四日市大学
第7講　本学の建学の精神と君たちの将来　人口減少社会
第8講　本学の建学の精神と君たちの将来　シンギュラリティ、Society5.0
第9講　日本の財政状況と税金、年金、金融知識（財務省津財務事務所）
第10講　人口減少社会を生きる力
第11講　SDGsとGAFA
第12講　目指すべき職業人とは　ジョブキャラバン　大学1年生で何をなすべきか
第13講　人生の先輩に聴く①　社会人学生OBが語る
第14講　人生の先輩に聴く②　就職活動を終えて
第15講　夏休みを前に　産婦人科医は語る
定期試験

テキスト・教材（参考文献含む）

できるだけレジメと資料を配布する。⑬

担当者から一言

私立大学には「建学の精神」というものがあります。本学の「建学の精神」とその精神に由来する教育目標・教育課程の全体像を理解し、有意義な4年間を過ごすための基礎を、この講義を通じて、作っていってください。⑮

①本年度開講の授業科目名です。実務経験のある教員が担当する科目は科目名の後に 実務 と記載があります。
②授業科目担当者です。
③科目ナンバリングを表記しています。前掲の科目ナンバリングを参照のこと。
④学年（年次）は、その科目を履修することができる最低学年を表記しています（配当年次）。
⑤単位数を表記しています。
⑥開講期は、授業科目がいつ開講されるかを表記しています。
⑦「必修」は、卒業のために必ず単位修得しなければならない科目です。「選択」は選択科目を表しています。各学部・各専攻で必要な科目かどうかは異なります。
⑧授業の位置づけ：卒業認定・学位授与の方針（DP）と当該授業科目の関連が記載されています。
⑨授業のねらい：どのような授業科目か、この授業の目的・意義を簡潔に示しています。
⑩到達目標：具体的に習得すべき知識や技能等について記載されています。授業の終了時点でどのような知識や技能（スキル）を身につけることが出来るか、教育目標としているかについて記載されています。
⑪授業計画：15回の授業について、各回の「テーマ」「内容」を明記しています。なお、授業の進行具合や受講学生の興味・関心に合わせて適宜変更する授業科目もあります。
⑫成績 評価方法・課題・フィードバック方法：定期試験 60%、小テスト 40%のように、評価（ポイント）基準を明記しています。また、課題の内容や提出方法、また、それらのフィードバック方法が記載されています。
⑬テキスト・教材（参考文献含む）：テキストには，授業内で実際に使用する教科書を明記しています。授業開始前までに必ず準備してから授業に臨んでください。参考文献については、各授業担当にお尋ねください。
⑭事前・事後学習：事前・事後学習とは、毎回の授業に出席する際の予習及び復習と考えて取り組んでください。また、履修上他の科目を先行して履修することが望ましい科目がある場合は、こちらに『「○○○Ⅰ」を先行して履修していることが望ましい』など記載されています。
⑮担当者から一言：履修上の注意の他、シラバスの他の項目で書ききれなかった内容を補足して記載されています。
その他
・授業形態（面接授業、オンデマンド授業などのオンライン授業等）が変更になる場合があります。
・所属学科ごとに履修条件が異なるので、必ず「履修要綱」で確認をしてください。

「人間たれ」	科目ナンバリング	1年次	2単位
岩崎恭典	GEF1001	前学期	必　修

授業のねらい

本学に入学した環境情報・総合政策両学部の全新入生が、本学の建学の理念、歴史・伝統を学ぶとともに、今後激変する社会に出る準備として大学で学ぶということ、大学での生活上の留意点、卒業後を見通したキャリア形成、生活設計など、学生としての基本事項を学ぶことを本講義のねらいとします。

到達目標

1．本学の建学の精神を理解する。
2．満30周年を迎えた本学の歴史を、満75周年を迎えた学校法人暁学園の歴史を、昭和･平成･令和･平成という時代とともに振り返り、今後の社会に生きていく力とは何かについて理解を深める。
3．地域志向科目等本学の特徴的な講義、また、学友会主催事業等についての理解を深める。

成績評価方法･課題･フィードバックの方法

出席することを基本として、時折実施する小テスト（50%）、定期試験の成績（50%）により評価する。なお、講義のフィードバックは、「大福帳」を通じて行う。
コロナ禍が続いている場合は､オンデマンド方式となる。その場合は、ムードルによる出席確認小レポートが課せられる。また、定期試験代替のレポート試験となるので注意が必要である。

事前・事後学習

大学は社会に出るための準備期間です。講義の中では、時事問題も積極的に触れるので、新聞を読む習慣をつけておいてください（1日30分以上)。

授業の位置づけ

「基礎科目」では、本学の建学の精神を学ぶとともに、大学生として身に付けておかなければならない基本的な学修・研究方法の習得をめざします。

授 業 計 画

第1講で、講師のスケジュールを確定させたうえで、改めて詳細な講義計画を示す。
第1講　ガイダンス　成長スケールの記入
第2講　大学生活を充実させるボランティア活動
第3講　地震･風水害に備える、そして、被災地を支援すること
第4講　本学の建学の精神について
第5講　暁学園･四日市大学の歴史　昭和時代の暁学園
第6講　暁学園･四日市大学の歴史　平成時代･令和の四日市大学
第7講　本学の建学の精神と君たちの将来　人口減少社会
第8講　本学の建学の精神と君たちの将来　シンギュラリティ、Society5.0
第9講　日本の財政状況と税金､家計､金融知識(財務省津財務事務所)
第10講　人口減少社会を生きる力
第11講　SDGsとGAFA
第12講　目指すべき職業人とは　ジョブキャラバン　大学1年生で何をなすべきか
第13講　人生の先輩に聴く①　社会人学生OBが語る
第14講　人生の先輩に聴く②　就職活動を終えて
第15講　夏休みを前に　産婦人科医は語る
定期試験

テキスト・教材（参考文献含む）

できるだけレジメと資料を配布する。

担当者から一言

私立大学には「建学の精神」というものがあります。本学の「建学の精神」=「人間たれ」とその精神に由来する教育方針・教育課程の全体像を理解し、有意義な4年間を過ごすための基礎をこの講義を通じて、作り上げてください。

入門演習Ⅰ	科目ナンバリング	1年次	2単位
岩崎祐・奥原・加納・川崎・鶴田・富田・永井・三田・李	GEF1002	前学期	必　修

授業のねらい

学生生活を進める上で必要な、以下のスチューデントスキル（四日市大学生として最低限身に付けておいてもらいたい基礎的な知識・技能など)を学びます。
1．授業を受ける上で必要なスキル
2．人間関係の基礎を作るスキル
3．大学での学修を助けてくれる施設を知ること
4．自分が所属する学部のことを知ること

到達目標

大学生として必要なスチューデントスキルを知り、実践してみること。

成績評価方法･課題･フィードバックの方法

定期試験を行ないません。
授業・課題への取り組みなどを100%で評価します。積極的な受講態度を心掛けて下さい。
課題は必ず個別指導します。

事前・事後学習

新聞の第一面を読む。(1日20分)
授業内容の資料を事前に読んでくる。(10分)
ノートと使用したプリントなどを読む。(30分)

授業の位置づけ

「基礎科目」では、本学の建学の精神を学ぶとともに、大学生として身に付けておかなければならない基本的な学修・研究方法の習得をめざします。

授 業 計 画

第1講　ガイダンス
第2講　授業の受け方、ノートの取り方
第3講　授業を受ける、ノートを取る
第4講　シラバスを読み、自分の履修登録を点検する
第5講　4年間の学修計画を考えてみる
第6講　自分を知るためのプレゼンテーションの準備
第7講　自分と他者を知るためのプレゼンテーションの実践
第8講　学修を助けてくれる施設を知る
第9講　学修を助けてくれる資料を知る
第10講　皆さんに期待するマナーとルール
第11講　学部企画①
第12講　学部企画②
第13講　学部企画③
第14講　学部企画④
第15講　学部企画⑤

※講義の順番については、入れ替わる場合があります。

テキスト・教材（参考文献含む）

担当者が適宜指示します。ノートを必ず用意してください。

担当者から一言

大学で学んでいくための根幹となる必修科目です。積極的な授業参加を望みます。また、各種の連絡事項の伝達なども行ないます。毎回必ず出席してください。

入門演習Ⅰ	科目ナンバリング	1年次	2単位
大八木・樋口・廣住・前川・武藤	GEF1002	前学期	必　修

授業の位置づけ

「基礎科目」では、本学の建学の精神を学ぶとともに、大学生として身に付けておかなければならない基本的な学修・研究方法の習得をめざします。

授業のねらい

学生生活を進める上で必要な、以下のスチューデントスキル（四日市大学生として最低限身に付けておいてもらいたい基礎的な知識・技能など)を学びます。

1．授業を受ける上で必要なスキル
2．人間関係の基礎を作るスキル
3．大学での学修を助けてくれる施設を知ること
4．自分が所属する学部のことを知ること

到達目標

大学生として必要なスチューデントスキルを知り、実践してみること。

成績評価方法･課題･フィードバックの方法

定期試験を行ないません。
授業・課題への取り組みなどを100％で評価します。積極的な受講態度を心掛けて下さい。
課題は必ず個別指導します。

事前・事後学習

新聞の第一面を読む。（１日20分）
授業内容の資料を事前に読んでくる。(10分)
ノートと使用したプリントなどを読む。(30分)

授 業 計 画

第１講　ガイダンス
第２講　授業の受け方、ノートの取り方
第３講　授業を受ける、ノートを取る
第４講　シラバスを読み、自分の履修登録を点検する
第５講　４年間の学修計画を考えてみる
第６講　自分を知るためのプレゼンテーションの準備
第７講　自分と他者を知るためのプレゼンテーションの実践
第８講　学修を助けてくれる施設を知る
第９講　学修を助けてくれる資料を知る
第10講　皆さんに期待するマナーとルール
第11講　学部企画①
第12講　学部企画②
第13講　学部企画③
第14講　学部企画④
第15講　学部企画⑤
※講義の順番については、入れ替わる場合があります。

テキスト・教材（参考文献含む）

担当者が適宜指示します。ノートを必ず用意してください。

担当者から一言

大学で学んでいくための根幹となる必修科目です。積極的な授業参加を望みます。また、各種の連絡事項の伝達なども行ないます。毎回必ず出席してください。

入門演習Ⅱ	科目ナンバリング	1年次	2単位
岩崎祐・奥原・加納・川崎・鶴田・富田・永井・三田・李	GEF1003	後学期	必　修

授業の位置づけ

「基礎科目」では、本学の建学の精神を学ぶとともに、大学生として身に付けておかなければならない基本的な学修・研究方法の習得をめざします。

授業のねらい

大学で学んでいくために必要な、以下のスタディースキル（四日市大学生として最低限身に付けておいてもらいたい学修技法など）を学びます。

1．目標･目的を決め、情報を収集し、調べるスキル
2．情報を整理し、資料を読みこなすスキル
3．資料を発表し、議論するスキル

到達目標

大学生としての学修・研究活動へと進むために必要なスタディースキルを獲得し、学修スタイルを確立すること。

成績評価方法･課題･フィードバックの方法

定期試験を行ないません。
授業・課題への取り組みなどを100％で評価します。積極的な受講態度を心掛けて下さい。
課題は必ず個別指導します。

事前・事後学習

新聞の第一面を読む。（１日20分）
授業内容の資料を事前に読んでくる。(10分)
ノートと使用したプリントなどを読む。(30分)

授 業 計 画

第１講　ガイダンス
第２講　テーマを決める
第３講　調べる①
第４講　調べる②
第５講　読む①
第６講　読む②
第７講　まとめる①
第８講　まとめる②
第９講　まとめる③
第10講　発表する①
第11講　発表する②
第12講　話し合う①
第13講　話し合う②
第14講　話し合う③
第15講　基礎演習について

※ 講義の順番については、入れ替わる場合があります。
第12･13･14講でディスカッションを行います。

テキスト・教材（参考文献含む）

担当者が適宜指示します。ノートを必ず用意してください。

担当者から一言

「入門演習Ⅰ」に引き続き、大学で学んでいくための根幹となる必修科目です。積極的な授業参加を望みます。また、各種の連絡事項の伝達なども行います。毎回必ず出席してください。

入門演習Ⅱ

科目ナンバリング	1年次	2単位
GEF1003	後学期	必　修

大八木・樋口・廣住・前川・武藤

授業の位置づけ

「基礎科目」では、本学の建学の精神を学ぶとともに、大学生として身に付けておかなければならない基本的な学修・研究方法の習得をめざします。

授業のねらい

大学で学んでいくために必要な、以下のスタディースキル（四日市大学生として最低限身に付けておいてもらいたい学修技法など）を学びます。

1．目標･目的を決め、情報を収集し、調べるスキル
2．情報を整理し、資料を読みこなすスキル
3．資料を発表し、議論するスキル

到達目標

大学生としての学修・研究活動へと進むために必要なスタディースキルを獲得し、学修スタイルを確立すること。

成績評価方法･課題･フィードバックの方法

定期試験を行ないません。
授業・課題への取り組みなどを100％で評価します。積極的な受講態度を心掛けて下さい。
課題は必ず個別指導します。

事前・事後学習

新聞の第一面を読む。（１日20分）
授業内容の資料を事前に読んでくる。(10分)
ノートと使用したプリントなどを読む。(30分)

授 業 計 画

第１講　ガイダンス
第２講　テーマを決める
第３講　調べる①
第４講　調べる②
第５講　読む①
第６講　読む②
第７講　まとめる①
第８講　まとめる②
第９講　まとめる③
第10講　発表する①
第11講　発表する②
第12講　話し合う①
第13講　話し合う②
第14講　話し合う③
第15講　基礎演習について

※ 講義の順番については、入れ替わる場合があります。
第12･13･14講でディスカッションを行います。

テキスト・教材（参考文献含む）

担当者が適宜指示します。ノートを必ず用意してください。

担当者から一言

「入門演習Ⅰ」に引き続き、大学で学んでいくための根幹となる必修科目です。積極的な授業参加を望みます。また、各種の連絡事項の伝達なども行います。毎回必ず出席してください。

基礎英語Ⅰ

科目ナンバリング	1年次	2単位
GEL1001	前学期	選択必修

総合政策：リース・フェハーリ・スコット・柴田
環境情報：樋口・武藤

授業の位置づけ

「語学科目」では英語を中心とした外国語を、幅広く学び、学部ごとに設置された専門教育課程に向けた学修(教養)を積み上げていきます。

授業のねらい

大学生としての英語の教養を身に着けます。具体的には英語で「話す」､「聞く」､「読む」､「書く」(四技能)を常に意識する授業となります。このような四技能を、外国文化(特に英語圏の文化)への理解を深めながら身に着けていきます。日々の積み重ねで、総合的な英語力を高めることを「ねらい」とします。(クラスは複数ありますが、指定されています。)

到達目標

それぞれのクラスで活用する教材をマスターしましょう。このことによって、大学生としての英語力は身につきます。具体的な到達目標としては、例えば、英語検定試験では準２級から準１級受験レベル、合格レベルが目標となります。

成績評価方法･課題･フィードバックの方法

講義(授業)担当者に確認ください。
原則的には、平常点(課題提出状況、確認テスト、授業参加姿勢等)と定期試験によって評価します。必要に応じてフィードバックします。

事前・事後学習

毎日１時間ほどの英語学習が必要です。具体的には講義(授業)担当者がガイダンスで説明します。

授 業 計 画

第１講　ガイダンス：テキストの紹介　講義内容等の確認　課題、試験、定期試験、評価等の説明
第２講　各クラスによる内容
第３講　各クラスによる内容
第４講　各クラスによる内容
第５講　各クラスによる内容
第６講　各クラスによる内容
第７講　各クラスによる内容
第８講　各クラスによる内容
第９講　各クラスによる内容
第10講　各クラスによる内容
第11講　各クラスによる内容
第12講　各クラスによる内容
第13講　各クラスによる内容
第14講　各クラスによる内容
第15講　各クラスによる内容
定期試験　総まとめのテスト

テキスト・教材（参考文献含む）

それぞれのクラスに応じたテキストとなります(各自で必ず購入)。
辞書(電子･ペーパー)、参考書類は自分で用意ください。

担当者から一言

国際社会におけるコミュニケーションツールとしての英語を適切に身に着けることができるよう､日々興味関心を抱き､学修に努めましょう。

基礎英語Ⅱ

総合政策：リース・フェハーリ・スコット・柴田
環境情報：樋口・武藤

科目ナンバリング	1年次	2単位
GEL1002	後学期	選択必修

授業の位置づけ

「語学科目」では英語を中心とした外国語を、幅広く学び、学部ごとに設置された専門教育課程に向けた学修(教養)を積み上げていきます。

授業のねらい

前学期で培った四技能を中心とする総合的な英語力をさらに高め、深めていきます。これまで培った素養を基礎に次のステージをめざします。(クラスは複数ありますが、指定されています。)

到達目標

1　四技能を更に高める工夫と努力をしましょう。
2　資格試験(例えば、英語検定試験準２級、２級、準１級)に挑戦し、合格できるように語彙力、読解力、リスニング力、表現(会話)力の向上を意識し、取り組みましょう。
3　自国文化そして外国の文化への興味と関心を高め、(生活の)ゆたかさの質を高めましょう。

成績評価方法･課題･フィードバックの方法

講義(授業)担当者に確認ください。
原則的には、平常点(課題提出状況、確認テスト、授業参加姿勢等)と定期試験によって評価します。必要に応じてフィードバックします。

事前・事後学習

毎日１時間ほどは学習し、総合的な英語力を高めましょう。

授 業 計 画

第１講　クラスごとに後学期ガイダンス
第２講　各クラスの内容
第３講　各クラスの内容
第４講　各クラスの内容
第５講　各クラスの内容
第６講　各クラスの内容
第７講　各クラスの内容
第８講　各クラスの内容
第９講　各クラスの内容
第10講　各クラスの内容
第11講　各クラスの内容
第12講　各クラスの内容
第13講　各クラスの内容
第14講　各クラスの内容
第15講　各クラスの内容
後学期定期試験　総まとめの理解力試験

テキスト・教材（参考文献含む）

テキスト　各クラスで指示されたテキスト(各自で購入すること)
辞書等は各自で用意し、活用すると良い。

担当者から一言

「千里の道も一歩から」の気持ちを忘れないで、日々の積み重ねを大切にしましょう。
学修者のみなさんに力強いエールを送ります。４技能を意識し、総合的な英語力を高め、資格試験に挑戦し、各自の目標に応じた階梯に到達できるよう励みましょう。

基礎日本語Ⅰ

加納・角田・安田

科目ナンバリング	1年次	2単位
GEL9001	前学期	選択必修

授業の位置づけ

「語学科目」では英語を中心とした外国語を、幅広く学び、学部ごとに設置された専門教育課程に向けた学修(教養)を積み上げていきます。

授業のねらい

言語の四技能－読む、書く、聞く、話す－を学びながら、総合的な日本語能力を身につけます。この授業では特に大学の授業で必要となる専門用語や表現、レポートの書き方を学んでいきます。適切な専門用語や表現を用い、論理的でわかりやすいレポートの書き方を習得することを、この授業のねらいとします。また、加えて日本語能力試験対策の授業も行います。

到達目標

この授業では大学の授業で必要な専門語彙や表現、レポートの書き方の習得を中心に、大学の授業を理解し、授業に積極的に参加するために必要となる日本語能力を身につけることを、到達目標とします。
(※日本語能力試験Ｎ１レベルの語彙、文法を用いる)

成績評価方法･課題･フィードバックの方法

授業での積極性やレポート、小テスト（採点、添削後授業時に返却します)50％、期末試験50％。

事前・事後学習

Ｎ１向けの問題集や参考書などで語彙や文法を身につけておくこと。(30分)
毎日、継続的に新聞を読むこと。(30分)
事前に授業内容を調べ予習をしておくこと。(90分)
授業後は、内容を復習し、確実に学習した日本語語彙、表現を使えるようにしていくこと。(90分)

授 業 計 画

第１講　ガイダンス　レポート作成の基礎、読解、語彙①
第２講　レポート作成、読解、語彙②
第３講　レポート作成、読解、語彙③
第４講　レポート作成、読解、語彙④
第５講　能力試験対策模擬試験①、②
第６講　能力試験対策①(聴解、文字･語彙、文法、読解から)
第７講　能力試験対策②(聴解、文字･語彙、文法、読解から)
第８講　能力試験対策③(聴解、文字･語彙、文法、読解から)
第９講　能力試験対策④(聴解、文字･語彙、文法、読解から)
第10講　能力試験対策⑤(聴解、文字･語彙、文法、読解から)
第11講　能力試験対策⑥(聴解、文字･語彙、文法、読解から)
第12講　能力試験対策⑦(聴解、文字･語彙、文法、読解から)
第13講　レポート作成、読解、語彙⑤
第14講　レポート作成、読解、語彙⑥
第15講　レポート作成、読解、語彙⑦
定期試験
※Ｎ２クラスは学期を通してレポート作成も学習します。また、授業の進度および内容は状況により、若干変更する場合もあります。

テキスト・教材（参考文献含む）

『読解厳選テーマ10[中、中上級]』凡人社 清水
『日本語能力試験問題Ｎ１、２語彙 スピードマスター』 Ｊリサーチ出版 菊池
『日本語能力試験問題Ｎ１文法 スピードマスター』　〃 有田
『１回で合格 日本語能力試験 Ｎ２文法』ナツメ社 渡辺

担当者から一言

日本語学校やアルバイト先での日本語と大学で必要な日本語とは異なります。大学生に相応しい質の高い日本語が駆使できるよう、日頃から積極的に日本を話し、読み、書くことに心がけてください。なお、遅刻、授業中の中座、飲食、私語、携帯電話の使用は、原則禁止します。真面目な態度で受講するように心がけて下さい。

基礎日本語Ⅱ	科目ナンバリング	１年次	２単位
加納・角田・安田	GEL9002	後学期	選択必修

授業の位置づけ

「語学科目」では英語を中心とした外国語を、幅広く学び、学部ごとに設置された専門教育課程に向けた学修(教養)を積み上げていきます。

授業のねらい

言語の四技能－読む、書く、聞く、話す－を学びながら、総合的な日本語能力を身につけます。この授業では特に大学の授業で必要となる専門用語や表現、レポートの書き方を学んでいきます。適切な専門用語や表現を用い、論理的でわかりやすいレポートの書き方を習得することを、この授業のねらいとします。また、加えて日本語能力試験対策の授業も行います。

到達目標

この授業では大学の授業で必要な専門語彙や表現、レポートの書き方の習得を中心に、大学の授業を理解し、積極的に授業に参加するために必要となる日本語力を身につけることを、到達目標とします。(※日本語能力試験Ｎ１レベルの語彙、文法を用いる)

成績評価方法･課題･フィードバックの方法

授業での積極性やレポート、小テスト（採点、添削後授業時に返却します)50％、期末試験50％。

事前・事後学習

Ｎ１向けの問題集や参考書などで語彙や文法を身につけておくこと。(30分)
毎日、継続的に新聞を読むこと。(30分)
事前に授業内容を調べ予習をしておくこと(90分)
授業後は、内容を復習し、確実に学習した日本語語彙、表現を使えるようにしていくこと(90分)

授 業 計 画

第１講　ガイダンス　レポート作成、読解、語彙①
第２講　レポート作成、読解、語彙②
第３講　能力試験対策模擬試験①、②
第４講　能力試験対策①(聴解、文字･語彙、文法、読解から)
第５講　能力試験対策②(聴解、文字･語彙、文法、読解から)
第６講　能力試験対策③(聴解、文字･語彙、文法、読解から)
第７講　能力試験対策④(聴解、文字･語彙、文法、読解から)
第８講　能力試験対策⑤(聴解、文字･語彙、文法、読解から)
第９講　能力試験対策⑥(聴解、文字･語彙、文法、読解から)
第10講　能力試験対策⑦(聴解、文字･語彙、文法、読解から)
第11講　レポート作成、読解、語彙③
第12講　レポート作成、読解、語彙④
第13講　レポート作成、読解、語彙⑤
第14講　レポート作成、読解、語彙⑥
第15講　レポート作成、読解、語彙⑦
定期試験
※なお､Ｎ２クラスは学期を通してレポート作成の応用も学習します。
また、授業の進度および内容は状況により、若干変更する場合があります。

テキスト・教材（参考文献含む）

『読解厳選テーマ10[中、中上級]』凡人社 清水
『日本語能力試験問題Ｎ１、２語彙 スピードマスター』 Ｊリサーチ出版 菊池
『日本語能力試験問題Ｎ１文法 スピードマスター』 〃 有田
『１回で合格 日本語能力試験 Ｎ２文法』ナツメ社 渡辺

担当者から一言

日本語学校やアルバイト先での日本語と大学で必要な日本語とは異なります。大学生に相応しい質の高い日本語が駆使できるよう、日頃から積極的に日本を話し、読み、書くことに心がけてください。なお、遅刻、授業中の中座、飲食、私語、携帯電話の使用は、原則禁止します。真面目な態度で受講するように心がけて下さい。

英語コミュニケーションⅠ	科目ナンバリング	２年次	２単位
柴田啓文	GEL1003	前学期	選　択

授業の位置づけ

「語学科目」では英語を中心とした外国語を、幅広く学び、学部ごとに設置された専門教育課程に向けた学修(教養)を積み上げていきます。

授業のねらい

コンピュータやインターネットやスマートフォンを利用して、これまでとは異なった学び方で、英語の書く、聞く、話すの技能の伸ばします。これまで英語を学んできて英語を不得意だと感じるみなさんは、新しい勉強法で学んではどうでしょう？
例えば、スマートフォンやコンピュータの言語設定を英語にかえるだけでも英語力をのばせます。SiriやGoogle Assistantを英語で利用するだけでも会話力は増します。
この授業では、スマートフォンやコンピュータの使用法、プログラムを用いた勉強法の基礎を紹介します。

到達目標

１．よくつかう基本的な英語表現を習得する。
２．あいさつや自己紹介など基本的な英語表現を習得する。
３．英会話学習のためのスマートフォンやコンピュータやインターネットの基本的な使い方を習得する。

成績評価方法･課題･フィードバックの方法

平常点50％と学期末試験50％により評価します。平常点は､毎回のノート（主にExcelを利用）の提出や小テストなどによります。提出ノートや小テストおよび学期末試験の得点は教育システムのコース上の「評定」に表示します。

事前・事後学習

英語を話す、聞く時間に会話力、聴解力は比例します。日本語対して英語を話す、聞く時間の割合を高めることが学習のポイントです。少なくとも毎日日30分は英語を話す､あるいは聞くようにしてください。

授 業 計 画

第１回　ガイダンス：授業の内容と評価の説明、教育支援システムの登録。受講希望者が多ければ抽選。
第２回　教育支援システムの利用法。日常英会話とニュース動画とポップス(以降毎回)。機械翻訳の使用法。
第３回　PythonによるYoutube動画の字幕の翻訳と単語リストの作成。
第４回　英会話の基本と会話文リストの作成。
第５回　英会話の基本と会話文リストの作成。
第６回　リアクション動画の英語の基本。
第７回　リアクション動画の英語の基本。
第８回　ニュース英語の基本。
第９回　ニュース英語の基本。
第10回　ニュース英語の基本。
第11回　ドラマや映画の英語の基本。
第12回　ドラマや映画の英語の基本。
第13回　ドラマや映画の英語の基本。
第14回　ドラマや映画の英語の基本。
第15回　まとめ。

テキスト・教材（参考文献含む）

テキストは使用しません。インターネット上の英語関連情報や英語動画を利用します。

担当者から一言

Moodleを利用。コンピュータやスマートフォン､AIやプログラミング、およびインターネットに興味があり、これらを利用することにより英語の書く、聞く、話すの技能を高めたい学生の受講を期待します。

英語コミュニケーションⅠ	科目ナンバリング	２年次	２単位
ゴートン・リース	GEL1003	前学期	選　択

授業の位置づけ

「語学科目」では英語を中心とした外国語を、幅広く学び、学部ごとに設置された専門教育課程に向けた学修(教養)を積み上げていきます。

授業のねらい

The main overall goal of this course is for participants to improve their English listening and speaking skills. The text that will be utilized provides a framework for developing communication skills and increasing vocabulary.
この講座の狙いは学生の英語の基本的な技能であるリスニングとスピーキングを向上させることである。

到達目標

1．英語の聴解力と話す力を高める。
2．英語の語彙を増やす。
3．人の前で英語で話す自信を身につける。

成績評価方法･課題･フィードバックの方法

学習態度	15%
課題･小テスト	20%
スピーキングテスト･スキット（４）	40%
定期試験	25%

授業中もしくは授業後に寄せられた質問に対しては、適宜、授業内で回答していきます。

事前・事後学習

In addition to any homework assignments, after each class spend about 60 minutes reviewing the class handouts, textbook exercises and videos that were covered in the lesson. In addition, spend about 30 minutes reading ahead in the text and preparing for the following class.

授 業 計 画

1．Guidance, Greetings and Introductions
2．Greetings and Introductions
3．Greetings and Introductions- Introduction English Speaking Test 1- Round 1
4．Greetings and Introductions- Introduction English Speaking Test 1- Round 2
5．Good morning World- A New Host
6．Good Morning World- A New Host- スキット１
7．Self-introduction
8．Self-introduction
9．Self-introduction- Speaking Test 2
10. Countries and Nationalities
11. Countries and Nationalities
12. Countries and Nationalities
13. Activities and Interests- Meet Kim-
14. Activities and Interests- Meet Kim- スキット２
15. Review and test preparation
定期試験

テキスト・教材（参考文献含む）

World Link Combo Split Intro A with Online Practice + e-Book（1 year access）　￥2,700（￥2,970税込）
英語コミュニケーションⅠとⅡのテキストは同じ。

担当者から一言

対面授業を予定している。しかし、新型コロナウイルスの感染状況によって、担当教員の判断でオンデマンド型授業に変えることがある。テキストにオンラインワークブックがついている。オンラインワークブックがないテキストを買うと授業に参加が不可。５回以上欠席すると単位なし。履修者が20名を超えた場合は抽選あり。

英語コミュニケーションⅠ	科目ナンバリング	２年次	２単位
樋口晶子	GEL1003	前学期	選　択

授業の位置づけ

「語学科目」では英語を中心とした外国語を、幅広く学び、学部ごとに設置された専門教育課程に向けた学修(教養)を積み上げていきます。

授業のねらい

初級レベルの英語によるコミュニケーション能力の習得を目標に、スピーキング･リスニング･リーディングに力を入れます。ペアワークを多く行い、勇気を出して積極的に話すと同時に、人の話を聞く姿勢を身につけることをめざします。
日常的に英語に触れることを目的として、毎回、課題と小テストを行います。

到達目標

1．英語の簡単な表現などを確実に身につける。
2．下手でもよいので、英語で積極的に自分の意見を述べ、自分と異なる意見を聞く姿勢を身につける。

成績評価方法･課題･フィードバックの方法

学習態度	25%
小テスト	25%
課題	25%
定期試験	25%

事前・事後学習

毎回、課題と小テストがあります。
1　事前学習：小テストの準備(30分)、授業内容の予習(40分)、単語学習(20分)
2　事後学習：課題(30分)、授業内容の復習(40分)、単語学習(20分)

授 業 計 画

第１講　ガイダンス
　　Unit 1 What is Important to You?(2-1)
第２講　Unit 1 What is Important to You?(2-2)
第３講　Unit 2 My Morning Routine(2-1)
第４講　Unit 2 My Morning Routine(2-2)
第５講　Unit 3 Your Recommended Restaurant(2-1)
第６講　Unit 3 Your Recommended Restaurant(2-2)
第７講　Unit 4 The Best Film Ever(2-1)
第８講　Unit 4 The Best Film Ever(2-2)
第９講　Unit 5 What is a True Friend?(2-1)
第10講　Unit 5 What is a True Friend?(2-2)
第11講　Unit 6 The Best Pizza in Town(2-1)
第12講　Unit 6 The Best Pizza in Town(2-2)
第13講　Unit 7 An Ideal Private Tour Plan(2-1)
第14講　Unit 7 An Ideal Private Tour Plan(2-2)
第15講　Unit 8 Useful Apps for Your Smartphone
定期試験

テキスト・教材（参考文献含む）

テキスト:『SPEAKING STEPS』（金星堂）
参考文献:英単語学習のための問題集
　　『英単語の語源図鑑』（かんき出版)、『英検でる順パス単』（旺文社)など自分の好きなものでよいです。

担当者から一言

参加型の授業です。コミュニケーション（相互意思疎通）する気持ちを自分から示し、積極的に発言することを受講条件とします。

英語コミュニケーションⅡ	科目ナンバリング	２年次	２単位
柴田啓文	GEL1004	後学期	選　択

授業の位置づけ

「語学科目」では英語を中心とした外国語を、幅広く学び、学部ごとに設置された専門教育課程に向けた学修(教養)を積み上げていきます。

授業のねらい

コンピュータやインターネットやスマートフォンを利用して、これまでとは異なった学び方で、英語の書く、聞く、話すの技能の伸ばします。これまで英語を学んできて英語を不得意だと感じるみなさんは、新しい勉強法で学んではどうでしょう？

例えば、Youtubeを使用したり、SiriやGoogle Assistantによる発話練習や自作スマート・ボイスによる英語練習などいろいろな新しい学び方があります。

この授業では、スマートフォンやコンピュータの使用法、プログラムを用いた勉強法を紹介します。

到達目標

1．よくつかう英会話表現を習得する。
2．あいさつや自己紹介、関心のある事柄についての英語表現を習得する。
3．英会話学習のためのスマートフォンやコンピュータやインターネットの使い方を習得する。

成績評価方法･課題･フィードバックの方法

平常点50％と学期末試験50％により評価します。平常点は､毎回のノート（主にExcelを利用）の提出や小テストなどによります。提出ノートのや小テストおよび学期末試験の得点は教育システムのコース上の｢評定｣に表示します。

事前・事後学習

英語を話す、聞く時間に会話力、聴解力は比例します。日本語対して英語を話す、聞く時間の割合を高めることが学習のポイントです。少なくとも毎日日30分は英語を話す､あるいは聞くようにしてください。

授 業 計 画

第１回　ガイダンス：授業の内容と評価の説明、教育支援システムの登録。受講希望者が多ければ抽選。
第２回　教育支援システムの利用法。日常英会話とニュース動画とポップス(以降毎回)。機械翻訳の使用法。
第３回　PythonによるYoutube動画の字幕の翻訳と単語リストの作成。
第４回　自己表現英語文リストの作成１。
第５回　自己表現英語文リストの作成２。
第６回　リアクション動画の英語１。
第７回　リアクション動画の英語２。
第８回　ニュース英語１。
第９回　ニュース英語２。
第10回　ニュース英語３。
第11回　ドラマや映画の英語１。
第12回　ドラマや映画の英語２。
第13回　ドラマや映画の英語３。
第14回　ドラマや映画の英語４。
第15回　まとめ。

テキスト・教材（参考文献含む）

テキストは使用しません。インターネット上の英語関連情報や英語動画を利用します。

担当者から一言

Moodleを利用。コンピュータやスマートフォン､AIやプログラミング、およびインターネットに興味があり、これらを利用することにより英語の書く、聞く、話すの技能を高めたい学生の受講を期待します。

英語コミュニケーションⅡ	科目ナンバリング	２年次	２単位
ゴートン・リース	GEL1004	後学期	選　択

授業の位置づけ

「語学科目」では英語を中心とした外国語を、幅広く学び、学部ごとに設置された専門教育課程に向けた学修(教養)を積み上げていきます。

授業のねらい

This course is a continuation of 英語コミュニケーション I. The main overall goal of this course is for participants to improve their English listening and speaking skills. The textbook for this course utilizes DVD video .

この講座の狙いは学生の英語の基本的な技能であるリスニングとスピーキングを向上させること。

到達目標

1．英語の聴解力と話す力を高める。
2．英語の語彙を増やす。
3．人の前で英語で話す自信を身につける。

成績評価方法･課題･フィードバックの方法

学習態度	20％
課題･小テスト	30％
スピーキング･テスト（２）	30％
定期試験	20％

授業中もしくは授業後に寄せられた質問に対しては、適宜、授業内で回答していきます。

事前・事後学習

In addition to any homework assignments, after each class try and spend about 60 minutes reviewing the class handouts, textbook exercises and videos that were covered in the lesson. In addition, spend about 30 minutes reading ahead in the text and preparing for the following class.

授 業 計 画

1．Guidance/ Talking about the past/ "How was your vacation?"
2．Talking about the past/"How was your vacation?"
3．"How was your vacation?" - Speaking Test #1
4．Unit 3- Possesions- Lesson A- Gifts
5．Unit 3- Possesions- Lesson B- Important items
6．Unit 4- Activities- Lesson A- What are you doing?
7．Unit 4- Activities- Lesson B- At school
8．小テスト
9．Unit 5 - Food- Lesson A- What's on the menu?
10. Unit 5- Food- Lesson B- Eating right?
11. "My favorite restaurant speech"- Speaking Test #2
12. "How the Grinch Stole Christmas"
13. "How the Grinch Stole Christmas"
14. Unit 6- Relationships- Lesson A- Family
15. Unit 6- Relationships- Lesson B- Marriage
定期試験

テキスト・教材（参考文献含む）

World Link Combo Split Intro A with Online Practice + e-Book（1 year access）2,970 yen(税込)
英語コミュニケーショ　ンⅠとⅡのテキストは同じ。

担当者から一言

対面授業を予定している。しかし、新型コロナウイルスの感染状況によって、担当教員の判断でオンデマンド型授業に変えることがある。テキストにオンラインワークブックがついている。オンラインワークブックがないテキストを買うと授業に参加が不可。５回以上欠席すると単位なし。履修者が20名を超えた場合は抽選あり。

英語コミュニケーションⅡ	科目ナンバリング	２年次	２単位
樋口晶子	GEL1004	後学期	選　択

授業の位置づけ

「語学科目」では英語を中心とした外国語を、幅広く学び、学部ごとに設置された専門教育課程に向けた学修(教養)を積み上げていきます。

授業のねらい

「英語コミュニケーションⅠ」を継続し、初級レベルの英語によるスピーキング・リスニング・リーディング能力の向上をめざします。ペアワークを多く行い、勇気を出して積極的に話すと同時に他者の意見を聞き、共に考える姿勢を学びます。

日常的に英語に触れることを目的として、毎回、課題と小テストを行います。

到達目標

1．英語の簡単な表現などを確実に身につけ、簡単な受け答えができる。
2．下手でもよいので英語で積極的に自分の意見を述べ、自分と異なる意見の相手と交渉する姿勢を身につける。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法

学習態度　25%
小テスト　25%
課題　　25%
定期試験　25%

事前・事後学習

毎回、課題と小テストがあります。
1　事前学習：小テストの準備(30分)、授業内容の予習(40分)、単語学習(20分)
2　事後学習：課題(30分)、授業内容の復習(40分)、単語学習(20分)

授 業 計 画

第１講　ガイダンス
　　Unit 8 Useful Apps for Your Smartphone
第２講　Unit 9 A Proposal for New Flavors(2-1)
第３講　Unit 9 A Proposal for New Flavors(2-2)
第４講　Unit 10 A Great Figure in the Business World(2-1)
第５講　Unit 10 A Great Figure in the Business World(2-2)
第６講　Unit 11 Cheese for Uncle David -Comedy-(2-1)
第７講　Unit 11 Cheese for Uncle David -Comedy-(2-2)
第８講　Unit 12 The Babysitter #1 -Horror-(2-1)
第９講　Unit 12 The Babysitter #1 -Horror-(2-2)
第10講　Unit 13 The Babysitter #2 -Horror-(2-1)
第11講　Unit 13 The Babysitter #2 -Horror-(2-2)
第12講　Unit 14 Unsent Letter #1 -Romance-(2-1)
第13講　Unit 14 Unsent Letter #1 -Romance-(2-2)
第14講　Unit 15 Unsent Letter #2 -Romance-(2-1)
第15講　Unit 15 Unsent Letter #2 -Romance-(2-2)
定期試験

テキスト・教材（参考文献含む）

テキスト:『SPEAKING STEPS』（金星堂）
参考文献:英単語学習のための問題集
　　『英単語の語源図鑑』（かんき出版)、『英検でる順パス単』（旺文社)など自分の好きなものでよいです。

担当者から一言

参加型の授業です。コミュニケーション（相互意思疎通）する気持ちを自分から示し、積極的に発言することを受講条件とします。

中国語Ⅰ	科目ナンバリング	２年次	２単位
加納　光	GEL1005	前学期	選　択

授業の位置づけ

「語学科目」では英語を中心とした外国語を、幅広く学び、学部ごとに設置された専門教育課程に向けた学修(教養)を積み上げていきます。

授業のねらい

この授業では、「音声」「語彙」「文法」「表現」の各分野における基礎学習を通し、中国語の基礎的な運用能力を養成します。学期の前半は、主に「音声面」に重点を置き、声調（高低アクセント）と400余りの音節を正しく発音できるようにします。それを踏まえ、学期の後半から中国語の初級レベルの「語彙」「文法」「表現」を学習します。言語事情のほか、中国の社会や文化に関する解説も行い、中国および中国語に対する理解を深めることが、この授業のねらいです。なお、中国語母語話者の受講はできません。

到達目標

この授業では、言語活動の中心をなす「話す」「聴く」「読む」の三要素の反復練習に多くの時間を費やしながら、中国語の基礎をしっかりと身につけていきます。簡単な日常会話を話すことのできる初級レベルの語学力の習得を、この授業の到達目標とします。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法

①定期試験60% ②小テスト20% ③課題、宿題(評価した後返却します)20%により総合的に評価します。

事前・事後学習

毎回与えられる復習(90分)、予習(90分)のための課題や宿題を欠かさずに行い、中国語の基礎を着実に固めていってください。

授 業 計 画

第１講　ガイダンス、授業の概要、中国語概要１
第２講　中国語概要２、中国概況１
第３講　声調(４)と単母音(７)の発音、概況２
第４講　複合母音(13)の発音、概況３
第５講　鼻母音(16)の発音、概況４
第６講　子音(21)の発音、概況５
第７講　発音、表記上の規則、概況６
第８講　発音のまとめ、小テスト、概況７
第９講　どうぞよろしく(point１～４)、概況８
第10講　お名前は(point１～４)、概況９
第11講　ご出身は(point１～４)、概況10
第12講　飲み物は(point１～４)、概況11
第13講　おいくつ(point１～４)、概況12
第14講　和食はいかが(point１～４)、概況13
第15講　復習、概況14
定期試験

注　授業内容、進度については、状況に応じて変更することもあります。毎回の発音・表現練習には積極的にチャレンジしてください。

テキスト・教材（参考文献含む）

1)教材：相原茂他『日中いぶこみ交差点(エッセンシャル版)』（朝日出版社)2,400円＋税
2)参考書:『WHY？に答えるはじめての中国語の文法書』（相原茂）
3)辞書:『簡約現代中国語辞典』（光生館）

担当者から一言

初めて学ぶ外国語です。旺盛な知的好奇心を持って授業に臨んでください。予習。復習を欠かさないようにしてください。遅刻、授業中の私語、中座、居眠りなどは、原則禁止します。

中国語Ⅰ

科目ナンバリング	２年次	２単位
GEL1005	前学期	選　択

吉山青翔

授業のねらい

本講義は中国語をゼロから始める中国語初心者に向け、国連など国際会議で公用語と指定されている中国語の標準語（＝普通話）の基本発音・基本文法・基本語彙・基本文型と、中国語日常会話の基本的なスキル、及び中国文化との一体化的な中国語学習を目指します。

到達目標

中国語の門に入り、より中国語を学ぶための基礎を据えることができるでしょうし、そして、国際感覚の養成にも役に立つでしょう。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法

平常授業中に行われる書き取りテスト（40点）（採点後返却し、フィードバックします。）・会話練習などの出来具合と期末定期試験（60点）の出来具合により総合評価。

事前・事後学習

授業前に90分ほどをかけて予習しておき、授業後にも90分ほどをかけて復習してください。そうしなければ、授業についていけません。

授業の位置づけ

「語学科目」では英語を中心とした外国語を、幅広く学び、学部ごとに設置された専門教育課程に向けた学修(教養)を積み上げていきます。

授 業 計 画

第１講　ガイダンス、中国語と日本語の相違点
第２講　中国語発音１、あいさつの表現１
第３講　復習と小テスト、中国語発音２、あいさつの表現２
第４講　復習と小テスト、中国語発音復習、中国語による唐詩鑑賞
第５講　中国語人称代名詞、語順、「Yes/No式疑問文」、「是」の用法
第６講　復習と小テスト、会話「我是日本人」（私は日本人です）
第７講　中国語の「Wh式疑問文１」、「什么」、名前の名乗りかたと尋ねかた
第８講　復習と小テスト、会話「我姓小林」（小林と申します）
第９講　中国語の指示代名詞、動詞述語文、「的・都・也」の用法
第10講　復習と小テスト、会話「妈妈也是老师」（母親も教師です）
第11講　中国語の「Wh式疑問文２」「動詞否定表現」、「打算」「想」「喜欢」の用法
第12講　復習と小テスト、会話「你想不想吃蛋糕」（ケーキを食べたくありませんか）
第13講　中国語の数詞量詞表現、年齢の言い方、「有」の用法
第14講　復習と小テスト、会話「我今年十九岁，有一个弟弟」
第15講　総括

テキスト・教材（参考文献含む）

テキスト
相原茂他『日中いぶこみ交差点』（朝日出版社、2019年）
参考文献
王青翔（＝吉山青翔）・栄隈真人司共著『徹底復習式　きょう忘れてもあした覚える　実用中国語』（東洋書店、2013年）

担当者から一言

本講義では、平常授業中、ほぼ毎回書き取りテストを行い、会話暗記などの課題を課しますので、よく考えた上で、受講登録してください。必ずテキストを用意してください。

中国語Ⅱ

科目ナンバリング	２年次	２単位
GEL1006	後学期	選　択

加納　光

授業のねらい

この授業は中国語Ⅰを継続するものです。中国語Ⅰと同様、「書く」「聞く」「話す」の反復練習を通して、中国語の基礎学力の習得を目指します。また、引き続き、中国語初級文法の学習を進め、中国語の基礎固めをしていきます。

コミュニケーション能力の向上を目指し、初級語彙および初級文法を取り入れた会話練習に多く時間を割く予定です。中国語に対する理解をさらに深め、中国語の運用能力に磨きをかけることを、この授業のねらいとします。なお、中国語母語話者の受講はできません。

到達目標

中国語の初級レベルの内容を理解し、それを書いたり、話したりすることができるようになることが、この授業の達成目標です。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法

学期末試験60％、小テスト20％、課題、宿題（採点後返却します）20％をもとにして、総合的に評価します。

事前・事後学習

授業の予習、復習、課題、宿題は必ず行ってください（予習90分＋復習90分）。
加えて日頃から、中国語を聴いたり、話したりするように心がけてください（毎日30分以上）。

授業の位置づけ

「語学科目」では英語を中心とした外国語を、幅広く学び、学部ごとに設置された専門教育課程に向けた学修(教養)を積み上げていきます。

授 業 計 画

「中国語Ⅰ」からの継続
第１講：ガイダンス、授業の概要、家庭訪問（１）
第２講：家庭訪問（２）、買い物（１）
第３講：買い物（２）、道案内（１）
第４講：道案内（２）、中秋節（１）
第５講：中秋節（２）、食事の前は（１）
第６講：食事の前は（２）、第１～５講の復習（１）
第７講：第１～５講の復習（２）
第８講：手作り料理（１）
第９講：手作り料理（２）、カニの季節（１）
第10講：カニの季節（２）、スキー場で（１）
第11講：スキー場で（２）、おみやげ（１）
第12講：おみやげ（２）、空港まで（１）
第13講：空港まで（２）、第６～12講の復習（１）
第14講：第６～12の復習（２）
第15講：総復習とまとめ
定期試験
注　授業内容、進度はクラスの状況に応じて、変更する場合があります。毎回実施する、発音、会話練習には積極的にチャレンジしてください。

テキスト・教材（参考文献含む）

１）教　材：『日中いぶこみ交差点　エッセンス版』（朝日出版社）、相原茂　他
２）副教材：『中国語の文法書』（同学社）
３）辞　書：『中国語辞典』（光生館）
４）参考書：『中国語はじめの一歩』（ちくま新書）

担当者から一言

予習、復習を欠かさないようにして積極的に講義に臨んでください。常に旺盛な勉学意欲を忘れずに、中国、中国語に対する興味、関心を持ち続けていってください。なお、授業中の私語、中座は原則禁止します。

中国語Ⅱ

科目ナンバリング	2年次	2単位
GEL1006	後学期	選　択

吉山青翔

授業の位置づけ

「語学科目」では英語を中心とした外国語を、幅広く学び、学部ごとに設置された専門教育課程に向けた学修(教養)を積み上げていきます。

授業のねらい

本講義は中国語の入門編ではなく、すでに中国語の入門程度の知識を修得した学習者に向け、前学期で開講した「中国語Ⅰ」に続き、基礎中国語の学習を展開します。

到達目標

前学期の「中国語Ⅰ」と合わせて履修すれば、中国語をより学ぶための文法的な基礎と中国語会話の基本的なスキルを身につけることができるでしょう。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法

平常授業中に行われる書き取りテスト（40）（採点後返却し、フィードバックします。）・会話練習などの出来具合と期末定期試験（60点）の出来具合により総合評価。

事前・事後学習

授業前に90分ほどをかけて予習しておき、授業後にも90分ほどをかけて復習してください。そうしなければ、授業についていけません。

授 業 計 画

第１講　ガイダンス、中国語Ⅰの復習
第２講　中国語の選択疑問文、形容詞述語文、動詞過去経験表現、「还是」の用法
第３講　復習と小テスト、会話「你吃过日本料理吗」
第４講　中国語述術文、比較の表現、助動詞「要」の用法、前置詞「跟」の用法
第５講　復習と小テスト、会話「你比照片漂亮」
第６講　中国語助動詞「可以」、動詞の重ね型、方向補語、連動文、お金の言い方
第７講　復習と小テスト、会話「这个多少钱」
第８講　中国語の動作の完了実現表現「了」、前置詞「从」「得」「在」の用法
第９講　復習と小テスト、会話「去北京站怎么走」
第10講　中国語年月日曜日の言い方、状態変化と新事態発生の表現
第11講　復習と小テスト、会話「今天几月几号」
第12講　中国語辞書の使い方
第13講　中国語総合チャレンジ「閲覧と翻訳」1　ユーモア：「助听器」「二十年后的我」
第14講　中国語総合チャレンジ「閲覧と翻訳」2漫画：「考试」「外面吃」
第15講　総復習

テキスト・教材（参考文献含む）

テキスト
　相原茂他『日中いぶこみ交差点』（エッセンシャル版）（朝日出版社、2019年）
参考資料
　王青翔（＝吉山青翔）・栄隈真人司共著『徹底復習式　きょう忘れてもあした覚える　実用中国語』（東洋書店、2013年）

担当者から一言

本講義では平常授業中にほぼ毎回書き取りテストを行い、会話など暗記課題を課しますので、よく考えた上で、受講登録してください。必ずテキストを用意してください。

ポルトガル語Ⅰ

科目ナンバリング	2年次	2単位
GEL1007	前学期	選　択

フェリペ・フェハーリ

授業の位置づけ

「語学科目」では英語を中心とした外国語を、幅広く学び、学部ごとに設置された専門教育課程に向けた学修(教養)を積み上げていきます。

授業のねらい

日本は、1895年にブラジルと外交関係を樹立しましたが、ポルトガル人は1543年に初めて日本に上陸したので、日伯関係（日本－ブラジル間の交流関係）の歴史は450年以上に渡ると言えます。現在、ブラジルには世界最大の日系人居住地（約150万の日系ブラジル人がいます）です。同時に、日本には約20万人のブラジル人が住んでおり、ここ東海地方には多くの集住地域があることから、教育、医療や企業分野においてポルトガル語に対する関心が高まっています。

到達目標

ポルトガル語の発音を習得し、すぐにでも実践の場で生かせるような平易な会話能力を身につけ、ポルトガル語話者とコミュニケーションが出来ること。
ポルトガル語話者への理解を深めるために、同言語圏の社会、歴史、習慣など背景知識について学び、異文化受容の態度を育むこと。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法

受講態度:30%
小テスト:20%
定期試験:50%

事前・事後学習

毎回の講義で配布した資料をしっかり読んで、授業で出された課題や宿題を行う（毎週約60分）。

授 業 計 画

第１講　ガイダンス
第２講　アルファベットと発音
第３講　挨拶と自己紹介
第４講　名詞の性と数
第５講　冠詞と数字
第６講　ser動詞（１）
第７講　ser動詞（２）
第８講　所有表現（１）
第９講　所有表現（２）
第10講　所有表現（３）
第11講　gostar動詞
第12講　規則動詞（１）
第13講　規則動詞（２）
第14講　規則動詞（３）
第15講　まとめ

テキスト・教材（参考文献含む）

Vamos falar português! Edição Revisada『ブラジルポルトガル語を話そう！改訂版』
重松由美・瀧藤千恵美・Felipe Ferrari（朝日出版社）
（2,300円＋税）ISBN 978-4-255-55505-8

担当者から一言

ポルトガル語を勉強しながら、他国の文化を楽しく学びましょう！

ポルトガル語Ⅱ

フェリペ・フェハーリ

科目ナンバリング	２年次	２単位
GEL1008	後学期	選　択

授業のねらい

本授業は前学期の「ポルトガル語Ⅰ」の続きです。日本は、1895年にブラジルと外交関係を樹立しましたが、ポルトガル人は1543年に初めて日本に上陸したので、日伯関係（日本－ブラジル間の交流関係）の歴史は450年以上に渡ると言えます。現在、ブラジルには世界最大の日系人居住地（約150万の日系ブラジル人がいます）です。同時に、日本には約20万人のブラジル人が住んでおり、ここ東海地方には多くの集住地域があることから、教育、医療や企業分野においてポルトガル語に対する関心が高まっています。

到達目標

ポルトガル語の発音を習得し、すぐにでも実践の場で生かせるような平易な会話能力を身につけ、ポルトガル語話者とコミュニケーションが出来ること。

ポルトガル語話者への理解を深めるために、同言語圏の社会、歴史、習慣など背景知識について学び、異文化受容の態度を育むこと。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法

受講態度:30％
小テスト:20％
定期試験:50％

事前・事後学習

毎回の講義で配布した資料をしっかり読んで、授業で出された課題や宿題を行う（毎週約60分）。

授業の位置づけ

「語学科目」では英語を中心とした外国語を、幅広く学び、学部ごとに設置された専門教育課程に向けた学修（教養）を積み上げていきます。

授 業 計 画

第１講　前期の総合復習
第２講　前置詞
第３講　不規則動詞:ir
第４講　不規則動詞:terとfazer
第５講　不規則動詞:poder
第６講　不規則動詞:querer
第７講　estar動詞
第８講　ser動詞とestar動詞の違い
第９講　現在分詞と現在進行形
第10講　規則動詞の過去形（１）
第11講　規則動詞の過去形（２）
第12講　規則動詞の過去形（３）
第13講　様々な表現（１）
第14講　様々な表現（２）
第15講　まとめ
定期試験

テキスト・教材（参考文献含む）

Vamos falar português! Edição Revisada『ブラジルポルトガル語を話そう！改訂版』
重松由美・瀧藤千恵美・Felipe Ferrari（朝日出版社）
（2,300円＋税）ISBN 978-4-255-55505-8

担当者から一言

ポルトガル語を勉強しながら、他国の文化を楽しく学びましょう！

海外語学研修ａ（英語）

武藤和成

科目ナンバリング	２年次	２単位
GEL1009	後学期	選　択

授業のねらい

平時であれば、春季・夏季の休業期間を活用し、海外で語学の研修を実施します。

コロナ禍で海外研修が実施できない場合は、国内の英語施設での集中的な英語合宿を考慮します。

大学、語学学校、語学施設においての集中した研修によって、短期間で実感できる英語力と異文化理解力の向上をめざします。

１年生も参加はできますが、単位が認定されるのは２年生以上に限られます。

到達目標

1　異文化を体感することにより、異文化への興味・関心を深め、異文化理解力を高めます。
2　英語によるコミュニケーション能力を高めます。
3　総合的な英語力を高めます。
4　国際的な親交を深める機会とします。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法

評価
1　事前指導、面接、現地での参加姿勢・内容、現地スタッフの評価、帰国後のレポート等により総合的に評価します。
課題
1　ガイダンス、事前指導（プリント教材を含む）、研修後のレポート、現地での学校によって課せられるものがすべて課題となります。
フィードバック
1　語学の習得度は経験によって飛躍的に向上します。事前、現地、そして事後の継続学習によって「英語」の活用能力を飛躍的に向上させましょう。

事前・事後学習

事前学習
1　渡航先の地理、政治、経済、歴史、文化、生活様式等について毎日研究、確認をしましょう。
2　英語のテキストを毎日学修しましょう。
3　英会話の番組、英語のDVDを利用し、楽しみを根底にして毎日１時間前後英語で耳、脳、口、目を鍛えましょう。
事後学習
1　研修で感じたことを起点に、英語力を高めましょう。
2　より良き世界市民の一員になることを自覚し、成長しましょう。

授業の位置づけ

「語学科目」では英語を中心とした外国語を、幅広く学び、学部ごとに設置された専門教育課程に向けた学修（教養）を積み上げていきます。

授 業 計 画

1　平時の場合の説明会実施予定（夏季研修は４月　春季研修は９月）
2　希望者への面接（研修参加目的等を深めます）
3　参加申し込みの確認（参加申込書提出　手配開始）
4　ガイダンス（事前指導　日常会話の特別講座）
5　現地校での研修
6　帰国後のレポート提出（帰国後に研修内容に関わったレポートを提出します）
7　単位認定（研修中の参加態度とレポートによって単位を認定します）

2022年度は実施しません。

テキスト・教材（参考文献含む）

渡航先の大学や語学学校で配布されるテキストを用います。

担当者から一言

「健康」、「人としてのマナー」、「学修・研究」、「危機管理」を自分に課せられたテーマとして捉え、熱い気持ちと期待感を持って海外語学研修に参加して下さい。

日本語中級Ⅰ

伊藤・加納・角田・安田

科目ナンバリング	2年次	2単位
GEL9003	前学期	選　択

授業のねらい

言語の四技能―読む、書く、聞く、話すーを学びながら、総合的な日本語能力を身につけていきます。特にこの授業では、与えられたテーマについて、多様な観点から検討、分析を加え、それをもとに議論をしたり、発表したりすることのできる日本語能力の養成をそのねらいとします。

到達目標

この授業では、日本社会に対する理解を深めるとともに、与えられたさまざまなテーマについて、多様な観点から検討、分析を加え、その結果をもとにして議論をしたり、自分の考えを発表したりする日本語コミュニケーション能力の習得を到達目標とします。
（＊日本語能力試験Ｎ１レベルの語彙、文法を用いる）

成績評価方法･課題･フィードバックの方法

授業での積極性や発表、議論、小テスト（採点後返却します）50％、期末試験50％。

事前・事後学習

授業で扱うテーマについて、事前に新聞やニュースなどで関連記事を読んだり、学内外の日本人や留学生と話し合うなどして、授業に臨む十分な準備をおこなっておくこと（90分）。授業後は、講義内容を振り返り、問題点や不明点などについてもう一度調べ直し、自分の考えをしっかりまとめておくこと(90分)。

授業の位置づけ

「語学科目」では英語を中心とした外国語を、幅広く学び、学部ごとに設置された専門教育課程に向けた学修(教養)を積み上げていきます。

授 業 計 画

第１講　合同ガイダンス(クラス分け日本語テストも含む)
第２講　日本を知る　議論、発表①　語彙学習①
第３講　日本を知る　議論、発表②　語彙学習②
第４講　日本を知る　議論、発表③　語彙学習③
第５講　日本を知る　議論、発表④　語彙学習④
第６講　日本を知る　議論、発表⑤　語彙学習⑤
第７講　日本を知る　議論、発表⑥　語彙学習⑥
第８講　日本を知る　議論、発表⑦　語彙学習⑦
第９講　日本を知る　議論、発表⑧　語彙学習⑧
第10講　日本を知る　議論、発表⑨　語彙学習⑨
第11講　日本を知る　議論、発表⑩　語彙学習⑩
第12講　日本を知る　議論、発表⑪　語彙学習⑪
第13講　日本を知る　議論、発表⑫　語彙学習⑫
第14講　日本を知る　議論、発表⑬　語彙学習⑬
第15講　日本を知る　議論、発表⑭　語彙学習⑭　まとめ
定期試験
＊授業の進度および内容はクラスの状況により、若干変更する場合があります。日本語能力試験のための文法、語彙、文型などについても必要に応じて学習していきます。

テキスト・教材（参考文献含む）

『日本語能力試験問題集 Ｎ１（Ｎ２）読解 スピードマスター』Ｊリサーチ出版　菊池富美子 ほか著『日本語能力試験問題集 Ｎ１（Ｎ２）語彙 スピードマスター』Ｊリサーチ出版　菊池富美子 ほか著
その他各クラスの担当者が適宜、指示を出します。

担当者から一言

コミュニケーション能力の向上を目指して積極的に発言してください。また、他人の意見をしっかりと聞く姿勢も忘れないようにしてください。なお、遅刻、授業中の中座、飲食、私語、必要時以外の携帯の使用などは、原則禁止します。真剣な授業への参加を期待します。

日本語中級Ⅱ

加納・角田・安田

科目ナンバリング	2年次	2単位
GEL9004	後学期	選　択

授業のねらい

言語の四技能―読む、書く、聞く、話すーを学びながら、総合的な日本語能力を身につけていきます。特にこの授業では、与えられたテーマについて、多様な観点から検討、分析を加え、それをもとに議論をしたり、発表したりすることができる日本語能力の養成が、授業のねらいす。

到達目標

この授業では、日本社会に対する理解を深めるとともに、与えられたさまざまなテーマについて、多様な観点から検討、分析を加え、その結果をもとに議論をしたり、自分の考えを発表したりすることのできる日本語のコミュニケーション能力の習得が到達目標です。
（＊日本語能力試験Ｎ１レベルの語彙、文法を用いる）

成績評価方法･課題･フィードバックの方法

授業での積極性や発表、議論、小テスト（採点後返却します）50％、期末試験50％。

事前・事後学習

授業で扱うテーマについて、事前に新聞やニュースなどで関連記事を読んだり、学内外の日本人や留学生と話し合うなどして、授業に臨む十分な準備をおこなっておくこと（90分）。授業後は、講義内容を振り返り、問題点や不明点などについてもう一度調べ直し、自分の考えをしっかりまとめておくこと(90分)。

授業の位置づけ

「語学科目」では英語を中心とした外国語を、幅広く学び、学部ごとに設置された専門教育課程に向けた学修(教養)を積み上げていきます。

授 業 計 画

第１講　合同ガイダンス(クラス分け日本語テストも含む)
第２講　日本を知る　議論、発表①　語彙学習①
第３講　日本を知る　議論、発表②　語彙学習②
第４講　日本を知る　議論、発表③　語彙学習③
第５講　日本を知る　議論、発表④　語彙学習④
第６講　日本を知る　議論、発表⑤　語彙学習⑤
第７講　日本を知る　議論、発表⑥　語彙学習⑥
第８講　日本を知る　議論、発表⑦　語彙学習⑦
第９講　日本を知る　議論、発表⑧　語彙学習⑧
第10講　日本を知る　議論、発表⑨　語彙学習⑨
第11講　日本を知る　議論、発表⑩　語彙学習⑩
第12講　日本を知る　議論、発表⑪　語彙学習⑪
第13講　日本を知る　議論、発表⑫　語彙学習⑫
第14講　日本を知る　議論、発表⑬　語彙学習⑬
第15講　日本を知る　議論、発表⑭　語彙学習⑭　まとめ
定期試験
＊授業の進度および内容はクラスの状況により、若干変更する場合があります。日本語能力試験のための文法、語彙、文型などについても必要に応じて学習していきます。

テキスト・教材（参考文献含む）

『日本語能力試験問題集 Ｎ１（Ｎ２）読解 スピードマスター』Ｊリサーチ出版　菊池富美子 ほか著『日本語能力試験問題集 Ｎ１（Ｎ２）語彙 スピードマスター』Ｊリサーチ出版　菊池富美子 ほか著
その他各クラスの担当者が適宜、指示を出します。

担当者から一言

コミュニケーション能力の向上を目指し､積極的に発言してください。また､他人の意見をしっかり聞くことも忘れないようにしてください。なお、遅刻、授業中の中座、飲食、私語、必要時以外の携帯の使用などは、原則禁止します。真剣な授業への参加を期待します。

日本語上級Ⅰ	科目ナンバリング	３年次	２単位
伊藤・加納・角田・安田	GEL9005	前学期	選　択

授業のねらい

言語の四技能―読む、書く、聞く、話すーを学びながら、総合的な日本語能力を身につけていきます。特にこの授業では、新聞やインターネットなどの情報をもとに、より高度な読解能力を身につけることを、そのねらいとします。また、就職後に役立つ日本語の応用能力も高めていきます。

到達目標

この授業では、雑誌、新聞、インターネットなどのより高度な情報を読み、その内容が理解できるようになることを、到達目標とします。
（＊日本語能力試験Ｎ１レベルの語彙、文法を用いる）

成績評価方法･課題･フィードバックの方法

授業での積極性や発表、議論、小テスト（採点後返却します）50％、期末試験50％。

事前・事後学習

授業で扱う新聞記事やインターネットニュースなどについて、事前に内容を確認したり、関連記事を読んでおくようにするなど、授業に臨むにあたり十分な準備をおこなうこと（90分）。授業後は、内容を振り返り、問題点や不明点などをもう一度調べ直し、理解を深めておくこと（90分）。

授業の位置づけ

「語学科目」では英語を中心とした外国語を、幅広く学び、学部ごとに設置された専門教育課程に向けた学修(教養)を積み上げていきます。

授 業 計 画

第１講　合同ガイダンス　（クラス分けアンケートも含む）
第２講　文章読解①　語彙学習①
第３講　文章読解②　語彙学習②
第４講　文章読解③　語彙学習③
第５講　文章読解④　語彙学習④
第６講　文章読解⑤　語彙学習⑤
第７講　文章読解⑥　語彙学習⑥
第８講　文章読解⑦　語彙学習⑦
第９講　文章読解⑧　語彙学習⑧
第10講　文章読解⑨　語彙学習⑨
第11講　文章読解⑩　語彙学習⑩
第12講　文章読解⑪　語彙学習⑪
第13講　文章読解⑫　語彙学習⑫
第14講　文章読解⑬　語彙学習⑬
第15講　文章読解⑭　語彙学習⑭　まとめ
定期試験
＊授業の進度および内容はクラスの状況により、若干変更する場合があります。日本語能力試験のための文法、語彙、文型などについても必要に応じて学習していきます。

テキスト・教材（参考文献含む）

『日本語能力試験問題集 Ｎ１（Ｎ２）読解 スピードマスター』Ｊリサーチ出版　菊池富美子 ほか著『日本語能力試験問題集 Ｎ１（Ｎ２）読彙 スピードマスター』Ｊリサーチ出版　菊池富美子 ほか著
その他各クラスの担当者が適宜、指示を出します。

担当者から一言

日頃から新聞やインターネットなど、様々な分野の記事を読むことを心がけること。遅刻、授業中の中座、飲食、私語、必要時以外の携帯の使用などは、原則禁止します。真剣な授業への参加を期待します。

日本語上級Ⅱ	科目ナンバリング	３年次	２単位
加納・角田・安田	GEL9006	後学期	選　択

授業のねらい

言語の四技能―読む、書く、聞く、話すーを学びながら、総合的な日本語能力を身につけていきます。特にこの授業では、新聞やインターネットなどの情報をもとに、より高度な読解能力を身につけることを、そのねらいとします。また、就職後に役立つ日本語の応用能力も高めていきます。

到達目標

この授業では、雑誌、新聞、インターネットなどのより高度な情報を読んで、その内容が理解できるようになることを、到達目標とします。
（＊日本語能力試験Ｎ１レベルの語彙、文法を用いる）

成績評価方法･課題･フィードバックの方法

授業での積極性や発表、議論、小テスト（採点後返却します）50％、期末試験50％。

事前・事後学習

授業で扱う新聞記事やインターネットニュースなどについて、事前に内容を確認したり、関連記事を読んでおくようにするなど、授業に臨むにあたり十分な準備をおこなうこと（90分）。授業後は、内容を振り返り、問題点や不明点などをもう一度調べ直し、理解を深めておくこと（90分）。

授業の位置づけ

「語学科目」では英語を中心とした外国語を、幅広く学び、学部ごとに設置された専門教育課程に向けた学修(教養)を積み上げていきます。

授 業 計 画

第１講　合同ガイダンス　（クラス分けアンケートも含む）
第２講　文章読解①　語彙学習①
第３講　文章読解②　語彙学習②
第４講　文章読解③　語彙学習③
第５講　文章読解④　語彙学習④
第６講　文章読解⑤　語彙学習⑤
第７講　文章読解⑥　語彙学習⑥
第８講　文章読解⑦　語彙学習⑦
第９講　文章読解⑧　語彙学習⑧
第10講　文章読解⑨　語彙学習⑨
第11講　文章読解⑩　語彙学習⑩
第12講　文章読解⑪　語彙学習⑪
第13講　文章読解⑫　語彙学習⑫
第14講　文章読解⑬　語彙学習⑬
第15講　文章読解⑭　語彙学習⑭　まとめ
定期試験
＊授業の進度および内容はクラスの状況により、若干変更する場合があります。日本語能力試験のための文法、語彙、文型などについても必要に応じて学習していきます。

テキスト・教材（参考文献含む）

『日本語能力試験問題集 Ｎ１（Ｎ２）読解 スピードマスター』Ｊリサーチ出版　菊池富美子 ほか著『日本語能力試験問題集 Ｎ１（Ｎ２）読彙 スピードマスター』Ｊリサーチ出版　菊池富美子 ほか著
その他各クラスの担当者が適宜、指示を出します。

担当者から一言

日頃から新聞やインターネットなど、様々な分野の記事を読むことを心がけること。
遅刻、授業中の中座、飲食、私語、必要時以外の携帯の使用などは、原則禁止します。真剣な授業への参加を期待します。

コンピュータリテラシー	科目ナンバリング	1年次	4単位
総合政策：石田・楓・山本敦・杉谷・田中伊 環境情報：池田・片山	GEI1001	前学期	必　修

授業の位置づけ

「情報科目」では情報社会に必須の知識を、幅広く学び、学部ごとに設置された専門教育課程に向けた学修(教養)を積み上げていきます。

授業のねらい

コンピュータの実習を中心とした授業です。コンピュータの「読み書き能力」の習熟に重点を置きます。
具体的には、仕事をする上でよく使われているワープロと表計算ソフトを中心に実習します。授業は、キーボードのタイピング練習から入り、それから実際にデータを入力して加工する実習を主体にして行います。教員が質問に答えて個別指導を行う形で実習は進みます。毎回実習の提出物がありますから、それで習熟度がチェックされます。

到達目標

ワープロソフトWord2016と表計算ソフトExcel2016の基本的な機能に習熟し、ビジネス文書の作成ができるようになること。

成績評価方法･課題･フィードバックの方法

毎回の演習の提出物４点とタイピングテスト（0.1×タイピングテストの点数）とExcelの小テスト(20点)の合計で評価します。適宜、提出物に対してコメントを付けてフィードバックします。

事前・事後学習

授業を履修するための予備知識は要求しません。習うより慣れろという内容なので授業に毎回出席して実習に励んでください。また、タイピングの練習方法を指導するので毎日続けて20分間ほど練習してください。さらに授業で行った実習を忘れないように毎日20分ほど復習して下さい。

授 業 計 画

第１講　ガイダンスとタイピングテストによるクラス分け
第２講　キーボード入力練習(タッチタイピング)
第３講　Word①:文字の入力
第４講　Word②:文書の作成
第５講　Word③:編集･表の作成･画像の挿入
第６講　Word④:まとめの演習
第７講　メール:携帯メールとの連携･エチケット
第８講　PowerPoint:簡単な利用法
第９講　Excel①:データの入力、タイピングテスト
第10講　Excel②:ワークシートの編集
第11講　Excel③:グラフの作成
第12講　Excel④:グラフの編集と表計算
第13講　Excel⑤:基本的な関数と条件関数
第14講　Excel⑥:データベース機能
第15講　Excelの小テスト
他の授業との連携の都合により内容が前後することがあります。

テキスト・教材（参考文献含む）

テキスト(必須)「30時間でマスターWord&Exel 2016」実教出版 950円
教科書が無いと実習が出来ません。

担当者から一言

コンピュータ教室での実習を中心とした科目です。毎回の授業は前回までの授業の積み重ねで進めるので、欠席すると次の実習が困難になります。また、提出物が多いので、時間内に全ては完成しない場合があります。残った課題も必ず完成させて提出してください。

情報倫理	科目ナンバリング	1年次	2単位
池田・片山・田中伊・田中雅	GEI1002	後学期	選　択

授業の位置づけ

「情報科目」では情報社会に必須の知識を、幅広く学び、学部ごとに設置された専門教育課程に向けた学修(教養)を積み上げていきます。

授業のねらい

インターネットとネット上の各種サービスの発展により、世界中の人々が直接に繋がる新しい社会が形成されつつある。またデジタル技術の進展により､高品位の著作物を皆で共有し楽しめるようになった。ネット上に出来たこの新しい社会は人間社会を根本から変えようとしているが、人が集まれば多くの問題も生じる。この講義では、コンピュータやインターネットなどの利用に際して、他人の権利を侵害したり自分の権利を侵されたりすることがないように必要な知識を身につけることを目的とする。

到達目標

①情報セキュリティについて説明できる。
②個人情報について説明できる。
③著作権について説明できる。
④暗号技術について説明できる。

成績評価方法･課題･フィードバックの方法

ノートやレポート(30%)、小テスト(30%)、定期試験(40%)
ノート、レポート、小テストは採点後、以降の講義で返却します。

事前・事後学習

講義前には、講義内容をシラバスで確認し、教科書の該当部分を読んで来ること(30分)。
講義後には、講義内容を復習し、問題などをやり直すこと(60分)。

授 業 計 画

第１講　ガイダンス、情報倫理とは、最近の話題（掲示板、2ch、ブログ、SNS、ケータイ）
第２講　情報セキュリティ（１）
第３講　情報セキュリティ（２）
第４講　コンピュータウイルス（１）
第５講　小テスト、コンピュータウイルス（２）
第６講　個人情報とプライバシー（１）
第７講　個人情報とプライバシー（２）
第８講　知的財産保護（１）
第９講　知的財産保護（２）
第10講　小テスト、知的財産保護（３）
第11講　知的財産保護（４）
第12講　暗号技術（１）
第13講　暗号技術（２）
第14講　小テスト、暗号技術（３）
第15講　まとめ
定期試験

テキスト・教材（参考文献含む）

「四日市大学生のための情報倫理」四日市大学情報系教員グループ著
400円

担当者から一言

情報倫理は、情報化社会・ネット社会を生きていく上で必須の知識です。やや硬い内容ですが楽しみながら受講できるよう身近な話題を多く扱います。
ノートを定期的に確認し創意工夫と学ぶ姿勢の表れたものに高い点数を与えます。ノートの書き方は指導します。

情報科学

科目ナンバリング	1年次	2単位
GEI1003	前学期	選　択

池田幹男

授業の位置づけ

「情報科目」では情報社会に必須の知識を、幅広く学び、学部ごとに設置された専門教育課程に向けた学修(教養)を積み上げていきます。

授業のねらい

現代では、コンピュータはありとあらゆる場所に浸透しており、欠かせないものとなっている。身近な冷蔵庫や洗濯機のような家電製品、自動車などでもコンピュータは使われている。TV受信機も現在ではネットワーク端末としての機能も持ち合わせている。このような環境に生きる現代人として情報に関する基礎的な理解は必須のものとなっている。また、近年、AI技術の発展と普及が目覚ましく、情報技術が人間社会の在り方や運命を変えようとしている。本講義では、現代社会で必要とされるコンピュータに関する知識を概説する。予備知識は必要ない。本大学で行われる情報系授業の基礎となる内容を教えるので、できるだけ早期に受講することを薦める。

授 業 計 画

第１講　ガイダンス、情報と情報量
第２講　情報と情報量
第３講　アナログとデジタル
第４講　コンピュータはなぜ二進法を使うのか
第６講　十進法と二進法
第７講　二進数での演算
第８講　二の補数表現
第９講　桁あふれとオーバーフロー
第10講　コンピュータ内部の文字の表現方法
第11講　論理演算(AND, OR, NOT)
第12講　NANDによる論理演算
第13講　論理演算による加算
第14講　メモリー
第15講　コンピュータの内部構成
定期試験

到達目標

①デジタルの特質を知る、②情報分野の用語や単位を知る、③コンピュータ内部での数値の表現法とそれによって生じる副作用を理解する、④情報分野の資格取得に備えた知識を得る。

成績評価方法･課題･フィードバックの方法

講義毎のミニレポート(40%)と期末試験(60%)で評価する。

テキスト・教材（参考文献含む）

使用しない。資料を配布する。Moodle(教育支援システム)に資料を呈示する。

事前・事後学習

全く新しい話題の準備学習は難しいので、毎回の授業毎に復習（90分）するとともに、ネット等で関連知識を得る(90分)ようにする。

担当者から一言

情報分野に関してはWikipediaの記述は比較的正確なので、参考にするとよい。

情報と職業

科目ナンバリング	1年次	2単位
GEI1004	前学期	選　択

井岡幹博

授業の位置づけ

「情報科目」では情報社会に必須の知識を、幅広く学び、学部ごとに設置された専門教育課程に向けた学修(教養)を積み上げていきます。

授業のねらい

本講義では、事例を通して情報システムと社会とのかかわり方を学び、情報システム関連の職業に関する職業観を持つことを目的とします。そのために、コンピュータやネットワークが社会インフラやビジネスの場面で、どのように活用されているかを学びます。情報システムの発達により、社会の仕組みや仕事の仕方が変わる中で、人間社会とコンピュータ、ネットワークとの望ましい関係も考えていきたいと思います。

授 業 計 画

第１講:ガイダンス、iPhoneのビジネスモデル
第２講:情報のデジタル化
第３講:インターネット
第４講:インターネットビジネス　アマゾン
第５講:インターネットビジネス　アマゾンと楽天のビジネスモデルの違い
第６講:デジタル社会と製造　SCM①
第７講:デジタル社会と製造　SCM②
第８講:知的財産権とビジネス　産業財産権
第９講:知的財産権とビジネス　著作権
第10講:情報セキュリティ①
第11講:情報セキュリティ②
第12講:自動識別技術
第13講:Googleのビジネスモデル
第14講:GAFAと個人情報保護
第15講:まとめ
定期試験

到達目標

ITパスポート試験のストラテジ系およびマネジメント系の問題を解けるレベルを目指す。

成績評価方法･課題･フィードバックの方法

レポート50%、定期試験50%　レポート課題に問題があればフィードバックします。

テキスト・教材（参考文献含む）

プリント配布。

事前・事後学習

情報技術およびその利用に関する新聞記事の熟読（予習90分)。各回で課されるレポート課題を作成すること(復習90分)。

担当者から一言

急速に進む情報化は、ビジネス環境はもちろん、私たちの生活自体も大きく変え、大きな影響を与えています。ニュース番組などで具体的な例を見ながら、情報システム進化の方向やその影響を一緒に考えましょう。

アプリケーション演習Ⅰ	科目ナンバリング	1年次	2単位
池田幹男	GEI1005	後学期	選　択

授業の位置づけ

「情報科目」では情報社会に必須の知識を、幅広く学び、学部ごとに設置された専門教育課程に向けた学修(教養)を積み上げていきます。

授業のねらい

Microsoft Excelは実社会では、表やグラフ作成だけでなく、簡単な文書作成にも使われていて、必須のアプリケーション・ソフトウェアとなっています。したがって、社会で活躍するためには、Excelを道具として使いこなす能力が必要となります。この講義では、Excelの資格試験（Microsoft Office Specialist）を受験するための演習を行います。

到達目標

MOS Excel 2016の資格試験の準備が整うようにします。

成績評価方法･課題･フィードバックの方法

毎回の課題(60%)、模擬試験演習(40%)で評価します。定期テストは実施しません。適宜、提出物にコメントを付けてフィードバックします。

事前・事後学習

テキストの練習問題と模擬練習問題の予習と復習を繰り返し実施してください。（週180分）可能ならば、個人のPCにテキスト付属の模擬テストプログラムをインストールして模擬テストを実施してください。

授 業 計 画

第１講　ガイダンス、クラス分け
第２講　ワークシートやブックの作成と管理（１）
第３講　ワークシートやブックの作成と管理（２）
第４講　ワークシートやブックの作成と管理（３）
第５講　セルやセル範囲の作成（１）
第６講　セルやセル範囲の作成（２）
第７講　テーブルの作成
第８講　数式や関数の適用（１）
第９講　数式や関数の適用（２）
第10講　グラフやオブジェクトの作成
第11講　模擬試験演習（１）
第12講　模擬試験演習（２）
第13講　模擬試験演習（３）
第14講　模擬試験演習（４）
第15講　模擬試験演習（５）

テキスト・教材（参考文献含む）

佐藤　薫「MOS攻略問題集Excel 2016」 日経BP社　￥1,944
テキストは必須です。特に実際にMOSを受験する人は、テキスト付属の模擬テストプログラムが必要になります。

担当者から一言

積み重ねの講義なので、欠席しないようにしてください。また、出席状況が悪い場合には減点します。

アプリケーション演習Ⅱ	科目ナンバリング	2年次	2単位
田中雅章	GEI1006	前学期	選　択

授業の位置づけ

「情報科目」では情報社会に必須の知識を、幅広く学び、学部ごとに設置された専門教育課程に向けた学修(教養)を積み上げていきます。

授業のねらい

Wordは、卒業後の実社会（プレゼンや書類などのコミュニケーション中心）では必須の道具です。Wordは2016になり、実社会で必ず使う機能も増え、それらを理解し、使用できるようになることがねらいです。

到達目標

Word 2016の便利な新機能を実際に使って、実社会での使い方を身につけることを到達目標とします。さらに、講義を終えれば、MOS Word 2016の資格取得試験の準備が整うようにします。

成績評価方法･課題･フィードバックの方法

講義は演習形式で行います。授業への参加態度30%、演習の課題の提出30%と模擬試験問題の成績40%で評価します。

事前・事後学習

大学や個人所有のPCで、テキストの練習問題の予習・復習およびテキストの模擬試験を繰り返し行ってください。（週180分）

授 業 計 画

第１講　ガイダンス･クラス分け
第２講　文書の作成
第３講　文書の管理
第４講　文字･段落の書式設定
第５講　セクションの書式設定
第６講　表やリストの作成と変更
第７講　引用文献
第８講　図表の管理
第９講　文書パーツ
第10講　SmartArt
第11講　画像の挿入
第12講　MOS word 2016模擬試験問題１
第13講　MOS word 2016模擬試験問題２
第14講　MOS word 2016模擬試験問題３
第15講　MOS word 2016模擬試験問題４
定期実技試験

テキスト・教材（参考文献含む）

MOS攻略問題集 Microsoft Word 2016 佐藤薫（著）日経BP社 定価：1,980円（税込）

担当者から一言

人数制限があり、また、初回の授業でクラス分けを行いますので、初回は必ず出席してください。

四日市学

岡良・鬼頭・永井・李

科目ナンバリング	1年次	2単位
GEC1001	前学期	選　択

授業の位置づけ

「地域科目」では、地域を志向した学修を通じて地域社会に貢献する人材を目指します。

授業のねらい

この講義は、四日市市を対象として、地域の社会、歴史、文化、自然、産業、環境などの現状を学び、この地域の将来の発展方向を考えることをねらいとしています。四日市を深く知ることを通し、地域社会の抱える課題を見つけ、それを市民・企業・行政などがどのように解決するのか、学んでいきます。また、四日市の伝統・文化・芸術について触れ、多面的に四日市について考える機会とします。

到達目標

講義は９回にわたる様々なテーマの座学、２つのフィールドワークによって構成されます。この講義の到達目標は、この地域の様子や現在の課題を積極的に学んでいくという興味や意欲を持てるようになることです。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法

成績評価は、１～９週目に課す簡単なリアクションペーパー各200字程度（45%）、２回のフィールドワークに関するレポート（30%）、学期末試験（25%）で総合評価します。提出物は返却しませんが、内容について取りまとめ、最終の振り返りでフィードバックします。

事前・事後学習

次回講義の内容をシラバスの計画で確認し、WEBで関連する情報をみる準備学習を約1時間すること。また、講義で配布された資料などを使った振り返り学習も約１時間する。また、フィールドワークに２日間、その課題作成に６時間ほどを要する。

授 業 計 画

第１講（４/８）　ガイダンス＋フィールドワークの説明（鬼頭）
第２講（４/15）「地域と宗教的文化・伝統」（李；ゲスト講師 北島義信）
第３講（４/22）「四日市公害に向き合う」（鬼頭；ゲスト講師 四日市公害と環境未来館職員）
第４講（４/29）「四日市の産業」（岡）
第５講（５/13）「ふるさと・四日市の文学者たち」（永井）
第６講（５/20）「四日市の抱える今日的問題～人権問題～」（李）
第７講（５/27）「四日市の歴史」（永井；ゲスト講師 四日市市博物館学芸員）
第８講（６/３）「四日市市の発信～シティプロモーション戦略～」（鬼頭；ゲスト講師 四日市市職員）
第９講（６/10）「四日市の文化財を保存・活用」（鬼頭；ゲスト講師 四日市市職員）
■第10～12講　フィールドワーク①「四日市市博物館で学ぶ」
■第13～15講　フィールドワーク②「四日市で学ぶ」
＊感染拡大の状況によっては、内容が変更になります。

テキスト・教材（参考文献含む）

とくに設定しない。必要に応じて資料を配布する。

担当者から一言

四日市を深く知ることのできる貴重な科目です。しっかりと「四日市」を学んでほしい。

地域社会の歴史

岡　佑哉

科目ナンバリング	1年次	2単位
GEC1002	後学期	選　択

授業の位置づけ

「地域科目」では、地域を志向した学修を通じて地域社会に貢献する人材を目指します。

授業のねらい

本講義は、地域における歴史の展開を知ることで、歴史が政治の中心地のみでは語りきれないものであると理解することを目的とする。歴史は単なる「暗記科目」ではなく、事実に基づき思考する学問である。

本講義を通して、地域社会の視点から日本全体の問題を考察するという姿勢を養う。題材として、2016年のサミット開催地三重県の「伊勢神宮」の近現代史をとり上げる。

到達目標

①地域社会の歴史に対する知識を身につける。②知識を活用し文章で説明する力を身につける。③地域社会から日本全体の問題を考える姿勢を身につける。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法

①筆記試験（70%）、②平常点（30%）。出席が前提で、毎回講義の終わりに内容についての感想・質問を書いたペーパーを提出。その取り組みを評価する。
次の回の講義で、質問への回答や事実関係の確認を行うことで、学生の理解の向上につなげる。

事前・事後学習

①本講義は特に復習に力を入れてほしい。講義のプリントを熟読しつつ、板書内容を整理し次回の講義に備える。②大学生として新聞を読むこと。また、伊勢神宮や天皇家に関わる記事がないかも注意するとよい。（90分）

授 業 計 画

第１回　ガイダンス―地域社会史の意義―
第２回　前近代の伊勢神宮①―古代～中世―
第３回　前近代の伊勢神宮②―近世―
第４回　近代の伊勢神宮を知ることの意味
第５回　明治維新と伊勢神宮
第６回　明治期における宇治山田の変容
第７回　明治期における「神都」としての伊勢の形成
第８回　1929年の式年遷宮―国家儀礼として―
第９回　戦前のメディア・教育の中の伊勢神宮
第10回　戦前の伊勢神宮参拝の諸相
第11回　終戦の危機と1953年の式年遷宮
第12回　「脱法人化」と1973年の式年遷宮
第13回　1993年の式年遷宮―聖地と俗地としての伊勢―
第14回　伊勢神宮の現在
第15回　講義の総括
定期試験

テキスト・教材（参考文献含む）

テキストはなし。毎回プリントを配布する。
参考文献：ジョン・ブリーン『神都物語　伊勢神宮の近現代史』（吉川弘文館、2015）

担当者から一言

・遅刻・私語・スマホゲーム等厳禁。遅刻者にはプリント・出席カードは配布しない。
・無断早退、無断退出厳禁。
・コメントペーパーの代筆厳禁。
・コロナ感染状況の悪化時：オンデマンド型に変更する可能性（その際は指示）。出校禁止となり試験がレポートとなった場合、剽窃（＝他人の文章を盗むこと）は失格。

市民教育

松井真理子

科目ナンバリング	1年次	2単位
GEC1003	前学期	選　択

授業のねらい

近年「新しい公共」の理念のもと、市民が果たす役割がかつてなく期待されています。また、１８歳選挙権の導入に伴い、選挙をはじめとする主権者としてのあり方について、若い世代が学習することはきわめて意義が大きくなっています。この授業では、主権者としての基礎知識、市民の権利と責任、市民の行動の３つの観点から、入門的な主権者教育を行います。三重県における市民としての権利と責任を自覚し、行動することができる人材の養成を目指します。

到達目標

1　政治･行政･司法への市民参加の仕組みを理解する。
2　地域において市民として生活する上での権利と責任を理解し、行動する力を養成する。
3　地域における市民としての活動のあり方について、具体的に理解する。

成績評価方法･課題･フィードバックの方法

毎講義時の課題　30%
定期試験　70%
毎講義時の課題として提出された内容について、次回の授業でフィードバックする。

事前・事後学習

(授業前) 日頃からテレビや新聞のニュースに目を通しておくこと（毎日30分程度）
授業内容について事前に予習しておくこと(60分)
(授業後) 学んだ内容を復習し、インターネット等で関連する文献を読むこと(90分)

授業の位置づけ

「地域科目」では、地域を志向した学修を通じて地域社会に貢献する人材を目指します。

授 業 計 画

第１講　ガイダンス･市民教育とは何か
第２講　日本国憲法の３原則
第３講　政治･行政のしくみ
第４講　税と財政
第５講　労働
第６講　社会保障
第７講　SDGs
第８講　選挙
第９講　議会への参加
第10講　身近な行政への参加
第11講　裁判員制度
第12講　市民活動
第13講　消費者
第14講　情報社会
第15講　まとめ

テキスト・教材（参考文献含む）

毎回講義時に資料を配布します。

担当者から一言

社会をよくするのも悪くするのも究極は市民です。社会とつながっている自覚を持ち、行動するようになってもらいたいと思います。

人権論

松井真理子

科目ナンバリング	1年次	2単位
GEC1004	後学期	選　択

授業のねらい

私たちは生まれながらに、誰にも奪われることのない権利として人権を持っていますが、私たちが住んでいる地域は、人間らしい生活ができているでしょうか。この授業では、人権を差別の問題だけに狭く捉えず、基本からしっかり学びます。また差別を受けやすい立場にいるマイノリティの人たちが抱えている課題についても、地域の当事者を招いて実践的に学びます。社会構造の根底に人権があることを理解し、誰もが安心して自分らしく暮らせる社会づくりの必要性を理解する、人権感覚に敏感な人づくりを目指します。

到達目標

1　人権の概念を正確に理解する。
2　人権を自分事ととらえ、社会構造と人権の関係に敏感になる。
3　マイノリティの人権について、個別の内容を理解する。
4　多様な人々が共生する地域社会づくりと人権との関係について正しく理解する。

成績評価方法･課題･フィードバックの方法

毎講義時の課題　30%
定期試験　70%
毎講義時の課題として提出された内容について、次回の授業でフィードバックする。

事前・事後学習

(授業前) 日頃からテレビや新聞のニュースに目を通しておくこと（毎日30分程度）
授業内容について事前に予習しておくこと(60分)
(授業後) 学んだ内容を復習し、インターネット等で関連する文献を読むこと(90分)

授業の位置づけ

「地域科目」では、地域を志向した学修を通じて地域社会に貢献する人材を目指します。

授 業 計 画

第１講　ガイダンス･人権とは何か
第２講　人権の歴史
第３講　人権の体系
第４講　自由権①
第５講　自由権②
第６講　社会権
第７講　マイノリティの人権(①障害がある人)
第８講　マイノリティの人権(②子ども)
第９講　マイノリティの人権(③外国人)
第10講　マイノリティの人権(④民族)
第11講　マイノリティの人権(⑤性)
第12講　マイノリティの人権(⑥部落問題)
第13講　コロナと人権
第14講　ビジネスと人権
第15講　多様性とダイバーシティ社会

テキスト・教材（参考文献含む）

毎回講義時に、教員が作成する資料を配布します。
(参考文献)
四日市市人権センターの人権教育・啓発推進プログラム各種パンフレット

担当者から一言

わかりやすい資料や地域の当事者の話によって理解を深めます。あらゆる社会システムや学術研究の目的は「人権」だと考えています。ぜひ受講してください。

地域社会と環境

実務

科目ナンバリング	1年次	2単位
GEC1005	前学期	選　択

野呂達哉

授業のねらい

現代の地域社会はどのような問題を抱えているのか、その事例として「里山の衰退」と「獣害問題」、「外来生物問題」をとりあげます。これらの問題の背景や現状、また、地域でどのような取り組みが行われているのか理解することを目標とします。

到達目標

農村の過疎化や都市への人口集中、通勤圏としての郊外の開発は「獣害問題」や「外来生物問題」、「生物多様性の減少」の背景ともなっています。これらは地域の問題というだけではなく全国的な課題でもあります。ディスカッションを通じて、身近な環境問題としてこれらを理解することを目指します。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法

授業に対する積極性（50％）、期末試験（50％）を元に総合的に評価します。授業に対する積極性は小レポートの提出や授業内でのディスカッションへの参加、発言によって評価します。質問や意見など遠慮せず積極的に発言してください。必要に応じてフィードバックします。

事前・事後学習

前回までの内容を復習した上で講義に臨んでください（毎週30分）。また、講義後に分からないことや関心を持ったことについては書籍やインターネットなどで調べ、自分の中で整理してください（１日平均30分）。

授業の位置づけ

「地域科目」では、地域を志向した学修を通じて地域社会に貢献する人材を目指します。

授業計画

第１講　ガイダンス
第２講　地域社会と環境問題
第３講　農村と里山
第４講　里山の自然と維持管理
第５講　里山の衰退と獣害問題
第６講　里山の再利用とエコツーリズム
第７講　郊外の自然と身近な生物の減少と消失
第８講　都市の自然と生物多様性
第９講　外来生物問題
第10講　ペットの遺棄と地域ネコ
第11講　グローバル化と感染症問題
第12講　都市化とエキゾチックペット由来の新たな外来生物
第13講　地域住民による外来生物対策
第14講　地域住民による生物調査と保全の取り組み
第15講　まとめ

テキスト・教材（参考文献含む）

自作プリント、および関連資料配布。また、映像、スライドなども併用する。参考文献：「里山の環境学（武内和彦ほか）東京大学出版会, 2001」、「都市で進化する生物たち（メノ・スヒルトハウゼン）草思社, 2020」「野生動物問題への挑戦（羽山伸一）東京大学出版会, 2019」など。

担当者から一言

環境問題は複雑な現代社会を背景として生じてきた問題ですが、問題解決のためには地域社会とそこで生活する個人の参加が不可欠です。問題解決のために学生の積極的な参加を望みます。

地域防災

実務

科目ナンバリング	1年次	2単位
GEC1006	前学期	選　択

鬼頭浩文　他

授業のねらい

この講義では、NPO法人日本防災士機構が認証する防災士の資格取得を目指す。この資格は、就職においても有利になる。講師には、行政・社協・自主防災隊・消防団など、さまざまな防災に関わる機関から招聘する。

＊６月の週末３日間（18時間）は、外部からの受講生も参加する「防災士養成講座」に参加することをもって６週分の講義とする。
＊テキスト・受験料などの実費12,500円が必要です。
＊防災士試験に合格すると、別途5,000円の登録費用が必要です。

到達目標

この講義を通して、災害時には復旧活動をリードできる人材になるのが目標である。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法

講義で学んだことをまとめる小レポート、期末試験（８月の防災士試験の模擬試験を兼ねる）の結果から、総合的に成績をつける。提出されたレポートは内容を確認し、間違いなどがあれば訂正してフィードバックする。

事前・事後学習

事前にテキストの要点を30分ほどかけて予習する。また、講義を収録して公開するので（全部で10時間ほど）、必ず1回は復習として聴き、理解を深める。また、週末の演習で学習したこともあわせ、期末試験や防災士試験の1週間前に必ず復習をする。

授業の位置づけ

「地域科目」では、地域を志向した学修を通じて地域社会に貢献する人材を目指します。

授業計画

1　4/8　ガイダンス、テキスト１講　：地震・津波
2　4/15　２・３・４講：風水害、火山災害
3　4/22　５講、補講１、６講：大規模火災、近年の災害、予報や警報
4　4/29　７・８・９講：ハザードマップ、災害情報、行政の危機管理
5　5/13　10・11・12講：救助と応急対策、復旧と復興・こころのケア
6　5/20　13・14講：ライフライン、事業継続
7　5/27　15・16講、補講２：地震・津波・風水害への備え、耐震補強
8　6/3　補講３、17・18講：保険、地区の防災、避難所
9　6/10　19・20・21講、補講４；多様性への配慮、災害ボランティア、防災士とは
10　6/17　普通救命講習（講師：四日市市消防本部職員）演習（場所：体育館）
11　6/18（土）午前：近年の災害とその仕組み（講師：自衛官ほか）
12　6/18（土）午後：避難所運営訓練
13　6/25（土）午前：地域防災（講師：四日市市危機管理室職員）
14　7/2（土）午前：自分たちで地域を守る（講師：消防団・自主防災組織など）
15　7/2（土）午後：災害ボラセン運営（講師：四日市市社協職員）
★８月21日（日）午後に防災士試験を実施する。

テキスト・教材（参考文献含む）

『防災士教本』日本防災士機構
テキスト代は、実費負担￥12,500に含まれる。

担当者から一言

講義を履修するものは、防災士試験にチャレンジすることを条件とする。

地域連携特別講義 a　実務

科目ナンバリング	1年次	2単位
GEC1007	後学期	選　択

小林慶太郎

授業のねらい
食と観光に関して、三重県内でフィールドワークを交えた体験型実習を行う。観光客など地域への愛着を持つ者を増やすことで、地域で作られてきた農産物などの食品や地域で育まれてきた食文化を継承し発展させていくことにつなげることができないかを考えていく。主体的に考え、グループワークにおいて所属や専門の異なる他者と議論し、生産者や観光客などに対してインタビューを行うなどといった一連のプロセスによって、地域イノベーションを実践する人材育成を目指す。

到達目標
地域住民や観光客など自らとは異なる立場の人たちにインタビューし、その内容に対してグループ討議を経てそれぞれの専門性に則った意見を述べることで主体性を発揮できる。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法
・グループワーク等への取組姿勢　60%
・成果発表レポート　40%
※ 一部でも欠席した場合には、単位は与えられないので、日程管理に留意すること。
※ グループワーク、フィールドワークにおいては、教員が適宜アドバイスする。グループワークなどで出された質疑にも教員が適宜回答する。

事前・事後学習
県内の農産物などの食品生産や食文化の現状・課題や、観光業の現状・課題等について、事前に情報収集をし、考察を深めておく(36時間)。成果発表に向けてグループの仲間と連絡を取り合いながら、時間外に準備を行う(9時間)。

授業の位置づけ
「地域科目」では、地域を志向した学修を通じて地域社会に貢献する人材を目指します。

授業計画
10月上旬　「ガイダンス」@三重大学
13:00－14:00　現状把握と課題解決の考え方(皇學館大 池山)
14:10－15:10　ご当地グルメを活用した町おこし(四日市大 小林)
15:20－17:00　グループワーク

10月中旬　「三重県の基礎情報を学ぶ」@MieMu
13:00－15:30　展示見学・講義(太田学芸員)
15:40－17:00　グループワーク

10月下旬　「食の現場を体験する」@県内農業関連施設
10:00－12:00　施設見学・体験
12:00－13:00　昼食・移動
13:00－14:00　農を活かした観光開発(鈴鹿大 冨本)
14:10－16:10　グループワーク

11月下旬　「食と観光を踏査する」@三重県内
10:00－16:10　フィールドワーク

12月上旬　「食と観光を考える」@三重大学
13:00－17:00　グループワーク

12月中旬　「食と観光を発表する」@三重大学
13:00－16:00　成果発表会
16:00－17:00　講評・まとめ

※ 新型コロナウイルスの感染拡大の状況や受け入れ先の都合などによっては、変更になる場合があります。

テキスト・教材（参考文献含む）
テキストは使いません。(必要に応じて資料等を配布する場合があります)

担当者から一言
県内の複数の高等教育機関との合同授業になります。グループワーク・プレゼンテーション等、学生諸君には相応の負担もかかりますし、現地学習などで費用もかかりますが、それに見合うだけの意義深い学習と経験ができるはずです。他校に友人関係を広げるチャンスにもなりますので、ぜひ積極的に参加してみてください。

経営学

科目ナンバリング	1年次	2単位
GLAS1001	前学期	選　択

川崎綾子

授業のねらい
本講義では、経営学の諸理論を理解し身につけることで、受講生の経営学の研究能力とリーダーとしての資質を醸成する。経済社会や企業に潜む問題を自ら発見し、解決する能力の育成を目指す。

到達目標
経営の理論的な用語を駆使し、企業社会の問題解決に自ら分析的に取り組むことができる。
文献などの資料から必要な証拠を収集し、説得性の高い論理的なレポートの作成能力をもつ。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法
中間レポート　50%
最終レポート(レポート試験)50%

中間レポートについては、講義中にコメントする。
優秀な中間レポートは、講義中に紹介する場合がある。

事前・事後学習
レポートへの解答、書籍やインターネットの閲覧などを通して、理論的用語の予習や復習、マネジャーの立場における課題解決の練習に取り組むことが望ましい(毎週3時間程度)。

授業の位置づけ
「一般教養科目」では、社会科学、人文科学、自然科学の3分野を、幅広く学び、学部ごとに設置された専門教育課程に向けた学修（教養）を積み上げていきます。

授業計画
第1講　ガイダンス／単位取得に関する注意事項
第2講　経営の目的(1)／顧客価値の提供
第3講　経営の目的(2)／価値提供のための組織づくり
第4講　組織と不確実性
第5講　人のマネジメント(1)
第6講　人のマネジメント(2)
第7講　組織デザインと分業(1)／外部業者の活用
第8講　組織デザインと分業(2)／アウトソーシングと製品のモジュラー化
第9講　組織デザインと統合
第10講　様々な取引形態／取引コストと信頼
第11講　資源依存理論
第12講　提携の様々な形／製作委員会とプロデューサー
第13講　商品開発
第14講　流通のしくみ
第15講　まとめ

テキスト・教材（参考文献含む）
教科書は指定しない。資料を配布する。

担当者から一言
院生レベルのレポートを要求しますが、経営学は1から教えますので大丈夫です。
※何度も私語の注意を受ける人には、原則単位を認めません。
経営は目的達成のために持続的に事を行うことです。生活にもお役に立てれば幸いです。

経済学

科目ナンバリング	1年次	2単位
GLAS1002	後学期	選　択

鬼頭浩文

授業のねらい

企業や消費者の行動は、経済を理解する上で最も基本的なテーマになる。この講義では、企業や消費者がどのように行動し、それが経済に対してどのようなインパクトを持つのか考えていく。とくに「競争」については、日ごろ意識することが少ないため、ここで勉強することは社会に出てから大いに役立つと思う。理論的な考察も重要だが、ここでは参加・体験型のアクティブ・ラーニングを中心に展開し、直感的・感覚的に経済を学ぶ。

（受講生数が多い場合、オンデマンド型授業になることがある）

到達目標

経済学の基本的知識を参加型・双方向型講義を通して直感的に理解することが到達目標である。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法

毎回Moodleに提出するレポート(75%)、学期末試験(25%)により、総合的に評価する。フィードバックは、Moodle上でレポートに対するコメントとして行う。

事前・事後学習

この講義は、復習が重要である。講義後にプリントに書き込みをした内容を２～３時間かけて振り返り、理解できないところは次回の講義で必ず質問をすること。また、期末試験に向け、10時間ほどは振り返り学習をすること。

授業の位置づけ

「一般教養科目」では、社会科学、人文科学、自然科学の３分野を、幅広く学び、学部ごとに設置された専門教育課程に向けた学修（教養）を積み上げていきます。

授業計画

1　9/27　感染症が経済に与える影響～あるバス会社を事例に～
2　10/4　日本経済における非正規労働者の問題
3　10/11　文化・スポーツなど不要不急？の経済活動
4　10/18　消費者の行動①個別需要曲線の理論;スタート
5　10/25　消費者の行動②練習問題を解き、コラムを簡単に説明
6　11/1　消費者の行動③コラムの復習をして、最後の問題を解かせる
7　11/8　税を知る週刊(四日市市税務署)
8　11/15　医療経済
9　11/22　企業経営
10　11/29　市場の競争、サッカーチケット市場の需要と供給①
11　12/6　市場の競争、サッカーチケット市場の需要と供給②
12　12/13　市場の競争、サッカーチケット市場の需要と供給③
13　12/20　インバウンド・外国人と日本経済
14　1/10　経済のいまを映像で知る
15　1/17　復習とレポート試験の説明

テキスト・教材（参考文献含む）

テキストは購入しない。講義でプリントを配布する。

担当者から一言

社会に出て役立つ何かを獲得できる講義を目指す。

政治学

科目ナンバリング	1年次	2単位
GLAS1003	前学期	選　択

小林慶太郎

授業のねらい

この授業では主に、政策の決定や政府の役割など、政治の仕組みについて、扱っていきます。

例えば今年７月に行われる予定の参議院議員選挙。いったいどのような仕組みで行われているのでしょうか。そして選挙というものは、本当に民主的な仕組みなのでしょうか。そもそも選挙はなぜ必要なのでしょう。そして政府は、どのような役割を担っているのでしょうか。

できるだけ、その時々の政治ニュースの解説なども行っていくことで、学生諸君に、日本の政治や社会の仕組みに対する関心を高めてもらうことを、この講義のねらいとしています。

到達目標

この授業では、学生諸君が、日本の政治や社会に関する基本的な用語や知識を身につけ、テレビや新聞の政治ニュースをある程度理解できるようになることを、到達目標としています。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法

成績は次のような配分により評価します。
・講義時に指示する簡単な課題の提出状況および受講態度:30%
・定期試験(自筆ノートのみ持込可):70%
なお、講義時に提出した課題に書かれていたコメントに対しては、以降の講義で応答していきます。

事前・事後学習

日頃からテレビや新聞の政治ニュースに目を通すこと（毎日20分以上)。講義内容のノートを見返して、不明な点などは参考文献等で調べておくこと(40分)。

授業の位置づけ

「一般教養科目」では、社会科学、人文科学、自然科学の３分野を、幅広く学び、学部ごとに設置された専門教育課程に向けた学修（教養）を積み上げていきます。

授業計画

第１講　ガイダンス　政治と政治学
第２講　政治と政策
第３講　政策の決定と民主主義(グループワーク)
第４講　選挙とマニフェスト
第５講　圧力団体と政治的景気循環
第６講　さまざまな選挙制度①　小選挙区制
第７講　さまざまな選挙制度②　大選挙区制
第８講　さまざまな選挙制度③　比例代表制
第９講　選挙制度改革の動き
第10講　多数決と話し合い(ディベート)
第11講　もしも政府が無かったら(グループワーク)
第12講　市民革命と夜警国家
第13講　市場の失敗と福祉国家
第14講　政府の失敗と行政改革
第15講　政治的対立を超えて
定期試験

※ 新型コロナウイルスの感染拡大の状況によっては、変更になる場合があります。

テキスト・教材（参考文献含む）

テキストは使いません(必要に応じてプリントを配布する場合があります)
【参考文献】
浅羽通明「新書で大学の教養科目をモノにする政治学」光文社新書(2011年)740円＋税

担当者から一言

遅刻や、講義中の中座、飲食、私語、携帯電話の鳴動などは、原則禁止します。これらのことが守れない者には、退室を命ずることがあります。出席する以上は、真剣な態度で受講して下さい。また、講義中に指名されたら、元気に返事をするようにして下さい。

社会学

三田泰雅

科目ナンバリング	1年次	2単位
GLAS1004	前学期	選　択

授業の位置づけ

「一般教養科目」では、社会科学、人文科学、自然科学の３分野を、幅広く学び、学部ごとに設置された専門教育課程に向けた学修（教養）を積み上げていきます。

授業のねらい

この授業では社会学の基礎的な考え方を学びます。社会は人間が集まって作られますが、一方で人間は社会によって作られる側面もあります。私たちはどのように社会をつくっているのか、そして、私たちはいかにして社会に縛られているのか。こうした疑問を考えてゆく授業です。

到達目標

社会学的なものの見方や考え方を身につける。

成績評価方法･課題･フィードバックの方法

＜評価＞小レポート30%，中間試験15%，期末試験55%
＜課題＞毎回の授業で小レポートを提出してもらいます。
＜フィードバック＞小レポートは翌週の授業で適宜コメントします。

事前・事後学習

新聞やニュースに目を通す(毎日20分)。

授 業 計 画

第１講　ガイダンス
第２講　規範と価値
第３講　私(わたし)とは誰か
第４講　近代をスポーツから考える
第５講　人は集団をつくる
第６講　家族とは何だろうか
第７講　社会の中のジェンダー
第８講　格差と社会階層
第９講　なぜ学校に行くのか
第10講　都市と村落
第11講　国家と国民社会
第12講　まとめ①
第13講　環境を考える
第14講　社会的排除
第15講　まとめ②

テキスト・教材（参考文献含む）

＜参考文献＞
倉沢進･秋元律郎･岩永雅也，2001，『新訂　社会学入門』放送大学出版協会.
石黒格編，2018，『変わりゆく日本人のネットワーク』勁草書房.

担当者から一言

学生諸君の積極的な参加を期待します。

ジェンダー論

高田晴美・三田泰雅

科目ナンバリング	1年次	2単位
GLAS1005	後学期	選　択

授業の位置づけ

「一般教養科目」では、社会科学、人文科学、自然科学の３分野を、幅広く学び、学部ごとに設置された専門教育課程に向けた学修（教養）を積み上げていきます。

授業のねらい

ジェンダーの問題とは、性差別的な問題から、差別とまではいかないけれども理不尽に思う人が出てくるという問題まで､様々あります。それだけに、解決方法も、制度やルールを変えていけば解決しうるものから、意識変革をしていかないと無理なものまで様々。社会通念や慣習の中でのジェンダーが、個人としての生きにくさにつながっていることをまずは知り、意識してもらいたい。その上で、ではどうすればいいのかを考えていきましょう。授業は２名の教員（高田・三田）で実施します。

到達目標

①ジェンダーとは何か、基本概念が説明できる。
②社会の中にあるジェンダーに気づき、説明できる。
③現代社会でなぜ男女共同参画が重要なのか､説明することができる。
④性別ではなく、個人を基礎とする考え方に立って行動できる。

成績評価方法･課題･フィードバックの方法

毎回の小レポート　50%
定期試験　　50%
小レポートについては、適宜、講義でコメントを返し、さらなる深化をはかります。

事前・事後学習

(授業前)日頃からニュースなどに目を通しておく。(毎日20分程度)
(授業後)学んだ内容を復習し、世の中の様々な場面、場所に授業で取り上げた問題にひっかかることがないか見つけ､考える。(40分)

授 業 計 画

第１講　ガイダンス、ジェンダーバイアス(高田)
第２講　ネーミング問題(高田)
第３講　〈女らしさ〉の罠ー女はつらいよ(高田)
第４講　家制度(高田)
第５講　性別役割分業①－家庭編(高田)
第６講　不払い労働、見えない家事問題(高田)
第７講　性別役割分業②－社会編(高田)
第８講　メディアにおけるジェンダー表現①――フィクション編(高田)
第９講　メディアにおけるジェンダー表現③――CM･広告編(高田)
第10講　つくられるジェンダー(三田)
第11講　男性とジェンダー(三田)
第12講　ジェンダー問題と向き合う(三田)
第13講　恋愛にまつわる〈女性学〉〈男性学〉(高田)
第14講　身体にまつわる男女の非対称(高田)
第15講　まとめ(高田)
講義内容の順番が入れ替わる可能性があります。

テキスト・教材（参考文献含む）

毎回講義時に、教員が作成する資料を配布します。

担当者から一言

「女性学」「男性学」の視点を持った２人の教員が、それぞれの持ち味を生かして分担します。ジェンダーを多角的に学べるチャンスです。

メディアリテラシー

関根辰夫・前川督雄

科目ナンバリング	1年次	2単位
GLAS1006	前学期	選　択

授業の位置づけ

「一般教養科目」では、社会科学、人文科学、自然科学の３分野を、幅広く学び、学部ごとに設置された専門教育課程に向けた学修（教養）を積み上げていきます。

授業のねらい

メディアリテラシーとは社会に溢れる様々なメディアを読み解き、それぞれのメディアを介して伝えられる情報の背景や意味を評価できる能力です。そして、メディアを通じて適切にコミュニケーションをとることのできる能力でもあります。

社会のなかでのメディアの有り様は、どんどん変革していきます。生まれ育った社会、世代、人生経験によって当たり前に思うことが異なることに気づき、メディアの向こうにある対象との付き合い方を考えることを手助けする授業です。

到達目標

各自のメディア環境下で、無意識に当たり前と思っている事柄に対して、なんらかの観察意識や他のコンテンツやテーマと比較する意識を持てるようになってもらうことです。

成績評価方法･課題･フィードバックの方法

定期試験を行いません。
講義時に何回か小レポートなどを教室で書いてもらいます。それらの評価の平均点で総合評価します。
小レポートで示された重要な論点をその後の講義で採り上げます。

事前・事後学習

各自の１日の中で、スマホでネットを見たり新聞やテレビを視聴する時間がどれくらいあるかなど、メディアと接する行動を事前に把握しておいてください（90分）。毎回の講義の後での自分のメディア行動を振り返り、考えを深めてください(90分)。

授 業 計 画

第１講　ガイダンス／各講義内容の説明
第２講　メディアとは何か(前川)
第３講　デジタルネイティブ　～幼少時からバーチャル世界に慣れ親しむ世代～(前川)
第４講　メディアと音の関係(関根)
第５講　CDのトリビア(関根)
第６講　サイバー空間とリアル空間との融合へ(前川)
第７講　メディアエコロジー　～情報環境が心身に及ぼす良い影響と悪い影響～(前川)
第８講　特別講義(外部講師等)
第９講　フェイクニュースとの付き合い方(前川)
第10講　インターネットとマスメディア　～マスメディアの責務～(前川)
第11講　日本の音楽市場の変遷(関根)
第12講　K-popと韓国文化(関根)
第13講　ポリティカルコレクトネスの正義(前川)
第14講　コミュニケーションとは何か(前川)
第15講　まとめ
(内容･順序を変更することがあります)

テキスト・教材（参考文献含む）

テキストはありません。
必要に応じて資料を配布します。

担当者から一言

環境情報学部メディア情報分野を専攻する学生は、この科目を受講することが望ましい。

社会福祉概論

李　修二

科目ナンバリング	1年次	2単位
GLAS1007	前学期	選　択

授業の位置づけ

「一般教養科目」では、社会科学、人文科学、自然科学の３分野を、幅広く学び、学部ごとに設置された専門教育課程に向けた学修（教養）を積み上げていきます。

授業のねらい

社会福祉とは、現代社会を生きる人々にとって無くてはならない事柄の一つと言えます。そうした社会福祉の理念や考え方を学び、さらに社会福祉の歴史、対象、制度について基本的な理解を得ることをねらいとした授業となります。授業の後半では、より具体的に、社会福祉の主要な分野での現状と今後の課題についても掘り下げて学ぶことをねらいとします。

到達目標

社会福祉の理念や歴史などの学習を通じて、社会福祉についての正しく専門的な基礎知識を理解することを目標とします。

成績評価方法･課題･フィードバックの方法

毎授業ごとのミニッツペーパーで40％評価し、講義ノートを試験範囲とする学期末の試験で60％評価します。（ミニッツペーパー評価基準はガイダンス時に説明します。授業ごとの提出ミニッツペーパーや質問等には、MOODLEを通じて、評価結果や応答をフィードバックします。）

事前・事後学習

毎回の授業後、ミニッツペーパー（小レポート）を書いてもらい、次の授業回までに提出してもらいます。また、必ず前回分の講義ノートを復習して授業にのぞんでください。（復習･予習、計60分以上）
さらに、毎週、参考文献、あるいは、新聞やウェブなどでの社会福祉関係の記事など、授業内容に関連した資料から学習してください。（30分以上）

授 業 計 画

1．ガイダンス、社会福祉の理念
2．社会福祉の歴史　イギリス（1）
3．社会福祉の歴史　イギリス（2）
4．社会福祉の歴史　イギリス（3）
5．社会福祉の歴史　アメリカ、ドイツ、スウェーデン、日本
6．少子化･高齢化をめぐる日本と世界（1）
7．少子化･高齢化をめぐる日本と世界（2）
8．日本の社会保障をめぐる現状と国際比較(1)
9．日本の社会保障をめぐる現状と国際比較(2)
10. 資本主義経済の歴史的変化と福祉国家
11. これからの社会保障（1）
12. これからの社会保障（2）
13. 医療への新たな視点（1）
14. 医療への新たな視点（2）
15. 持続可能な福祉社会に向けて

テキスト・教材（参考文献含む）

書き込み式の講義ノートを毎回プリントにして配布します。他にテキストは使用しません。
参考文献:
武川正吾『福祉社会（新版）』2011年、有斐閣
広井良典『人口減少社会のデザイン』2019年、東洋経済

担当者から一言

社会福祉の考え方や知識は今日きわめて重要かつ有用なものとなっています。ぜひ関心を持って、しっかり学習してください。細かな知識を覚える必要はありません。意味や意義を少しでも深く理解するように学んでください。

日本国憲法

科目ナンバリング	1年次	2単位
GLAS1008	後学期	選　択

中西紀夫

授業のねらい

憲法は、国内法では最高法規であり、すべての法律の基本法であるといえます。したがって、憲法を基本に法律や命令が作られるため、日本の法秩序の維持につながっているのです。また、憲法に違反する国の行為は違憲となりますので、最近では、日本版NSC（国家安全保障会議）の創設が国民の知る権利への侵害にならないか、あるいは、集団的自衛権の解釈変更による安保関連法制定の問題などが議論されています。このように、憲法も新たな局面を迎えていますので、しっかりと認識を深めてもらいたいと思っております。

到達目標

大学での一般教養課程で履修対象の社会科学系列科目の中に「憲法」が加えられているのは、すべての法律の基本法というだけでなく、将来どの方向に進むにせよ、立派な社会人として世の中に貢献していくのに重要な教養であると考えられているからです。したがって、各項目の内容把握だけでなく、できるだけ多くの規定を認識できるようになってもらいたいと考えています。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法

成績は、次のような評点配分です。
受講態度　30％：授業中に行う小テストの出来や出席状況も含む。
定期試験　70％：試験は論述形式で、すべて持込可です。
なお、授業中に小テストを実施した場合は、５段階評価を付けて２週間以内に返却します。

事前・事後学習

毎回、予習90分と復習90分はお願いします。内容は、教材を読むこと及び自筆ノートや確認問題のチェックなどです。また、発展的な学び方を希望される方は、自分に合った六法を購入しておくとよいでしょう。

授業の位置づけ

「一般教養科目」では、社会科学、人文科学、自然科学の３分野を、幅広く学び、学部ごとに設置された専門教育課程に向けた学修（教養）を積み上げていきます。

授業計画

第１講　ガイダンス
第２講　憲法の機能
第３講　天皇と国民の関係
第４講　国民の三大義務
第５講　基本的人権とその種類
第６講　環境権（判例的考察）
第７講　憲法上の権利と義務
第８講　法の下の平等
第９講　絶対平和主義
第10講　国家機密と国民の知る権利
第11講　平等な投票にするための権利義務
第12講　行政救済
第13講　国際私法
第14講　憲法改正問題
第15講　まとめ
定期試験

テキスト・教材（参考文献含む）

下記の著書を最新版に編集したものを印刷して配布します。なお、補足資料が必要な部分は、対応しますので安心してください。
参考文献：中西紀夫著『社会環境と法』嵯峨野書院（2010年11月30日）

担当者から一言

授業中は私語厳禁とします。また、こちらの許可を得ない中座や勝手にスマホを見ることなども、もちろん禁止です。学生さんも体調等の問題や諸活動で、こちらも臨機応変な対応が必要となることもありますが、中座や退室は私の許可を取ってください。出席する以上は、集中して受講しましょう。

法学

科目ナンバリング	1年次	2単位
GLAS1009	前学期	選　択

中西紀夫

授業のねらい

法学の発達の歴史を通して、法律と人との関わりについて学びます。すなわち、「法とは何か」という素朴な疑問から講義を始めていく予定です。講義形式は法に慣れ親しんでもらうため、特に六法（憲法・民法・商法・民事訴訟法・刑法・刑事訴訟法）の由来あたりから説明し、これらの法律の概要を歴史的経緯を踏まえて、現代社会の様々な問題と照らし合わせながら講義します。もちろん、骨子や規定の理解のために、一方的な講義形式のみの形にならないように工夫をしていきます。

到達目標

社会科学系の学部で「法学」が中心的な教養科目に位置付けられているのが多いのは、各方面の指導者養成等のための単位取得要請科目であるというだけでなく、みなさんの将来の生活の糧となる学問であるということではないかと思いますので、その視点に立って講義を進めていきたいと考えています。最終的な到達目標としては、常に法律的な視点に立って物事を見れるようになることを目指します。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法

成績は、次のような評点配分です。
受講態度　30％：授業中に行う小テストの出来や出席状況も含む。
定期試験　70％：試験は論述形式で、すべて持込可です。
なお、授業中に小テストを実施した場合は、５段階評価を付けて２週間以内に返却します。

事前・事後学習

毎回、予習90分と復習90分はお願いします。内容は、教材を読むこと及び自筆ノートや確認問題のチェックなどです。また、発展的な学び方を希望される方は、自分に合った六法を購入しておくとよいでしょう。

授業の位置づけ

「一般教養科目」では、社会科学、人文科学、自然科学の３分野を、幅広く学び、学部ごとに設置された専門教育課程に向けた学修（教養）を積み上げていきます。

授業計画

第１講　ガイダンス
第２講　六法の意味、社会規範
第３講　実定法と自然法、法源
第４講　制定法の体系、法の形式による分類
第５講　法の種別（国内法）、国内法と国際法
第６講　公法と私法、裁判による権利の実現
第７講　法の適用、法解釈における問題点
第８講　権利と義務、権利義務の主体と客体
第９講　罪刑法定主義
第10講　法と裁判（裁判の仕組み）
第11講　民事裁判、刑事裁判、行政裁判
第12講　司法権の独立と公開主義
第13講　自由心証主義、今日までの裁判の課題
第14講　裁判員制度とその課題
第15講　まとめ
定期試験

テキスト・教材（参考文献含む）

下記の著書を最新版に編集したものを印刷して配布します。なお、補足資料が必要な部分は、対応しますので安心してください。
参考文献：中西紀夫著『社会環境と法』嵯峨野書院（2010年11月30日）

担当者から一言

授業中は私語厳禁とします。また、こちらの許可を得ない中座や勝手にスマホを見ることなども、もちろん禁止です。学生さんも体調等の問題や諸活動で、こちらも臨機応変な対応が必要になることもありますが、中座や退室は私の許可を取ってください。出席する以上は、集中して受講しましょう。

民法入門

科目ナンバリング	1年次	2単位
GLAS1010	前学期	選　択

土志田佳枝

授業のねらい

この講義は、実際に新聞やテレビなどで報道された事件や問題、身近な紛争（トラブル）を取り上げ、解決方法を考察しながら、民法の全体像を理解していくことを目的とします。新聞を下宿で購読していなくとも、テレビを持っていなくとも、今ではインターネットやSNSを通じて世界中のニュースを日本語で読めるようになりました。普段から、パソコンや携帯電話のアプリを通じて、様々な話題に興味を持って接してください。

到達目標

新聞やテレビの報道で接した事件や問題、紛争を解決するために、民法からどのような妥当な結論を引き出せるだろうか考え、さらに解決方法を自らの筆で文章にまとめることを到達目標としたいと思います。したがって、授業には筆記用具を持参してください。なお、法令についてはオンラインで最新の条文に触れるようにしてください（e-gov法令検索「民法」「民事訴訟法」「家事事件手続法」「法の適用に関する通則法」など）。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法

定期期末試験（50％）と平常点（50％：授業内外で実施する小テストやレポート提出などの課題）で評価します。詳細は授業担当者より初回授業時に説明します。必要に応じてフィードバックします。

事前・事後学習

予習には教科書の指示した範囲を通読します（90分）。復習には授業で学習した条文や用語を確認して定着を図ります（90分）。詳細は授業計画を参照してください。

授業の位置づけ

「一般教養科目」では、社会科学、人文科学、自然科学の３分野を、幅広く学び、学部ごとに設置された専門教育課程に向けた学修（教養）を積み上げていきます。

授業計画

予習には教科書の指示した範囲を通読します。復習には授業で学習した条文や用語を確認して定着を図ります。

1　民法と民法典（予習90分：第１章）（復習90分）
2　権利と義務（予習90分：第２章の１）（復習90分）
3　契約１債権・債務（予習90分：第２章の２）（復習90分）
4　契約２未成年（予習90分：第３章）（復習90分）
5　後見（予習90分：第４章）（復習90分）
6　所有権と占有（予習90分：第５章）（復習90分）
7　時効（予習90分：第６章１消滅時効）（復習90分）
8　不法行為と不当利得（予習90分：第６章２法定利率）（復習90分）
9　事務管理（予習90分：第６章３約款）（復習90分）
10　婚姻（予習90分：第６章４サービス契約）（復習90分）
11　離婚（予習90分：第６章５自然災害と契約法）（復習90分）
12　親子関係（予習90分：第７章）（復習90分）
13　養子縁組（予習90分：おわりに）（復習90分）
14　相続（予習90分：相続法改正資料）（復習90分）
15　講義のまとめ（予習90分：これまでの復習）（復習90分）

テキスト・教材（参考文献含む）

内田貴『民法改正―契約のルールが百年ぶりに変わる』（筑摩書店・2011）
ISBN 978-4480066343）新書とKindle版（電子書籍）で入手可能。図書館も活用してください（大学図書館の図書を探す https://ci.nii.ac.jp/books/）。相続法改正については別途資料を配布予定。

担当者から一言

講義の内容に関する質問は、教室で受け付けています。そのほか、授業時間外学習を支援する目的で、不明な点があれば授業時間外でも回答ができるよう、メール等の手段により質問を受け付ける予定でいます。

倫理学

科目ナンバリング	1年次	2単位
GLAH1001	後学期	選　択

フェリペ・フェハーリ

授業のねらい

ギリシャ語では、「倫理学」は「エートスに関する諸々の事柄」という意味をもつが、「エートス」とは何であるのか。この語は「いつもの場所」、「慣れた行動の仕方」や「性格」などと様々な異なる意味をもっている。本講義の目的は、「エートス」とは何であるのかを考えながら、この言葉から派生した「倫理学（ethica）」の意味を探すことである。

到達目標

倫理学の立場から、現代社会の問題を議論すること。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法

受講態度：30％
ミニレポート：20％
最終レポート：50％
学生自身が記入したミニレポートを講義中にコメントします。

事前・事後学習

毎回の講義で配布した資料をしっかり読んで（毎週約90分）、不明な点があれば、次の授業でミニレポート用紙に書いてください。

授業の位置づけ

「一般教養科目」では、社会科学、人文科学、自然科学の３分野を、幅広く学び、学部ごとに設置された専門教育課程に向けた学修（教養）を積み上げていきます。

授業計画

第１講　ガイダンス・「倫理」とは何か
第２講　エートス
第３議　古代倫理
第４講　幸福論
第５講　中世倫理
第６講　近代倫理
第７講　現代倫理
第８講　「力」と「責任」
第９講　世界人権宣言
第10講　生命倫理
第11講　動物の権利
第12講　ジェンダー
第13講　マイノリティーの権利
第14講　人工知能とロボット工学三原則
第15講　まとめ

テキスト・教材（参考文献含む）

毎回、教員が資料を配布する。

担当者から一言

真剣に倫理学を教える人、学ぶ人、研究する人は必ず倫理的に生活していると思いますか？
善と悪、正と邪などは、時代、地域、宗教や文化などの要因によって変化しますが、「絶対的な倫理」と言うものはありますか？
上述のような問題を考えながら、一緒に「エートス」の意味、倫理学の意味を探しましょう。

哲学	科目ナンバリング	1年次	2単位
フェリペ・フェハーリ	GLAH1002	前学期	選　択

授業の位置づけ

「一般教養科目」では、社会科学、人文科学、自然科学の３分野を、幅広く学び、学部ごとに設置された専門教育課程に向けた学修（教養）を積み上げていきます。

授業のねらい

哲学においては、過去・現代を問わず、同じ問題が異なった形で出て来ている。本講義の目的は、古代ギリシャ以降2500年以上にもおよぶ哲学（philosophia）の根本的な問題を様々な哲学者の立場から明らかにすることである。

また、本講義では哲学の立場から現在社会の問題を考え、自らの力で「哲学は何のためにあるのか」という問いの答えを探す。

到達目標

現代社会の問題を考えながら、哲学の伝統的な問題について議論すること。

成績評価方法･課題･フィードバックの方法

受講態度:30％
ミニレポート:20％
最終レポート:50％
学生自身が記入したミニレポートを講義中にコメントします。

事前・事後学習

毎回の講義で配布した資料をしっかり読んで（毎週約90分）、不明な点があれば、次の授業でミニレポート用紙に書いてください。

授 業 計 画

第１講　ガイダンス･「哲学」とは何か
第２講　哲学の起源
第３講　哲学の三つの伝統
第４講　西洋と東洋
第５講　無知の知
第６講　洞窟の比喩
第７講　現実とは何か
第８講　ファルサファ
第９講　中世哲学
第10講　理性主義
第11講　近代哲学
第12講　超越とは何か
第13講　懐疑的解釈学
第14講　現代哲学
第15講　まとめ

テキスト・教材（参考文献含む）

毎回、教員が資料を配布する。

担当者から一言

本当の知識は無知から生まれます。これは2400年以上前のソクラテスの考えです。世界を理解するには、私たちも同じように、まずは自分の心の中にある偏見や差別などをすべて捨て、絶対的な信頼さえも疑わなければなりません。

文学	科目ナンバリング	1年次	2単位
永井　博	GLAH1003	前学期	選　択

授業の位置づけ

「一般教養科目」では、社会科学、人文科学、自然科学の３分野を、幅広く学び、学部ごとに設置された専門教育課程に向けた学修（教養）を積み上げていきます。

授業のねらい

この講義では、近代日本の反戦文学・反戦思想を取り上げる。安倍内閣による集団的自衛権の行使容認についての閣議決定は2014年７月１日、そしていわゆる安全保障関連法案の参議院での可決・成立は2015年９月19日のことであった。日本はより戦争をしやすい国になっているのであり、平和憲法の理念が揺らいでいるのである。このような現代の状況の中で、近代日本、あるいは19世紀から20世紀の世界で唱えられた反戦文学・反戦思想を振り返ることは非常に大きな意義がある。

到達目標

近代の貴重な精神的遺産である反戦文学・反戦思想をともに読むことで、平和な世界をいかに実現していくかについての考え方を学ぶことが目標である。

成績評価方法･課題･フィードバックの方法

受講態度50％、定期試験50％を目安に総合的に判断する。提出物は評価を付けたうえで翌週以降の講義で返却する。

事前・事後学習

普段から新聞やテレビやインターネットなどで、日本、アジア、そして世界の現在の戦争に関する報道に接しておくこと。講義では明治から昭和までの反戦文学・反戦思想を取り上げるが、常に現代の状況にも注意を払う必要があるからである。(90分)
また、講義で取り上げる与謝野晶子や内村鑑三などのテクストは、それぞれのテクストの原文の一部であることも多い。図書館などで簡単に読むことができるのでその全部を自分で読むこと。(90分)

授 業 計 画

第１回　ガイダンス
第２回　日露戦争概説
第３回　与謝野晶子「君死にたもうことなかれ」
第４回　陸羯南、主戦七博士の日露戦争主戦論
第５回　トルストイ「汝悔い改めよ」
第６回　幸徳秋水「戦争来」
第７回　内村鑑三の日露戦争非戦論
第８回　前半のまとめと復習（グループワーク）
第９回　ヴェトナム戦争概説
第10回　ボブ･ディラン「風に吹かれて」
第11回　武満徹･谷川俊太郎「死んだ男の残したものは」
第12回　日本国憲法第９条
第13回　加藤周一ほか「９条の会」
第14回　核戦争と「文学者の反核声明」
第15回　全体のまとめと復習（グループワーク）
定期試験

テキスト・教材（参考文献含む）

プリントなどの資料を配布する。

担当者から一言

この講義のテーマは反戦文学・反戦思想であり、取り上げる題材は主として日本の近代文学・現代文学である。しかし「日本」にも「文学」にもこだわるつもりはない。「外国」や「音楽などの文学以外のいろいろな表現」も取り上げるつもりである。

文章表現論

杉谷克芳

科目ナンバリング	1年次	2単位
GLAH1004	後学期	選　択

授業のねらい

日本語の正しい文章表現力を身につけることは､大学生のみならず、社会人にとっても欠かすことのできない必須項目の一つです｡そして、それは、自分自身の大きな財産になります。

日本語という言葉の特徴を客観的に捉え直し、日本語の文章表現力に更なる磨きをかけることを、この授業のねらいとします。

なお、この授業は留学生以外の者を対象とし、添削指導の都合上人数制限をすることがあります。

到達目標

この授業では、大学生に相応しいレベルで自分の考えを論理的に組み立て、それを正しく文章化することができるようになることを、到達目標とします。

成績評価方法･課題･フィードバックの方法

受講態度30％、講義内の小テスト30％、提出物（小論文）40％を目安に総合的に判断する（定期試験は行わない）。提出物は添削して翌週以降の講義で返却する。

事前・事後学習

予習としてテキストを読み次回の学習内容を理解しておくこと（90分）。また、授業後には復習として学習した内容をしっかり確認しておくこと(90分)。

授業の位置づけ

「一般教養科目」では、社会科学、人文科学、自然科学の３分野を、幅広く学び、学部ごとに設置された専門教育課程に向けた学修（教養）を積み上げていきます。

授 業 計 画

第１講:ガイダンス
第２講:言葉と表現を知ろう、その１(同音異義語、同訓異義語)
第３講:　　〃　　その２(同音異義語、同訓異義語)
第４講:　　〃　　その３(四字熟語)
第５講:　　〃　　その４(慣用表現、ことわざ、故事成語)
第６講:　　〃　　その５(慣用表現、ことわざ、故事成語)
第７講:日本語の作文技術　その１
第８講:　　〃　　その２
第９講:　　〃　　その３
第10講:書いてみよう、その１
第11講:書いてみよう、その２
第12講:　　〃　　その３
第13講:　　〃　　その４
第14講:　　〃　　その５
第15講:まとめ
＊授業内容と進度は、場合によって変更することがあります。

テキスト・教材（参考文献含む）

適宜プリント教材を配付します。
①米田明美ほか『大学生のための日本語表現実践ノート（改訂版)』（風間書房、1,000円＋税）
②本多勝一『日本語の作文技術』（朝日文庫)660円

担当者から一言

日本語の表現能力を向上させるための授業です。日本語の表現力を向上させるためには、普段から日本語文を読むこと、考えを文章化すること、さらに、様々な分野の語彙と多様な表現を増やす努力が不可欠です。私語、中座、携帯の使用は原則禁止とします。授業内での意欲的な取り組みを期待しています。

文章表現論

永井　博（留学生クラス）

科目ナンバリング	1年次	2単位
GLAH1004	後学期	選　択

授業のねらい

日本語に限らず、ことばについて学ぶということは、それによって生きる人間についての理解を深めるということである。それは単に文法や単語を覚えたりするだけのものではなく、ことばで生きている人間のものの考え方や感じ方を学ぶことである。私たちが日本語を学ぶ時も、日本語で考え、感じ、生きている人たちのものの考え方や感じ方を学ぶのである。このような理解に立って受講者全員で「文章」による「表現」の技術を磨きたい。なお、この永井のクラスは留学生を対象とし、添削指導の都合上、人数制限をすることがある。

到達目標

ことばについてさまざまな視点から理解を深めつつ、文章を書くことで自分の考えや感じ方をいかに人に伝えるか、そのトレーニングをし、文章を書く力をつけることを目標にしたい。

成績評価方法･課題･フィードバックの方法

漢字小テスト30％、定期試験50％、提出物20％を目安に総合的に判断する。提出物は添削して翌週以降の講義で返却する。

事前・事後学習

予習としては、漢字の小テストに備えてテスト範囲の漢字を練習しておくこと。(90分)
復習としては、教員の添削を経て返却された作文の課題について、訂正された箇所の正しい書き方を自分で振り返っておくこと。(90分)
また、文章の書き方についての本はたくさん市販されているので、自分でいくつか読んでみること。

授業の位置づけ

「一般教養科目」では、社会科学、人文科学、自然科学の３分野を、幅広く学び、学部ごとに設置された専門教育課程に向けた学修（教養）を積み上げていきます。

授 業 計 画

第１回　ガイダンス
第２回　原稿用紙の使い方①
第３回　原稿用紙の使い方②(実習)
第４回　推敲のしかた①
第５回　推敲のしかた②(実習)
第６回　テーマの決め方
第７回　資料の探し方①
第８回　資料の探し方②(実習)
第９回　論理的文章の書き方①
第10回　論理的文章の書き方②(実習)
第11回　文章作成の実際①(実習)
第12回　文章作成の実際②(実習)
第13回　文章作成の実際③(実習)
第14回　文章作成の実際④(実習)
第15回　文章作成の実際⑤(実習)
定期試験

テキスト・教材（参考文献含む）

プリントなどの資料を配布する。

担当者から一言

ドリルや小テスト、説明文の書き方を練習したものなど、ほぼ毎回提出物を出してもらうので、積極的に出席すること。教室に来て、自分なりに考え、文章を書く練習をすれば得るものはきっとある。

文化論

科目ナンバリング	1年次	2単位
GLAH1005	後学期	選　択

前川督雄

授業の位置づけ

「一般教養科目」では、社会科学、人文科学、自然科学の３分野を、幅広く学び、学部ごとに設置された専門教育課程に向けた学修（教養）を積み上げていきます。

授業のねらい

この講義の主題は、人間と文化です。
文化をもち言語を使う動物はたくさんいます。しかし、祝祭や葬礼を行う生き物は人類だけです。音楽は祝祭と密接に結びつき、古来、祝祭のなかで大切な役割を果たしてきました。世界各地の音楽には、民族の太古からの智慧がつまっています。また音楽は娯楽やコミュニケーションの重要な鍵となります。
「文化論」では、音楽と祭りを主な切り口にして文化人類学・民族藝術学の基礎を学びます。

到達目標

人類史の中で自分の立つ位置、現代の世界の中で自分の立つ位置について考えを深める。

成績評価方法･課題･フィードバックの方法

次の配分で総合評価します。
受講態度、学習意欲、小レポート等(40%)
定期試験(60%)
小レポートで示された重要な論点をその後の講義で採り上げます。

事前・事後学習

毎回の講義で提示した事例・理論を振り返り（90分)、鵜呑みにすることなく自分でも調べ直して、理解を深めるとともによく考えて下さい(90分)。
環境情報学部学生は、前後して「生命－情報－環境」（２年次前期開講）とあわせて履修することで、より重層的な理解が得られるでしょう。

授 業 計 画

第１講　ガイダンス／人間と動物の違い
第２講　人類はいつどこで生まれたのか
第３講　人類はどのように世界にひろがったのか
第４講　文化をつくる脳の働き
第５講　民族と文化（１）　アフリカ
第６講　文化の発展･伝播
第７講　民族と文化（２）　ペルシャ
第８講　民族と文化（３）　シルクロード
第９講　民族と文化（４）　日本
第10講　文明の生態史観
第11講　文化の衝突
第12講　文化相対主義
第13講　多文化共生と世界遺産
第14講　神と祭り　宗教と音楽
第15講　まとめ
定期試験
(内容･順序を必要に応じて変更することがあります)

テキスト・教材（参考文献含む）

テキストはありません。
必要に応じて資料を配付します。また、講義中に参考とする音楽・映像の視聴を行います。

担当者から一言

人文系列の枠組みを超えた学際的･総合的な講義内容になります。
この講義では知識の獲得よりも、自分で感じ、考えることを特に重視します。

日本史概論

科目ナンバリング	1年次	2単位
GLAH1007	前学期	選　択

岡　佑哉

授業の位置づけ

「一般教養科目」では、社会科学、人文科学、自然科学の３分野を、幅広く学び、学部ごとに設置された専門教育課程に向けた学修（教養）を積み上げていきます。

授業のねらい

現代の国際秩序・国家体制・社会状況・価値観などは、すべて歴史的な背景のもとに形成されているが、歴史というと単なる「暗記科目」という印象を持つ人も多いと思われる。
しかし、歴史学という学問は、常識にとらわれず通説を疑い、史料という根拠に基づき歴史上の人物・出来事・時代の捉え方を考察するものである。
本講義は、日本史（特に近現代史）を中心に教養としての知識のみならず、歴史学という学問の意義を学習する。その際、教科書的な通説とあわせ近年の研究を紹介し、歴史には多様な捉え方が存在することを学ぶ。

到達目標

①教養としての歴史（本講義は日本史中心）の知識を身につける。②知識を活用し文章で説明する力を身につける。③物事を複眼的・客観的に捉える力を身につける。

成績評価方法･課題･フィードバックの方法

①筆記試験（70%）、②平常点（30%）。出席が前提で、毎回講義の終わりに内容についての感想を書いたペーパーを提出。その取り組みを評価する。
コメントペーパーは次の回の講義で、質問への回答や事実関係の確認を行うことで、学生の理解の向上につなげる。

事前・事後学習

①本講義は特に復習に力を入れてほしい。講義のプリントを熟読しつつ、板書内容を整理し次回の講義に備える。②歴史は現代の世界・日本の出来事と繋がっている。大学生として新聞･ニュースを読むこと。(90分)

授 業 計 画

第１回　ガイダンス
第２回　日本文化のはじまり―縄文･弥生･古墳時代―
第３回　律令国家から王朝国家へ―飛鳥･奈良･平安時代―
第４回　武家政権の成立と展開―鎌倉･室町･戦国時代―
第５回　江戸幕府の支配体制―江戸時代―
第６回　討幕運動と明治新政府の成立―幕末･維新期―
第７回　国会開設運動と憲法制定―明治時代中期―
第８回　日清戦争と日露戦争―明治時代後期―
第９回　大正デモクラシー―大正時代―
第10回　満洲事変と「国家改造」運動―昭和戦前期―
第11回　日中戦争から日米開戦へ―昭和戦時期（１）―
第12回　アジア･太平洋戦争―昭和戦時期（２）―
第13回　戦後日本と象徴天皇制―昭和戦後期―
第14回　平成日本の政治と社会―現代―
第15回　講義の総括
定期試験

テキスト・教材（参考文献含む）

なし。毎回プリントを配布する。

担当者から一言

･遅刻･私語･スマホゲーム等厳禁。遅刻者にはプリント･出席カードは配布しない。
･無断早退、無断退出厳禁。
･コメントペーパーの代筆厳禁。
･コロナ感染状況の悪化時：オンデマンド型に変更する可能性（その際は指示）。出校禁止となり試験がレポートとなった場合、剽窃（＝他人の文章を盗むこと）は失格。

世界史概論

科目ナンバリング	1年次	2単位
GLAH1008	後学期	選　択

李　修二

授業の位置づけ

「一般教養科目」では、社会科学、人文科学、自然科学の３分野を、幅広く学び、学部ごとに設置された専門教育課程に向けた学修（教養）を積み上げていきます。

授業のねらい

多くの学生は、世界史というと高校で学んだ世界史の授業などを思い出すかもしれません。そして、高校世界史の授業では、しばしば暗記中心の学習が必要とされたことでしょう。けれども、大学で学ぶ世界史概論の講義では、もっとも大事な講義のねらいは、今日の私たちにまでつながっている人類の過去の生活や活動の中に営々と積み重ねられてきた知恵や手法や制度などに触れ、それらの意義を理解することにあります。つまり、何よりも講義の内容、そのストーリーの意味を理解することなのです。

授業計画

第１講　ガイダンス、世界史概論の課題
第２講　大航海時代とヨーロッパ勢力の拡張
第３講　フランス革命
第４講　イギリス産業革命
第５講　近代世界システムの中心　～イギリス、その１
第６講　近代世界システムの中心　～イギリス、その２
第７講　近代世界システムの半周辺　～フランス、ドイツ
第８講　近代世界システムの半周辺　～アメリカ
第９講　近代世界システムの半周辺　～ロシア、日本
第10講　近代世界システムの半周辺　～中国
第11講　近代世界システムの周辺　～アイルランド、インド
第12講　近代イギリスにおける社会福祉の発達
第13講　第一次世界大戦と1920年代
第14講　世界大恐慌と1930年代
第15講　第二次世界大戦と戦後再建構想
定期試験

到達目標

講義での到達目標は、これらの歴史のストーリーを単に年代記風に学ぶのではなく、注目すべき出来事やそれらの因果関係などを考察しながら、欧米を中心とした世界の主要な国々の歴史を相互比較しつつ学ぶことによって、近代以降ますます相互関連のつながりを深めてきた世界各国の歴史の流れを理解することです。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法

毎授業ごとのミニッツペーパーで40％評価し、講義ノートを試験範囲とする学期末の筆記試験で60％評価します。（ミニッツペーパー評価基準はガイダンス時に説明します。授業ごとの提出ミニッツペーパーや質問等には、MOODLEを通じて、評価結果や応答をフィードバックします。）
なお、筆記試験時の持ち込みは不可。試験終了後、希望者には解答を公表します。

テキスト・教材（参考文献含む）

書き込み式の講義ノートを毎回プリントにして配布します。他にテキストは使用しません。
参考文献：
W・H・マクニール『世界史（下）』（2008年、中公文庫）
高校世界史教科書（いずれの出版社のでもよい。）

事前・事後学習

毎回の授業の後、ミニッツペーパー（小レポート）を書いてもらい、次の授業回までに提出してもらいます。また、必ず前回分の講義ノートを復習して授業にのぞんでください。（復習・予習、計60分以上）さらに、参考文献など授業内容に関連した歴史書を図書館などで毎週読書するようにしてください。（30分以上）

担当者から一言

講義の聴き方としては、とにかくストーリーに付いてくること。そのうち興味が持てるようになってきたらしめたものです。講師に質問するなり図書館で本から調べるなりも、してみてください。この講義の単位を修得したのちには、そのことを、ちょっとした自信にすることもできるでしょう。

科学的思考論

科目ナンバリング	1年次	2単位
GLAN1001	後学期	選　択

吉山青翔

授業の位置づけ

「一般教養科目」では、社会科学、人文科学、自然科学の３分野を、幅広く学び、学部ごとに設置された専門教育課程に向けた学修（教養）を積み上げていきます。

授業のねらい

今日、国際社会で、日本が果たす役割が大きくなりつつあり、そして、近年、数多くの日本人科学者がノーベル賞を受賞しているに伴い、日本の科学、技術、さらに日本人の科学的な独創力と科学的思考方式はますます注目されています。
本講義は、江戸時代における日本人の数学の思考様式と特徴、それの形成と社会的創造風土の関係、さらに近代日本社会とのつながりを中心として日本人の科学的思考様式をさぐります。

授業計画

第１講　ガイダンス
第２講　科学、技術、そして社会との基本的な関係
第３講　日本における伝統科学と近代科学の構図
第４講　日本の伝統天文学と医学、及びその基礎～中国の伝統天文学と医学
第５講　日本の伝統科学と朝鮮の伝統科学との関連性
第６講　日本数学の基礎１：中国の数学記号体系
第７講　日本数学の基礎２：中国の代数学思想
第８講　日本数学の基礎３：中国の方程式思想
第９講　日本数学の伝統：遺題継承と算額奉掲
第10講　日本の伝統的な数学記号体系：傍書法
第11講　日本の伝統的な導関数：窮商
第12講　日本の伝統的な極限法：増約術
第13講　日本の伝統的な積分法：円理
第14講　日本伝統科学の衰退と近代西洋科学の受容
第15講　総括

到達目標

日本人の科学的思考様式および科学上の発見と発明の特徴を歴史的に把握し、日本の科学技術に関する諸社会的問題に関する理解に思想的な基礎を据えることができるでしょう。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法

中間テスト（30点）と期末テスト（70点）により総合評価。

テキスト・教材（参考文献含む）

テキスト
　王青翔（＝吉山青翔）著『算木を超えた男～もう一つの近代数学と関孝和』（東洋書店、2004年第２刷発行）
参考文献
　藪内　清著『中国の数学』（岩波文庫）
　小倉金之助著『日本の数学』（岩波文庫）

事前・事後学習

授業前に90分ほどをかけて指定された資料とテキストを予習しておき、授業後にも90分ほどをかけて、配布された資料、自分が取ったノート、テキストを使って復習してください。

担当者から一言

１）本講義は一般教養科目ですので、公務員試験など資格試験には直接役に立ちません。２）授業中、パワーポイントなど電子機器を使わず、板書がやや多いので、ノートを取らない者は本講義には不向きです。

科学思想史

科目ナンバリング	1年次	2単位
GLAN1002	前学期	選　択

吉山青翔

授業のねらい
本講義は、近代西欧科学思想史を中心として、古代から近代までの科学史の通史の探求を通じて、自然科学の誕生過程と発展の特徴、科学的な宇宙観、および社会や宗教等との関係を探り、科学の本当の姿に迫ります。

到達目標
自然科学の全体的な姿を歴史的に把握すること、また、科学技術と人間社会との関係や、近代社会にもたらす諸問題に関する思考、解決に導くための思想的な理論基礎を築くことができるでしょう。

成績評価方法･課題･フィードバックの方法
中間テスト(30点)･期末定期試験(70点)により総合評価。

事前・事後学習
授業前に1時間半ほどをかけて指定された資料を読み､予習しておき、授業後にも1時間半ほどをかけて配布された資料と自分のとったノートを使って、授業の内容を復習してください。

授業の位置づけ
「一般教養科目」では、社会科学、人文科学、自然科学の3分野を、幅広く学び、学部ごとに設置された専門教育課程に向けた学修（教養）を積み上げていきます。

授 業 計 画
第1講　ガイダンス
第2講　古代オリエント科学の概観
第3講　古代ギリシア科学の概観
第4講　アリストテレスの自然学
第5講　中世の科学と近代大学の誕生
第6講　近代科学の開始:コペルニクスの地動説の成立
第7講　地動説をめぐって科学と宗教の闘争:ガリレオ裁判
第8講　万有引力法則の発見と近代力学の成立
第9講　理髪師から近代解剖学へ
第10講　血液循環説の確立と近代医学の成立
第11講　酸素の発見と近代化学の成立
第12講　進化論の確立と近代生物学の成立
第13講　蒸気エネルギーの発見と産業革命、そして、近代環境問題の発生
第14講　女性の自然科学領域への進出と環境科学の誕生
第15講　総括

テキスト・教材（参考文献含む）
テキスト　とくになし。授業の内容に合わせて参考資料を指定・配布します。

担当者から一言
1）本講義は一般教養科目ですので、公務員試験などの資格試験に直接役に立ちません。2)授業中、必要時に資料を配布しますが、パワーポイントなど電子機器を基本的に使わず、板書の量が多くて、ノートを取らない者は本講義に不向きであります。

自然科学概論

科目ナンバリング	1年次	2単位
GLAN1003	後学期	選　択

田中伊知郎

授業のねらい
個人を扱うのが文学で、ムラの人々のような集団を議論するのが社会学や文化人類学ですが、さらに大きな集合的な見方をするのが自然科学です。それは人間だけでなく、物質やその関係などの自然現象全体に広がります。そして、経済活動でも同じ動きが見られます。それらはどのように変化するかを説明します。

到達目標
文学のように個人を扱うのでなく､集団としての見方を獲得します。さらに、たし算や掛け算などと違う自然の変化の仕方を見通す能力を身につけます。

成績評価方法･課題･フィードバックの方法
講義内各回の終わりに練習問題(実習：実践課題)をやります。講義中の課題は、コメントをつけて、合格するまでやり直してもらいます。
実践課題　60%　定期試験　40%

事前・事後学習
授業当日に講義内容のノートを見返して、メモした疑問点を調べてください(60分)。2・3日後に、ノートを再度読んで(30分)、その次に当たることを考えてください(30分)。講義の前日に、ノートを読み返して、ノートの空白に書き込み整理してください(60分)。

授業の位置づけ
「一般教養科目」では、社会科学、人文科学、自然科学の3分野を、幅広く学び、学部ごとに設置された専門教育課程に向けた学修（教養）を積み上げていきます。

授 業 計 画
第1講　ガイダンス:自然観察の有益性
第2講　自然現象と人間の思いの違い
第3講　事実
第4講　仲間(人間社会)から自然へ
第5講　個別でなく集団で考える:集合(分類からの実習)
第6講　自然数から連続量へ
第7講　指数の導入:細菌の増殖
第8講　桁数と指数(計算実習)
第9講　日常の指数:複利と物価(計算実習)
第10講　借金と情報の非対称性(ローン計算実習)
第11講　客観的な関係である関数:一次関数と予測可能性の実習
第12講　指数関数:立ち上がりの早さ(グラフ作成実習)
第13講　ゆらぎ
第14講　統計的比較と有意確率)
第15講　まとめ:自然科学の客観性
定期試験　持ち込み不可

テキスト・教材（参考文献含む）
なし。

担当者から一言
できるだけ日常的な言葉で説明します。実践課題の結果、理解の浅いところは、講義を修正して再度行い、より深い理解に努力します。

数学概論

科目ナンバリング	1年次	2単位
GLAN1004	前学期	選　択

山本敦也

授業の位置づけ

「一般教養科目」では、社会科学、人文科学、自然科学の３分野を、幅広く学び、学部ごとに設置された専門教育課程に向けた学修（教養）を積み上げていきます。

授業のねらい

高度な数学を学ぶための基礎力を養う講義です。
特に数学的な考え方を理解することに重点をおく。

到達目標

（１）数学的な物の考え方ができるようになる。
（２）基礎的な数学を理解する。

成績評価方法･課題･フィードバックの方法

講義中のミニテスト(40％)、定期試験(60％)

事前・事後学習

予習:講義の予定内容を高校までの教科書で予習する。
復習:講義中のミニテストを完答する。

授 業 計 画

1　ガイダンス
2　分離量と連続量
3　正と負
4　代数
5　図形
6　円
7　複素数
8　合同式
9　関数
10　極限
11　回転
12　微分
13　積分
14　微分方程式
15　まとめ
定期試験

テキスト・教材（参考文献含む）

教科書:配布資料

担当者から一言

数学の考え方を理解すると、数学に対する苦手意識がやわらぐと思います。なるべく式を使わないでわかりやすい講義を目指します。

化学概論

科目ナンバリング	1年次	2単位
GLAN1005	前学期	選　択

牧田直子

授業の位置づけ

「一般教養科目」では、社会科学、人文科学、自然科学の３分野を、幅広く学び、学部ごとに設置された専門教育課程に向けた学修（教養）を積み上げていきます。

授業のねらい

化学は物質を扱う学問であり、「化学の目＝物質を見る目」を養うことがこの講義のねらいである。自然界は様々な物質によって成り立っており、それらの正体が何なのか、その物質に関する自然の法則を探求していくのが化学である。物質を作る原子や変化のしくみを学び、様々な角度から物質を眺めることによって、物質の本質に迫る手段を増やすことができる。これらは電子の配置や挙動を追うことで説明できるので、電子については詳しく解説する。
関連科目は「環境化学」、「環境化学実験」など。

到達目標

「元素の周期表から的確な情報を引き出す」
物質の構成要素がわかれば、その物質の性質を予測する手がかりになる。物質は元素で構成されており、元素の一覧表である周期表から非常に多くの情報を読み取ることができる。周期表を使いこなせるようになろう。

成績評価方法･課題･フィードバックの方法

宿題プリント(13回分)：25％、定期試験:75％
宿題は翌週の講義開始10分以内に提出。遅れたものは受け取らない。欠席・遅刻の予定がある者は前日までに提出すればよい。宿題の評価は正解率ではなく、解答率(問題数に対する解答数)に準ずる。
宿題プリントと授業内に行った演習プリントは、採点して返却する。

事前・事後学習

（１）予習･復習のために宿題プリントを配るので、解答する(90分)。
（２）教科書を読む(60分)。各回の講義に該当する教科書のページ数を明記した講義計画を初回の授業で配布する。予習のポイントは宿題プリントに記載する。
（３）ノートの見直し、まとめ(30分)。

授 業 計 画

第１講　ガイダンス、化学の学び方
第２講　物質とは何か
第３講　身の回りの物質
第４講　物質の性質
第５講　物質の状態
第６講　原子と電子軌道
第７講　電子配置と周期表
第８講　化学結合１
第９講　化学結合２、物質量
第10講　気体と溶液の性質
第11講　化学反応
第12講　酸と塩基
第13講　酸化と還元
第14講　光
第15講　まとめ
定期試験

テキスト・教材（参考文献含む）

教科書:
日本化学会 化学教育協議会「グループ・化学の本21」編「『化学』入門編 ― 身近な現象・物質から学ぶ化学のしくみ」化学同人(2007)、2,160円(税込)

担当者から一言

ノートを用意して下さい（ルーズリーフは不可）。試験は自筆のノートと電卓のみ持ち込みを許可します。
講義で分からなかったことは聞きましょう。授業後の質問、プリントの事前提出･受取は６号館４階6412室へ。

地学概論

科目ナンバリング	1年次	2単位
GLAN1006	前学期	選　択

森　康則

授業の位置づけ

「一般教養科目」では、社会科学、人文科学、自然科学の３分野を、幅広く学び、学部ごとに設置された専門教育課程に向けた学修（教養）を積み上げていきます。

授業のねらい

環境問題を考えるための土台となる地学の基礎的事項を、地震や火山といった自然災害など、実際の地学的事象を交えながら、学びます。

到達目標

地球の成り立ちや、その構造を理解するとともに、それらを構成する岩石の特徴や、地震や火山などの活動に伴う地層の成り立ちなど、あらゆる地学的自然現象を網羅的に理解します。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法

（１）各回の講義の小テスト
　　５点×15回＝75点
　（遅刻、早退は減点の対象になります）
（２）定期試験　25点
　　計100点

事前・事後学習

各講義の最後に、次週の講義内容に関連した課題を出題しますので、予習としてその課題を取り組み（90分）、講義終了後は、講義内容を復習として整理してください（90分）。各講義の小テストや定期試験は、講義内容あるいはそれに関連する内容から出題します。

授 業 計 画

第１講　ガイダンス・地学とは
第２講　地球の構造と形状
第３講　岩石と鉱物１
第４講　岩石と鉱物２
第５講　化石
第６講　地質年代１
第７講　地質年代２
第８講　堆積作用
第９講　プレートテクトニクス
第10講　地震
第11講　火山
第12講　自然災害
第13講　地下水
第14講　気象・宇宙
第15講　まとめ

テキスト・教材（参考文献含む）

特になし。

担当者から一言

高校で地学を履修していない学生が多いと思いますので、その想定の上で講義を進めます。毎回の講義のはじめには、予習課題と小テストの答え合わせを行い、その際には受講者に発言を求めます。その他にも、講義の中で受講者に発言を求める場面が多々ありますので、受講者には積極的な姿勢を期待します。

生物学概論

科目ナンバリング	1年次	2単位
GLAN1007	前学期	選　択

田中伊知郎

授業の位置づけ

「一般教養科目」では、社会科学、人文科学、自然科学の３分野を、幅広く学び、学部ごとに設置された専門教育課程に向けた学修（教養）を積み上げていきます。

授業のねらい

自然科学のうち生物学が扱うことを、はっきりさせて行きます。まず、生物の活動に必要なエネルギーについて、次に、生物がどのように情報を処理するのか（生理学的な情報と遺伝学的な情報）を明らかにしていきます。

到達目標

人類の諸問題を考える上で、土台となる人間についての知識を養うこと、人間の生物としての特徴が生活や社会にどのように影響するのか明らかにすることをこの講義の到達目標とします。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法

講義の各回の終わりに練習問題（実践課題）をやります。講義中の課題は、コメントして合格するまでやり直してもらいます。
実践課題　60％　定期試験　40％

事前・事後学習

授業当日に講義内容のノートを見返して、メモした疑問点を調べてください（60分）。２・３日後に、ノートを再度読んで（30分）、その次に当たることを考えてください（30分）。講義の前日に、ノートを読み返して、ノートの空白に書き込み整理してください（60分）。

授 業 計 画

第１講　ガイダンス・自然に働きかける人間：大学周辺の森の見学（フィールドワーク）
第２講　生物のエネルギー：代謝
第３講　光合成：エネルギーの生産
第４講　呼吸：エネルギーの活用
第５講　生体物質：反応できる窒素
第６講　タンパク質：安定した生体物質
第７講　RNA：即時処理のための核酸（形を理解する実習）
第８講　遺伝的情報：安定した核酸であるDNA
第９講　遺伝子：DNA内の情報システム
第10講　遺伝子発現の情報処理
第11講　生物の環境応答：刺激の受容
第12講　生理的情報：刺激伝達と神経システム
第13講　生理的情報の統合：興奮と抑制
第14講　環境への反応：効果器の代表としての筋肉
第15講　行動：統合された反応
定期試験　持ち込み不可

テキスト・教材（参考文献含む）

なし。

担当者から一言

生物同士や生物と外部環境のかかわり合いのパターンを知る便利な手段が「生物学」です。DNAと遺伝子の違いなど、日常よく使われていながら誤解の多い言葉の意味に注意して、できるだけ日常的な言葉で説明します。

生物と進化

田中伊知郎

科目ナンバリング	1年次	2単位
GLAN1008	後学期	選　択

授業のねらい

自然科学のうち生物学が扱う分野の視点をはっきりさせて行きます。まず、生物が、お互いに地球上でどのようなかかわり合いを持って生きているのか明らかにしていきます（生態系）。次に、百万年単位の長い時間で見ると、生き物の生き方（姿かたちや行動パターン）は変わっていきます（進化）。特に、人類がどのように変化してきたのか明らかにしていきます。

到達目標

環境問題を考える上で、土台となる知識（生物のエネルギー生産・生態系）を養うこと、人間の生物としての特徴を進化の視点から明らかにすることをこの講義の到達目標とします。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法

講義の各回の終わりに練習問題（実践課題）をやります。講義中の課題は、コメントをつけて、合格するまでやり直してもらいます。
実践課題　60%　定期試験　40%

事前・事後学習

授業当日に講義内容のノートを見返して、メモした疑問点や化石や遺跡などの画像を調べてください（60分）。２・３日後に、ノートを再度読んで（30分）、その次に当たることを考えてください（30分）。講義の前日に、ノートを読み返して、ノートの空白に書き込み整理してください（60分）。

授業の位置づけ

「一般教養科目」では、社会科学、人文科学、自然科学の３分野を、幅広く学び、学部ごとに設置された専門教育課程に向けた学修（教養）を積み上げていきます。

授業計画

第１講　ガイダンス・自然環境と人間：大学周辺の森の見学（フィールドワーク）
第２講　生態系：動物と植物の関係
第３講　生態系：草食動物と肉食動物
第４講　生態系：肉食動物と食物連鎖（海中）
第５講　生態系：疎水性物質の生物濃縮
第６講　生態系：環境との相互作用・日本の植生の特徴
第７講　生態系：採集狩猟社会と環境変化
第８講　生態系：農業の特徴
第９講　進化の定義
第10講　進化：分岐年代
第11講　進化：化石から見た人類進化・骨の意味するもの（人類の特徴の作図実習）
第12講　進化：化石から見た人類進化・祖先の運動パターン（腕渡りの作図実習）
第13講　進化：直立二足歩行の起源（腕渡りとの関係の作図実習）
第14講　進化：人類進化のまとめ
第15講　進化：ダイナミックな進化の示唆
定期試験　持ち込み不可

テキスト・教材（参考文献含む）

なし。

担当者から一言

生物同士や生物と外部環境のかかわり合いのパターンを知る便利な手段が「生物学」です。DNAと遺伝子の違いなど、日常よく使われていながら誤解の多い言葉の意味に注意して、できるだけ日常的な言葉で説明します。

環境論

吉山青翔

科目ナンバリング	1年次	2単位
GLAN1009	後学期	選　択

授業のねらい

この講義では、環境に関する基本的な概念と含意を明らかにしたうえで、環境問題史・環境運動史・環境思想史」の探求を通して、受講者に環境問題の全体像を把握させ、環境問題の解決に対する基本的な思想的基礎を据えさせることを目指します。

到達目標

環境問題の全体像を把握し、自分の環境観の形成を期待することができるでしょう。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法

中間テスト（30点）・期末定期試験（70点）により総合評価。毎回授業が終わる前に、授業の内容と質問に関するミニレポートを提出してもらい、次回授業でそれに基づいて再確認とコメントする。

事前・事後学習

授業前に次回の授業内容を確認し、それに関する指定、あるいは配布された資料を使って1時間半ほどをかけて予習しておき、授業後に自分の取ったノートと配布された資料を使って1時間半ほどをかけて復習してください。

授業の位置づけ

「一般教養科目」では、社会科学、人文科学、自然科学の３分野を、幅広く学び、学部ごとに設置された専門教育課程に向けた学修（教養）を積み上げていきます。

授業計画

第１講　ガイダンス：環境論の仕組み及び課題
第２講　「自然」の定義と仕組み
第３講　「環境」の定義と仕組み
第４講　「文化」の定義と仕組み
第５講　「人間」の定義及び「自然」「環境」「文化」との関連性
第６講　環境に関する人類の認識１：ヒポクラテスによる医学上の見解
第７講　環境に関する人類の認識２：C．ダーウィンによる生物学上の見解
第８講　中間テスト
第９講　環境に関する人類の認識３：C．ベルナールによる生理学上の見解
第10講　環境に関する人類の認識４：C．ラッツェルによる地理学上の見解
第11講　科学と技術の結合、及び蒸気エネルギーの発見
第12講　蒸気エネルギーの実用化と産業革命、及び近代環境問題の発生
第13講　環境に関してレイチェル・カーソンと「ローマ・クラブ」の警告
第14講　国連「人間環境宣言」と環境保護運動のグローバル化
第15講　総括：環境問題の解決に対する思想的基礎：環境倫理学

テキスト・教材（参考文献含む）

参考資料
　岸根　卓郎『環境論　環境問題は文明問題』（ミネルヴァ書房、2004年）
　フランク・ユケッター著、和田佐規子訳『ナチスと自然保護』（築地書館株式会社、2015年）
　その他（随時に授業内容に関する資料指定・配布します）

担当者から一言

この講義は板書がやや多いので、ノートを取ることが苦手な者には不向きです。

心理学

田中伊知郎

科目ナンバリング	1年次	2単位
GLAN1010	後学期	選　択

授業のねらい

情報処理理論と自然科学に基づく認知心理学の視点から、私たちが外界から得る情報の特徴を解説します。この人類に特徴的な過程を明らかにすることと、もう一つ人類が普遍的に行っている「相手に理解してもらえる情報伝達（教えること）」とはどういうものかを明らかにすることを講義のねらいとします。

到達目標

生物として、および神経系の情報処理から生じる「表現と伝達における人類の特性」を理解してもらいます。また、単に情報を発信しても相手が理解することは、ほとんどありません。人類の特性に基づく相手にわかってもらえる情報伝達の実践を到達目標にします。

成績評価方法･課題･フィードバックの方法

講義中の実践課題　40%　レポート　40%　定期試験　20%
講義中の課題は、コメントして合格するまでやり直してもらいます。
レポートはコメントをつけて以降の講義で返却します。

事前・事後学習

授業当日に講義内容のノートを見返して、メモした疑問点を調べてください(60分)。２・３日後に、ノートを再度読んで(30分)、その次に当たることを予習として調べてください(30分)。講義の前日に、ノートを読み返して、ノートの空白に書き込み整理してください(60分)。

授業の位置づけ

「一般教養科目」では、社会科学、人文科学、自然科学の３分野を、幅広く学び、学部ごとに設置された専門教育課程に向けた学修（教養）を積み上げていきます。

授 業 計 画

第１講　ガイダンス･視覚情報:色彩　色の対処理
第２講　視覚情報･色彩　赤と青を同時に使わない(実習)
第３講　視覚情報･色彩　表現(映像･絵画)における補色の利用
第４講　資格情報･色彩　色鉛筆で絵を描きます(実習)
第５講　視覚情報･形　両眼視
第６講　視覚情報･形　アフォーダンス
第７講　視覚情報･アフォーダンス　実習１　ボケの効果
第８講　視覚情報・アフォーダンス　実習２　空気遠近を用いた作画(実習)
第９講　実験心理学からみた学習
第10講　個体学習と社会学習の違い
第11講　社会学習における課題
第12講　人類における｢教えること｣の成立(レポート課題の配布)
第13講　理解できるコミュニケーションの基礎となる同情と共感
第14講　実験心理学の技法･統計:因子分析を例にして
第15講　レポート返却(コメント付き)･講評
定期試験　各自のコメントに関連した問題

テキスト・教材（参考文献含む）

なし。

担当者から一言

教育は一方向の情報発信でなく、双方向の情報通信によって達成されます。実践課題をすぐに評価するなど、みなさんの対応から授業の流れを機動的に変えて、よりよい理解を目指します。

キャリア基礎Ⅰ　実務

岩崎祐・岡良・永井・田中伊・樋口・牧田・吉山・李

科目ナンバリング	1年次	2単位
GECC1001	後学期	必　修

授業のねらい

この科目では｢キャリア基礎Ⅰ｣と｢キャリア基礎Ⅱ｣の30回の授業を通じて、皆さんの将来に向けた進路選択、特に就職に役立つ知識や技法、心構えの初歩を学びます。｢キャリア基礎Ⅰ｣では、とりわけ就職をとりまく社会環境がどのようなものかを理解することを主なねらいとします。具体的には、働き方や地域の産業・経済、労働者の権利や大学生の雇用・求人の情勢などを理解します。あわせて採用試験に備えた基礎学力の習得をめざします。

到達目標

以下の３つが目標です。
①　働く意義について考える。
②　就業環境について理解する。
③　採用試験の基礎知識を習得する。

成績評価方法･課題･フィードバックの方法

期末試験50%、平常点(受講態度および課題の取り組み姿勢)50%
課題は適宜コメントをして返却します。

事前・事後学習

予習:あらかじめテキストを読んでおくこと(90分)。
復習:講義の内容や課題を復習しておくこと(90分)。

授業の位置づけ

「キャリア科目」では、学士にふさわしい職業観の育成を図り、人生を通じて通用する学士号を持つ職業人としての資質の獲得を目指します。

授 業 計 画

第１講　ガイダンス／キャリアをどう考えるか 10/３
第２講　課題と実習(社会人基礎力①)10/10
第３講　課題と実習(社会人基礎力②)10/17
第４講　知っておきたい採用試験の基礎① 10/24
第５講　知っておきたい採用試験の基礎② 10/31
第６講　働き方はどうなっているか 11/７
第７講　経営者によるキャリア講演会 11/14
第８講　課題と実習 11/21
第９講　知っておきたい採用試験の基礎③ 11/28
第10講　働く者の権利 12/５
第11講　知っておきたい採用試験の基礎④ 12/12
第12講　知っておきたい採用試験の基礎⑤ 12/19
第13講　大学生の雇用と求人の情勢 12/26
第14講　キャリアサポートセンターについて １/16
第15講　まとめ １/23

テキスト・教材（参考文献含む）

テキストはクラス担当教員から配付します。
毎回の講義には必ず持参してください。

担当者から一言

就職は卒業までに必ず考えなければならない事柄です。主体的に取り組んでいただきたいと思います。

キャリア基礎Ⅰ（公務員クラス） 実務	科目ナンバリング	１年次	２単位
高田晴美・中西紀夫	GECC1001	後学期	必　修

授業のねらい

この科目では「キャリア基礎Ⅰ」と「キャリア基礎Ⅱ」の30回の授業を通じて、公務員も含めた皆さんの将来に向けた進路選択、特に就職に役立つ知識や技法、心構えの初歩を学びます。「キャリア基礎Ⅰ」では、とりわけ就職をとりまく社会環境がどのようなものかを理解することを主なねらいとします。具体的には、働き方や地域の産業・経済、労働者の権利や大学生の雇用・求人の情勢などを理解します。あわせて採用試験に備えた基礎学力（数学と国語の基礎）の習得をめざします。

到達目標

以下の３つが目標です。
① 働く意義について考える。
② 就業環境について理解する。
③ 公務員試験、一般企業の採用試験の基礎知識を習得する。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法

期末試験 50％
平常点（受講態度および課題の取り組み姿勢）50％
課題は適宜コメントをして返却します。

事前・事後学習

予習：あらかじめテキストを読んでおくこと（90分）。
復習：講義の内容や課題を復習しておくこと（90分）。

授業の位置づけ

「キャリア科目」では、学士にふさわしい職業観の育成を図り、人生を通じて通用する学士号を持つ職業人としての資質の獲得を目指します。

授 業 計 画

第１講　ガイダンス／キャリアをどう考えるか
第２講　課題と実習（社会人基礎力①）
第３講　課題と実習（社会人基礎力②）
第４講　知っておきたい採用試験の基礎①
第５講　知っておきたい採用試験の基礎②
第６講　働き方はどうなっているか
第７講　知っておきたい採用試験の基礎③
第８講　公務員の職種について
第９講　知っておきたい採用試験の基礎④
第10講　働く者の権利
第11講　知っておきたい採用試験の基礎⑤
第12講　知っておきたい採用試験の基礎⑥
第13講　大学生の雇用と求人の情勢
第14講　キャリアサポートセンターについて
第15講　知っておきたい採用試験の基礎⑦

テキスト・教材（参考文献含む）

テキストはクラス担当教員から配付します。
毎回の講義には必ず持参してください。

担当者から一言

公務員志望者のためのクラスです。１年生前学期中に公務員クラスを希望するか調査します。志望者はこの科目と並行して、「公務員養成ユニット」科目も全科目、開講年次通りに履修してください。

キャリア基礎Ⅱ 実務	科目ナンバリング	２年次	２単位
岩崎祐・岡良・鬼頭・永井・田中伊・樋口・牧田・吉山・李	GECC1002	前学期	必　修

授業のねらい

この科目では「キャリア基礎I」と「キャリア基礎Ⅱ」の30回の授業を通じて、将来に向けた進路選択、特に就職に役立つ知識や技法、心構えの初歩を学びます。
「キャリア基礎Ⅱ」では、自己分析・自己PRを中心に行います。自己分析とは「どんなシゴトがしたいか」「どんなシゴトが自分に向いているか」「どんな会社に行きたいか」を自覚することをいいます。ここでは初めて自己分析・自己PRを行う学生を前提にその手法を学びながら自己分析・自己PRを行っていただきます。あわせて採用試験に備えた基礎学力の習得をめざします。

到達目標

以下の４つの到達目標があります。
① 自己分析のさまざまな方法を習得し、実際に行ってみること。
② 自己PRの方法を学習し、自らの自己PRを考えてみること。
③ 履歴書やエントリーシートを作成すること。
④ 採用試験の基礎を習得すること。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法

期末試験50％、平常点（受講態度および課題の取り組み姿勢）50％
課題は適宜コメントをして返却します。

事前・事後学習

予習：あらかじめテキストを読んでおくこと（90分）。
復習：講義の内容や課題を復習しておくこと（90分）。

授業の位置づけ

「キャリア科目」では、学士にふさわしい職業観の育成を図り、人生を通じて通用する学士号を持つ職業人としての資質の獲得を目指します。

授 業 計 画

第１講　ガイダンス／自己分析のすすめ ４/11
第２講　自己分析実習①適性をみる ４/18
第３講　知っておきたい採用試験の基礎⑥ ４/25
第４講　自己分析実習②過去の自分をふりかえる ５/９
第５講　自己分析実習③他者の意見を聞く ５/16
第６講　知っておきたい採用試験の基礎⑦ ５/23
第７講　自己分析実習④未来の自分を考える ５/30
第８講　自己分析実習⑤自己PRを考える ６/６
第９講　知っておきたい採用試験の基礎⑧ ６/13
第10講　業界・企業研究のすすめ ６/20
第11講　企業研究実習 ６/27
第12講　知っておきたい採用試験の基礎⑨ ７/４
第13講　履歴書・エントリーシートを書く（実習）① ７/11
第14講　履歴書・エントリーシートを書く（実習）② ７/18
第15講　知っておきたい採用試験の基礎⑩ ７/25

テキスト・教材（参考文献含む）

テキストはクラス担当教員から配付します。
毎回の講義には必ず持参してください。

担当者から一言

自分を客観的に見つめ直し、将来を考えるよい機会です。主体的に取り組んでいただきたいと思います。

キャリア基礎Ⅱ（公務員クラス） 実務	科目ナンバリング	２年次	２単位
高田晴美・中西紀夫	GECC1002	前学期	必　修

授業の位置づけ

「キャリア科目」では、学士にふさわしい職業観の育成を図り、人生を通じて通用する学士号を持つ職業人としての資質の獲得を目指します。

授業のねらい

この科目では「キャリア基礎Ⅰ」と「キャリア基礎Ⅱ」の30回の授業を通じて、将来に向けた進路選択、特に就職に役立つ知識や技法、心構えの初歩を学びます。「キャリア基礎Ⅱ」では、自己分析・自己PRを中心に行います。自己分析とは「どんなシゴトがしたいか」「どんなシゴトが自分に向いているか」「どんな会社・自治体・組織に行きたいか」を自覚することをいいます。ここでは初めて自己分析・自己PRを行う学生に対してその手法を学びながら自己分析・自己PRを作成します。あわせて公務員試験に備えた基礎学力の習得（「数的推理」の補足。

到達目標

以下の４つの到達目標があります。
① 自己分析・自己PRの手法を習得し、実際に行ってみること。
② 業界研究の方法を習得すること。（公務員だけでなく一般企業も研究しよう）
③ 履歴書やエントリーシートを作成すること。
④ 採用試験の基礎（数的推理の図形分野）を習得すること。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法

期末試験50％、平常点（受講態度および課題の取り組み姿勢）50％
課題は適宜コメントをして返却します。

事前・事後学習

予習：あらかじめテキストを読んでおくこと（90分）。
復習：講義の内容や課題を復習しておくこと（90分）。

授 業 計 画

第１講　ガイダンス／自己分析のすすめ
第２講　自己分析実習①適性をみる
第３講　知っておきたい採用試験の基礎⑧
第４講　自己分析実習②過去の自分をふりかえる
第５講　自己分析実習③他者の意見を聞く
第６講　知っておきたい採用試験の基礎⑨
第７講　自己分析実習④未来の自分を考える
第８講　自己分析実習⑤自己PRを考える
第９講　知っておきたい採用試験の基礎⑩
第10講　業界・企業研究のすすめ
第11講　企業研究実習
第12講　知っておきたい採用試験の基礎⑪
第13講　履歴書・エントリーシートを書く（実習）①
第14講　履歴書・エントリーシートを書く（実習）②
第15講　知っておきたい採用試験の基礎⑫

テキスト・教材（参考文献含む）

テキストはクラス担当教員から配付します。
毎回の講義には必ず持参してください。

担当者から一言

公務員志望者のためのクラスです。公務員として働く自分の姿を想像してみましょう。また、「公務のための数的推理」ではやらなかった数学の図形問題も、ここで学ぶことで、数的推理の土台部分が完成します。

キャリア基礎Ⅲ 実務	科目ナンバリング	２年次	２単位
岩崎祐・岡良・永井・田中伊・樋口・牧田・吉山・李	GECC1003	後学期	選　択

授業の位置づけ

「キャリア科目」では、学士にふさわしい職業観の育成を図り、人生を通じて通用する学士号を持つ職業人としての資質の獲得を目指します。

授業のねらい

キャリア基礎Ⅲでは、具体的な就職活動を想定し、企業説明会・エントリー・面接など、ひととおりの就職活動を模擬的に体験することを主な内容とします。就職活動中は、学生ではなく、社会人としての行動が要求されます。このようなビジネスマナーについても演習を行います。全体を通して、実際の就職活動に向けて学生が自信を持てるように個別指導を行っていきます。また、就職活動の方法は毎年変化していくため、新しい面接の手法なども積極的に取り入れ、対応方法についても勉強していきます。

到達目標

模擬的な就職活動を行うことによって以下の５つの能力を養うことが目標です。
① キャリア基礎Ⅱで行った自己分析・自己PRを実践的にブラッシュアップすること
② 就職活動を行うための経済・社会・企業の情報収集方法を身につけること
③ 就職活動に関するビジネスマナーを身につけること
④ グループディスカッション・面接・プレゼンなどの方法を学ぶこと
⑤ 全体として社会人としての言動や表現力を身につけること

成績評価方法・課題・フィードバックの方法

期末試験50％、平常点（受講態度および課題の取り組み姿勢）50％
課題は適宜コメントをして返却します。

事前・事後学習

予習：あらかじめテキストを読んでおくこと（90分）。
復習：講義の内容や課題を復習しておくこと（90分）。

授 業 計 画

第１講　ガイダンス／グループディスカッション① 10/３
第２講　グループディスカッション② 10/10
第３講　グループディスカッション③ 10/17
第４講　日本・東海地方の産業・経済はどうなっているか 10/24
第５講　新聞を読む 10/31
第６講　新聞を読む（実習） 11/７
第７講　ビジネスマナー①（面接） 11/14
第８講　模擬合同企業説明会 11/21
第９講　エントリーシートの作成① 11/28
第10講　模擬面接（実習）① 12/５
第11講　模擬面接（実習）② 12/12
第12講　ビジネスマナー②（書類の送付、メール・電話応対）① 12/19
第13講　プレゼン面接（実習）② 12/26
第14講　プレゼン面接（実習） １/16
第15講　まとめ １/23

テキスト・教材（参考文献含む）

テキストはクラス担当教員から配付します。
毎回の講義には必ず持参してください。

担当者から一言

３年生では就職ガイダンスがはじまります。ここで勉強したことを生かして、失敗を恐れず行動することが何より重要です。果敢にチャレンジしてください。

キャリア基礎Ⅲ（公務員クラス） 実務	科目ナンバリング	２年次	２単位
高田晴美・中西紀夫	GECC1003	後学期	選　択

授業の位置づけ

「キャリア科目」では、学士にふさわしい職業観の育成を図り、人生を通じて通用する学士号を持つ職業人としての資質の獲得を目指します。

授業のねらい

「キャリア基礎Ⅲ」では、具体的な就職活動を想定し、情報収集・エントリー・面接など、ひととおりの公務員や一般企業の就職活動を模擬的に体験することを主な内容とします。就職活動中は、学生ではなく、社会人としての行動が要求されます。このようなビジネスマナーについても演習を行います。全体を通して、実際の就職活動に向けて学生が自信を持てるように個別指導を行っていきます。また、就職活動の方法は毎年変化していくため、新しい面接の手法なども積極的に取り入れ、対応方法についても勉強していきます。

到達目標

模擬的な就職活動を行うことによって以下の５つの能力を養うことが目標です。

① キャリアⅡで行った自己分析・自己PRを実践的にブラッシュアップすること
② 就職活動を行うための経済・社会・自治体・職種の情報収集方法を身につけること
③ 就職活動に関するビジネスマナーを身につけること
④ グループディスカッション・面接・プレゼンなどの方法を学ぶこと
⑤ 全体として社会人としての言動や表現力を身につけること

成績評価方法・課題・フィードバックの方法

期末試験50%、平常点(受講態度および課題の取り組み姿勢)50%
課題は適宜コメントをして返却します。

事前・事後学習

予習:あらかじめテキストを読んでおくこと(90分)。
復習:講義の内容や課題を復習しておくこと(90分)。

授 業 計 画

第１講　ガイダンス／グループディスカッション①
第２講　グループディスカッション②
第３講　グループディスカッション③
第４講　日本・東海地方の産業・経済はどうなっているか
第５講　新聞を読む(日本経済新聞社)
第６講　新聞を読む(実習)
第７講　ビジネスマナー①(面接)
第８講　模擬合同企業説明会／模擬自治体研究
第９講　エントリーシートの作成①
第10講　模擬面接(実習)①
第11講　模擬面接(実習)②
第12講　ビジネスマナー②(書類の送付、メール・電話応対)①
第13講　プレゼン面接(実習)①
第14講　プレゼン面接(実習)②
第15講　まとめ

テキスト・教材（参考文献含む）

テキストはクラス担当教員から配付します。
毎回の講義には必ず持参してください。

担当者から一言

３年生では就職ガイダンスがはじまります。公務員試験の対策も本格化します。綿密な準備がどれだけできたかが問われます。公務員となった自分の姿を思い描きながら、しっかり取り組んでいきましょう。

ボランティア活動ａ	科目ナンバリング	１年次	２単位
松井真理子	GESC1001	前学期	選　択

授業の位置づけ

「特別科目」ではボランティア、インターンシップや海外研修などの体験学習を通じて見聞を広めます。

授業のねらい

障害がある人、子どもなどを支援する活動、災害救援活動、環境保全活動など、地域にはさまざまな社会貢献活動が行われています。これらの活動にボランティアとして参加することは、机上の学習では把握できない生きた学びの機会となるとともに、ともに支えあう地域社会づくりに貢献するなど、大きな意義を持っています。四日市大学では、多くのが学生の参加促進のため、一定の時間参加した場合は、所定の手続きを経て単位認定します。

＊ボランティア活動ａの単位修得後、ｂを取得します。

到達目標

１　現場体験を通じて、社会の様々な課題を深く理解すること。
２　主体的な行動力を身に着けること。
３　地域の人々との交流により、より豊かな人間性を身に着けること。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法

「ボランティア活動団体の証明書」「活動日誌・レポート」の内容により単位認定します。
評価は「認(認定)」となります。(履修制限単位に含まれない)
提出したレポートについて、希望により面談やコメントをします。

事前・事後学習

(事前)参加する活動や団体に関する情報を収集し、よく内容を理解しておくこと。(90分)
(事後)学んだ内容を復習し、関連する情報にも目を通すこと。(90分)

授 業 計 画

１　対象となる活動
①　ボランティアセンターで紹介するボランティア活動
②　別に大学の審査により認められたボランティア活動
２　単位認定に必要な活動時間
　実労働時間60時間以上（複数の活動や、年度を超えた活動でもかまいません。）
３　活動時期
　授業や大学行事に支障がないと判断される時期
４　事前申請
　参加予定の１か月前、既に参加した場合は終了後１か月後に「ボランティア活動内容書」（教務課にあります）を教学課に提出してください。
５　単位認定申請
　実労働時間が60時間が予想されるか、超えた場合であって、単位認定を希望する場合は、教学課に下記の書類を提出してください。(卒業年次の１月末日まで)
①　ボランティア活動ａ単位認定申請書
②　ボランティア活動団体発行の証明書
③　活動日誌・レポート(様式自由、1000字程度)
　注）活動の経験を三重県内の地域でどう活かすか言及してください。

テキスト・教材（参考文献含む）

なし。

担当者から一言

ボランティアセンターのボランティア情報を活用するほか、これ以外のボランティア活動の紹介もします。積極的に参加されることを期待しています。

ボランティア活動ｂ

松井真理子

科目ナンバリング	1年次	2単位
GESC1002	前学期	選　択

授業のねらい

障害がある人、子どもなどを支援する活動、災害救援活動、環境保全活動など、地域にはさまざまな社会貢献活動が行われています。これらの活動にボランティアとして参加することは、机上の学習では把握できない生きた学びの機会となるとともに、ともに支えあう地域社会づくりに貢献するなど、大きな意義を持っています。四日市大学では、多くのが学生の参加促進のため、一定の時間参加した場合は、所定の手続きを経て単位認定します。

＊ボランティア活動ａの単位修得後、ｂを取得します。

到達目標

1　現場体験を通じて、社会の様々な課題を深く理解すること。
2　主体的な行動力を身に着けること。
3　地域の人々との交流により､より豊かな人間性を身に着けること。

成績評価方法･課題･フィードバックの方法

「ボランティア活動団体の証明書」「活動日誌・レポート」の内容により単位認定します。
評価は「認(認定)」となります。(履修制限単位に含まれない)
提出したレポートについて、希望により面談やコメントをします。

事前・事後学習

(事前)参加する活動や団体に関する情報を収集し、よく内容を理解しておくこと。(90分)
(事後)学んだ内容を復習し、関連する情報にも目を通すこと。(90分)

授業の位置づけ

「特別科目」ではボランティア、インターンシップや海外研修などの体験学習を通じて見聞を広めます。

授業計画

1　対象となる活動
①　ボランティアセンターで紹介するボランティア活動
②　別に大学の審査により認められたボランティア活動
2　単位認定に必要な活動時間
　実労働時間60時間以上
　(複数の活動や、年度を超えた活動でもかまいません。)
3　活動時期
　授業や大学行事に支障がないと判断される時期
4　事前申請
　参加予定の１か月前、既に参加した場合は終了後１か月後に「ボランティア活動内容書」(教務課にあります)を教学課に提出してください。
5　単位認定申請
　実労働時間が60時間が予想されるか、超えた場合であって、単位認定を希望する場合は、教学課に下記の書類を提出してください。(卒業年次の１月末日まで)
①　ボランティア活動ａ単位認定申請書
②　ボランティア活動団体発行の証明書
③　活動日誌･レポート(様式自由、1000字程度)
　注）活動の経験を三重県内の地域でどう活かすか言及してください。

テキスト・教材（参考文献含む）

なし。

担当者から一言

ボランティアセンターのボランティア情報を活用するほか、これ以外のボランティア活動の紹介もします。積極的に参加されることを期待しています。

国際協力研修

岩崎祐子

科目ナンバリング	1年次	2単位
GESC1003	後学期	選　択

授業のねらい

青年海外協力隊、NGO(非政府団体)、国際ボランティア等の海外における社会貢献活動など、国際協力について現地で体験的に学ぶ場を提供します。NPO論が主として地域を中心とする社会貢献活動を対象とするのに対し、この授業では海外における社会貢献活動が対象となります。

海外で実際に行われている社会貢献活動の体験を通じ、国際的な視野を広げることも目的としています。

到達目標

1　国際的な社会貢献活動について理解を深めます。
2　国際感覚を身に付けます。

成績評価方法･課題･フィードバックの方法

四日市大学の海外研修終了後に、活動日誌(様式自由)・レポート(1200字以上)を提出すること。
大学外の活動の場合は、終了後に活動した団体の証明書(様式自由)および活動日誌(様式自由)・レポート(1200字以上)を提出すること。必要に応じてフィードバックします。

事前・事後学習

事前：参加する活動や団体に関する資料を収集し、よく内容を理解しておくこと。(90分)
事後：学んだ内容を理解し、関連する情報にも間を通すこと。(90分)

授業の位置づけ

「特別科目」ではボランティア、インターンシップや海外研修などの体験学習を通じて見聞を広めます。

授業計画

第１講　ガイダンス(集中講義期間)
第２講　事前研修(集中講義期間)
第３講　事前研修(集中講義期間)
第４講　海外現地研修
第５講　海外現地研修
第６講　海外現地研修
第７講　海外現地研修
第８講　海外現地研修
第９講　海外現地研修
第10講　海外現地研修
第11講　海外現地研修
第12講　海外現地研修
第13講　海外現地研修
第14講　海外現地研修
第15講　海外研修の振り返り
※渡航先の状況により研修等を中止あるいは延期する場合があります。

･大学外の海外研修･海外協力活動への参加事前申請を行って下さい。

テキスト・教材（参考文献含む）

資料を配布します。
四日市大学のタイ研修報告書は情報センターにありますので、必ず読んでおいてください。このほか、外務省（日本）ホームページ、タイ政府観光庁(日本語サイト)のホームページのタイ情報を参照してください。

担当者から一言

四日市大学の研修参加希望者は学内で開催する説明会に必ず参加してください。研修終了後は、自分はいかに活動を継続的に関わることができるか考えてください。
※渡航先の状況により研修等を中止あるいは延期する場合があります。

インターンシップ

科目ナンバリング	2年次	2単位
GESC1004	前学期	選　択

鬼頭浩文

授業の位置づけ

「特別科目」ではボランティア、インターンシップや海外研修などの体験学習を通じて見聞を広めます。

授業のねらい

大学の長期休暇などで合計10日間をフルタイムで就労体験する。正職員と同じ責任と目線で就労体験を行う。この体験は、ハードな実習になるので、安易な受講は避けてほしい。

■インターンシップを履修するための条件
・3か月以上のアルバイトの経験(週2日以上の定期アルバイト)があること
・基本的なマナーが身についており、コミュニケーション能力が高いこと
・どのような研修をしたいのか、明確な目標があること

到達目標

正職員と同じ目線で仕事を捉え、業務の全般を把握できること。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法

事前研修での評価、就業体験時の勤務状況、就業体験後に提出するレポートにより評価・フィードバックする。

事前・事後学習

講義計画に記述した通り、研修前に計10時間ほどの準備学習が必要となる。原則として、準備学習において一度でも遅刻・欠席があった場合は、研修を認めない。まずは説明会に出席し、面談を受けたら実習に向けて準備学習を進めてほしい。

授業計画

★日程については掲示板で発表するので、日ごろから掲示板を確認すること
★詳細は、履修要綱に記載
4月:説明会(CSC主催)･･･スケジュール詳細説明／申込用紙配布
4月末:申込用紙を提出　⇒　書類選考の合格者を発表
5月中旬～下旬:面接　⇒　面接の合格者を発表
5月下旬:ガイダンス･･･受入企業一覧配付/希望研修先用紙配付/事前研修についての連絡等
6月下旬:研修先マッチング開始　⇒　研修先決定
7月中旬:事前研修･･･マナー研修/インターンシップ中の心得等
7月下旬:直前ガイダンス･･･研修中の諸注意/事後研修についての連絡等
8～9月上旬:インターンシップ研修
11月:事後研修･･･レポート提出
12月頃:単位認定
＊春期休業期間等にインターンシップ研修を行う場合のスケジュールなどは、担当教員が個別に対応する。

テキスト・教材（参考文献含む）

なし。

担当者から一言

明確な目標がない学生は、受講を認めない。安易な考えで受講することは、絶対にしないでほしい。なお、実習は平日昼の正社員と同じ勤務になる。当然、アルバイトやクラブ活動で欠席することは認められない。

社会調査入門

科目ナンバリング	1年次	2単位
GSSR1001	前学期	選　択

三田泰雅

授業の位置づけ

「スキル科目」では、いずれかのユニットを選ぶことによって、希望する進路に応じた、卒業までにあらかじめ身に付けておきたい即戦力となるスキルを、修得していきます。

授業のねらい

現実の社会をとらえる方法の一つに社会調査がある。社会調査で何がわかるのか、なぜ社会調査が必要なのか。授業ではこうしたことを考えてゆく。これまでに行なわれた調査の実例を紹介し、社会調査の方法、目的に合わせた方法の選択、調査結果の解釈について学ぶ。社会調査の基本的知識を身につけ、社会調査の役割を理解することがねらいである。

到達目標

社会調査の基本的知識を身につける。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法

成績評価:平常点30%、中間試験15%、期末試験55%
課題:各回の最後に小レポートを課す
フィードバック方法:小レポートのいくつかをとりあげ次回にコメントする

事前・事後学習

新聞・ニュース等に目を通す(10分)
授業のノートを確認する(10分)

授業計画

1　ガイダンス
2　社会調査の目的と意義
3　社会調査の歴史①
4　社会調査の歴史②
5　質的調査と量的調査
6　社会調査の種類と方法
7　サンプリングの発展
8　公的統計の意義と活用
9　量的な社会調査の例①
10　量的な社会調査の例②
11　質的な社会調査の例①
12　質的な社会調査の例②
13　実験的方法の例
14　社会調査をめぐる環境
15　調査の倫理

授業内で必要に応じてグループワークを行ないます。

テキスト・教材（参考文献含む）

大谷信介ほか編著『新・社会調査へのアプローチ』ミネルヴァ書房, 2013

担当者から一言

この科目は社会調査士養成ユニットに含まれており、社会調査士資格の対象科目(A)になっています。

社会調査の技法

科目ナンバリング	1年次	2単位
GSSR1002	後学期	選　択

三田泰雅

授業の位置づけ

「スキル科目」では、いずれかのユニットを選ぶことによって、希望する進路に応じた、卒業までにあらかじめ身に付けておきたい即戦力となるスキルを、修得していきます。

授業のねらい

この授業の目的は、社会調査の企画・設計から実施、分析・公表にいたる一連のプロセスを知り、注意すべき点を理解することです。特にサンプリング方法と調査票の作成は、グループワークなどを通して実践的に修得をはかります。

到達目標

社会調査によるデータの収集・分析について、基礎的な知識を身につける。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法

授業内の小レポート30%、中間試験15%、期末試験55%。
小レポートは翌週の授業でコメントする。

事前・事後学習

新聞やニュースに目を通しておくこと(毎日20分以上)。

授 業 計 画

1　ガイダンス
2　社会調査における問いと仮説
3　社会調査の種類と方法
4　社会調査の企画と設計
5　量的調査の方法
6　サンプリングの考え方
7　サンプリングの方法
8　調査票の作成
9　質問文の作り方
10　量的調査の実施
11　調査データの整理
12　量的データの分析
13　質的調査の方法
14　質的データの分析

授業では必要に応じてグループワークを行ないます。

テキスト・教材（参考文献含む）

＜参考文献＞玉野和志『実践社会調査入門』世界思想社，2008.

担当者から一言

この科目は社会調査士養成ユニットに含まれており、社会調査士資格の対象科目(B)になっています。

データ分析の基礎

科目ナンバリング	2年次	2単位
GSSR1003	前学期	選　択

田中伊知郎

授業の位置づけ

「スキル科目」では、いずれかのユニットを選ぶことによって、希望する進路に応じた、卒業までにあらかじめ身に付けておきたい即戦力となるスキルを、修得していきます。

授業のねらい

公的統計や簡単な調査報告・フィールドワーク論文が読めるための基本的知識を学びます。単純集計、度数分布、代表値、散布度、クロス集計などの記述統計データの読み方や、グラフの読み方、また、それらの計算や作成のしかた。さまざまな質的データの読み方と基本的なまとめ方を明らかにしていきます。社会調査士認定に関するC科目に相当します。

到達目標

相関係数など基礎的統計概念、擬似相関の概念などを身に着けて、実際のデータに適用できるようにします。また、因果関係と相関関係が区別できるようにします。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法

毎回の課題の達成度を採点し、点数として合計(60点満点)します。定期試験(40点)と合計して成績とします。点数を提示し、次回までの課題も示します。

事前・事後学習

授業当日の夕方、パソコン実習で保存したファイルまたはプリントアウトを見返してください(30分)。2・3日後に、プリントアウトを見直して(30分)、その次に当たることを考えてください(30分)。講義の前日に、パソコン実習で保存したファイルを見返して、ノートに書き込み整理してください(60分)。

授 業 計 画

第1講　ガイダンス:平均値が便利なこと(買い物で使っている)の確認
第2講　度数分布表の作成:いろいろな値段のある回転寿司屋さん
第3講　いろいろな代表値(中央値・最頻値・分散・標準偏差)
第4講　既存統計資料の読み方と使い方
第5講　量的データと伴って変わる量
第6講　比例と1次関数
第7講　1次関数のグラフの拡張:散布図
第8講　Excelを使っての散布図の作成
第9講　1次関数と相関係数
第10講　Excelを使っての相関係数の求め方
第11講　相関係数の性質
第12講　データの性質の拡張:質的データ
第13講　データの入力と照合(統計的資料を使って)
第14講　クロス集計(質的データにおける関連性)の説明
第15講　相関関係・関連性と因果関係の違い:擬似相関と実験計画
定期試験　持ち込み不可
第2講から第14講までパソコン・スマホなどを使っての実習となります。

テキスト・教材（参考文献含む）

なし。

担当者から一言

パソコン教室の実習形式で行います。パソコン(スマホでも)を使うと、統計解析がスムーズに進むとわかってもらいます。

統計的分析

田中伊知郎

科目ナンバリング	2年次	2単位
GSSR1004	後学期	選　択

授業の位置づけ

「スキル科目」では、いずれかのユニットを選ぶことによって、希望する進路に応じた、卒業までにあらかじめ身に付けておきたい即戦力となるスキルを、修得していきます。

授業のねらい

統計的データをまとめたり分析したりするために必要な、推測統計学の基礎的な知識を学びます。確率論の基礎、基本統計量、検定・推定理論とその応用（平均や比率の差の検定、独立性の検定）、サンプリングの理論、属性相関係数（クロス表の統計量）、相関係数、偏相関係数、変数のコントロール、回帰分析の基礎などを明らかにしていきます。社会調査士認定に関するＤ科目に相当します。

到達目標

量的データにおける相関係数の利用・質的データにおけるクロス集計の利用をパソコン実習で身に付けます。さらに、正規分布しているデータの平均値の検定などを使い、集団を分けるもの（要因）を見つける力を養います。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法

毎回の課題の達成度を採点し、点数として合計（60点満点）します。定期試験（40点）と合計して成績とします。点数を提示して、次回への課題も示します。

事前・事後学習

授業当日の夕方、パソコン実習で保存したファイルまたはプリントアウトを見返してください（30分）。２・３日後に、プリントアウトを見直して（30分）、その次に当たることを考えてください（30分）。講義の前日に、パソコン実習で保存したファイルを見返して、ノートに書き込み整理してください（60分）。

授 業 計 画

第１講　ガイダンス：平均値・中央値と度数分布の確認
第２講　サンプリング：標本と母集団の関係とヒストグラムの作成
第３講　正規分布：確率論の基礎、ゆらぎ（分散）の概念の獲得
第４講　正規分布かの検定（Kolmogorov－Smirnov検定）
第５講　平均値の差の検定：二つの正規分布か、同じ分布か：実習
第６講　分散分析（3要因への検定の拡張）と効果量
第７講　分散分析の実習
第８講　一次関数と相関係数：Excelを使っての求め方
第９講　相関係数の性質と回帰分析
第10講　データの性質の拡張・測定の尺度としての順位変数など
第11講　ノンパラメトリック検定（正規分布でない場合）
第12講　クロス集計（質的データにおける関連性）の説明と実践・
第13講　クロス集計の実践：質的アンケートと円グラフ
第14講　クロス集計の検定（正確確率検定など）
第15講　クロス集計の検定：実習
定期試験　持ち込み不可
第２講から第15講までパソコン（スマホなど）を用いた実習となります。

テキスト・教材（参考文献含む）

なし。

担当者から一言

パソコン教室の実習形式で行います。パソコン（スマホなど）を使うと、統計解析がスムーズに進むとわかってもらいます。

データ解析の技法

山本敦也

科目ナンバリング	2年次	2単位
GSSR1006	後学期	選　択

授業の位置づけ

「スキル科目」では、いずれかのユニットを選ぶことによって、希望する進路に応じた、卒業までにあらかじめ身に付けておきたい即戦力となるスキルを、修得していきます。

授業のねらい

複雑な現代社会を読み解く方法の一つに、数量データを用いた多変量解析がある。本講義では多変量解析の基本的な考え方や代表的な技法の本質を理解し、それらを活用するための基礎力を身につけることを目的とする。

到達目標

（１）多変量解析に必要な基礎力を身につける。
（２）回帰分析について理解する。
（３）主成分分析、因子分析、クラスター分析について理解する。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法

講義中のミニテスト（40％）、定期試験（60％）必要に応じてフィードバックします。

事前・事後学習

予習：インターネットなどのニュースで統計データの内容について確認して下さい（60分）。
復習：講義中のミニテストの完答を目指す（30分）。

授 業 計 画

1　ガイダンス
2　数学の基礎
3　微分と積分
4　行列と行列式
5　統計の基礎知識の復習
6　重回帰分析１　回帰分析の考え方
7　重回帰分析２　変数選択
8　二項ロジスティック回帰分析
9　分散分析
10　三重クロス表
11　主成分分析
12　因子分析
13　クラスター分析１　類似度、距離、順位
14　クラスター分析２　クラスターのアルゴリズム
15　まとめ
定期試験

テキスト・教材（参考文献含む）

教科書：資料配布
参考書：石井俊全著「意味がわかる多変量解析」ベレ出版（2014年）

担当者から一言

売上予測や、市場動向など様々なところでデータ解析が行われています。実際に解析を行う立場にならなくても、本講義においてこれらの解析の意味を理解しておくことは社会人として大きなアドバンテージとなります。

フィールドワーク論

科目ナンバリング	2年次	2単位
GSSR1005	前学期	選　択

富田　与

授業の位置づけ

「スキル科目」では、いずれかのユニットを選ぶことによって、希望する進路に応じた、卒業までにあらかじめ身に付けておきたい即戦力となるスキルを、修得していきます。

授業のねらい

この講義では、「聞き取り」と「参与観察」での発問の仕方を中心に考えていきます。「聞き取り」と「参与観察」では、ある目的を持って質問していくことが求められます。何を、どのように質問したらいいのでしょうか。講義では、具体的なフィールドワークの報告を読みながら、「ライフヒストリー」、「談話分析」などそれぞれの報告で使われている方法を踏まえた、発問の仕方を考えていきます。毎回の課題に関するディスカッションの形で講義を進めます。

授業計画

第１講　ガイダンス
第２講　序章　現代文化のフィールドワークとは何か
第３講　第１章　出産:ドキュメント分析とインタビュー調査の齟齬から
第４講　第２章　地域政策:ドキュメント分析からインタビュー調査へ
第５講　第３章　共生文化:談話分析と参与観察の齟齬から
第６講　第４章　介助者:参与観察からライフヒストリー(キャリア・パス分析)へ
第７講　第５章　祭り:儀礼調査から見た社会変容
第８講　第６章　民藝:「モノ」への注目
第９講　第７章　頼母子講:参与観察(生活者として)
第10講　第８章　引揚者:ドキュメント分析・オーラルヒストリーの比較
第11講　第９章　信心:オーラルヒストリーと世界観
第12講　第10章　エスノメソッド:エスノメソドロジー
第13講　第11章　住民のためらい:エスノメソドロジーの発明(メディア社会との関係)
第14講　調査計画とは(レポートのガイダンス)
第15講　まとめ

到達目標

調査に必要な独自の質問項目表を作成することができる。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法

講義への参加度（発言等）：30%　各回のレポート：30%　最終レポート:40%
各回のレポートは講義の中で発表してもらいます。
最終レポートは希望者には返却します。

テキスト・教材（参考文献含む）

『現代文化のフィールドワーク入門』　山泰幸・足立重和編　ミネルヴァ書房　3,000円
絶版となっているため、基本的にはコピーを用意します。

事前・事後学習

各章のレポートを作成してもらいます(180分)。

担当者から一言

調査やインタビューに関する面白い新書の出版が相次いでいます。ぜひ手にとって読んでみてください。

社会調査実習１

科目ナンバリング	3年次	2単位
GSSR1007	前学期	選　択

三田泰雅

授業の位置づけ

「スキル科目」では、いずれかのユニットを選ぶことによって、希望する進路に応じた、卒業までにあらかじめ身に付けておきたい即戦力となるスキルを、修得していきます。

授業のねらい

社会調査を実施して成果物を作成する技法の習得を目的とする。とくに、以下の４つの項目を重点的に、実習を運営してゆく。（１）テーマに沿って、問いと仮説をたてる。（２）先行研究を調べる。（３）調査票を作成する。（４）データの分析を通してレポートを執筆する。本実習を履修することにより、これまでに習得してきた社会調査の基礎を、実践的に理解すること、調査分析スキルの基礎強化を図ること、などが期待できる。

授業計画

１．ガイダンス
２．問題の整理
３．対象について学ぶ
４．問いを立てる
５．先行研究をさがす
６．先行研究の検討（１）
７．先行研究の検討（２）
８．仮説の形成
９．調査項目の洗い出し
10．調査表作成の基礎
11．調査票の作成（１）
12．調査票の作成（２）
13．調査票の完成
14．調査の実施
15．まとめ

授業内では必要に応じてグループワークを行ないます。

到達目標

本実習の履修者には、自らの問いをもとにして、先行研究を整理することが求められる。そして調査をつうじて得られたデータを、適切な方法を用いて分析し、考察を加えて成果の形にまとめることで、社会調査の一連の過程を学ぶことができる。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法

成績評価方法:実習への参加度50%、期末レポート50%
課題:不定期に中間報告の機会を設ける
フィードバック方法:報告をもとに教員を含めた全員でディスカッションする

テキスト・教材（参考文献含む）

大谷信介ほか編著『新・社会調査へのアプローチ』ミネルヴァ書房, 2013.

事前・事後学習

報告準備をする(90分以上)

担当者から一言

社会調査士養成ユニットの実習です。この科目を履修するには、社会調査士養成ユニットから６単位（３科目）以上取得している必要があります。

社会調査実習２

三田泰雅

科目ナンバリング	３年次	２単位
GSSR1008	後学期	選　択

授業のねらい

社会調査を実施して成果物を作成する技法の習得を目的とする。以下の５項目に重点を置いて運営してゆく。（１）テーマに沿って、問いと仮説をたてる。（２）先行研究を調べる。（３）調査票を作成する。（４）データを分析する。（５）レポートを執筆する。本実習を履修することにより、これまでに習得してきた社会調査の基礎を、実践的に理解すること、調査分析スキルの強化を図ること、などが期待できる。

到達目標

本実習の履修者には、自らの問いをもとにして、先行研究を整理することが求められる。そして調査をつうじて得られたデータを、適切な方法を用いて分析し、考察を加えて成果の形にまとめることで、社会調査の一連の過程を学ぶことができる。

成績評価方法･課題･フィードバックの方法

成績評価方法:実習への参加度50%、期末レポート50%
課題:不定期に中間報告の機会を設ける
フィードバック方法:報告をもとに教員を含めた全員でディスカッションする

事前・事後学習

報告準備(90分以上)

授業の位置づけ

「スキル科目」では、いずれかのユニットを選ぶことによって、希望する進路に応じた、卒業までにあらかじめ身に付けておきたい即戦力となるスキルを、修得していきます。

授 業 計 画

１．ガイダンス
２．データの整理
３．データ入力（１）
４．データ入力（２）
５．データ分析の基本
６．データの分析（１）
７．データの分析（２）
８．分析結果の報告（１）
９．分析結果の報告（２）
10. 分析結果の報告（３）
11. レポートのまとめ方
12. 報告原稿の発表（１）
13. 報告原稿の発表（２）
14. 報告原稿の発表（３）
15. 報告書の作成

授業内では必要に応じてグループワークを行ないます。

テキスト・教材（参考文献含む）

大谷信介ほか編著『新・社会調査へのアプローチ』ミネルヴァ書房, 2013

担当者から一言

この科目を履修するには、社会調査士養成ユニットから６単位（３科目）以上、かつ「社会調査実習Ｉ」の単位を取得している必要があります。社会調査士資格を取得するには「社会調査実習Ｉ」と同一年度に単位取得することが必要です。

公務のための数的推理

高田晴美

科目ナンバリング	１年次	２単位
GSPO1001	後学期	選　択

授業のねらい

皆さんが苦手としがちな科目であり、しかし、出題数も多く、公務員１次試験を突破するには絶対に得点源にしなければならない重要科目が「数的推理」です。数学というと難しく感じるかもしれませんが、数的推理に必要な数学の知識は、殆どが中学レベルです。努力すれば手ごたえを得やすい科目でもありますから、粘り強くコツコツと学習を積み重ねていくことが重要です。この講義では、数的推理の殆どのテーマについて、基本から中級レベルまで、解法のインプットから始めて問題を実際に解くというアウトプットまで行います。

到達目標

１　数的推理の出題パターンとその解法を知る。
２　今後、自力で学習を進めていくためのベースとなる学力を身に付ける。

成績評価方法･課題･フィードバックの方法

毎回の小テスト　30%
定期試験(資料持ち込み不可)　70%
授業時に行う小テストに関しては、後に解説を行います。

事前・事後学習

次週の講義までに、前の週でやった単元について、以下のことをしておくこと。
・講義で扱った問題の解きなおし(90分)
・講義では飛ばした問題を解く(90分)
自力で解けるようになるまで何度もやり直してください。

授業の位置づけ

「スキル科目」では、いずれかのユニットを選ぶことによって、希望する進路に応じた、卒業までにあらかじめ身に付けておきたい即戦力となるスキルを、修得していきます。

授 業 計 画

第１講　ガイダンス、整数の性質
第２講　剰余系の問題、ｎ進法
第３講　比と割合
第４講　方程式と不等式①
第５講　方程式と不等式②
第６講　濃度
第７講　仕事算、ニュートン算
第８講　年齢算、平均算など
第９講　集合
第10講　速さ①
第11講　速さ②
第12講　速さ③
第13講　場合の数
第14講　確率
第15講　数列

定期試験
順番は入れ替わる可能性があります。

テキスト・教材（参考文献含む）

畑中敦子『畑中敦子の初級 ザ・ベストNEO 数的推理／資料解釈』エクシア出版(2021年)1,650円

担当者から一言

この科目は、公務員試験を受ける予定の学生のみを対象とした、真面目に学習しないと単位取得が困難な科目です。授業中も自ら問題演習に取り組み、授業時間中に解法を確実に自分のものにしてやるという覚悟がある学生のみ、受講して下さい。

公務のための判断推理

科目ナンバリング	1年次	2単位
GSPO1002	前学期	選　択

高田晴美

授業のねらい

公務員試験の教養科目のうち、「判断推理」は、高校までの学習内容からは外れた、公務員試験独特の科目です。理数系ではありますが、パズルのような問題が大部分であるため、解法の知識も必要ですが、それとともに、試行錯誤しながら論理的に考えていく思考力と粘り強さが要求されます。また、時間をかけずに要領よく解答するためのコツも必要であり、様々なタイプの問題に慣れておく必要もあります。講義では、各テーマについて基本的な解法を示した上で、実際に問題演習にあたり、自力で解くための学力を養成します。

到達目標

1　判断推理の解法を一通り身に付ける。
2　論理的な思考能力と、解答のために試行錯誤をする力を養う。
3　今後、自力で学習を進めていけるだけのベースとなる学力を身に付ける。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法

毎回の小テスト　30%
定期試験(資料持ち込み不可)　70%
授業時に行う小テストに関しては、後に解説を行います。

事前・事後学習

次週の講義までに、前の週でやった単元(授業でやったあたり)について、以下のことをしておくこと。
・講義で扱った問題の解きなおし(90分)
・講義では飛ばした問題を解く(90分)
自力で解けるようになるまで何度もやり直してください。

授業の位置づけ

「スキル科目」では、いずれかのユニットを選ぶことによって、希望する進路に応じた、卒業までにあらかじめ身に付けておきたい即戦力となるスキルを、修得していきます。

授業計画

第1講　ガイダンス、順序関係
第2講　順序関係
第3講　位置関係
第4講　対応関係
第5講　試合
第6講　数量関係
第7講　命題と論理
第8講　真偽
第9講　暗号と規則性
第10講　操作・手順
第11講　パズル問題
第12講　移動と軌跡
第13講　立体図形
第14講　展開図
第15講　サイコロと位相
定期試験

テキスト・教材（参考文献含む）

畑中敦子『畑中敦子の初級 ザ・ベスト NEO 判断推理』エクシア出版(2021年)1,650円

担当者から一言

この科目は、公務員試験を受ける予定の学生のみを対象とした、真面目に学習しないと単位取得が困難な科目です。授業中も自ら問題演習に取り組み、授業時間中に解法を確実に自分のものにしてやるという覚悟がある学生のみ、受講して下さい。

公務のための現代文

科目ナンバリング	1年次	2単位
GSPO1003	後学期	選　択

高田晴美

授業のねらい

公務員試験科目のうちの「文章理解(国語分野)」の「現代文」と「資料解釈」の2科目について、問題演習を行います。「文章理解(国語)」では出題パターンの紹介とともに、どういうところに着目すべきかを解説します。「資料解釈」は出題数は少ないですが、出題タイプが限られるので、対策を取れば確実に得点源にできます。採用試験だけでなく、その後の公務員の仕事にも必要な能力でもありますから、得意科目にしていきましょう。

到達目標

1　「文章理解(国語分野)」の出題パターンと解法のコツを身に付ける。
2　「資料解釈」の出題パターンと解法のコツを身に付ける。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法

毎回の小テスト(漢字)　30%
定期試験(資料持ち込み不可)　70%
小テストに関しては、後に要注意ポイントを解説します。

事前・事後学習

次週の講義までに、前の週でやった単元(授業でやったあたり)について、以下のことをしておくこと。
・(特に「資料解釈」では)講義で扱った問題の解きなおし(90分)
・講義では飛ばした問題を解く(90分)
自力で解けるようになるまで何度もやり直してください。上記に加えて、毎回の漢字テストの対策をすること。

授業の位置づけ

「スキル科目」では、いずれかのユニットを選ぶことによって、希望する進路に応じた、卒業までにあらかじめ身に付けておきたい即戦力となるスキルを、修得していきます。

授業計画

第1講　ガイダンス、現代文①――内容把握
第2講　現代文②――内容把握
第3講　現代文③――要旨把握
第4講　現代文④――要旨把握
第5講　現代文⑤――文章整序
第6講　現代文⑥――文章整序
第7講　現代文⑦――空欄補充
第8講　資料解釈①――実数
第9講　資料解釈②――実数
第10講　資料解釈③――割合・構成比
第11講　資料解釈④――割合・構成比
第12講　資料解釈⑤――指数・増加率
第13講　資料解釈⑥――指数・増加率
第14講　資料解釈⑦――特殊な問題
第15講　資料解釈⑧――特殊な問題
定期試験

テキスト・教材（参考文献含む）

- 瀧口雅仁『公務員試験 文章理解 すぐ解ける〈直観ルール〉ブック［改訂版］』実務教育出版(2020年)
- 畑中敦子『畑中敦子の初級 ザ・ベストNEO 数的推理／資料解釈』エクシア出版(2021年)（「公務のための数的推理」と同テキスト）

担当者から一言

この科目は、公務員試験を受ける予定の学生のみを対象としています。授業中も自ら問題演習に取り組み、授業時間中に解法を確実に自分のものにしてやるという覚悟がある学生のみ、受講して下さい。

公務のための政治学

小林慶太郎

科目ナンバリング	2年次	2単位
GSPO1004	後学期	選　択

授業の位置づけ

「スキル科目」では、いずれかのユニットを選ぶことによって、希望する進路に応じた、卒業までにあらかじめ身に付けておきたい即戦力となるスキルを、修得していきます。

授業のねらい

わたしたちが、役所の人（公務員）に何かをして貰おうとする時、それはどのような仕組みに基づいて、どのように進められるのでしょう。そしてその背景には、どのような国の仕組みや権力構造、プロセス、歴史があるのでしょうか。

この授業ではこうした、地域で公務につく際に必要となってくる政治的な知識について、学生諸君が、過去の公務員採用試験などの問題を解きながら身につけていくことを、ねらいとしています。将来、公務員になろうと考えている学生にとっては、特に役に立つ演習になるはずですから、必ず受講するよう強くお勧めします。

到達目標

市役所・警察・消防等の公務員採用試験の政治的分野の問題を、確実に解ける程度の知識を身につけることが、この授業の到達目標です。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法

無断欠席者には原則として単位を与えません。成績は次のような配分により評価します。
・講義時に指示する小テストの提出状況：30％
・定期試験（持込不可）：70％
毎回実施する小テストは、回収・採点し、次回の授業時に返却・解説を行います。

事前・事後学習

必ず予習・復習（各90分）をしてください。なお、講義内容の理解のためにも、出来るだけ、この講義の履修に先立って全学共通教育科目の「政治学」を履修するようにしてください。また、日頃から、テレビや新聞の政治ニュースに目を通すことを心掛けてください。

授 業 計 画

第１講　ガイダンス：この授業の進め方
第２講　三権分立と法の支配
第３講　議院内閣制
第４講　国会
第５講　内閣
第６講　官僚制と行政
第７講　裁判所
第８講　地方自治
第９講　直接請求権
第10講　選挙
第11講　政党政治
第12講　政治理論
第13講　各国の政治制度
第14講　国際政治
第15講　時事問題
定期試験

※ 新型コロナウイルスの感染拡大の状況によっては、変更になる場合があります。

テキスト・教材（参考文献含む）

資格試験研究会編「大卒程度 警察官・消防官 新スーパー過去問ゼミ 社会科学〔改訂第3版〕」実務教育出版（2022年）1,500円＋税
※ このテキストは、公務のための法学・政治学・経済学の３科目共通です。このほかにプリントも配布することがあります。

担当者から一言

遅刻や、講義中の中座、飲食、私語、携帯電話の鳴動などは、原則禁止します。これらのことが守れない者には、退室を命ずることがあります。出席する以上は、真剣な態度で受講して下さい。また、講義中に指名されたら、元気に返事をするようにして下さい。

公務のための経済学

鬼頭浩文

科目ナンバリング	2年次	2単位
GSPO1005	後学期	選　択

授業の位置づけ

「スキル科目」では、いずれかのユニットを選ぶことによって、希望する進路に応じた、卒業までにあらかじめ身に付けておきたい即戦力となるスキルを、修得していきます。

授業のねらい

この講義では、公務員や金融機関、大学院などを目指す学生に対して、経済学の知識をわかりやすく伝授する。具体的には、職業人として必要な経済を見る力を身につけることと、企業の就職試験や公務員の教養試験における経済学分野の問題を解くための勉強を行う。できる限り、受験テクニックだけでなく、実際の社会の仕組みについても学ぶ。

到達目標

経済学の基本的知識を理論的に理解し、試験問題の解答を導き出す能力を身につけることが到達目標である。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法

授業を理解した上で課題（７回を予定）を提出すること。その上で、課題50％、期末試験50％の割合で総合的に評価する。課題は、添削やコメントを記して返却する。

事前・事後学習

指示した練習問題にトライして、理解できない問題は次回の講義で質問できるように準備をしておくこと。7回の課題には、各３～５時間ほどを要するので、計画的に取り組むこと。この講義は、全学共通教育科目の「経済学」単位取得後の受講が好ましい。

授 業 計 画

９/27	１．ガイダンス（基礎数学復習と一次関数の演習問題）
10/４	２．無差別曲線と消費者の行動①
10/11	３．無差別曲線と消費者の行動②＜課題①＞
10/18	４．企業の行動①
10/25	５．企業の行動②＜課題②＞
11/１	６．需要の価格弾力性①
11/８	７．需要の価格弾力性②＜課題③＞
11/15	８．市場メカニズムと安定性＜課題④＞
11/22	９．比較優位の理論①
11/29	10．比較優位の理論②＜課題⑤＞
12/６	11．財政政策・金融政策①
12/13	12．財政政策・金融政策②＜課題⑥＞
12/20	13．公共財の供給①
１/10	14．公共財の供給②＜課題⑦＞
１/17	15．その他の経済学の問題演習＜課題⑧＞

テキスト・教材（参考文献含む）

資格試験研究会編「大卒程度 警察官・消防官 新スーパー過去問ゼミ 社会科学〔改訂第3版〕」実務教育出版（2022年）1,500円＋税
※ このテキストは、公務のための法学・政治学・経済学の３科目共通です。このほかにプリントも配布することがあります。

担当者から一言

公務員試験・社会科学系大学院では、経済学の知識は必須である。内容はとても難しいが、パワーポイントなどで分かりやすく解説する。

公務のための法学

科目ナンバリング	2年次	2単位
GSPO1006	前学期	選　択

中西紀夫

授業のねらい

公務員試験対策の法学という形ではありますが、法理論や法制度の基礎的知識はもちろんのこと、憲法上の権利等も問題を解きながら認識を深めていきます。本講義では、大卒程度の警察官や消防官を対象としたテキストを使用しますが、必要に応じて市役所等の試験に出題される問題にも対応したいと思います。当然、たくさんの問題を解いていきますが、答え合わせでも出来るだけ分かりやすい解説になるように工夫をしていきたいと思います。

到達目標

法学や憲法の基本的な内容を論理的に理解したうえで、公務員試験の問題に対応できる能力を身につけることです。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法

小テスト　30％：授業中に行う小テストは採点をして２週間以内に返却します。受講態度等も含みます。
定期試験　70％：択一式や用語を書く問題が中心で、テキストや資料等の持込は不可です。
授業中もしくは授業後に寄せられた質問に対しては、適宜、授業内で回答していきます。

事前・事後学習

その日に扱う内容は出来るだけテキストを事前に読んでおくと、もう一度説明を聞くことで更に頭に入りやすいですし問題の正解率も上がりますので、是非、お願いしたいと思います。ニュース、新聞記事のチェックも忘れないようにしましょう。（毎回の予習９０分と復習９０分）

授業の位置づけ

「スキル科目」では、いずれかのユニットを選ぶことによって、希望する進路に応じた、卒業までにあらかじめ身に付けておきたい即戦力となるスキルを、修得していきます。

授業計画

第１講　ガイダンス
第２講　法の特質、法の分類、法の支配、法の解釈
第３講　大日本国憲法と日本国憲法の特徴、国民主権、平和主義、憲法改正の手続き
第４講　人権の発達、基本的人権の原理
第５講　日本国憲法における基本的人権の種類
第６講　人権の享有主体性、平等権、自由権、社会権
第７講　参政権と請求権、新しい人権と国民の義務
第８講　要約（これまでの確認）
第９講　民法、刑法、その他の法律
第10講　主な社会学者とその業績、社会集団の分類、現代社会の諸特質
第11講　労働三権、労働三法、近年の労働事情と労働問題
第12講　社会保障、高齢社会、少子社会
第13講　地球環境問題
第14講　資源・エネルギー問題
第15講　要約（これまでの確認）
定期試験

テキスト・教材（参考文献含む）

資格試験研究会編『大卒程度 警察官・消防官 新スーパー過去問ゼミ 社会科学〔改訂第3版〕』実務教育出版（2022年）1,650円（税込）必要に応じて、プリントでも補足します。
※ このテキストは、公務のための経済学・政治学・法学の３科目共通です。

担当者から一言

授業中は私語厳禁とします。また、こちらの許可を得ない中座や勝手にスマホを見ることなども、もちろん禁止です。学生さんも体調等の問題や諸活動で、こちらも臨機応変な対応が必要になることもありますが、中座や退室は私の許可を取ってください。出席する以上は、集中して受講しましょう。

公務のための人文科学

科目ナンバリング	2年次	2単位
GSPO1007	前学期	選　択

李　修二

授業のねらい

非常に幅広い人文科学の知識を、問題演習を通じて効率良く学び、それによって、どこででも通用するような、この分野の基礎知識を身に付けることをねらいとした授業です。公務員試験を目指す学生のみならず、様々な業種の就職試験などで課せられる一般教養の知識をできるだけ身に付けておきたいような学生にも適した授業となるはずです。

到達目標

幅広い人文科学の知識を、それらの意味も十分に理解したうえで確実に身に付けることを目標とします。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法

毎授業ごとのミニッツペーパーで40％評価し、学期末の筆記試験で60％評価します。（ミニッツペーパー評価基準はガイダンス時に説明します。授業ごとの提出ミニッツペーパーや質問等には、MOODLEを通じて、評価結果や応答をフィードバックします。）

事前・事後学習

毎回の授業後、ミニッツペーパー（小レポート）を書いてもらい、次の授業回までに提出してもらいます。そのため､授業の復習に30分以上、予習に60分以上かける必要があるでしょう。

授業の位置づけ

「スキル科目」では、いずれかのユニットを選ぶことによって、希望する進路に応じた、卒業までにあらかじめ身に付けておきたい即戦力となるスキルを、修得していきます。

授業計画

1．ガイダンス
2．日本史①
3．日本史②
4．日本史③
5．世界史①
6．世界史②
7．世界史③
8．世界史④
9．地理①
10．地理②
11．地理③
12．思想
13．文学･芸術①
14．文学･芸術②
15．国語
16．定期試験

テキスト・教材（参考文献含む）

『大卒程度 警察官・消防官 新スーパー過去問ゼミ 人文科学 改訂第３版』実務教育出版、2022年刊、1,500円＋税

担当者から一言

あきらめずに最後までやり抜くことが大事です。やり終えた後、必ず何がしかの自信が湧いてくることでしょう。

公務のための自然科学

科目ナンバリング	3年次	2単位
GSPO1008	前学期	選　択

高田晴美

授業の位置づけ

「スキル科目」では、いずれかのユニットを選ぶことによって、希望する進路に応じた、卒業までにあらかじめ身に付けておきたい即戦力となるスキルを、修得していきます。

授業のねらい

公務員試験の「自然科学」の内容は、「物理」「化学」「生物」「地学」「数学」（高校数学）です。これらは特に文系の受験生にとっては元々知識があまりないため学習困難なのですが、丸々捨てるわけにもいきません。しかし、的を絞って学習すれば、それなりに得点をできるようにはなれます。この講義では、自然科学の頻出テーマについて、特に自力では学習しづらい単元を中心に、広く浅く知識のインプットをした上で、過去問の演習を行います。

到達目標

公務員試験の自然科学の問題のうち、簡単なものなら解ける程度の知識、学力を身に付ける。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法

定期試験（資料持込不可）　70%
課題　30%
課題に関しては、講義で解説も行います。

事前・事後学習

次週の講義までに、前の週でやった単元について、以下のことをしておくこと。
・講義で扱った問題の解きなおし（90分）
・講義では飛ばした問題を解く（90分）
自力で解けるようになるまで何度もやり直してください。

授 業 計 画

第１講　ガイダンス、物理①
第２講　物理②
第３講　物理③
第４講　物理④
第５講　化学①
第６講　化学②
第７講　化学③
第８講　化学④
第９講　地学①
第10講　地学②
第11講　地学③
第12講　地学④
第13講　生物①
第14講　生物②
第15講　生物③
定期試験

テキスト・教材（参考文献含む）

『大卒程度　警察官・消防官　新スーパー過去問ゼミ　自然科学　改訂第２版』実務教育出版（2018年）1,404円（税込）
その他、適宜プリントを配布。

担当者から一言

この科目は、公務員試験を受ける予定の学生のみを対象とした、真面目に学習しないと単位取得が困難な科目です。授業中も自ら問題演習に取り組み、授業時間中に解法を確実に自分のものにしてやるという覚悟がある学生のみ、受講して下さい。

公務のための英文理解

科目ナンバリング	3年次	2単位
GSPO1009	後学期	選　択

ゴートン・リース

授業の位置づけ

「スキル科目」では、いずれかのユニットを選ぶことによって、希望する進路に応じた、卒業までにあらかじめ身に付けておきたい即戦力となるスキルを、修得していきます。

授業のねらい

現在、日本では、公務員試験のための決まった英語カリキュラムは存在しない。この講座では公務員試験によく出るテーマ、自然科学、経済、社会、についての英語の記事を毎回読んで、ディスカッションを行います。そのため、Expanding Horizonsというテキストを採用しました。

到達目標

１．英語の読解力を向上させる。
２．英語の語彙を増やす。
３．英文法の基礎を身につける。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法

学習態度　30%
課題・小テスト　30%
プレゼンテーション（１）　20%
定期試験　20%
授業中もしくは授業後に寄せられた質問に対しては、適宜、授業内で回答していきます。

事前・事後学習

In addition to homework assignments, after each class spend 60 minutes reviewing handouts, textbook exercises and videos. Students should also spend about 30 minutes reading ahead in the text for the next lesson.

授 業 計 画

1．Guidance/Course Introduction
2．The Sky Lodge
3．Japanese High School Life
4．Sloth Calendar
5．The Skate Brothers
6．Picnic Snack Ideas
7．Volcano Adventure
8．Crazy Rides
9．The Forrest Guards
10. A Different Kind of Journey
11. Comic Book Writer
12. Sharing Life with 1,000 Cats
13. Living in 1927
14. Future Food, Growing Cities
15. Review-　定期試験

テキスト・教材（参考文献含む）

Expanding Horizons
世界を巡る映像で学ぶ総合英語＜基礎＞
Charles Browne
Nanundo- 本体2,500円＋税

担当者から一言

対面授業を予定しています。しかし、新型コロナウイルスの感染状況によって、担当教員の判断でオンデマンド型授業に変えることがあります。ご了承ください。
１．プリントを整理する為のファイルを授業に持参して下さい。
２．５回以上欠席すると単位がもらえない。
履修者が20名を超えた場合は抽選となります。

公務のための論文・面接

小林慶太郎

科目ナンバリング	4年次	2単位
GSPO1010	前学期	選　択

授業のねらい

わたしたちが、役所の人（公務員）に何かをして貰おうとする時、それはどのように伝えられ、どのように進められるのでしょう。どのように伝えれば、間違いが生じにくいのでしょうか。

この授業では、こうした地域で公務につく際に必要となってくるコミュニケーションスキルについて、学生諸君が、実際に小論文を書いたり面接の練習をしたりしながら身につけていくことを、ねらいとしています。将来、公務員になろうと考えている学生にとっては、特に役に立つ演習になるはずですから、必ず受講するよう強くお勧めします。

到達目標

市役所・警察・消防等の公務員採用試験の論文や面接試験を、確実にクリアできる程度のスキルを身につけることが、この授業の到達目標です。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法

無断欠席者には原則として単位を与えません。成績は次のような配分により評価します。
・課題等への取り組み状況：45％
・講義時に指示する宿題の提出状況：30％
・受講態度：25％
提出された論文は、毎回添削して返却します。

事前・事後学習

毎回宿題を課しますので、必ずやってきてください（60分）。なお、より良い論文や面接への応答のためにも、出来るだけ、日頃から、テレビや新聞のニュースに目を通し、社会に広く目を向けることを心掛けてください（毎日20分以上）。

授業の位置づけ

「スキル科目」では、いずれかのユニットを選ぶことによって、希望する進路に応じた、卒業までにあらかじめ身に付けておきたい即戦力となるスキルを、修得していきます。

授 業 計 画

第１講　ガイダンス：この授業の進め方
第２講　文章の書き方（実習）
第３講　面接の心構え（実習）
第４講　論文のテーマ（実習）
第５講　面接の態度（実習）
第６講　論文の構成（実習）
第７講　面接での性格PR（実習）
第８講　論文の文体（実習）
第９講　面接での志望動機（実習）
第10講　論文の論旨（実習）
第11講　面接での経験PR（実習）
第12講　論文の論拠（実習）
第13講　集団面接での受け答え（実習）
第14講　論文のまとめ方（実習）
第15講　集団討論（実習）

※ 新型コロナウイルスの感染拡大の状況によっては、変更になる場合があります。

テキスト・教材（参考文献含む）

テキストは使いません（必要に応じてプリントを配布する場合があります）。

担当者から一言

この講義は、公務員試験に間に合うよう、６月上旬までの期間に集中して週２回実施します。履修の際には注意してください。なお、履修する以上は、真剣な態度で受講して下さい。

ビジネスマナー　実務

岡　良浩

科目ナンバリング	1年次	2単位
GSHM1001	後学期	選　択

授業のねらい

本講義は、ビジネスマナーの初歩を学びます。

ビジネスマナーは一つのスキルではありますが、その本質は人間関係です。そこでまずは、日常の良好な人間関係をどのようにつくっていくのかを学びます。

そのうえで、まずは一般的なマナーを学びます。表現には、言葉（言語）以外に、身ぶり・手ぶりといった非言語コミュニケーションも含まれます。
この応用としてビジネスマナーがあります。職場内やお客様との間での、さまざまなシーンを想定して、そのマナーの基礎を学びます。

到達目標

本講義の到達目標は以下の３点です。
１．人間関係づくりを学ぶこと
２．一般的なマナー（言語・非言語）を修得すること
３．シーンごとのビジネスマナーの基礎を修得すること

成績評価方法・課題・フィードバックの方法

授業での参加態度および課題の提出状況50％、定期試験50％
課題は講義の振り返りとして課します。課題は採点して返却します。

事前・事後学習

予習：テキストで指定する範囲を読んでおくこと。（90分）
復習：授業中に配布する理解度テストを行うとともに復習すること。（90分）
留学生はＮ１向けの問題集や参考書などで語彙や文法を身に付けておくことが望まれます。

授業の位置づけ

「スキル科目」では、いずれかのユニットを選ぶことによって、希望する進路に応じた、卒業までにあらかじめ身に付けておきたい即戦力となるスキルを、修得していきます。

授 業 計 画

１．ガイダンス／人間関係づくり①　チームワークと価値交流
２．人間関係づくり②　コミュニケーションとは
３．人間関係づくり③　パフォーマンス学
４．人間関係づくり④－１　話し方・聞き方・考え方
５．人間関係づくり④－２　話し方・聞き方・考え方
６．一般的なマナー①－１　敬語
７．一般的なマナー①－２　敬語
８．一般的なマナー②－１　表情・声・身体表現
９．一般的なマナー②－２　表情・声・身体表現
10. ビジネスマナー①　職場のルール　報相
11. ビジネスマナー②　受付・案内・席次・訪問時のマナー
12. ビジネスマナー③　一般文書とビジネス文書（メールと書類の書き方の違い等、封筒の書き方）
13. ビジネスマナー④　プレゼンテーション（グループワーク・発表あり）
14. ビジネスマナー⑤　クレーム応対（グループワーク・発表あり）ケースタディ（場面に応じた対応をする）
15. ビジネスマナー総合まとめ

テキスト・教材（参考文献含む）

テキストとしては以下を使用するので購入すること。（購入方法は講義中に別途指示します。）
有限会社幸プランニング発行『コミュニケーション＆ビジネスマナー』～自己表現を身につけコミュニケーション力を磨く～　1,980円

担当者から一言

ビジネスマナーは社会で生きていくための必須の資質です。学生時代に、先んじてビジネスマナーを学びたいと思う学生は是非受講して下さい。

サービス経営論

科目ナンバリング	1年次	2単位
GSHM1002	前学期	選　択

岡　良浩

授業のねらい

この講義はサービス業を念頭においた経営の基礎を学びます。
日本では、経済に占めるサービス業の割合が年々増加しておりGDPの３／４を占めると言われています。サービス業は、製造業と違って、形のない扱いにくい性質を価値として販売するため、仕組み自体が製造業とは異なります。
本講義では、このようなサービスの経営学を総合的に学びます。また初年次の受講者が多いことから、社会人の考え方の基礎としての「７つの習慣」についても副読します。サービス業に関わらず社会人に求められる資質を理解し習慣づけることを目指します。

到達目標

以下の３つを目標とします。
１．サービス業の特徴や経営の特徴を理解すること。
２．サービス業を含めた社会人に求められる資質を理解し、習慣づけることを行うこと。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法

授業への参加態度（含む講義中の小レポート）40％
期末試験　60％
講義中の小レポートは以下のように毎回課します。提出された課題はコメントをつけて返却します。
１．講義の回：キーワードとコメントの提出
２．７つの習慣の回：習慣の意味と自分の振り返り

事前・事後学習

予習：資料を読んで理解しておくこと（90分）
復習：小テストの実施（90分）

授業の位置づけ

「スキル科目」では、いずれかのユニットを選ぶことによって、希望する進路に応じた、卒業までにあらかじめ身に付けておきたい即戦力となるスキルを、修得していきます。

授業計画

第１回　ガイダンス／７つの習慣（１）インサイド・アウト
第２回　サービス業の産業構造と経営的特徴
第３回　７つの習慣（２）主体的であること
第４回　サービス業の事例（１）リッツカールトン
第５回　７つの習慣（３）主体的であること
第６回　サービスの事例（２）クロネコヤマト
第７回　７つの習慣（４）最優先事項を優先する
第８回　サービスの事例（３）TESSEN（新幹線清掃チーム）
第９回　７つの習慣（５）最優先事項を優先する
第10回　ものづくりの３Ｓ、サービスのQSC
第11回　７つの習慣（６）まず理解に徹しそして理解される
第12回　サービス・マーケティング
第13回　７つの習慣（７）シナジーを創り出す
第14回　IT・ロボットとサービス
第15回　まとめ／７つの習慣（８）刃を研ぐ

テキスト・教材（参考文献含む）

副読書（７つの習慣）は、冊子としてお渡しします。
その他は特にテキストは使用しませんが、必要に応じて資料を配布します。

担当者から一言

受講人数によってはオンデマンド授業となる場合があります。

販売士講座　実務

科目ナンバリング	2年次	2単位
GSHM1003	前学期	選　択

山川和美

授業のねらい

消費者ニーズが多様化・個性化しています。“消費者が何を求めているのか”ということを、流通業界ではあらゆる手段を用いて模索しています。このような時代にあって注目されているのが流通業界で唯一の公的資格「リテールマーケティング（販売士）」です。
この知識・スキルは流通・小売業界で活躍したい人は大変役立ちます。もちろん多様な分野にも活用出来ます。私達にとって親しみのあるコンビニエンスストアなど題材に、お店の売れる仕組みや、マーケティング、店舗運営、売場づくりなど幅広くビジネスの基礎を学びます。

到達目標

目標は以下の３点です。
・流通業界（小売・卸売業）の知識・スキルの基礎を理解する。
・店舗の売上・利益が上がる仕組みを理解する。
・店舗側の視点で考えることができる人材を目指す。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法

成績は次のような配分により評価します。
・平常点（授業態度、簡単な課題の提出状況等）60点
・定期試験（配布資料持込み可）　40点
提出物は内容について取りまとめ、適宜講義でフィードバックします。

事前・事後学習

予習：日頃からテレビや新聞など小売業界に関連したニュースに目を通す。（20分）
復習：学んだ内容を復習し、ショッピングセンターやコンビニエンスストアなどに出かけた時に授業の検証に心がけること。（40分）

授業の位置づけ

「スキル科目」では、いずれかのユニットを選ぶことによって、希望する進路に応じた、卒業までにあらかじめ身に付けておきたい即戦力となるスキルを、修得していきます。

授業計画

第１講　ガイダンス　講義の概要
第２講　ストアオペレーションのポイント①
第３講　ストアオペレーションのポイント②
第４講　ストアオペレーションのポイント③
第５講　小売業の類型のポイント①
第６講　小売業の類型のポイント②
第７講　小売業の類型のポイント③
第８講　マーチャンダイジングのポイント①
第９講　マーチャンダイジングのポイント②
第10講　販売・経営管理のポイント①
第11講　販売・経営管理のポイント②
第12講　販売・経営管理のポイント③
第13講　リテールマーケティングのポイント①
第14講　リテールマーケティングのポイント②
第15講　まとめ
定期試験

テキスト・教材（参考文献含む）

なし（毎回レジメを配布します。）
【参考文献】
日本商工会議所・全国商工会連合会編「販売士３級ハンドブック（２冊セット）」カリアック（2019年）5,400円

担当者から一言

店舗経営の視点でお店の見方が変わり買物が楽しくなりますよ。

ビジネスコミュニケーション 実務	科目ナンバリング	2年次	2単位
岡　良浩	GSHM1004	前学期	選　択

授業の位置づけ

「スキル科目」では、いずれかのユニットを選ぶことによって、希望する進路に応じた、卒業までにあらかじめ身に付けておきたい即戦力となるスキルを、修得していきます。

授業のねらい

本科目では、ビジネスマナーの上級者としてのさまざまな技術を実践的に学びます。

とりわけ対顧客を意識した接客技術やプレゼンテーション･交渉力･営業力に重点を置いた内容となります。

講義には実務経験者や企業向けに講師をつとめている学外の方から、多彩なお話を聞くことができます。企業人としてのコミュニケーションを実践的に学んでいただきたいと思います。

到達目標

企業人としてのコミュニケーションを実践的に学ぶこと。

成績評価方法･課題･フィードバックの方法

定期試験50%　参加態度および小テスト50%
小テストは、講義のふりかえりとして課します。提出されたものはコメントをつけて返却します。

事前・事後学習

予習:毎回のプリントをあらかじめ読んでおくこと。(90分)
復習:毎回の授業で学んだ技術を訓練するとともに、ふりかえりの小テストを行うこと。(90分)
「ビジネスマナー」を先行して履修していることが望ましい（必須ではありません)。

授 業 計 画

1．ガイダンス
2．ワンランク上の接遇マナー　「おもてなし」ES（従業員満足）とCS（顧客満足）
3．パフォーマンス学
4．おもてなしの接客技術①第一印象力
5．おもてなしの接客技術②接客力
6．おもてなしの接客技術③電話･レター･メール
7．ビジネススキルを学ぶ①プレゼンテーションⅠ　プレゼンテーションの目的
8．ビジネススキルを学ぶ②プレゼンテーションⅡ　効果的なプレゼンテーション
9．ビジネススキルを学ぶ③「営業力」
10．ビジネススキルを学ぶ④「交渉力(ネゴシエーション)」
11．心理学TAとアサーティブなコミュニケーション（人の心と行動を知り、お互いを尊重したコミュニケーション）
12．ビジネススキルを学ぶ⑤コーチングの基本
13．ビジネススキルを学ぶ⑥コーチングの手法と実践
14．リスク管理とは①人間はミスをする生き物　コミュニケーションで危険回避
15．おもてなしの取り組みとは　総復習

テキスト・教材（参考文献含む）

テキストは特に指定せず、毎回プリントを配布します。

担当者から一言

この授業は、外部講師による実践的なコミュニケーション技術を学びます。意欲的な学生を期待します。
1．この授業は「オペレーション演習」を受講する前提となります。
2．希望者が多数の場合は「オペレーション演習」受講者を優先し、40名程度に履修者数を制限します。

グローバルコミュニケーション	科目ナンバリング	2年次	2単位
富田　与	GSHM1005	後学期	選　択

授業の位置づけ

「スキル科目」では、いずれかのユニットを選ぶことによって、希望する進路に応じた、卒業までにあらかじめ身に付けておきたい即戦力となるスキルを、修得していきます。

授業のねらい

この講義では、多文化共存の状況とそこでの関係者の行動を見ながら、文化や行動の多様化と制約、そして、そうしたものに対応するにはどうしたらいいのかについて考えます。おもに、参加者とのディスカッションを中心に、「仕事の文化」という視点から、二つの文化が出会う場面でのホスト＝ゲスト関係を実践的な挑戦としてとらえていくことにしたいと思います。

到達目標

多文化共存の状況を理解し、日常生活や仕事の中でそれに対応できる能力を身につける。

成績評価方法･課題･フィードバックの方法

学期末に、参加度（発言、発表等）40%、レポート60%の割合で総合評価を出します。
レポートは希望者に返却します。
講義中の課題は、毎時間発表してもらいます。

事前・事後学習

予習:指示された教材を読み、必要なデータに目を通しておいてください(90分)。毎回、簡単な発表をしてもらいます。
復習:教材を読み直し、レポート等の課題を作成してもらいます(90分)。

授 業 計 画

第１講　ガイダンス
第２講　第１章　なぜアジアに移住するのか。その１
第３講　第１章　なぜアジアに移住するのか。その２
第４講　第１章　なぜアジアに移住するのか。その３
第５講　第２章　和食職人の伝統。その１
第６講　第２章　和食職人の伝統。その２
第７講　第３章　「おもてなし」という感情労働。その１
第８講　第３章　「おもてなし」という感情労働。その２
第９講　第４章　日本化したアメリカ文化。その１
第10講　第４章　日本化したアメリカ文化。その２
第11講　第５章　「国語」教育から「日本語」教育へ。その１
第12講　第５章　「国語」教育から「日本語」教育へ。その２
第13講　第６章　再発見された仕事の価値。その１
第14講　第６章　再発見された仕事の価値。その２
第15講　まとめ:グローバル化の中での仕事とコミュニケーション

テキスト・教材（参考文献含む）

『世界に広がる日本の職人』　青山玲次郎著　ちくま新書　820円

担当者から一言

多文化が共存する社会では、その文化を理解していなくても、異なった文化背景を持つ人々とコミュニケーションを取っていかなければならなくなります。そんな時、どうしたらいいのか。一緒に考えてみましょう。

オペレーション演習	科目ナンバリング	２年次	２単位
岡良浩・永井博・川崎綾子	GSHM1006	前学期	選　択

授業の位置づけ

「スキル科目」では、いずれかのユニットを選ぶことによって、希望する進路に応じた、卒業までにあらかじめ身に付けておきたい即戦力となるスキルを、修得していきます。

授業のねらい

サービス業の中心となる技術である接客技術を、現地研修を通して身に付けることが本講義のねらいである。ホテルや旅館などの宿泊施設、土産物店やレストランなどの物販・飲食店、その他の観光関連事業は接客が仕事の最前線である。客から言えば、接客に当たる店員の「おもてなし」の態度・印象、それを支える知識や技術がその店のすべてであると言っても過言ではない。その技術は座学だけではすべてを身に付けることはできない。実際にホテル・土産物店・レストランなどの現場の業務を体験しながらノウハウを身に付けてもらう。

到達目標

サービス業の中心である接客技術を身に付けることが目標である。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法

研修の態度70％、課題レポート30％　必要に応じてフィードバックします。

事前・事後学習

２年生前期の「ビジネスコミュニケーション」を履修していないと受講できません。（同時履修は可能）
予習：上記「ビジネスコミュニケーション」で学習した接客技術の基礎事項を復習しておくこと。（90分相当）
復習：研修内容を整理すること。（90分相当）

授 業 計 画

受け入れ先企業において、夏季休暇中に15コマ相当の研修を行う。
前期授業期間中に事前説明会を行い、受け入れ企業を決定する。受講を希望する学生は、事前説明会に必ず出席すること。
受け入れ先企業が決まるまで、夏季休暇中の予定を空けておくこと。
参考までに、2019年度の受け入れ先企業とそれぞれの実習期間は以下の通りである。
志摩スペイン村：９月３日（火）～９月７日（土）
伊勢かぐらばリゾート千の杜：８月19日（月）～８月23日（金）
鳥羽シーサイドホテル：８月23日（金）～８月27日（火）
伊勢安土桃山文化村：８月12日（月）～８月16日（金）
戸田家：８月12日（月）～８月16日（金）
ねむリゾート：８月27日（火）～８月31日（土）
わんわんパラダイス：９月５日（木）～９月９日（月）

テキスト・教材（参考文献含む）

大学からは特になし。受け入れ先企業から資料が配布される場合がある。

担当者から一言

学生の研修と言っても客からは企業の業務である。社会人としての自覚をもって臨むこと。また、事前説明会に無断欠席、遅刻した場合、頭髪や服装に問題がある場合、留学生で日本語能力が著しく不足する場合は研修に参加させないことがある。コロナによる緊急事態宣言などが出た時には予定が変更になることがある。

ビジネスマネジメント	科目ナンバリング	３年次	２単位
岩崎祐子・奥原貴士	GSHM1007	前学期	選　択

授業の位置づけ

「スキル科目」では、いずれかのユニットを選ぶことによって、希望する進路に応じた、卒業までにあらかじめ身に付けておきたい即戦力となるスキルを、修得していきます。

授業のねらい

本講義の前半（第２講～第７講）は、企業の協力を得て、実際のビジネス環境を学ぶ予定にしています。ビジネスの競争環境などを学ぶ理解します。そして、実際の企業活動におけるマネジメントを講義を通して体験し、研究発表を行います。
次に、ビジネスをマネジメントするには企業の会計情報を利用する知識が必要になります。そこで本講義の後半（第９講～第15講）では、サービス業や観光業を営む企業の売上高・純利益などの会計情報を用いて、企業の収益性・安全性・生産性・不確実性などの経営分析を行う方法について学習します。

到達目標

・ビジネスの競争環境を理解する。
・ビジネスマネジメントの実際を把握する。
・経営分析の方法を理解する。
・企業の会計情報を使用して経営分析を行うことができる。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法

平常点（授業への積極的な参加、小レポートなど）30％
中間試験40％
レポート（第９講～第15講の間に行う）
定期試験30％
レポートなど課題は適宜コメントをして返却します。

事前・事後学習

事前：新聞や雑誌などを読んで、企業経営について学ぶ（90分）
事後：授業の復習と関連情報の収集（90分）
普段から新聞や雑誌などを読んで、この企業の経営はうまくいってそうだ、こっちの企業は倒産の危険があるんじゃないか、というように企業の経営状態に関心をもつようにしてください。

授 業 計 画

第１講ガイダンス
第２講　グループ分け、グループワークの説明
第３講　ビジネスマネジメントの実際
第４講　ビジネスマネジメントの実際
第５講　ビジネスマネジメントの実際
第６講　ビジネスマネジメントの実際
第７講　プレゼンテーション
第８講　中間試験
第９講　経営分析の視点と方法
第10講　収益性の分析
第11講　収益性の分析
第12講　安全性の分析
第13講　安全性の分析
第14講　生産性の分析
第15講　不確実性の分析
定期試験

第２講～第６講　グループワーク、第７講　プレゼンテーション

テキスト・教材（参考文献含む）

講義資料は毎回プリントを配布する。
（参考文献）
桜井久勝『財務諸表分析』中央経済社。

担当者から一言

本講義で学習する経営分析の知識は社会に出てから自社やライバル企業の経営状態を分析する際に不可欠です。すなわち、ビジネスの世界で活躍するために必要な知識です。

マーケティング演習 実務	科目ナンバリング	３年次	２単位
岩崎祐子・岡良浩	GSHM1008	後学期	選　択

授業の位置づけ

「スキル科目」では、いずれかのユニットを選ぶことによって、希望する進路に応じた、卒業までにあらかじめ身に付けておきたい即戦力となるスキルを、修得していきます。

授業のねらい

この科目では､マーケティングに必要なスキルを実践的に学びます。
マーケティングとは､「顧客のニーズに合ったものを、最適な形で提供される市場を作り出すための活動」のことを言います。その内容は様々ありますが､「顧客にニーズは何か」が起点となります。その意味で、マーケティング＝市場調査と思っても良いでしょう。
ここではMicrosoft Formを用いて、アンケート調査と集計を体験します。単純集計･クロス集計や報告書作成を演習します。
この体験を踏まえて、実際の企業を想定した市場調査を考えていただきます。

授 業 計 画

第１回　ガイダンス
第２回　マーケティングと市場調査の基礎理解
第３回　Microsoft Formsの使い方
第４回　Microsoft Formsによるアンケートの設計と回答
第５回　エクセルを使った単純集計
第６回　エクセルを使ったクロス集計
第７回　報告書の作成
第８回　仮設を設定した市場調査の設計
第９回　市場調査の実施
第10回　市場調査の集計
第11回　報告書の作成
第12回　報告書の確認
第13回　報告書の発表
第14回　市場調査の実際
第15回　まとめ

到達目標

到達目標は以下の３点です。
①市場調査の一連の技法を身につけること
（調査票設計→配布→回収→集計･分析→提案）
②市場調査の分析結果を発表する能力を身につけること
③実際の企業を想定した市場調査を企画できる能力をつけること

成績評価方法･課題･フィードバックの方法

参加態度　30％
報告書および発表　40％
定期試験（レポート試験）　30％
全期間を通じて、その都度、理解度を確認しながらすすめます。必要に応じてフィードバックします。

テキスト・教材（参考文献含む）

テキストは特に指定せず、毎回Moodle上に資料を提示します。

事前・事後学習

予習:配付資料をあらかじめ読んでおくこと。(90分)
復習:学んだ技法を復習し、身につけておくこと。(90分)

担当者から一言

Moodleを利用し、原則、コンピュータ室で演習を行います。

おもてなし特別講義ａ 実務	科目ナンバリング	２年次	２単位
岩崎祐子・岡　良浩	GSHM1009	前学期	選　択

授業の位置づけ

「スキル科目」では、いずれかのユニットを選ぶことによって、希望する進路に応じた、卒業までにあらかじめ身に付けておきたい即戦力となるスキルを、修得していきます。

授業のねらい

本講義は、おもてなしを担う企業の成功事例を、総合的に理解することを目的とする。おもてなし経営が成功しているのは、個々の技術要素というより、総合力が勝っているからだと思われる。このような総合力を見ることがこの講義のねらいである。
企業においては、経営理念や事業目標がどのように企業内に反映されているか、そのポイントはどこにあるかなど、三重県内の経営者層を招聘して伺う。

授 業 計 画

第１回　ガイダンス
第２回　外部講師による講義
第３回　授業中レポート
第４回　外部講師による講義
第５回　授業中レポート
第６回　外部講師による講義
第７回　授業中レポート
第８回　外部講師による講義
第９回　授業中レポート
第10回　外部講師による講義
第11回　授業中レポート
第12回　記事担当の学生の振り分け･記事の執筆
第13回　記事の執筆
第14回　記事の仮提出と指導
第15回　記事の発表
定期試験

第12回～第14回　グループワーク、第15回　プレゼンテーション
※日程は変更する可能性があります。
※外部講師の講演企業・日程などの詳細は、第1回ガイダンス時に配布します。
※履修登録者多数の場合、履修制限をする可能性があります。

到達目標

･おもてなし経営の成功事例を理解する。
･成功事例から、成功の要因や他事業への応用（普遍化）を考察する。

成績評価方法･課題･フィードバックの方法

授業中に作成するレポート（40％）、グループワーク・発表（30％）、定期試験（30％）により評価します。
授業時に提出した課題については、コメントをつけて返却します。

テキスト・教材（参考文献含む）

テキストは使用せず、毎回、資料を配付します。
参照資料として三重県「三重のおもてなし経営企業選」のホームページを参照してください。

事前・事後学習

日頃から、「おもてなし」をキーワードに企業経営、サービス、観光に関するニュースに目を通すようにして下さい（30分、週３日以上）。
授業内容を復習して、さらに他の事例研究もおこなってください（90分）。

担当者から一言

第12講以降PC教室を使用するため、履修登録者多数の場合、履修制限をする可能性があります。
「外部講師による講義」の際にも積極的に質問してください。多くの企業や経営者との出会いは、これから社会に出る学生にとっていい経験になりますし、就職活動にも役立ちます。

おもてなし特別講義ｂ 実務	科目ナンバリング	２年次	２単位
池田幹男・岩崎祐子・岡良浩	GSHM1010	後学期	選　択

授業の位置づけ

「スキル科目」では、いずれかのユニットを選ぶことによって、希望する進路に応じた、卒業までにあらかじめ身に付けておきたい即戦力となるスキルを、修得していきます。

授業のねらい

様々な情報技術を使用した「おもてなし」サービスの効率化について理解します。また、最後に応用としてデジタルサイネージ向けの短い広告を作成します。

到達目標

情報技術を利用したサービス産業の効率化について理解する。

成績評価方法･課題･フィードバックの方法

授業態度30％、教育支援システムを通じたノート提出やディスカッション30％、最終レポート40％で採点します。教育支援システム(Moodle)を通じてフィードバックします。レポートの採点にはルーブリックを使用します。ルーブリックの基準については、教育支援システムで呈示します。

事前・事後学習

観光産業を中心としたサービス産業や、人工知能･クラウド･ロボットなどの情報通信技術に関するニュースや情報を日常的に調査してください。(毎日30分)

授 業 計 画

第１講　ガイダンス
第２講　「おもてなし」と情報技術
第３講　おもてなしとロボット
第４講　おもてなしサービスの事例研究(へんなホテルを中心として)
第５講　観光資源としてのロボット
第６講　インターネットとクラウドシステム
第７講　キャッシュレス決済
第８講　ビッグデータ
第９講　AI(音声合成、音声認識)
第10講　AI(対話システム、翻訳、ディープラーニング)
第11講　デジタルサイネージ
第12講　サイネージ向けコンテンツ作成(１)
第13講　サイネージ向けコンテンツ作成(２)
第14講　サイネージ向けコンテンツ作成(３)
第15講　フリーディスカッション

テキスト・教材（参考文献含む）

教材は、教育支援システム(Moodle)を通じて呈示します。

担当者から一言

この授業は、コンピュータでの入力が必要となるので、人数に制限があります。最初の授業には必ず出席してください。
この授業は単なる教員が行う講義ではなくて、皆さんが自ら参加する形式で進めていきます。授業中や教育支援システムを通じたフリーディスカッションへの積極的な参加や発言を期待しています。

観光英語Ⅰ	科目ナンバリング	１年次	２単位
ゴートン・リース	GSET1001	前学期	選　択

授業の位置づけ

「スキル科目」では、いずれかのユニットを選ぶことによって、希望する進路に応じた、卒業までにあらかじめ身に付けておきたい即戦力となるスキルを、修得していきます。

授業のねらい

In this class students will do listening and conversation activities to prepare for travel abroad. This will be a challenging class and recommended for serious Intermediate level students who want to improve their English skills. この講座は１年生から参加できますが、英語のレベルは中～上級者向けです。

到達目標

The main goal of this class is to prepare students for travel abroad experiences, as well as for work in the travel and hospitality industry. As English is a commonly used language in many countries, the focus will be on developing English skills that will be useful in a variety of situations. Students will also learn how to explain inportant aspects of Japanese culture in English.

成績評価方法･課題･フィードバックの方法

学習態度	15%
Homework/quizzes	30%
Speeches and speaking tests	30%
My favori	

事前・事後学習

Students are expected to spend time on both written homework (90 minutes) and previewing the next lesson (30 minutes).

授 業 計 画

1. Course introduction/Guidance
2. My suitcase is overweight
3. I'm suffering from Jet Lag
4. Each host family is different
5. I'm experiencing culture shock
6. My dormitory is too noisy
7. How can I make friends?
8. What should I talk about?
9. I feel homesick
10. How do I order food?
11. I lost my passport
12. I need to go to the hospital
13. I don't want to leave
14. My favorite restaurant- speech preparation
15. Review- 定期試験

テキスト・教材（参考文献含む）

Communicate Abroad
Simon Cookson
Cengage Learning
2,150 yen

担当者から一言

この科目は本気で英語を取得したい学生の為にあります。授業の内容は容易ではありません。成績評価も厳格にいたします。履修者が20名を超えた場合は抽選あり。対面授業を予定しています。しかし、新型コロナウイルスの感染状況によって、担当教員の判断でオンデマンド型授業に変えることがあります。

観光英語Ⅱ	科目ナンバリング	1年次	2単位
ゴートン・リース	GSET1002	後学期	選　択

授業の位置づけ

「スキル科目」では、いずれかのユニットを選ぶことによって、希望する進路に応じた、卒業までにあらかじめ身に付けておきたい即戦力となるスキルを、修得していきます。

授業のねらい

This course is a continuation of 観光英語 I. However, while 観光英語 I is concerned with English used when traveling abroad, 観光英語 II focuses on "hospitality" English, or English that is used to describe life in Japan and Japanese culture to foreign travelers. This will be a challenging class and recommended for serious Intermediate level students who want to improve their English skills. この講座は１年生から参加できますが、英語のレベルは中～上級者向けです。

到達目標

1．英語の聴解力と話す力を高める。
2．英語の語彙を増やす。
3．観光英語の知識を身に付けるとともに、日本文化をより深く理解する。

成績評価方法･課題･フィードバックの方法

学習態度	15%
Homework/quizzes	30%
Speeches and speaking tests	30%

事前・事後学習

After each class, spend 60 minutes reviewing the class handouts and textbook exercises we covered in the lesson. Then spend about 30 minutes reading ahead and preparing for the following class.

授 業 計 画

1．Course introduction/guidance
2．Ramen
3．Animal cafe
4．Stand-up eatery
5．Convenience store
6．Japanese fast food, gyudon
7．Japanese spa
8．Flour dishes
9．Karaoke
10. Seating charges at Japanese restaurants
11. Second hand store
12. Kawaii culture
13. World Heritage Site- presentation preparation
14. World Heritage Site- presentation preparation
15. World Heritage Site- student presentations
(Submit World Heritage Site Report)

テキスト・教材（参考文献含む）

Textbook: Glances of Japan 日本文化とおもてなし英語
Publisher: Nanundo
1,980円

担当者から一言

この科目は本気で英語を取得したい学生の為にあります。授業の内容は容易ではありません。５回以上欠席すると単位がもらえません。履修者が20名を超えると抽選になります。対面授業を予定しています。しかし、新型コロナウイルスの感染状況によって、担当教員の判断でオンデマンド型授業に変えることがあります。

コンピュータ英語Ⅰ	科目ナンバリング	1年次	2単位
柴田啓文	GSET1003	前学期	選　択

授業の位置づけ

「スキル科目」では、いずれかのユニットを選ぶことによって、希望する進路に応じた、卒業までにあらかじめ身に付けておきたい即戦力となるスキルを、修得していきます。

授業のねらい

インターネットを利用して、コンピュータやアプリケーション、各種クラウドやニュース･サイトに関わる英語の基本を学びます。また、ExcelやGoogle SheetsやPythonの基本も学びます。

コンピュータやインターネットや各種アプリケーションとプログラムを同時に学びたいみなさんのための授業です。

到達目標

1．ニュースの英語の見出し文の構造を理解する。
2．コンピュータ、インターネットに関わる基本的な英語を知る。
3．ExcelやGoogle Sheetsに関わる基本的な英語を知る。
4．プログラムに関わる基本的な英語を知る。
5．インターネットを利用して、基本的な英語情報を収集できる。

成績評価方法･課題･フィードバックの方法

平常点50%と学期末試験50%により評価します。平常点は､毎回のノート（主にExcelを利用）の提出や小テストなどによります。提出ノートのや小テストおよび学期末試験の得点は教育システムのコース上の｢評定｣に表示します。

事前・事後学習

英語に親しむことが英語学習のポイントです。タイトルや写真だけでもよいので、毎日30分はBBC NEWSをながめてください。

授 業 計 画

第１回　ガイダンス：授業の内容と評価の説明、教育支援システムの登録。登録希望者が多ければ抽選。教育支援システムの利用法。
第２回　ニュースの英語(以降毎回)､翻訳サイトと英語辞書の使用法。
第３回　ExcelとPythonの英語の基礎:基本的な使用法。
第４回　ExcelとPythonの英語の基礎:簡単な計算。
第５回　ExcelとPythonの英語の基礎:グラフの作成。
第６回　GIMPの英語の基礎:RasterとVector。
第７回　GIMPの英語の基礎:イラストの処理の基本。
第８回　GIMPの英語の基礎:写真の処理の基本。
第９回　Google SheetsとPythonの英語:基本的な使用法１。
第10回　Google SheetsとPythonの英語:基本的な使用法２。
第11回　Google SheetsとPythonの英語:データの取得。
第12回　自然言語処理の英語:基本的な考え方。
第13回　自然言語処理の英語:Youtubeのtranscriptsの取得と翻訳。
第14回　仮想通貨の英語。
第15回　まとめ。

テキスト・教材（参考文献含む）

使用しません。インターネット上の英文を読みます。

担当者から一言

Moodleを利用。コンピュータやスマートフォン､AIやプログラミング、およびインターネットに興味があり、これらを利用するための英語の基礎を身に付けたいと考える学生の受講を期待します。
事前にExcelやプログラミングの知識は必要ありません。

コンピュータ英語Ⅱ	科目ナンバリング	1年次	2単位
柴田啓文	GSET1004	後学期	選　択

授業の位置づけ

「スキル科目」では、いずれかのユニットを選ぶことによって、希望する進路に応じた、卒業までにあらかじめ身に付けておきたい即戦力となるスキルを、修得していきます。

授業のねらい

インターネットを利用して、コンピュータやアプリケーション、各種クラウドやニュース・サイトに関わる英語を学びます。また、ExcelやGoogle SheetsやPythonも学びます。

コンピュータやインターネットや各種アプリケーションとプログラムを同時に学びたいみなさんのための授業です。

到達目標

1．ニュースの英語の見出し文の構造を読める。
2．コンピュータ、インターネットに関わる英語を知る。
3．ExcelやGoogle Sheetsに関わる英語を知る。
4．プログラムに関わる英語を知る。
5．インターネットを利用して、英語情報を収集できる。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法

平常点50％と学期末試験50％により評価します。平常点は、毎回のノート（主にExcelを利用）の提出や小テストなどによります。提出ノートのや小テストおよび学期末試験の得点は教育システムのコース上の「評定」に表示します。

事前・事後学習

英語に親しむことが英語学習のポイントです。タイトルや写真だけでもよいので、毎日30分はBBC NEWSをながめてください。

授 業 計 画

第１回　ガイダンス：授業の内容と評価の説明、教育支援システムの登録と利用法。登録希望者が多ければ抽選。
第２回　ニュースの英語（以降毎回）翻訳サイトと英語辞書の使用法。
第３回　ExcelとPythonの英語：計算。
第４回　ExcelとPythonの英語：ピボット・テーブル。
第５回　ExcelとPythonの英語：VLOOKUP関数。
第６回　GIMPの英語：ブラシの使用法。
第７回　GIMPの英語：イラストの処理。
第８回　GIMPの英語：写真の処理。
第９回　Google SheetsとPythonの英語：関数の使用。
第10回　Google SheetsとPythonの英語：関数の作成。
第11回　Google SheetsとPythonの英語：文字列の処理。
第12回　自然言語処理の英語：一般的な処理方法の紹介。
第13回　自然言語処理の英語：Youtubeのtranscriptsの取得。
第14回　自然言語処理の英語：Youtubeのtranscriptsの翻訳。
第15回　まとめ。

テキスト・教材（参考文献含む）

使用しません。インターネット上の英文を読みます。

担当者から一言

Moodleを利用。コンピュータやスマートフォン、AIやプログラミング、およびインターネットに興味があり、これらを利用するための英語を身に付けたいと考える学生の受講を期待します。

英語表現Ⅰ	科目ナンバリング	2年次	2単位
ゴートン・リース	GSET1005	前学期	選　択

授業の位置づけ

「スキル科目」では、いずれかのユニットを選ぶことによって、希望する進路に応じた、卒業までにあらかじめ身に付けておきたい即戦力となるスキルを、修得していきます。

授業のねらい

パフォーマンスやプレゼンテーションを通じて、学生の英語コミュニケーション能力の向上を図る事がこの講座の狙いです。

Presentation Skills and Performance

In this course we will work on improving our English presentation and performance skills. We will use a textbook. Students will be expected to make short presentations and group performances based on the text.

到達目標

1．英語の聴解力と話す力を高める。
2．英語の語彙を増やす。
3．人の前で英語で話す自信を身につける。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法

学習態度	15%
Presentations and performances	30%
課題・小テスト	30%
定期試験	25%

事前・事後学習

In addition to any homework assignments, after each class try to spend about 60 minutes reviewing the class handouts and textbook exercises that were covered in the lesson. In addition, try and spend about 30 minutes reading ahead for the following class.

授 業 計 画

1．Guidance/ Radio Thriller
2．Radio Thriller- Group performance
3．Unit 1- People- Lesson A- Getting to know you
4．Unit 1- People- Lesson B- Appearance
5．Unit 2- Behavior- Lesson B- Actions
6．Unit 2- Behavior- Lesson B- Feelings and Gestures
7．Unit 3- Shopping- Lesson A- At the Market
"Slow Food"- Group performance
8．Unit 3- Shopping- Lesson B- Let's go shopping
9．小テスト
10. Unit 4- Vacation- Lesson A- Weather
11. Unit 4- Vacation- Lesson B- Travelers
12. Unit 5 -Heroes Lesson A- Pioneers
13. Unit 5- Heroes- Lesson B- Personal Heroes
14. Unit 6- The Mind- Lesson A- Memory
"The person Ⅰ admire most"- Speech
15. Unit 6- The Mind- Lesson B- Sleep
定期試験

テキスト・教材（参考文献含む）

World Link Combo Split 1A with Online Practice + e-Book（1 year access）　￥2,700（￥2,970税込）
テキストはオンラインワークブックがついている。オンラインワークブックがないテキストを買うと授業に参加ができない。英語表現 ⅠとⅡのテキストは同じ。

担当者から一言

対面授業を予定しています。しかし、新型コロナウイルスの感染状況によって、担当教員の判断でオンデマンド型授業に変えることがあります。ご了承ください。
1．英和辞典とプリントを整理するためのファイルが必要。
2．５回以上欠席すると単位がもらえません。
履修者が20名を超えた場合は抽選となります。

英語表現Ⅱ	科目ナンバリング	２年次	２単位
ゴートン・リース	GSET1006	後学期	選　択

授業の位置づけ

「スキル科目」では、いずれかのユニットを選ぶことによって、希望する進路に応じた、卒業までにあらかじめ身に付けておきたい即戦力となるスキルを、修得していきます。

授業のねらい

This course is a continuation of 英語表現 Ⅰ. パフォーマンスやプレゼンテーションを通じて、学生の英語コミュニケーション能力の向上を図る事がこの講座の狙いです。
Presentation Skills and Performance
In this course we will work on improving our English presentation and performance skills. We will use a textbook.

到達目標

1．英語の聴解力と話す力を高める。
2．英語の語彙を増やす。
3．人の前で英語で話す自信を身につける。

成績評価方法･課題･フィードバックの方法

学習態度	15%
Skits and presentations	40%
Homework and quizzes	30%
Reader's Theatre- Slow Food	15%

事前・事後学習

Spend 60 minutes reviewing the class handouts and textbook exercises covered in the previous class, as well spend 30 minutes reading aloud and studying the skits introduced in class.

授 業 計 画

1．Guidance/Course Introduction/ Ice Breaker
2．Unit 7- Lesson A- My neighborhood
3．Unit 7- Lesson B- Big cities
4．Unit 8- Lesson A- Sports
5．Unit 8- Lesson B- Personality
6．Unit 9- Lesson A- Habits
7．Unit 9- Lesson B- Goals
8．Unit 10- Lesson A- The Body
9．Unit 10- Lesson B- Stress
10. Unit 11- Lesson A- Talented people
11. Unit 11- Lesson B- Risk
12. Unit 12- Lesson A- Types of movies
13. Slow Food-reader's theatre activity
14. Slow Food practice
15. Reader's Theatre- Slow Food group performance

テキスト・教材（参考文献含む）

World Link Combo Split 1A with Online Practice + e-Book（1 year access）￥2,700（￥2,970税込）
テキストにオンラインワークブックがついている。オンラインワークブックがないテキストを買うと授業に参加が不可。

担当者から一言

対面授業を予定しています。しかし、新型コロナウイルスの感染状況によって、担当教員の判断でオンデマンド型授業に変えることがあります。履修者が20名を超えた場合は抽選となります。５回以上欠席すると単位がもらえません。

ビジネス英語Ⅰ	科目ナンバリング	２年次	２単位
樋口晶子	GSET1007	前学期	選　択

授業の位置づけ

「スキル科目」では、いずれかのユニットを選ぶことによって、希望する進路に応じた、卒業までにあらかじめ身に付けておきたい即戦力となるスキルを、修得していきます。

授業のねらい

基礎的なレベルの英語を使い、実際のビジネスの場で使える表現や対応について学びます。ビジネスやフォーマルな場でのマナーや常識を英語を通して知ることにより、適切な対応とは何かを考えます。

到達目標

1　基礎的な英語を使ったフォーマルな表現を学ぶ。
2　フォーマルな場で､相手を不快にさせない対応について理解する。
3　自分の意見をアピールし、相手と交渉する手法を学ぶ。

成績評価方法･課題･フィードバックの方法

学習態度(授業中のマナーは特に重視します)　40%
小テスト･課題　30%
定期試験　30%

事前・事後学習

適宜、課題と小テストを出します。
1　事前学習：小テストの準備と単語学習(30分)、授業内容の予習(60分)
2　事後学習：課題と単語学習(30分)、授業内容の復習(60分)

授 業 計 画

第１講　ガイダンス
　　Introduction、Chapter 1/ 自己紹介･スモールトーク(2-1)
第２講　Chapter 1/ 自己紹介･スモールトーク(2-2)
第３講　Chapter 2/ オフィスの案内(2-1)
第４講　Chapter 2/ オフィスの案内(2-2)
第５講　Chapter 3/ 電話表現１(基本表現･メモの取り方)（2-1)
第６講　Chapter 3/ 電話表現１(基本表現･メモの取り方)（2-2)
第７講　Chapter 4/ 電話表現２(予定を決める･予定変更をする)(2-1)
第８講　Chapter 4/ 電話表現２(予定を決める･予定変更をする)(2-2)
第９講　Chapter 5/ 簡単なスピーチ･プレゼンテーション１(2-1)
第10講　Chapter 5/ 簡単なスピーチ･プレゼンテーション２(2-2)
第11講　Chapter 6/ ビジターの来日･旅程の確認(2-1)
第12講　Chapter 6/ ビジターの来日･旅程の確認(2-2)
第13講　Chapter 7/ プレゼンテーション２･観光のアドバイス(2-1)
第14講　Chapter 7/ プレゼンテーション２･観光のアドバイス(2-2)
第15講　実践練習(プレゼンテーションまたは電話応対)
定期試験

テキスト・教材（参考文献含む）

テキスト:『Politeness in Business Context』（三修社）
参考文献:英単語学習のための問題集
『英単語の語源図鑑』（かんき出版)、『英検でる順パス単』（旺文社）など自分の好きなものでよいです。

担当者から一言

ビジネスの現場を想定して、大人としての礼儀を守り、まじめに学習に取り組んでください。授業中のマナーは、評価の際に重視します。

ビジネス英語Ⅱ

樋口晶子

科目ナンバリング	2年次	2単位
GSET1008	後学期	選　択

授業のねらい

「ビジネス英語Ⅱ」を継続し、基礎的なレベルの英語で、実際のビジネスの場で使える表現や対応について学びます。英語を通してフォーマルな場での適切な対応について学びを深め、相手を不快にさせずに自分の意見を伝える手法について考えます。

到達目標

1　基礎的な英語を使ったフォーマルな表現を学ぶ。
2　フォーマルな場で、相手を不快にさせない対応を工夫する。
3　自分の意見をアピールし、相手と交渉する手法を磨く。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法

学習態度(授業中のマナーは特に重視します)　40%
小テスト・課題　30%
定期試験　30%

事前・事後学習

適宜、課題と小テストを出します。
1　事前学習：小テストの準備と単語学習(30分)、授業内容の予習(60分)
2　事後学習：課題と単語学習(30分)、授業内容の復習(60分)

授業の位置づけ

「スキル科目」では、いずれかのユニットを選ぶことによって、希望する進路に応じた、卒業までにあらかじめ身に付けておきたい即戦力となるスキルを、修得していきます。

授業計画

第1講　ガイダンス
　　Chapter 8/ 採用1(応募者の条件)(2-1)
第2講　Chapter 8/ 採用1(応募者の条件)(2-2)
第3講　Chapter 9/ 採用2(面接の英語)(2-1)
第4講　Chapter 9/ 採用2(面接の英語)(2-2)
第5講　Chapter 10/ 会議1(賛成の仕方・司会の表現)(2-1)
第6講　Chapter 10/ 会議1(賛成の仕方・司会の表現)(2-2)
第7講　Chapter 11/ 会議2(反対の仕方・緩和表現)(2-1)
第8講　Chapter 11/ 会議2(反対の仕方・緩和表現)(2-2)
第9講　Chapter 12/ 苦情への対応(2-1)
第10講　Chapter 12/ 苦情への対応(2-2)
第11講　Chapter 13/ 謝罪(2-1)
第12講　Chapter 13/ 謝罪(2-2)
第13講　Chapter 14/ さまざまな挨拶(2-1)
第14講　Chapter 14/ さまざまな挨拶(2-2)
第15講　実践練習(模擬会議または模擬面接)
定期試験

テキスト・教材(参考文献含む)

テキスト:『Politeness in Business Context』(三修社)
参考文献:英単語学習のための問題集
『英単語の語源図鑑』(かんき出版)、『英検でる順パス単』(旺文社)など自分の好きなものでよいです。

担当者から一言

ビジネスの現場を想定して、大人としての礼儀を守り、まじめに学習に取り組んでください。授業中のマナーは、評価の際に重視します。

検定英語Ⅰ

武藤和成

科目ナンバリング	3年次	2単位
GSET1009	前学期	選　択

授業のねらい

英語の脳、英語に慣れる耳の形成に努めます。
英語の基本構文の習得や語彙力の育成を大切にします。
受講者がTOEICや英語検定試験といった資格試験に挑むことができる素養を高めます。

到達目標

1　各自の目標に応じて、その目標に到達できる学習スタイルを確立できるようになること。
2　講座の受講者は、英検を例とすると、準2級、2級、準1級、1級の水準に到達できること。
3　他の資格試験では、上記2に合致する水準への到達を具体的目標とすること。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法

成績評価は平常点(授業への出席状況、小テスト)と定期試験で行います。出席状況は特に重視されます。

事前・事後学習

毎日1時間程度英語のニュース、映画、書籍に接し、英語脳を鍛えましょう。
講座で学習したテキストを反復し、暗記ができるまで積み上げましょう。

授業の位置づけ

「スキル科目」では、いずれかのユニットを選ぶことによって、希望する進路に応じた、卒業までにあらかじめ身に付けておきたい即戦力となるスキルを、修得していきます。

授業計画

第1講　ガイダンス　　Unit 1
第2講　Unit 2
第3講　Unit 3
第4講　Unit 4
第5講　Unit 5
第6講　Unit 6
第7講　Unit 7
第8講　Unit 8
第9講　Unit 9
第10講　Unit 10
第11講　Unit 11
第12講　Unit 12
第13講　Unit 13
第14講　Unit 14
第15講　Unit 15
定期試験

テキスト・教材(参考文献含む)

Building TOEIC L and R Test Skills(南雲堂 2,200円)
辞書(電子、ペーパー)や文法書等は各自で準備してください。

担当者から一言

各自が目標に応じて学習し、自己目標に到達しましょう。

検定英語Ⅱ

武藤和成

科目ナンバリング	3年次	2単位
GSET1010	後学期	選　択

授業のねらい
1　英語脳と英語に慣れる「耳」を形成する土台づくりと総合的な英語力の形成をねらいとします。
2　国際ビジネスで活用できる英語力の育成を図ります。

到達目標
1　英語検定試験やTOEICといった資格試験で、受講者それぞれの目標に応じた英語力の育成を目標とします。
2　一般論では、例えば、英検では準２級、２級、準１級、１級を合格できる水準に到達できることを目標とします。（対象者は検定英語Ⅰも受講していること）
3　国際ビジネスの世界で、E-mail等で活用できる英語力の育成を目標とします。

成績評価方法･課題･フィードバックの方法
成績は平常点（出席状況、小テスト等）と後学期定期試験で評価します。出席状況は特に重要視されます。

事前・事後学習
1　毎日、最低１時間は英語を耳にし、英語脳を形成するためにテキストを含め、書籍を媒体として学びを積み重ねましょう。
2　ビジネスで使用する語彙や表現は、平常時にスラスラと発出できるように反復学習を深めましょう。

授業の位置づけ
「スキル科目」では、いずれかのユニットを選ぶことによって、希望する進路に応じた、卒業までにあらかじめ身に付けておきたい即戦力となるスキルを、修得していきます。

授 業 計 画
第１講　ガイダンス　Unit 1
第２講　Unit 2
第３講　Unit 3
第４講　Unit 4
第５講　Unit 5
第６講　Unit 6
第７講　Unit 7
第８講　Unit 8
第９講　Unit 9
第10講　Unit 10
第11講　Unit 11
第12講　Unit 12
第13講　Unit 13
第14講　Unit 14
第15講　Unit 15
後学期定期試験

テキスト・教材（参考文献含む）
TOEIC L and R Test: On Target　Book 1（南雲堂）の予定（出版社の動向で変更有）
2,100円＋税

担当者から一言
国際社会、国際ビジネスの世界で活用できる英語力の形成をめざしてがんばりましょう。

メディアツールａ　実務

池上貴文・西尾秀樹・堀内敬弘

科目ナンバリング	1年次	2単位
GSMD1001	前学期	選　択

授業のねらい
DTPやWEBなど様々なメディアで、ビジュアル作成に利用されるドロー系ソフトの定番、Adobe社の「イラストレーター」を使ったグラフィックアプリケーションの入門コースです。
授業はApple社のマッキントッシュを使い、毎回の課題をひとつひとつこなしながら、自分の思考をビジュアル表現する楽しさを体感し、基礎技術を身につけます。

到達目標
ビジュアルコミュニケーション能力のスキルアップ。

成績評価方法･課題･フィードバックの方法
授業内の課題100％。課題の講評によってフィードバックします。

事前・事後学習
世の中の全てのメディアが教材となります。常に意識を持って接してください。
必要に応じて事前準備など指示します。

授業の位置づけ
「スキル科目」では、いずれかのユニットを選ぶことによって、希望する進路に応じた、卒業までにあらかじめ身に付けておきたい即戦力となるスキルを、修得していきます。

授 業 計 画
1．ガイダンス
2．基本操作（何ができるのかを解説。まずは自由に触ってもらいます。）
3．描画の基本（図形ツール、レイヤー、カラーパレットなど。）
4．自由曲線による描画（下絵をベジェ曲線でトレースします。）
5．色の指定、配色（色についての知識。カラーパレットを使ってみる。）
6．デザインの実践１（紙飛行機）
7．文字の入力、変形（文字ツールや変形でロゴを作ってみます。）
8．イラストレーション（方眼を使って絵を描いてみます。）
9．その他のツール
10. 写真と文章の編集（写真や文字の配置、レイアウト）
11. データの編集（グラフ作成、フィルター処理など）
12. 番外編：似顔絵教室（ものの捉え方を知る）
13. デザインの実践２（サイコロ）
14. オリジナル作品制作（テーマを与えて自由製作）
15. 合評会
（都度フォトショップと行来し各々の特性を理解します。）

テキスト・教材（参考文献含む）
実習内容に応じて教員からプリント、データなどを配布します。

担当者から一言
デザインや美術に苦手意識のある方も挑戦してください。

メディアツールｂ 実務	科目ナンバリング	１年次	２単位
池上貴文・西尾秀樹・山本努武	GSMD1002	後学期	選　択

授業の位置づけ

「スキル科目」では、いずれかのユニットを選ぶことによって、希望する進路に応じた、卒業までにあらかじめ身に付けておきたい即戦力となるスキルを、修得していきます。

授業のねらい

DTPやWEBなど様々なメディアで、ビジュアル作成に利用されるペイント系ソフトの定番、Adobe社の「フォトショップ」を使ったグラフィックアプリケーションの入門コースです。

授業はApple社のマッキントッシュを使い、毎回の課題をひとつひとつこなしながら、自分の思考をビジュアル表現する楽しさを体感し、基礎技術を身につけます。

到達目標

ビジュアルコミュニケーション能力のスキルアップ。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法

授業内の課題100％。課題の講評によってフィードバックします。

事前・事後学習

世の中の全てのメディアが教材となります。常に意識を持って接してください。
必要に応じて事前準備など指示します。

授 業 計 画

1．ガイダンス
2．基本操作（何ができるのかを解説。まずは自由に触ってもらいます。）
3．選択範囲作成１(配布画像を使って)
4．選択範囲作成２(いろんなやり方でここはしつこくやります。)
5．写真修正、画像合成コラージュ(配布画像を使って)
6．番外編:写真教室(写真や撮影について知る)
7．変形、拡大縮小と解像度(スマホで撮影したものを使って)
8．ペイント、色変換(スマホで撮影したものを使って)
9．文字入力、加工(いろんな効果でタイトルロゴを作ってみます。)
10. イラストレーション(イラストレーターとの併用)
11. フィルター、その他のツール
12. GIFアニメーション(動くバナーを作ってみます)
13. デザインの実践(グリーティングカード)
14. オリジナル作品制作(テーマを与えて自由製作)
15. 合評会
(都度イラストレーターと行来し各々の特性を理解します。)

テキスト・教材（参考文献含む）

実習内容に応じて教員からプリント、データなどを配布します。

担当者から一言

デザインや美術に苦手意識のある方も挑戦してください。

メディアツールｃ 実務	科目ナンバリング	２年次	２単位
田中麻衣	GSMD1003	前学期	選　択

授業の位置づけ

「スキル科目」では、いずれかのユニットを選ぶことによって、希望する進路に応じた、卒業までにあらかじめ身に付けておきたい即戦力となるスキルを、修得していきます。

授業のねらい

この授業はAdobe Premiere Proを使用し、動画編集技術を学ぶ授業です。

到達目標

Premiere Proを触ったことがない、編集ソフトを触ったことがない初心者が最終的には映像作品の制作が目標です。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法

最終的に一人１作品を制作していただきます。
その作品の出来栄えと授業に対する意欲、授業での態度などを総合評価し成績を出します。

事前・事後学習

たくさんの映像作品にふれてもらいたいので、Youtubeにアップロードされているもの、TVドラマ、CM、ドキュメンタリー、映画など、最低でも１日に１本程度みることを準備学習とします。

授 業 計 画

第１回:ガイダンス
第２回:Premiere Pro「初期設定」
第３回:Premiere Pro「初期設定のおさらい＆基本操作１」
第４回:Premiere Pro「基本操作２」
第５回:Premiere Pro「基本操作３」
第６回:Premiere Pro「応用編１」
第７回:Premiere Pro「応用編２」
第８回:実習１
第９回:実習２(企画)
第10回:実習２(編集)
第11回:実習３(企画＆撮影)
第12回:実習３(編集)
第13回:最終課題制作(企画＆撮影)
第14回:最終課題制作(編集)
第15回:最終課題制作(編集)

テキスト・教材（参考文献含む）

必要に応じてプリントを配布します。

担当者から一言

大学卒業後に映像業界へ進みたい人、編集に興味がある人に、少しでもこの授業で学んだ事をいかしてもらえるような授業をしたいと思います。
楽しみながら、一緒に学びましょう。

メディアツールｄ 実務	科目ナンバリング	２年次	２単位
柳澤翔士	GSMD1004	後学期	選　択

授業の位置づけ

「スキル科目」では、いずれかのユニットを選ぶことによって、希望する進路に応じた、卒業までにあらかじめ身に付けておきたい即戦力となるスキルを、修得していきます。

授業のねらい

コンピュータ技術の発展とパーソナルコンピュータの普及により、コンピュータは現代の音楽における作曲や録音・編集・演奏・配信のほとんどに関わっており、近年はコンピュータを使った個人レベルでのDTM(DeskTop Music)による音楽制作が盛んに行われています。

本講義では、コンピュータ（Mac）を使った音楽制作について、GarageBandや、Logicといったアプリケーションを使って第一歩から学びます。

到達目標

コンピュータを使った音楽制作の基礎と、自分独自の音作品をつくる為の力を身に付ける。

成績評価方法･課題･フィードバックの方法

座学の受講態度･実習に取り組む姿勢(30%)
作品提出(30%)
レポート(40%)
質問や課題についてはその場でフィードバック
時間のかかるものは後日

事前・事後学習

実習ではMacを使用します。Windowsとは異なる部分が多いので、Macのある教室で実際に触って操作し、自分の作品や、授業時間内で出来なかった課題を制作することで、基本操作を覚える。またはインターネットなどで操作を事前学習する。(90分)
日々、音楽をしっかり聴きこみ、どういう構成で曲が作られているか、どんな楽器がどういう動きをしているか分析しながら聴く事。(90分)

授 業 計 画

第１講　ガイダンス(授業概要説明と、抽選について)
第２講　コンピュータを使った音楽制作とは
第３講　音楽の基礎
第４講　ループ音源を組み合わせる１ Mac実習
第５講　ループ音源を組み合わせる２ Mac実習
第６講　曲を作るという事
第７講　音の打ち込み-楽譜を音にする-１ Mac実習
第８講　音の打ち込み-楽譜を音にする-２ Mac実習
第９講　音を整えるという事-MixDown-
第10講　エフェクトとは
第11講　生音の加工-EditとMix-１ Mac実習
第12講　生音の加工-EditとMix-２ Mac実習
第13講　音作品作り１ Mac実習
第14講　音作品作り２ Mac実習
第15講　発表～まとめ
※授業計画は受講者の理解・技量に合わせて内容を大幅に変える場合があります。

テキスト・教材（参考文献含む）

データ保存用にUSBメモリー（USB3.0 16GB以上推奨）を用意してください。
必要な資料は適時配布します。

担当者から一言

音楽制作というと難しいイメージがありますが、PCでなくともスマートフォンやタブレットでも曲作りができてしまうほど身近な存在になっています。
楽器が弾けなくても一からコンピュータでの音楽制作を学び、自分の作品を作り上げましょう。

Webデザインａ 実務	科目ナンバリング	２年次	２単位
堀内敬弘	GSMD1005	後学期	選　択

授業の位置づけ

「スキル科目」では、いずれかのユニットを選ぶことによって、希望する進路に応じた、卒業までにあらかじめ身に付けておきたい即戦力となるスキルを、修得していきます。

授業のねらい

この授業ではWebデザインに必要なツール「Adobe Illustrator」を主に用いたデザインワークの学習を行います。一連のプロセスを学習し、業界のワークフローの根幹に触れることで業界への関心を高めてもらうことがこの授業の狙いです。

到達目標

この授業では、学生諸君がWebデザインに関する基本的な用語や構造、知識、手法を身につけ、簡易的なWebサイトデザインができるようになる事を到達目標としています。

成績評価方法･課題･フィードバックの方法

成績は次のような配分により評価します。･授業時に指示する簡単な課題の提出状況及び受講態度：20%・授業ごとに行う簡易的なプレゼンテーションへの積極的な参加態度:20%・全授業終了後に提出する課題の提出状況及びクオリティ・理解度:60%・定期試験:定期試験はありません。

事前・事後学習

日頃からスマートフォンやパソコンなどでいろんなWebサイトを閲覧し、気に入ったものはブックマークしておくこと。(毎日10分程度) 上記でブックマークしたものは毎授業開始時に数名ずつ皆へサイトの紹介(プレゼンテーション)をしていただき、人前に立って発言する、説明する訓練を行います。

授 業 計 画

Macを用いた演習を行います。
第１講　＜ガイダンス＞　先生の自己紹介/今後の講義内容、試験について/今、WEBデザインに求められていること/体験してみよう
第２講　Webデザインとは /Web サイトの構造
第３講　お気に入りのWEBサイトを探そう / 実践の準備をしよう
第４講　Adobe Illustrator 基本演習(１)
第５講　Adobe Illustrator 基本演習(２)
第６講　Adobe Illustrator 基本演習(３)
第７講　Adobe Illustrator 基本演習(４)
第８講　Adobe Illustrator 基本演習(５)
第９講　Adobe Illustrator 基本演習(６)
第10講　Adobe Illustrator 基本演習(７)
第11講　Adobe Illustrator 基本演習(８)
第12講　Adobe Illustrator 基本演習(９)
第13講　Adobe Illustrator 基本演習(10)
第14講　Adobe Illustrator 基本演習(11)
第15講　Adobe Illustrator 基本演習(12)

テキスト・教材（参考文献含む）

特になし。

担当者から一言

本講義はメディアツールａの事前受講が前提となっております。メディアツールａを受講し、よりWEBデザインの業界へ興味のある学生は是非受講してみて下さい。先生と一緒にモノづくりの難しさも達成感も全て楽しみながら授業しましょう。

Webデザインｂ 実務	科目ナンバリング	３年次	２単位
堀内敬弘	GSMD1006	前学期	選　択

授業の位置づけ

「スキル科目」では、いずれかのユニットを選ぶことによって、希望する進路に応じた、卒業までにあらかじめ身に付けておきたい即戦力となるスキルを、修得していきます。

授業のねらい

この授業ではWebデザインａで学習したデザインツールのスキルを活かしてより実際の現場に近いWebデザイン業務を疑似体験しながらデザインまでのプロセスをチーム（※１）で学びます。
※１　コロナウイルスの感染状況や受講人数により個人で行う場合もございます。

到達目標

この授業では、学生諸君がWebデザインに関する基本的な用語や構造、知識、手法を身につけ、簡易的なWebサイトデザインができるようになる事を到達目標としています。

成績評価方法･課題･フィードバックの方法

成績は次のような配分により評価します。･授業時に指示する簡単な課題の提出状況及び受講態度：20％・授業ごとに行う簡易的なプレゼンテーションへの積極的な参加態度：20％･全授業終了後に提出する課題の提出状況及びクオリティ･理解度：60％･定期試験：定期試験はありません。

事前・事後学習

日頃からスマートフォンやパソコンなどでいろんなWebサイトを閲覧し、気に入ったものはブックマークしておくこと。（毎日10分程度）上記でブックマークしたものは毎授業開始時に数名ずつ皆へサイトの紹介（プレゼンテーション）をしていただき、人前に立って発言する、説明する訓練を行います。

授 業 計 画

Macを用いた演習を行います。
第１講　ガイダンス　最新Webデザインのトレンド / お気に入りのWEBサイト集め
第２講　チーム決めと架空クライアントによる要望の発表とヒアリング
第３講　ワイヤーフレーム制作①
第４講　ワイヤーフレーム制作②
第５講　デザイン制作①
第６講　デザイン制作②
第７講　デザイン制作③
第８講　デザイン制作④
第９講　デザイン制作⑤
第10講　デザイン制作⑥
第11講　デザイン制作⑦
第12講　デザイン制作⑧
第13講　デザイン制作⑨
第14講　プレゼンテーション準備
第15講　プレゼンテーション/投票･評価/まとめ

テキスト・教材（参考文献含む）

特になし。

担当者から一言

Webデザインａを受講済みの学生のみ履修できます。
Webデザインの授業の集大成でもあります。Webデザインａで学習したデザインスキルを活かしてチームで１つのWebページを作り上げる大変さと楽しさを体験しましょう。

Webプログラミングａ	科目ナンバリング	１年次	２単位
片山清和・池田幹男・田中雅章	GSMD1007	後学期	選　択

授業の位置づけ

「スキル科目」では、いずれかのユニットを選ぶことによって、希望する進路に応じた、卒業までにあらかじめ身に付けておきたい即戦力となるスキルを、修得していきます。

授業のねらい

ホームページ作りを通してWebの仕組みとプログラミングの基礎を学びます。具体的には、HTMLの基本タグを使うことでホームページの論理構造を記述し、スタイルシートを使うことでホームページのレイアウト･デザインを記述することを学びます。

到達目標

HTMLの基本タグやスタイルシートを使った簡単なホームページが作れる。

成績評価方法･課題･フィードバックの方法

「提出物」（55％）、「作品」（45％）
提出物はその場でチェックし、問題点のある提出物は受理しません。

事前・事後学習

講義前には、該当部分のテキストを読んで理解して来ること（60分）
講義後には､学習した内容を復習し､もう一度演習を行うこと（120分）。
本講義の内容をふまえ、発展した内容を「Webプログラミングｂ」で学習します。

授 業 計 画

第１講　ガイダンス、WWWとWeb
第２講　HTML概要
第３講　画像とリンク
第４講　箇条書き
第５講　表組み
第６講　入力フォーム
第７講　CSS概要
第８講　見出しと段落
第９講　boxモデル
第10講　ヘッダー
第11講　表のスタイリング
第12講　問合せフォーム
第13講　Webサイト制作（１）
第14講　Webサイト制作（２）
第15講　Webサイト制作（３）

テキスト・教材（参考文献含む）

赤間公太郎、狩野咲、鈴木清敬 「世界一わかりやすい　HTML5 & CSS3 コーディングとサイト制作の教科書」 技術評論社　￥2,600＋税

担当者から一言

プログラミングはコンピュータの基本を学ぶために必須です。
各講義では演習問題を解きます。授業中に終わらない場合は宿題となります。
積み重ねの内容なので、演習問題をしっかり行い、理解してから進むようにしてください。
また、出席状況が悪い場合には減点します。

Webプログラミングｂ	科目ナンバリング	２年次	２単位
池田幹男・田中雅章	GSMD1008	前学期	選　択

授業の位置づけ

「スキル科目」では、いずれかのユニットを選ぶことによって、希望する進路に応じた、卒業までにあらかじめ身に付けておきたい即戦力となるスキルを、修得していきます。

授業のねらい

この授業では主にJavaScriptを使用したプログラミングを学びます。特に、Webページの基本であるHTMLやCSSと連携してそれらを操作するプログラミングや、CanvasAPI を使用したグラフィックを操作するプログラミング、イベントハンドラーを使用したプログラミングについて学びます。

到達目標

JavaScriptによる動的なWebページの制作、スタイルの操作、簡単なグラフィックプログラムが出来るようになることを目標にします。

成績評価方法･課題･フィードバックの方法

毎回の授業の演習課題（70％）と、授業への参加態度（30％）で評価します。定期テストは実施しません。教育支援システム（Moodle）を通じてフィードバックします。

事前・事後学習

教育支援システムを通じて提示する例題や課題、Mozilla developer での解説や例を予習（毎週90分）復習（毎週90分）することを推奨します。また、例題もとに新しいプログラムを自分の力で作るとより理解が深まります。

授 業 計 画

Windows PCを用いた演習を行います。
第１講　ガイダンス e-Learning の使用法
第２講　JavaScript を使用した動的なウェブページの例
第３講　アウトプットの基本
第３講　JavaScript の文法と基本的な機能①
第４講　JavaScript の文法と基本的な機能②
第５講　JavaScript の文法と基本的な機能③
第６講　JavaScript の文法と基本的な機能④
第７講　インプットとデータの加工①
第８講　インプットとデータの加工②
第９講　一歩進んだテクニック①
第10講　一歩進んだテクニック②
第11講　JQuery入門
第12講　Canvas API ①
第13講　Canvas API ②
第14講　応用課題①
第15講　応用課題②
授業はいずれもＰＣを用いた実習です。

テキスト・教材（参考文献含む）

『確かな力が身につく JavaScript「超」入門』狩野 祐東 著、SBクリエイティブ 刊、ISBN 978-4-8156-0157-7、定価2,480円＋税
必要な教材はMoodleでも提示します。

担当者から一言

「Webプログラミングａ」の単位を事前に修得することを勧めます。学ぶことが多いので、予習と復習をしっかりと行い、頭の中で知識を整理していかないと、訳が分らなくなります。

インターネット論	科目ナンバリング	２年次	２単位
田中雅章	GSMD1009	前学期	選　択

授業の位置づけ

「スキル科目」では、いずれかのユニットを選ぶことによって、希望する進路に応じた、卒業までにあらかじめ身に付けておきたい即戦力となるスキルを、修得していきます。

授業のねらい

現在、スマホからパソコンに至るまでほとんど全てのコンピュータがインターネットでつながっている。そのインターネットを使って、電子メールを送受信したり、LINEなどのSNSを利用したりしています。コンピュータネットワークの基礎知識と動作原理を最新の動向も含めて講義します。
この講義では、Webデザイン技能検定３級学科試験に合格できるレベルの知識を学びます。

到達目標

①インターネットの仕組みを説明できる。
②TCP／IPモデルを説明できる。
③ネットワーク機器の動作を説明できる。
④ネットワーク障害時に原因の調査ができる。

成績評価方法･課題･フィードバックの方法

「レポート･小テスト」（40％）、「定期試験」（60％）

事前・事後学習

講義前にはテキストを読んでくること（60分）。
講義後には復習を行い、演習問題をしっかり解くこと（120分）。

授 業 計 画

第１講　ガイダンス、インターネットの歴史
第２講　ネットワークの基礎知識（１）
第３講　ネットワークの基礎知識（２）
第４講　ネットワークの基礎知識（３）
第５講　信号の伝送と衝突（１）
第６講　信号の伝送と衝突（２）
第７講　信号の伝送と衝突（３）
第８講　IPアドレッシング（１）
第９講　IPアドレッシング（２）
第10講　ルーティング（１）
第11講　ルーティング（２）
第12講　コネクションとポート番号（１）
第13講　コネクションとポート番号（２）
第14講　コネクションとポート番号（３）
第15講　まとめ
定期試験

テキスト・教材（参考文献含む）

内田祐生 著「ウェブデザイン技能検定　３級ガイドブック」￥1,320

担当者から一言

インターネットは現代社会を支える極めて重要な要素です。内容は専門的で難しく感じるかもしれませんが、検定試験に合格できるよう、いっしょに学習します。
学習支援システム（Moodle）を利用します。

基礎数学

山本敦也

科目ナンバリング	1年次	2単位
GSM1001	後学期	選　択

授業の位置づけ

「スキル科目」では、いずれかのユニットを選ぶことによって、希望する進路に応じた、卒業までにあらかじめ身に付けておきたい即戦力となるスキルを、修得していきます。

授業のねらい

高度な数学を学ぶための基礎的な数学について講義します。
この講義を受講すると、基礎的な計算方法を習得するとともに、関数、微分、積分、集合、確率などについて考え方を理解することができます。

到達目標

(1)関数とグラフの関係を理解する。
(2)微分、積分の基礎を理解する。
(3)ベクトルと空間図形について理解する。
(4)確率について理解する。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法

講義中に行うミニテスト(40%)、定期試験(60%)

事前・事後学習

予習：ニュースやインターネットを通じて数学に関することに触れたら、その根拠や計算方法について考えましょう。
復習：講義中のミニテストについて完答できるようにする。

授 業 計 画

第1回　ガイダンス
第2回　数と式
第3回　関数とグラフ
第4回　三角関数
第5回　指数関数
第6回　対数関数
第7回　極限
第8回　微分
第9回　積分
第10回　パラメータ曲線と極方程式
第11回　複素平面
第12回　ベクトルと空間図形
第13回　集合
第14回　順列、組み合わせと確率
第15回　まとめ、演習
定期試験

テキスト・教材（参考文献含む）

教科書：特になし
参考書：石井園子著「大学新入生のための数学入門増強版」共立出版(2004年)

担当者から一言

数学の基礎について幅広い内容の講義ですので、理解することを中心に講義を行います。

統計リテラシー

井岡幹博

科目ナンバリング	1年次	2単位
GSM1002	後学期	選　択

授業の位置づけ

「スキル科目」では、いずれかのユニットを選ぶことによって、希望する進路に応じた、卒業までにあらかじめ身に付けておきたい即戦力となるスキルを、修得していきます。

授業のねらい

環境関連の実験を行うと計測結果としてのデータが得られます。フィールド調査やアンケート調査を行っても、様々なデータが得られます。得られたデータを整理・分析し、データの中に潜む対象物の本来の姿を引き出す技術が統計学と言えます。たとえば、限られた数のデータから全体の姿を推定すること、得られたデータから役に立つ情報を引き出すことができるのみならず、確率の問題まで、統計学は含みます。ここでは基本的な事柄から応用までを具体的な例、グラフ等を使って説明し、実習していきます。

到達目標

確率変数の意味を理解する。
２つの確率変数の相関係数が計算できる。
正規分布の意味を理解する。
回帰分析が実行できる。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法

課題提出50%　　定期試験50%
提出した課題はその都度採点して返却します。

事前・事後学習

配付されるプリントを熟読すること（予習）。毎回課される課題を自宅で演習すること(復習)。

授 業 計 画

第1講　ガイダンス
第2講　平均の性質
第3講　分散と標準偏差
第4講　回帰分析①
第5講　回帰分析②
第6講　相関係数
第7講　順列と組み合わせ
第8講　標本空間と事象
第9講　確率
第10講　条件付き確率
第11講　ベイズの公式
第12講　確率変数
第13講　正規分布(1)
第14講　正規分布(2)
第15講　データが世の中でどのように使われているか
定期試験

テキスト・教材（参考文献含む）

テキスト・教材
長谷川勝也著「イラスト図解　確率・統計のしくみがわかる本」 技術評論社　1,706円
参考文献
宮川公男著 「基礎統計学　第4版」 有斐閣　￥2,800＋税

担当者から一言

授業内容確認のための課題を出します。とくに予備知識は必要としません。加減乗除が計算できれば、課題は解けます。まずは、ちゃんとノートを準備することです。
数学概論、基礎数学を履修していることが望ましい。

確率基礎

科目ナンバリング	2年次	2単位
GSM1003	前学期	選　択

金岩　稔

授業の位置づけ

「スキル科目」では、いずれかのユニットを選ぶことによって、希望する進路に応じた、卒業までにあらかじめ身に付けておきたい即戦力となるスキルを、修得していきます。

授業のねらい

科学とはデータに基づき物事を客観的に表すことであり、その客観的評価のために必要なスキルの一つが統計学となります。統計学の理解には確率計算が必須となり、正しい確率計算なしでは、正しい統計学的手法の利用はできません。

この講義では初学者にも分かりやすいように、確率計算の基礎を学んでいただき、統計学の理解への礎とすることを目的としています。

到達目標

統計学の理解に必要な確率計算を行えるようになること。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法

期末試験により評価します。講義中に小テストや課題を課した場合はその結果もプラスします。
講義中に問題を解いてもらい、その場で解法を説明しフィードバックします。

事前・事後学習

講義前には、これまでに学習した内容を復習しておくこと(60分)。
講義後には、学習した内容を復習し、課題を行うこと(120分)。

授 業 計 画

第１講　ガイダンス、統計学とは
第２講　順列･組み合わせ
第３講　標本空間と事象
第４講　確率
第５講　条件付き確率
第６講　ベイズの公式
第７講　確率変数
第８講　２項分布
第９講　ポアソン分布
第10講　正規分布（１）
第11講　正規分布（２）
第12講　確率分布の期待値（１）
第13講　確率分布の期待値（２）
第14講　確率分布の分散
第15講　まとめ
定期試験

テキスト・教材（参考文献含む）

長谷川勝也 著 「イラスト図解　確率・統計のしくみがわかる本」 技術評論社　￥1,580＋税

担当者から一言

復習が大変重要で、事前の講義内容を理解していることを前提に講義を進めるため、欠席した場合には各自の責任の下講義内容の把握を行ってください。

微分積分

科目ナンバリング	2年次	2単位
GSM1004	前学期	選　択

片山清和

授業の位置づけ

「スキル科目」では、いずれかのユニットを選ぶことによって、希望する進路に応じた、卒業までにあらかじめ身に付けておきたい即戦力となるスキルを、修得していきます。

授業のねらい

この講義では微分と積分について学びます。微分は情報の変化を理解するための基本的な方法であり、近傍における変化量を求めることになります。積分は面積を求める計算方法になりますが、この講義では特に統計学における確率分布を意識して講義を行います。

到達目標

①微分･積分の概念を理解している
②微分･積分の簡単な計算ができる

成績評価方法・課題・フィードバックの方法

「提出物」(40%)、「定期試験」(60%)
提出課題は100点満点で採点し、教育支援システム（Moodle）を介して返却します。

事前・事後学習

講義前には、これまでに学習した内容を復習しておくこと(60分)。
講義後には、学習した内容を復習し、課題を行うこと(120分)。
「基礎数学」「統計リテラシー」を履修していることが望ましい。

授 業 計 画

第１講　ガイダンス、微分･積分とは
第２講　微分の定義
第３講　和の微分と差の微分
第４講　積の微分と商の微分
第５講　合成関数の微分
第６講　指数関数の微分と対数関数の微分
第７講　微分とグラフ（１）
第８講　微分とグラフ（２）
第９講　正規曲線のグラフ
第10講　不定積分
第11講　定積分
第12講　定積分の基本公式
第13講　部分積分と置換積分
第14講　正規曲線と正規分布
第15講　まとめ
定期試験

テキスト・教材（参考文献含む）

なし(必要に応じて配布します)
【参考文献】
山本昌宏「文系のためのめっちゃやさしい　微分積分」 ニュートンプレス　￥1,500＋税

担当者から一言

学習支援システム(Moodle)を利用します。
なるべく分かり易い授業を目指します。そのため、履修者の理解度に応じて内容を変更することがあります。

線型代数

科目ナンバリング	2年次	2単位
GSM1005	前学期	選　択

金岩　稔

授業のねらい

この講義では線形代数の基礎を理解するために、一般的な集合と写像の理解からはじめ、ベクトルや行列の性質を理解します。
これらを用いて連立一次方程式の解法の理論化を行います。

到達目標

集合・写像の理解と、線形代数における関数の理解、ベクトル行列の性質や解法を理解する。

成績評価方法･課題･フィードバックの方法

期末試験により評価します。講義中に小テストや課題を課した場合はその結果もプラスします。
講義中に問題を解いてもらい、その場で解法を説明しフィードバックします。

事前・事後学習

講義前には、これまでに学習した内容を復習しておくこと(60分)。
講義後には、学習した内容を復習し、課題を行うこと(120分)。

授業の位置づけ

「スキル科目」では、いずれかのユニットを選ぶことによって、希望する進路に応じた、卒業までにあらかじめ身に付けておきたい即戦力となるスキルを、修得していきます。

授 業 計 画

第１講　ガイダンス、線形代数とは
第２講　集合と写像
第３講　数ベクトルと行列
第４講　行列とその演算
第５講　行列とその演算(つづき)
第６講　色々な行列
第７講　逆行列の求め方
第８講　内積と直交行列
第９講　連立方程式の解き方
第10講　平面上の一次変換
第11講　固有値と固有ベクトル
第12講　行列式の展開公式
第13講　行列式の計算法
第14講　行列式の計算法(つづき)
第15講　まとめ
定期試験

テキスト・教材（参考文献含む）

特に設定しません。

担当者から一言

復習が大変重要で、事前の講義内容を理解していることを前提に講義を進めるため、欠席した場合には各自の責任の下講義内容の把握を行ってください。

データ統計処理

科目ナンバリング	3年次	2単位
GSM1006	前学期	選　択

片山清和

授業のねらい

現在、自然科学の分野だけでなく、人文／社会科学の分野でも数字データが用いられています。それらの数字データを分析する道具として、統計学が用いられています。特に近年では、ビッグデータと呼ばれる大規模データを統計処理して、社会生活に役立てる試みがさかんに行われています。そのため、統計学はより身近になっており、統計学なくして社会生活が成り立たないと言っても言い過ぎではありません。
この講義では、Excelの関数を用いて大規模なデータに対して統計処理を行う方法と、推定や検定を行う方法についても学びます。

到達目標

Excelを用いて大規模なデータに対して統計処理ができるようにします。

成績評価方法･課題･フィードバックの方法

「提出物」(40%)、「定期試験」(60%)
教育支援システム（Moodle）に提出した課題は、100点満点で採点し、コメントを付加してMoodleを介して返却します。

事前・事後学習

講義前には前回までの内容を復習しておくこと(60分)。
講義後には復習を行い、演習問題をしっかり解くこと(120分)。
「基礎数学」「統計リテラシー」「確率基礎」「微分積分」「線形代数」「データ分析の基礎」「統計的分析」を履修していることが望ましい。

授業の位置づけ

「スキル科目」では、いずれかのユニットを選ぶことによって、希望する進路に応じた、卒業までにあらかじめ身に付けておきたい即戦力となるスキルを、修得していきます。

授 業 計 画

第１講　ガイダンス、
第２講　１次元データの整理(１)
第３講　１次元データの整理(２)
第４講　２次元データの整理(１)
第５講　２次元データの整理(２)
第６講　確率分布(１)
第７講　確率分布(２)
第８講　確率分布(３)
第９講　検定(１)
第10講　検定(２)
第11講　検定(３)
第12講　推定(１)
第13講　推定(２)
第14講　推定(３)
第15講　まとめ
定期試験

テキスト・教材（参考文献含む）

長谷川勝也 著 「イラスト図解　確率・統計のしくみがわかる本」 技術評論社　￥1,706
【参考文献】
宮川公男 著 「基礎統計学　第４版」 有斐閣　￥2,800＋税
「基礎統計学Ⅰ　統計学入門」 東京大学出版会　￥2,800＋税

担当者から一言

学習支援システム(Moodle)を利用します。
積み重ねの講義なので、欠席しないようにしてください。
また、出席状況が悪い場合には減点します。

政策科学入門

科目ナンバリング	1年次	2単位
PFC1001	前学期	必　修

永井　博　他

授業の位置づけ
系統的に学修し、進路に即した人間力の根幹を形成する。

授業のねらい
この講義では、総合政策学部の専門教育科目を学ぶ上で必要となる「準備」をします。１冊のテキストを総合政策学部の教員が分担して講義します。既に高校で学習した内容も含まれていますが、大学生となった今、再度、各テーマをじっくり捉え、理解して下さい。また、この講義で紹介される用語は基本中の基本なのでしっかりと覚えていきましょう。

到達目標
学部の専門教育科目を学んでいくために必要となる基本的な用語や、現在の問題点や考え方を理解できるようになること。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法
成績評価は、講義への参加意欲、講義で課すレポート等（75％）、学期末試験（25％）で総合評価します。なお、担当教員からレポートの内容をもとに学生に対して総合的なコメントを返します。

事前・事後学習
準備学習：テキストを読んでおくこと（60分）
事後学習：各講で課された小レポートを、授業内の内容を踏まえ作成すること（90分）
なお、レポートの提出はその週の金曜日の16：00まで、提出先は教学課のレポートボックスです。なお、遠隔授業の場合の提出先はmoodleを予定しています。

授業計画
第１回（04月13日）ガイダンス（永井）
第２回（04月20日）市民の社会①（永井）
第３回（04月27日）市民の社会②（松井）
第４回（05月11日）政治のしくみ①（中西）
第５回（05月18日）政治のしくみ②（中西）
第６回（05月25日）政治のしくみ③（小林）
第７回（06月01日）経済のしくみ①（鶴田）
第８回（06月08日）経済のしくみ②（鶴田）
第９回（06月15日）経済のしくみ③（奥原）
第10回（06月22日）おさらい勉強の回（永井ほか）
第11回（06月29日）国際社会のなりたち①（富田）
第12回（07月06日）国際社会のなりたち②（鶴田）
第13回（07月13日）環境問題（鬼頭）
第14回（07月20日）現代の社会（三田）
第15回（07月27日）分野説明（小林・高田・鶴田）
定期試験

テキスト・教材（参考文献含む）
土屋彰久著「公民のおさらい」自由国民社（2010年）　1,200円（税別）

担当者から一言
４年間の学部での学修の基本になる大切な必修科目です。欠席や遅刻せずに必ず出席し、しっかりと15週間学んでください。

総合政策論Ⅰ

科目ナンバリング	1年次	2単位
PFC2001	後学期	必　修

永井　博　他

授業の位置づけ
系統的に学修し、進路に即した人間力の根幹を形成する。

授業のねらい
総合政策とは、経済学や法学といった特定の学問領域のことではなく、まず、社会的な課題があり、それを色々な人や組織がそれぞれに持てる力を合わせて解決する、あるいはその解決策を見出していこうとすることです。この講義と２年前期の総合政策論Ⅱでは、総合政策学部の教員が自己紹介をかねて、自分の考える「総合政策論」を持ち回りで担当するので、皆さんも「総合政策とは何か」を考えてください。

到達目標
各教員の取り組む研究テーマについてその概要を理解するとともに、２年次以降の履修について考えるための基礎力を身につけることです。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法
成績評価方法：各講で課す小レポート（75％）期末試験（25％）
課題：各講で課す小レポート
フィードバック方法：各講の担当教員は提出されたレポートに対する講評を作成し、moodleなどで適宜受講生に伝えます。

事前・事後学習
準備学習：新聞やニュースに目を通しておくこと（30分）
事後学習：各講で課された小レポートを、授業内の内容を踏まえ、独自に調べた情報と合わせて作成すること（90分）
なお、レポートの提出はその週の金曜日の16：00まで、提出先は教学課のレポートボックスです。なお、遠隔授業の場合の提出先はmoodleを予定しています。

授業計画
第１回（09月27日）ガイダンス（永井）
第２回（10月04日）総合政策学部と大学祭①（鬼頭）
第３回（10月11日）同上②（鬼頭）
第４回（10月18日）場所の哲学（フェハーリ）
第５回（10月25日）誕生日の力（三田）
第６回（11月01日）会計の目的とは（奥原）
第７回（11月08日）都市計画とまちづくりの関係（中西）
第８回（11月15日）恋と文学と男と女（高田）
第９回（11月22日）アジアの世紀（岩崎祐）
第10回（11月29日）米国野球界の人材育成（若山）
第11回（12月06日）マネジメントとは何か：組織と自分の経営（川崎）
第12回（12月13日）沖縄学入門――沖縄と考える（永井）
第13回（12月20日）観光とまちづくり（岡）
第14回（01月10日）会計情報はどのように役立つのか（奥原）
第15回（01月17日）市民活動とは何か（松井）
定期試験

テキスト・教材（参考文献含む）
なし。資料を配布することがある。

担当者から一言
全体の統括は代表教員（永井）が行いますが、各教員が自分の担当部分については責任を持って講義し評価します。提出されたレポートの採点結果が成績評価の重要な要素になるので、しっかり時間をかけて書き上げてください。

総合政策論Ⅱ	科目ナンバリング	２年次	２単位
岡　良浩　他	PFC2002	前学期	必　修

授業の位置づけ

系統的に学修し、進路に即した人間力の根幹を形成する。

授業のねらい

この「総合政策論Ⅱ」は、１年次後期の「総合政策論Ⅰ」に引き続いて各教員が専門としているテーマについてできるだけやさしく講義し、皆さんの学問への興味を高めることがねらいです。

到達目標

各教員の取り組む研究テーマについてその概要を理解すること、そして、今後、指導を受けたいと思う教員を見つけることが、本講義の到達目標です。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法

成績評価方法:各講で課す小レポート(75%)期末試験(25%)
課題:各講で課す小レポート
フィードバック方法：各講の担当教員は提出されたレポートに対する講評を作成し、moodleなどで適宜受講生に伝えます。

事前・事後学習

準備学習:新聞やニュースに目を通しておくこと(30分)
事後学習：各講で課された小レポートを、授業内の内容を踏まえ、独自に調べた情報と合わせて作成すること(90分)
なお、レポートの提出はその週の金曜日の16：00まで、提出先は教学課のレポートボックスです。なお、遠隔授業の場合の提出先はmoodleを予定しています。

授 業 計 画

第１回(４月11日)ガイダンス(岡)
第２回(４月18日)データで見る三重･四日市(小林)
第３回(４月25日)リアリティーの境界(富田)
第４回(５月09日)フェイクニューズの怖さ(富田)
第５回(５月16日)沖縄学入門その２:沖縄の声に耳を傾ける(永井)
第６回(５月23日)日常生活の哲学(フェハーリ)
第７回(５月30日)異文化理解の勧め(加納)
第８回(６月06日)多文化共生社会と異文化コミュニケーション(加納)
第９回(６月13日)本気で社会を変える(松井)
第10回(６月20日)おもてなし経営とは何か(岡)
第11回(６月27日)環境基本法のとらえ方(中西)
第12回(７月04日)高齢期を考える(小泉)
第13回(７月11日)高齢期の健康維持に必要な運動(小泉)
第14回(７月18日)消費税率はなぜ10%になったのか？（鶴田)
第15回(７月25日)自然とエートス(フェハーリ)
定期試験

テキスト・教材（参考文献含む）

なし。教員がレジュメを配布することがある。

担当者から一言

全体の統括は代表教員（岡）が行うが、各教員が自分の担当部分については責任を持って講義し評価します。提出されたレポートの採点結果が成績評価の重要な要素になるので、しっかり時間をかけて書き上げてください。

基礎演習ａ	科目ナンバリング	２年次	２単位
奥原貴士	PSS2001	前学期	必　修

授業の位置づけ

プレゼンテーション･コミュニケーションの能力を身につける。
調査･分析を通じて研究テーマを探求する能力を身につける。

授業のねらい

企業の財務諸表は、企業の業績の優劣や潜在能力を映し出しているが、こうした会計情報を読み取るには、財務諸表がどのようにして作成されているのかを理解していなければなりません。そこで本講義は、会計・簿記の基礎知識を習得することを目的とします。そして、会計情報を利用して基礎的な経営分析を行います。また、日商簿記検定等の資格取得も目指します。

到達目標

会計・簿記の基本的な知識を習得し、財務諸表を的確に読み取ることができるようになることを到達目標とします。これらは、専門演習での学習のベースとなります。また、日商簿記検定等の資格取得も目指していきます。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法

平常点(授業への積極的な参加、発表内容、発言回数など)　80%
課題レポート　20%
なお、発表･発言については適宜コメントをします。

事前・事後学習

新聞や雑誌などで企業の会計数値（売上高や利益額など）を見て、この企業の経営はうまくいってそうだ、こっちの企業は倒産の危険があるんじゃないか､ということに関心をもってください。(毎日90分以上)

授 業 計 画

第１講　ガイダンス
第２講　会計･簿記の学習
第３講　会計･簿記の学習
第４講　会計･簿記の学習
第５講　会計･簿記の学習
第６講　会計･簿記の学習
第７講　会計･簿記の学習
第８講　会計･簿記の学習
第９講　会計･簿記の学習
第10講　会計･簿記の学習
第11講　経営分析の基礎
第12講　経営分析の基礎
第13講　経営分析の基礎
第14講　経営分析の基礎
第15講　経営分析の基礎

テキスト・教材（参考文献含む）

テキストはゼミが進んでから指定する。
講義資料はプリントを適宜配布する。

(参考文献)
谷武幸･桜井久勝･北川教央編著『１からの会計(第２版)』中央経済社(2021)。
『合格テキスト日商簿記３級』、『同２級』ＴＡＣ株式会社。

担当者から一言

会計･簿記の講義回数に関しては､受講生との話し合いにより決めます。
発表、ディスカッションへの積極的な参加を希望します。
日商簿記検定等の資格試験についても対応していきます。

基礎演習ａ

鬼頭浩文

科目ナンバリング	２年次	２単位
PSS2001	前学期	必　修

授業の位置づけ

プレゼンテーション･コミュニケーションの能力を身につける。
調査･分析を通じて研究テーマを探求する能力を身につける。
系統的に学修し、進路に即した人間力の根幹を形成する。

授業のねらい

自ら学び、情報収集し、論理的な文章を書き、わかりやすくプレゼンし、積極的に議論するという、大学生としての学びの基礎を身に付ける演習である。具体的には、前半は、パワーポイントを活用して各自設定したテーマについてプレゼン（スライド20枚程度で５分間の発表）する。後半は、新聞を読んで「手書き」で資料をまとめ、自分なりの考えをまとめる作業を行う。就職活動では、手書きで論文を書いたり、自己PRをしたりすることが多くなる。ゼミの後半では手書きで文章を綴る機会を多く持ち、自分を表現する能力を磨く。

到達目標

人前で自分を表現する度胸をつけ、実際にプレゼンを完成させることを目標とする。また、アナログな手書きで自己表現する能力を身につけることも大切な目標である。

成績評価方法･課題･フィードバックの方法

ゼミの中での議論、プレゼンのパフォーマンス（５割）や課題への取り組み（５割）により総合評価する。課題は、添削やコメントを記して返却する。

事前・事後学習

ゼミは演習形式で各自が自分で課題に取り組むことになる。授業時間内では､課題の基本的な取り組み方を教員や学生間で議論するなどし、次の講義までに課題をまとめ上げることを繰り返していく。準備学習に必要となる時間は、学生ごと、課題ごとに異なるが、15週間でトータル30～50時間を要する。

授 業 計 画

1．ガイダンス　プレゼンテーションを練習（自己紹介と互いのコメント）
2．顔写真入り自己紹介をPCで作成(PC教室)
3．プレゼンのテーマ決定(PC教室)
4．パワポ講義(ウィザードで流れをつくる）(PC教室)
5．写真や図をネットから引用して貼り付け(PC教室)
6．パワーポイント作成作業(PC教室)
7．プレゼン仕上げ(PC教室)
8．発表前半(報告５分＋質疑応答５分)感想シートの記入(PC教室)
9．発表後半(報告５分＋質疑応答５分)感想シートの記入(PC教室)
10. 自己PRの練習
11. 専門基礎演習説明会
12. 手書きで文書作りⅠ　自己紹介と「くるくるコメント」
13. 手書きで文書作りⅡ　新聞をよんでまとめる
14. 手書きで文書作りⅢ　新聞をよんでまとめる
15. 打ち上げ懇親会(お茶とお菓子とお話と)

テキスト・教材（参考文献含む）

講義の中でプリントを配布する。

担当者から一言

大学での学修に必要な基本的なコミュニケーション、情報収集・整理などを、楽しく学んでいこう！

基礎演習ａ

小泉大亮

科目ナンバリング	２年次	２単位
PSS2001	前学期	必　修

授業の位置づけ

プレゼンテーション･コミュニケーションの能力を身につける。
調査･分析を通じて研究テーマを探究する能力を身につける。

授業のねらい

本演習では、自身で学習・調査した内容を相手に説明や表現するスキルの向上をねらいとして､学習していきます。特に｢健康とスポーツ｣をテーマにして、テーマに関する資料や文献などの情報収集方法、レポートへのまとめ、プレゼンテーション資料の作成に至る発表スキルの向上を目指していきます。

到達目標

１)学術論文･統計資料の｢検索｣･｢収集｣･｢分析｣･｢まとめ｣など、論文やレポート作成に必要な基礎的なスキルを身につける。
２）プレゼンテーション技法（スライド作成やレジュメ作成）を身につける。
３)健康スポーツ科学に関する基礎知識を習得する。

成績評価方法･課題･フィードバックの方法

成績は次のような配分により評価します。
･授業への取り組む姿勢(レポート･発表などの準備）:50%
･レポート･発表:50%
授業中もしくは授業後に寄せられた質問に対しては、適宜、授業内で回答していきます。

事前・事後学習

授業の際に、健康やスポーツに関する話題やトピックスなどを各々発表してもらうので、それらに関連する新聞記事や雑誌などを調べて、数分程度で発表できるようにまとめておくこと(準備学習　15分/日)
発表資料やレポート作成などの課題があるので、授業までにしっかりと準備するように(60分)

授 業 計 画

第１講　ガイダンス　演習の概要
第２講　健康増進とスポーツ
第３講　高齢期における身体運動
第４講　調査資料の検索方法について
第５講　調査資料の収集方法について
第６講　調査資料の整理方法について
第７講　学術論文･文献の読み方
第８講　文献のまとめ方と発表の練習
第９講　レポートの書き方･作成方法
第10講　レポートの作成･プレゼン資料の作成
第11講　レポートの作成･プレゼン資料の作成
第12講　発表･報告①
第13講　発表･報告②
第14講　発表･報告③
第15講　授業のまとめ

テキスト・教材（参考文献含む）

【参考文献】
竹島伸生、ロジャース・マイケル編｢高齢者のための地域型運動プログラムの理論と実際｣（有)ナップ社(2006年)

担当者から一言

健康科学やスポーツ科学に関連する最新の話題やトピックスなどは、インターネットやマスメディアを通して広く情報発信されています。日頃から積極的な情報収集を心がけ、疑問や課題を追求しましょう。

基礎演習ａ

小林慶太郎

科目ナンバリング	２年次	２単位
PSS2001	前学期	必　修

授業の位置づけ

プレゼンテーション･コミュニケーションの能力を身につける。
調査･分析を通じて研究テーマを探究する能力を身につける。

授業のねらい

この演習では、将来、地方公務員や地域密着型の企業・団体等での就職を目指す学生を対象に、地域、まちづくり、地方自治、行政、公務員、市役所、選挙、政治、政策、地域振興、離島、過疎地、観光、まちおこし、マイノリティ、ダイバーシティ、多文化共生など、地域の課題とその解決のための取組みを知り、将来へのモチベーションを高めていくことを、ねらいとしています。

到達目標

この演習では、地方公務員の仕事や組織に関する基本的な知識を身につけ、地域の抱えている様々な課題とその解決に向けた取り組みを知ることを、到達目標としています。

成績評価方法･課題･フィードバックの方法

成績は次のような配分により評価します。
･講義時に指示する簡単な課題の提出状況および受講態度:30％
･定期試験(自筆ノートのみ持込可）:70％
なお、講義時に提出した課題に書かれていたコメントに対しては、以降の講義で応答していきます。

事前・事後学習

日頃からテレビや新聞の政治ニュースに目を通すこと（毎日20分以上)。講義内容のノートを見返して、不明な点などは参考文献等で調べておくこと(40分)。

授 業 計 画

第１講　ガイダンス
第２講　火事と救急出動(プレゼンテーションとディスカッション)
第３講　消防士と消防団員(　〃　)
第４講　防災･危機管理(　〃　)
第５講　事件と事故(　〃　)
第６講　警察と公安委員会(　〃　)
第７講　消防士･警察官になるために
第８講　公共事業と社会資本（プレゼンテーションとディスカッション)
第９講　地域経済と産業振興(　〃　)
第10講　スポーツと健康づくり(　〃　)
第11講　地元企業で働くために
第12講　子育てと福祉(プレゼンテーションとディスカッション)
第13講　文化･市民活動(　〃　)
第14講　多文化共生と人権(　〃　)
第15講　自治体行政職員になるために

※ 新型コロナウイルスの感染拡大の状況やゼミ生の進路希望の内容によっては、変更になる場合があります。
※ 状況が改善していれば､夏休みにゼミ旅行も予定したいと思います。

テキスト・教材（参考文献含む）

テキストはありません(必要に応じて、適宜プリントを配布します)
【参考文献】
新藤宗幸「日曜日の自治体学」東京堂出版(2013年)、2,200円＋税
大森彌、大杉覚「これからの地方自治の教科書　改訂版」第一法規(2021年)、2,500円＋税

担当者から一言

遅刻や、講義中の中座、飲食、私語、携帯電話の鳴動などは、原則禁止します。これらのことが守れない者には、退室を命ずることがあります。出席する以上は、真剣な態度で受講して下さい。また、講義中に指名されたら、元気に返事をするようにして下さい。

基礎演習ａ

高田晴美

科目ナンバリング	２年次	２単位
PSS2001	前学期	必　修

授業の位置づけ

プレゼンテーション･コミュニケーションの能力を身につける。
調査･分析を通じて研究テーマを探求する能力を身につける。

授業のねらい

日常にあふれる様々な言葉や表現、物語は、人のどのような意識のもと発せられているのか。言葉や文化、作品の創作や享受の裏には、どのような時代状況・社会状況の反映があるのか。流行語や近現代の(広い意味での）文学作品を取り上げ、これらの分析を通して、人間・人生・人間関係のあり方、社会の模様について考えを深めることを試みます。作品等に向き合うことで、「読む」「調べる」「分析する」「問題を見つける」「論じる」「文章にまとめる」「口頭発表する」「議論する」といった能力を鍛えましょう。

到達目標

･読解力、解釈力、問題発見力、言葉に対する感性を養う。
･自分の考えを文章にまとめて論じたレジュメを作成できるようになる。
･口頭発表や質疑応答などの議論のスキルを身につける。

成績評価方法･課題･フィードバックの方法

･発表(レジュメ内容、口頭発表の仕方、質疑応答の様子）　40％
･毎回の取り組み姿勢(発言意欲、コメント内容など）　60％
原則的に遅刻や欠席は認めません。発表担当者が遅刻・欠席した場合は、単位を与えません。
発表や議論に関して、授業内で適宜コメントします。

事前・事後学習

基本的には、２週で１セットとなっています。１週目はみんなでコメントを出し合い、２週目に発表担当者がレジュメを準備したうえで口頭発表します。発表担当者は相当の時間（発表前1週間は毎日数時間ずつ）をかけて準備をすること。発表担当者以外も、与えられたテクストを事前に読み、それにまつわる情報（作者の情報、関連作品について等)を収集しておくこと(１時間程度)。

授 業 計 画

第１講　ガイダンス、文学ネタで自己紹介プレゼン
第２講　流行している作品と社会と人々の心理の問題――皆で考える
第３講　流行している作品と社会と人々の心理の問題――発表①
第４講　流行している作品と社会と人々の心理の問題――発表②
第５講　小説Ａ①――読む･意見交換
第６講　小説Ａ②――発表･議論
第７講　句会
第８講　マンガ①――読む･意見交換
第９講　マンガ②――発表･議論
第10講　ビブリオバトル(書評合戦)――説明
第11講　評論①――読む･意見交換
第12講　評論②――発表･議論
第13講　小説Ｂ①――読む･意見交換
第14講　小説Ｂ②――発表･議論
第15講　ビブリオバトル――実践

テキスト・教材（参考文献含む）

演習で扱う作品のテクストは、プリントにして配布します。
その他、適宜、図書館等の資料を参照してください。

担当者から一言

法律や制度とは離れたところで日常に隠されている問題を見つけること、普段自分から出会うことはなかなかない文学作品を読み、さらに読み解くこと、そしてそれを誰かと共有して語り合うことは、刺激的な体験となりえます。みんなで面白がりましょう。

基礎演習ａ

鶴田利恵

科目ナンバリング	２年次	２単位
PSS2001	前学期	必　修

授業の位置づけ

プレゼンテーション･コミュニケーションの能力を身につける。
調査･分析を通じて研究テーマを探求する能力を身につける。

授業のねらい

この授業では、“マンガ”で描かれたテキストを使って基本的な経済学の考え方を理解します。経済学は、「難しそうな言葉や複雑な計算がたくさん出てきそうだ」と思われがちですが、いくつかのキーワードを理解しておけば､数学ができなくても十分に理解できる学問です。また、そのようにして習得した経済学的な思考を使って、現実に起きている経済問題について考えていく力をつけてもらうことが、この授業のねらいです。授業では鶴田の解説だけでなく、みなさんの意見や疑問をぶつけ合い、活発なディスカッションを行いながら進めます。

到達目標

まずは、何がわからないかを声にだしてみましょう。その上で、経済学の基本的な考え方を習得し、テレビや新聞で報道されている経済問題を理解し、さらにその問題について自分の意見を言えるようになることを、到達目標とします。

成績評価方法･課題･フィードバックの方法

授業内での報告や発言内容70％、レポート（２回）30％。
なお、２回のレポート提出については、コメントをつけて以降の講義で返却します。

事前・事後学習

日頃からテレビ、新聞、インターネットなどなんでも良いので経済ニュースに触れておくこと（毎日１時間以上。まとめてでも小刻みでも構いません。電車の中でネットでニュースを見るのもOKです）。授業後、その日読んだマンガのテキストを必ず読み返し、どんなことを話し合ったかを思い出す（30分以上）。

授 業 計 画

第１講　ガイダンス
第２講　経済学って何をしようとする学問なの？
第３講　モノの値段は何をもとに決まっている？
第４講　「コスト＝費用」についての経済学的な考え方とは？
第５講　マクロ経済学･ミクロ経済学って何？
第６講　ニュースでよく出てくるGDP（国内総生産）って何？
第７講　「日本はデフレ」ってどういう意味？
第８講　ケインズって誰？　レポート提出①
第９講　「超低金利政策」って何？ どうしてそんなことするの？
第10講　消費したほうがいい？ それとも貯蓄したほうがいい？
第11講　財政政策って何？
第12講　そもそもお金って何？
第13講　金融政策って何？
第14講　良いインフレと悪いインフレがあるらしい？ レポート提出②
第15講　まとめ

テキスト・教材（参考文献含む）

コピーを配布します。
使用テキスト：井堀利宏「大学４年間の経済学がマンガでざっと学べる」KADOKAWA（2017年）1,200円（税抜き）

担当者から一言

わからないことをどんどん声にして、みんなで少しずつ考えていきましょう。ただし、遅刻、私語、携帯電話の使用は禁止します。注意をしても私語や携帯電話の使用をやめない場合には、退出（もちろん欠席扱い）を命じるか、もしくは携帯電話を没収します。

基礎演習ａ

富田　与

科目ナンバリング	２年次	２単位
PSS2001	前学期	必　修

授業の位置づけ

プレゼンテーション･コミュニケーションの能力を身につける。
調査･分析を通じて研究テーマを探究する能力を身につける。

授業のねらい

この演習では国際情報の性質を考えていきます。実際の授業では、具体的な報道記事を材料に､「誰が､何を､どう表現し」､それを「誰が､どのように受容したか」を､できるだけ一次資料にまで遡って分析し、その上で、入手できた資料を使いオリジナルの記事を作成してみましょう。最後の２回ではオリジナルの記事の合評会を予定しています。作業は留学生と日本人学生の混成グループにより進めることとし、作業中の使用言語は日本語と英語のみとします。

到達目標

１．一次資料に遡れる調査能力の獲得
２．資料に基づくレポート作成能力の獲得
３．多言語コミュニケーション能力の獲得
４．プレゼンテーション能力の獲得

成績評価方法･課題･フィードバックの方法

授業中に指示した課題は、すべて、何らかの形で、授業中に発表してもらいます。授業中に発表してもらった課題（50％）を評価の対象とし、グループ作業への参加度（50％）を加味して総合評価とします。
授業中もしくは授業後に寄せられた質問に対しては、適宜、授業内で回答していきます。

事前・事後学習

各回の内容に応じて、次のような準備が必要になります。
１．材料とする報道記事の検索（１時間）
２．報道記事の分析（１時間半）
３．一次資料の調査（２時間）
４．発表資料の作成（２時間）

授 業 計 画

第１講：ガイダンス
第２講：報道記事を解剖する（講義）
第３講：出来事の選択
第４講：記事の持ち寄り
第５講：記事の選択（グループ作業）
第６講：記事の解剖（グループ作業）
第７講：情報源の特定（グループ作業）
第８講：資料の抽出（グループ作業）
第９講：資料の持ち寄り
第10講：資料の評価
第11講：記事作成のための資料選択（グループ作業）
第12講：オリジナル記事の構成（グループ作業）
第13講：オリジナル記事の作成（グループ作業）
第14講：合評会
第15講：合評会

テキスト・教材（参考文献含む）

特に指定しない。

担当者から一言

ひとつの報道記事には、いくつかの別の主体の判断や認識が含まれているのが一般的です。イメージと感情に偏りがちが最近の国際情報環境のなかで、細部にこだわった情報の読み取りを一度経験しておくことで、報道記事の見方もきっと変わると思います。

基礎演習ａ	科目ナンバリング	２年次	２単位
中西紀夫	PSS2001	前学期	必　修

授業の位置づけ

プレゼンテーション･コミュニケーションの能力を身につける。
調査･分析を通じて研究テーマを探求する能力を身につける。

授業のねらい

この演習では、まず、自己紹介によるスピーチの練習から始めていきたいと考えております。最近の学生で多くみられる傾向として、メールなどでの簡単な会話は問題ないのですが、実際の面と向かっての会話は、苦手な学生が多いように思えますので、この点の改善には、各講のテーマに関係なく意識して時間を使いたいと思います。　ここでは、ニュースや新聞などで話題となっているような社会問題を素材として扱います。

到達目標

各自が設定したテーマに基づき､資料収集が出来ることはもとより、きちんとしたレジュメの作り方や報告方法までを到達目標とします。

成績評価方法･課題･フィードバックの方法

成績は、次のような評点配分です。
受講態度　50％
発表内容　30％
レポート　20％
報告で使用したレジュメや提出したレポートについては、その都度、指導します。

事前・事後学習

毎日、新聞を読むこと（１日20分）はもちろん、毎回、予習90分と復習90分はお願いしたいと思います。内容は授業中にお話ししますが、分からなかったことも質問したり自分でも調べるようにしてください。

授 業 計 画

第１講　ガイダンス
第２講　自己紹介(スピーチの練習)
第３講　資料の収集方法
第４講　レジュメの形式について
第５講　各自が注目した社会問題を意見交換(グループワーク)
第６講　研究テーマと概要を報告し、ミニレポートで提出
第７講　レジュメによる報告および意見交換①
第８講　レジュメによる報告および意見交換②
第９講　レジュメによる報告および意見交換③
第10講　レジュメによる報告および意見交換④
第11講　レジュメによる報告および意見交換⑤
第12講　レジュメによる報告および意見交換⑥
第13講　研究の進捗状況を報告し、ミニレポートで提出
第14講　討論会(テーマは多数決で決める)
第15講　まとめ、研究レポート提出

テキスト・教材（参考文献含む）

参考文献等は、必要に応じて紹介します。資料は適宜、配付します。

担当者から一言

授業中は私語厳禁とします。また、こちらの許可を得ない中座や勝手にスマホを見ることなども、もちろん禁止です。学生さんも体調等の問題や諸活動で、こちらも臨機応変な対応が必要となることもありますが、中座や退室は私の許可を取ってください。出席する以上は、集中して受講しましょう。

基礎演習ａ	科目ナンバリング	２年次	２単位
フェリペ・フェハーリ	PSS2001	前学期	必　修

授業の位置づけ

プレゼンテーション･コミュニケーションの能力を身につける。
調査･分析を通じて研究テーマを探究する能力を身につける。

授業のねらい

この演習では、哲学の伝統をきちんと押さえ、2500年以上にもおよぶ哲学の原典をきちんと読む能力を養いながら、現在において、哲学の社会的な役割をディスカッションします。

到達目標

芸術（文学、映画や音楽など)、科学や日常生活にある哲学の影響を認知し、現代社会において、哲学の役割を議論すること。

成績評価方法･課題･フィードバックの方法

受講態度:30％
ミニレポート:20％
最終レポート:50％
学生自身が記入したミニレポートを講義中にコメントします。

事前・事後学習

毎回の講義で配布した資料をしっかり読みます(毎週約60分)。
レポートを作成し、発表の準備をします(毎週約60分)。

授 業 計 画

第１講　ガイダンス
第２講　哲学とは何か
第３講　哲学と私
第４講　古代哲学:ソクラテス以前
第５講　古代哲学:ソクラテス
第６講　古代哲学:プラトン
第７講　古代哲学:アリストテレス
第８講　中世哲学:新プラトン主義
第９講　中世哲学:スコラ哲学
第10講　近代哲学:ルネサンス
第11講　近代哲学:デカルト
第12講　近代哲学:スピノザ
第13講　近代哲学:ライプニッツ
第14講　哲学論文の書き方
第15講　まとめ

テキスト・教材（参考文献含む）

『哲学用語図鑑』
田中正人(プレジデント社)
(1,800円＋税)ISBN 978-4-8334-2119-5

担当者から一言

世界を理解するには、まずは自分の心の中にある偏見や差別などをすべて捨て、絶対的な信頼さえも疑わなければなりません。私たちは、現代の日本社会において様々な問題について議論する必要があります。この演習では学生のみなさんに現代問題を考えてもらい、一緒に独立した考えを作りましょう。

基礎演習ａ	科目ナンバリング	２年次	２単位
三田泰雅	PSS2001	前学期	必　修

授業の位置づけ

プレゼンテーション･コミュニケーションの能力を身につける。
調査･分析を通じて研究テーマを探究する能力を身につける。

授業のねらい

この演習は、現実の出来事を手がかりに世の中の仕組みを考える「社会学」に関心をもつ人を対象にしています。基礎演習ａでは論説文の書き方を学びます。論説文は、レポートはもちろんプレゼンテーションの基本でもあります。自分の考えを正確にわかりやすく伝える力を高めましょう。

到達目標

原稿用紙のマス目を埋めるだけの作文を卒業し、論理と構成を備えた文章作成能力を身につけましょう。

成績評価方法･課題･フィードバックの方法

期末レポート30％、授業への参加度(課題含む)70％で評価します。
課題を忘れた場合は出席にならないので注意してください。
提出した課題は授業内で教員を交えてディスカッションします。

事前・事後学習

各回の課題に取り組むこと(一日平均20分程度)

授 業 計 画

1　ガイダンス
2　文章の書き方
3　文章の型を知る
4　型から文章を作る
5　文章の読み方
6　メモを取りながら読む
7　メモを活用する
8　文書資料の探し方
9　統計資料の探し方
10　レジュメをつくる
11　レジュメから文章へ
12　段落の構成
13　文の構成
14　接続詞を学ぶ
15　後学期ガイダンス

テキスト・教材（参考文献含む）

宮内泰介･上田昌文，2020，『実践　自分で調べる技術』岩波書店.

担当者から一言

実践する演習です。学生諸君の積極的な参加を期待します。

基礎演習ａ	科目ナンバリング	２年次	２単位
若山裕晃	PSS2001	前学期	必　修

授業の位置づけ

プレゼンテーション･コミュニケーションの能力を身につける。
調査･分析を通じて研究テーマを探求する能力を身につける。

授業のねらい

本演習では、スポーツ科学に関連した文献講読及び討論を通して、論文作成のための知識を養成する。

到達目標

文献検索や資料作成等、研究を進めるための基礎的な手法を習得する。

成績評価方法･課題･フィードバックの方法

課題文献の解説・要約(50％)、レポート(50％)。レポート等の評価は個別に開示する。

事前・事後学習

予習として､課題文献に関連した資料収集を実施しておくこと(90分)。
復習として、授業内で討論された問題について自分なりに整理しておくこと(90分)。

授 業 計 画

第１講　ガイダンス　授業の概要
第２講　レポートのテーマ検討
第３講　レポートのテーマ検討
第４講　スポーツ科学とは
第５講　文献講読･討論
第６講　文献講読･討論
第７講　文献講読･討論
第８講　文献講読･討論
第９講　文献講読･討論
第10講　文献講読･討論
第11講　文献講読･討論
第12講　文献講読･討論
第13講　文献講読･討論
第14講　文献講読･討論
第15講　総括及び夏期休暇課題の説明

テキスト・教材（参考文献含む）

特に指定しないが、適宜指示する。

担当者から一言

毎回担当者を決めて、課題文献の解説をしてもらう。学生の積極的な討論参加を期待する。
状況によって、オンライン授業となる場合があります。

基礎演習ｂ	科目ナンバリング	２年次	２単位
奥原貴士	PSS2002	後学期	必　修

授業の位置づけ

プレゼンテーション･コミュニケーションの能力を身につける。
調査･分析を通じて研究テーマを探求する能力を身につける。

授業のねらい

企業の財務諸表は、企業の業績の優劣や潜在能力を映し出しているが、こうした会計情報を読み取るには、財務諸表がどのようにして作成されているのかを理解していなければなりません。そこで本講義は、会計・簿記の基礎知識を習得することを目的とします。そして、会計情報を利用して基礎的な経営分析を行います。また、日商簿記検定等の資格取得も目指します。

到達目標

会計・簿記の基本的な知識を習得し、財務諸表を的確に読み取ることができるようになることを到達目標とします。これらは、専門演習での学習のベースとなります。また、日商簿記検定等の資格取得も目指していきます。

成績評価方法･課題･フィードバックの方法

平常点(授業への積極的な参加、発表内容、発言回数など)　80％
課題レポート　20％
なお、発表･発言については適宜コメントをします。

事前・事後学習

新聞や雑誌などで企業の会計数値(売上高や利益額など)を見て、この企業の経営はうまくいってそうだ、こっちの企業は倒産の危険があるんじゃないか､ということに関心をもってください。(毎日90分以上)

授 業 計 画

第１講　ガイダンス
第２講　会計･簿記の学習
第３講　会計･簿記の学習
第４講　会計･簿記の学習
第５講　会計･簿記の学習
第６講　会計･簿記の学習
第７講　会計･簿記の学習
第８講　会計･簿記の学習
第９講　会計･簿記の学習
第10講　会計･簿記の学習
第11講　経営分析の基礎
第12講　経営分析の基礎
第13講　経営分析の基礎
第14講　経営分析の基礎
第15講　経営分析の基礎

テキスト・教材（参考文献含む）

テキストはゼミが進んでから指定する。
講義資料はプリントを適宜配布する。

(参考文献)
谷武幸･桜井久勝･北川教央編著『１からの会計(第２版)』中央経済社(2021)。
『合格テキスト日商簿記３級』、『同２級』ＴＡＣ株式会社。

担当者から一言

会計･簿記の講義回数に関しては､受講生との話し合いにより決めます。
発表、ディスカッションへの積極的な参加を希望します。
日商簿記検定等の資格試験についても対応していきます。

基礎演習ｂ	科目ナンバリング	２年次	２単位
鬼頭浩文	PSS2002	後学期	必　修

授業の位置づけ

プレゼンテーション･コミュニケーションの能力を身につける。
調査･分析を通じて研究テーマを探求する能力を身につける。

授業のねらい

自分を表現する能力を、具体的に自己PR大会などを通じて磨き上げる。また、新聞を使ったレポート作成やテーマ・課題を設定した小論文作成を行う。また、就職活動でよく質問される「大学時代に打ち込んだこと」を肉付けするために､積極的に課外活動を行う｡具体的には、地域のイベントに実行委員として参加したり、大学祭などで学生が自ら企画して実行したりする。この演習は、専門演習の準備段階と位置づけ、コミュニケーション能力の向上とチームワーク作りにも力を入れていく。

到達目標

新聞・テレビなどの報道を理解し、自分の力で考え、文章として書きあげる。そして、インパクトのあるプレゼンで魅力的に人に伝える能力を身に着けることが、この２年後期のわが鬼頭ゼミ；専門基礎の到達目標である。

成績評価方法･課題･フィードバックの方法

ゼミの中での議論、プレゼンのパフォーマンス(５割)や課題への取り組み(５割)により総合評価する。課題は、添削やコメントを記して返却する。

事前・事後学習

ニュースや新聞、ネットなどから１週間の社会の動きを調べる学習に１時間ほどかけること。また、第８～13回の小論文作成特訓では、事前に課題の予告(どんな分野の課題を出すか)をするので、それに関してネットで２時間ほどをかけて調べておくこと。

授 業 計 画

1．ガイダンス;顔見せと自己紹介
2．自己紹介を手書きで作ろう
3．自己PR大会(一人５分で自己PR)
4．たこ焼き･ワッフル模擬店経営を通して経済を学ぶ
5．新聞を読もう①気になる記事をまとめる(手書きレポート800字)
6．新聞を読もう②気になる記事について考えを書く（手書きレポート800字)
7．新聞を読もう③気になる記事の考察(手書きレポート1200字)
8．小論文作成特訓＆ディスカッション①;400字原稿用紙×３枚
9．小論文作成特訓＆ディスカッション②;小論文に関する討論
10．小論文作成特訓＆ディスカッション③;400字原稿用紙×３枚
11．小論文作成特訓＆ディスカッション④;小論文に関する討論
12．小論文作成特訓＆ディスカッション⑤;400字原稿用紙×３枚
13．小論文作成特訓＆ディスカッション⑥;小論文に関する討論
14．コミュニケーション能力を身につける演習
15．プレゼン能力を身に付ける演習

テキスト・教材（参考文献含む）

テキストは、とくに指定しない。必要に応じてプリントを配布する。

担当者から一言

ゼミの無断欠席は厳禁。ジャージなど部活用の服装は禁止。鬼頭ゼミの誇りは、過去、就職を希望して活動した者が全てほぼ希望に近い就職を決めてきたことである。これは、ゼミ活動の中で身につけた人間力を人前で表現できる能力が発揮できたからと考える。積極的にゼミ活動に参加してほしい。

基礎演習ｂ

小泉大亮

科目ナンバリング	２年次	２単位
PSS2002	後学期	必　修

授業のねらい

本演習では、論文作成やプレゼンテーションの基礎的な能力を養成する。テーマとして、「健康」・「身体運動」を取り上げ、レポート作成、発表、討論を行う。

到達目標

資料(書籍・雑誌・新聞記事・論文等)を整理し、レポートやプレゼンテーションにまとめて発表できる。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法

成績は次のような配分により評価します。
・授業への取り組む姿勢(レポート・発表などの準備)：50％
・レポート・発表：50％
授業中もしくは授業後に寄せられた質問に対しては、適宜、授業内で回答していきます。

事前・事後学習

論文抄読用の資料準備(90分)
発表用のレジュメやスライドの準備(90分)

授業の位置づけ

プレゼンテーション・コミュニケーションの能力を身につける。
調査・分析を通じて研究テーマを探求する能力を身につける。

授 業 計 画

第１講　ガイダンス　演習の進め方
第２講　自己紹介
第３講　資料の検索方法と資料の整理方法
第４講　プレゼンテーション資料の作成と発表方法
第５講　レポート・プレゼンテーション資料作成①
第６講　レポート・プレゼンテーション資料作成②
第７講　レポート・プレゼンテーション資料作成③
第８講　レポート・プレゼンテーション資料作成④
第９講　プレゼンテーション・質疑応答・討論
第10講　プレゼンテーション・質疑応答・討論
第11講　プレゼンテーション・質疑応答・討論
第12講　プレゼンテーション・質疑応答・討論
第13講　プレゼンテーション・質疑応答・討論
第14講　プレゼンテーション・質疑応答・討論
第15講　まとめ

テキスト・教材（参考文献含む）

なし。

担当者から一言

発表担当者は、責任を持って資料を準備するように。

基礎演習ｂ

小林慶太郎

科目ナンバリング	２年次	２単位
PSS2002	後学期	必　修

授業のねらい

この演習では、将来、地方公務員や地域密着型の企業・団体等での就職を目指す学生を対象に、地域、まちづくり、地方自治、行政、公務員、市役所、選挙、政治、政策、地域振興、離島、過疎地、観光、まちおこし、マイノリティ、ダイバーシティ、多文化共生など、地域の課題とその解決のための取組みを知り、将来へのモチベーションを高めていくことを、ねらいとしています。

到達目標

この演習では、地域の抱えている様々な課題とその解決に向けた取り組みを知り、自らもそうした課題解決に向けた取り組みを検討していけるようになるための基本的な知識を身につけることを、到達目標としています。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法

毎回出席することが基本です。無断欠席者には原則として単位を与えません。成績は次のような配分により評価します。
・自身の担当回のレジュメ作成への取り組み姿勢：50％
・受講態度および授業中の課題への取り組み状況：50％
なお、課題として作成されたレジュメについては、授業の中で講評します。

事前・事後学習

毎回、何らかのことを調べたり整理したりしレジュメを作成したりして来てもらいます(150分程度)。
また、社会のさまざまな問題に関心を持ち、新聞やテレビのニュースなどに、よく目を通しておいてください(30分)。

授業の位置づけ

プレゼンテーション・コミュニケーションの能力を身につける。
調査・分析を通じて研究テーマを探究する能力を身につける。

授 業 計 画

第１講　ガイダンス
第２講　課題の設定
第３講　インターネット検索
第４講　データの収集
第５講　文献調査
第６講　論点整理
第７講　ヒアリング調査
第８講　情報整理
第９講　補充調査
第10講　レジュメ作成
第11講　レジュメ完成
第12講　パワーポイント
第13講　プレゼンテーション練習
第14講　プレゼンテーション実践
第15講　来年度に向けて

※　基本的に毎回、グループワークやプレゼンテーション、ディスカッションを行います。各回に扱う内容は、各人の興味関心などに応じて、上記とは変更することがあります。秋には大学祭での「四日市とんてき」の模擬店の出店を、冬には他大学のゼミとの合同研究発表合宿「ジョイントセミナー」（有志のみ）を、それぞれ予定しています。
※　新型コロナウイルスの感染拡大の状況によっては、変更になる場合があります。

テキスト・教材（参考文献含む）

テキストは使いません（必要な資料等は、演習の際に配布する予定です）。参考文献等については、演習を進めていく中で、適宜紹介していきます。

担当者から一言

一人ひとりが知的好奇心を持って、積極的に取り組んでいくことを望みます。「よく学びよく楽しむゼミ」を目指しています。大変だと思いますが、オンもオフも精一杯がんばりましょう！

基礎演習ｂ	科目ナンバリング	２年次	２単位
高田晴美	PSS2002	後学期	必　修

授業の位置づけ

プレゼンテーション･コミュニケーションの能力を身につける。
調査･分析を通じて研究テーマを探求する能力を身につける。

授業のねらい

日本の近現代の文学作品を､前学期より系統的に分析していきます。一人の作家の初期から晩年までの作品を数作品、時代順に読んでいくことで､その作家や時代背景の移り変わりにも目を向け､考察します。中には元ネタがある作品も取り上げ、元ネタとの比較・分析をすることで作者の意図に迫るスキルも身につけます。単に作品だけを見るのではなく、作者や作者の人生、作品の背景を調べることで、より作品に対する理解を深め、そこから問題点を設定し自分なりの論点で論じていきましょう。

到達目標

･自分なりの論点で客観的･学術的に論じるスキルを向上させる。
･自分の論を文章でまとめるスキルを向上させる。
･口頭発表のスキルを向上させる。

成績評価方法･課題･フィードバックの方法

･毎回のコメントと受講態度　60％
･発表と質疑応答の内容　　40％
原則的に遅刻や欠席は認めません。発表担当者が遅刻・欠席した場合は、単位を与えません。授業内で適宜コメントします。

事前・事後学習

･毎回､次回までに読んでくるべき資料を配布するので､それを読む(約１時間)。
･自分が発表を担当する回に向けて、少なくとも１週間前から入念な発表準備をする(毎日数時間×７日間)。

授 業 計 画

第１講　ガイダンス
第２講　小説Ａー作品について議論する
第３講　小説Ａー作品を論じる
第４講　小説Ｂー作品について議論する
第５講　小説Ｂー元ネタとの比較分析
第６講　小説Ｂー作品を論じる
第７講　歌会
第８講　小説Ｃー作品について議論する
第９講　小説Ｃー作品を論じる
第10講　小説Ｄー作品について議論する
第11講　小説Ｄー元ネタとの比較分析
第12講　小説Ｄー作品を論じる
第13講　小説Ｅー作品について議論する
第14講　小説Ｅー作品について議論する
第15講　小説Ｅー作品を論じる
分析する作品は、小説ではない作品になる可能性もあります。

テキスト・教材（参考文献含む）

演習で扱う作品のテクストは、プリントにして配布します。
その他、適宜、図書館等の資料を参照してください。

担当者から一言

「基礎演習ａ」では散発的に作品を読むという感じでしたが、「基礎演習ｂ」では元ネタとの比較をしたり、作家の人生や他の作品との関連を考えたりと、より深く作品と格闘します。あーだこーだと考え、議論することの楽しさを味わいましょう。

基礎演習ｂ	科目ナンバリング	２年次	２単位
鶴田利恵	PSS2002	後学期	必　修

授業の位置づけ

プレゼンテーション･コミュニケーションの能力を身につける。
調査･分析を通じて研究テーマを探求する能力を身につける。

授業のねらい

この授業では、経済学のテキストを使い、基礎演習ａで学んだ内容を復習するとともに、より広い範囲の経済理論を理解することを目的とします。鶴田による解説だけではなく、常に自分たちの意見や疑問点を出し合い、ディスカッションすることによって幅広い視野を身につけていきましょう。

到達目標

基本的な経済理論と、身の回りで話題になっている経済問題を理解する。

成績評価方法･課題･フィードバックの方法

授業内での報告や発言内容70％、レポート(２回)30％
なお、２回のレポート提出については、コメントをつけて以降の講義で返却します。

事前・事後学習

日頃からテレビ、新聞、インターネットなどなんでも良いので経済ニュースに触れておくこと（毎日１時間以上。まとめてでも小刻みでも構いません。電車の中でネットでニュースを見るのもOKです)。授業後、その日読んだテキストを必ず読み返し、どんなことを話し合ったかを思い出す(30分以上)。

授 業 計 画

第１講　ガイダンス
第２講　マクロ経済学とGDP(国内総生産)
第３講　三面等価の原則と物価指数
第４講　ケインズ経済学とGDPの決定
第５講　財市場と貨幣市場の均衡　IS-LMモデル
第６講　家計の消費行動と企業の投資行動
第７講　政府の役割
第８講　財政政策とクラウディングアウト　レポート提出
第９講　貨幣の役割
第10講　金融政策
第11講　インフレとデフレ
第12講　バブル経済とその崩壊
第13講　貿易の利益と比較優位の原則
第14講　国際収支と為替レート
第15講　経済統合と通貨統合　レポート提出

テキスト・教材（参考文献含む）

コピーを配布します。
使用テキスト：井堀利宏「大学４年間の経済学が10時間でざっと学べる」 株式会社KADOKAWA(2019年)1,500円(税抜き)

担当者から一言

わからないことをどんどん声にして、みんなで少しずつ考えていきましょう。ただし、遅刻、私語、携帯電話の使用は禁止します。注意をしても私語や携帯電話の使用をやめない場合には、退出（もちろん欠席扱い)を命じるか、もしくは携帯電話を没収します。

基礎演習ｂ	科目ナンバリング	２年次	２単位
富田　与	PSS2002	後学期	必　修

授業の位置づけ

プレゼンテーション･コミュニケーションの能力を身につける。
調査･分析を通じて研究テーマを探究する能力を身につける。

授業のねらい

この演習では、「疑問を見つけ、それを問題提起に作り上げる」ことを考えていきます。「疑問を見つけ、それを問題提起に作り上げる」ためには、観察力と論理的思考が必要になります。授業では、現代アート作品（写真）を使って、「疑問」を見つけるための観察力の養い方を実践します。一方、論理的思考は文章を作成するなかで養われます。観察の中で見つけた「疑問」を文章で表現し、更に、関連の調査を通して、解答可能な「問題提起」に仕立てていくことにしたいと思います。

到達目標

到達目標は「0.5秒で質問が作れるようになる」です。

成績評価方法･課題･フィードバックの方法

レポート、口頭発表:50％
議論への参加:50％
授業中もしくは授業後に寄せられた質問に対しては、適宜、授業内で回答していきます。

事前・事後学習

授業の中で課題を出すので、次の授業までに報告できるように準備してください(180分)。

授 業 計 画

第１講　ガイダンス
第２講　アートの写真①－１
第３講　アートの写真①－２
第４講　アートの写真②－１
第５講　アートの写真②－２
第６講　「疑問」を表現する
第７講　合評会①
第８講　合評会②
第９講　「疑問」から「問題提起」へ
第10講　「問題提起」を表現する
第11講　解答を探してみよう①
第12講　解答を探してみよう②
第13講　合評会
第14講　「問題提起」から「結論」までの構成
第15講　まとめ

テキスト・教材（参考文献含む）

特に指定しない。

担当者から一言

前期は誰かによって表現されたものを使って、表現されたことのエビデンスを考えました。後期は、表現の動機づけともいえる疑問について考えます。教員を質問攻めにして下さい。

基礎演習ｂ	科目ナンバリング	２年次	２単位
中西紀夫	PSS2002	後学期	必　修

授業の位置づけ

プレゼンテーション･コミュニケーションの能力を身につける。
調査･分析を通じて研究テーマを探求する能力を身につける。

授業のねらい

基礎演習ｂでは、基礎演習ａでも重視した新聞・TVのニュース・インターネットなどのトップページで扱われているような社会問題を素材とします。ここでは、自分が興味を持ったテーマを可能な限り詳しく調べ、ある程度、高度な発表ができるようにすることを講義のねらいとします。

到達目標

社会における法律に関する諸問題を、ある程度、自分で思考し解決しようとする取っ掛かりの部分を身に着けることに重点を置いていきます。最終的な到達目標は、発表や意見交換の方法を学ぶところまでを予定しています。

成績評価方法･課題･フィードバックの方法

成績は、次のような評点配分です。
受講態度　50％
発表内容　30％
レポート　20％
授業中もしくは授業後に寄せられた質問に対しては、適宜、授業内で回答していきます。

事前・事後学習

新聞やニュースで取り上げられた事件などの当該規定を、必要に応じ六法で調べるのはもとより、ジュリストなどの判例集もできるだけ読む習慣を身につけてください。（毎回、予習90分と復習90分）

授 業 計 画

第１講　ガイダンス
第２講　社会問題①(スピーチの練習)
第３講　グループディスカッションの練習①
第４講　グループディスカッションの練習②
第５講　研究テーマと内容の報告①
第６講　研究テーマと内容の報告②
第７講　レジュメによる発表と質疑応答①
第８講　レジュメによる発表と質疑応答②
第９講　レジュメによる発表と質疑応答③
第10講　レジュメによる発表と質疑応答④
第11講　レジュメによる発表と質疑応答⑤
第12講　社会問題②(発表の練習)
第13講　社会問題③(発表の練習)
第14講　意見交換の方法
第15講　まとめ、レポート提出

テキスト・教材（参考文献含む）

必要に応じて、資料を配付します。

担当者から一言

授業中は私語厳禁とします。また、こちらの許可を得ない中座や勝手にスマホを見ることなども、もちろん禁止です。学生さんも体調等の問題や諸活動で、こちらも臨機応変な対応が必要となることもありますが、中座や退室は私の許可を取ってください。出席する以上は、集中して受講しましょう。

基礎演習ｂ	科目ナンバリング	２年次	２単位
フェリペ・フェハーリ	PSS2002	後学期	必　修

授業の位置づけ

プレゼンテーション･コミュニケーションの能力を身につける。
調査･分析を通じて研究テーマを探究する能力を身につける。

授業のねらい

この演習では、哲学の伝統をきちんと押さえ、2500年以上にもおよぶ哲学の原典をきちんと読む能力を養いながら、現在において、哲学の社会的な役割をディスカッションします。

到達目標

芸術（文学、映画や音楽など）、科学や日常生活にある哲学の影響を認知し、現代社会において、哲学の役割を議論すること。

成績評価方法･課題･フィードバックの方法

受講態度:30％
発表のコメント:20％
研究発表:50％
研究発表については講義中にコメントします。

事前・事後学習

毎回の講義で配布した資料をしっかり読みます(毎週約60分)。
レポートを作成し、発表の準備をします(毎週約60分)。

授 業 計 画

第１講　ガイダンスと前期の復習
第２講　前期のフィードバック（１）
第３講　前期のフィードバック（２）
第４講　近代哲学:カント（１）
第５講　現代哲学:カント（２）
第６講　現代哲学:ヘーゲル（１）
第７講　現代哲学:ヘーゲル（２）
第８講　発表と議論（１）
第９講　発表と議論（２）
第10講　発表と議論（３）
第11講　発表と議論（４）
第12講　発表と議論（５）
第13講　発表と議論（６）
第14講　発表と議論（７）
第15講　発表のコメントやフィードバック

テキスト・教材（参考文献含む）

『哲学用語図鑑』
田中正人(プレジデント社)
(1,800円＋税)ISBN 978-4-8334-2119-5

担当者から一言

世界を理解するには、まずは自分の心の中にある偏見や差別などをすべて捨て、絶対的な信頼さえも疑わなければなりません。私たちは、現代の日本社会において様々な問題について議論する必要があります。この演習では学生のみなさんに現代問題を考えてもらい、一緒に独立した考えを作りましょう。

基礎演習ｂ	科目ナンバリング	２年次	２単位
三田泰雅	PSS2002	後学期	必　修

授業の位置づけ

プレゼンテーション･コミュニケーションの能力を身につける。
調査･分析を通じて研究テーマを探求する能力を身につける。

授業のねらい

この演習は、世の中の仕組みを考える「社会学」に関心をもつ人を対象にしています。２年生の後学期は文章を読む力をのばすことに主眼をおき、文章を通して色々な社会の見方に触れていきます。

到達目標

１．文章を読み、内容を吟味できるようになる
２．レジュメ作成の能力を身につける
３．社会学の基本的な用語や考え方を身につける

成績評価方法･課題･フィードバックの方法

各回の報告50％、授業への参加度50％で評価します。それぞれの報告は教員を含めた全員で議論します。

事前・事後学習

当日までに全員が指定された文献を読み、内容を理解しておくこと（1日15分)。

授 業 計 画

第１講　ガイダンス
第２講　論説文の読み方
第３講　短い文章を読む１
第４講　短い文章を読む２
第５講　文章を吟味する１
第６講　文章を吟味する２
第７講　レジュメの作り方
第８講　報告と議論１
第９講　報告と議論２
第10講　報告と議論３
第11講　書評レポートの書き方
第12講　報告と議論４
第13講　報告と議論５
第14講　報告と議論６
第15講　まとめ

テキスト・教材（参考文献含む）

倉沢進ほか，2001，『新訂　社会学入門』放送大学教育振興会.

担当者から一言

同じものを見ても、知識のある人とない人とでは感じる面白さが全然違います。本を読み、知識が増えれば、どんどん世界の面白さが開けてきます。どうせ生きていくなら面白いほうがいいですよね。

基礎演習ｂ

科目ナンバリング	２年次	２単位
PSS2002	後学期	必　修

若山裕晃

授業の位置づけ

プレゼンテーション･コミュニケーションの能力を身につける。
調査･分析を通じて研究テーマを探求する能力を身につける。

授業のねらい

本演習は、スポーツ･運動･健康をテーマとして、レポート及び論文作成のための基礎的な能力養成を目的とする。

到達目標

各種資料(書籍・雑誌・新聞記事・映像資料等)を整理し、レポートとしてまとめた上で発表する。その発表内容についてクラス全員で質疑応答や討論を重ねることによって、その後の研究テーマ選定へとつなげていく。

成績評価方法･課題･フィードバックの方法

レポート(50%)、プレゼンテーション(50%)。
レポート等の評価は個別に開示する。

事前・事後学習

予習として、研究テーマに関連した資料収集を実施しておくこと（90分)。復習として、授業内で討論された問題について自分なりに整理しておくこと(90分)。

授 業 計 画

第１講　ガイダンス　授業の概要
第２講　レポート･論文の書き方
第３講　資料収集法
第４講　レポート作成(はじめに)
第５講　レポート作成(はじめに)
第６講　レポート作成(はじめに)
第７講　レポート作成(方法)
第８講　レポート作成(結果及び考察)
第９講　レポート作成(結果及び考察)
第10講　レポート作成(結果及び考察)
第11講　レポート発表･質疑応答･討論
第12講　レポート発表･質疑応答･討論
第13講　レポート発表･質疑応答･討論
第14講　レポート修正版完成
第15講　レポート修正版完成

テキスト・教材（参考文献含む）

特に指定しないが、適宜指示する。

担当者から一言

学生の自主的なテーマ選定・資料収集・レポート作成・討論参加を期待する。
状況によって、オンライン授業となる場合があります。

専門演習ａ

科目ナンバリング	３年次	２単位
PSS3001	前学期	必　修

奥原貴士

授業の位置づけ

プレゼンテーション･コミュニケーションの能力を身につける。
調査･分析を通じて研究テーマを探求する能力を身につける。

授業のねらい

財務会計や実証研究に関するテキストを輪読することで会計に関する専門的な知識を習得することを目的とします。また会計の学術論文についても輪読を行うことで、研究の内容を理解する能力を身につけることも目的とします。これら輪読では担当者が発表を行い、続いて全員でディスカッションをすることで理解を深めていきます。

到達目標

会計や研究方法の専門知識を習得したうえで、卒業研究のテーマを見つけることを到達目標とします。加えて、発表のスキルを身につけること、積極的に発言できるようになることも目標とします。

成績評価方法･課題･フィードバックの方法

平常点(発表内容、発言回数など)　80%
課題レポート　20%
なお、発表･発言については適宜コメントをします。

事前・事後学習

新聞や雑誌などで企業の会計数値(売上高や利益額など)を見て、この企業の経営はうまくいってそうだ、こっちの企業は倒産の危険があるんじゃないか、ということに関心をもってください。そして、卒業研究のテーマの候補を考えてください。(毎日90分以上)

授 業 計 画

第１講　ガイダンス
第２講　テキストの輪読(担当者の発表･ディスカッション)
第３講　テキストの輪読(担当者の発表･ディスカッション)
第４講　テキストの輪読(担当者の発表･ディスカッション)
第５講　テキストの輪読(担当者の発表･ディスカッション)
第６講　論文の輪読(担当者の発表･ディスカッション)
第７講　テキストの輪読(担当者の発表･ディスカッション)
第８講　テキストの輪読(担当者の発表･ディスカッション)
第９講　テキストの輪読(担当者の発表･ディスカッション)
第10講　テキストの輪読(担当者の発表･ディスカッション)
第11講　論文の輪読(担当者の発表･ディスカッション)
第12講　テキストの輪読(担当者の発表･ディスカッション)
第13講　テキストの輪読(担当者の発表･ディスカッション)
第14講　テキストの輪読(担当者の発表･ディスカッション)
第15講　卒業研究のテーマに関するディスカッション

テキスト・教材（参考文献含む）

テキストは適宜指定します。
論文は配布します。

担当者から一言

発表、ディスカッションへ積極的に参加してください。
日商簿記検定等の資格試験についても対応していきます。
簿記、会計に関する講義で学習した内容を復習しておいてください。

専門演習ａ	科目ナンバリング	３年次	２単位
鬼頭浩文	PSS3001	前学期	必　修

授業の位置づけ

プレゼンテーション･コミュニケーションの能力を身につける。
調査･分析を通じて研究テーマを探求する能力を身につける。

授業のねらい

ゼミでは、就職も意識しながら、生きる力を身につけることが到達目標である。具体的には、自分を表現すること、就職に向けた資格取得、イベント参加、懸賞論文作成を行う。また課外活動として、ボランティアやイベント参加を通して「まちづくり」に参画しながら地域の問題点を考える。これは、書籍や資料だけではとらえきれない現場の実際の姿を知ることがゼミ活動の重要な要素となる。このゼミでは、テーマを設定し、自分で考え、調べ、結果を残すことができる能力を、懸賞論文の作成準備通じて身につける。

到達目標

自分の学生生活後半をどう送るか、しっかりと目標を設定して少しでも近づくことが到達目標である。

成績評価方法･課題･フィードバックの方法

ゼミの中での議論、プレゼンのパフォーマンス（５割）や課題への取り組み（５割）により総合評価する。課題は、添削やコメントを記して返却する。

事前・事後学習

ニュースや新聞、ネットなどから１週間の社会の動きを調べる学習に1時間ほどかけること。また、第10～15回の懸賞論文作成作業では、講義時間外に20時間ほどをかける成果を出すこと。

授 業 計 画

1．ガイダンス;自己紹介でプレゼン練習(他学生の発表を記録する)
2．自己PRプレゼンを手書き作成
3．自己表現(大学履歴書用紙記入練習)
4．グループ･ディスカッション①
5．グループ･ディスカッション②
6．就職談義(インターンシップを考える)
7．大学時代に打ち込む個性発掘企画を作成
8．インターンシップを通して企業研究
9．自分の課題に挑戦(秋の懸賞論文を目指してテーマ設定)
10. 懸賞論文作成の準備(基本的な情報収集)
11. 夏休みに行う懸賞論文の調査計画の作成①(ヒアリング計画;PC教室)
12. 夏休みに行う懸賞論文の調査計画の作成②(実際に依頼要請;PC教室)
13. 夏休みに行う懸賞論文の調査計画の作成③（必要な手続き；PC教室）
14. 懸賞論文構成(目次の作成･提出;PC教室)
15. 懸賞論文書き出し(Ａ４×２枚;PC教室)

★毎ゼミの最初の10分で、１週間に起こった時事問題についてディスカッションする。

テキスト・教材（参考文献含む）

テキストは、とくに指定しない。必要に応じてプリントを配布する。

担当者から一言

鬼頭ゼミの誇りは、過去、就職を希望して活動した者が全てほぼ希望に近い就職を決めてきたことである。これは、ゼミ活動の中で身につけた人間力を人前で表現できる能力が発揮できたからと考える。積極的にゼミ活動に参加してほしい。

専門演習ａ	科目ナンバリング	３年次	２単位
小泉大亮	PSS3001	前学期	必　修

授業の位置づけ

プレゼンテーション･コミュニケーションの能力を身につける。
調査･分析を通じて研究テーマを探求する能力を身につける。

授業のねらい

本演習では、健康スポーツ科学に関連した文献購読及び討論を通して、論文作成のための知識を養成していきます。主に「健康増進と身体運動」に関する文献を討論し、その内容について理解を深めていくことを演習のねらいとします。

到達目標

健康スポーツ科学領域における研究デザインの作成、分析、発表の方法を修得する。

成績評価方法･課題･フィードバックの方法

成績は次のような配分により評価します。
･授業への取り組む姿勢(論文抄読･スライド作成･発表への準備)：50%
･プレゼンテーション資料･発表および討論：50%
授業中もしくは授業後に寄せられた質問に対しては、適宜、授業内で回答していきます。

事前・事後学習

論文抄読用の資料準備(45分)
発表用のレジュメやスライドの準備(45分)

授 業 計 画

第１講　ガイダンス　演習の進め方　自己紹介を兼ねてスピーチ
第２講　健康スポーツ科学とは
第３講　関心のある身体運動の話題についてスピーチ①
第４講　関心のある身体運動の話題についてスピーチ②
第５講　健康・身体運動に関する論文抄読・討論①（グループディスカッション）
第６講　健康・身体運動に関する論文抄読・討論②（グループディスカッション）
第７講　健康・身体運動に関する論文抄読・討論③（グループディスカッション）
第８講　健康・身体運動に関する論文抄読・討論④（グループディスカッション）
第９講　研究テーマ文献の検索
第10講　研究テーマの決定
第11講　研究テーマに関する調査･分析
第12講　研究発表用レジュメ作成
第13講　研究発表用スライド作成
第14講　研究報告･質疑①(プレゼンテーション)
第15講　研究報告･質疑②(プレゼンテーション)

テキスト・教材（参考文献含む）

なし(必要に応じて演習中に配布します)。

担当者から一言

個々の積極的な授業参加によりゼミ生全員の力が向上します。ゼミ生同士が互いに協力し、時には刺激しあうような教室を作りましょう。

専門演習ａ

小林慶太郎

科目ナンバリング	3年次	2単位
PSS3001	前学期	必　修

授業のねらい

差別、いじめ、うつ病、エイズ、過労死、失業…。政府が市民を守ってくれるはずなのに、なぜ、このような問題が起きるのでしょう？

このゼミ（専門演習）では、身近な地域での問題の解決策（政策）や、その問題解決策を実行していく体制（行政や地域の様々な団体など）、あるいは、そうした解決策を決定する仕組み（政治）等について、その基礎的な知識を身につけていくとともに、それらがどのようなあり方であることが望ましいのかについても、みんなで考えていきたいと思います。

到達目標

身近な地域の問題を発見し、その解決策を考えていく力を身につけることが、このゼミの到達目標です。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法

無断欠席者には原則として単位を与えません。成績は次のような配分により評価します。
・課題への取り組み状況：45％
・授業中の発言・受講態度：55％
なお、課題として作成されたレジュメについては、授業の中で講評します。

事前・事後学習

自身が担当することになった回については、レジュメを作成して提出してもらいます（300分程度）。

そのほか、担当回以外も、関連情報や分からない言葉などは調べておくようにしてください（60分程度）。

また、社会のさまざまな問題に関心を持ち、新聞やテレビのニュースなどに、よく目を通しておいてください（毎日15分以上）。

授業の位置づけ

プレゼンテーション・コミュニケーションの能力を身につける。
調査・分析を通じて研究テーマを探求する能力を身につける。

授業計画

第１講　ガイダンス
第２講　「民主主義の学校」地方自治
第３講　地方自治の本旨と日本国憲法
第４講　団体自治と地方自治体の種類
第５講　住民自治と選挙・直接請求
第６講　二元代表制と議会・首長の役割
第７講　自治体行政と公務員
第８講　条例・規則と行政手続
第９講　計画行政と予算
第10講　地方自治のルーツを考える　―英米型と大陸型―
第11講　日本の前近代の地方自治の歴史
第12講　近代日本の地方自治と地方行政
第13講　現代日本の地方自治と地方分権改革
第14講　小規模多機能自治　―地域における小さな自治―
第15講　市民参加と協働

※ 第２講以降は毎回、プレゼンテーションとディスカッションを行います。90分という授業時間の枠にとらわれることなく、３・４限目の連続で、３・４年生のゼミを合同で行っていきます。夏休みには、ゼミ旅行も予定したいと思います。
※ 各人の興味や新型コロナウイルスの感染拡大の状況などによっては、内容が変更になる場合があります。

テキスト・教材（参考文献含む）

テキストは使いません（必要な資料等は、演習の際に配布する予定です）。参考文献等については、演習を進めていく中で、適宜紹介していきますが、さしあたって、新藤宗幸「日曜日の自治体学」（東京堂出版、2013年、2200円＋税）は、一読しておいてください。

担当者から一言

一人ひとりが知的好奇心を持って、積極的に取り組んでいくことを望みます。「よく学びよく楽しむゼミ」を目指しています。大変だと思いますが、オンもオフも精一杯がんばりましょう！

専門演習ａ

高田晴美

科目ナンバリング	3年次	2単位
PSS3001	前学期	必　修

授業のねらい

文学・文化を研究するゼミです。今期は今まで以上に学術的に、作品に向き合います。先行研究（論文）も読んだ上で、多角的なテーマ設定で、作品を分析したり論じたりすることを学びます。また、後学期の研究発表会に向けて、グループでの研究発表の準備も始めます。

到達目標

・関連情報を自分で調べ、考察する能力を身につける。
・自分なりの論点で客観的・学術的に論じるスキルを向上させる。
・自分の論を文章でまとめるスキルを向上させる。
・口頭発表・質疑応答のスキルを向上させる。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法

・毎回のコメントと受講態度　60％
・発表と質疑応答の内容　　40％
原則的に遅刻や欠席は認めません。発表担当者が遅刻・欠席した場合は、単位を与えません。発表や議論について、授業内で適宜コメントします。

事前・事後学習

・次回までに読んでくるべきテクスト・資料を指示するので、それを読む（約1時間）。
・自分が発表を担当する回に向けて、少なくとも１週間前から入念な発表準備をする（毎日数時間×７日間）。

授業の位置づけ

プレゼンテーション・コミュニケーションの能力を身につける。
調査・分析を通じて研究テーマを探求する能力を身につける。

授業計画

第１講　ガイダンス
第２講　参考文献①についてまとめる
第３講　参考文献①に関連したテーマで発表する
第４講　参考文献②についてまとめる
第５講　参考文献②に関連したテーマで発表する
第６講　参考文献③についてまとめる
第７講　参考文献③に関連したテーマで発表する
第８講　句会
第９講　参考文献④についてまとめる
第10講　参考文献④に関連したテーマで発表する
第11講　参考文献⑤についてまとめる
第12講　参考文献⑤に関連したテーマで発表する
第13講　気になる作品・気になる文化現象について議論する
第14講　研究テーマプレゼン
第15講　研究テーマについて議論する

テキスト・教材（参考文献含む）

・友原嘉彦編『ちびまる子ちゃんの社会学』（古今書院、2021年11月）
・配布プリント
その他、適宜、図書館等の資料を参照してください。

担当者から一言

「専門演習ａ」では、作者や時代・社会状況など、作品の背景となる情報の調査や、先行研究についての調査など、より専門的な手法で１つの作品の分析を深め、新たな視点、切り口で考察する、より実践的な研究手法を体験します。学問の醍醐味を味わいましょう。

専門演習ａ	科目ナンバリング	３年次	２単位
鶴田利恵	PSS3001	前学期	必　修

授業の位置づけ

プレゼンテーション･コミュニケーションの能力を身につける。
調査･分析を通じて研究テーマを探求する能力を身につける。

授業のねらい

１．男女共に働きやすい環境作りをしている企業や、高齢者や障害者に対して心配りをしている企業、ユニークな取り組みをしている企業を訪問して記事にします（グループワーク）。これまで、四日市ドームや近鉄四日市駅、ホンダカーズなどを訪問しました。なお、この活動は、学外のNPO法人の協力を得て行います。
２．経済に関する新聞記事を読んで、その内容、疑問に思ったことを報告し、全員でディスカッションします。
＊上記は大学での面接講義や学外での活動が通常通り行われる場合です。活動が困難な場合は主に２を中心に行います。

到達目標

①社会に出た際に必要となるコミュニケーション能力を身につけること。
②自分で感じたことを自分の言葉で表現できる力を身につけること。
③チームワークを通じて考える力や貢献できる力を身に付けること。

成績評価方法･課題･フィードバックの方法

企業訪問の際の取り組み状況50％、新聞記事の報告内容50％
フィードバック方法:ゼミ中に適宜コメントします。

事前・事後学習

日頃からテレビ、新聞、インターネットなどなんでも良いので経済ニュースに触れておくこと（毎日１時間以上。まとめてでも小刻みでも構いません。電車の中でネットでニュースを見るのもOKです）。また、それらの記事の書き方を注意深く見ながら、自分が記事を書く際の参考にする（常時）。

授 業 計 画

第１講　ガイダンス、自己紹介
第２講　UDほっとねっとの活動報告（伊藤順子氏）
第３講　研修と練習①　電話によるアポ取り
第４講　研修と練習②　企業訪問の際のインタビュー
第５講　研修と練習③　記事の書き方
第６講　訪問企業を決める
第７講　訪問企業及びその業界について調べる①
第８講　訪問企業及びその業界について調べる②
第９講　企業訪問をし、記事を書く、訪問先企業に記事の確認をする
第10講　企業訪問の振り返り
第11講　新聞記事の報告①
第12講　新聞記事の報告②
第13講　新聞記事の報告③
第14講　新聞記事の報告④
第15講　まとめ

テキスト・教材（参考文献含む）

適宜指示します。

担当者から一言

わからないことをどんどん声にして、みんなで少しずつ考えていきましょう。ただし、遅刻、私語、携帯電話の使用は禁止します。注意をしても私語や携帯電話の使用をやめない場合には、退出（もちろん欠席扱い）を命じるか、もしくは携帯電話を没収します。

専門演習ａ	科目ナンバリング	３年次	２単位
富田　与	PSS3001	前学期	必　修

授業の位置づけ

プレゼンテーション･コミュニケーションの能力を身につける。
調査･分析を通じて研究テーマを探究する能力を身につける。

授業のねらい

この演習では､プレゼンテーションの準備を中心に考えていきます。２年生の演習で進めた各自の研究テーマに関する調査をもとに、口頭によるプレゼンテーション資料を作成します。音声、文字、図像の違いを意識しながら、効果的なレジュメ、スライドの作り方や発表の構成を実践することにしたいと思います。

到達目標

自分のアイディアを効果的に相手に伝えることができる。

成績評価方法･課題･フィードバックの方法

発言等の参加　50％
　　報告　50％
口頭発表については授業内で逐次コメントする他、発表準備等でも個別に相談に乗ります。

事前・事後学習

毎時間、予習と復習を兼ねた課題を出します（180分）。

授 業 計 画

第１講　ガイダンス
第２講　研究テーマの確認
第３講　グループ分けの検討
第４講　口頭発表のメディア（音声、文字、図像）
第５講　メディアと内容の対応
第６講　口頭発表の準備１
第７講　口頭発表の準備２
第８講　口頭発表１
第９講　口頭発表２
第10講　口頭発表３
第11講　口頭発表４
第12講　TEDを参考に
第13講　再構想１
第14講　再構想２
第15講　まとめ

テキスト・教材（参考文献含む）

特に指定しない。

担当者から一言

３年生では、自分で表現する事を考えてみましょう。

専門演習ａ	科目ナンバリング	３年次	２単位
中西紀夫	PSS3001	前学期	必　修

授業の位置づけ

プレゼンテーション･コミュニケーションの能力を身につける。
調査･分析を通じて研究テーマを探求する能力を身につける。

授業のねらい

この専門演習では、現代社会における法の仕組みについての認識を深めることを、講義のねらいとしています。各講ごとのテーマは講義計画にも示してありますが、複雑で多岐にわたる社会問題ですので関心のあるテーマを一つ選んで研究報告をしてもらいます。また、この研究はこれで終わりではなく、できれば継続性をもって引き続き図書や新聞、さらにはインターネットなども利用しながら研究内容を充実させてもらいたいと思います。そのとっかかりになる演習になればと考えております。

到達目標

これまでの演習で取得した知識を土台として、残りの大学生活においての各自の研究につながるものにしたいと考えています。また、就職活動などでも困らないように最新の社会問題についても取り上げます。最終的な到達目標は、各自が入手した資料や新聞等の関係資料も照らし合わせたうえで、レジュメを基にした報告を行い、みんなで議論するところまでを考えています。

成績評価方法･課題･フィードバックの方法

成績は、次のような評点配分です。
受講態度　50％
発表内容　30％
レポート　20％
授業中もしくは授業後に寄せられた質問に対しては、適宜、授業内で回答していきます。

事前・事後学習

毎日、新聞を読むこと（１日30分）はもちろん、毎回、予習90分と復習90分はお願いしたいと思います。内容は授業中にお話ししますが、分からなかったことも質問したり自分でも調べるようにしてください。

授 業 計 画

第１講　ガイダンス
第２講　研究テーマ及び報告の順番の決定等
第３講　法と裁判
第４講　民事裁判
第５講　刑事裁判
第６講　裁判員制度①
第７講　裁判員制度②
第８講　憲法改正問題
第９講　国家機密と国民の知る権利
第10講　国内法と国際法
第11講　公害･環境対策と法
第12講　手形･小切手①
第13講　手形･小切手②
第14講　独占禁止法
第15講　まとめ、レポート提出(研究報告したテーマで)

テキスト・教材（参考文献含む）

必要に応じて、資料を配付します。

担当者から一言

授業中は私語厳禁とします。また、こちらの許可を得ない中座やスマホを見ることなども、もちろん禁止です。学生さんも体調等の問題や諸活動で、こちらも臨機応変な対応が必要となることもありますが、中座や退室は私の許可を取ってください。出席する以上は、集中して受講しましょう。

専門演習ａ	科目ナンバリング	３年次	２単位
フェリペ・フェハーリ	PSS3001	後学期	必　修

授業の位置づけ

プレゼンテーション･コミュニケーションの能力を身につける。
調査･分析を通じて研究テーマを探究する能力を身につける。

授業のねらい

この演習では、哲学の伝統をきちんと押さえ、2500年以上にもおよぶ哲学の原典をきちんと読む能力を養いながら、現在において、哲学の社会的な役割をディスカッションします。

到達目標

各自のテーマについて研究発表を行い、質疑を通していっそう研究の精度を高め､哲学の伝統に基づく人間と世界への洞察力を養います。
コメンテーター（予め決められた質問者）や出席者として質問し、議論することで、発表や討論の技法も学びます。
また説得的な発表を目指すことにより、言語による表現力も高まるはずです。

成績評価方法･課題･フィードバックの方法

受講態度:30％
発表のコメント:20％
研究発表:50％
研究発表については講義中にコメントします。

事前・事後学習

毎回の講義で配布した資料をしっかり読みます(毎週約60分)。
レポートを作成し、発表の準備をします(毎週約60分)。

授 業 計 画

第１講　ガイダンス
第２講　現代哲学:ヘーゲルの影響
第３講　現代哲学:懐疑的解釈学
第４講　現代哲学:マルクス
第５講　現代哲学:ニーチェ
第６講　現代哲学:フロイト
第７講　現代哲学:20世紀の哲学
第８講　発表と議論（１）
第９講　発表と議論（２）
第10講　発表と議論（３）
第11講　発表と議論（４）
第12講　発表と議論（５）
第13講　発表と議論（６）
第14講　発表と議論（７）
第15講　発表のフィードバックやコメント

テキスト・教材（参考文献含む）

『続･哲学図鑑(中国･日本･英米分析哲学)編』
田中正人(プレジデント社)
(1,800円＋税)ISBN 978-4-8334-2234-5

担当者から一言

世界を理解するには、まずは自分の心の中にある偏見や差別などをすべて捨て、絶対的な信頼さえも疑わなければなりません。私たちは、現代の日本社会において様々な問題について議論する必要があります。この演習では学生のみなさんに現代問題を考えてもらい、一緒に独立した考えを作りましょう。

専門演習ａ	科目ナンバリング	３年次	２単位
松井真理子	PSS3001	前学期	必　修

授業の位置づけ

地域を志向した学修を通じて地域社会に貢献する人材になる
プレゼンテーション･コミュニケーションの能力を身につける。
調査･分析を通じて研究テーマを探求する能力を身につける。

授業のねらい

２年生の時から取組んできた「SDGs」「子どもの貧困」「社会的孤立と居場所」などをテーマに、さらに深く取り組みます。

1　信頼できる資料を探して、わかりやすくまとめる。→　資料を探す力、まとめる力
2　作成した資料を使って発表する　→プレゼンテーション力
3　発表に基づき、学生同士が討論を行う　→討論する力
4　研究計画を作成し、それに基づく研究を行う　→企画力、政策提言力

到達目標

1　現代におけるさまざまな社会課題を理解する。
2　社会課題の背景にある構造を理解する。
3　的確な文献調査ができる。
4　市民社会を理解する。
5　政策提言という視点を持つ。

成績評価方法･課題･フィードバックの方法

授業の取り組み姿勢　80％
レポートの内容　　20％
なお、講義時に提出した課題については、評価とともに以降の講義で返却します。

事前・事後学習

(授業前)日頃からテレビや新聞のニュースに目を通しておくこと(毎日30分程度)
授業内容について事前に予習しておくこと(60分)
(授業後)学んだ内容を復習し、次の授業で質問や意見を出せるようにしておくこと(90分)

授 業 計 画

第１講　ガイダンス･地域課題の検討(１)
第２講　地域課題の検討(２)
第３講　地域課題の検討(３)
第４講　現状把握(１)
第５講　現状把握(２)
第６講　現状把握(３)
第７講　研究方法の検討(１)
第８講　研究方法の検討(２)
第９講　文献調査と討論(１)
第10講　文献調査と討論(２)
第11講　文献調査と討論(３)
第12講　文献調査と討論(４)
第13講　文献調査と討論(５)
第14講　中間まとめの作成
第15講　全体討論

テキスト・教材（参考文献含む）

教員が提供する教材を使います。

担当者から一言

可能であれば、フィールドワークに取組みます。

専門演習ａ	科目ナンバリング	３年次	２単位
三田泰雅	PSS3001	前学期	必　修

授業の位置づけ

プレゼンテーション･コミュニケーションの能力を身につける。
調査･分析を通じて研究テーマを探求する能力を身につける。

授業のねらい

この演習では、社会学の視点と社会調査の方法を用いて世の中の問題を考えます。はじめにゼミ全体のテーマを一つ用意し、本を読みます。その後いくつかのグループに分かれて、個別テーマを立てて調査を進めます。履修者はデータを集め、整理と分析を行なって成果を発表します。また他者の発表に対してコメントし、意見交換を行ないます。データの使い方を身につけ、他者と議論する力を養うことがこのゼミのねらいです。

到達目標

①社会学的な見方や考え方を身につける
②データを収集･分析する力を身につける
③分析結果を効果的にプレゼンテーションする力を身につける
④他者の言葉に耳を傾け、建設的に意見を交わす力を身につける

成績評価方法･課題･フィードバックの方法

＜課題と評価＞報告回での報告30％、期末レポート20％、授業への参加度50％
※報告担当回に欠席した場合は、原則として単位を与えないので注意すること。
＜フィードバック＞報告は教員を含めた全員で内容を吟味し､議論する。

事前・事後学習

報告内容に関する資料や文献に目を通しておくこと(1日40分)

授 業 計 画

第１講　ガイダンス
第２講　各自の関心を紹介する
第３講　本を読む準備
第４講　文献の報告と議論①
第５講　文献の報告と議論②
第６講　文献の報告と議論③
第７講　文献の報告と議論④
第８講　文献の報告と議論⑤
第９講　グループワークの準備１
第10講　グループワークの準備２
第11講　グループ報告①
第12講　グループ報告②
第13講　グループ報告③
第14講　グループ報告④
第15講　合同報告会

テキスト・教材（参考文献含む）

白井利明・高橋一郎，2013,『よくわかる卒論の書き方　第２版』ミネルヴァ書房.

担当者から一言

世の中の「あたりまえ」を疑うところが社会学の魅力です。学生諸君の積極的な参加を期待します。

専門演習 a

科目ナンバリング	3年次	2単位
PSS3001	前学期	必　修

若山裕晃

授業の位置づけ

プレゼンテーション･コミュニケーションの能力を身につける。
調査･分析を通じて研究テーマを探求する能力を身につける。

授業のねらい

本演習では、２年次に取り組んだ研究を展開するために、追加の情報を収集し、論文の冒頭部分(はじめに)を作成し発表する。

到達目標

文献検索、論文作成、プレゼンテーションを自分の意思で進める。

成績評価方法･課題･フィードバックの方法

論文の進行状況(50%)、プレゼンテーション(50%)。
レポート等の評価は個別に開示する。

事前・事後学習

予習として、研究テーマに関連した資料収集を実施しておくこと（90分)。復習として、授業内で討論された問題について自分なりに整理しておくこと(90分)。

授 業 計 画

第１講　ガイダンス　授業の概要
第２講　関心のあるスポーツの話題についてスピーチ
第３講　２年次作成のレポートの振り返り
第４講　２年次作成のレポートの振り返り
第５講　論文作成準備(追加情報収集)
第６講　論文作成準備(追加情報収集)
第７講　論文作成準備(追加情報収集)
第８講　論文作成準備(追加情報収集)
第９講　論文作成準備(追加情報収集)
第10講　論文作成(はじめに)
第11講　論文作成(はじめに)
第12講　論文作成(はじめに)
第13講　論文中間発表･質疑応答･討論
第14講　論文中間発表･質疑応答･討論
第15講　総括及び夏期休暇課題の説明

テキスト・教材（参考文献含む）

特に指定しないが、適宜指示する。

担当者から一言

学生の積極的な研究及び討論への参加を期待する。
状況によって、オンライン授業となる場合があります。

専門演習 b

科目ナンバリング	3年次	2単位
PSS3002	後学期	必　修

奥原貴士

授業の位置づけ

プレゼンテーション･コミュニケーションの能力を身につける。
調査･分析を通じて研究テーマを探求する能力を身につける。

授業のねらい

専門演習 a に続いて、財務会計や実証研究のテキストを輪読することで会計に関する専門的な知識を習得することを目的とします。また会計の学術論文についても輪読を行うことで、研究の内容を理解する能力を身につけることも目的とします。そして、実際に分析をしてその内容を発表します。これらでは担当者が発表を行い、続いて全員でディスカッションをすることで理解を深めていきます。卒業研究のテーマについては適宜話し合いを行います。

到達目標

会計や研究方法の専門知識を習得したうえで、実際に分析ができるようになることを到達目標とします。そして、卒業研究のテーマを見つけることも到達目標です。加えて､発表のスキルを身につけること、積極的に発言できるようになることも目標とします。

成績評価方法･課題･フィードバックの方法

平常点(発表内容、発言回数など)　60%
課題レポート　40%
発表や課題についてそのつどコメントします。

事前・事後学習

各自、分析を進めてください。また、新聞や雑誌などで企業の会計数値(売上高や利益額など)を見て、この企業の経営はうまくいってそうだ、こっちの企業は倒産の危険があるんじゃないか、ということに関心をもってください。そして、卒業研究のテーマの候補を考えてください。(毎日90分以上)

授 業 計 画

第１講　ガイダンス
第２講　輪読と分析の発表(発表･ディスカッション)
第３講　輪読と分析の発表(発表･ディスカッション)
第４講　輪読と分析の発表(発表･ディスカッション)
第５講　輪読と分析の発表(発表･ディスカッション)
第６講　輪読と分析の発表(発表･ディスカッション)
第７講　輪読と分析の発表(発表･ディスカッション)
第８講　輪読と分析の発表(発表･ディスカッション)
第９講　輪読と分析の発表(発表･ディスカッション)
第10講　輪読と分析の発表(発表･ディスカッション)
第11講　輪読と分析の発表(発表･ディスカッション)
第12講　輪読と分析の発表(発表･ディスカッション)
第13講　輪読と分析の発表(発表･ディスカッション)
第14講　輪読と分析の発表(発表･ディスカッション)
第15講　卒業研究のテーマに関するディスカッション

テキスト・教材（参考文献含む）

テキストは適宜指定します。
論文は配布します。

担当者から一言

発表、ディスカッションへ積極的に参加してください。
日商簿記検定等の資格試験についても対応していきます。

専門演習ｂ	科目ナンバリング	３年次	２単位
鬼頭浩文	PSS3002	後学期	必　修

授業の位置づけ

プレゼンテーション･コミュニケーションの能力を身につける。
調査･分析を通じて研究テーマを探求する能力を身につける。

授業のねらい

このゼミでは、自由にテーマを設定し、自分で考え、調べ、結果を残すことができる能力を身につけ、就職活動につなげることが最大のテーマといえる。ゼミでは、就職も意識しながら、社会人として最低限持っていてほしい常識について学習する。具体的には、イベント参加などを通して「まちづくり」に参画しながら地域の問題点を考え、懸賞論文提出を目標に研究を進める。また、就職活動キックオフ（企業研究とインターンシップ参加）を通して社会を観る力を身につけることを重視していく。

到達目標

社会との接点を持つこと、学生懸賞論文で受賞レベルに到達することを通じ、就職活動のキックオフにつなげる。

成績評価方法･課題･フィードバックの方法

ゼミの中での議論、プレゼンのパフォーマンス（５割）や課題への取り組み（５割）により総合評価する。課題は、添削やコメントを記して返却する。

事前・事後学習

懸賞論文の作成作業は、講義の時間以外に20時間ほどをかけること。また、自分の進路を決めるためにネットや新聞から情報を集め（20時間ほどをかける）、人間力を高める。

授 業 計 画

1．ガイダンス；夏休みを振り返り、今後のゼミ活動のビジョンをかためる
2．CSC(キャリアサポートセンター)登録用紙の自己PR文作成と添削
3．全員の自己PRを交換して互いにコメントする
4．懸賞論文執筆作業①(情報収集と整理;PC教室)
5．懸賞論文執筆作業②(章立ての完成;PC教室)
6．懸賞論文執筆作業③(イントロとテーマ背景の作成;PC教室)
7．懸賞論文執筆作業④(途中経過の報告会;PC教室)
8．懸賞論文執筆作業⑤(論文執筆と添削指導;PC教室)
9．懸賞論文執筆作業⑥(論文執筆と添削指導；PC教室)⇒提出(A4×８ページ)
10. 就職活動キックオフ懇談会
11. 就職活動ネット裏ワザ指導①(インターネット活用;PC教室)
12. 就職活動ネット裏ワザ指導②(インターネット活用;PC教室)
13. インターンシップにエントリー(社会を観る能力の養成;PC教室)
14. インターンシップに参加した感想を述べ合う
15. 30社のエントリー予定リスト完成(PC教室)

テキスト・教材（参考文献含む）

テキストは、とくに指定しない。必要に応じてプリントを配布する。

担当者から一言

鬼頭ゼミの誇りは、過去、就職を希望して活動した者が全てほぼ希望に近い就職を決めてきたことである。これは、ゼミ活動の中で身につけた人間力を人前で表現できる能力が発揮できたからと考える。積極的にゼミ活動に参加してほしい。

専門演習ｂ	科目ナンバリング	３年次	２単位
小泉大亮	PSS3002	後学期	必　修

授業の位置づけ

プレゼンテーション･コミュニケーションの能力を身につける。
調査･分析を通じて研究テーマを探求する能力を身につける。

授業のねらい

本演習では、卒業研究のテーマの選定につなげることを目的とし、個人で自由に調査･研究テーマを設定し、資料をまとめて発表する。

到達目標

発表テーマの選定、レポート作成、プレゼンテーションを自身でおこなえるようにする。

成績評価方法･課題･フィードバックの方法

成績は次のような配分により評価します。
･授業への取り組む姿勢(レポート･発表などの準備)：50%
･レポート･発表:50%
授業中もしくは授業後に寄せられた質問に対しては、適宜、授業内で回答していきます。

事前・事後学習

論文抄読用の資料準備(45分)
発表用のレジュメやスライドの準備(45分)

授 業 計 画

第１講　ガイダンス　演習の概要
第２講　研究テーマの検討①
第３講　研究テーマの検討②
第４講　資料情報収集①
第５講　資料情報収集②
第６講　レポート･PCプレゼンテーション作成①
第７講　レポート･PCプレゼンテーション作成②
第８講　レポート･PCプレゼンテーション作成③
第９講　PCプレゼンテーション･質疑応答①
第10講　PCプレゼンテーション･質疑応答②
第11講　PCプレゼンテーション･質疑応答③
第12講　PCプレゼンテーション･質疑応答④
第13講　PCプレゼンテーション･質疑応答⑤
第14講　PCプレゼンテーション･質疑応答⑥
第15講　まとめ

テキスト・教材（参考文献含む）

なし。

担当者から一言

発表担当者は、責任を持って資料を準備するように。

専門演習ｂ

科目ナンバリング	３年次	２単位
PSS3002	後学期	必　修

小林慶太郎

授業のねらい

差別、いじめ、うつ病、エイズ、過労死、失業…。政府が市民を守ってくれるはずなのに、なぜ、このような問題が起きるのでしょう？

このゼミ（専門演習）では、身近な地域での問題の解決策（政策）や、その問題解決策を実行していく体制（行政や地域の様々な団体など）、あるいは、そうした解決策を決定する仕組み（政治）等について、その基礎的な知識を身につけていくとともに、それらがどのようなあり方であることが望ましいのかについても、みんなで考えていきたいと思います。

到達目標

身近な地域の問題を発見し、その解決策を考えていく力を身につけることが、このゼミの到達目標です。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法

無断欠席者には原則として単位を与えません。成績は次のような配分により評価します。
・課題への取り組み状況：45％
・授業中の発言・受講態度：55％
なお、課題として作成されたレジュメについては、授業の中で講評します。

事前・事後学習

自身が担当することになった回については、レジュメを作成して提出してもらいます(300分程度)。
そのほか、担当回以外も、関連情報や分からない言葉などは調べておくようにしてください(60分程度)。
また、社会のさまざまな問題に関心を持ち、新聞やテレビのニュースなどに、よく目を通しておいてください(毎日15分以上)。

授業の位置づけ

プレゼンテーション・コミュニケーションの能力を身につける。
調査・分析を通じて研究テーマを探求する能力を身につける。

授業計画

第１講　ガイダンス
第２講　課題の設定
第３講　インターネット検索
第４講　データの収集
第５講　文献調査
第６講　論点整理
第７講　ヒアリング調査
第８講　情報整理
第９講　補充調査
第10講　中間発表
第11講　レジュメ完成
第12講　ジョイントセミナー反省会
第13講　卒論発表会
第14講　カンファレンス準備
第15講　学部カンファレンス

※ 基本的に毎回、グループワークやプレゼンテーション、ディスカッションを行います。90分という授業時間の枠にとらわれることなく、３・４限目の連続で、３・４年生のゼミを合同で行っていきます。秋には大学祭での「四日市とんてき」の模擬店の出店を、冬には他大学のゼミとの合同研究発表合宿「ジョイントセミナー」を、それぞれ予定しています。
※ 各人の興味や新型コロナウイルスの感染拡大の状況などによっては、内容が変更になる場合があります。

テキスト・教材（参考文献含む）

テキストは使いません（必要な資料等は、演習の際に配布する予定です）。参考文献等については、演習を進めていく中で、適宜紹介していきます。

担当者から一言

一人ひとりが知的好奇心を持って、積極的に取り組んでいくことを望みます。「よく学びよく楽しむゼミ」を目指しています。就職活動に向けた準備・勉強との両立は大変だと思いますが、オンもオフも精一杯がんばりましょう！

専門演習ｂ

科目ナンバリング	３年次	２単位
PSS3002	後学期	必　修

高田晴美

授業のねらい

文学・文化学のゼミです。研究発表会に向けて、研究テーマ（文学作品や文化現象など）を自分たちで設定し、調べる項目も自分たちで考え、様々な視点、手法でそのテーマについて取り組み、それを研究発表という形にすることを試みます。文学作品やサブカルチャーなどの文化現象には、興味深い研究の種が潜んでいます。それを自分たちで見つけて、調理することで、アイデアを生む力、調査能力、分析力、考察能力、論旨をまとめる力、プレゼン能力等、総合的な力を身につけることができるでしょう。

到達目標

・関連情報を自分で調べ、考察する能力を身につける。
・自分なりの論点で客観的・学術的に論じるスキルを向上させる。
・自分の論を文章でまとめるスキルを向上させる。
・口頭発表・質疑応答のスキルを向上させる。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法

・毎回のコメントと受講態度　60％
・発表と質疑応答の内容　　40％
原則的に遅刻や欠席は認めません。発表担当者が遅刻・欠席した場合は、単位を与えません。発表や議論に関して、授業内で適宜コメントします。

事前・事後学習

各自、調査をコツコツと進め、その報告や発表の準備をする（数時間）。

授業の位置づけ

プレゼンテーション・コミュニケーションの能力を身につける。
調査・分析を通じて研究テーマを探求する能力を身につける。

授業計画

第１講　ガイダンス、研究テーマの確認
第２講　調査内容を発表・議論①
第３講　調査内容を発表・議論①
第４講　調査内容を発表・議論②
第５講　調査内容を発表・議論③
第６講　研究発表の流れを整理する
第７講　発表準備①
第８講　発表準備②
第９講　発表準備③
第10講　ゼミ内中間発表会
第11講　さらに発表内容を練る①
第12講　さらに発表内容を練る②
第13講　発表練習①
第14講　発表練習②
第15講　研究発表会
研究発表準備の進捗状況次第では、進め方に融通をきかせる可能性があります。

テキスト・教材（参考文献含む）

設定したテーマにもよりますが、演習で扱う作品のテクストは、短い作品はプリントにして配布します。長い作品は購入するか図書館等で借りてください。
その他、適宜、図書館等の資料を参照してください。

担当者から一言

「専門演習ｂ」では、「わかもの学会予選」での研究発表を想定して、グループで研究テーマ（作品、文化現象等）を設定し、色々な角度で調査したり分析して、何らかの論を立て、口頭発表・発表資料の準備を行います。文学研究は基本的には個人プレーなのですが、たまにはチームプレーも楽しんでみましょう。

専門演習ｂ	科目ナンバリング	３年次	２単位
鶴田利恵	PSS3002	後学期	必　修

授業の位置づけ

プレゼンテーション･コミュニケーションの能力を身につける。
調査･分析を通じて研究テーマを探求する能力を身につける。

授業のねらい

日本経済や世界経済の諸問題について書かれたテキストや新聞記事を読みながら、解決策や今後の課題を理解していきます。授業では、鶴田による解説だけでなく、みなさんの意見や疑問をぶつけ合い、活発なディスカッションを行いながら進めます。

到達目標

日本経済や国際経済についての理解を深めるとともに考える力や視野を広く持つ力を身につけること。

成績評価方法･課題･フィードバックの方法

授業内での報告や発言内容70％、レポート（２回）30％
なお、２回のレポート提出については、コメントをつけて以降の講義で返却します。

事前・事後学習

日頃からテレビ、新聞、インターネットなどなんでも良いので経済ニュースに触れておくこと（毎日１時間以上。まとめてでも小刻みでも構いません。電車の中でネットでニュースを見るのもOKです）。

授 業 計 画

第１講　ガイダンス、自己紹介
第２講　日本の景気は今どうなっていますか？
第３講　物価が下がると得した気がするのに、どうして困るのですか？
第４講　これから給料はちゃんと上がるのですか？
第５講　「働き方改革」は順調に進んでいるのですか？
第６講　「ダイバーシティ」は日本企業でも取り入れられていますか？
第７講　外国人労働者は今後どのくらい増えるのですか？
第８講　Ｍ＆Ａや企業提携はこれからも増えますか？＋レポート
第９講　円高と円安、どちらが日本にとってプラスですか？
第10講　消費税10％で日本経済はどうなりますか？
第11講　日本は借金し続けて大丈夫ですか？
第12講　東京五輪後の経済はどうなりますか？
第13講　2021年はバイデン政権下でアメリカ経済は今後はどうなりますか？
第14講　欧州はどこへ向かうのでしょうか？
第15講　これから注目すべきアジアの新興国はどこですか＋レポート

テキスト・教材（参考文献含む）

コピーを配布します。

担当者から一言

わからないことをどんどん声にして、みんなで少しずつ考えていきましょう。ただし、遅刻、私語、携帯電話の使用は禁止します。注意をしても私語や携帯電話の使用をやめない場合には、退出（もちろん欠席扱い）を命じるか、もしくは携帯電話を没収します。

専門演習ｂ	科目ナンバリング	３年次	２単位
富田　与	PSS3002	後学期	必　修

授業の位置づけ

プレゼンテーション･コミュニケーションの能力を身につける。
調査･分析を通じて研究テーマを探究する能力を身につける

授業のねらい

この演習では、論文作成を中心に考えます。前期までに考えてきた各自のテーマを論文のスタイルで表現してみましょう。その準備段階として、「一文作文」、「構成」、「一枚作文」という３つの作業を順番に進めます。最後には、足りないデータを探す方法を考えたいと思います。

到達目標

自分で論文作成の準備ができる。

成績評価方法･課題･フィードバックの方法

発言等の参加　50％
　　報告　50％
一文作文を評価の課題とし、一文作文については授業内で逐次コメントをする他、発表準備等でも個別に相談に乗ります。

事前・事後学習

毎時間、予習と復習を兼ねた課題を出します（180分）。

授 業 計 画

第１講　ガイダンス
第２講　研究テーマの確認
第３講　論文とは
第４講　論文の仕組み
第５講　「一文作文」の作成１
第６講　「一文作文」の作成２
第７講　「一文作文」から「構成」へ
第８講　「パラグラフ･ライティング」１
第９講　「パラグラフ･ライティング」２
第10講　「構成」から「一枚作文」へ１
第11講　「構成」から「一枚作文」へ２
第12講　「一枚作文」の合評会１
第13講　「一枚作文」の合評会２
第14講　追加データの確認
第15講　まとめ

テキスト・教材（参考文献含む）

特に指定しない。

担当者から一言

３年生では、自ら表現することを中心に考えていきます。

専門演習ｂ	科目ナンバリング	３年次	２単位
中西紀夫	PSS3002	後学期	必　修

授業の位置づけ

プレゼンテーション･コミュニケーションの能力を身につける。
調査･分析を通じて研究テーマを探求する能力を身につける。

授業のねらい

この専門演習では、環境法の仕組みを理解することを講義のねらいとしています。各講ごとのテーマは講義計画にも示してある通りですが、複雑で多岐にわたる環境問題ですので関心のあるテーマを一つ選んで、研究報告をしてもらいます。これまでの演習でも指摘しておきましたが、ここで報告した研究はこれで終わりではなく、できるだけ継続性をもって認識を深めていってもらいたいと考えています。

授 業 計 画

第１講　ガイダンス
第２講　研究テーマ及び報告の順番の決定
第３講　公害と法
第４講　環境法の捉え方
第５講　環境法の伝統的な法体系
第６講　公害･環境規制法①
第７講　公害･環境規制法②
第８講　環境対策と法規制の概要①
第９講　環境対策と法規制の概要②
第10講　エネルギー問題①
第11講　エネルギー問題②
第12講　環境アセスメント
第13講　廃棄物･リサイクル
第14講　まとめ、レポート報告(提出)
第15講　学部の研究発表会

到達目標

到達目標としては、ここまでで取得した知識を土台として、卒業までの研究を視野に入れたものにしたいと考えています。前学期の演習では社会環境問題を素材としましたが、ここでは主に自然環境問題を素材とします。学問の構築だけでなく、就職活動でも困らないように最新の問題も議論し認識を深めます。

成績評価方法･課題･フィードバックの方法

成績は、次のような評点配分です。
受講態度　50%
発表内容　30%
レポート　20%
授業中もしくは授業後に寄せられた質問に対しては、適宜、授業内で回答していきます。

テキスト・教材（参考文献含む）

必要に応じて、資料を配付します。

事前・事後学習

毎日、新聞を読むこと（１日30分）はもちろん、毎回、予習90分と復習90分はお願いしたいと思います。内容は授業中にお話ししますが、分からなかったことも質問したり自分でも調べるようにしてください。また、本学の情報センターも積極的に利用しましょう。

担当者から一言

授業中は私語厳禁とします。また、こちらの許可を得ない中座や勝手にスマホを見ることなども、もちろん禁止です。学生さんも体調等の問題や諸活動で、こちらも臨機応変な対応が必要となることもありますが、中座や退室は私の許可を取ってください。

専門演習ｂ	科目ナンバリング	３年次	２単位
フェリペ・フェハーリ	PSS3002	後学期	必　修

授業の位置づけ

プレゼンテーション･コミュニケーションの能力を身につける。
調査･分析を通じて研究テーマを探究する能力を身につける。

授業のねらい

この演習では、哲学の伝統をきちんと押さえ、2500年以上にもおよぶ哲学の原典をきちんと読む能力を養いながら、現在において、哲学の社会的な役割をディスカッションします。

授 業 計 画

第１講　ガイダンスと前期の復習
第２講　現代哲学:ハイデガー
第３講　現代哲学:現象学
第４講　現代哲学:京都学派
第５講　日本哲学:西田幾多郎
第６講　日本哲学:田辺元
第７講　日本哲学:西谷啓治
第８講　発表と議論（１）
第９講　発表と議論（２）
第10講　発表と議論（３）
第11講　発表と議論（４）
第12講　発表と議論（５）
第13講　発表と議論（６）
第14講　発表と議論（７）
第15講　発表のフィードバックやコメント

到達目標

各自のテーマについて研究発表を行い、質疑を通していっそう研究の精度を高め､哲学の伝統に基づく人間と世界への洞察力を養います。
コメンテーター（予め決められた質問者）や出席者として質問し、議論することで、発表や討論の技法も学びます。
また説得的な発表を目指すことにより、言語による表現力も高まるはずです。

成績評価方法･課題･フィードバックの方法

受講態度:30%
発表のコメント:20%
研究発表:50%
研究発表については講義中にコメントします。

テキスト・教材（参考文献含む）

『続･哲学図鑑（中国･日本･英米分析哲学）編』
田中正人（プレジデント社）
（1,800円＋税）ISBN 978-4-8334-2234-5

事前・事後学習

毎回の講義で配布した資料をしっかり読みます（毎週約60分）。
レポートを作成し、発表の準備をします（毎週約60分）。

担当者から一言

世界を理解するには、まずは自分の心の中にある偏見や差別などをすべて捨て、絶対的な信頼さえも疑わなければなりません。私たちは、現代の日本社会において様々な問題について議論する必要があります。この演習では学生のみなさんに現代問題を考えてもらい、一緒に独立した考えを作りましょう。

専門演習ｂ	科目ナンバリング	３年次	２単位
松井真理子	PSS3002	後学期	必　修

授業の位置づけ

地域を志向した学修を通じて地域社会に貢献する人材になる
プレゼンテーション･コミュニケーションの能力を身につける。
調査･分析を通じて研究テーマを探求する能力を身につける。

授業のねらい

前学期に続き、選択した地域課題について研究を深め、オリジナルな政策提言を行います。

1　信頼できる資料を探して、わかりやすくまとめる。　→資料を探す力、まとめる力
2　作成した資料を使って発表する　→プレゼンテーション力
3　発表に基づき、学生同士が討論を行う　→討論する力
4　課題解決につながる政策提言を行う　→企画力、政策提言力

到達目標

1　現代におけるさまざまな社会課題を理解する。
2　社会課題の背景にある構造を理解する。
3　市民社会を理解する。
4　政策提言という視点を持つ。
5　自ら研究を行う力を身に付ける。

成績評価方法･課題･フィードバックの方法

授業の取り組み姿勢　80％
レポートの内容　　20％
なお、講義時に提出した課題については、評価とともに以降の講義で返却します。

事前・事後学習

(授業前)日頃からテレビや新聞のニュースに目を通しておくこと(毎日30分程度)
授業内容について事前に予習しておくこと(60分)
(授業後)学んだ内容を復習し、次の授業で質問や意見を出せるようにしておくこと(90分)

授 業 計 画

第１講　ガイダンス　これまでの振り返りと今後の研究計画の作成
第２講　研究の遂行(１)
第３講　研究の遂行(２)
第４講　研究の遂行(３)
第５講　研究の遂行(４)
第６講　研究の遂行(５)
第７講　研究の遂行(６)
第８講　現場との対話
第９講　対話の振り返り
第10講　レポート作成･発表原稿作成
第11講　レポート作成･発表原稿作成
第12講　レポート作成･発表原稿作成
第13講　レポート作成･発表原稿作成
第14講　レポート作成･発表練習
第15講　レポート完成･発表

テキスト・教材（参考文献含む）

教員が提供する教材を使います。

担当者から一言

1年間の調査研究の総まとめを行います。

専門演習ｂ	科目ナンバリング	３年次	２単位
三田泰雅	PSS3002	後学期	必　修

授業の位置づけ

プレゼンテーション･コミュニケーションの能力を身につける。
調査･分析を通じて研究テーマを探求する能力を身につける。

授業のねらい

この演習では、社会学の視点と社会調査の方法を用いて世の中の問題を考えます。前学期に引きつづき、個別テーマを立てて調査を進めます。履修者は自分でデータや資料を集め、分析を行なって成果を発表します。また他者の発表を聞いてコメントし、意見交換を行ないます。データの使い方を身につけ、他者と議論する力を養うことがこのゼミのねらいです。

到達目標

①社会学的な見方や考え方を身につける
②データを収集･分析する力を身につける
③分析結果を効果的にプレゼンテーションする力を身につける
④他者の言葉に耳を傾け、建設的に意見を交わす力を身につける

成績評価方法･課題･フィードバックの方法

報告回での報告30％、期末レポート20％、授業への参加度50％として評価します。報告担当回に欠席した場合、原則として単位を与えないので注意すること。期末レポートとして卒業研究の研究計画書を作成します。中間報告は教員を含めた全員で内容を吟味し、議論します。

事前・事後学習

報告内容に関する資料や文献に目を通しておくこと(１日40分)。

授 業 計 画

第１講　ガイダンス
第２講　各自の関心を紹介する
第３講　データの扱い方
第４講　報告と議論①
第５講　報告と議論②
第６講　報告と議論③
第７講　報告と議論④
第８講　報告と議論⑤
第９講　報告と議論⑥
第10講　報告と議論⑦
第11講　報告と議論⑧
第12講　報告と議論⑨
第13講　コメント力を磨く
第14講　まとめ①
第15講　まとめ②

テキスト・教材（参考文献含む）

白井利明・高橋一郎，2013,『よくわかる卒論の書き方　第２版』ミネルヴァ書房.

担当者から一言

世の中の「あたりまえ」を疑うところが社会学の魅力です。学生諸君の積極的な参加を期待します。

専門演習ｂ

科目ナンバリング	３年次	２単位
PSS3002	後学期	必　修

若山裕晃

授業の位置づけ

プレゼンテーション･コミュニケーションの能力を身につける。
調査･分析を通じて研究テーマを探求する能力を身につける。

授業のねらい

本演習では、卒業研究のテーマ選定を意識しつつ、これまで習得したスポーツ科学に関する知識を基に、論文を作成し発表する。

到達目標

文献検索、論文作成、プレゼンテーションを自分の意思で進める。

成績評価方法･課題･フィードバックの方法

論文の進行状況(50%)、プレゼンテーション(50%)。
レポート等の評価は個別に開示する。

事前・事後学習

予習として、研究テーマに関連した資料収集を実施しておくこと（90分)。復習として、授業内で討論された問題について自分なりに整理しておくこと(90分)。

授 業 計 画

第１講　ガイダンス　授業の概要
第２講　論文作成準備(追加情報収集)
第３講　論文作成準備(追加情報収集)
第４講　論文作成準備(追加情報収集)
第５講　論文作成(方法)
第６講　論文作成(方法)
第７講　論文作成(方法)
第８講　「はじめに」及び「方法」の内容に沿って研究を進める
第９講　「はじめに」及び「方法」の内容に沿って研究を進める
第10講　「はじめに」及び「方法」の内容に沿って研究を進める
第11講　「はじめに」及び「方法」の内容に沿って研究を進める
第12講　「はじめに」及び「方法」の内容に沿って研究を進める
第13講　論文中間発表･質疑応答･討論
第14講　論文中間発表･質疑応答･討論
第15講　総括

テキスト・教材（参考文献含む）

特に指定しないが、適宜指示する。

担当者から一言

学生の積極的な研究及び討論への参加を期待する。
状況によって、オンライン授業となる場合があります。

専門演習ｃ

科目ナンバリング	４年次	２単位
PSS4001	前学期	必　修

奥原貴士

授業の位置づけ

プレゼンテーション･コミュニケーションの能力を身につける。
調査･分析を通じて研究テーマを探求する能力を身につける。

授業のねらい

卒業論文に関する研究の発表を行い、その内容について全員でディスカッションを行うことで､研究内容を向上させていきます。加えて、実証研究や財務諸表分析のテキストを輪読することで研究に関する専門的な知識を習得することを目的とします。また会計の学術論文についても輪読を行うことで、先行研究の内容を知識として蓄積することも目的とします。これら輪読においても担当者が発表を行い、続いて全員でディスカッションをすることで理解を深めていきます。

到達目標

実証研究や財務諸表分析の専門的知識を習得したうえで、卒業論文の作成を進めることを到達目標とします。加えて、発表のスキルを身につけること、積極的に発言できるようになることも目標とします。

成績評価方法･課題･フィードバックの方法

平常点(発表内容、発言回数など)　60%
卒業論文に関する研究の進捗状況　40%
なお、発表･発言については適宜コメントをします。

事前・事後学習

各自の研究テーマに関する先行研究を読んで知識を深めてください。
そして、卒業論文の執筆を進めていってください(毎日90分以上)。

授 業 計 画

第１講　ガイダンス
第２講　研究の発表、テキストの輪読
第３講　研究の発表、テキストの輪読
第４講　研究の発表、テキストの輪読
第５講　研究の発表、論文の輪読
第６講　研究の発表、テキストの輪読
第７講　研究の発表、テキストの輪読
第８講　研究の発表、テキストの輪読
第９講　研究の発表、論文の輪読
第10講　研究の発表、テキストの輪読
第11講　研究の発表、テキストの輪読
第12講　研究の発表、テキストの輪読
第13講　研究の発表、論文の輪読
第14講　研究の発表、テキストの輪読
第15講　卒業論文の内容に関するディスカッション

テキスト・教材（参考文献含む）

テキストは適宜指定します。
論文は配布します。

担当者から一言

研究をどんどん進めてください。
発表、ディスカッションへ積極的に参加してください。
日商簿記検定等の資格試験についても対応していきます。

専門演習c	科目ナンバリング	4年次	2単位
鬼頭浩文	PSS4001	前学期	必　修

授業の位置づけ

プレゼンテーション･コミュニケーションの能力を身につける。
調査･分析を通じて研究テーマを探求する能力を身につける。

授業のねらい

ゼミでは、就職指導もしながら、生きる力を身につけるさまざまな演習を行う。就職活動は、この専門演習cの時期と重なる。これをプラスに捉え、就職活動を通して社会を知り、自分について見つめなおし、内定を得た企業や日本社会のために自分がなすべきことを考える機会と考える。就職試験を通して企業の持つカルチャーを感じ、社会を自由自在に泳ぐ感性を身につけよう。社会のために役立つ仕事を見つけ、自己実現と生活の両立ができるよう、生きる力を強化しよう。

到達目標

ゼミは就職活動のための研究で始まり、就職先が決定したものは社会に出る準備を整えることが到達目標となる。

成績評価方法･課題･フィードバックの方法

ゼミの中での議論、プレゼンのパフォーマンス（５割）や課題への取り組み（５割）により総合評価する。課題は、添削やコメントを記して返却する。

事前・事後学習

課題をやり遂げることも大切だが、ニュースや新聞などから社会の動きを知り、就職にも役立つ準備学習・振り返り学習をする。これらの学習には、毎講義３時間ほどを要する。

授 業 計 画

1．ガイダンス;就職活動の中間報告会
2．エントリーシートに磨きをかける
3．企業研究とディスカッション
4．課題作成に向けた準備
5．自分が進むキャリアの調査
6．自分が進むキャリアの研究
7．自分が進むキャリアに関する小論文を作成
8．自分が進む業界の調査
9．自分が進む業界の研究
10. 自分が進む業界に関する小論文の作成
11. 自分が就職する企業のライバルを調査
12. 自分が就職する企業のライバルを研究
13. 自分が就職する企業のライバルに関する小論文を作成
14. 研究発表会①
15. 研究発表会②

テキスト・教材（参考文献含む）

テキストは、とくに指定しない。必要に応じてプリントを配布する。

担当者から一言

できるだけ早く内定をとり、社会に出るための準備をして、じっくり卒業研究に取り組んでほしい。

専門演習c	科目ナンバリング	4年次	2単位
小泉大亮	PSS4001	前学期	必　修

授業の位置づけ

プレゼンテーション･コミュニケーションの能力を身につける。
調査･分析を通じて研究テーマを探求する能力を身につける。

授業のねらい

卒業研究にむけての研究指導。教員や他のメンバーと意見交換しながら卒業研究テーマを確定する。

到達目標

卒業研究のテーマを確定し､論文作成や発表に向けた計画をたてる。

成績評価方法･課題･フィードバックの方法

成績は次のような配分により評価します。
･授業への取り組む姿勢(レポート･発表などの準備）:50%
･レポート･発表:50%
授業中もしくは授業後に寄せられた質問に対しては、適宜、授業内で回答していきます。

事前・事後学習

論文抄読用の資料準備(90分)
発表用のレジュメやスライドの準備(90分)

授 業 計 画

第１講　ガイダンス　演習の概要
第２講　研究テーマに関する意見交換① グループディスカッション
第３講　研究テーマに関する意見交換② グループディスカッション
第４講　研究テーマに関する意見交換③ グループディスカッション
第５講　研究テーマに関する意見交換④ グループディスカッション
第６講　卒業研究の概要作成①
第７講　卒業研究の概要作成②
第８講　卒業研究の概要作成③
第９講　卒業研究の概要作成④
第10講　卒業研究のスケジュール作成①
第11講　卒業研究のスケジュール作成②
第12講　研究の進捗状況報告①
第13講　研究の進捗状況報告②
第14講　研究の進捗状況報告③
第15講　夏期休暇中の研究打ち合わせ

テキスト・教材（参考文献含む）

なし。

担当者から一言

発表担当者は、責任を持って資料を準備するように。

専門演習 C

科目ナンバリング	4年次	2単位
PSS4001	前学期	必　修

小林慶太郎

授業のねらい

差別、いじめ、うつ病、エイズ、過労死、失業…。政府が市民を守ってくれるはずなのに、なぜ、このような問題が起きるのでしょう？

このゼミ（専門演習）では、身近な地域での問題の解決策（政策）や、その問題解決策を実行していく体制（行政や地域の様々な団体など）、あるいは、そうした解決策を決定する仕組み（政治）等について、その基礎的な知識を身につけていくとともに、それらがどのようなあり方であることが望ましいのかについても、みんなで考えていきたいと思います。

到達目標

身近な地域の問題を発見し、その解決策を考えていく力を身につけることが、このゼミの到達目標です。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法

無断欠席者には原則として単位を与えません。成績は次のような配分により評価します。
・課題への取り組み状況：45％
・授業中の発言・受講態度：55％
なお、課題として作成されたレジュメについては、授業の中で講評します。

事前・事後学習

自身が担当することになった回については、レジュメを作成して提出してもらいます(300分程度)。
そのほか、担当回以外も、関連情報や分からない言葉などは調べておくようにしてください(60分程度)。
また、社会のさまざまな問題に関心を持ち、新聞やテレビのニュースなどに、よく目を通しておいてください(毎日15分以上)。

授業の位置づけ

プレゼンテーション・コミュニケーションの能力を身につける。
調査・分析を通じて研究テーマを探求する能力を身につける。

授業計画

第１講　ガイダンス
第２講　「民主主義の学校」地方自治
第３講　地方自治の本旨と日本国憲法
第４講　団体自治と地方自治体の種類
第５講　住民自治と選挙・直接請求
第６講　二元代表制と議会・首長の役割
第７講　自治体行政と公務員
第８講　条例・規則と行政手続
第９講　計画行政と予算
第10講　地方自治のルーツを考える　―英米型と大陸型―
第11講　日本の前近代の地方自治の歴史
第12講　近代日本の地方自治と地方行政
第13講　現代日本の地方自治と地方分権改革
第14講　小規模多機能自治　―地域における小さな自治―
第15講　市民参加と協働

※ 第２講以降は毎回、プレゼンテーションとディスカッションを行います。90分という授業時間の枠にとらわれることなく、３・４限目の連続で、３・４年生のゼミを合同で行っていきます。夏休みには、ゼミ旅行も予定したいと思います。
※ 各人の興味や新型コロナウイルスの感染拡大の状況などによっては、内容が変更になる場合があります。

テキスト・教材（参考文献含む）

テキストは使いません（必要な資料等は、演習の際に配布する予定です）。参考文献等については、演習を進めていく中で、適宜紹介していきますが、さしあたって、新藤宗幸「日曜日の自治体学」(東京堂出版、2013年、2,200円＋税)は、一読しておいてください。

担当者から一言

一人ひとりが知的好奇心を持って、積極的に取り組んでいくことを望みます。「よく学びよく楽しむゼミ」を目指しています。就職活動との両立は大変だと思いますが、オンもオフも精一杯がんばりましょう！

専門演習 C

科目ナンバリング	4年次	2単位
PSS4001	前学期	必　修

高田晴美

授業のねらい

文学・文化学のゼミです。今期は各自、卒業論文の執筆に向けて、取り扱う作品や作家、文化現象を決め、テーマを設定し、論じていくための準備をしていきます。そのために、各々が扱う作品もしくはその作家の別作品について、ゼミのメンバー皆で読みあい、議論することで、各自の卒業論文の論の手がかりを得てもらいたいと思います。皆さんの研究テーマに応じた、多種多様な作品を皆で読んでいきましょう。

到達目標

・卒業論文のテーマを自分で設定する。
・地道なテクスト・文献読み、調査を行う
・論を立て、展開し、まとめる能力を養う。
・みんなでディスカッションする能力を養う。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法

・毎回のコメントと受講態度　70％
・発表と質疑応答の内容　　30％
それぞれの卒業研究について、ゼミ内で適宜コメントをします。

事前・事後学習

・毎回、次回までに、次回扱う作品や文献について読んでくること。（1時間程度）
・それと並行して、自分の卒業論文のための準備を進めていくこと。(数時間)

授業の位置づけ

プレゼンテーション・コミュニケーションの能力を身につける。
調査・分析を通じて研究テーマを探求する能力を身につける。

授業計画

第１講　ガイダンス、卒論について
第２講　卒論テーマ発表
第３講　参考文献リスト作成
第４講　卒論関連作品を読む・議論①
第５講　卒論関連作品を読む・議論②
第６講　卒論関連作品を読む・議論③
第７講　卒論関連作品を読む・議論④
第８講　卒論関連作品を読む・議論⑤
第９講　卒論関連作品を読む・議論⑥
第10講　卒論中間報告①
第11講　卒論中間報告②
第12講　卒論中間報告③
第13講　卒論中間報告④
第14講　卒論中間報告⑤
第15講　句会

テキスト・教材（参考文献含む）

テクスト等については、適宜プリントを配布するか、購入してもらいます。
各自、自分の卒業論文のためのテクスト読解や文献調査のために、図書館等の書籍を有効活用すること。

担当者から一言

ゼミを通して、じっくりと自分の卒業論文のための準備をしていくとともに、並行して、他のメンバーの卒業研究の様子を知ることで、研究のテーマやスタイル等の多様性も楽しみましょう。

専門演習ｃ	科目ナンバリング	４年次	２単位
鶴田利恵	PSS4001	前学期	必　修

授業の位置づけ

プレゼンテーション･コミュニケーションの能力を身につける。
調査･分析を通じて研究テーマを探求する能力を身につける。

授業のねらい

３年間の大学生活の中で培ってきた知識をもとに各自で研究テーマを設定した上で、それに関する文献や情報を収集し、分析と考察を行います。授業では各自の報告だけでなく、私を含めたみなさんの意見や疑問をぶつけ合い､活発なディスカッションを行いながら進めます。

到達目標

自分で収集した文献をまとめて報告します。
最終的には専門演習ｄにおいて研究の成果を報告できるように積みかさねていきます。

成績評価方法･課題･フィードバックの方法

文献収集の取り組み状況50％、研究報告内容50％
フィードバック方法:ゼミ中に適宜コメントする。

事前・事後学習

日頃からテレビ、新聞、インターネットなどなんでも良いので経済ニュースに触れておくこと（毎日１時間以上。まとめてでも小刻みでも構いません。電車の中でネットでニュースを見るのもOKです)。

授 業 計 画

第１講　ガイダンス、３年生との顔合わせ
第２講　研究テーマの設定
第３講　文献報告①
第４講　文献報告②
第５講　文献報告③
第６講　３年生の指導
第７講　文献報告④
第８講　文献報告⑤
第９講　文献報告⑥
第10講　文献報告⑦
第11講　研究報告①
第12講　研究報告②
第13講　研究報告③
第14講　研究報告④
第15講　まとめ

テキスト・教材（参考文献含む）

適宜指示をします。

担当者から一言

４年生として、３年生への指導（取材方法や記事の書き方）も行ってもらいます。人を指導することで自分も成長できるという経験をしてください。

専門演習ｃ	科目ナンバリング	４年次	２単位
富田　与	PSS4001	前学期	必　修

授業の位置づけ

プレゼンテーション･コミュニケーションの能力を身につける。
調査･分析を通じて研究テーマを探究する能力を身につける

授業のねらい

この演習では、卒業研究に向けた調査を中心とした作業と議論を進めていきます。作業は参加者各人で進めてもらいますが、議論を通じて、資料の妥当性を中心に資料批判をしていくことにしたいと思います。

到達目標

必要な資料の探索と見つけた資料の資料批判ができるようになる。

成績評価方法･課題･フィードバックの方法

調査の達成度　50％
報告の内容　　50％
一文作文を評価の課題とし、一文作文については授業内で逐次コメントをする他、発表準備等でも個別に相談に乗ります。

事前・事後学習

必要な調査を進め、報告の準備をする(180分程度)。

授 業 計 画

第１講　ガイダンス
第２講　研究テーマの確認
第３講　必要な資料の報告と検討１
第４講　必要な資料の報告と検討２
第５講　必要な資料の報告と検討３
第６講　見つけた資料の報告と検討１
第７講　見つけた資料の報告と検討２
第８講　見つけた資料の報告と検討３
第９講　再構想１
第10講　再構想２
第11講　必要な資料の報告と検討１
第12講　必要な資料の報告と検討２
第13講　一文作文の再構成１
第14講　一文作文の再構成２
第15講　まとめ

テキスト・教材（参考文献含む）

特に指定しない。

担当者から一言

各自のテーマに沿った調査を進めるなかで、そこで出会った｢情報｣の意味を問い続けてください。

専門演習 c

科目ナンバリング	4年次	2単位
PSS4001	前学期	必　修

中西紀夫

授業の位置づけ

プレゼンテーション･コミュニケーションの能力を身につける。
調査･分析を通じて研究テーマを探求する能力を身につける。

授業のねらい

この専門演習では、環境法を中心に扱います。とくに都道府県が制定する上乗せ条例等に関わる法的問題点や、国際標準化機構が発行するISO14001規格に関わる専門的な内容、さらには循環型社会構築のための知識を担当教員が実際に経験した実践的なノウハウも取り入れながら、現代の環境マネジメントシステムにもマッチできるように、できるだけ新しい素材を使いながら教授します。

到達目標

これまでの演習で取得した知識を土台として、残りの大学生活においての各自の研究につながるものにしたいと考えています。また、社会人になってからでも必要不可欠となる学問の構築だけでなく、就職活動などでも困らないように最新の社会問題を議論することにも重点を置きたいと思います。最終的な到達目標は、全員が卒業研究に向けた進捗状況の報告を行い、経過報告としてレポートにまとめるところまでを考えています。

成績評価方法･課題･フィードバックの方法

成績は、次のような評点配分です。
受講態度　50%
発表内容　30%
レポート　20%
授業中もしくは授業後に寄せられた質問に対しては、適宜、授業内で回答していきます。

事前・事後学習

毎日、新聞を読むこと（1日30分）はもちろん、毎回、予習90分と復習90分はお願いしたいと思います。内容は授業中にお話ししますが、分からなかったことも質問したり自分でも調べるようにしてください。

授 業 計 画

第1講　ガイダンス
第2講　条例による規制とその問題点①
第3講　条例による規制とその問題点②
第4講　ISO14001と環境法①
第5講　ISO14001と環境法②
第6講　循環型社会構築のために①
第7講　循環型社会構築のために②
第8講　卒業研究の進捗状況の報告①
第9講　卒業研究の進捗状況の報告②
第10講　卒業研究の進捗状況の報告③
第11講　卒業研究の進捗状況の報告④
第12講　卒業研究の進捗状況の報告⑤
第13講　卒業研究の進捗状況の報告⑥
第14講　卒業研究の進捗状況の報告⑦
第15講　まとめ、レポート提出

テキスト・教材（参考文献含む）

ガイダンスで指示します。

担当者から一言

授業中は私語厳禁とします。また、こちらの許可を得ない中座や勝手にスマホを見ることなども、もちろん禁止です。学生さんも体調等の問題や就職活動で、こちらも臨機応変な対応が必要となることもありますが、中座や退室は私の許可を取ってください。出席する以上は、集中して受講しましょう。

専門演習 c

科目ナンバリング	4年次	2単位
PSS4001	前学期	必　修

松井真理子

授業の位置づけ

地域を志向した学修を通じて地域社会に貢献する人材になる。
プレゼンテーション･コミュニケーションの能力を身につける。
調査･分析を通じて研究テーマを探求する能力を身につける。

授業のねらい

3年次の研究で身に付けた研究基礎力をベースに、より発展的に自らの研究課題を明確にし､研究論文にまとめる準備を行います。また、そのプロセスでお互いの研究を共有し、学生同士の討論を通じて、コミュニケーション力も高めます。

到達目標

1　自分の研究テーマを明確にする。
2　地域の課題と自分の研究テーマを結び付け、社会的な価値のある研究計画を作成する。
3　研究計画を作成し、研究に着手する。

成績評価方法･課題･フィードバックの方法

授業の取り組み姿勢　50%
中間報告の内容　　50%
提出した課題については、評価とともに以降の講義で返却します。

事前・事後学習

(授業前)日頃からテレビや新聞のニュースに目を通しておくこと(毎日30分程度)
授業内容について事前に予習しておくこと(60分)
(授業後)授業内容を復習し、次の授業で質問や意見を出せるようにしておくこと(90分)

授 業 計 画

第1講　ガイダンス･研究テーマの検討(1)
第2講　研究テーマの検討(2)
第3講　研究テーマの検討(3)
第4講　研究手法の検討(1)
第5講　研究手法の検討(2)
第6講　研究手法の検討(3)
第7講　研究計画の作成(1)
第8講　研究計画の作成(2)
第9講　研究計画の作成(3)
第10講　研究(1)
第11講　研究(2)
第12講　研究(3)
第13講　研究(4)
第14講　中間報告(1)
第15講　中間報告(2)

テキスト・教材（参考文献含む）

教員が提供する教材を使います。
自分の研究テーマに沿って必要な文献を収集します。

担当者から一言

自分の研究テーマを持ち、研究することで、学生生活の集大成をしましょう。

専門演習 c	科目ナンバリング	4年次	2単位
三田泰雅	PSS4001	前学期	必　修

授業の位置づけ

プレゼンテーション･コミュニケーションの能力を身につける。
調査･分析を通じて研究テーマを探求する能力を身につける。

授業のねらい

履修者は卒業研究の準備を行ないます。自ら文献を調べ、データを集め、ゼミ内で議論しながらデータの整理と分析を行なって成果を発表します。また、他者の発表に対してコメントし、意見交換を行ないます。

この演習のねらいは、文章作成能力を高め、プレゼンテーション能力を磨き、議論する力を養うことです。

到達目標

①社会学的な見方や考え方を身につける
②データを収集･分析する力を身につける
③分析結果を効果的にプレゼンテーションする力を身につける
④他者の言葉に耳を傾け、建設的に意見を交わす力を身につける
⑤大学生としての文章作成能力を身につける

成績評価方法･課題･フィードバックの方法

報告回での報告50％、授業への参加度50％として評価します。報告担当回に欠席した場合は､原則として単位を与えないので注意すること。報告は教員を含めた全員で内容を吟味し、議論します。

事前・事後学習

報告内容に関する資料に目を通しておくこと(40分)
新聞･ニュースに親しんでおくこと(１日40分)

授 業 計 画

第１講　ガイダンス
第２講　各自の関心を発表する
第３講　卒業研究報告①
第４講　卒業研究報告②
第５講　卒業研究報告③
第６講　卒業研究報告④
第７講　中間まとめ
第８講　卒業研究報告⑤
第９講　卒業研究報告⑥
第10講　卒業研究報告⑦
第11講　中間まとめ
第12講　卒業研究報告⑧
第13講　卒業研究報告⑨
第14講　卒業研究報告⑩
第15講　まとめ

各報告についてはゼミ全員でディスカッションします。

テキスト・教材（参考文献含む）

必要に応じて資料を配布します。

担当者から一言

世の中の｢あたりまえ｣を疑うところが社会学の魅力です。学生諸君の積極的な参加を期待します。

専門演習 c	科目ナンバリング	4年次	2単位
若山裕晃	PSS4001	前学期	必　修

授業の位置づけ

プレゼンテーション･コミュニケーションの能力を身につける。
調査･分析を通じて研究テーマを探求する能力を身につける。

授業のねらい

本演習では、卒業研究のテーマを確定し、これまで習得したスポーツ科学に関する知識を基に、論文を作成し発表する。これまでの研究概要について､教員や他のメンバーと意見を交換して､卒業研究のテーマを熟考していく。

到達目標

卒業研究のテーマを決定し、文献検索、卒業論文作成、プレゼンテーションを自分の意思で進める。

成績評価方法･課題･フィードバックの方法

論文の進行状況(50％)、プレゼンテーション(50％)。レポート等の評価は個別に開示する。

事前・事後学習

予習として、研究テーマに関連した資料収集を実施しておくこと（90分)。復習として、授業内で討論された問題について自分なりに整理しておくこと(90分)。

授 業 計 画

第１講　ガイダンス　授業の概要
第２講　研究について簡単なスピーチ
第３講　研究について簡単なスピーチ
第４講　これまでの研究概要発表･意見交換
第５講　これまでの研究概要発表･意見交換
第６講　これまでの研究概要発表･意見交換
第７講　これまでの研究概要発表･意見交換
第８講　これまでの研究概要発表･意見交換
第９講　これまでの研究概要発表･意見交換
第10講　卒業研究テーマ決定･意見交換
第11講　卒業研究テーマ決定･意見交換
第12講　卒業研究テーマ決定･意見交換
第13講　卒業研究テーマ決定･意見交換
第14講　卒業研究テーマ決定･意見交換
第15講　総括及び夏期休暇課題の説明

テキスト・教材（参考文献含む）

特に指定しないが、適宜指示する。

担当者から一言

学生の積極的な研究及び討論参加を期待する。
状況によって、オンライン授業となる場合があります。

専門演習ｄ	科目ナンバリング	４年次	２単位
奥原貴士	PSS4002	後学期	必　修

授業の位置づけ

プレゼンテーション･コミュニケーションの能力を身につける。
調査･分析を通じて研究テーマを探求する能力を身につける。

授業のねらい

卒業論文に関する研究の発表を行い、その内容について全員でディスカッションを行うことで、研究内容を向上させていきます。

到達目標

研究のレベルが高い卒業論文を完成させることを到達目標とします。加えて、発表のスキルを身につけること、積極的に発言できるようになることも目標とします。

成績評価方法･課題･フィードバックの方法

平常点(発表内容、発言回数など)50％
卒業論文50％
発表のつどコメントします。

事前・事後学習

先行研究をしっかり読んで、研究を進めてください(毎日90分以上)。

授 業 計 画

第１講　ガイダンス　卒業論文の進捗状況の報告
第２講　研究の発表(担当者の発表･ディスカッション)
第３講　研究の発表(担当者の発表･ディスカッション)
第４講　研究の発表(担当者の発表･ディスカッション)
第５講　研究の発表(担当者の発表･ディスカッション)
第６講　研究の発表(担当者の発表･ディスカッション)
第７講　研究の発表(担当者の発表･ディスカッション)
第８講　研究の発表(担当者の発表･ディスカッション)
第９講　研究の発表(担当者の発表･ディスカッション)
第10講　研究の発表(担当者の発表･ディスカッション)
第11講　研究の発表(担当者の発表･ディスカッション)
第12講　研究の発表(担当者の発表･ディスカッション)
第13講　研究の発表(担当者の発表･ディスカッション)
第14講　研究の発表(担当者の発表･ディスカッション)
第15講　研究の発表(担当者の発表･ディスカッション)

テキスト・教材（参考文献含む）

テキストや論文に関しては適宜指定します。

担当者から一言

発表、ディスカッションへ積極的に参加してください。
日商簿記検定等の資格試験についても対応していきます。

専門演習ｄ	科目ナンバリング	４年次	２単位
鬼頭浩文	PSS4002	後学期	必　修

授業の位置づけ

プレゼンテーション･コミュニケーションの能力を身につける。
調査･分析を通じて研究テーマを探求する能力を身につける。

授業のねらい

大学生活の最後の半年を､卒業研究を完成させることに専念したい。卒業研究(5000字程度の論文)は､懸賞論文をベースにより深く探求し、研究結果をプレゼン（パワーポイントで作成して発表）で人に伝えることを目標とする。なお、この演習と別に卒業論文（２万字程度）を書き上げて２単位の取得を目指す場合は、履修登録を別途することを忘れないように。詳しくは履修要綱を参照のこと。

到達目標

卒業研究を完成させ、全員がゼミの中での発表会で頂点をめざして切磋琢磨することを通じ、考える力と伝えるパワーを修得する。

成績評価方法･課題･フィードバックの方法

ゼミの中での議論、プレゼンのパフォーマンス（５割）や課題への取り組み（５割）により総合評価する。課題は、添削やコメントを記して返却する。

事前・事後学習

卒業研究をやり遂げることも大切だが、ニュースや新聞などから社会の動きを知り、就職にも役立つ学習をする。これらの学習には、毎講義３時間ほどを要する。

授 業 計 画

1．ガイダンス
2．卒業研究(懸賞論文のブラッシュアップ)に向けた調査
3．卒業研究(懸賞論文のブラッシュアップ)に向けた準備研究
4．設定したテーマに関する情報収集と整理
5．設定したテーマに関する情報収集と研究
6．設定したテーマに関する背景の執筆
7．設定したテーマに関する概要の執筆
8．テーマを深く探求するための研究整理
9．テーマを深く探求する考察
10. 卒論執筆
11. 卒論校閲
12. プレゼン準備
13. プレゼン作成
14. 研究発表会
15. 学部研究発表会

テキスト・教材（参考文献含む）

テキストは、とくに指定しない。必要に応じてプリントを配布する。

担当者から一言

社会に出るための準備をしつつ、じっくり卒業研究に取り組んでほしい。

専門演習ｄ	科目ナンバリング	４年次	２単位
小泉大亮	PSS4002	後学期	必　修

授業の位置づけ

プレゼンテーション･コミュニケーションの能力を身につける。
調査･分析を通じて研究テーマを探求する能力を身につける。

授業のねらい

本演習では、これまでの演習で身につけた知識や情報を利用し、卒業論文作成および卒業発表を展開する。

到達目標

卒業研究を展開し、卒業論文を完成させる。

成績評価方法･課題･フィードバックの方法

成績は次のような配分により評価します。
･授業への取り組む姿勢(レポート･発表などの準備)：50％
･レポート･発表:50％
授業中もしくは授業後に寄せられた質問に対しては、適宜、授業内で回答していきます。

事前・事後学習

論文抄読用の資料準備(45分)
発表用のレジュメやスライドの準備(45分)

授 業 計 画

第１講　ガイダンス　演習の概要
第２講　卒業研究進捗状況の報告①
第３講　卒業研究進捗状況の報告②
第４講　卒業研究進捗状況の報告③
第５講　卒業研究進捗状況の報告④
第６講　卒業研究進捗状況の報告⑤
第７講　卒業研究発表プレゼンテーションと意見交換①
第８講　卒業研究発表プレゼンテーションと意見交換②
第９講　卒業研究発表プレゼンテーションと意見交換③
第10講　卒業研究発表プレゼンテーションと意見交換④
第11講　卒業研究発表プレゼンテーションと意見交換⑤
第12講　卒業研究発表
第13講　卒業研究発表
第14講　卒業研究報告会
第15講　まとめ

テキスト・教材（参考文献含む）

なし。

担当者から一言

発表担当者は、責任を持って資料を準備するように。

専門演習ｄ	科目ナンバリング	４年次	２単位
小林慶太郎	PSS4002	後学期	必　修

授業の位置づけ

プレゼンテーション･コミュニケーションの能力を身につける。
調査･分析を通じて研究テーマを探求する能力を身につける。

授業のねらい

差別、いじめ、うつ病、エイズ、過労死、失業…。政府が市民を守ってくれるはずなのに、なぜ、このような問題が起きるのでしょう？
このゼミ(専門演習)では、身近な地域での問題の解決策(政策)や、その問題解決策を実行していく体制（行政や地域の様々な団体など)、あるいは、そうした解決策を決定する仕組み(政治)等について、その基礎的な知識を身につけていくとともに、それらがどのようなあり方であることが望ましいのかについても、みんなで考えていきたいと思います。

到達目標

身近な地域の問題を発見し、その解決策を考えていく力を身につけることが、このゼミの到達目標です。

成績評価方法･課題･フィードバックの方法

無断欠席者には原則として単位を与えません。成績は次のような配分により評価します。
･課題への取り組み状況:45％
･授業中の発言･受講態度:55％
なお、課題として作成されたレジュメについては、授業の中で講評します。

事前・事後学習

毎回、何らかのことを調べたり整理したりしレジュメを作成したりして来てもらいます(150分程度)。
また、社会のさまざまな問題に関心を持ち、新聞やテレビのニュースなどに、よく目を通しておいてください(30分)。

授 業 計 画

第１講　ガイダンス
第２講　課題の設定
第３講　インターネット検索
第４講　データの収集
第５講　文献調査
第６講　論点整理
第７講　ヒアリング調査
第８講　情報整理
第９講　補充調査
第10講　中間発表
第11講　レジュメ完成
第12講　ジョイントセミナー反省会
第13講　卒論発表会
第14講　カンファレンス準備
第15講　学部カンファレンス

※ 基本的に毎回、グループワークやプレゼンテーション、ディスカッションを行います。90分という授業時間の枠にとらわれることなく、３･４限目の連続で、３･４年生のゼミを合同で行っていきます。秋には大学祭での「四日市とんてき」の模擬店の出店を、冬には他大学のゼミとの合同研究発表合宿「ジョイントセミナー」を、それぞれ予定しています。
※ 各人の興味や新型コロナウイルスの感染拡大の状況などによっては、内容が変更になる場合があります。

テキスト・教材（参考文献含む）

テキストは使いません（必要な資料等は、演習の際に配布する予定です)。参考文献等については、演習を進めていく中で、適宜紹介していきます。

担当者から一言

一人ひとりが知的好奇心を持って、積極的に取り組んでいくことを望みます。「よく学びよく楽しむゼミ」を目指しています。卒業に向けた準備・勉強との両立は大変だと思いますが、オンもオフも精一杯がんばりましょう！

専門演習ｄ	科目ナンバリング	４年次	２単位
高田晴美	PSS4002	後学期	必　修

授業の位置づけ

プレゼンテーション･コミュニケーションの能力を身につける。
調査･分析を通じて研究テーマを探求する能力を身につける。

授業のねらい

文学・文化学のゼミです。今期はいよいよ、各自、卒業論文の完成に向けて研究を進めていきます。前期に引き続いて、めいめいが扱う作品もしくはその作家の関連作品について、ゼミのメンバー皆で読みあい、議論することで、各自の卒業論文の参考にし、論文をまとめていきましょう。

到達目標

･卒業論文のテーマにそって、論旨を組み立てていく。
･そのための地道なテクスト･文献読み、調査を行う。
･論を「卒業論文」という形にまとめる。

成績評価方法･課題･フィードバックの方法

･毎回のコメントと受講態度　30％
･発表と質疑応答の内容　20％
･卒業論文　50％
それぞれの卒業研究について、ゼミ内で適宜コメントをします。

事前・事後学習

自分の卒業論文のための準備と執筆を進めていくこと。(数十時間)

授 業 計 画

第１講　ガイダンス、卒論について
第２講　卒論テーマ発表会
第３講　卒論テーマについて議論①
第４講　卒論テーマについて議論②
第５講　卒論テーマについて議論③
第６講　卒論テーマについて議論④
第７講　卒論テーマについて議論⑤
第８講　卒論テーマについて議論⑥
第９講　卒業論文中間発表①
第10講　卒業論文中間発表②
第11講　卒業論文中間発表③
第12講　座談会風小説を読む①
第13講　座談会風小説を読む②
第14講　卒業論文発表会＆口頭試問
第15講　研究発表会

テキスト・教材（参考文献含む）

テクスト等については、適宜プリントを配布します。
各自、自分の卒業論文のためのテクスト読解や文献調査のために、図書館等の書籍を有効活用すること。

担当者から一言

いよいよ卒業論文を執筆し、仕上げていきます。大学での学びの集大成です。情熱を傾けて､ひたむきに取り組んでいきましょう。そして､他のメンバーの研究にもアドバイスをし､切磋琢磨していきましょう。

専門演習ｄ	科目ナンバリング	４年次	２単位
鶴田利恵	PSS4002	後学期	必　修

授業の位置づけ

プレゼンテーション･コミュニケーションの能力を身につける。
調査･分析を通じて研究テーマを探求する能力を身につける。

授業のねらい

前期で行った、文献や情報の収集とその報告を何度か繰り返して卒業研究を完成させていきます。各自による報告だけでなく、みなさんの意見や疑問をぶつけ合い、活発なディスカッションを行いながら進めます。

到達目標

年度末の研究報告の完成を目指します。

成績評価方法･課題･フィードバックの方法

文献や情報収集などへの取り組み(50％)、研究報告の内容(50％)
フィードバック方法:ゼミ中に適宜コメントする。

事前・事後学習

日頃からテレビ、新聞、インターネットなどなんでも良いので経済ニュースに触れておくこと（毎日１時間以上。まとめてでも小刻みでも構いません。電車の中でネットでニュースを見るのもOKです)。

授 業 計 画

第１講　ガイダンス
第２講　３年生の指導
第３講　卒業研究報告とディスカッション
第４講　卒業研究報告とディスカッション
第５講　卒業研究報告とディスカッション
第６講　卒業研究報告とディスカッション
第７講　卒業研究報告とディスカッション
第８講　卒業研究報告とディスカッション
第９講　卒業研究報告とディスカッション
第10講　卒業研究報告とディスカッション
第11講　卒業研究報告とディスカッション
第12講　卒業研究報告とディスカッション
第13講　卒業研究報告とディスカッション
第14講　卒業研究報告とディスカッション
第15講　３、４年生合同報告会

テキスト・教材（参考文献含む）

適宜指示します。

担当者から一言

大学４年間の集大成です。思いっきり楽しんで研究報告を完成させてください。

専門演習ｄ	科目ナンバリング	４年次	２単位
富田　与	PSS4002	後学期	必　修

授業の位置づけ

プレゼンテーション･コミュニケーションの能力を身につける。
調査･分析を通じて研究テーマを探究する能力を身につける。

授業のねらい

この演習では、卒業論文の完成を目指します。これまでやってきた作業の繰り返しと、文章の作成を中心に進めていきます。

到達目標

卒業論文の完成

成績評価方法･課題･フィードバックの方法

卒業研究の達成度　100％
卒業論文を評価の課題とし、卒業論文については授業内で逐次コメントをする他、発表準備等でも個別に相談に乗ります。

事前・事後学習

とにかく卒業論文を書き進めてください。（180分以上）

授 業 計 画

第１講　ガイダンス
第２講　一文作文の確認
第３講　一文作文から構成へ１
第４講　一文作文から構成へ２
第５講　草稿の報告と検討１
第６講　草稿の報告と検討２
第７講　草稿の報告と検討３
第８講　草稿の報告と検討４
第９講　作成論文の報告と検討１
第10講　作成論文の報告と検討２
第11講　作成論文の報告と検討３
第12講　作成論文の報告と検討４
第13講　発表会１
第14講　発表会２
第15講　まとめ

テキスト・教材（参考文献含む）

特に指定しない。

担当者から一言

４年のまとめを形に残すことを常に心がけてください。

専門演習ｄ	科目ナンバリング	４年次	２単位
中西紀夫	PSS4002	後学期	必　修

授業の位置づけ

プレゼンテーション･コミュニケーションの能力を身につける。
調査･分析を通じて研究テーマを探求する能力を身につける。

授業のねらい

この専門演習では、全体としての指導というよりマンツーマンでの指導が多くなります。この演習はこれまでの集大成として精度の高い研究を目指しておりますので、ただ完成させるということでなく、社会人になってからでも自信をもって発信できるものにしていただきたいと考えております。そのため、第３講から第９講までは毎回、進捗状況をできるだけ細かく報告してもらい、素晴らしい研究発表となるように丁寧な指導をしたいと考えております。

到達目標

到達目標としては、社会人になってからでも必要不可欠となる学問の構築はもとより、継続中の就職活動などでも困らないように最新の社会問題も議論できればと考えています。この演習によって、自信をもって社会人になっていただくための必要不可欠な法律知識を身につけ、その特徴を生かし、あらゆる場面で頼りにされる人材になるための土台をつくることができればと考えています。

成績評価方法･課題･フィードバックの方法

成績は次のような評点配分です。
受講態度　50％
研究成果　50％
授業中もしくは授業後に寄せられた質問に対しては、適宜、授業内で回答していきます。

事前・事後学習

発表者には、発表の一週間前の授業時間中までに、テーマと内容を簡単に報告してもらう。
また、週６日は新聞やニュース等も含め１日に30分以上は学習すること。

授 業 計 画

第１講　ガイダンス
第２講　研究内容の確認及び指導
第３講　研究の進捗状況報告及び指導
第４講　研究の進捗状況報告及び指導
第５講　研究の進捗状況報告及び指導
第６講　研究の進捗状況報告及び指導
第７講　研究の進捗状況報告及び指導
第８講　研究の進捗状況報告及び指導
第９講　研究の進捗状況報告及び指導
第10講　研究発表会に向けた指導
第11講　卒業研究の発表会
第12講　卒業研究の発表会
第13講　卒業研究の発表会
第14講　まとめ、卒業研究論文の提出
第15講　学部の研究発表会

テキスト・教材（参考文献含む）

適宜指示します。

担当者から一言

授業中は私語厳禁とします。また、こちらの許可を得ない中座や勝手にスマホを見ることなども、もちろん禁止です。学生さんも体調等の問題や就職活動で、こちらも臨機応変な対応が必要となることもありますが、中座や退室は私の許可を取ってください。有意義な卒業研究になるように、精一杯がんばりましょう。

専門演習ｄ	科目ナンバリング	４年次	２単位
松井真理子	PSS4002	後学期	必　修

授業の位置づけ

地域を志向した学修を通じて地域社会に貢献する人材になる。
プレゼンテーション･コミュニケーションの能力を身につける。
調査･分析を通じて研究テーマを探求する能力を身につける。

授業のねらい

前学期に引き続き、自分の研究計画に従い、４年間の学びの集大成となる研究を行います。

到達目標

1　自分の進路や４年間の学びの集大成となる研究を完成させる。
2　調査･研究の手法や、論文の書き方を身に付ける。
3　これからの時代への視座を持つ。

成績評価方法･課題･フィードバックの方法

授業の取り組み姿勢　50％
卒業研究の内容　　50％
なお、講義時に提出した課題については、評価とともに以降の講義で返却します。

事前・事後学習

(授業前)日頃からテレビや新聞のニュースに目を通しておくこと(毎日30分程度)
授業内容について事前に予習しておくこと(60分)
(授業後)学んだ内容を復習し、卒業研究に生かせるようにしておくこと(90分)

授 業 計 画

第１講　ガイダンス･研究計画の確認
第２講　調査の方法･論文の書き方
第３講　卒業研究(１)
第４講　卒業研究(２)
第５講　卒業研究(３)
第６講　卒業研究(４)
第７講　卒業研究(５)
第８講　中間発表会
第９講　卒業研究(６)
第10講　卒業研究(７)
第11講　卒業研究(８)
第12講　卒業研究(９)
第13講　卒業研究発表会
第14講　ふりかえり
第15講　３年生研究発表会参加

テキスト・教材（参考文献含む）

各自が探してきた資料が中心です。
適宜教員も必要な教材を提供します。

担当者から一言

４年間の集大成を行います。これからの自分の進路に生かせる学びにします。

専門演習ｄ	科目ナンバリング	４年次	２単位
三田泰雅	PSS4002	後学期	必　修

授業の位置づけ

プレゼンテーション･コミュニケーションの能力を身につける。
調査･分析を通じて研究テーマを探求する能力を身につける。

授業のねらい

この演習では、社会学の視点と社会調査の方法を用いて世の中の問題を考えます。
前学期に引きつづき、履修者は自ら調査しデータを集め、ゼミ内で議論しながらデータの整理と分析を行なって成果を発表します。また、他者の発表に対してコメントし、意見交換を行ないます。
最終的に卒業論文またはそれに準ずるレポートを執筆します。この演習のねらいは、文章作成能力を高め、プレゼンテーション能力を磨き、議論する力を養うことです。

到達目標

①社会学的な見方や考え方を身につける
②データを収集･分析する力を身につける
③分析結果を効果的にプレゼンテーションする力を身につける
④他者の言葉に耳を傾け、建設的に意見を交わす力を身につける
⑤大学生としての文章作成能力を身につける

成績評価方法･課題･フィードバックの方法

卒業研究40％、ゼミでの報告30％、授業への参加度30％で評価します。報告担当回に欠席した者は、原則として単位を与えないので注意すること。報告は教員を含めた全員で内容を吟味し、議論します。

事前・事後学習

報告内容に関する資料に目を通しておくこと(40分)
新聞･ニュースに親しんでおくこと(1日20分)

授 業 計 画

第１講　ガイダンス
第２講　卒業研究報告とディスカッション
第３講　卒業研究報告とディスカッション
第４講　卒業研究報告とディスカッション
第５講　卒業研究報告とディスカッション
第６講　卒業研究報告とディスカッション
第７講　中間まとめ
第８講　卒業研究報告とディスカッション
第９講　卒業研究報告とディスカッション
第10講　卒業研究報告とディスカッション
第11講　まとめ①
第12講　卒業研究報告とディスカッション
第13講　論文指導
第14講　論文指導
第15講　まとめ②

テキスト・教材（参考文献含む）

必要に応じて資料を配布します。

担当者から一言

世の中の「あたりまえ」を疑うところが社会学の魅力です。学生諸君の積極的な参加を期待します。

専門演習ｄ

科目ナンバリング	4年次	2単位
PSS4002	後学期	必　修

若山裕晃

授業の位置づけ

プレゼンテーション･コミュニケーションの能力を身につける。
調査･分析を通じて研究テーマを探求する能力を身につける。

授業のねらい

本演習では、これまでに習得した知識や情報を活かして、計画的に卒業研究を展開していく。

到達目標

卒業研究を展開し、卒業論文を完成させる。

成績評価方法･課題･フィードバックの方法

研究内容(50%)、プレゼンテーション(50%)。レポート等の評価は個別に開示する。

事前・事後学習

予習として、研究テーマに関連した資料収集を実施しておくこと（90分)。復習として、授業内で討論された問題について自分なりに整理しておくこと(90分)。

授 業 計 画

第１講　ガイダンス　授業の概要
第２講　卒業研究進捗状況報告･意見交換
第３講　卒業研究進捗状況報告･意見交換
第４講　卒業研究進捗状況報告･意見交換
第５講　卒業研究進捗状況報告･意見交換
第６講　卒業研究進捗状況報告･意見交換
第７講　卒業研究進捗状況報告･意見交換
第８講　卒業研究進捗状況報告･意見交換
第９講　卒業研究進捗状況報告･意見交換
第10講　卒業研究についてプレゼンテーション
第11講　卒業研究についてプレゼンテーション
第12講　卒業研究についてプレゼンテーション
第13講　卒業研究についてプレゼンテーション
第14講　卒業研究についてプレゼンテーション
第15講　総括

テキスト・教材（参考文献含む）

特に指定しないが、適宜指示する。

担当者から一言

毎回担当者を決めて、卒業研究について発表してもらう。学生の積極的な討論参加を期待する。
状況によって、オンライン授業となる場合があります。

地方自治論

科目ナンバリング	1年次	2単位
PCD2001	後学期	分野必修

小林慶太郎

授業の位置づけ

地域を志向した学修を通じて地域社会に貢献する人材になる。
系統的に学修し、進路に即した人間力の根幹を形成する。

授業のねらい

この授業は、地域・まちづくり分野の分野必修科目です。主に、地方自治の仕組みと課題について扱います。
公立学校、ゴミの収集・処理、上下水道、道路整備、消防・救急･･･。それぞれの地域での私たちの生活は、様々な場面で、地方自治体の活動によって支えられています。
私たちの暮らしている地域の仕組みやまちづくりの課題について基礎的なことを学ぶことが、今後の総合政策学部での地域・まちづくり分野の学修に役立てられ、さらに将来の地域での生活やまちづくり活動に役立てられることを、この授業のねらいとしています。

到達目標

この授業では、学生諸君が、地方自治の仕組みや課題に関する基本的な用語や知識を身につけ、テレビや新聞の地方自治関連のニュースを理解できるようになることを、到達目標としています。

成績評価方法･課題･フィードバックの方法

成績は次のような配分により評価します。
･講義時に指示する簡単な課題の提出状況および受講態度:30%
･定期試験(自筆ノートのみ持込可）:70%
なお、講義時に提出した課題に書かれていたコメントに対しては、以降の講義で応答していきます。

事前・事後学習

日頃からテレビや新聞の地域ニュースに目を通すこと（毎日20分以上)。講義内容のノートを見返して、不明な点などは参考文献等で調べておくこと(40分)。

授 業 計 画

第１講　ガイダンス
第２講　「民主主義の学校」地方自治
第３講　地方自治の本旨と日本国憲法
第４講　団体自治と地方自治体の種類
第５講　住民自治と選挙･直接請求
第６講　二元代表制と議会･首長の役割
第７講　自治体行政と公務員
第８講　条例･規則と行政手続
第９講　計画行政と予算
第10講　地方自治のルーツを考える　―英米型と大陸型―
第11講　日本の前近代の地方自治の歴史
第12講　近代日本の地方自治と地方行政
第13講　現代日本の地方自治と地方分権改革
第14講　小規模多機能自治　―地域における小さな自治―
第15講　市民参加と協働

※ 新型コロナウイルスの感染拡大の状況によっては、変更になる場合があります。

テキスト・教材（参考文献含む）

テキストは使いません(必要に応じて、適宜プリントを配布します)
【参考文献】
新藤宗幸「日曜日の自治体学」東京堂出版(2013年)、2,200円＋税
大森彌、大杉覚「これからの地方自治の教科書　改訂版」第一法規(2021年)、2,500円＋税

担当者から一言

遅刻や、講義中の中座、飲食、私語、携帯電話の鳴動などは、原則禁止します。これらのことが守れない者には、退室を命ずることがあります。出席する以上は、真剣な態度で受講して下さい。また、講義中に指名されたら、元気に返事をするようにして下さい。

地域経済論

科目ナンバリング	2年次	2単位
PCD2002	前学期	分野必修

岡　良浩

授業の位置づけ

地域を志向した学修を通じて地域社会に貢献する人材になる。

授業のねらい

地域経済とは、日本では行政的区分である都道府県や経済的区分である首都圏・近畿圏などのことで、厳密に言えば『１つの国内を対象として、国民経済内部を地理的に分割した自立的な経済圏』のことを意味しています。このような地域の経済諸問題を対象とするのが地域経済学という学問分野です。この講義では地域経済学を概説します。

到達目標

以下の３つを掲げています。
①地域経済を理解する上で重要な基礎的概念を理解すること。
②具体的な地域（中部圏）がどのような特徴をもった地域かということを理解すること。
③実証分析をするために、データの所在と分析方法を理解すること。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法

授業への参加態度（含む講義中の小テスト）20%、期末試験　80%。
講義中の小テストはコメントして返却します。

事前・事後学習

（予習）資料をあらかじめ読んでおいてください。経済学の応用分野ですから、経済学を復習しておいてください。（90分）
（復習）講義中に理解度を確認する小テストを課します。（90分）

授業計画

第１講　ガイダンス／地域の時代
第２講　地域とはなにか・都市とはなにか
第３講　経済学で地域をみる
第４講　地域経済の開放性
第５講　地域所得の決定
第６講　地域経済の成長
第７講　地域間格差
第８講　都市の成立と発展
第９講　都市圏の設定と都市化の過程
第10講　中心地理論と都市システム
第11講　中部経済のポイント
第12講　都市・地域の経済分析（その１）人口分析、コーホート分析
第13講　都市・地域の経済分析（その２）工業分析
第14講　都市・地域の経済分析（その３）商業分析
第15講　まとめ

テキスト・教材（参考文献含む）

テキストは特に使用せず、講義中に資料配付します。

担当者から一言

経済理論を積極的に応用し、地域経済を理解しようとする意欲のある学生の履修を期待します。

政策過程論

科目ナンバリング	2年次	2単位
PCD2003	後学期	分野必修

小林慶太郎

授業の位置づけ

地域を志向した学修を通じて地域社会に貢献する人材になる。
系統的に学修し、進路に即した人間力の根幹を形成する。

授業のねらい

公害、経済格差、差別…。私たちの暮らしている社会には様々な問題があふれています。そうした問題を解決・改善していくための方策が、政策です。
この授業では、問題の発見から政策の立案・決定、実行、そしてその結果の評価に至るまでの過程を取り上げ、いつ、誰が、どのように、その過程に関わっていくのかを考えます。
学生諸君が将来、自らが暮らす地域をより良いものにするまちづくりの過程に主体的に関わっていけるような人になることを、ねらいとしています。なお、この授業は地域・まちづくり分野の分野必修科目です。

到達目標

この授業を通じて、学生諸君が、政策の過程についての理解を深め、社会を担う主体的な人間になっていくことを、到達目標としています。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法

成績は次のような配分により評価します。
・講義時に指示する簡単な課題の提出状況および受講態度：30%
・定期試験（自筆ノートのみ持込可）：70%
なお、講義時に提出した課題に書かれていたコメントに対しては、以降の講義で応答していきます。

事前・事後学習

日頃からテレビや新聞の、政治や地域のニュースに目を通すこと（毎日20分以上）。講義内容のノートを見返して、不明な点などは参考文献等で調べておくこと（40分）。

授業計画

第１講　ガイダンス：この講義の進め方
第２講　政策循環と政策過程
第３講　静態的政策過程論と動態的政策過程論
第４講　政策過程の担い手と「鉄の三角形」
第５講　経済成長の政策過程①
第６講　経済成長の政策過程②
第７講　合理モデルと満足モデル・漸変モデル
第８講　組織過程モデルと組織内政治モデル
第９講　政策類型論とプルーラリズム（多元主義）
第10講　コーポラティズム
第11講　エリート理論とテクノクラート理論
第12講　新制度論と政府間関係論
第13講　政策評価論
第14講　市民参加と協働
第15講　コミュニティと自治
定期試験

※ 新型コロナウイルスの感染拡大の状況によっては、変更になる場合があります。

テキスト・教材（参考文献含む）

テキストは使いません（必要に応じてプリントを配布する場合があります）。

担当者から一言

遅刻や、講義中の中座、飲食、私語、携帯電話の鳴動などは、原則禁止します。これらのことが守れない者には、退室を命ずることがあります。出席する以上は、真剣な態度で受講して下さい。また、講義中に指名されたら、元気に返事をするようにして下さい。

現代財政学

科目ナンバリング	2年次	2単位
PPT2001	前学期	選　択

鶴田利恵

授業のねらい
この講義では、財政の基本的な理論や考え方、経済政策や社会保障制度、税の基礎理論と税制の仕組みについて、ミクロ経済学・マクロ経済学の両面から学んでいきます。また、現在の日本が抱えている財政上の諸問題についても適宜解説していきます。また、みなさんの意見や疑問を聞き、活発なディスカッションも行いながら進めていきます。

到達目標
財政の基本的な考え方や仕組みを理解し、日本の財政政策について自分なりの意見を言える力を身につける。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法
授業態度(20%)、定期試験(80%)により評価します。
フィードバック方法：授業中もしくは授業後に寄せられた質問に対しては、適宜、授業内で回答していきます。

事前・事後学習
日頃からテレビ、新聞、インターネットなどなんでも良いので経済ニュースに触れておくこと（毎日１時間以上。まとめてでも小刻みでも構いません。電車の中でネットでニュースを見るのもOKです)。講義後は、その日のテキストを必ず読み返す(30分以上)。

授業の位置づけ
系統的に学修し、進路に即した人間力の根幹を形成する。

授業計画
第１講　ガイダンス
第２講　政府の役割
第３講　市場と政府
第４講　財政の仕組み
第５講　公共財
第６講　経済政策
第７講　社会保障制度
第８講　社会政策
第９講　税制の設計
第10講　直接税
第11講　間接税と税制改革
第12講　政府の借金
第13講　地方分権
第14講　公民連携
第15講　まとめ
定期試験

テキスト・教材（参考文献含む）
コピーを配布します。
使用テキスト：山重慎二「財政学」中央経済社ベーシックプラスシリーズ(2016年)2,400円(税別)

担当者から一言
質問や意見はおおいに歓迎です。ただし、私語、携帯電話の使用は禁止します。特に、注意をしても私語や携帯電話の使用をやめない場合には、退出(もちろん欠席扱い)を命じるか、もしくは携帯電話を没収します。

行政法　実務

科目ナンバリング	2年次	2単位
PPT2002	後学期	選　択

小林慶太郎・中西紀夫

授業のねらい
この授業では､行政と法の関係について扱っていきます。行政の様々な活動は、様々な法的な規範によって規定されています。
講師として、現在四日市市の職員として働いている本学卒業生（清水さん、中村さん、室田さん、田端さん）にも登壇いただき、行政の最前線で、法的な規範がどのように使われているか、お話いただきます。将来、公務員になることを考えている学生はもちろんのこと、民間企業に就職する学生も､私たちの生活が､いかに法的な規範とは切っても切れない関係にあるのか学び取ってくれることを、ねらいとしています。

到達目標
法的な規範の効力や意義を知り、日常生活においても法的な規範の存在を意識できるようになることが、この授業の到達目標です。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法
欠席４回以上の者には、原則、単位は与えません。なお、課題・宿題の提出内容が著しく酷い場合や、授業中に寝ているなど受講態度が悪い場合には、欠席扱いとすることがありますので注意してください。
成績は以下の配分により評価します。
・取組姿勢および講義時に指示する簡単な課題の提出状況:75%
・定期試験(レポート):25%
なお、講義時に提出された課題に対しては、以降の講義でコメントします。

事前・事後学習
日頃からテレビや新聞の地域・行政に関するニュースに目を通すこと(毎日30分以上)。講義内容のノートを見返して、不明な点などは、授業中に紹介する参考文献等で調べておくこと(60分)。

授業の位置づけ
地域を志向した学修を通じて地域社会に貢献できる人材になる。

授業計画
第１講　ガイダンス～「行政法」について～(小林)
第２講　法学の中の行政法(中西)
第３講　法令と条例(小林)
第４講　四日市市の産業と法規制(清水)
第５講　選挙活動と公職選挙法(中村)
第６講　都市計画と法律(清水)
第７講　公共施設の指定管理(中村)
第８講　新型コロナウイルス対策と法(清水)
第９講　観光･シティプロモーションと法(中村)
第10講　公営ギャンブルと法(清水)
第11講　夜の街と法規制(室田)
第12講　文化行政と社会教育法(田端)
第13講　生活保護行政と法(室田)
第14講　市民協働を促進するための条例(室田)
第15講　行政･まちづくりと法規範(小林)
定期試験(レポート提出)

※ 講師の都合や新型コロナウイルスの感染拡大の状況によっては、日程や内容が変更になる場合があります。

テキスト・教材（参考文献含む）
テキストは使いません(必要に応じて資料を配布する場合があります)。

担当者から一言
学問としての行政法だけではなく、実際の行政・まちづくり活動の視点から、法について講義を行います。
※ 本科目は三重創生ファンタジスタ（ベーシック）資格の認定科目です。

行政学

実務

科目ナンバリング	2年次	2単位
PPT2003	後学期	選　択

藤本和弘

授業の位置づけ

地域を志向した学修を通じて地域社会に貢献する人材になる。
系統的に学修し、進路に即した人間力の根幹を形成する。

授業のねらい

社会における主な政策遂行主体が行政であることから、行政の役割、政策立案機能、政策立案手法、政策執行の現状や評価等を体系的に学ぶ。行政事例として、三重県という地方自治体行政を取り上げ、政策立案、政策執行過程を広範に学ぶ。この学びを通じ、将来、三重県内のいずれの職に赴こうとも、県内外の政策動向を理解できるようになることを目指す。

到達目標

毎日報道されている新聞記事やニュース内容、さらには、政策動向に関する図書について、理解が早まること。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法

以下のような配分で評価する。
講義時に提示する簡単な課題への提示状況及び受講態度　50%
定期試験時に提出してもらう、これまでの講義に即したレポート課題　50%
なお、毎回提出してもらう課題については、次週回において説明する。

事前・事後学習

事前学習では、毎日、新聞やニュースを見ること(30分)。
新聞やニュースで見た政策動向に関する図書を読むこと(60分)。
事後学習では、レジメやノートを見直し、必要事項を覚えるとともに、不明なキーワード等を調べること(90分)。

授 業 計 画

1．ガイダンス、行政学について
2．日本の行政構造の組織的側面
3．日本の行政構造の財政的側面
4．地方行政機構成立の基盤
5．地方行政機構の現状
6．地方行政機構の業務
7．総合計画の策定
8．地域産業の振興
9．観光産業の振興
10. 市街地活性化政策
11. 医療健康福祉政策
12. 地域環境保全政策
13. 教育政策
14. インフラ整備政策
15. 行政経営

テキスト・教材（参考文献含む）

なし。

担当者から一言

講義中における遅刻、中座、飲食、私語、携帯電話の鳴動並びに使用は禁止する。守られない者には退出を命じることがある。真剣で誠実な態度で受講すること。講義中に指名されたら元気に返事すること。

総合政策学部：都市法
環境情報学部：環境法

科目ナンバリング	3年次	2単位
PPT3001 EEP3004	前学期	選　択

中西紀夫

授業の位置づけ

地域を志向した学修を通じて地域社会に貢献する人材になる。
系統的に学修し、進路に即した人間力の根幹を形成する。

授業のねらい

本講義のねらいは、公害・環境法と都市計画法の基礎を学ぶことです。つまり、国民に安全かつ健康で文化的な生活ができる快適な環境の都市をつくるための学びです。これは憲法25条の「生存権」や13条の「幸福追求権」との関係でも重要です。都市計画を定める仕組みという、法的な観点からも学んでいきます。また、都市計画上必要となる環境対策については現代社会の変化を踏まえながら、分かりやすく解説します。

到達目標

本講義では、環境対策や都市計画の関連法を体系的に理解することを目標としています。具体的には、時代別に学んでいくことにより、法の制定経緯および骨子を概観することにつながります。最終的には、環境対策や都市計画に関わる仕事の実践的な法処理技術の取得まで対応できる人材育成を目指しています。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法

成績は、次のような評点配分です。
受講態度　30%：授業中に行うテキストの講読の出来や質問の受け答えはもとより、小テストの結果も含む。
定期試験　70%：すべて持込可
なお、授業中に小テストを実施した場合は、５段階評価を付けて２週間以内に返却します。

事前・事後学習

毎回、予習90分と復習90分はお願いします。内容は、テキストを読むこと及び自筆ノートや確認問題のチェックなどです。また、発展的な学び方を希望される方は、上述の参考文献や自分に合った六法を購入しておくとよいでしょう。

授 業 計 画

第１講　ガイダンス
～環境対策編～
第２講　公害法から環境法へ
第３講　環境法と既存の法(憲法・行政法・民法・刑法)との関係
第４講　環境対策と法規制、主な環境規制法
第５講　環境アセスメントの考え方
第６講　私法的な救済方法
第７講　条例による規制とその問題点
第８講　環境のための３Ｒ
第９講　環境マネジメントシステム
第10講　まとめ
～都市計画編～
第11講　都市計画の基本的枠組み
第12講　第２次世界大戦前と後の都市計画の時代
第13講　現行都市計画法の制定時の都市計画の時代、地区計画、規制緩和・コンパクトシティの時代
第14講　これだけは知っておきたい都市計画用語、都市計画図書の読み方
第15講　まとめ
定期試験

テキスト・教材（参考文献含む）

参考文献：佐々木晶二著『いちからわかる知識＆雑学シリーズ　都市計画のキホン』ぎょうせい(2018年)2,000円＋税(価格)
参考文献：中西紀夫著『社会環境と法』嵯峨野書院(2010年)
プリントを配布しますが、最新の内容は提供します。

担当者から一言

授業中は私語厳禁とします。また、こちらの許可を得ない中座や勝手にスマホを見ることなども、もちろん禁止です。学生さんも体調等の問題や諸活動で、こちらも臨機応変な対応が必要となることもありますが、中座や退室は私の許可を取ってください。出席する以上は、集中して受講しましょう。

政策法務

科目ナンバリング	3年次	2単位
PPT3002	後学期	選　択

中西紀夫

授業の位置づけ

地域を志向した学修を通じて地域社会に貢献する人材になる。
系統的に学修し、進路に即した人間力の根幹を形成する。

授業のねらい

自治体の政策に関わる法律の実務、すなわち自治体法務について学びます。憲法との関係を基本に置きつつ、民法や地方自治法などの法律の規定や行政実例を覚えることを繰り返していても、法処理技術(法務能力)を身につけることは困難であると考えられています。そこで、法律や条例を使いこなすために必要な「法的な捉え方」が身につくように工夫しながら、一方的な講義形式にならないような形にしていきたいと思います。

到達目標

市役所等を目指している人にとって、就活時に法律や条例を実務上で使いこなせる能力、すなわち、法的な考え方が出来る学び方をしたというアピールをできるくらいになるまでの学力の修得を、教育目標としています。

成績評価方法･課題･フィードバックの方法

成績は、次のような評点配分です。
受講態度　30％：授業中に行うテキストの購読の出来や質問の受け答えはもとより、小テストの結果も含む。
定期試験　70％：すべて持込可
なお、授業中に小テストを実施した場合は、５段階評価を付けて２週間以内に返却します。

事前・事後学習

毎回、予習90分と復習90分はお願いします。内容は、テキストを読むこと及び自筆ノートや確認問題のチェックなどです。また、発展的な学び方を希望される方は、上述の参考文献や自分に合った六法を購入しておくとよいでしょう。

授 業 計 画

第１講　ガイダンス
第２講　法的なものの考え方(１)
第３講　法的なものの考え方(２)
第４講　法律問題の考え方(１)
第５講　法律問題の考え方(２)
第６講　法の解釈適用～基礎編～(１)
第７講　法の解釈適用～基礎編～(２)
第８講　法の解釈適用～応用編～(１)
第９講　法の解釈適用～応用編～(２)
第10講　条例、規則、要綱
第11講　契約と行政処分のしくみ
第12講　行政手続のしくみ
第13講　自治体の組織のしくみ
第14講　法律問題の実際、条例の役割
第15講　まとめ

テキスト・教材（参考文献含む）

参考文献：森幸二著『１万人が愛した　はじめての自治体法務テキスト』第一法規(2017年)2,400円＋税(価格)
参考文献：吉田勉著『事例から学ぶ　実践！自治体法務・入門講座』学陽書房(2018年)2,600円＋税(価格)

担当者から一言

授業中は私語厳禁とします。また、こちらの許可を得ない中座や勝手にスマホを見ることなども、もちろん禁止です。学生さんも体調等の問題や諸活動で、こちらも臨機応変な対応が必要になることもありますが、中座や退室は私の許可を取って下さい。出席する以上は、集中して受講しましょう。

地域産業論

科目ナンバリング	2年次	2単位
PCD2001	前学期	選　択

岡　良浩

授業の位置づけ

地域を志向した学修を通じて地域社会に貢献する人材になる。

授業のねらい

地域の将来を考えるとき、それぞれの地域の産業がどのように発展するかが重要であることは言うまでもありません。しかし産業構造が変化するなかで、地域の産業は一様ではありません。我が国では、地域の既存集積や資源を活用して、どのように産業を産み出していくかが重要になりつつあります。地域産業政策も、基盤整備型・産業誘致型の政策から、産業創造力を支える仕組みづくりが重要になりつつあります。
本講義では､地域産業に関する緒論や産業立地論を解説するともに､日本の産業地形成･地域産業政策を解説します。

到達目標

１．地域産業に関する緒論を理解する
２．中部圏の主要な産業地形成を理解する
３．地域産業政策を理解する

成績評価方法･課題･フィードバックの方法

学期末試験(80％)小レポート(20％)
講義中の小レポートはコメントして返却します。

事前・事後学習

配付資料に事前に目を通しておいてください。(90分)
講義中に課される小レポートを行ってください。(90分)

授 業 計 画

第１講　ガイダンス
第２講　地域産業の緒論(１)ペティークラークの法則／産業分類
第３講　地域産業の緒論(２)ホフマンの法則／ロストウの発展段階説
第４講　地域産業の緒論(３)工業化の終焉／産業空洞化
第５講　産業立地論(１)工業立地論の概観／輸送費問題
第６講　産業立地論(２)ウェーバー工業立地論
第７講　産業立地論(３)商業立地論(ホテリングモデル)
第８講　日本の産業地形成(１)概観
第９講　日本の産業地形成(２)地場産業論
第10講　日本の産業地形成(３)近江商人
第11講　四日市の産業
第12講　名古屋の産業
第13講　浜松の産業
第14講　地域産業政策
第15講　まとめ

テキスト・教材（参考文献含む）

特に使用せず、講義中に資料配布します。

担当者から一言

講義を通じて、自分の故郷や関心のある地域をイメージし、どのような産業発展を経験し、どのような課題・展望があるかを考えるきっかけにしてください。

地域開発論

科目ナンバリング	2年次	2単位
PCD2004	後学期	選　択

岡　良浩

授業のねらい

この講義では、都市を中心に空間利用のあり方を考えます。そのねらいは大きくわけて以下の４つです。第１は、人類の長い歴史のなかで、都市がなぜ、どのように形成されていったのか（都市の原理）を理解することです。第２は、産業革命後の都市問題の発生と解決方法（近代都市計画）の形成過程を知ることです。第３は、現在の都市がどのような制度によって計画されているか（都市計画制度）を理解することです。第４は、これからの都市のあり方がどのように考えられているかということを理解することです。

到達目標

到達目標としては、講義のねらいの４つ（都市の原理・近代都市計画・都市計画制度・都市のあり方）を理解し、まちづくりを空間利用という観点から考える基礎を身につけることを目標とします。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法

学期末の定期試験により成績を評価します。
理解度を確認する小テスト（作文）を講義中に課します。
提出されたものは添削して返却します。

事前・事後学習

予習：テキストのあらかじめ指定した範囲を読んでおくこと（90分）。
復習：講義中に課される小テスト（作文）を行ってください（90分）。

授業の位置づけ

地域を志向した学修を通じて地域社会に貢献する人材になる。

授業計画

第１講　ガイダンス／地域開発と都市
第２講　都市の時代（世界人口・都市人口）
第３講　世界の都市形成史（１）古代都市
第４講　世界の都市形成史（２）ローマ
第５講　日本の都市形成史
第６講　東京／名古屋の都市形成史
第７講　都市と人間（都市の原理）
第８講　近代都市計画の萌芽（１）都市問題と近代都市計画
第９講　近代都市計画の萌芽（２）田園都市論
第10講　近代都市計画の萌芽（３）近隣住区論
第11講　日本の都市計画制度（１）都市計画の内容／土地利用計画
第12講　日本の都市計画制度（２）都市計画事業（土地区画整理事業・再開発事業）
第13講　これからの都市～コンパクトシティを中心に～
第14講　都市計画の事例（四日市ほか）
第15講　まとめ

テキスト・教材（参考文献含む）

特に使用せず必要に応じて講義中に資料配布します。

担当者から一言

都市は、日常生活にかかわる身近な場です。自分のふるさとや魅力あるまちを頭に思い浮かべながら、皆さんが都市づくりに関心を持つことを期待します。
本科目は三重創生ファンタジスタ（ベーシック）資格の認定対象科目です。

地域福祉論

科目ナンバリング	2年次	2単位
PCD2002	前学期	選　択

柴田啓文

授業のねらい

福祉は社会で排除された人々を社会に取り戻す活動です。特に、障害者や女性、子ども、高齢者、経済的困窮者などいわゆる「社会的弱者」の生活向上、社会参画の支援、権利を擁護することで、共に生きる社会を創造することを目標にしています。
この科目では、まず、福祉の理念を学び、その観点から地域にどのような問題があるのか、また、どのような対応が可能であるかについて、できるかぎり具体的なデータに基づいて検討します。

到達目標

福祉の理念を理解し、地域の現状を知り、あるべき地域福祉のあり方を自ら考える力を身につけます。また、そのために関係データを収集し、処理するスキルを養います。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法

平常点50％と学期末試験50％により評価します。平常点は、毎回のノート（主にExcel）の提出と小テストなどによります。小テストの得点は直後に、提出ノートの得点は教育支援システムのコースの「評定」に表示します。

事前・事後学習

福祉関連サイトを紹介しますので、毎日30分は各サイトを閲覧し、福祉についての最新の情報を収集してください。また、授業で取り上げた各テーマについてのデータを集めて分析してください。

授業の位置づけ

地域を志向した学修を通じて地域社会に貢献する人材になる。

授業計画

第１回　ガイダンス：授業の内容と評価（毎回の授業ノートはExcel）。登録希望者が多い場合は抽選。
第２回　教育支援システムの登録
第３回　少子高齢化社会と福祉
第４回　国家予算と福祉
第５回　福祉の理念：障害の社会モデル
第６回　福祉の理念：障害者の自立とノーマライゼーション
第７回　バリアフリーとユニバーサルデザイン
第８回　地域における特別のニーズとは何か？
第９回　地域における特別のニーズとは何か？
第10回　福祉職の現状
第11回　福祉とAI１
第12回　福祉とAI２
第13回　福祉とInternetofThings
第14回　多様な人々
第15回　まとめ

テキスト・教材（参考文献含む）

使用しません。授業ではインターネット上の地域福祉関連文書を利用します。

担当者から一言

学習支援システム（Moodle）を利用。ExcelやWordの基本的な用法についても解説します。「地域福祉論」を通して、自分の暮らしや社会のあり方について考えようとするみなさんの受講を期待します。

社会保障論

科目ナンバリング	2年次	2単位
PCD2005	後学期	選　択

李　修二

授業の位置づけ
系統的に学修し、進路に即した人間力の根幹を形成する科目です。

授業のねらい
この講義では、現代日本における社会保障制度の基本的な枠組みを概観して学んで行きます。社会保障制度は、少子高齢化を前提とする今後の日本社会にとって、最も重要な社会経済制度と位置づけられるものの一つになっています。そして、たとえば経済体制のかなりの部分が、何らかの形で社会保障制度と関係するようにさえなってきています。そこで、現行の日本の社会保障制度の基本的な仕組みや特徴を理解することが講義のねらいとなります。

到達目標
この講義で学ぶ様々な社会保障制度がなぜ必要とされているか、どのような経緯で成立させられてきたのか、そして、将来に向けてどのような課題があるのか。将来の日本の社会保障のあり方をめぐる意欲的な学説や見解に注目し、それらを学ぶことを通じて、社会保障論の要点を理解することが講義の到達目標となります。

成績評価方法･課題･フィードバックの方法
毎授業ごとのミニッツペーパーで40％評価し、学期末の試験で60％評価します。（ミニッツペーパー評価基準はガイダンス時に説明します。授業ごとの提出ミニッツペーパーや質問等には、MOODLEを通じて、評価結果や応答をフィードバックします。）

事前・事後学習
毎回の授業後、ミニッツペーパー（小レポート）を書いてもらい、次の授業までに提出してもらいます。また、授業前に必ず講義ノートを復習して授業にのぞんでください。（ミニッツペーパー作成、復習、計60分以上）
さらに、毎週、参考文献、あるいは、新聞やウェブなどでの社会保障関係の記事など、授業内容に関連した資料から学習してください。（30分以上）

授 業 計 画
第１講　ガイダンス、「人生前半の社会保障」とは～その1
第２講　「人生前半の社会保障」とは～その2
第３講　ライフサイクル論
第４講　日本の社会保障の特徴
第５講　社会保障をめぐる新しい課題
第６講　教育と社会保障
第７講　若者基礎年金構想
第８講　年金論
第９講　福祉国家および再分配論
第10講　定常型社会論と社会保障
第11講　資本主義論と社会保障
第12講　環境論と社会保障
第13講　総合政策論と社会保障
第14講　医療政策論～その１
第15講　医療政策論～その２
定期試験

テキスト・教材（参考文献含む）
テキスト
広井良典『持続可能な福祉社会』2006年、ちくま新書
テキストの内容に沿った書き込み式の講義ノートを毎回配布します。
参考文献
広井良典『人口減少社会のデザイン』2019年、東洋経済
椋野美智子ほか『はじめての社会保障』2020年、有斐閣

担当者から一言
社会保障制度の知識は今日きわめて重要かつ有用なものとなっています。ぜひ関心を持って、しっかり学習してください。細かな知識を覚える必要はありません。なぜ、そのような制度となっているのか、意味を理解するように学んでください。

地域社会学

科目ナンバリング	2年次	2単位
PCD2003	前学期	選　択

三田泰雅

授業の位置づけ
系統的に学修し、進路に即した人間力の根幹を形成する。

授業のねらい
この授業では地域社会を社会学的に考える方法を学びます。地域社会を語る語彙と視点を身につけることが目標です。

到達目標
現代社会を考えるための基礎的知識を身につけ、より広い視点から地域の問題を考えられるようになる。

成績評価方法･課題･フィードバックの方法
＜評価＞毎回の小レポート30％、中間試験35％、期末レポート35％
＜フィードバック＞小レポートは翌週の授業内でコメントする

事前・事後学習
新聞･ニュースに目を通す（１日30分）。

授 業 計 画
第１講　ガイダンス
第２講　都市の成長
第３講　都市の人間関係
第４講　都市空間の家族と親族
第５講　都市の社会集団
第６講　都市の類型
第７講　都市と社会階層
第８講　家と村
第９講　グローバル化と地域社会
第10講　大学と地域
第11講　まとめ①
第12講　社会地図を作る①
第13講　社会地図を作る②
第14講　社会地図を作る③
第15講　まとめ②

必要に応じてグループワークを行います。

テキスト・教材（参考文献含む）
＜参考文献＞
森岡清志編『地域の社会学』有斐閣、2008年。

担当者から一言
コンピュータ教室での実習があります。学生諸君の積極的な参加を期待します。

環境社会学

実務

科目ナンバリング	2年次	2単位
PCD2006 EEP2005	後学期	選　択

村田静昭

授業の位置づけ

総合政策：系統的に学修し、進路に即した人間力の根幹を形成する。
環境情報：地域の持続的発展のために貢献できる・環境に関する専門知識・技術を習得し、環境の個々の問題に取り組ことができる。

授業のねらい

環境権すなわち快適な環境の下で生活する権利が基本的人権として認められています。このような権利は環境破壊とその改善への戦いの歴史の成果です。環境破壊は生活を便利で安全なものにしてくれた科学技術の光に対する影の側面でもあります。授業では、現在も続いている環境破壊との戦いのためだけでなく新たな発生を食い止めるための知識をこのような歴史から学びます。

到達目標

公害を始めとする環境破壊の歴史(原因･広がりなどの変遷)を知る。
環境破壊抑制への取り組みと成果の歴史について理解する。
現在進行中の環境破壊と改善への取り組みについて考察する。
より良い生活の獲得といった視点から環境破壊とのバランスを考察する。
新たな環境破壊の未然防止･被害抑止に必要な知識を考察する。

成績評価方法･課題･フィードバックの方法

授業中での口頭による課題発表とレポート提出　50%
定期試験　50%
必要に応じてフィードバックします。

事前・事後学習

授業では皆さんとのディスカッションをできるだけ取り入れていきます。授業中に課題を出しますので次回の授業にはレポートとして提出してください (60分)。一部の学生さんには授業中にその内容を発表してもらいディスカッションします。この授業では日々の生活そのものも教材になりますから、授業中に扱った内容だけでなく関連するニュースや話題にも注意を払い考察を深めそれを自分の言葉で説明できるように心がけて下さい(毎日20分程度)。

授 業 計 画

第１講　ガイダンス　(快適な環境とはどのようなものか)
第２講　環境破壊の歴史１　公害の発生源とその変遷
第３講　環境破壊の歴史２　公害被害の範囲とその変遷
第４講　環境破壊の歴史３　グローバルな被害の拡大
第５講　環境破壊の歴史４　加害者と被害者の不明確化
第６講　環境破壊の歴史５　時間と世代を超えた被害の拡大
第７講　人類生存の脅威の歴史１　疾病との戦い
第８講　人類生存の脅威の歴史２　食料増産
第９講　便利で安全な生活を支える新材料１　有機塩素化合物
第10講　便利で安全な生活を支える新材料２　合成樹脂･合成繊維
第11講　科学技術の光と影
第12講　有害物質の抑制に関連する科学技術的問題
第13講　有害物質の抑制に関連する社会的問題
第14講　未来への責任
第15講　まとめ
定期試験

テキスト・教材（参考文献含む）

テキストはありません。参考となる文献･資料･図書については都度紹介します。

担当者から一言

四日市市には四日市ぜんそくの克服に取り組んだ貴重な歴史があります。現在深刻化しているさまざまな環境問題に取り組むためにこのような歴史を学びます。授業では高等学校における化学･物理･生物の基本的な内容が出てきますが、分からないことがあったらその場で質問するようにしてください。

食とまちづくり

実務

科目ナンバリング	1年次	2単位
PCP2001	前学期	選　択

小林慶太郎

授業の位置づけ

地域を志向した学修を通じて地域社会に貢献する人材になる。
幅広い人間力を身につける。

授業のねらい

この授業では、食とまちづくりについて扱っていきます。近年、まちづくりとの関係から注目されるようになってきている食文化。この授業では、食文化を通じたまちづくりの可能性について、四日市とんてきなどの食を通じて実際にまちづくり活動に取り組んでいる方々を講師に迎えて話を聞いたり、各地域の食文化や取り組みの違いについて探求したりすることを通じて学びます。学生諸君が、まちづくり活動の実際を五感を通して学び感じ取ってくれることを、ねらいとしています。

到達目標

この授業では、学生諸君が、まちづくりの実際を知ることを経て、まちづくりについての自分なりの考え方を身につけることを、到達目標としています。

成績評価方法･課題･フィードバックの方法

欠席４回以上の者には、原則、単位は与えません。成績は以下の配分により評価します。
･グループワークや実習への取組姿勢:75%
･定期試験(レポート)：25%
なお、グループワークや実習で出された質問に対しては、コメントを返します。

事前・事後学習

日頃から食やまちづくりに関するテレビや新聞のニュースに目を通すこと (90分／週)。ご当地グルメを求めて積極的に情報を収集すること(１泊分の旅行に相当する程度の情報)。

授 業 計 画

第１講　ガイダンス:まちづくりとは何だろう
第２講　方法･地域資源･担い手
第３講　地域資源とSWOT分析
第４講　四日市の特徴と魅力(グループワーク)
第５講　四日市の魅力を伝えるために(グループワーク)
第６講　地域資源と食
第７講　まちづくりと参加･協働･ダイバーシティ
第８講　四日市の地域課題と四日市とんてきによるまちおこしの取り組み
第９講　B-1グランプリと四日市
第10講　津ぎょうざ小学校の取り組み
第11講　農林水産業と食材
第12講　食品加工と６次産業化
第13講　飲食店とナイトエコノミー
第14講　食と観光
第15講　食によるまちづくりの課題と可能性(グループワーク)
定期試験(レポート提出)

※ 新型コロナウイルスの感染拡大の状況などによっては、変更になる場合があります。

テキスト・教材（参考文献含む）

なし(必要に応じて資料を配布する場合があります)
【参考文献】
俵慎一「Ｂ級ご当地グルメでまちおこし」学芸出版社(2011年)、1,900円＋税

担当者から一言

今年度も実習はできない見込みですが、もし状況が好転し、食を活用したイベントなどが開催される際には、積極的に参加するようにして下さい。なお､実習先までの交通費は､原則として個人負担となります。

祭りとまちづくり 実務	科目ナンバリング	２年次	２単位
岩崎恭典・前田憲司　他	PCO2003	前学期	選　択

授業の位置づけ

地域を志向した学修を通じて地域社会に貢献する人材になる。
幅広い人間力を身につける。

授業のねらい

地域の文化は、そこに生活する人々によって育まれている。しかし、高齢化や生活様式、価値観の多様化により、伝統文化の継承は、危機に瀕している場合が多い。

この講義では、「大入道山車」（三重県指定有形民俗文化財）、富田の鯨船行事（ユネスコ文化遺産）を事例として、伝統文化の保存・継承には、どのような課題があるか、保存・継承の持つ意味を、実際に祭りや保存活動に参加することにより、考えてもらおうとするものである。

到達目標

講義と実習を通じて、祭りの持つ意味と、祭りの果たす地域統合の役割について学び、自分自身がこれからの地域社会で何ができるのかを明確にすることを到達目標とする。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法

成績評価については、組立実習や祭りなどへの取り組み意欲（50％）、レポート（Ａ４版３枚以上）の評価（50％）により行う。現地実習に際しては、その都度、振り返りを行う。
講義については、いわゆる「大福帳」を用いてフィードバックを行う。

事前・事後学習

講義期間中については、専門家による講義もあるので、前回までの講義内容の復習をしておくことが必要である。実習期間までに、間があるので、講義内容は実習までに復習しておくこと。
また、形態の異なる３つの実習に参加するので、それぞれについて、復習が必要である（１日30分）。

授 業 計 画

第１講　ガイダンス
第２講　地域文化の意味（岩崎）
第３講　祭礼とイベント　第３～７講担当者…前田憲司氏（芸能評論家）
第４講　四日市祭の歴史
第５講　四日市祭の現在
第６講　四日市祭の課題
第７講　保存継承の問題点と今後の課題
第８講　岩戸山の復活　講義（岩戸山保存会会長）
第９講　大入道山車の保存継承上の課題　講義（大入道保存会会長）
第10講　富田鯨船の保存継承上の課題　講義（富田鯨船中島組会長）
第11講　現地実習①　７月23日　土曜日　終日（大入道の組み立てへの参加）
第12講　現地実習②　８月７日　日曜日　終日　大四日市祭　岩戸山、大入道の演技への参加
第13講　現地実習②　８月７日　日曜日　終日　大四日市祭　岩戸山、大入道の演技への参加
第14講　現地実習③　８月15日　月曜日　終日　富田鯨船行事への参加
第15講　現地実習③　８月15日　月曜日　終日　富田鯨船行事への参加

テキスト・教材（参考文献含む）

なし。必要に応じてレジメを出す。

担当者から一言

この講座は、四日市市中納屋町大入道保存会のご協力を得て過去14年にわたって開講しているものである。地域の祭りに主体的に参加してみようとする学生諸君の参加を望む。
なお、コロナ禍のため、夏の祭りの実習ができない場合には、不開講となる場合がある。履修登録までには、開講か不開講かを確定させる。

音楽とまちづくり 実務	科目ナンバリング	２年次	２単位
鬼頭浩文・前川督雄	PCO2006 EMS2003	後学期	選　択

授業の位置づけ

総合政策：地域を志向した学修を通じて地域社会に貢献する人材になる・幅広い人間力を身につける。
環境情報：地域の持続的発展のために貢献できる・メディアに関する専門知識・技術を習得して、独自の視点で情報発信できる。

授業のねらい

四日市市では、「街は劇場、通りは舞台　主役はあなた♪」の合言葉のもと、2012年から、市民ボランティアが中心になって「四日市JAZZフェスティバル」が開催されています。この授業では、「四日市JAZZフェスティバル」を通じて街のにぎわいを創り出そうと取り組んでいる方々を講師に迎えて話を聞いたり、実際に現場に出かけて行ってボランティアスタッフとしてこの活動のお手伝いをしたりする予定です。学生諸君が、音楽イベントを通じたまちづくり活動の実際を五感を通して学び感じ取ってくれることを、ねらいとしています。

到達目標

多様な背景を持つ四日市の市民が協働してつくりあげている四日市JAZZフェスティバルにかかわることを通して、地域の発展に貢献できる能力を身に着ける。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法

現地実習に取り組む姿勢・パフォーマンス30％、講義で課す課題40％（①～⑧）、定期試験（レポート）30％で総合評価する。

事前・事後学習

フェスまでに、ユーチューブなどでこのイベントだけでなく、多くの音楽フェスについて視聴しておきたい。また、イベント後には、裏方の仕事、フェスをする場合の手続きなどについて調べていただきたい。

授 業 計 画

第１講（９／29）ガイダンス（鬼頭・前川）
第２講（10／６）JAZZフェスとまちづくり（実行委員長柳川さん）①
第３講（10／13）イベントに向けた心構えと詳細打ち合わせ（実行委員会 山川さん、鬼頭・前川）②
第４・５講（10／15）現地実習
第６～９講（10／16）現地実習
第10講（10／27）四日市JAZZフェスティバルの会場設営（実行委員会 堀木さん）③
第11講（11／３）四日市JAZZフェスティバルの経費と協賛（実行委員会 阪さん）④
第12講（11／10）四日市JAZZフェスティバルの発信とメディア（実行委員会 山川さん）⑤
第13講（11／17）人間と音（前川）⑥
第14講（11／24）まつりによる伝統的共同体の組織化（前川）⑦
第15講（12／１）環境音とまちづくり（前川）⑧
（12／８以降は予備日）
定期試験（レポート提出）
＊都合により講義計画が変更になる可能性があります。
＊現地実習を遅刻・欠席した者には単位は与えません。

テキスト・教材（参考文献含む）

フェスのパンフレットなどを配布します。

担当者から一言

最も重要な現地実習に参加できない学生は、単位の修得が極めて困難になります。

鉄道とまちづくり

実務

科目ナンバリング	2年次	2単位
PCO2007	後学期	選　択

岩崎恭典

授業のねらい

自動車が移動手段として普通となっている北勢地域であるため、どの鉄道会社も、通勤・通学客の減少によって、苦境にあることは事実である。

では、このまま、鉄道は消え去る運命にあるのだろうか。

この講義では、今後の超高齢社会のなかでは、必要性が高まるに違いないはずの鉄道事業者たる三岐鉄道を素材として、その経営戦略を具体的に学ぶとともに、地域社会はどうあるべきか、公共交通体系はどうあるべきか、そのためには、企業とともに我々住民はどうあるべきかを、具体的に学ぼうとするものである。

到達目標

この講義を通じて、公共交通の重要性を知るとともに、そのために住民としてどう行動すべきかを知り、また、鉄道の利用者増を目指したさまざまなイベントのノウハウを取得することも到達目標とする。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法

成績評価は、研究テーマへの取り組み意欲（50%）、成果報告のプレゼンテーション結果の評価（50%）により行う。現地視察、サンタ電車の運行を含む毎回の講義については「大福帳」を通じてフィードバックを行う。

事前・事後学習

地方鉄道の苦境、特に近隣のあすなろう鉄道や養老鉄道、伊賀鉄道の動向を伝える新聞記事、ネット情報を収集しておくように。イベント企画や事例研究の際に役立つであろう（1日30分）。

授業の位置づけ

地域を志向した学修を通じて地域社会に貢献する人材になる。
幅広い人間力を身につける。

授業計画

第1講　ガイダンス　開講の狙い　三岐鉄道の経営戦略　講義（担当者…岩崎）
第2講　10月2日・日曜日を予定　現地見学　北勢線を実際に乗り回し、ボランティア運営による施設（軽便鉄道博物館、貨物鉄道博物館等）、東員駅のCTC等を見学する
第3講　10月2日・日曜日を予定　現地見学　北勢線を実際に乗り回し、ボランティア運営による施設（軽便鉄道博物館、貨物鉄道博物館等）、東員駅のCTC等を見学する
第4講　鉄道とまちづくり　北勢地域の鉄道　講義（岩崎）
第5講　三岐鉄道の鉄道事業概要　講義（㈱三岐鉄道鉄道部長及び担当者）
第6講　個別研究のテーマ出し
第7講　テーマ別の研究班編成
第8講　研究班ごとのグループワーク
第9講　研究班ごとのグループワーク
第10講　研究班ごとのグループワーク
第11講　研究班ごとのグループワーク
第12講　サンタ電車運行準備
第13講　サンタ電車運行準備
第14講　12月17日・土曜日を予定　北勢線サンタ電車運行
第15講　グループワーク成果報告会・反省会、レポート提出

テキスト・教材（参考文献含む）

教材は、コピーにて配布する。希望者には、㈱三岐鉄道・四日市大学総合政策学部編「地域活性化に地方鉄道が果たす役割－三岐鉄道の場合」（2008年9月、交通新聞社）を貸し出す。

担当者から一言

この講座は、三岐鉄道の全面的な協力により実施されるものです。実際に、三岐鉄道の事業に触れて、鉄道の存続に賭ける社員の情熱を感じてください。
講義、実習、ゼミ形式と様々な形式で行われますから、特に日程に注意して下さい。

コミュニティ論

科目ナンバリング	1年次	2単位
PCO2002	後学期	選　択

岩崎恭典

授業のねらい

この講義では、主として包括的な地縁組織として深く住民の生活に関わっている町内会・自治会（以下、町内会）を取り上げる。

市町村合併終了後、狭域の自治を育む仕組みとして、町内会は再評価されている。しかし、その一方で、自治体行政の下請機関化した町内会を、そのまま、新しい自治の単位とすることについては、多くの危惧がある。

そこで、講義では、町内会の歴史を辿り、問題点や課題を整理し、自治の単位としての「近隣政府」の可能性を追及し、実習を通じて、新たな地縁組織の必要性について理解する。

到達目標

1．地縁組織としての町内会の歴史的な役割を理解し、コミュニティとの違いを理解する。
2．さらに、今後の地域社会のなかでの団体の果たすべき役割と個人としての関わり方を、
3．実際の町内会の運営を理解することにより知る。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法

講義への出席は前提である。定期試験55%、県内の実地調査による地域自治組織のレポートあるいは課題図書のレポート45%の割合で評価する。
講義に際しては、「大福帳」を使用し、講義内容についての質疑応答を行う。

事前・事後学習

諸君が居住する地域で町内会・自治会がどのような状況にあるか、日常的に関心を持ってみておくように。レポートの題材となる場合もある。
講義は、町内会の歴史的変遷を扱うことから、予習・復習は欠かせない。また、フィールドワークを実施する際には、十分な事前準備が必要となる（1日30分）。

授業の位置づけ

地域を志向した学修を通じて地域社会に貢献する人材になる。
幅広い人間力を身につける。

授業計画

第1講　ガイダンス　現地調査プランの提起とレポートの詳細提示
第2講　地域団体とは何か、町内会の現状と課題
第3講　町内会の歴史　1
第4講　町内会の歴史　2
第5講　町内会の歴史　3
第6講　町内会の展望　なぜ、今、近隣政府か
第7講　事例研究に向けて　四日市市における町内会の概要について
第8講　事例研究に向けて　大学近隣の町内会の現状について（四日市市内の町内会役員）
第9講　事例研究　町内会の取り組み実習　大学の所在する地元・八郷地区自治会連合会の「八郷フェスティバル」への参加　11月中旬の土曜日あるいは日曜日を予定
第10講　事例研究
第11講　事例研究
第12講　事例研究
第13講　まとめ　1　事例研究　報告会
第14講　まとめ　2　事例研究　報告会
第15講　まとめ　3　近隣政府をつくるための住民団体の役割とは何か
定期試験

テキスト・教材（参考文献含む）

なし、レジメと資料を配布する。

担当者から一言

町内会は、風土の賜物といわれるぐらい、地域によってそのあり方が違います。そこで、フィールドワークをしてもらいます。その日程は、土日が中心になりますが、参加は必須です。活発に活動されている地域の高齢者の方々と話をしてみてください。

NPO論 実務	科目ナンバリング	2年次	2単位
松井真理子	PCO2005	前学期	選　択

授業の位置づけ

地域を志向した学修を通じて地域社会に貢献する人材になる。
プレゼンテーション・コミュニケーションの能力を身につける。

授業のねらい

社会を構成している３つのセクター（政府、企業、市民）のうち、市民セクター（市民社会ともいいます）は他のセクターとは異なる特徴と重要性があります。四日市市の市民セクターにはさまざまな担い手が活動していますが、どのような担い手が、どんな活動を行っているのかを、地域の実践家を招いて具体的に紹介します。これらを通じて、市民セクターの存在意義を深く理解するとともに、市民が市民を支える社会づくりへの参画の一歩とします。

到達目標

1　市民社会の基本理念を理解する。
2　多様な市民社会の担い手の存在を理解する。
3　市民社会が抱える課題や、それに対する新しい方向性について理解する。
4　市民が市民を支える社会づくりについて関心を高め、一歩を踏み出す。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法

毎講義時の課題　　30％
定期試験　　70％
毎講義時の課題として提出された内容について、次回の授業でフィードバックする。

事前・事後学習

（授業前）日頃からテレビや新聞のニュースに目を通しておくこと（毎日30分程度）
授業内容について事前に予習しておくこと（60分）
（授業後）学んだ内容を復習し、インターネット等で関連する文献を読むこと（90分）

授業計画

第１講　ガイダンス・市民活動とは何か（１）
第２講　市民活動とは何か（２）
第３講　さまざまな市民活動
第４講　ささえあいのまち創造基金公開プレゼンテーション参加（実習）
第５講
第６講　NPOの機能（１）公共サービス提供
第７講　NPOの機能（２）コミュニティづくり
第８講　NPOの機能（３）アドボカシー
第９講　若者とNPO活動
第10講　NPOと資金
第11講　社会的企業・コミュニティビジネス
第12講　中間支援組織
第13講　新しい公共
第14講　NPOの作り方
第15講　まとめ

テキスト・教材（参考文献含む）

毎回講義時に、教員が作成した資料を配布します。

担当者から一言

ボランティアセンターが紹介する地域のボランティア活動にも、ぜひ参加してください。

マイノリティ政策	科目ナンバリング	1年次	2単位
小林慶太郎	PRP2001	前学期	選　択

授業の位置づけ

系統的に学修し、進路に即した人間力の根幹を形成する。
幅広い人間力を身につける。

授業のねらい

この授業では主に、マイノリティ（少数者）に関する政策について扱っていきます。一口にマイノリティといっても、少数民族や外国人、性同一性障害者や同性愛者、障害者や難病患者など、その内訳は様々です。また、時と場合によっては誰しもがマイノリティになる可能性も持っています。しかしながら、これまでしばしばマイノリティは、その存在が無視されたり差別の対象となってきたりしました。この講義は、こうしたマイノリティの存在を知ることで社会の多様性に気づき、寛容な心を持つようになってくれることを、ねらいとしています。

到達目標

この授業では、学生諸君が、日本の社会においてマイノリティが直面している様々な問題に関する基本的な知識を身につけ、マイノリティの存在を念頭に置いた思考が出来るようになることを、到達目標としています。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法

成績は次のような配分により評価します。
・講義時に指示する簡単な課題の提出状況および受講態度：30％
・定期試験（自筆ノートのみ持込可）：70％
なお、講義時に提出した課題に書かれていたコメントに対しては、以降の講義で応答していきます。

事前・事後学習

日頃からテレビや新聞の社会ニュースに目を通すこと（毎日20分以上）。講義内容のノートを見返して、不明な点などは参考文献等で調べておくこと（40分）。

授業計画

第１講　ガイダンス：この講義の進め方
第２講　あなたの隣のマイノリティ（グループワーク）
第３講　民族と国民国家
第４講　棲み分けか統合か　～諸外国のケースから～
第５講　日本における少数民族政策
第６講　もう一つの民族問題 在住外国人
第７講　日本における在住外国人政策
第８講　地域における在住外国人政策
第９講　セクシュアルマイノリティとLGBT
第10講　トランスジェンダーと性同一性障害
第11講　同性愛・両性愛と異性愛
第12講　性感染症をめぐる差別とタブー
第13講　地域におけるセクシュアルマイノリティ政策
第14講　日本の歴史の中のマイノリティ
第15講　これからのマイノリティ政策（グループワーク）
定期試験

※ 新型コロナウイルスの感染拡大の状況によっては、変更になる場合があります。

テキスト・教材（参考文献含む）

テキストは使いません（必要に応じてプリントを配布する場合があります）。
【参考文献】
小林慶太郎「LGBTと自治体行政」時事通信社（2016年）、650円＋税

担当者から一言

遅刻や、講義中の中座、飲食、私語、携帯電話の鳴動などは、原則禁止します。これらのことが守れない者には、退室を命ずることがあります。出席する以上は、真剣な態度で受講して下さい。また、講義中に指名されたら、元気に返事をするようにして下さい。

環境政策

科目ナンバリング	2年次	2単位
PRP2002 EEP2003	前学期	選　択

岡　良浩・鬼頭浩文・千葉　賢

授業の位置づけ

総合政策：地域を志向した学修を通じて地域社会に貢献する人材になる。
環境情報：地域の持続的発展のために貢献できる。

授業のねらい

環境を守ることはとても大切なことだが、環境改善の努力が他の環境破壊を生んだり、資源の無駄づかいを発生させたりすることがある。環境政策を考える場合、ある環境問題を解決する対策のメリットとデメリットを、総合的に冷静に比較することが求められる。この講義はオムニバス形式で進め、地元や海外のローカルな環境問題からグローバルな問題まで多面的に取り上げ、環境政策について学習していく。

到達目標

環境問題の持つ難しさや環境改善の手法を多面的に理解することを通し、環境政策に関する問題を総合的に考える力を身につけ、最終的には地域の持続的発展に貢献する力を身に着けることが到達目標である。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法

小レポート５点×15回として全体の75％、学期末試験25％の配分で、総合的に評価する。フィードバックとして、小レポートから課題の解説や学生の主な間違いを指摘し、要望のある学生には課題の点数を伝える。

事前・事後学習

シラバスをもとにインターネットなどで事前に情報収集（毎回１時間程度）しておくことが望ましい。小レポートでは、講義を振り返るだけでなく、各自で事前に調べたこと、考えたことも踏まえ、書いてほしい。

授 業 計 画

4/11　第１講　ガイダンス・ゴミ問題から環境政策を考える（岡）
4/18　第２講　循環型社会とリサイクル①（岡）
4/25　第３講　循環型社会とリサイクル②（岡）
5/9　第４講　災害ゴミの処理（鬼頭）
5/16　第５講　四日市公害と中国の大気汚染対策①（鬼頭）
5/23　第６講　四日市公害と中国の大気汚染対策②（鬼頭）
5/30　第７講　四日市公害と夜景クルーズ（ゲスト講師＝寺本）
6/6　第８講　ICETTの取り組み（ゲスト講師＝ICETTより）
6/13　第９講　地球温暖化の仕組みと現状①（鬼頭）
6/20　第10講　三重の地球温暖化対策（ゲスト講師＝三重県）
6/27　第11講　映像で観る今日の環境政策の課題①（鬼頭）
7/4　第12講　映像で観る今日の環境政策の課題②（鬼頭）
7/11　第13講　映像で観る今日の環境政策の課題③（鬼頭）
7/18　第14講　映像で観る今日の環境政策の課題④（鬼頭）
7/25　第15講　まとめと講義の振り返り（鬼頭）
＊オムニバスのため、変更が予想されます。ユニパや掲示板に注意してください。

テキスト・教材（参考文献含む）

講義でプリントを配布する。

担当者から一言

仕事の上でも、生活でも、とても大切な環境問題と政策を、多面的に学ぶのがこの講義の目的である。講義では、環境問題を冷静に幅広い視点で考える方法を身につけていく。

総合政策学部：観光政策
環境情報学部：環境保全とツーリズム

科目ナンバリング	2年次	2単位
PRP2003 EEP2004	前学期	選　択

岡　良浩・千葉　賢

授業の位置づけ

総合政策：地域を志向した学修を通じて地域社会に貢献する人材になる・プレゼンテーション・コミュニケーションの能力を身につける。
環境情報：地域の持続的発展のために貢献できる・多様な社会の価値観を理解し、自分の考えを的確に表現し、伝えることができる。

授業のねらい

新型コロナの影響で停滞しているが、日本はインバウンド観光を利用した地域の活性化に力を入れている。本授業ではインバウンド観光を含め、日本人も対象としたツーリズムによる経済活性化と地域おこしの方法と事例について学ぶ。また、自然環境と歴史文化資源などの地域の魅力を観光に生かす方法を学ぶ。授業の後半で、地域魅力発見体験合宿を行い、地域の方々と触れあい、田舎暮らしを体験し、地域の仕事を手伝う。この中で、地域の魅力を自分の目で発見する。これら経験をまとめてプレゼンする能力の育成も行う。

到達目標

ツーリズムによる地域経済の活性化や地域おこしの手法を学ぶとともに、それに関連した自然環境と歴史文化資源の保全の重要性を理解できるようになる。地域魅力発見体験合宿を通じて、地域の隠れた観光資源を発掘する方法を習得する。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法

講義と合宿の取組み姿勢（60％）、合宿成果発表会（20％）、合宿成果レポート（20％）により評価する。合宿に参加しない者、合宿成果発表会で発表しない者、合宿成果レポートを提出しない者には単位を与えない。実習時や成果発表会を通じて学生に学習進度をフィードバックする。

事前・事後学習

マイクロツーリズム、グリーンツーリズムなどの資料、答志島の自然資源や歴史文化資源の資料を配布するので、予習（180分）して授業に臨むこと。

授 業 計 画

第１講　ガイダンス、ツーリズムとは
第２講　ツーリズム概論（講師：岡）
第３講　ツーリズム概論（講師：岡）
第４講　ツーリズム概論（外部講師）
第５講　ツーリズムと環境問題（講師：千葉）
第６講　ツーリズムと環境問題（講師：千葉）
第７講　地域魅力発見合宿のガイダンス（講師：岡、千葉）
第８講　地域魅力発見合宿１
第９講　地域魅力発見合宿２
第10講　地域魅力発見合宿３
第11講　地域魅力発見合宿４
第12講　地域魅力発見合宿５
第13講　地域魅力発見合宿６
第14講　合宿成果発表会（合宿地にて）（講師：岡、千葉）
第15講　合宿成果発表会（合宿地にて）（講師：岡、千葉）
レポート　合宿成果をレポートとして提出

定員：合宿を行う関係から、履修者数を制限する場合がある（重要）。
説明会：４月の昼休み等に実施する予定
第１－７講：８月上旬から中旬
第８－15講（合宿）：８月下旬から９月上旬（３泊４日前後）
合宿予定地：鳥羽市答志島桃取町
コロナの状況によっては合宿に替えて、別の観光地とすることもある（重要）。
合宿費用、旅費：学生負担。ただし、大きな負担にならないように配慮する。
食事：自炊

テキスト・教材（参考文献含む）

なし。資料を配布する。

担当者から一言

田舎暮らしを体験し、地域の方々と触れ合い、地域の魅力を発見し、それを発表するアクティブラーニング形式の授業です。観光産業に興味のある人、農業、漁業、田舎暮らしや神社仏閣や史跡に興味のある人、企画好きな人は是非参加してください。

経済政策

科目ナンバリング	2年次	2単位
PRP2005	後学期	選　択

鬼頭浩文

授業のねらい
この講義では、経済政策の効果について考えていく。この経済政策の効果は、まず「競争」についての知識がないと理解できない。ここでは映像や外部講師により、直感的・感覚的に「競争」を感じながら学んでいく。そこでは、できるかぎり事例を紹介しながら説明する。講義の後半には、実際の日本の経済政策について各自で調べ、資料を作成していく課題に取り組む。その上で、テーマごとにディスカッションを通し、より深く経済政策を理解する。

到達目標
経済政策について深く理解し、自分の考えをレポートにまとめる力を身につけることが目標である。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法
毎回Moodleで提出するレポート(75%)、学期末試験(25%)により、総合的に評価する。フィードバックとして、課題の解説や学生の主な間違いをMoodle上で指摘する。

事前・事後学習
レポートや課題に取り組む準備学習・事後学習の時間を確保すること。必要な時間は、レポート各3時間(15時間)ほど、課題は各10時間ほど(20時間)が必要である。また、期末試験に向けて、授業全体を振り返る復習が10時間ほど必要である。

授業の位置づけ
系統的に学修し、進路に即した人間力の根幹を形成する。

授業計画
9/28　1:ガイダンス
10/5　2:コロナ禍の金融政策
10/12　3:金融制度の裏側を知る
10/19　4:中国の医療に関する政策①
10/26　5:中国の医療に関する政策②
11/2　6:日本の医療保険と生活保護①
11/9　7:日本の医療保険と生活保護②
11/16　8:独占禁止政策①
11/23　9:独占禁止政策②
11/30　10:独占禁止政策③
12/7　11:実際の独占禁止政策(講師:公正取引委員会)
12/14　12:コロナ禍の地域経済政策
12/21　13:震災復興の財政政策
1/11　14:震災復興の金融政策
1/18　15:講義の振り返り

テキスト・教材（参考文献含む）
テキストは購入しない。講義でプリントを配布する。

担当者から一言
提出されたレポートや課題によって理解度を厳しく判定する。楽しくて、かつ社会に出て役立つ何かを獲得できる講義を目指す。

都市政策

科目ナンバリング	2年次	2単位
PRP2004	前学期	選　択

藤本和弘

授業のねらい
地域・まちづくり分野においては、地域づくりやまちづくりの現状や課題を学ぶことが最重要と考える。都市政策を、まちづくりの実態を学ぶ主要な機会と位置付け、その成り立ち、構造、仕組み、実態、課題等を体系的かつ論理的に学ぶ。その学びを通じ、将来、官民いずれの職に赴こうとも、政策遂行や社会動向に関心を持ち、かつ理解でき、自らの立場を組織や社会に生かせるよう学修できることを目指す。

到達目標
毎日報道されている新聞記事やニュース内容、さらには、政策動向に関する図書について、理解が早まること。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法
以下のような配分で評価する。
講義時に提示する簡単な課題への提出状況及び受講態度　50%
定期試験時に提出してもらう、これまでの講義に即したレポート課題　50%
なお、毎回提出してもらう課題については、次週回において説明する。

事前・事後学習
事前学習では、毎日、新聞やニュースを見ること(30分)。
新聞やニュースで見た政策動向に関する図書を読むこと(60分)。
事後学習では、レジメやノートを見直し必要事項を覚える。また、不明なキーワード等は、調べておくこと(90分)。

授業の位置づけ
地域を志向した学修を通じて地域社会に貢献する人材になる。
系統的に学修し、進路に即した人間力の根幹を形成する。
幅広い人間力を身につける。

授業計画
1. ガイダンス、都市政策とは
2. 都市政策の歴史
3. 都市政策の構造と手法
4. 都市政策のハード
5. 都市政策のソフト
6. 「住む」都市政策
7. 「働く」都市政策
8. 「憩う」都市政策
9. 「移動する」都市政策
10. 総合的都市政策の必要生
11. 持続可能な都市政策
12. 都市、農村・山村・漁村連携のあり方
13. 都市間連携のあり方
14. 広域連携のあり方
15. 地域政策としての都市政策

テキスト・教材（参考文献含む）
なし。

担当者から一言
講義中における遅刻、中座、飲食、私語、携帯電話の鳴動並びに使用は禁止する。守られない者には、退出を命じることがある。真剣で誠実な態度で受講すること。講義中に指名されたら元気に返事すること。

交通政策

本部賢一

科目ナンバリング	2年次	2単位
PRP2006	後学期	選　択

授業のねらい

地域の交通政策づくりは、生活交通だけでなく、地域福祉の課題でもあり、教育、地域コミュニティなど住民が地域で生きていく上での土台となる総合的な社会的政策づくりです。

本講義では、交通政策づくりを進めるため、①「地域交通政策を考える上での基本的な認識と考え方」、②「まちづくり、福祉、教育、交通安全など地域の課題とともに交通問題を解決していこうとする各地の取り組み事例」、③「人口減少・高齢社会における地域交通政策に必要な要件とその政策を実現する運動の進め方」などについて学びます。

到達目標

授業を受けた皆さんが、今後生活の拠点とされる地域や公務員として従事される自治体職場での地域交通政策づくりに参加した際、地域の抱える問題の本質を見極めるとともに、他の地域における成功事例を参考にしながら、より良い政策提言を行なうことができる力を身につけることを到達目標としています。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法

成績は次のような配分により総合的に評価します。
・授業時に出す課題の提出状況および受講態度:40%
・定期試験:60%
なお、授業時に提出した課題については、添削の上、以降の授業で返却します。
４回以上欠席した学生には原則として単位を与えません。

事前・事後学習

配布されたプリントには必ず目を通し、疑問点を整理しておきましょう(90分程度)。
ノート整理を行い、不明なキーワードをインターネットで検索しましょう。単元ごとに課題(小レポート)が出されますので、必ず提出してください(90分程度)。

授業の位置づけ

地域を志向した学修を通じて地域社会に貢献する人材になる。

授業計画

第01講　ガイダンス(講義内容の説明)
第02講　地域交通が抱える課題
第03講　地域交通をめぐる国の動き
第04講　地域交通をめぐる自治体の動き
第05講　地域交通政策づくりとその実現を自治体に移譲する必要について
第06講　総合交通政策を市民参加でつくりあげた岐阜市(１)
第07講　総合交通政策を市民参加でつくりあげた岐阜市(２)
第08講　総合交通政策を市民参加でつくりあげた岐阜市(３)
第09講　総合交通政策を市民参加でつくりあげた岐阜市(４)
第10講　地域協議会でつくりあげた木曽岬町生活交通システム
第11講　市町村を超えた地域交通を確保する南信州広域連合(１)
第12講　市町村を超えた地域交通を確保する南信州広域連合(２)
第13講　市町村合併後の住民の足を200円バスで確保した京丹後市(１)
第14講　市町村合併後の住民の足を200円バスで確保した京丹後市(２)
第15講　講義のまとめ
定期試験

テキスト・教材（参考文献含む）

なし。(単元ごとにプリントを配布)

担当者から一言

スライドを見ながら口頭で説明する内容が多いので、ノートテイクが重要です。
講義中の遅刻、中座、飲食、携帯電話の使用などは禁止です。

総合政策学部：都市計画論
環境情報学部：都市環境論

岡　良浩

科目ナンバリング	3年次	2単位
PRP3001 EEP3005	前学期	選　択

授業のねらい

本講義ではさまざまな都市開発の経済分析について学ぶ。

第１は、道路・河川などの公共事業の評価を費用便益分析によって評価する。

第２は、都市開発プロジェクトの経済評価を主として産業連関分析を用いて評価する。

第３は、環境価値の経済評価である。都市開発には必ず環境を破壊する側面がある。近年、環境価値をどのように評価すればよいかという手法が開発されつつあり、環境価値の評価手法について解説する。

到達目標

以下の３点を到達目標とする。
①費用便益分析を理解するとともに公共事業について経済分析する基本的な技法を理解すること
②産業連関分析を理解するとともに都市開発について経済波及効果を分析する基本的な技法を理解すること
③環境の価値の評価手法を理解すること

成績評価方法・課題・フィードバックの方法

学期末のレポート試験(80%)
理解度を確認する小テスト(20%)
提出されたものは添削して返却します。

事前・事後学習

予習:テキストのあらかじめ指定した範囲を読んでおくこと(90分)。
復習:講義中に課される小テストを行ってください(90分)。

授業の位置づけ

地域を志向した学修を通じて地域社会に貢献する人材になる。

授業計画

第１講　ガイダンス
第２講　費用便益分析１　分析方法
第３講　費用便益分析２　評価方法
第４講　公共事業の費用便益分析１　道路事業
第５講　公共事業の費用便益分析２　河川・災害対策
第６講　公共事業の費用便益分析３　都市開発・農村整備
第７講　産業連関分析(手法の解説)
第８講　都市開発プロジェクトの経済効果(経済効果の計測方法)
第９講　プロジェクト事例１　過疎地域での観光振興
第10講　プロジェクト事例２　インバウンド対策の経済波及効果
第11講　環境価値のマクロ分析
第12講　環境の評価手法
第13講　環境価値の評価事例
第14講　四日市公害の経済分析
第15講　まとめ

テキスト・教材（参考文献含む）

特に使用せず必要に応じて講義中に資料配布します。

担当者から一言

この講義は経済学の応用分野であり、やや難易度が高いです。
「地域経済論」(分野必修)や「地域開発論」を先に受講することを勧めます。

からだとこころ

大西信行・杉崎一美・別所史子

科目ナンバリング	2年次	2単位
PSH2002	前学期	分野必修

授業の位置づけ

系統的に学修し、進路に即した人間力の根幹を形成する。
幅広い人間力を身につける。

授業のねらい

この授業では人のからだとこころの成り立ちと年齢に伴う変化について、発達の観点から学んでいく。発達とは一般に子どもが生まれ、大人になる過程での変化を指し、これには身長や体重、運動機能、知能や思考、感情、人間関係などの側面が含まれる。授業では誕生から死に至るまでの過程について、人間発達学及び生涯発達心理学の観点から概観する。また、からだとこころの健康の保持増進、メンタルヘルス不調の予防についても学ぶ。

到達目標

1．人の発達に関する基礎知識について理解する。
2．人の発達に関する心理的な知識と方法について理解する。
3．メンタルヘルスの保持増進について理解する。

成績評価方法･課題･フィードバックの方法

成績は以下のような配分により評価する。
1．レポート課題30%
2．定期試験70%　配布資料のみ持ち込み可とする。
授業中もしくは授業後に質問を受けつけ、適宜、授業内で回答していきます。内容によっては次回の講義で説明を追加します。

事前・事後学習

1．日常生活やメディアから人間発達や精神健康について関連することを見つけ調べてみる(毎日20分)
2．授業で学んだ内容について疑問や興味をもったこと、さらに詳しく知りたいと思ったことを文献等で調べてみる(40分)

授 業 計 画

第1講　ガイダンス、発達の基礎、ストレスとコーピング(杉崎)
第2講　こころのあらわれ成り立ち①(大西)
第3講　こころのあらわれ成り立ち②　グループディスカッション(大西)
第4講　こころの健康(大西)
第5講　発達理論とその歴史的展開(杉崎)
第6講　胎児期の発達(別所)
第7講　乳児期の発達(別所)
第8講　幼児期の発達(別所)
第9講　児童期の発達　グループディスカッション(別所)
第10講　思春期の発達(杉崎)
第11講　青年期の発達(杉崎)
第12講　成人期の発達①(杉崎)
第13講　成人期の発達②　グループディスカッション(杉崎)
第14講　老年期の発達①(杉崎)
第15講　老年期の発達②(杉崎)

テキスト・教材（参考文献含む）

1．担当教員が配布する資料と授業内で教員が示すスライドを中心とする。
2．参考文献：舟島なをみ「看護のための人間発達学」第5版　医学書院

担当者から一言

学んだことを自分自身の過去から将来の成長発達と関連づけたり、メンタルヘルスのコントロールに活かすようにしましょう。
講義中の飲食、私語、許可のないスマホの閲覧などは原則禁止します。
出席する以上は真剣な態度で受講して下さい。

こころの科学

若山裕晃

科目ナンバリング	2年次	2単位
PSH2003	後学期	分野必修

授業の位置づけ

系統的に学修し、進路に即した人間力の根幹を形成する。

授業のねらい

本講義では、対人関係の中で生きている人間の存在について、社会心理学的観点から検討する。社会的認知、対人相互作用、個人と集団等のトピックを取り上げ､社会と人間の関係についての理解を深める。

到達目標

自分自身の存在と社会との関係性について考察を加え、今後の社会生活にいかせる実践的な知識を身につける。

成績評価方法･課題･フィードバックの方法

レポートの内容(60%)及び定期試験(40%)で成績評価する。レポートは毎回提出することとし、1回4点満点で評価（4点×15回＝60点)。レポート等の評価は個別に開示する。

事前・事後学習

予習として、配付資料の次回以降の授業内容に目を通した上で、自己と他者、対人関係、集団、社会等に関連した記事やニュースを探索し、熟読し、理解しておくこと（90分)。復習として、講義内容の資料を見直しておくこと(90分)。

授 業 計 画

第1講　ガイダンス
第2講　社会的認知
第3講　社会的認知
第4講　社会的影響
第5講　社会的影響
第6講　対人関係と対人相互作用
第7講　対人関係と対人相互作用
第8講　個人と集団
第9講　個人と集団
第10講　マスコミニュケーションの影響
第11講　マスコミニュケーションの影響
第12講　ソーシャルネットワーク
第13講　ソーシャルネットワーク
第14講　社会心理学を理解するために
第15講　社会心理学を理解するために

テキスト・教材（参考文献含む）

参考文献:「よくわかる社会心理学」ミネルヴァ書房
授業では、講義内容に沿った資料を配付する。

担当者から一言

授業中の携帯電話・スマートフォンの使用、理由の無い途中退室等、授業を受ける意思が認められない場合は欠席扱いとする。
状況によって、オンライン授業となる場合があります。

スポーツ政策論

科目ナンバリング	1年次	2単位
PSH2001	後学期	分野必修

小泉大亮

授業の位置づけ
系統的に学修し、進路に即した人間力の根幹を形成する。

授業のねらい
この講義は、日本スポーツ協会公認スポーツ指導者講習会のカリキュラムに対応するものである．スポーツ指導者やスポーツクラブのクラブマネジャーとしての必要なマネジメントの知識、心構えや法的知識等を学習する。

到達目標
国家のスポーツ政策から自治体のスポーツ政策に至るまでの幅広い知識を身につけるとともに、様々な対象に応じたスポーツマネジメントを理解し、クラブマネジメントの実践に活かせるようにする。

成績評価方法･課題･フィードバックの方法
成績は次のような配分により評価します。
･講義時に指示するミニレポート:50％
･中間試験･定期試験(授業内配布資料持込可）:50％
講義時に提出したミニレポートは５段階評価を付け、その評価ついては個別に報告します。

事前・事後学習
シラバスにある授業内容に関してあらかじめ調べておくこと(90分)
授業内容に関して適宜指示をするので、自分なりにまとめること（90分）

授 業 計 画
第１講　ガイダンス　講義の進め方
第２講　スポーツ行政とその関わり･スポーツ振興
第３講　競技スポーツ政策
第４講　健康体力政策･スポーツ基本計画と健康日本２１
第５講　スポーツマネジメントとは･大学スポーツのマネジメント
第６講　子どもスポーツのマネジメント・障害者スポーツのマネジメント
第７講　高齢者スポーツのマネジメント･高齢者を取り巻く環境
第８講　中間テスト
第９講　地域スポーツを取り巻く環境
第10講　地域スポーツクラブの機能とその役割・スポーツ少年団について
第11講　総合型クラブについて･総合型クラブを取り巻く環境
第12講　総合型クラブの立ち上げ方式の分類・総合型クラブのマネジメント
第13講　総合型クラブの具体的な事例（設立から運営まで）・クラブマネジャーの位置づけ
第14講　総合型クラブの自主運営に必要な条件･スポーツとNPO･法人格の取得
第15講　まとめ
定期試験

テキスト・教材（参考文献含む）
講義内容に沿ったプリントを配布
【参考文献】
公益財団法人日本体育協会編「公認スポーツ指導者養成テキスト　共通科目Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」
柳沢和雄・清水紀宏・中西純司編「よくわかるスポーツマネジメント」ミネルヴァ書房

担当者から一言
遅刻や講義中の中座、飲食、私語、携帯電話の鳴動などは禁止します。これらのことが守れない者には、退室を命じ、欠席扱いといたします。

スポーツ指導論

科目ナンバリング	1年次	2単位
PSB2001	前学期	選　択

若山裕晃

授業の位置づけ
系統的に学修し、進路に即した人間力の根幹を形成する。

授業のねらい
本講義は、日本スポーツ協会公認スポーツ指導者養成講習会のカリキュラムに対応するものである。スポーツ指導者としての心構え、スポーツ指導者に必要な医学的知識、対象者に合わせたスポーツ指導法等を学ぶ。

到達目標
スポーツ指導の基礎的知識と指導法を身につける。

成績評価方法･課題･フィードバックの方法
レポートの内容(60％)及び定期試験(40％)で成績評価する。レポートは毎回提出することとし、１回４点満点で評価（４点×15回＝60点)。レポート等の評価は個別に開示する。

事前・事後学習
予習として､配布資料の次回以降の授業内容に目を通した上で､スポーツ指導に関連した記事やニュースを探索し、熟読し、理解しておくこと(90分)。復習として、講義内容の資料を見直しておくこと(90分)。

授 業 計 画
第１講　ガイダンス　授業の概要
第２講　スポーツ指導者とは
第３講　指導者の心構え･視点
第４講　競技者育成プログラムの理念
第５講　スポーツと健康
第６講　スポーツ活動中に多いケガや病気
第７講　救急処置
第８講　指導計画の立て方
第９講　スポーツ活動と安全管理
第10講　中高年者とスポーツ
第11講　女性とスポーツ
第12講　障害者とスポーツ
第13講　プレイヤーと指導者の望ましい関係
第14講　ミーティングの方法
第15講　総括

テキスト・教材（参考文献含む）
参考文献：財団法人日本スポーツ協会編「公認スポーツ指導者養成テキスト 共通科目Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」
授業では、講義内容に沿った資料を配布する。

担当者から一言
授業中の携帯電話・スマートフォンの使用、理由の無い途中退室等、授業を受ける意思が認められない場合は欠席扱いとする。
状況によって、オンライン授業となる場合があります。

スポーツトレーニング論

科目ナンバリング	1年次	2単位
PSB2002	前学期	選　択

若山裕晃

授業の位置づけ
系統的に学修し、進路に即した人間力の根幹を形成する。

授業のねらい
本講義は、日本スポーツ協会公認スポーツ指導者養成講習会のカリキュラムに対応するものである。体力トレーニングに関連する知識や発育発達期の特徴について学ぶ。

到達目標
トレーニングについての基礎的知識とジュニアに対する指導法を身につける。

成績評価方法･課題･フィードバックの方法
レポートの内容(60%)及び定期試験(40%)で成績評価する。レポートは毎回提出することとし、1回4点満点で評価（4点×15回＝60点)。レポート等の評価は個別に開示する。

事前・事後学習
予習として、配布資料の次回以降の授業内容に目を通した上で、トレーニングに関連した記事やニュースを探索し、熟読し、理解しておくこと(90分)。復習として、講義内容の資料を見直しておくこと(90分)。

授 業 計 画
第１講　ガイダンス　授業の概要
第２講　体力とは
第３講　体力とは
第４講　トレーニングの進め方
第５講　トレーニングの進め方
第６講　トレーニングの種類
第７講　トレーニングの種類
第８講　発育発達期の身体的特徴、心理的特徴
第９講　発育発達期の身体的特徴、心理的特徴
第10講　発育発達期の身体的特徴、心理的特徴
第11講　発育発達期に多いケガや病気
第12講　発育発達期に多いケガや病気
第13講　発育発達期のプログラム
第14講　発育発達期のプログラム
第15講　総括

テキスト・教材（参考文献含む）
参考文献：財団法人日本スポーツ協会編「公認スポーツ指導者養成テキスト 共通科目Ⅰ･Ⅱ･Ⅲ」
授業では、講義内容に沿った資料を配布する。

担当者から一言
授業中の携帯電話・スマートフォンの使用、理由の無い途中退室等、授業を受ける意思が認められない場合は欠席扱いとする。
状況によって、オンライン授業となる場合があります。

スポーツ心理学

科目ナンバリング	1年次	2単位
PSB2003	後学期	選　択

若山裕晃

授業の位置づけ
系統的に学修し、進路に即した人間力の根幹を形成する。

授業のねらい
本講義は、日本スポーツ協会公認スポーツ指導者養成講習会のカリキュラムに対応するものである。授業では、意欲･学習･発達･性格特性･集団・環境など多岐にわたる要因を広く取り上げ、スポーツと心理の関係についての理解を深める。

到達目標
スポーツ場面における心理的諸問題について考察を加え、スポーツ活動及びコーチング行動にいかせる基礎的かつ実践的な知識を身につける。

成績評価方法･課題･フィードバックの方法
レポートの内容(60%)及び定期試験(40%)で成績評価する。レポートは毎回提出することとし、1回4点満点で評価（4点×15回＝60点)。レポート等の評価は個別に開示する。

事前・事後学習
予習として、配付資料の次回以降の授業内容に目を通した上で、スポーツ心理学やメンタルトレーニングに関連した記事やニュースを探索し、熟読し、理解しておくこと（90分)。復習として、講義内容の資料を見直しておくこと(90分)。

授 業 計 画
第１講　ガイダンス･スポーツ心理学とは
第２講　スポーツと心
第３講　スポーツにおける動機づけ
第４講　技能の練習と指導
第５講　プレイヤーの個人指導と心理的問題
第６講　チームの指導と心理的問題
第７講　コーチングの評価
第８講　メンタルマネジメントとは
第９講　リラクセーション
第10講　イメージトレーニング･集中力トレーニング
第11講　心理的コンディショニング
第12講　プレッシャー･あがり･スランプの克服
第13講　指導者のメンタルマネジメント
第14講　スポーツ環境における精神障害と対策
第15講　総括

テキスト・教材（参考文献含む）
参考文献：日本スポーツ協会編「公認スポーツ指導者養成テキスト共通科目Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」、Robert S. Weinberg, Daniel Gould「Foundations of sport and exercise psychology」Human Kinetics、若山裕晃･渡辺英児「野球メンタル強化メソッド」実業之日本社

担当者から一言
授業中の携帯電話・スマートフォンの使用、理由の無い途中退室等、授業を受ける意思が認められない場合は欠席扱いとする。
状況によって、オンライン授業となる場合があります。

スポーツ社会学

若山裕晃

科目ナンバリング	2年次	2単位
PSB2004	後学期	選　択

授業のねらい

本講義は、日本スポーツ協会公認スポーツ指導者養成講習会のカリキュラムに対応するものである。
現代がスポーツに及ぼす影響は大きい。われわれの生活とスポーツ活動は密接に関わっており、社会制度や地域社会においてスポーツが果たす役割が増大している。最近では、スポーツの商業化が加速したことによりスポーツ産業の発展が著しいが、一方ではスポーツの商業主義を優先することにより、勝利至上主義などの社会病理現象が表出している。本講義では、関連する最新データを用いてスポーツの社会構造について学習する。

到達目標

近代から現代のスポーツ文化を社会学の観点から検討し、スポーツの社会構造と社会への影響を考察できる視点を身につける。

成績評価方法･課題･フィードバックの方法

レポートの内容(60%)及び定期試験(40%)で成績評価する。レポートは毎回提出することとし、１回４点満点で評価（４点×15回＝60点)。レポート等の評価は個別に開示する。

事前・事後学習

予習として､配付資料の次回以降の授業内容に目を通した上で､スポーツ社会学に関連した記事やニュースを探索し、熟読し、理解しておくこと(90分)。復習として､講義内容の資料を見直しておくこと(90分)。

授業の位置づけ

系統的に学修し、進路に即した人間力の根幹を形成する。

授 業 計 画

第１講　ガイダンス　授業の概要
第２講　スポーツの歴史と概念
第３講　スポーツ行政の仕組み
第４講　スポーツ振興策
第５講　スポーツ事業の効果的運営
第６講　スポーツ指導者論１
第７講　スポーツ指導者論２
第８講　スポーツ指導者論３
第９講　スポーツ施設管理論
第10講　スポーツ系理論
第11講　スキルとは何か
第12講　地域スポーツ経営論
第13講　スポーツとメディア
第14講　スポーツにおける逸脱行為
第15講　総括

テキスト・教材（参考文献含む）

参考文献：財団法人日本スポーツ協会編「公認スポーツ指導者養成テキスト共通科目Ⅰ･Ⅱ･Ⅲ」
授業では、講義内容に沿った資料を配付する。

担当者から一言

授業中の携帯電話・スマートフォンの使用、理由の無い途中退室等、授業を受ける意思が認められない場合は欠席扱いとする。
状況によって、オンライン授業となる場合があります。

スポーツ生理学

小泉大亮

科目ナンバリング	2年次	2単位
PSB2005	前学期	選　択

授業のねらい

この講義は、日本スポーツ協会公認スポーツ指導者講習会のカリキュラムに対応するものである。ヒトが身体運動やスポーツを実施することによって、呼吸、循環、代謝、筋、血液、神経といった身体の諸機能がどのような応答、適応を示すのか、またそれらが環境条件の違いによってどのような影響を受けるのかを学習する。

到達目標

スポーツや身体運動による身体の適応について理解し、実際のスポーツ実践やスポーツ指導の中で利用できることを目標とする。

成績評価方法･課題･フィードバックの方法

成績は次のような配分により評価します。
･講義時に指示するミニレポート:40%
･中間試験･定期試験(授業内配布資料持込可）:60%
講義時に提出したミニレポートは５段階評価を付け、その評価については個別に報告します。

事前・事後学習

シラバスにある授業内容に関してあらかじめ調べておくこと(90分)
授業内容に関して適宜指示をするので、自分なりにまとめること(90分)

授業の位置づけ

系統的に学修し、進路に即した人間力の根幹を形成する。

授 業 計 画

第１講　ガイダンス　講義の進め方
第２講　運動器と身体運動学
第３講　筋の構造と筋の生理学
第４講　筋の収縮様式とエネルギー供給
第５講　呼吸器系と運動
第６講　循環器系と運動①
第７講　循環器系と運動②
第８講　中間テスト
第９講　神経系と運動①
第10講　神経系と運動②
第11講　内分泌系･免疫能と運動
第12講　特殊環境下での運動
第13講　老化に伴う機能の低下
第14講　運動処方
第15講　まとめ
定期試験

テキスト・教材（参考文献含む）

講義内容に沿ったプリントを配布
【参考文献】
公益財団法人日本体育協会編「公認スポーツ指導者養成テキスト　共通科目Ⅰ･Ⅱ･Ⅲ」
Scott K. Powers, Edward T. Howeley「Exercise Physiology」Human Kinetics

担当者から一言

遅刻や講義中の中座、飲食、私語、携帯電話の鳴動などは禁止します。
これらのことが守れない者には、退室を命じ、欠席扱いといたします。

健康スポーツ論

科目ナンバリング	2年次	2単位
PSB2006	後学期	選　択

小泉大亮

授業の位置づけ
系統的に学修し、進路に即した人間力の根幹を形成する。

授業のねらい
この講義は、日本スポーツ協会公認スポーツ指導者講習会のカリキュラムに対応するものである．健康科学やスポーツ科学の学習から具体的な健康スポーツ指導に必要な運動方法を身につけるとともに、様々な対象者に応じたスポーツ指導方法を学習する。

到達目標
健康スポーツ科学の基礎知識と様々な対象者の特徴を理解し、スポーツ指導の際に必要な方法を身につける。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法
成績は次のような配分により評価します。
・講義時に指示するミニレポート:40%
・中間試験・定期試験(授業内配布資料持込可):60%
講義時に提出したミニレポートは５段階評価を付け、その評価については個別に報告します。

事前・事後学習
日頃から健康スポーツに関する話題を調べること(毎日20分程度)
シラバスにある授業内容に関してあらかじめ調べておくこと(15分)
授業内容に関して適宜指示をするので、自身でまとめておくこと(40分)

授業計画
第１講　ガイダンス　講義の進め方
第２講　健康の概念・ヘルスプロモーション
第３講　健康とスポーツ・運動不足と健康障害
第４講　メタボリックシンドローム・認知行動療法
第５講　ロコモティブシンドローム
第６講　中間テスト
第７講　エアロビクス運動の理論
第８講　レジスタンス運動の理論
第９講　柔軟性運動の理論
第10講　バランス運動の理論
第11講　中高年者のスポーツ指導
第12講　女性とスポーツ
第13講　女性のスポーツ指導
第14講　障害者のスポーツ指導
第15講　まとめ
定期試験

テキスト・教材（参考文献含む）
講義内容に沿ったプリントを配布
【参考文献】
公益財団法人日本体育協会編「公認スポーツ指導者養成テキスト　共通科目Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」
竹島伸生編「ウエルビクスのすすめ」有限会社ナップ

担当者から一言
遅刻や講義中の中座、飲食、私語、携帯電話の鳴動などは禁止します。
これらのことが守れない者には、退室を命じ、欠席扱いといたします。

スポーツ栄養学　実務

科目ナンバリング	2年次	2単位
PSB2007	後学期	選　択

櫻井智美

授業の位置づけ
系統的に学修し、進路に即した人間力の根幹を形成する。

授業のねらい
本講義は、日本スポーツ協会公認スポーツ指導者養成講習会のカリキュラムに対応するものである。
スポーツ指導者に必要なスポーツ栄養学の基礎的知識を習得し、アスリートのパフォーマンス向上等をサポートできる栄養管理の理解を深める。

到達目標
スポーツ栄養学の基礎知識を習得し、そのことについて説明できるようになる。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法
成績は次のような配分により評価します。
講義時に指示する簡単なレポート課題の提出状況および受講態度:50%
定期試験:50%
尚、課題に書かれていたコメントに対しては、以降の講義で応答していきます。

事前・事後学習
予習として、次の講義に際する内容を調べる。予習のための課題を課す場合がある(90分)。
復習として講義内容の資料等の見直し(90分)。

授業計画
第１講　ガイダンス　授業の概要
第２講　エネルギー産生栄養素(糖質・脂質・たんぱく質)
第３講　ビタミン・ミネラル
第４講　スポーツ選手の基本の食事
第５講　トレーニングとエネルギー消費量
第６講　スポーツ選手の身体組成
第７講　熱中症の予防と水分補給
第８講　目的別の食事
第９講　試合前後の食事
第10講　トレーニング時の食事
第11講　競技者に多く見られる栄養障害・女性アスリートの三主徴
第12講　サプリメントとエルゴジェニックエイド
第13講　ジュニア期の栄養管理
第14講　競技者の栄養教育のすすめ方
第15講　まとめ
定期試験

テキスト・教材（参考文献含む）
公認スポーツ指導者養成テキスト　共通科目Ⅰ、Ⅲ（公益社団法人日本スポーツ協会）
新版コンディショニングのスポーツ栄養学　樋口満編著(市村出版)
スポーツ栄養学　鈴木志保子著

担当者から一言
遅刻や授業中の中座、飲食、私語、携帯電話の使用などは、原則禁止します。
これらの事が守れない者には、退室を命じ、欠席扱いと致します。
オンデマンド型授業の際は、レポート課題の提出期限を遵守してください。

アスリート育成論

科目ナンバリング	1年次	2単位
PSP2001	前学期	選　択

若山裕晃

授業の位置づけ
系統的に学修し、進路に即した人間力の根幹を形成する。

授業のねらい
本講義は、日本スポーツ協会公認スポーツ指導者養成講習会のカリキュラムに対応するものである。競技スポーツ指導者としての心構えや競技スポーツ指導者に必要な諸知識について学ぶ。

到達目標
アスリート育成のための高度な知識と指導法を身につける。

成績評価方法･課題･フィードバックの方法
レポートの内容(60%)及び定期試験(40%)で成績評価する。レポートは毎回提出することとし、１回４点満点で評価（４点×15回＝60点)。レポート等の評価は個別に開示する。

事前・事後学習
予習として、配付資料の次回以降の授業内容に目を通した上で、アスリート育成に関連した記事やニュースを探索し、熟読し、理解しておくこと(90分)。復習として､講義内容の資料を見直しておくこと(90分)。

授 業 計 画
第１講　ガイダンス　授業の概要
第２講　競技者育成プログラムの理念に基づく展開
第３講　競技者育成と評価競技
第４講　競技者育成システムにおける指導計画
第５講　競技力向上のためにチームマネジメント
第６講　スポーツとIT
第７講　アスリートの健康管理
第８講　アスリートの内科的障害と対策
第９講　アスリートの外傷･傷害と対策
第10講　アスレティックリハビリテーションとトレーニング計画
第11講　コンディショニングの手法
第12講　スポーツによる精神障害と対策
第13講　特殊環境下での対応
第14講　アンチドーピング
第15講　総括

テキスト・教材（参考文献含む）
参考文献：公益財団法人日本スポーツ協会編「公認スポーツ指導者養成テキスト 共通科目Ⅰ･Ⅱ･Ⅲ」
授業では、講義内容に沿った資料を配布する。

担当者から一言
授業中の携帯電話・スマートフォンの使用、理由の無い途中退室等、受講の意思が認められない場合は欠席扱いとする。
状況によって、オンライン授業となる場合があります。

スポーツ応用科学

科目ナンバリング	2年次	2単位
PSP2003	前学期	選　択

小泉大亮

授業の位置づけ
系統的に学修し、進路に即した人間力の根幹を形成する。

授業のねらい
この講義は、日本スポーツ協会公認スポーツ指導者講習会のカリキュラムに対応するものである。スポーツ科学に関する新しいエビデンスよりトレーニング指導に関する知識を習得する。

到達目標
最新のトレーニング科学研究の成果に基づくトレーニング理論を理解し、スポーツ指導の現場に活かせることを目的とする。

成績評価方法･課題･フィードバックの方法
成績は次のような配分により評価します。
･講義時に指示するミニレポート:40%
･中間試験･定期試験(授業内配布資料持込可）:60%
講義時に提出したミニレポートは５段階評価を付け、その評価については個別に報告します。

事前・事後学習
シラバスにある授業内容に関してあらかじめ調べておくこと(90分)。授業内容に関して適宜指示をするので､自分なりにまとめること(90分)。

授 業 計 画
第１講　ガイダンス　講義の進め方
第２講　健康に関連する体力要素
第３講　身体運動学
第４講　トレーニング指導　-健康づくりを目指した運動指導について-
第５講　トレーニングの基礎知識と筋力トレーニング
第６講　スピードトレーニング･持久力トレーニング
第７講　トレーニング計画①「トレーニングの目標設定」
第８講　トレーニング計画②「トレーニングプログラムの設計」
第９講　トレーニング計画③「疲労および回復」･「トレーニング環境の整備」
第10講　中間テスト
第11講　測定評価「テストの選択と実施の原則」
第12講　測定評価「身体組成の評価」
第13講　測定評価「筋力･筋パワー」「無酸素性能力･有酸素性能力」「測定結果の活用」
第14講　スキルトレーニングの原理･スキルの獲得過程について
第15講　まとめ
定期試験

テキスト・教材（参考文献含む）
講義内容に沿ったプリントを配布
【参考文献】
公益財団法人日本体育協会編「公認スポーツ指導者養成テキスト　共通科目Ⅰ･Ⅱ･Ⅲ」

担当者から一言
遅刻や講義中の中座、飲食、私語、携帯電話の鳴動などは禁止します。これらのことが守れない者には、退室を命じ、欠席扱いといたします。

スポーツメディカル論

科目ナンバリング	2年次	2単位
PSP2005	後学期	選　択

小泉大亮

授業の位置づけ
系統的に学修し、進路に即した人間力の根幹を形成する。

授業のねらい
この講義は、日本スポーツ協会公認スポーツ指導者講習会のカリキュラムに対応するものである．身体運動学や運動生理学などのスポーツ医学に関する基礎知識を学習し、スポーツで起こる外傷や障害などの予防や治療、応急手当についての方法を理解する。

到達目標
身体運動の重要性を医学的な面から理解し、スポーツの指導現場で実践できる能力を身につける。

成績評価方法･課題･フィードバックの方法
成績は次のような配分により評価します。
･講義時に指示するミニレポート:50%
･中間試験･定期試験(授業内配布資料持込可) :50%
講義時に提出したミニレポートは５段階評価を付け、その評価については個別に報告します。

事前・事後学習
シラバスにある授業内容に関してあらかじめ調べておくこと(90分)。
授業内容に関して適宜指示をするので､自分なりにまとめること(90分)。

授 業 計 画
第１講　ガイダンス　講義の進め方
第２講　加齢と体力
第３講　スポーツ医学の基礎知識①「スポーツが心臓血管系に及ぼす影響」
第４講　スポーツ医学の基礎知識②「呼吸器系の機能と構造・スポーツと呼吸器系」
第５講　スポーツ医学の基礎知識③「体液と体温調節」
第６講　スポーツ医学の基礎知識④「スポーツと内分泌系」
第７講　スポーツ医学の基礎知識⑤「身体運動学･機能解剖」
第８講　中間テスト
第９講　スポーツ活動にみられる内科的トラブル(急性)
第10講　スポーツ活動にみられる内科的トラブル(慢性)
第11講　スポーツ外傷とスポーツ障害
第12講　スポーツで生じる外科的外傷･障害(上肢)
第13講　スポーツで生じる外科的外傷･障害(下肢)
第14講　救急処置(救急蘇生法)
第15講　まとめ
定期試験

テキスト・教材（参考文献含む）
講義内容に沿ったプリントを配布
【参考文献】
公益財団法人日本体育協会編「公認スポーツ指導者養成テキスト　共通科目Ⅰ･Ⅱ･Ⅲ」
目崎登「スポーツ医学入門」分光堂

担当者から一言
遅刻や講義中の中座、飲食、私語、携帯電話の鳴動などは禁止します。これらのことが守れない者には、退室を命じ、欠席扱いといたします。

地域スポーツ論

科目ナンバリング	2年次	2単位
PSP2004	前学期	選　択

小泉大亮

授業の位置づけ
系統的に学修し、進路に即した人間力の根幹を形成する。

授業のねらい
この講義は、日本スポーツ協会公認スポーツ指導者講習会のカリキュラムに対応するものである．講義を通じて、スポーツクラブをマネジメントするための知識･技術の習得を目指す。また、「組織のあり方」､「コミュニケーション能力」を意識しながら、スポーツクラブだけでなく、集団活動の場に適応できる力を養う。

到達目標
スポーツ場面における多様なニーズに対応方法、クラブ育成に関する知識を身につけ、クラブマネジメントの実践に役立てる。

成績評価方法･課題･フィードバックの方法
成績は次のような配分により評価します。
･講義時に指示するミニレポート:50%
･中間試験･定期試験(授業内配布資料持込可) :50%
講義時に提出したミニレポートは５段階評価を付け、その評価については個別に報告します。

事前・事後学習
シラバスにある授業内容に関してあらかじめ調べておくこと(90分)。
授業内容に関して適宜指示をするので､自分なりにまとめること(90分)。

授 業 計 画
第１講　ガイダンス　講義の進め方
第２講　地域スポーツ組織の事業と運営
第３講　国家施策としての地域スポーツクラブ
第４講　クラブマネジャー・アシスタントマネジャーの位置づけと求められる能力
第５講　クラブマネジャー･アシスタントマネジャーの役割
第６講　中間テスト
第７講　クラブマネジャーに求められる能力「コミュニケーション・ロジカルシンキング」
第８講　クラブマネジャーに求められる能力「経営戦略」･「マーケティング」
第９講　クラブマネジャーに求められる能力「ヒト・組織のマネジメント」
第10講　クラブマネジャーに求められる能力「ホスピタリティ」･「施設の管理と運営」
第11講　クラブマネジャーに求められる能力「財務・会計」･「事業計画作成」
第12講　クラブ設立の準備･総合型クラブの自主運営に必要な条件
第13講　クラブの作り方･クラブの運営
第14講　総合型クラブ　事例クラブ紹介
第15講　まとめ
定期試験

テキスト・教材（参考文献含む）
講義内容に沿ったプリントを配布
【参考文献】
公益財団法人日本体育協会編「公認スポーツ指導者養成テキスト　共通科目Ⅰ･Ⅱ･Ⅲ」
公益財団法人日本体育協会編「公認アシスタントマネジャー養成テキスト」

担当者から一言
遅刻や講義中の中座、飲食、私語、携帯電話の鳴動などは禁止します。これらのことが守れない者には、退室を命じ、欠席扱いといたします。

スポーツ実技

科目ナンバリング	1年次	2単位
PSP2002	前学期	選　択

若山裕晃

授業の位置づけ
系統的に学修し、進路に即した人間力の根幹を形成する。

授業のねらい
この授業では、適度な運動量が得られレクリエーションにも利用しやすい各種スポーツを実施する。種目については、人数や学生の希望等を考慮しながら、状況に応じて選定する。また、序盤と終盤に体力テストを実施し、自分自身のデータを基に「スポーツ習慣による心身への効果」というテーマのレポートを作成する。

到達目標
ルールを覚え、楽しく安全にスポーツを体験することによって、生涯スポーツによる健康維持増進を自ら実践できる能力及び習慣を身につける。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法
授業への参加姿勢・服装(50%)とレポートの内容(50%)で成績評価する。学期中の累積点数は、希望があれば本人にいつでも開示する。

事前・事後学習
予習として、授業以外の日にも、積極的に身体活動を実施しておくこと(90分)。復習として、授業内で実施した種目の動作について、動画サイト等も活用しながら確認しておくこと(90分)。

授業計画
第1講:ガイダンス　授業の概要
第2講:体力テスト
第3講:体力テスト
第4講:実技
第5講:実技
第6講:実技
第7講:実技
第8講:実技
第9講:実技
第10講:実技
第11講:実技
第12講:体力テスト
第13講:体力テスト
第14講:実技
第15講:まとめ・レポート提出

テキスト・教材（参考文献含む）
なし。

担当者から一言
学生の積極性に期待する。安全性を考慮し、スポーツ活動に適した服装(シューズも含む)で参加すること。
状況によって、オンライン授業となる場合があります。

介護予防スポーツ　実務

科目ナンバリング	2年次	2単位
PHH2002	前学期	選　択

池田裕美子

授業の位置づけ
地域を志向した学修を通じて地域社会に貢献する人材になる。

授業のねらい
この授業のメインテーマは「地域社会と介護予防運動」です。
現在、社会的問題にもなっている介護や認知症に関する知識を深め、介護現場は勿論、日常の運動不足解消など、様々な場面で活用することが出来る「介護予防運動・体操(元気ダンス)」を習得します。
具体的には、地域社会における介護予防の必要性、介護に関する基本的な知識や、高齢者が運動するうえで注意すべきこと、ダンスを実施するうえで必要なリズムの知識や指導方法などを学び、それらを生かし実際に体を動かして「元気ダンス」の実技を行います。

到達目標
講義過程を通じて、運動・音楽・介護予防・地域社会などについての知識を深めること。
日本介護予防ダンス協会公認「学生3級ゼネラルアドバイザー」資格を取得することを目標とします。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法
授業への積極性　30%
毎回の小テスト・小レポート　30%
実技試験・定期試験　40%
授業中もしくは授業後に寄せられた質問に対しては、適宜、授業内で回答していきます。

事前・事後学習
地域包括ケア、高齢者の健康に関わるニュース等に関心を持ち積極的にチェックして下さい。(1日20分以上)
毎回の講義内容の復習。特に実技内容は反復練習を望みます。(20分)

授業計画
第1講　学科① ガイダンス
第2講　学科② 現代社会における「元気ダンス」
第3講　学科③ 色々な音楽・リズム(学科)
第4講　学科④ 地域と介護予防
第5講　学科⑤ 危険予測・回避・処置(学科)
第6講　学科⑥ 学科総合
第7講　講演 この地域での介護予防【講演】
第8講　実技① 元気ウォームアップ・元気ベーシック(実技)
第9講　実技② 元気マンボ・元気クールダウン(実技)
第10講　実技③ 元気ダンス指導法Ⅰ(実技)
第11講　実技④ 元気ダンス指導法Ⅱ(実技)
第12講　実技⑤ 元気ダンス指導法Ⅲ(実技)
第13講　実習【交流実習】
第14講　試験 実技試験
第15講　試験 学科試験

テキスト・教材（参考文献含む）
・テキスト　日本介護予防ダンス協会出版「ゼネラルアドバイザー教本」 2015年発行
＊テキストを購入しない場合は授業をうけることが出来ません。
・プリント　必要に応じて配布します。

担当者から一言
学科も実技も参加型の授業です。
「ダンス」とはありますが、音楽に合わせて身体を動かす「運動・体操」となりますので、技術は必要ありません。
遅刻・授業中の中座・私語・飲食などは原則禁止しますが、明るく楽しく授業への積極性を求めます。

健康スポーツ実技	科目ナンバリング	2年次	2単位
小泉大亮	PHH2004	前学期	選　択

授業の位置づけ

プレゼンテーション･コミュニケーションの能力を身につける。
幅広い人間力を身につける。

授業のねらい

健康の維持・増進のためにはスポーツや身体運動の実践が必要である。本講義では、生涯を通じて実践可能なスポーツの方法やルールを学ぶ。また、スポーツの創作なども通してスポーツ指導者としての想像性を育む。

到達目標

ルールを覚え、楽しく安全にスポーツができる方法を学ぶことにより、生涯を通したスポーツ実践につなげる。

成績評価方法･課題･フィードバックの方法

成績は次のような配分により評価します。
・日頃の準備学習や復習の様子や受講態度:70%
・レポート:30%
レポート等の評価は個別に開示する。

事前・事後学習

実技に関して、インターネット等で動画を検索し、ルールや動き方などの技術を確認しておくこと(毎日20分)。
実技に関するルールを調べておく(45分)。

授 業 計 画

第１講　ガイダンス　講義の進め方
第２講　体力測定１
第３講　体力測定２
第４講　競技ルールの解説
第５講　実技
第６講　実技
第７講　実技
第８講　実技
第９講　実技
第10講　実技
第11講　実技
第12講　実技
第13講　実技
第14講　体力測定３
第15講　体力測定４

テキスト・教材（参考文献含む）

雨天時　運動解説「DVD」

担当者から一言

授業は屋外でおこないます。運動のできる服装(ウェア・シューズ)を用意して参加する事。服装を用意していない場合は欠席扱いとします。雨天時は屋内で実施しますので､体育館シューズを持参してください。

こころの健康	科目ナンバリング	1年次	2単位
柿原加代子・工藤安史・後藤由紀	PHH2001	後学期	選　択

授業の位置づけ

系統的に学修し、進路に即した人間力の根幹を形成する。
幅広い人間力を身につける。

授業のねらい

この講義では人間の健康とは、その健康に影響を及ぼす生活習慣や人間関係、ストレス対処等の傾向を理解することを目指します。健康は一日にしてなるものではなく、日々の生活の積み重ねにより築かれます。自己の生活を振り返り、健康とは何かを考え、自分自身の生活につなげてもらいたいと考えます。

到達目標

人間のこころと身体の健康に関する基本知識を理解するとともに、自己の日常生活に活かし、健康の維持増進につなげる。

成績評価方法･課題･フィードバックの方法

受講態度(20%)
レポート(80%)
講義中、講義後に質問を受け付け、タイムリーにコメントをフィードバックし、内容によっては次回の講義で説明を追加する。

事前・事後学習

書籍やインターネットなどで健康に関連する情報を得る。(毎週２時間程度)
配布されたプリントを読み理解し、学んだことを整理し、自分自身の生活に取り入れる目標を決めて実践する。

授 業 計 画

1　ガイダンス　健康とは(柿原)
2　人間の発達と健康(柿原)
3　メンタルヘルス不調(柿原)
4　人間関係と健康(柿原)
5　生活習慣と健康①　食生活と健康(後藤)
6　生活習慣と健康②　運動と健康(後藤)
7　生活習慣と健康③　睡眠と健康(後藤)
8　生活習慣と健康④　たばこ･アルコールと健康(後藤)
9　セルフマネジメント①　怒りのコントロール(後藤)
10　感染症と健康①(工藤)
11　感染症と健康②(工藤)
12　自分自身の健康観を知る①(工藤)
13　自分自身の健康観を知る②(工藤)
14　まとめ･グループワーク
15　まとめ･発表

テキスト・教材（参考文献含む）

プリントを配布します。

担当者から一言

人間にとって心身共に健康であることは、重要な要素であり、皆さんのこれからの人生をより豊かに、自分らしく生きることの試金石となるでしょう。皆んさんの日々の生活に活かしてください。

こころと文学

高田晴美

科目ナンバリング	2年次	2単位
PHH2003	前学期	選　択

授業の位置づけ

プレゼンテーション・コミュニケーションの能力を身につける。
幅広い人間力を身につける。

授業のねらい

この講義では、文学作品を読むことで、人間の様々な心のあり方、人と人との関係、人生の様相について、その深みに触れ、味わい、思いをはせることを目指します。「事実は小説より奇なり」とはよく言われます。しかし、「事実」だけがそんなに偉いのか。事実としては他人事であるかもしれない、自分では体験できないような人生も含めて、この世界と人間の想像力を表現し得るのが文学。それを他人事ではなく我が事として実感し、複雑怪奇で多様な世界を知ることができる。この授業を通して、それを体験してもらいたいと考えています。

到達目標

・ステレオタイプではない心のあり方というものを知る。
・人間や心、人生社会のあり方に対する感受性や洞察力、分析力、そして広く受け入れる寛容性や批判性などを養う。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法

毎回の小レポート　50%
レポート試験　　50%
毎回の小レポートについては、次回の講義の際にコメントをします。

事前・事後学習

講義で取り上げた文学作品やその作家の別作品を、図書館の書籍やネット上の青空文庫などでいくつか読んでみましょう。映像化されている作品を観てみるのもおすすめです(毎週３時間程度)。

授 業 計 画

第１講　ガイダンス、まずは短歌や俳句を味わってみよう
第２講　物狂おしい恋心―芥川龍之介の詩
第３講　ロリコン男の純情―田山花袋「少女病」
第４講　変態だって純情である―江戸川乱歩「人間椅子」
第５講　人は恋してクズになる？―横槍メンゴ「クズの本懐」
第６講　２番目に好きな人―いくえみ綾「あなたのことはそれほど」他
第７講　苦々しく、味わい深い人生―アリス・マンローの作品
第８講　どん詰まりの人生―樋口一葉の作品
第９講　秘めた恋―トレヴァー「パラダイスラウンジ」
第10講　海の向こうにはこんな国もある―ダンティカ『デュー・ブレーカー』
第11講　青春の苦悩―太宰治「斜陽」
第12講　ストイックの極みへ―羽海野チカの作品
第13講　嫉妬と妄執―中勘助「提婆達多」
第14講　華やぐ命―岡本かの子「老妓抄」、岸惠子「わりなき恋」
第15講　人生、捨てたもんじゃない―岡本かの子「家霊」
話題作など気になる作品が出たら、内容・順番を多少変えて、その作品を取り上げる可能性があります。

テキスト・教材（参考文献含む）

毎回、プリントを配布します。

担当者から一言

まずは気軽に、変わった話が聞きたい、小説を味わいたい、物語を楽しみたいという気分で受講してください。心を柔らかく、広く、深く――。きっと世界が、もっと広く深く甘く渋くなる。

国際経済事情

鶴田利恵

科目ナンバリング	1年次	2単位
PIM2001	後学期	分野必修

授業の位置づけ

系統的に学修し、進路に即した人間力の根幹を形成する。

授業のねらい

この講義では、貿易の理論や為替レートの決定理論など、国際経済を理解する上で必要となる国際経済学の基本的な理論を解説するとともに、第二次世界大戦後の国際経済体制の変容、途上国問題、直接投資、地域統合、リーマン・ショック後の国際経済の状況について解説します。また、日本の経済が国際経済の変化からどのような影響を受けてきたのかについても講義します。授業では鶴田の解説だけでなく、みなさんの意見や疑問をぶつけ合い、活発なディスカッションを行いながら進めます。

到達目標

国際経済学の基本的な理論を理解するとともに、国際経済の現状を知ることによって、今後の国際経済と日本経済の行方を自分で考察できるようになること。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法

受講態度(20%)、定期試験(80%)により評価します。
フィードバック方法：講義中や講義後の質問や疑問には適宜コメントします。

事前・事後学習

日頃からテレビ、新聞、インターネットなどなんでも良いので経済ニュースに触れておくこと（毎日１時間以上。まとめてでも小刻みでも構いません。電車の中でネットでニュースを見るのもOKです)。講義後は、その日読んだテキストを必ず読み返す(30分以上)。

授 業 計 画

第１講　ガイダンス
第２講　国際収支の内容
第３講　貿易の理論(１)
第４講　貿易の理論(２)
第５講　第二次世界大戦後の国際経済体制
第６講　外国為替市場と為替レートの決定理論
第７講　発展途上国の諸問題
第８講　国際経済と直接投資
第９講　プラザ合意以降の国際経済(１)
第10講　プラザ合意以降の国際経済(２)
第11講　サブプライム・ローンからリーマン・ショック、世界同時不況へ
第12講　産業間貿易と産業内貿易
第13講　地域統合の動き(１)
第14講　地域統合の動き(２)
第15講　まとめ
定期試験

テキスト・教材（参考文献含む）

プリントを配布します。

担当者から一言

質問や意見はおおいに歓迎です。ただし、私語、携帯電話の使用は禁止します。特に、注意をしても私語や携帯電話の使用をやめない場合には、退出(もちろん欠席扱い)を命じるか、もしくは携帯電話を没収します。

国際関係論

科目ナンバリング	2年次	2単位
PIM2002	前学期	分野必修

富田　与

授業の位置づけ
系統的に学修し、進路に即した人間力の根幹を形成する。

授業のねらい
最近の国際ニュースを見ると、企業やテロ組織など国家以外のアクター(主体)の行為が問題視されることが増えています。ところが、いったん国際的な問題が発生すると、国家か国連などの国家の集まりが解決するしかありません。この講義では、ナイの『国際紛争』をテキストに、国際関係の歴史と理論を考えていきます。このテキストからは、理論や歴史だけではなく、現実的な対応への手掛かりを見つけることができるでしょう。毎回の課題に関するディスカッションを中心に講義を進めます。

到達目標
到達目標は「最近の国際ニュースが説明できるようになる」です。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法
講義への参加度(発言等)：30%
講義期間中のレポート：30%
最終レポート：40%
講義期間中のレポートは毎回発表してもらいます。
最終レポートは希望者に返却します。

事前・事後学習
毎回、各章末につけられた「学習上の論点」からレポート課題を出します(180分)。

授業計画
第１講　ガイダンス
第２講　第１章　国際政治における紛争には一貫した論理があるか
第３講　第２章　20世紀における大紛争の期限
第４講　第３章　バランス・オブ・パワーと第一次世界大戦
第５講　第３章　つづき
第６講　第４章　集団安全保障の挫折と第二次世界大戦
第７講　第４章　つづき
第８講　第５章　冷戦
第９講　第５章　つづき
第10講　第６章　介入、制度、地域・エスニック紛争
第11講　第７章　グローバリゼーションと相互依存
第12講　第８章　情報革命、脱国家主体とパワーの分散
第13講　第８章　つづき
第14講　第９章　新しい世界秩序
第15講　まとめ

テキスト・教材（参考文献含む）
『国際紛争』　ジョセフ・ナイ著　有斐閣　2,600円

担当者から一言
出来るだけ時事問題を取り上げていきたいと思います。
関心のある出来事があったら、教員に伝えて下さい。

経営管理論　実務

科目ナンバリング	2年次	2単位
PIM2003	後学期	分野必修

川崎綾子

授業の位置づけ
系統的に学修し、進路に即した人間力の根幹を形成する。

授業のねらい
本講義では企業の本質について理解するために、企業の役割や経営者の仕事といった基礎的知識について講義する。実際の企業事例の分析を通して、①経営管理論の用語の本質を理解すること、②企業経営に関する理解を深めることを、本講義のねらいとする。

到達目標
経営管理論の理論的用語および、企業経営に関する知識を習得し、ビジネスパーソンとしての基礎的な能力を培うことを、目標とする。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法
中間レポート　50%
最終レポート(レポート試験)50%

中間レポートについては、講義中にコメントする。
優秀な中間レポートは、講義中に紹介する場合がある。

事前・事後学習
レポートへの解答、書籍やインターネットの閲覧などを通して、理論的用語の予習や復習、経営管理者の立場における課題解決の練習に取り組むことが望ましい(毎週３時間程度)。

授業計画
第１講　ガイダンス／単位取得に関する注意事項
第２講　企業の役割とは
第３講　企業システム／企業はだれのものか
第４講　企業の理解／企業情報の収集
第５講　経営者の仕事
第６講　企業の基本的構造／所有・経営・統治
第７講　伝統的な管理論／官僚制
第８講　経営理念，目標管理
第９講　モチベーション
第10講　起業とは
第11講　企業間関係の意義
第12講　経営戦略
第13講　組織文化／ガバナンス，企業倫理
第14講　事例研究
第15講　まとめ

テキスト・教材（参考文献含む）
教科書は指定しない。資料を配布する。

担当者から一言
レポート試験では院生レベルを要求しますが、経営管理論は１から教えますので安心してください。
ただし私語は厳禁。何度も注意を受けたりするような人には、原則単位を認めません。
経営管理者の立場で考える、練習の場となれば幸いです。

日本経済事情

科目ナンバリング	1年次	2単位
PIU2001	後学期	選　択

杉谷克芳

授業の位置づけ
系統的に学修し、進路に即した人間力の根幹を形成する。

授業のねらい
バブル崩壊(1991年)以降の「失われた30年(？)」を経て、日本の経済も社会も大きく様変わりしました。しかし、そもそも日本経済とはどんな経済であり、どんな特質を持っていたのか。たとえば、バブル崩壊以降の「日本的経営」「日本的雇用システム」の終焉が言われますが、「日本的経営」や「日本的雇用システム」とは何だったのか。現在の日本の経済や社会の閉塞感の実相を理解する前提として、第２次世界大戦以後の日本の経済･社会の歩みをふり返りたいと思います。

到達目標
日本的経営、大衆消費社会、高度経済成長、オイルショック、バブル経済など、知っているようで知らない、もしくは実感としてピンと来ないのではないですか。この講義では、経済学を学ぶ前提として、日本経済の常識的、基礎的な理解を身につけることを目標とします。

成績評価方法･課題･フィードバックの方法
基本的には定期試験の結果によって評価します(80%)。また、授業への積極的な参加度、小テスト、レポート(任意提出)等による加点を行います(20%程度)。定期試験だけで秀をとる人はきわめて稀です。受講態度や小テスト等による加点をねらいましょう。授業中・授業後の質問には、適宜、授業内で回答していきます。

事前・事後学習
新聞、雑誌などの日本経済に関する記事に目を通すこと、テレビやインターネットでも構いません(毎日30分以上)。講義後は､その日のノートを見返して、不明な点を参考文献等で調べておくこと(60分以上)。

授 業 計 画
第１講　ガイダンス、講義の概要
第２講　スミスの「見えざる手」、自由主義経済学とセイの法則
第３講　世界恐慌とケインズ政策
第４講　戦後復興期　焼跡闇市、アメリカの占領政策、東西冷戦の始まり
第５講　戦後復興期　経済の民主化(農地改革、労働改革、財閥解体)
第６講　戦後復興期　復金インフレ、傾斜生産方式、団塊の世代
第７講　1949年の日本:ドッジライン、デフレ不況、朝鮮戦争
第８講　「３丁目の夕日」の時代(1958年)特需景気、もはや戦後ではない
第９講　「３丁目の夕日」の時代　所得倍増計画、集団就職
第10講　「パッチギ」の時代(1968年)　昭和元禄、高度経済成長、ベトナムの戦争史
第11講　「パッチギ」の時代（1968年）　日本的経営の三種の神器、フォーディズム的好循環
第12講　高度成長から安定成長へ、『ジャパン･アズ･ナンバーワン』
第13講　バブル経済、平成不況
第14講　テーラーシステムとフォーディズム、トヨティズム
第15講　デフレと経済政策
定期試験

テキスト・教材（参考文献含む）
参考文献
菊池史彦『「幸せ」の戦後史』トランスビュー(2013年)
橋本寿朗『現代日本経済史』岩波書店(2000年)
松尾匡『不況は人災です！』筑摩書房(2010年)

担当者から一言
あまり難しい話にならず、学生さんの興味を引く授業にしたいと思いますが、そのためには学生さんの協力が必要です。私語は苦手ですので、よろしく。また、講義中のスマホ使用も禁止します。

金融論

実務

科目ナンバリング	2年次	2単位
PIU2002	前学期	選　択

岩崎祐子

授業の位置づけ
系統的に学修し、進路に即した人間力の根幹を形成する。

授業のねらい
この講義では、日本の金融市場、金融機関、金融商品などについて学んでいきます。これから社会に出て、自分の資産をいかに増やそうと思ったときに、金融に関する知識が必要となります。この講義は、今後、現実の金融取引を行う際に、自らの責任で、自らの判断で、取引を行うための基礎力をつけることを目的とします。

到達目標
一般紙の金融・経済欄の記事内容を理解できるようになることを、到達目標としています。

成績評価方法･課題･フィードバックの方法
定期試験(60%)および授業中に作成する小レポート(40%)により評価します。
授業時に提出した課題については、コメントをつけて返却します。

事前・事後学習
日頃から、金融に関するニュースに目を通すようにして下さい(30分、週３日以上)。
授業内容のノートを復習して､専門用語の理解に努めてください(90分)。

授 業 計 画
第１講　ガイダンス
第２講　金融市場１
第３講　金融市場２
第４講　金融機関１(銀行、信用金庫)
第５講　金融機関２(証券会社)
第６講　金融商品１(債券)
第７講　金融商品２(株式、投資信託)
第８講　金融政策
第９講　為替相場の見方
第10講　国際通貨制度
第11講　リスク管理
第12講　トピックス１
第13講　トピックス２
第14講　トピックス３
第15講　まとめ
定期試験

※第12講はグループワークをします。

テキスト・教材（参考文献含む）
使用しません。教材として、プリントや新聞記事を使用します。
参考文献：「みんなが欲しかった！ FPの教科書 ３級 2021-20212年」滝澤 ななみ(著)TAC出版、５月出版予定、前年は1,760円

担当者から一言
日頃から金融･経済に関するニュースに関心をもつようにして下さい。
金融機関への就職を考えている学生は、履修を検討してください。

国際経営論

科目ナンバリング	2年次	2単位
PIU2003	後学期	選　択

吉成　亮

授業のねらい

日本国内のマーケットは国内人口の減少により、これ以上大きくなることを期待できません。したがって、企業が海外の市場へ展開することは、日本の企業が今後とも存続していく上で不可欠です。それゆえどのような企業の、どのような事業を、その発展段階に応じて、海外に展開していくのかを学ぶ必要があります。主に中心は国内の企業を事例にあげるものの、留学生も配慮し、海外の企業の事例も取り上げ、これらのことを、企業戦略との関連で学習することが授業のねらいです。

到達目標

留学生を含め、国内および海外の特定の企業を取り上げ、自国における企業の海外進出を段階的に自分で説明できるようになることを目標にしています。

成績評価方法･課題･フィードバックの方法

各授業の評価点　小テスト90%　まとめテスト10%
以上の割合を基本にしながら総合的に判断する。小テストは各授業で実施し、小テストの評価は次回の授業でフィードバックする。　まとめテストとは授業前半のまとめと期末テストとする。

事前・事後学習

講義の前後に授業中で指示された単元の予習、復習（それぞれ１日30分程度）を行うことが望ましいです。また課題の提出を課すこともあります。

授業の位置づけ

プレゼンテーション･コミュニケーションの能力を身につける。
系統的に学修し、進路に即した人間力の根幹を形成する。
幅広い人間力を身につける。

授 業 計 画

第１講．ガイダンス
第２講．国際経営とは何か
第３講．海外直接投資の理論（１）
第４講．海外直接投資の理論（２）
第５講．多国籍企業による国際競争の歴史
第６講．多国籍企業の組織デザイン
第７講．トランスナショナル経営
第８講．海外子会社の経営
第９講．国際マーケティング
第10講．国際生産戦略
第11講．ものづくりの国際拠点展開
第12講．研究開発の国際化
第13講．国際的な人的資源管理
第14講．国際パートナーシップ
第15講．日本企業のさらなる国際化のために＋まとめ

定期試験
本授業ではディスカッション、ディベート、グループワーク、プレゼンテーションを含みます。

テキスト・教材（参考文献含む）

教科書として下記の書籍を使用します。必ず購入して授業に取り組んでください。
中川　功一，林　正，多田　和美，大木　清弘 著『はじめての国際経営』有斐閣ストゥディア
2015年Ａ５判，定価1,980円　ISBN 978-4-641-15017-1

担当者から一言

国内だけでなく、海外に目を向けて幅広い視野でビジネスを考えることができるようになりましょう。

国際協力論

科目ナンバリング	2年次	2単位
PIU2004	後学期	選　択

富田　与

授業のねらい

この講義では「ODA（政府開発援助）はなぜ必要なのか」という問いを考えていきます。近年、「途上国」と呼ばれていた国々が急速に経済成長を遂げ、「新興経済国」として世界経済のけん引役ともなりつつあります。そうした中で、ODAはなぜ必要なのでしょうか。この講義では、ODA政策を開発経済と外交政策の両面から考えていくことにします。講義は毎回の課題に関するディスカッションを中心に進めていきます。

到達目標

到達目標は「なぜ、ODAが必要なのかを説明できる」です。

成績評価方法･課題･フィードバックの方法

講義への参加度（発言等）:30%
講義期間中のレポート:30%
最終レポート:40%
講義期間中のレポートは毎回発表してもらいます。
最終レポートは希望者に返却します。返却する最終レポートにはコメントを付けます。レポートの作成については希望に応じて個別に指導します。

事前・事後学習

毎回の講義で課題を出すので、予習と復習を兼ねて取り組んでください（180分）。

授業の位置づけ

系統的に学修し、進路に即した人間力の根幹を形成する。

授 業 計 画

第１講:ガイダンス
第２講:なぜ、ODAは必要なのか（１）:開発経済からの知見１
第３講:なぜ、ODAは必要なのか（２）:開発経済からの知見２
第４講:なぜ、ODAは必要なのか（３）:開発経済からの知見３
第５講:なぜ、ODAは必要なのか（４）:国際関係からの知見
第６講:なぜ、ODAは必要なのか（５）:日本の政治経済から
第７講:ODA予算の推移
第８講:ODAを巡る政策決定過程１
第９講:ODAを巡る政策決定過程２
第10講:ODAと日本外交史（１）:1950年代
第11講:ODAと日本外交史（２）:1960年代
第12講:ODAと日本外交史（３）:1970－80年代
第13講:ODAと日本外交史（４）:1990年代
第14講:ODAと日本外交史（５）:2000年代
第15講:人間の安全保障

テキスト・教材（参考文献含む）

テキストと参考文献は特に指定しません。

担当者から一言

講義の中では、できるだけ関連した時事問題を取り上げながら進めることにしたいと思います。国際情勢に関心のある学生の受講を期待しています。

開発経済学

科目ナンバリング	2年次	2単位
PIU2005	前学期	選　択

鶴田利恵

授業のねらい
この講義では、日本を含むアジア諸国の経済発展がどのような変遷を辿ってきたのかを、経済理論と実際の流れによって説明します。特に、国内の工業化政策、諸外国との貿易と直接投資、外国からの政府開発援助（ODA）、そして、グローバリゼーションが進む国際経済における自由貿易（FTA）や地域連携協定（EPA）が、経済成長を進める上でどのような役割を担っているのかに焦点を置いて講義していきます。授業では鶴田の解説だけでなく、活発なディスカッションを行いながら進めます。

到達目標
経済成長に関する基本的な理論とアジア諸国の実情を理解する。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法
授業態度(20%)、定期試験(80%)により評価します。
フィードバック方法：授業中もしくは授業後に寄せられた質問に対しては、適宜、授業内で回答していきます。

事前・事後学習
日頃からテレビ、新聞、インターネットなどなんでも良いので経済ニュースに触れておくこと（毎日１時間以上。まとめてでも小刻みでも構いません。電車の中でネットでニュースを見るのもOKです)。講義後は、その日のテキストを必ず読み返す(30分以上)。

授業の位置づけ
系統的に学修し、進路に即した人間力の根幹を形成する。

授業計画
第１講　ガイダンス
第２講　GDPの決定(１)
第３講　GDPの決定(２)
第４講　財政政策
第５講　金融政策
第６講　為替･国際収支
第７講　マルサスの罠
第８講　ペティ＝クラークの法則
第９講　２部門モデル
第10講　工業化の初期条件と輸入代替工業化
第11講　輸出志向型工業化と対外直接投資
第12講　日本の政府開発援助
第13講　多様化する外国資本投資とアジア通貨危機
第14講　アジア経済の新動態
第15講　まとめ
定期試験

テキスト・教材（参考文献含む）
プリントを配布します。

担当者から一言
質問や意見はおおいに歓迎です。ただし、私語、携帯電話の使用は禁止します。特に、注意をしても私語や携帯電話の使用をやめない場合には、退出(もちろん欠席扱い)を命じるか、もしくは携帯電話を没収します。

簿記入門

科目ナンバリング	1年次	2単位
PBM2001	前学期	選　択

奥原貴士

授業のねらい
企業は日常的に様々な活動をしています。たとえば、商品を仕入れてその商品を販売したり、事務所に使う建物を購入したり、資金が不足したら銀行から借り入れたりなど多種多様な取引を行っています。そして、これらの取引は簿記によって記録され、その記録に基づいて財務諸表が作成されます。本講義では、企業が行う取引について簿記の技術を用いてどのように記録するのかを学習します。

到達目標
簿記では、企業が行う取引を仕訳によって記録していきます。よって、まず仕訳のルールを理解します。そして、商品の売買や銀行からの借入れなどの取引に関する仕訳の方法を身につけます。最後に、仕訳の内容に基づいて試算表が作成できるようになることを本講義の到達目標とします。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法
成績評価方法
平常点(授業への積極的な参加、小テスト等)60%
定期試験40%
なお、小テストについては、各自に点数を伝えます。また、小テストの模範解答も以降の講義で示します。

事前・事後学習
講義で学習した内容をそのつど復習してください。新聞や雑誌などで企業の会計数値(売上高や利益額など)を見て、この企業の経営はうまくいってそうだ、こっちの企業は倒産の危険があるんじゃないか、ということに関心をもってください(毎日90分以上)。

授業の位置づけ
系統的に学修し、進路に即した人間力の根幹を形成する。

授業計画
第１講　ガイダンス　簿記の基礎
第２講　日常の手続き(簿記上の取引･仕訳など)
第３講　日常の手続き(転記･試算表作成の基礎)
第４講　商品売買
第５講　商品売買
第６講　商品売買
第７講　現金･当座預金
第８講　現金･当座預金
第９講　小口現金･手形
第10講　小口現金･手形
第11講　その他の期中取引(貸付金･借入金など)
第12講　その他の期中取引(固定資産･有価証券など)
第13講　その他の期中取引(税金の支払など)
第14講　試算表の作成
第15講　試算表の作成
定期試験

テキスト・教材（参考文献含む）
講義資料は毎回プリントを配布します。
(参考文献)
『合格テキスト日商簿記３級』TAC株式会社。
『合格トレーニング日商簿記３級』TAC株式会社。

担当者から一言
遅刻、私語、スマホ使用などは禁止します。他の学生に迷惑をかけないように心がけてください。
簿記の知識を習得するには連続した学習が必要です。したがって、毎回の出席と復習が重要となります。電卓を毎回用意してください。進捗により各テーマの講義回数を変更する可能性があります。

会計学総論

科目ナンバリング	1年次	2単位
PBM2002	後学期	選　択

奥原貴士

授業のねらい

会計に関する知識は、経済社会を生き抜いていくためには必要不可欠だといわれています。企業の決算書を見ると、その企業はどのようにして利益をあげているのかを知ることができます。また、その企業が将来に倒産するおそれがどのくらいあるのかといったことも推測することができます。ただし、このようなことを決算書から読み取るには会計の知識が必要となります。したがって、本講義は、会計学の主要な論点をとりあげて解説を行い、会計学の基礎知識を身につけることを目的とします。

到達目標

まず会計の役割を理解し、資産や負債などに関する会計学の基本的な知識を習得します。そして、それらの知識に基づいて企業の決算書から、その企業の財政状態・経営成績などを読み取ることができるようになることを到達目標とします。

成績評価方法･課題･フィードバックの方法

平常点(授業への積極的な参加、小テスト等)60%
小テストは15回の講義中に４回程度行います。
定期試験40%
なお、小テストについては、各自に点数を伝えます。また、小テストの模範解答も以降の講義で示します。

事前・事後学習

新聞や雑誌などで企業の会計数値(売上高や利益額など)を見て、この企業の経営はうまくいってそうだ、こっちの企業は倒産の危険があるんじゃないか､ということに関心をもってください(毎日90分以上)。

授業の位置づけ

系統的に学修し、進路に即した人間力の根幹を形成する。

授業計画

第１講　ガイダンス
第２講　会計情報の役割
第３講　会計制度と社会(１)
第４講　会計制度と社会(２)
第５講　会計の仕組み(１)
第６講　会計の仕組み(２)
第７講　貸借対照表(１)
第８講　貸借対照表(２)
第９講　在庫の会計
第10講　生産設備の会計
第11講　金融資産の会計
第12講　負債と資本の会計
第13講　損益計算書(１)
第14講　損益計算書(２)
第15講　営業活動の会計
定期試験

テキスト・教材（参考文献含む）

講義資料は毎回プリントを配布します。

(参考文献)
谷武幸・桜井久勝・北川教央編著『１からの会計(第２版)』中央経済社(2021)。
桜井久勝『会計学入門〈第５版〉』日本経済新聞出版社(2018)。

担当者から一言

遅刻、私語、スマホ使用などは禁止します。他の学生に迷惑をかけないように心がけてください。
進捗により各テーマの講義回数を変更する可能性があります。
日商簿記検定等の資格試験についても対応していきます。

財務諸表論

科目ナンバリング	2年次	2単位
PBM2004	前学期	選　択

奥原貴士

授業のねらい

企業の決算書は、企業の業績の優劣や潜在能力を映し出しており、こうした会計情報に関する知識は、ビジネスの世界で活躍するためにも不可欠だといわれています。そして、会計情報を的確に読み取るためには、財務諸表がどのようなルールに基づいて作成されているのかを理解する必要があります。したがって本講義では財務会計の重要な論点を取り上げて解説を行い、財務会計の重要な論点を網羅的に理解することを目的とします。

到達目標

まず財務会計の役割、会計基準の必要性などの基礎知識を習得します。続いて、財務会計における主要な論点を理解することを到達目標とします。

成績評価方法･課題･フィードバックの方法

平常点(授業への積極的な参加、小テスト等)60%
小テストは15回の講義中に４回程度行います。
定期試験40%
なお、小テストについては、各自に点数を伝えます。また、小テストの模範解答も以降の講義で示します。

事前・事後学習

新聞や雑誌などで企業の会計数値(売上高や利益額など)を見て、この企業の経営はうまくいってそうだ、こっちの企業は倒産の危険があるんじゃないか、ということに関心をもってください(毎日90分以上)。

授業の位置づけ

系統的に学修し、進路に即した人間力の根幹を形成する。

授業計画

第１講　ガイダンス
第２講　財務会計の機能と制度
第３講　利益計算の仕組み
第４講　利益計算の仕組み
第５講　会計理論と会計基準
第６講　会計理論と会計基準
第７講　利益測定と資産評価の基礎概念
第８講　利益測定と資産評価の基礎概念
第９講　現金預金と有価証券
第10講　売上高と売上債権
第11講　棚卸資産と売上原価
第12講　有形固定資産と減価償却
第13講　損益計算書と貸借対照表
第14講　損益計算書と貸借対照表
第15講　連結財務諸表
定期試験

テキスト・教材（参考文献含む）

講義資料は毎回プリントを配布します。

(参考文献)
桜井久勝『財務会計講義〈第22版〉』中央経済社(2021)。
桜井久勝『会計学入門〈第５版〉』日本経済新聞出版社(2018)。

担当者から一言

遅刻、私語、スマホ使用などは禁止します。他の学生に迷惑をかけないように心がけてください。
進捗により各テーマの講義回数を変更する可能性があります。
日商簿記検定等の資格取得の相談にも対応します。
簿記･会計に関する講義で学習した内容を復習しておいてください。

経営戦略論

実務

科目ナンバリング	1年次	2単位
PBM2003	後学期	選　択

川崎綾子

授業の位置づけ

系統的に学修し、進路に即した人間力の根幹を形成する。

授業のねらい

本講義では経営戦略の論理や分析手法を理解した上で、企業が実際に採用している戦略について考察する。考察を通じて経営戦略の論理の理解を深めることを、本講義のねらいとする。

到達目標

経営戦略の枠組みや手法について理解した上で、実際の企業戦略に対する改善案や新たな戦略案を提示できる。
経営戦略の用語を駆使した、論理的なレポートの作成能力をもつ。
資料から必要な証拠を収集し、説得力のあるレポートを書く力を有する。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法

中間レポート　50%
定期試験　50%

中間レポートについては、講義中にコメントする。
優秀な中間レポートは、講義中に紹介する場合がある。

事前・事後学習

レポートへの解答、書籍やインターネットの閲覧などを通して、用語の予習や復習、経営戦略の立案練習に取り組むことが望ましい（毎週３時間程度）。

授 業 計 画

1　ガイダンス／単位取得に関する注意事項
2　経営戦略の基本（1）／思考の軸としての論理
3　経営戦略の基本（2）／主要なアプローチの概観
4　経営戦略の構造／戦略の３つのレベル，環境
5　全社戦略
6　事業戦略（1）／ポーター理論
7　事業戦略（2）／資源ベース論
8　他社との違いをつくる
9　コストを引き下げる
10　集中戦略／専門性を身につける
11　顧客ニーズの違いに対応する
12　顧客の用事を手伝う／事例紹介
13　製品ライフサイクル／事例紹介
14　新製品の創出／事例紹介
15　まとめ
定期試験

テキスト・教材（参考文献含む）

教科書はなし。資料を配布する。
参考文献:宮崎正也著『コア・テキスト事業戦略』新世社
青島矢一，加藤俊彦著『競争戦略論』東洋経済新報社
稲葉祐之，井上達彦，鈴木竜太，山下勝著『キャリアで語る経営組織』有斐閣

担当者から一言

レポートでは院生レベルを要求しますが、経営戦略論は１から教えますので安心してください。
ただし私語は厳禁。何度も注意を受けたり、毎回の講義で注意されたりするような人には、原則単位を認めません。

マーケティング論

実務

科目ナンバリング	2年次	2単位
PBM2005	後学期	選　択

川崎綾子

授業の位置づけ

系統的に学修し、進路に即した人間力の根幹を形成する。

授業のねらい

本講義ではマーケティング論の概念や論理を理解した上で、企業のマーケティング活動やマーケティング戦略について考察する。考察を通じてマーケティング論の理解を深めることを、本講義のねらいとする。

到達目標

マーケティングの論理や枠組みについて理解した上で、企業のマーケティング活動に対する改善案や新たなマーケティング戦略を提示できる。
マーケティング論の用語を駆使した、論理的なレポートの作成能力をもつ。
資料から必要な証拠を収集し、説得力のあるレポートを書く力を有する。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法

中間レポート　50%
定期試験　50%

中間レポートについては、講義中にコメントする。
優秀な中間レポートは、講義中に紹介する場合がある。

事前・事後学習

レポートへの解答、書籍やインターネットの閲覧などを通して、用語の予習や復習、マーケティング戦略の立案練習に取り組むことが望ましい(毎週３時間程度)。

授 業 計 画

1　ガイダンス／単位取得に関する注意事項
2　マーケティングの論理
3　マーケティング・ミックス／４つのＰ
4　ターゲット市場の選定／事例紹介
5　ポジショニング／事例:ドトールとスターバックス
5　製品ライフサイクルとマーケティング戦略
6　市場地位別のマーケティング戦略
7　業界の構造分析
8　広告マネジメント／ジブリの事例
9　価格戦略
10　流通チャネル戦略
11　マーケティング・コミュニケーション
12　マーケティングの新展開／ブランド構築の事例
13　サービス・マネジメント
14　経験価値マーケティング，関係性マーケティング
15　まとめ
定期試験

テキスト・教材（参考文献含む）

教科書はなし。資料を配布する。
参考文献:青木幸弘編『ケースに学ぶマーケティング』有斐閣ブックス

担当者から一言

レポートでは院生レベルを要求しますが、マーケティング論は１から教えますので安心してください。
ただし私語は厳禁。何度も注意を受けたり、毎回の講義で注意されたりするような人には、原則単位を認めません。

中小企業論

科目ナンバリング	2年次	2単位
PBM2008	後学期	選　択

岡　良浩

授業の位置づけ
地域を志向した学修を通じて地域社会に貢献する人材になる。

授業のねらい
この講義は企業経営を人的側面からみることをねらいとしています。
企業経営には「正解」というものがありません。企業は、日々、自らの事業の改良や新しいビジネスを模索しています。
この講義では、毎回、経営者の対談やエピソードに関する映像を見ていただき、その経営者が何を重要と思いながら日々経営を考えているか、なぜそのような経営理念が生まれるのかを探ることを目標とします。

到達目標
以下の３つを目標とします。
１．中小企業の役割や課題を理解する。
２．企業の経営理念と事業内容の関係を理解する。
３．全体を通じて中小企業がもつ経営の特質を理解する。

成績評価方法･課題･フィードバックの方法
毎回の要約(50%)
学期末のレポート試験(50%)

事前・事後学習
予習:とりあげる企業の概要を調べておくこと(90分)
復習:毎回の要約の提出(90分)

授 業 計 画
第１講　ガイダンス＆映像視聴
第２講　ユニバーサルスタジオジャパン
第３講　スシロー
第４講　スターバックス
第５講　マザーハウス
第６講　中川政七商店
第７講　コメダ珈琲
第８講　喫茶ルノワール
第９講　スティーブ･ジョブズ
第10講　オカムラ家具
第11講　食べチョク
第12講　物語コーポレーション
第13講　ハローキティ
第14講　井村屋
第15講　まとめ
※とりあげる企業は、希望に応じて変更する可能性があります。

テキスト・教材（参考文献含む）
特に使用しません。
四日市大学教育支援システム(moodle)を使用します。

担当者から一言
皆さんも経営者になった気持ちで、受講してください。
映像は授業内でのみ視聴可能な貴重なものです。
毎回、映像の内容を要約するのは大変ですが、よい訓練になります。

人事管理論

科目ナンバリング	3年次	2単位
PBM3001	前学期	選　択

川崎綾子

授業の位置づけ
系統的に学修し、進路に即した人間力の根幹を形成する。

授業のねらい
①企業内の諸個人が抱える課題について考えること、②人事制度を通した解決の方法について理解することを、本講義のねらいとする。「個人」や「組織」の観点から、人事管理について学ぶ。

到達目標
人事の仕組みや組織に関する理論について理解した上で、働き方に関する諸課題への解決策を提示できる。受講生自身のキャリア計画を立案できる。
組織論の用語を駆使した、論理的なレポートの作成能力をもつ。
資料から必要な証拠を収集し、説得力のあるレポートを書く力を有する。

成績評価方法･課題･フィードバックの方法
中間レポート　50%
定期試験　50%

中間レポートについては、講義中にコメントする。
優秀な中間レポートは、講義中に紹介する場合がある。

事前・事後学習
レポートへの解答、書籍やインターネットの閲覧などを通して、用語の予習や復習、人事にまつわる課題解決の練習に取り組むことが望ましい(毎週３時間程度)。

授 業 計 画
1　ガイダンス／単位取得に関する注意事項
2　人事管理とは(1)／マネジメントの定義
3　人事管理とは(2)／日本の人材マネジメント
4　キャリアを考える／個人の欲求と会社の目的
5　社会化と組織文化
6　モチベーションと規則の関係／官僚制
7　部下を持つ／リーダーシップ
8　意思決定
9　人事評価，等級
10　賃金･退職金
11　コンフリクト･マネジメント／ストレス
12　グループ･ダイナミクス／人間関係
13　組織デザイン
14　環境のマネジメント／制度，市場
15　働き方の未来を考える
定期試験

テキスト・教材（参考文献含む）
教科書は指定しない。資料を配布する。

担当者から一言
レポートでは院生レベルを要求しますが、人事管理論は１から教えますので安心してください。
ただし私語は厳禁。何度も注意を受けたり、毎回の講義で注意されたりするような人には、原則単位を認めません。

ものづくり経営

西浦尚夫

科目ナンバリング	2年次	2単位
PBM2006	後学期	選　択

授業のねらい

「ものづくり経営」について、基礎となる理念、過程、管理の基本知識を講義します。また、協力先企業である㈱伊藤製作所の代表取締役及び役員の方々から日本のものづくり経営の課題や優位性を浮き彫りにして、これからの日本の製造業のあるべき姿について考えていきます。この講義を通じて、問題発見能力、問題解決能力、提案能力の３つの能力を養うことを目的とします。
・㈱伊藤製作所　https://www.itoseisakusho.co.jp/

到達目標

受講修了後、企業の現場において、「価格競争に陥らないような独創的な製品・サービス開発したい」、「開発のスピードで他社より勝りたい」、「コスト競争力をもっと上げたい」、「高い品質で顧客に満足してもらいたい」といった現実の要望に応えられるため、論理的かつ端的に自らの考えを表現できる文章を作成できることを到達目標としています。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法

・授業態度及び授業時に指示する課題の提出状況　55％
・定期試験　45％
（授業中、配布したテキスト、自筆ノートのみ持込可）
毎回指示する課題レポートで理解度と文章構成力を確認し評価します。
無断で３回以上欠席した学生には、原則として単位を与えないこととします。
授業中もしくは授業後に寄せられた質問に対しては、適宜、授業内で回答していきます。

事前・事後学習

様々なメディア情報から日本のものづくり企業がどのような経営を行っているかを考えること（１日20分以上）。
(事前に読んでおくことが望ましい図書)
伊藤澄夫著　『日本製造業の後退は天下の一大事－モノづくりこそニッポンの砦 第3弾－』
日刊工業新聞社(2020年)定価:1,980円(50分)

授業の位置づけ

系統的に学修し、進路に即した人間力の根幹を形成する。

授 業 計 画

第１講　ガイダンス・講義の概要
第２講　日本企業の経営課題(主に製造業)
第３講　ゲスト講師による講演①(※予定)
【世界に誇る日本のモノづくり力：㈱伊藤製作所　代表取締役　伊藤澄夫氏】
第４講　経営戦略の基礎①
第５講　経営戦略の基礎②
第６講　マーケティングの基礎①
第７講　マーケティングの基礎②
第８講　企業成長の理論①
第９講　企業成長の理論②
第10講　生産管理の基礎【科学的管理法・フォードシステム・トヨタ生産方式】①
第11講　生産管理の基礎【科学的管理法・フォードシステム・トヨタ生産方式】②
第12講　ゲスト講師による講演②(※予定)
【㈱伊藤製作所　常務取締役　稲垣朋彦氏】
【　〃　取締役　営業・海外事業担当　川崎剛司氏(本学卒業生)】
第13講　事例研究①
第14講　事例研究②
第15講　ものづくり経営のまとめ
定期試験
※ ゲスト講師による講演日は、講師との日程調整により決定します。

テキスト・教材（参考文献含む）

市販のテキストは使用せず、適宜、資料やパワーポイントを活用しながら、理解を深める授業を展開します。

担当者から一言

㈱伊藤製作所は、フィリピン、インドネシアにも製造拠点を有し、日本のものづくりできらりと光る地元の中小企業です。代表取締役、役員の方をゲスト講師として迎え講演していただきます。貴重な機会ですので真剣な態度で受講してください。

総合政策学部：流通論
環境情報学部：農産物流論

川崎綾子

科目ナンバリング	2年次	2単位
PBM2007 EFE3001	前学期	選　択

授業のねらい

本講義では生産者や消費者などの多様な視点から、商品の流通について講義する。消費者に最も近い小売店について学ぶことは、メーカー側の意図を知ることにもつながる。生産者と消費者を橋渡しする商業者の多様な役割について学んだ上で、小売企業の経営幹部としての戦略立案を試みる。

到達目標

流通企業の歴史や現行のシステムについて理解した上で、経営幹部としての戦略立案ができる。
流通論の用語を駆使した、論理的なレポートの作成能力を有する。
資料から必要な証拠を収集し、説得力のあるレポートを作成する力をもつ。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法

中間レポート　50％
最終レポート(レポート試験)50％

中間レポートについては、講義中にコメントする。
優秀な中間レポートは、講義中に紹介する場合がある。

事前・事後学習

レポートへの解答、書籍やインターネットの閲覧などを通して、用語の予習や復習、経営幹部の立場における課題解決の練習に取り組むことが望ましい(毎週３時間程度)。

授業の位置づけ

系統的に学修し、進路に即した人間力の根幹を形成する。
多様な社会の価値観を理解し、自分の考えを的確に表現し、伝えることができる。

授 業 計 画

1　ガイダンス／単位取得に関する注意事項
2　流通とは／生産者，商業者，消費者の視点
3　百貨店と総合スーパー／チェーン・オペレーション
4　食品スーパー／日本市場特有のニーズ
5　コンビニエンス・ストア／立地・時間・品揃えという価値
6　ディスカウント・ストア／規模の経済
7　SPA／伝統的な分業体制とのちがい
8　商店街とショッピングセンター／開発業者とテナントの関係
9　流通構造と日本型取引慣行／映画産業の事例
10　日本型の商慣行と，その崩壊／流通系列化
11　農産物流通／卸売市場とは
12　青果物の流通・マーケティング
13　食品の流通（１）／生産から消費へ
14　食品の流通（２）
15　Amazonの流通システム，イオンの歴史

テキスト・教材（参考文献含む）

教科書は指定しない。資料を配布する。
参考文献は石原武政・竹村正明・細井謙一編著『１からの流通論（第２版)』碩学舎。

担当者から一言

レポートでは院生レベルを要求しますが、流通論は１から教えますので安心してください。
※何度も私語の注意を受けるような人には、原則単位を認めません。
流通論は生活に根差した学問です。皆さんの生活にも貢献できれば幸いです。

農業経営論

鶴田利恵・杉谷克芳

科目ナンバリング	2年次	2単位
PBM2009 EFE3002	後学期	選　択

授業のねらい

この講義では、前半（杉谷担当）において主に日本の農業問題に焦点を当て、後半（鶴田担当）では国際的な視点から農業問題を考えます。日本の農業問題では第二次世界大戦後の改革から始まり、高度経済成長期やグローバル化が進む中で、日本の農業問題やビジネスががどのように進展していったのかを学びます。国際的な視点からはGATT（貿易と関税に関する一般協定）やTPPなどの自由貿易協定の中で農業問題がどのように捉えられてきたのかを理解します。皆さんの意見や疑問もぶつけ合いながら、活発なディスカッションを行いながら進めます。

到達目標

日本及び世界における農業の経済的側面に関する基本的な知識と問題点を理解し、将来の展望を考える力を培う。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法

前半のレポート（50%）と後半の試験（50%）により評価します。
フィードバック方法：講義中や終了後の質問や疑問には適宜コメントします。

事前・事後学習

日頃からテレビ、新聞、インターネットなどなんでも良いので経済ニュースに触れておくこと（毎日１時間以上。まとめてでも小刻みでも構いません。電車の中でネットでニュースを見るのもOKです）。講義後は、その日のテキストを必ず読み返す（30分以上）。

授業の位置づけ

系統的に学修し、進路に即した人間力の根幹を形成する。

授業計画

第１講　ガイダンス
第２講　日本の農業の現状①：農地、農家、農業産出額
第３講　日本の農業の現状②：農業生産の縮小と食糧自給率の低下
第４講　日本の農政①：戦後改革と農業、食管制度
第５講　日本の農政②：高度成長と農業、農業基本法、総合農政
第６講　日本の農政③：グローバル化と農業、食料・農業・農村基本法
第７講　農業のビジネス化、地域の農業：農業生産法人、企業の農業参入
第８講　前半のまとめ
第９講　世界の食糧事情と問題点
第10講　穀物貿易の特質
第11講　農業保護政策
第12講　輸出競争とGATT農業交渉
第13講　WTO農業協定とドーハ開発アジェンダ
第14講　FTA（自由貿易協定）と農業問題
第15講　後半のまとめ

テキスト・教材（参考文献含む）

プリントを配布します。

担当者から一言

質問や意見はおおいに歓迎です。ただし、私語、携帯電話の使用は禁止します。特に、注意をしても私語や携帯電話の使用をやめない場合には、退出（もちろん欠席扱い）を命じるか、もしくは携帯電話を没収します。

起業論

実務

岡　良浩

科目ナンバリング	2年次	2単位
PBM2010	前学期	選　択

授業のねらい

この講義では起業家精神（アントレプレナーシップ）を養うための講義と演習を行います。
起業家精神とは、事業を起こす可能性を追求する能力のことです。このような能力は、例えば暗記したり学説を理解したりする能力とは全く異なり、創造的思考が必要です。
まずアントレプレナーシップの事例を学びます。次に創造的思考の技法を学びます。最後に、ソーシャルビジネスを事例に、これらがどのような共通の発想で成り立っているかを理解したうえで、自らビジネスモデルの立案を試みます。

到達目標

以下の３つを掲げています。
１．アントレプレナーシップが事業者にどのように活用されているかを理解する。
２．創造的思考の技法を身につける。
３．自ら事業企画を立案する。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法

課題への取り組み（50%）学期末のレポート試験（50%）
提出された課題は、講義中にコメントをします。

事前・事後学習

参考文献は講義中に示します。事前に学習してください（90分）。
報告や小レポートの提出を求めますので自宅で行ってください（90分）。

授業の位置づけ

系統的に学修し、進路に即した人間力の根幹を形成する。

授業計画

第１講　4/11　ガイダンス
第２講　4/18　アントレプレナーシップと事業事例１
第３講　4/25　アントレプレナーシップと事業事例２
第４講　5/9　アントレプレナーシップと事業事例３
第５講　5/16　創造的思考実習１（ブレーンストーミング／KJ法）
第６講　5/23　創造的思考実習２（ソーシャルビジネスの企画立案）
第７講　5/30　企画立案のフィードバック
第８講　6/6　ビジネスプランコンテスト
第９講　6/13　事業計画の構成１（総論）
第10講　6/20　事業計画の構成２（ファイナンス）※１
第11講　6/27　ビジネスモデル立案の実習１
第12講　7/4　ビジネスモデル立案の実習２
第13講　7/11　ビジネスモデルのフレームワーク
第14講　7/18　ビジネスプランコンテスト　※１
第15講　7/25　まとめ
※１は、株式会社三十三総研が提供する授業です。
※日程・内容などは変更する場合があります。

テキスト・教材（参考文献含む）

特に使用しません。講義中に適宜プリントを配布します。

担当者から一言

この授業を通じてビジネスプランが完成すれば、株式会社三十三総研のビジネスプランコンテストに応募していただきます。是非、応募をめざしてください。

総合政策学部：総合政策特別講義Ⅲ 環境情報学部：環境情報特別講義Ⅲ 片山清和・千葉　賢・前川督雄	科目ナンバリング	1年次	2単位
	PSL2003 ESL2003	後学期	選　択

授業の位置づけ

総合政策：調査・分析を通じて研究テーマを探求する能力を身につける・幅広い人間力を身につける。
環境情報：専門技術者に求められる倫理観を身につけている・地域の持続的発展のために貢献できる。

授業のねらい

情報通信技術の革命的発展にともない、私たちの住む社会はサイバー社会（ネット）とフィジカル社会（現実社会）とが一体化した新しい社会に生まれ変わろうとしています。その社会では、気づかないところで観測・集積される多様なデータを用いてAIが社会の重要な基盤として活躍します。

これからの私たちは、データサイエンスとAIについてのリテラシーをもつことが求められるようになります。

「データサイエンス序論」ではその入門編として基礎的な知識を学び、心構えの基本を身に着けてもらいます。

到達目標

データサイエンスとAIについて基礎的な知識を獲得し、心構えの基本を身に着ける。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法

毎回の授業で課す確認テスト及び演習課題60％、定期試験40％で総合評価する。

事前・事後学習

授業前にテキストの該当する箇所を予習すること（60分）。授業後に復習するとともに、参考図書やインターネットを用いて疑問点を調べ、授業内容を展開する探索を行うこと（120分）。

授 業 計 画

第１講　ガイダンス
第２講　社会で起きている変化①　Society5.0（前川）
第３講　社会で起きている変化②　AI（前川）
第４講　社会で起きている変化③　データ駆動型社会（前川）
第５講　社会で活用されているデータ（片山）
第６講　データ・AI利活用の最新動向（前川）
第７講　データ・AIの活用領域（片山）
第８講　データ・AIの利活用のための技術（片山）
第９講　データ・AI利活用の現場（片山）
第10講　データを読む・説明する・扱う（導入）（片山）
第11講　データを読む・説明する・扱う（演習）（片山）
第12講　データ・AI利活用における留意事項①（千葉）
第13講　データ・AI利活用における留意事項②（千葉）
第14講　データを守るうえでの留意事項（千葉）
第15講　まとめ
定期試験
（必要に応じて内容・順序を変更することがあります）

テキスト・教材（参考文献含む）

岡嶋ほか「はじめてのAIリテラシー」技術評論社　税別1,680円

担当者から一言

本科目は、データサイエンス・リテラシー（DSL）プログラムの中核科目です。この他に、「コンピュータリテラシー」「情報倫理」の必修２科目及び「データ分析の基礎」「統計的分析」のいずれか１科目を履修・合格することで、DSLプログラムを修了できます。

出版文化論　実務 稲葉年計	科目ナンバリング	2年次	2単位
	PCF2001 ECF2004	前学期	選　択

授業の位置づけ

系統的に学修し、進路に即した人間力の根幹を形成する。

授業のねらい

本授業では、出版文化の基本として、まずは現代日本の文学を見ていくこととなります。

時代時代の諸所の文学的な作品を通じて、人々と社会の関係の上で何が表現されているかを考えます。文学やサブカルを通じての現代社会の捉え方を学んでいきます。そうした現代の社会背景を把握した上で、現在の出版文化や出版メディアの位置づけを、小さな出版社をつくる実践例を見ることで理解します。文学と出版文化を通じて、現代の文化や社会の仕組みを考えます。

到達目標

全体性に留意しつつ、現代社会を考えることができること。

文学と経営を通じて、社会を深く把握すること。

できるだけ授業において、考える力や学ぶ力を養いたい。授業ではMoodleあるいは出席カード裏で講義ごとに感想や意見を書いてもらい、出席の確認をするとともに、コミュニケーションをとっていくこととなる。よって、考え、理解し、意見する力を身に付けること。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法

成績評価は、授業への参加度40％、定期試験（レポート）60％による。レポート試験については、希望者は返却するなどの対応をします。Moodleあるいは出席カード裏での毎回の課題（感想や意見）については、次の回の授業の冒頭で、質問があれば回答し、また良いもの、面白いものなどがあればとり上げ、コミュニケーションしていきたいと思います。

事前・事後学習

本や小説、映画、漫画、ドラマ等により時事的なニュースや社会に触れること。（80分）
授業後には配布資料に目を通し復習すること。（10分）

授 業 計 画

1．ガイダンス
2．1960年代の文学の展開（松本清張）
3．1960年代の文学の展開（三島由紀夫）ーー全体性の喪失ーー
4．東浩紀『動物化するポストモダン』
5．東浩紀『ゲーム的リアリズムの誕生』
6．宇野常寛『ゼロ年代の想像力』①
7．宇野常寛『ゼロ年代の想像力』②
8．宇野常寛『ゼロ年代の想像力』③
9．村上春樹（と宇野常寛）
10．宇野常寛『母性のディストピア』
11．小さな出版社のつくり方①
12．小さな出版社のつくり方②
13．小さな出版社のつくり方③
14．著作権について
15．全講義のまとめ
定期試験

テキスト・教材（参考文献含む）

（テキスト）宇野常寛著「ゼロ年代の想像力」早川書房（2011年）定価：902円
（参考文献）宇野常寛著「母性のディストピアⅡ　発動篇」早川書房（2019年）定価：924円
各講義において、PowerPoint資料を提示、あるいは、プリントを配布します。

担当者から一言

授業内で、できる限りコミュニケーションがとれるよう考えます。なお、コピー＆ペーストは厳禁です。

日本文化論

科目ナンバリング	2年次	2単位
PCF2002 ECF2003	前学期	選　択

永井　博

授業のねらい

いわゆる「日本文化論」は、たとえばお茶やお能などの伝統芸能などを日本に独自な文化として論じる。しかし「日本」の「文化」はどのような文化なのかについて考えるのではなく、むしろ「文化」という概念のもとに何が語られているかを考えることの方がより大きな問題であると思われる。

この講義では、いろいろな「日本文化論」を取り上げて、「日本」の「文化」がどのように語られ、どのような問題をかたちづくってきたかについて一緒に考えてみたい。

到達目標

「文化」という概念が含む問題を自らの中にも根付いている自分の問題としてとらえ、それをどのように克服していくかについて考える糸口を見つけることができることを目標にする。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法

受講態度50％、定期試験50％を目安に総合的に判断する。提出物は評価を付けたうえで翌週以降の講義で返却する。

事前・事後学習

予習として、配布する日本文化論のテクストをよく読んでくること。(90分)

復習として、講義の内容を踏まえて上記のテクストをさらによく読むとともに、それらの筆者の他の文章も自分で入手して読むこと。(90分)

授業の位置づけ

幅広い人間力を身につける。

授 業 計 画

第１回　ガイダンス
第２回　「文化」概念について
第３回　「日本文化論」の問題点について
第４回　ブルーノ・タウトの日本文化論　①　「日本文化私観」
第５回　ブルーノ・タウトの日本文化論　②　「ニッポン」
第６回　日本の食文化　お雑煮
第７回　加藤周一＜雑種文化論＞　①　その背景
第８回　加藤周一＜雑種文化論＞　②　その主張
第９回　加藤周一＜雑種文化論＞　③　その特長と問題点
第10回　谷崎潤一郎「陰翳礼讃」　①　その概要
第11回　谷崎潤一郎「陰翳礼讃」　②　その問題点
第12回　三島由紀夫「文化防衛論」　①　その特長
第13回　三島由紀夫「文化防衛論」　②　戦後の日本文化論
第14回　坂口安吾「日本文化私観」　①　その内容
第15回　坂口安吾「日本文化私観」　②　その思想史的意味
定期試験

テキスト・教材（参考文献含む）

プリントなどの資料を配布する。

担当者から一言

日本の文化論がこれまでにそのような問題を構成してきたか、現在どのような問題をはらんでいるかについて一緒に考える時間にしたいと思っている。

総合政策学部：東洋文化論
環境情報学部：アジア文化論

科目ナンバリング	2年次	2単位
PCF2003 ECF2005	後学期	選　択

加納　光

授業のねらい

アジア地域・諸国の歴史・文化・社会を概観しながらアジアに対する認識を深め、アジアの特性について考えていきます。また、日本を含むアジア地域・諸国の諸事情を学びながら、アジア地域・諸国から日本社会が学ぶべき点についても考えてみたいと思います。

アジアに対する理解を深めるため、受講生自身がアジアに関する特定のテーマについて調べ、レポートにまとめて発表する機会も持ちたいと考えています。

アジアに対する理解を深めながら、アジア地域の特性を明らかにすることを、この授業のねらいとします。

到達目標

この授業では、社会・文化・宗教・言語など、ざまざまな視点からアジア諸国に対する理解を深め、学生諸君が明確なアジア像をイメージできるようになることが、到達目的です。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法

定期試験60％、課題レポート40％をもとに、総合的に評価します。授業中もしくは授業後に寄せられた質問に対しては、適宜、授業内で回答していきます。

事前・事後学習

毎回のテーマに関する内容を事前に調べ授業に臨んでください（90分)。授業後は、学習内容の理解を定着させるために再度しっかり復習してください（90分)。事前学習の内容については、毎回の授業終了時に連絡する予定です。

授業の位置づけ

幅広い人間力を身につける。

授 業 計 画

第１講：ガイダンス、講義の概要
第２講：アジアとは何か
第３講：アジアの地理学的な規定１
第４講：　　同上　　２
第５講：アジアの地域区分
第６講：アジアの語源
第７講：アジアの多様性
第８講：民族の多様性
第９講：言語の多様性　　グループ発表①
第10講：宗教の多様性１　グループ発表②
第11講：　　同上　　２　グループ発表③
第12講：中国近代史１
第13講：　　同上　２
第14講：　　同上　３
第15講：　　同上　４　まとめ
定期試験
注　進度および授業内容はクラスの状況に応じて変更する場合があります。

テキスト・教材（参考文献含む）

プリント教材（適宜教材を配布します)。

担当者から一言

日頃からアジア地域・諸国に関心をよせながら、その歴史・文化・社会に対する理解を深める取り組みをしていってください。なお、遅刻、中座、飲食、私語、携帯の使用は原則禁止します。積極的な授業参加を期待しています。

総合政策学部：西洋文化論 環境情報学部：欧米文化論 山本　伸	科目ナンバリング	2年次	2単位
	PCF2004 ECF2006	後学期	選　択

授業の位置づけ

幅広い人間力を身につける。

授業のねらい

本講義の狙いは、カリブ海地域の視点を基軸にヨーロッパ世界の文化や哲学、宗教観などを批判的に紐解きながら、福沢諭吉の「脱亜入欧」論を基盤に構築された近代日本の歪みを浮き彫りにすることです。

到達目標

近代世界がヨーロッパ中心主義的な価値観のもとで構築されてきていることをまずは理解することが第一、そして、そのことを日本の我々自身が半ば無意識のうちに影響を受けて日常を過ごしていることを意識すること、それが大きな目標となります。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法

平常点（積極的に授業を受けているか等の授業態度、確認テスト等）50%、レポート（期末試験）50%で総合的に判断します。

事前・事後学習

前週に出された課題（テキストの熟読／わからない用語の検索等）に90分、学習した箇所の復習（テキストのおさらい／ノート整理等）に90分をそれぞれかけて準備学習をしてください。

授業計画

第１講　ガイダンス、導入「本講義で学べること」
第２講　カリブ海地域における異文化コミュニケーション
第３講　歴史と教育①
第４講　社会・人種・アイデンティティー①／アフリカ系とインド系
第５講　社会・人種・アイデンティティー②／インド系内比較
第６講　社会・人種・アイデンティティー③／中国系
第７講　台湾映画『セデック・バレ』（前半）
第８講　台湾映画『セデック・バレ』（後半）
第９講　文化とコミュニティー／カーニバルと精神文化
第10講　文化と宗教
第11講　クレオリズムとグローカリズム①／ハイチのクレオリズム
第12講　クレオリズムとグローカリズム②／ジャマイカのグローカリズム
第13講　平和
第14講　カリブ文学研究の現代的意義
第15講　まとめ
定期試験
（授業内におけるフロアとの質疑のインターアクションをもってアクティブラーニングとする）

テキスト・教材（参考文献含む）

山本　伸著　『カリブ文学研究入門』（世界思想社）2005年　定価：1,500円（税込）

担当者から一言

カリブ（およびアジア）の視点を通しての欧米文化について広く学ぶことになるので、これら三地域への関心を高め、さまざまなメディアツールを利用してバーチャルに異文化体験をしておくことが望まれます。

地域文化論　実務 前田憲司	科目ナンバリング	3年次	2単位
	PCF2005	前学期	選　択

授業の位置づけ

幅広い人間力を身につける。

授業のねらい

文化とは人類がみずからの手で築き上げてきた有形・無形の成果の総体。それぞれの民族・地域・社会に固有の文化があり、学習によって伝習されるとともに、相互の交流によって発展してきました。文化の地域的特質を考えると、三重県と四日市市にもさまざまな文化的資源があります。その紹介を通じて、心豊かな社会生活を送るために、将来にわたって必ず役立つ基本的な教養と具体的な知識を身につけることを目的とします。

さらには、自らの郷土が有する文化資産に対して再認識するきっかけづくりとし、地域社会に対する関心を高めることを目的とします。

到達目標

三重県および四日市市の多岐にわたる文化的特徴を学ぶことにより
１．この地域にある文化資源の概要が把握でき、特色が理解できる。
２．自身の出身地に対してもどのような特色があるのか探究心を持つ。
３．国の内外を問わず、地域外の人々がこの地域のどこに魅力を感じるのか客観的にわかる。
４．地域社会に対する関心が高まる。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法

毎回講義（１回目～15回目）ごとに提出させるミニレポート　35%
※１講義当たり０～2.5ポイントで評価し通算します。
試験（語句解説等と論述）　65%
以上を採点合計し、総合的に判断する。
なお、授業内容に関する質問は毎回提出するミニレポートに記入するものとし、質問に対する回答、レポート内容に誤りがある場合の指摘等は次の授業で行います。

事前・事後学習

日頃から新聞の地域面、タウン誌や広報などに目を通し、地域文化情報を察知する術を身に着けておくこと（毎日30分程度）。授業資料を見返して、不明な点などは参考文献等で調べておくこと（30分）。機会があれば授業で取り上げた文化資源の所在地へ赴くこと。（最低１カ所）

授業計画

1．ガイダンス
2．文化とは
3．三重が誇れるもの（「三重」の知名度は低いが誇れるものがいっぱい
4．伊勢神宮
5．熊野古道（世界遺産「紀伊山地の霊場と参詣道」）
6．海女の習俗（日本遺産「海女に出逢えるまち 鳥羽・志摩～素潜り漁に生きる女性たち」）
7．街道と交通（東海道を中心に）
8．伝統工芸（松阪木綿・伊勢型紙・日永うちわ・鈴鹿墨・伊勢根付など）
9．スポーツ文化と伝統芸能
10．食文化
11．三重の人々
12．三重のまつり（世界遺産「山・鉾・屋台行事」から）
13．四日市が誇れるもの（四日市の日本一・近代産業遺産と夜景など）
14．地域文化資源の活用（三重国体開会式典のとりまとめを例に）
15．振り返り
※　試験

テキスト・教材（参考文献含む）

参考図書　・「新視点　三重県の歴史」（山川出版社）
・「続発見　三重の歴史」（新人物往来社）
・「伊勢神宮とはなにか」（集英社新書）
・「目で見る　鳥羽・志摩の海女」（海の博物館）
授業内容に応じて参考図書の紹介を行います。

担当者から一言

タウン誌や県政だより「みえ」の編集に携わり、県内市町広報コンクールの審査委員や、地域文化をもとにした事業企画など、さまざま経験から得た、三重県や四日市市の文化的特長ついて、画像や映像を紹介しながら講義します。いわば三重の「雑学」を得る感覚で受講してください。

環境情報学概論Ⅰ

科目ナンバリング	1年次	2単位
EFC1001	前学期	必　修

鬼頭浩文　他

授業の位置づけ

専門技術者に求められる倫理観を身につけている。
地域の持続的発展のために貢献できる。
多様な社会の価値観を理解し、自分の考えを的確に表現し、伝えることができる。
環境に関する専門知識・技術を習得し、環境の個々の問題に取り組ことができる。
メディアに関する専門知識・技術を習得して、独自の視点で情報発信できる。

授業のねらい

自然環境分野とメディア情報分野の多様な講義を交互に配置し、実習も交え、両分野の学問の特徴や面白さを教える。多数の教員がオムニバス形式で授業を担当するので、1年次を担当していない教員を知る機会にもなる。以降の環境情報学部内での進路選択に役立つ情報も提供する。環境情報学概論Ⅱに繋がる内容とする。

到達目標

自然環境分野とメディア情報分野の学問の特徴を知り、環境情報学部で学ぶ分野を選択できるようにする。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法

各回の担当の先生による採点による（100％）。３割を越えて欠席した場合は単位を認定しません。
必要に応じてフィードバックします。

事前・事後学習

レポート課題の提出準備、または講義でとったノートの見返しと不明な点を調べること（90分）。毎回、次回講義の予告をするので下調べをすること(90分)。

授 業 計 画

第１講　ガイダンス(鬼頭)
第２講　里山と竹林保全(PPK四日市)
第３講　竹林保全実習(PPK四日市)
第４講　地域農業と環境(廣住)
第５講　スタジオ「夢宣言」(柳瀬、関根、黒田)
第６講　海洋のプラスチック問題（千葉)、ニュースから知る光メディア(黒田)
第７講　メディアとクリエイティビティ(柳瀬)
第８講　プランクトンの世界(牧田)、深層学習(片山)
第９講　北勢地域の野生動物（野呂)、スタジオでの録音シミュレーション(関根)
第10講　メディアと情報の融合(前川・黒田・関根)
第11講　伊勢湾の水質問題(千葉)、アナログからデジタルへ(池田)
第12講　水環境(大八木)、文化とメディア情報(前川)
第13講　Webを使った情報処理(片山)
第14講　スタジオ開き「PV制作」(柳瀬、関根、黒田)
第15講　分野選択(環境情報学部全教員)
(内容・順序を必要に応じて変更します。)

テキスト・教材（参考文献含む）

テキスト:ありません。
教材:必要に応じて各先生から配布されます。
参考文献:各先生から紹介されることがあります。

担当者から一言

オムニバス形式の授業なので、教員によって、教え方は大きく異なり、伝えたい内容を1回の授業にまとめて話をするので、聞く側は結構大変です。自分の進路を決めるための情報が満載の授業なので、積極的な気持ちで参加してください。

環境情報学概論Ⅱ

科目ナンバリング	1年次	2単位
EFC1002	後学期	必　修

田中伊知郎　他

授業の位置づけ

専門技術者に求められる倫理観を身につけている。
多様な社会の価値観を理解し、自分の考えを的確に表現し、伝えることができる。
環境に関する専門知識・技術を習得し、環境の個々の問題に取り組ことができる。

授業のねらい

基礎演習への導入として、自然環境分野についての知見を深める。

到達目標

自然科学の研究内容の基礎を知り、各研究室（セミナー）の研究手法について理解する。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法

授業のノートを取り、また与えられた課題に取り組み、ノートに解答を書いて、ノートを撮影してメール提出する（６点／回)。これを各回の担当教員が採点し、フィードバックを行う。授業への姿勢などを考慮して加点(最大10点)する。６点×15回＋10点＝100点。

事前・事後学習

講義でとったノートの見返しと、与えられた課題に取り組むこと（180分)。

授 業 計 画

第１講　ガイダンス：詳しいスケジュールの説明(田中)以下(　)内が担当教員
第２講　自然科学の研究方法(IMRD)と再現性(田中)
第３講　自然科学の発表方法(統計検定)と客観性(田中)
第４講　統計検定の実習(田中)
第５講　伊勢湾の水質と海洋ゴミ(千葉)
第６講　大学周辺の里山環境(千葉)
第７講　伊勢湾とマイクロプラスティック(大八木)
第８講　四日市周辺の陸水環境(大八木)
第９講　地域の生物多様性モニタリング(野呂)
第10講　北勢地域の野生動物(野呂)
第11講　地域資源を農業に活かす取り組み１(廣住)
第12講　地域資源を農業に活かす取り組み２(廣住)
第13講　湖沼と水田のプランクトン1(牧田)
第14講　湖沼と水田のプランクトン2(牧田)
第15講　まとめと基礎演習の進め方(田中)
第５講から第14講まで順番が変わることがあり、ガイダンスで案内します。

テキスト・教材（参考文献含む）

なし。

担当者から一言

自然環境分野の教員や学生たちが行った具体的な環境情報学を学ぶことができる授業です。必ず参加してください。

環境情報学概論Ⅱ

科目ナンバリング	1年次	2単位
EFC1002	後学期	必　修

前川督雄　他

授業のねらい

配属されたメディア情報分野での学生生活を確立していくための導入を行います。

分野の教員全員が分担して講義･演習を行って、分野の概要を伝え、体験してもらいます。また、2年次以降の学修の核となる演習科目(いくつかの研究室・セミナーに分かれての少人数指導になります)への導入を行います。

到達目標

メディア情報分野の概要を把握してもらいます。また、自分自身が進む方向性・興味の対象を見定めて、大学生活の核となる演習科目(研究室･セミナー)の配属希望を提出してもらいます。

成績評価方法･課題･フィードバックの方法

定期試験を行いません。
各回の講義･演習ごとに、取り組み態度と成果で評価し、合算します。
基礎演習(2年次)配属にむけて、期間中の授業時間外に個別面談を行います。

事前・事後学習

メディア情報分野の専門的な学修の出発点となる講義･演習です。
興味を持った点について積極的に教員を訪ね、自分で探索するなどしてさらに理解を深めてください(180分)。

授業の位置づけ

メディアに関する専門知識･技術を習得して、独自の視点で情報発信できる。
多様な社会の価値観を理解し、自分の考えを的確に表現し、伝えることができる。
専門技術者に求められる倫理観を身につけている。
地域の持続的発展のために貢献できる。

授業計画

第1講　ガイダンス／メディア情報分野概論(前川、片山)
第2講　Webコンピューティング／プログラミング(田中雅、片山)
以下第3講～第6講、第7講～第10講は、2グループに分かれて並行･交代して実施する。
第3講　パソコン分解組立て実習①(田中雅、池田、片山)
第4講　パソコン分解組立て実習②(田中雅、池田、片山)
第5講　パソコン分解組立て実習③(田中雅、池田、片山)
第6講　パソコン分解組立て実習④(田中雅、池田、片山)
第7講　音響メディア(関根)
第8講　映像メディア(柳瀬)
第9講　光メディア(黒田)
第10講　デジタルメディアと文化(前川)
第11講　文化論(武藤、樋口)
第12講　寺院見学(学外)(北島名誉教授)
第13講　特別講義(豊島名誉教授)
第14講　基礎演習にむけて(片山、黒田、関根、田中雅、前川、柳瀬)
第15講　4年生の卒業研究･卒業制作発表会見学
(内容･順序を変更することがあります)

テキスト・教材(参考文献含む)

テキストはありません。
必要に応じて資料を配布します。

担当者から一言

幅広い領域にわたりますが、全て欠席することなく積極的に参加してください。
とりまとめ教員は、前川(4号館4609)です。

四日市公害論　実務

科目ナンバリング	2年次	2単位
EFC2001	前学期	必　修

千葉　賢

授業のねらい

四日市公害は日本の四大公害の一つに数えられ、日本の公害対策、環境政策、環境関連法の整備に大きな影響を与えた。コンビナート企業群が引き起こした公害であり、環境問題における共同不法行為が争われたという点で特色を持つ。その後、総量規制という有効な環境対策も生み出され、排水・排気ガス・振動・騒音などの問題が大きく軽減されてきた歴史を持つ。このような四日市公害を学び､公害当時に人々がどのように行動したのかを知り、自分の立場に置き換えながら、今後の環境問題への教訓と知識と心構えを受講者が得られるようにする。

到達目標

①環境情報学部で学ぶ学生として、四日市公害について語ることができるようにする。
②四日市公害の歴史と背景についての知識を深める。
③現代の環境問題等の社会問題を多角的に捉える視点を身につける。

成績評価方法･課題･フィードバックの方法

毎回の講義後に、ミニレポートを作成して提出させる。1回3点満点×8回＝24点(優秀レポートには加点する)。フィールドワークの振り返りテスト21点。レポートを採点してフィードバックする。グループディスカッションへの参加姿勢15点満点。期末試験40点満点。

事前・事後学習

シラバスを参照して次回の講義内容を確認し、インターネット等を利用して、予備的な知識を得ること(180分)。予備的に調べたサイトや図書があれば、その名称と内容の両方をレポートに書くことで加点する。

授業の位置づけ

専門技術者に求められる倫理観を身につけている。
地域の持続的発展のために貢献できる。

授業計画

第1講　ガイダンス、授業の概要　千葉
第2講　四日市公害と4大公害の歴史　千葉
第3講　四日市公害と4大公害の歴史　千葉
第4講　四日市公害と4大公害の歴史　千葉
第5講　技術的側面から見た四日市公害　千葉
第6講　ここまでのまとめとフィールドワークのガイダンス　千葉
第7～10講　四日市公害と環境未来館でのフィールドワーク　鬼頭･岡
フィールドワークにどうしても参加できない人には課題を与えますので、第11講までに同館にて各自で学習してください。
第11講　フィールドワークの振り返り学習　鬼頭･岡
第12講　四日市公害から得られた教訓(資料調査とグループディスカッション)
第13講　四日市公害から得られた教訓(資料調査とグループディスカッション)
第14講　四日市公害から得られた教訓(グループディスカッションと発表)
第15講　まとめと試験範囲の説明

テキスト・教材(参考文献含む)

なし。毎回の講義で資料を配布する。

担当者から一言

経済発展の過程で必ず発生する環境問題と、その改善への人々の様々な取り組みについて、四日市公害の事例から学んでください。悲惨な経験をされた患者さんたちの話も出てきます。真剣に授業に取り組むことを求めます。

基礎演習ａ	科目ナンバリング	２年次	２単位
片山清和・前川督雄・田中雅章	ESS2001	前学期	必　修

授業のねらい

情報工学やプログラミングの基礎である論理学、離散数学、アルゴリズムを学びます。論理学では命題論理を中心に学びます。離散数学では主に集合、ブール代数、グラフについて学びます。アルゴリズムでは計算オーダー、アルゴリズムについて学びます。

到達目標

①命題論理を説明でき、論理演算ができる。
②ブール演算ができる。
③計算量を理解し、アルゴリズムを考えることができる。

成績評価方法･課題･フィードバックの方法

授業への取り組み姿勢や課題提出などによって総合的に評価する。
必要に応じてフィードバックする。

事前・事後学習

講義前には、これまでに学習した内容を復習すること(60分)。
講義後には、学習した内容を十分に復習すること(120分)。

授業の位置づけ

専門技術者に求められる倫理観を身につけている。
メディアに関する専門知識・技術を習得して、独自の視点で情報発信できる。

授 業 計 画

第１講　ガイダンス、ゼミの進め方
第２講　アルゴリズム(１)
第３講　アルゴリズム(２)
第４講　アルゴリズム(３)
第５講　論理学(１)
第６講　論理学(２)
第７講　論理学(３)
第８講　離散数学(１)
第９講　離散数学(２)
第10講　離散数学(３)
第11講　アルゴリズム(４)
第12講　アルゴリズム(５)
第13講　アルゴリズム(６)
第14講　アルゴリズム(７)
第15講　まとめ
(内容･順序を必要に応じて変更することがあります)

テキスト・教材（参考文献含む）

なし(必要に応じて配布します)
【参考文献】
野矢茂樹　「論理学」　東京大学出版会　￥2,600＋税
石村園子　「やさしく学べる離散数学」　共立出版　￥2,000＋税
「はじめての情報理論」　森北出版　￥2,400＋税

担当者から一言

情報工学の基礎を学ぶので、少し難しく、やや退屈に感じるかもしれませんが、プログラミングを行う上で重要な内容です。なるべく丁寧にわかりやすい講義･演習を目指します。
積み重ねの演習ですので、欠席はしないでください。

基礎演習ａ	科目ナンバリング	２年次	２単位
関根辰夫・黒田淳哉・柳瀬元志	ESS2001	前学期	必　修

授業のねらい

メディア系セミナーは、映像･音響･照明その他のメディアによる表現力、コミュニケーション能力を身につけることを目的とします。そのスタートにあたり、基本として修得していなければならない機材の使い方や理論を学ぶとともに、様々なメディアによる表現の鑑賞、評価を通して自己表現力を高めます。また同時に、作品制作にも取り組み、30～60秒程度の映像作品をグループで作ります。

到達目標

映像･音･光などを使いこなすために必要な機材の基本的な使い方や理論の基礎を修得し、様々な形で表現することに挑戦します。特に第9講以降には、作品の企画、構成から撮影･録音や編集など、作品制作の基礎を実践的に身につけ作品を完成させることを目標とします。

成績評価方法･課題･フィードバックの方法

定期試験は実施しません。成績評価は次の通りとします。
授業、課題への取組み姿勢:30%
作品制作への意欲、参加度:40%
レポート内容、作品内容、完成度:30%
レポートや課題についての評価は5段階評価をつけて後日返却。作品は第15講で発表し、評価も伝えます。

事前・事後学習

授業の中で様々なレポートや課題を出します。それに取組むことが準備学習となります。そのためには毎日30分程度、授業で出てきた機材やソフトウェアの使い方をマニュアルなどで復習し、また様々なクリエイティブな表現や作品にふれること。また、授業で呈示された表現のための新しいアイディアや方法論、また機材やソフトウェアの使い方などについては、授業後60分程度、様々な文献やインターネット等で研究し、知識を得ておくこと。

授業の位置づけ

専門技術者に求められる倫理観を身につけている。
メディアに関する専門知識・技術を習得して、独自の視点で情報発信できる。

授 業 計 画

第１講　ガイダンス／自分を表現することと創造すること
第２講　「クリエイティブ」について
以下第３講～第８講は、３グループに分かれて２週ずつ並行・交代して実施する
第３講　映像の基礎１(柳瀬)カメラ実習
第４講　映像の基礎２(柳瀬)動画撮影の基本
第５講　音響の基礎１(関根)ライブ音響の基礎
第６講　音響の基礎２(関根)アナログ音響調整卓の使い方
第７講　照明の基礎１(黒田)照明機器の取り扱いについて/安全講習
第８講　照明の基礎２(黒田)光のコントロールについて
第９講　作品制作 - 企画
第10講　作品制作 - 絵コンテ作成
第11講　作品制作 - 撮影１
第12講　作品制作 - 撮影２
第13講　作品制作 - 編集
第14講　作品制作 - MA
第15講　作品制作　完成作品発表

テキスト・教材（参考文献含む）

必要に応じてテキスト、および資料を配布します。

担当者から一言

課題だけでなく、個人個人の「何かを作りたい」「やってみたい」等の思いを大事にしています。クリエイティブな活動には出来る限りサポートします。

基礎演習ａ

科目ナンバリング	２年次	２単位
ESS2001	前学期	必　修

野呂達哉・廣住豊一・牧田直子

授業の位置づけ

専門技術者に求められる倫理観を身につけている。
地域の持続的発展のために貢献できる。
環境に関する専門知識・技術を習得し、環境の個々の問題に取り組ことができる。

授業のねらい

基礎演習では、専門演習で行う実践的な調査研究に向けて必要な「基礎スキル」を身に付けることがねらいである。この授業は３クラスに分かれ、３人の担当教員の授業を順に受講する。つまり、全員が同一の内容を少人数で学習できる。次の５項目は、基礎演習ａとｂを通して学ぶものであり、扱うテーマや項目は担当教員によって異なる。①レポート作成、②プレゼンテーション（質疑応答を含む）、③文献・論文購読、④野外調査、⑤データ処理（表、グラフの作成）。

到達目標

実験ノートへの記録を習慣化する。表・グラフ等のデータ整理の方法を身に着ける。調査地・実験方法などの作図ができる。科学論文・レポートの形式を学び、作成できる。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法

３人の担当教員で１人33.3％を配分する。実験ノートやミニレポート、プレゼンテーションファイル等は適宜内容を確認し、添削や指導を行う。

事前・事後学習

授業での学習内容、調査や実験での実施内容をノートにまとめ、レポートなどを作成する（90分）。担当教員から指示された課題に取り組む（90分）。

授 業 計 画

第１講　ガイダンス、野外での土壌調査（廣住）
第２講　調査方法のまとめ方（廣住）
第３講　調査データの整理（廣住）
第４講　調査結果に基づく考察の書き方（廣住）
第５講　調査報告書のまとめ方（廣住）
第６講　プランクトン採集（牧田）
第７講　顕微鏡の使い方、実験ノートの書き方（牧田）
第８講　プランクトンの観察と分類、ミニレポートの書き方（牧田）
第９講　プランクトンの観察と分類結果のまとめ方（牧田）
第10講　観察できたプランクトンの確認（牧田）
第11講　生物多様性モニタリングとその意義（野呂）
第12講　身近な自然の生物調査（野呂）
第13講　種の同定と標本の作製（野呂）
第14講　生物リストの作成とその評価（野呂）
第15講　調査結果のまとめとレポート作成（野呂）
フィールドワーク・実験実習・グループワークを含むアクティブラーニング科目である。

テキスト・教材（参考文献含む）

各担当教員から自作のテキストや参考資料を配布する。参考となる文献があれば授業時間中に紹介する。

担当者から一言

基礎演習では受講生を３クラスにわけて授業行います。クラスによって授業の開講順序が異なります。詳しくは第１講のガイダンスにおいて説明します。ガイダンスには必ず出席してください。

基礎演習ｂ

科目ナンバリング	２年次	２単位
ESS2002	後学期	必　修

片山清和・前川督雄・田中雅章

授業の位置づけ

専門技術者に求められる倫理観を身につけている。
メディアに関する専門知識・技術を習得して、独自の視点で情報発信できる。

授業のねらい

ホームページは今や企業だけでなく一般の人も作成しており、情報発信の主要な手段となっています。ホームページはHTMLで構造を記述され、スタイルシートでレイアウトやデザインが記述されています。さらにインタラクティブ性を持たせるためにJavaScriptが使用されています。
この演習では、電卓アプリやカレンダーアプリ制作を通し、機能実現のためのアルゴリズムを考え、HTML、スタイルシート、JavaScriptを用いてプログラミングすることでその機能を実現できるようにします。

到達目標

①アルゴリズムを考えることができる。
②HTMLタグ、スタイルシート、JavaScriptを使って機能を実現できる。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法

授業への取り組み姿勢や提出などによって総合的に評価する。
必要に応じてフィードバックする。

事前・事後学習

講義前には、これまでに学習した内容を復習すること（60分）。
講義後には、学習した内容を十分に復習すること（120分）。

授 業 計 画

第１講　ガイダンス、HTML（１）
第２講　HTML（２）
第３講　HTML（３）
第４講　スタイルシート（１）
第５講　スタイルシート（２）
第６講　スタイルシート（３）
第７講　JavaScript（１）
第８講　JavaScript（２）
第９講　JavaScript（３）
第10講　電卓アプリ作成（１）
第11講　電卓アプリ作成（２）
第12講　電卓アプリ作成（３）
第13講　カレンダーアプリ作成（１）
第14講　カレンダーアプリ作成（２）
第15講　カレンダーアプリ作成（３）

テキスト・教材（参考文献含む）

なし（必要に応じて配布します）
【参考文献】
赤間公太郎、狩野咲、鈴木清敬 「世界一わかりやすい　HTML5 & CSS3 コーディングとサイト制作の教科書」 技術評論社　￥2,600＋税

担当者から一言

アルゴリズムを考えることは、プログラミングでは最重要事項で、卒業研究においてアプリ作成やAI研究のために必要です。多くの経験を通してしか身につかないため、根気が要る地味な作業ですが、興味深いアプリ制作で楽しめる演習になるように目指します。

基礎演習ｂ	科目ナンバリング	２年次	２単位
関根辰夫・黒田淳哉・柳瀬元志	ESS2002	後学期	必　修

授業の位置づけ

専門技術者に求められる倫理観を身につけている。
メディアに関する専門知識・技術を習得して、独自の視点で情報発信できる。

授業のねらい

基礎演習ａで得た表現力や技術を基に、マルチメディア作品を一人１作品制作し発表します。この制作にあたっては、セミナー生が互いに協力して行います。作品制作に取り組むにあたって、次の点を実践的に学びます。
・企画、コンセプト・ワークについて
・作品の構成について
・制作準備について
・撮影・録音および編集の基礎他 また、通常の作品の制作だけでなく、イベントなど様々な場面の制作にも取り組みます。

到達目標

様々な制作を経験することで、企画力やプレゼンテーション能力を高めることを目指します。また様々なイベントに参加することによって、実行力、コミュニケーション能力を身につけ、さらに仲間と協力し何かを達成する難しさ、喜びを体験してもらいたい。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法

定期試験はしません。
成績評価は次の通りとします。授業、課題への取組み姿勢：30％作品制作への意欲、参加度：40％レポート内容、作品内容、完成度：30％レポートや課題についての評価は５段階評価をつけて後日返却。
作品は第15講で発表し、評価も伝えます。

事前・事後学習

作品の制作への取組みを実行するための活動も準備学習となります。それを行うために、１日20分程度、話題となっているイベントやパフォーマンス、映像作品等について、様々なメディアでチェックすることが求められます。取り組む課題に参考となる表現やその方法などについて、１日20分程度、文献やインターネット等で調べることも必要となります。

授 業 計 画

第１講　ガイダンス
以下第２講～第７講は、３グループに分かれて２週ずつ並行・交代して実施する
第２講　映像の基礎１（柳瀬）作品制作の基本１企画・構成
第３講　映像の基礎２（柳瀬）作品制作の基本２撮影・編集
第４講　音響の基礎１（関根）DAW（Digital Audio Workstation）の基礎１
第５講　音響の基礎２（関根）DAW（Digital Audio Workstation）の基礎２
第６講　照明の基礎１（黒田）照明プログラミングの基礎１
第７講　照明の基礎２（黒田）照明プログラミングの基礎２
第８講　作品制作 - 企画１
第９講　作品制作 - 企画２
第10講　作品制作 - 撮影１
第11講　作品制作 - 撮影２
第12講　作品制作 - 編集１
第13講　作品制作 - 編集２
第14講　作品制作 - MA
第15講　作品制作　完成発表

テキスト・教材（参考文献含む）

必要に応じてテキストおよび資料を配布します。

担当者から一言

「やりたいこと」があれば、何でも挑戦しましょう。授業や課題だけでなく、個人個人のクリエイティブな意欲を応援、サポートします。

基礎演習ｂ	科目ナンバリング	２年次	２単位
廣住豊一・大八木麻希・野呂達哉	ESS2002	後学期	必　修

授業の位置づけ

専門技術者に求められる倫理観を身につけている。
地域の持続的発展のために貢献できる。
環境に関する専門知識・技術を習得し、環境の個々の問題に取り組ことができる。

授業のねらい

基礎演習では、専門演習で行う実践的な調査研究に向けて必要な「基礎スキル」を身に付けることがねらいである。この授業は３クラスに分かれ、３人の担当教員の授業を順に受講する。つまり、全員が同一の内容を少人数で学習できる。次の５項目は、基礎演習ａとｂを通して学ぶものであり、扱うテーマや項目は担当教員によって異なる。①レポート作成、②プレゼンテーション（質疑応答を含む）、③文献・論文購読、④野外調査、⑤データ処理（表、グラフの作成）。

到達目標

実験ノートへの記録を習慣化する。測定したデータの正しい取り扱い方法やまとめ方を学ぶ。学術的なプレゼンテーションの方法を学び、習得する。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法

３人の担当教員で１人33.3％を配分する。実験ノートやミニレポート、プレゼンテーションファイル等は適宜内容を確認し、添削や指導を行う。

事前・事後学習

授業での学習内容、調査や実験での実施内容をノートにまとめ、レポートなどを作成する（90分）。担当教員から指示された課題に取り組む（90分）。

授 業 計 画

第１講　ガイダンス、農作物の品質測定（廣住）
第２講　実験データの取り扱い（廣住）
第３講　実験データの計算（廣住）
第４講　実験データの整理（廣住）
第５講　実験データの可視化（廣住）
第６講　水質データ分析（大八木）
第７講　水質データのまとめ（大八木）
第８講　文献検索（大八木）
第９講　プレゼンテーション作成（大八木）
第10講　プレゼンテーション発表（大八木）
第11講　野生動物の調査手法と野外調査の心得（野呂）
第12講　センサーカメラの設置（野呂）
第13講　センサーカメラのデータ回収（野呂）
第14講　データの整理と報告書の作成（野呂）
第15講　発表と質疑応答（野呂）
フィールドワーク・実験実習・グループワークを含むアクティブラーニング科目である。

テキスト・教材（参考文献含む）

各担当教員から自作のテキストや参考資料を配布する。参考となる文献があれば授業時間中に紹介する。

担当者から一言

基礎演習では受講生を３クラスにわけて授業行います。クラスによって授業の開講順序が異なります。詳しくは第１講のガイダンスにおいて説明します。ガイダンスには必ず出席してください。

専門演習ａ	科目ナンバリング	３年次	２単位
池田幹男	ESS3001	前学期	必　修

授業の位置づけ

メディアに関する専門知識・技術を習得して、独自の視点で情報発信できる。

授業のねらい

離散信号の処理の基礎を学び、簡単な信号処理をプログラムで実現できるようにする。

到達目標

離散信号の信号処理の基礎を理解する。z変換とフーリエ変換について理解する。線形信号処理であるフィルタリングプログラムが作れるようになる。

成績評価方法･課題･フィードバックの方法

授業で出す課題(60%)
授業での発言や貢献(40%)
必要に応じてフィードバックします。

事前・事後学習

この授業では数学についてよく理解する必要があるので、数学に関して毎回90分の予習をすること。また、プログラミングもあるので、90分間はC言語プログラミングの練習をすること。

授 業 計 画

信号処理の基本ついて学びます
第１講　ガイダンスと履修指導
第２講　複素数
第３講　整式
第４講　有理式
第５講　正弦波
第６講　差分方程式
第７講　ｚ変換
第８講　離散信号線形フィルター
第９講　極と零点
第10講　フーリエ変換と周波数
第11講　信号処理プログラミング(１)
第12講　信号処理プログラミング(２)
第13講　信号処理プログラミング(３)
第14講　信号処理プログラミング(４)
第15講　信号処理プログラミング(５)

テキスト・教材（参考文献含む）

テキストは特に指定しない。
参考書は「デジタル信号処理(上下)」Oppenheim/Shafer 著、伊達 玄訳、コロナ社刊、ISBN 40-339-00471-5, ISBN 40-339-00472-3

担当者から一言

数学が少し難しいので、完全には理解できない可能性があるが、その場合は、数学への適性が悪いということなので、以後のゼミや卒業研究では信号処理以外について取り組むことになる。自分の適性を見極めて欲しい。

専門演習ａ	科目ナンバリング	３年次	２単位
大八木麻希	ESS3001	前学期	必　修

授業の位置づけ

地域の持続的発展のために貢献できる。
多様な社会の価値観を理解し、自分の考えを的確に表現し、伝えることができる。
環境に関する専門知識・技術を習得し、環境の個々の問題に取り組むことができる。

授業のねらい

野外調査の一つとして水質調査は学問的、実用的、教育的な側面を併せ持つため、自身で立案しそれにしたがって研究を進めていくことで、総合的な力を養う。調査目的、内容(方法、期間、時期、日程など)、分析、結果の検討などの一連の流れを把握して、卒業研究で必要なスキルを身につけてもらいたい。

到達目標

本演習では実際に自身の研究フィールドを決めて、調査計画を立案し実践する。

成績評価方法･課題･フィードバックの方法

受講態度50%、レポート50%。レポートは採点後、返却する。

事前・事後学習

参考文献などで予習して、重点、問題点等を検討した上で授業に臨むことを推奨する (90分)。また、関連するニュースや書籍に日頃から関心を持ち、講義の理解に役立ててもらいたい。さらに、講義後には復習し講義内容の定着化を心掛けること(90分)。

授 業 計 画

第１回　ガイダンス、調査地紹介
第２回　フィールドワーク:干潟
第３回　専門書購読
第４回　専門書内容発表
第５回　研究･調査進捗第１回報告会
第６回　文献検索
第７回　文献購読
第８回　フィールドワーク:河川
第９回　堆積物分析①IL、含水率
第10回　堆積物分析②全リン
第11回　堆積物分析③粒度
第12回　分析結果まとめ
第13回　分析結果グラフ化
第14回　分析結果考察
第15回　研究･調査進捗第二回報告会

実験や野外実習を行い､アクティブラーニング要素を含む科目である。

テキスト・教材（参考文献含む）

テキストなし。
参考文献は各自に提示する。

担当者から一言

積極的に取り組む姿勢の学生を歓迎します。

専門演習ａ	科目ナンバリング	３年次	２単位
片山清和	ESS3001	前学期	必　修

授業の位置づけ

専門技術者に求められる倫理観を身につけている。
メディアに関する専門知識・技術を習得して、独自の視点で情報発信できる。

授業のねらい

ホームページは今や企業だけでなく一般の人も作成しており、情報発信の主要な手段となっています。ホームページの中にはデータベースと連携することでウェブサービスを提供しているものがあります。
この講義では、データベースの操作と、PHPを用いてHTML文書を生成することと、PHPを用いてデータベースを操作することを学びます。

授 業 計 画

第１講　ガイダンス、復習（１）
第２講　復習（２）
第３講　PHP（１）
第４講　PHP（２）
第５講　PHP（３）
第６講　日記アプリ作成（１）
第７講　日記アプリ作成（２）
第８講　データベース（１）
第９講　データベース（２）
第10講　PHPでのデータベース操作（１）
第11講　PHPでのデータベース操作（２）
第12講　日記アプリ作成（３）
第13講　日記アプリ作成（４）
第14講　日記アプリ作成（５）
第15講　まとめ

到達目標

PHPとデータベースを連携したアプリを作成できる。

成績評価方法･課題･フィードバックの方法

授業への取り組み姿勢や課題提出などによって総合的に評価する。
必要に応じてフィードバックする。

テキスト・教材（参考文献含む）

なし。（必要に応じて配布します）

事前・事後学習

講義前には、これまでに学習した内容を復習すること（60分）。
講義後には、学習した内容を十分に復習すること（120分）。

担当者から一言

積み重ねの演習ですので、欠席はしないでください。

専門演習ａ	科目ナンバリング	３年次	２単位
黒田淳哉	ESS3001	前学期	必　修

授業の位置づけ

メディアに関する専門知識・技術を習得して、独自の視点で情報発信できる。

授業のねらい

舞台や映像に関する照明をプランニングするうえで重要な考えや技術の習得を目指します。光を使い表現することを学び、後学期の専門演習ｂへつなげることをねらいとしています。

授 業 計 画

第１講　ガイダンス、セミナーの進め方
第２講　照明デザインの検討
第３講　照明デザイン作成
第４講　機材セッティング
第５講　システム構築
第６講　プログラム
第７講　作品完成
第８講　撮影照明①　構成
第９講　撮影照明②　デザイン案の検討
第10講　撮影照明③　準備
第11講　撮影照明④　撮影
第12講　編集①
第13講　編集②
第14講　作品完成
第15講　総括

到達目標

①照明プランニングができるようになる。
②照明を使用したメディア表現ができる。

成績評価方法･課題･フィードバックの方法

ルーブリックによって、評価を行う。評価基準は、第１講のガイダンスにて配布します。提出物や課題等のフィードバックは次回の講義で行います。

テキスト・教材（参考文献含む）

なし。（必要に応じてプリントを配布します）

事前・事後学習

毎回、講義の最後にキーワードを提示します。
そのキーワードをインターネットや書籍で調べてくること（90分）。
講義で配布する資料や講義ノートを見返して理解を深めること（90分）。

担当者から一言

毎回の講義で習得する知識や技術を積み上げて進めていきますので、講義は休まないようにして下さい。

専門演習ａ	科目ナンバリング	３年次	２単位
関根辰夫	ESS3001	前学期	必　修

授業のねらい

スタジオ、ステージと音響機器を活用して、前年次より更に高度なスタジオワークの実際を訓練し会得する。パッケージとしての最終商品（例えばCD、DVD等）の完成までのプロセスを学び、その制作過程を体験する。常に進歩するデジタル音響処理技術の情報を得ると共に、それらを評価する力をつける。行事のPA運用を実践して全体の流れを把握する。

到達目標

・大学祭などのイベントに向けてPA機器の操作や進行の流れを理解する。
・下級生に指導できるようなコミュニケーション能力を得る。
・４年次の卒業制作の論文の前段階として、学内コンペ向けの作品を制作･発表する。

成績評価方法･課題･フィードバックの方法

課題への取り組みや提出等によって総合評価する。すぐに評価できる課題などはその場でフィードバックをし、評価に時間のかかるものは後日コメントを含めた形でフィードバックする。

事前・事後学習

日頃から自分の好きなジャンルの音楽だけではなく、様々な音楽を意識して聞くようにすること（毎日30分程度）実習が中心になるので、毎回の授業で学んだ内容は､次回の授業でその通りに実行できるように、手順などを各自復習をする。（実習時にとったメモなどを参考にして、不明な点は参考文献やマニュアルなどで調べておくこと－60分）

授業の位置づけ

専門技術者に求められる倫理観を身につけている。
メディアに関する専門知識・技術を習得して、独自の視点で情報発信できる。

授 業 計 画

第１講　ガイダンス、ゼミの進め方
第２講　PA（アナログ調整卓）の復習
第３講　マイクロフォンの種類
第４講　マイクロフォンの音の聞き比べ
第５講　マイクロフォンのセッティング
第６講　エフェクターEQ理論
第７講　エフェクターEQ実習
第８講　エフェクターリバーブ理論
第９講　エフェクターリバーブ実習
第10講　エフェクターコンプレッサー等理論
第11講　エフェクターコンプレッサー等実習
第12講　エフェクター小テスト
第13講　外部機器をコンソールにつなぎPA実習
第14講　PA仕込み図
第15講　大学祭PA企画
学内コンペを行います。

テキスト・教材（参考文献含む）

配布するプリント。

担当者から一言

基礎演習より一歩進んだ形でレコーディングとPAのエンジニアリングを学びます。また自分のセミナーに新たに加わった後輩とも積極的にコミュニケーションをとり、後輩にとって人間的にも、技術的にも尊敬できる先輩になれるように学修してください。

専門演習ａ	科目ナンバリング	３年次	２単位
千葉　賢	ESS3001	前学期	必　修

授業のねらい

積極的に地域に出て、自分で環境問題を見て感じる機会を多く設けます。また、環境問題に取り組む人々に出会う機会を多く設けます。休日に調査に出かけることもあります。多様な観測機材を使って環境を測定し、そのデータを実験室やパソコンで分析し、結果をまとめ、発表する訓練を繰り返し行います。セミナーのメンバーで協力して調査し､議論もします。このような経験を通じて､自分の卒業研究のテーマを見つけてください。

到達目標

北勢地域の環境問題への関心と知識を高め、自分なりの見識を持てるようにします。地域の問題と世界の問題がどのように関係しているのか､そのような視点を育てることも目標とします。プレゼンテーション能力を高め、議論に慣れることも目標とします。また、環境測定に用いる情報機器の使用方法、観測結果を整理するためのPCの使い方を習得します。

成績評価方法･課題･フィードバックの方法

ゼミ活動への積極参加姿勢（50％）、発表（25％）、提出物（25％）。ゼミなので対話を通じて学習進度をフィードバックする。

事前・事後学習

その時のテーマに応じて、自分から積極的に図書館やネット等で調べて事前学習（90分）や復習（90分）を行うこと。受動的な態度ではゼミについて行くことはできない。

授業の位置づけ

地域の持続的発展のために貢献できる。
環境に関する専門知識・技術を習得し、環境の個々の問題に取り組ことができる。

授 業 計 画

第１講　ガイダンス、過去の専門演習abの調査内容の紹介
第２講　専門演習abの調査内容の検討
第３講　専門演習abの調査内容の検討
第４講　鈴鹿山系のブナ林に関する事前学習
第５講　鈴鹿山系のブナ林観察（別日程で実施）
第６講　鈴鹿山系のブナ林観察（別日程で実施）
第７講　論文･報告書の書き方、報告書の作成
第８講　報告書の作成
第９講　報告書の発表
第10講　学外での環境調査の実施
第11講　学外での環境調査の実施
第12講　学外での環境調査の結果の分析
第13講　伊勢湾の水質環境の学習
第14講　伊勢湾の海洋ゴミ問題の学習
第15講　まとめ

テキスト・教材（参考文献含む）

必要に応じてプリントを配布する。

担当者から一言

自然環境分野のセミナーですが、パソコンや情報機器をかなり使うので、その意識を持って参加してください。調査中心になるので、基礎学問は他の授業でしっかり学んでください。このゼミでは利他主義を大切にします。

専門演習 a

科目ナンバリング	3年次	2単位
ESS3001	前学期	必　修

野呂達哉

授業の位置づけ

専門技術者に求められる倫理観を身につけている
環境に関する専門知識・技術を習得し、環境の個々の問題に取り組むことができる。

授業のねらい

生物多様性を把握するための多様な調査手法や標本などの記録に残す方法を学び、調査研究を進める上での基礎となる技術を身につける。

到達目標

自身の研究対象やテーマを定め、調査手法の検討や調査地を選定し、事前準備などを通して実際に調査計画を立てる。目的に沿って調査と分析を実施し、結果をまとめる。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法

レポート提出を課します。演習における調査、分析、見学に対する姿勢と提出されたレポートの内容から総合的に評価します(100%)。
必要に応じてフィードバックします。

事前・事後学習

日頃から書籍や新聞、テレビ、インターネットなどで野生動物の情報をチェックし、必要な情報は保存してください（1日平均20分)。演習の後は、内容についての振り返りを行ってください（毎週40分)。日常生活の中で生物を見つけた際は、日時や場所、写真などの記録をとることを心がけてください。

授 業 計 画

第1講　ガイダンス
第2講　研究目的の明確化、研究テーマを考える
第3講　事前の情報収集(文献およびインターネットによる検索)
第4講　調査計画の作成
第5講　調査機器や調査票の事前準備
第6講　フィールドワーク① ルートセンサスによる生物調査
第7講　フィールドワーク② ルートセンサスによる生物調査
第8講　データの整理と報告書の作成
第9講　なごや生物多様性センター見学＊
第10講　フィールドワーク③ ため池における生物調査
第11講　フィールドワーク④ ため池における生物調査
第12講　データの整理と報告書の作成
第13講　フィールドワーク⑤ 音声によるコウモリ類調査
第14講　データの整理と報告書の作成
第15講　調査結果のまとめ
フィールドワークの日程は天候などの理由で変更することがあります。
＊見学先と調整の上、別日に実施します。

テキスト・教材（参考文献含む）

プリントおよび関連資料を配布します。参考図書:「ミシシッピアカミミガメ防除マニュアル（日本カメ自然誌研究会監修）なごや生物多様性保全活動協議会，2014」、「ため池と水田の生き物図鑑 動物編（近藤繁生ら）トンボ出版，2005」など

担当者から一言

野生動物の調査では対象とする動物だけではなく、その動物が生活する生息環境を知ることも大切です。日頃から観察する目を養ってください。また、フィールドワークには思わぬ危険が潜んでいます。細心の注意を払って行動しましょう。

専門演習 a

科目ナンバリング	3年次	2単位
ESS3001	前学期	必　修

廣住豊一

授業の位置づけ

専門技術者に求められる倫理観を身につけている。
環境に関する専門知識・技術を習得し、環境の個々の問題に取り組ことができる。

授業のねらい

土壌の性質を把握するための土壌断面調査および基本的物理性の測定法を学ぶ。

到達目標

土壌調査を計画し、実施することができる。土壌の基本的物理性を測定することができる。調査結果をまとめ、正しく報告することができる。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法

調査および各実験における実施態度・習熟度、調査結果をまとめたレポートなどをもとに総合的に評価する（100%)。提出されたレポートは添削し、返却する。

事前・事後学習

調査および各実験の前に測定の方法と原理を確認し、手順書を作成する(90分)。分析結果をまとめたレポートを作成する(90分)。

授 業 計 画

第1講　ガイダンス、土壌調査法の解説
第2講　土壌調査の計画立案
第3講　土壌調査の実施
第4講　三相分布①　乾熱法
第5講　三相分布②　結果のまとめ
第6講　土粒子密度①　土粒子の密度試験
第7講　土粒子密度②　結果のまとめ
第8講　粒度分布①　篩別法
第9講　粒度分布②　沈降法
第10講　粒度分布③　結果のまとめ
第11講　飽和透水係数①　変水位透水試験
第12講　飽和透水係数②　結果のまとめ
第13講　土壌有機物①　強熱減量試験
第14講　土壌有機物②　結果のまとめ
第15講　土壌調査結果のまとめ
調査・実験の進捗状況に応じて内容は変更されることがある。
全体を通してアクティブ・ラーニングの要素が含まれる。

テキスト・教材（参考文献含む）

なし。必要に応じて資料を配布する。
参考文献：日本ペドロジー学会編「土壌調査ハンドブック改訂版」博友社（1997年)、地盤工学会編「土質試験―基本と手引き―第二回改訂版」丸善(2010年)、宮崎毅・西村拓編「土壌物理実験法」東京大学出版会(2011年)

担当者から一言

野外での調査や実験室での分析ではささいな油断や不注意がけがや事故につながります。細心の注意をもって調査・実験に臨んでください。
調査では長靴・作業服、実験では白衣を必ず着用してください。

専門演習ａ

前川督雄

科目ナンバリング	３年次	２単位
ESS3001	前学期	必　修

授業のねらい

実環境そしてサイバースペースでメディア情報を制御するための専門的な活性の構築をめざします。
基礎演習での成果をふまえ、対象を見る力、ものをつくる力、メッセージを伝える力、メディアを操る技術をより深め、広げていきます。
また、より本格的な調査･研究を行える活性の構築をめざします。

到達目標

各個で目標を定めて、アプローチを探索するとともに自学自習を開始する。

成績評価方法･課題･フィードバックの方法

課題への取り組み、進捗等によって総合評価します。
定期試験を行いません。
必要に応じてフィードバックします。

事前・事後学習

試行錯誤の数だけ視野が広がり、実感・理解が深まります。思いついたらまず試してみましょう(180分)。
毎週、進捗報告と次週に向けた目標設定をしてもらいます。
夏休みに課題を出します。

授業の位置づけ

メディアに関する専門知識・技術を習得して、独自の視点で情報発信できる。
専門技術者に求められる倫理観を身につけている。
多様な社会の価値観を理解し、自分の考えを的確に表現し、伝えることができる。

授 業 計 画

第１講　ガイダンス／面談
第２講　目標提案／面談
第３講　目標設定／面談
第４講　アプローチ探索／面談
第５講　アプローチ探索／面談
第６講　アプローチ探索／面談
第７講　自学自習／面談
第８講　自学自習／面談
第９講　自学自習／面談
第10講　見直し／面談
第11講　自学自習／面談
第12講　自学自習／面談
第13講　自学自習／面談
第14講　進捗発表
第15講　面談
(各自の方向性･進捗にあわせて異なります)
制作･開発した作品、研究調査した論文で学内コンペに参加します。

テキスト・教材（参考文献含む）

テキストはありません。

担当者から一言

広く深く探求してください。
後輩の指導に関与してもらう場合もあります。教えることを通じて自分の理解･技能を深めて下さい。

専門演習ａ

牧田直子

科目ナンバリング	３年次	２単位
ESS3001	前学期	必　修

授業のねらい

専門演習ａでは、基礎演習で習得した実験技術や知識などを基盤とし、野外調査やプランクトンの観察と分類、結果のまとめ方を練習する。実践を繰り返すことにより、顕微鏡操作や分類、記録の取り方、まとめ方を身につけることが目標である。また、学術論文を輪読し、プランクトン研究について学びながら、卒業研究のテーマを決め、卒業研究の研究計画を立てる。

到達目標

「自主的に実習に取り組める」
自分で考え、積極的に実習を進めよう。
「実習の記録を取り、報告する習慣をつける」
実習をしたらその日のうちに記録し､報告する習慣を身につけよう。

成績評価方法･課題･フィードバックの方法

実験ノート(実習の記録)：75%、自習：15%、レポート：10%
実験ノートは毎回確認する。自習は各自で設定した項目についての取り組みを評価する。レポートは完成までに最低３回は添削し、返却する。未完成のレポートは受け取らない。

事前・事後学習

(１)論文を読み､必要な資料や情報を調べて予習しておく(60分以上)。
(２)プランクトンを分類し､結果をノートや表にまとめる(90分以上)。
(３)レポートは実習と平行して､書ける部分から書き進めておく(30分)。

授業の位置づけ

専門技術者に求められる倫理観を身につけている。
地域の持続的発展のために貢献できる。
多様な社会の価値観を理解し、自分の考えを的確に表現し、伝えることができる。
環境に関する専門知識･技術を習得し、環境の個々の問題に取り組ことができる。

授 業 計 画

第１講　ガイダンスと論文の輪読
第２講　野外調査の準備と練習(ビオトープ)
第３講　ダム湖でのプランクトン採集
第４講　プランクトンの分類方法と観察
第５講　分類結果のまとめ方と分類実習
第６講　ダム湖のプランクトンの分類実習
第７講　論文の輪読とダム湖試料の分類報告
第８講　溜池でのプランクトン採集
第９講　溜池のプランクトンの分類実習
第10講　付着藻類の観察準備
第11講　付着藻類の観察
第12講　卒業研究のテーマ探しと分類実習
第13講　プランクトンの計数方法
第14講　論文の輪読と溜池試料の分類報告
第15講　野外調査のまとめと今後の研究計画

調査･研究には、実験実習やフィールドワークを含む。

テキスト・教材（参考文献含む）

田中 正明「日本淡水産動植物プランクトン図鑑」名古屋大学出版会(2002年)定価：10,450円(税込)
適宜、プリントを配布する。

担当者から一言

必ず実験ノートを用意してください。実習や学習した内容は、すべて実験ノートに記録しましょう。

専門演習 a

科目ナンバリング	3年次	2単位
ESS3001	前学期	必　修

柳瀬元志

授業のねらい

２年次の基礎演習で得た経験やスキルを活かし、映像などのメディアを通して、「表現する能力」をさらに発展させます。
まずゼミ内で共通のテーマを決め、企画・取材・撮影・編集など自ら行い、個人あるいはグループで、10分程度の作品を制作します。
表現方法としては、映像だけにとどまらず、より適するメディアを用いて制作することもかまいません。なお制作にあたっては、メンバー全員で協力して制作します。
まずは制作の土台作りを行います。

到達目標

企画から完成まで、自分たちの力でやり遂げることができる力をつけることが、この授業の到達目標です。
そのためにはコミュニケーション能力をはじめ、企画・構成・判断力など多岐にわたる能力の向上が欠かせません。
また実習では、カメラ操作、照明、録音など制作に必要な基本を身につけ、編集作業においても、そのテクニックだけでなく編集することの意味を理解し、作品を完成させます。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法

授業・課題への取り組み：30％
作品制作への意欲。参加度：40％
レポートや作品内容、完成度：30％
15講終了後、評価を伝えます。
必要に応じてフィードバックします。

事前・事後学習

制作スキルを上げるためには、様々なメディアに触れ、どん欲に吸収することが大切です。
漫然と画面を眺めるだけでなく、「なぜ」「どうして」など、ストーリーやシーンの展開に対して疑問を抱き、自ら展開・考察する癖をつけましょう。
テレビ・映画・ラジオなどあらゆるメディアに触れるとともに、「読む」ことも大切にしてください。
最低新聞は読むこと。

授業の位置づけ

専門技術者に求められる倫理観を身につけている。
メディアに関する専門知識・技術を習得して、独自の視点で情報発信できる。

授業計画

第１講：ガイダンス～制作に向けたロードマップ作り～
第２講：企画①テーマ検討＆決定
第３講：企画②企画検討・リサーチ・構成案作成
第４講：企画③構成案検討・制作準備（追加リサーチ・現地取材等）
第５講：制作①撮影
第６講：制作②撮影
第７講：制作③撮影
第８講：制作④撮影
第９講：制作⑤編集
第10講：制作⑥編集
第11講：制作⑦編集
第12講：制作⑧試写＆手直し
第13講：制作⑨手直し＆MA
第14講：制作⑩MA
第15講：発表
※進捗状況により、スケジュールが変更になることがあります

テキスト・教材（参考文献含む）

必要に応じて配布します。

担当者から一言

本格的な作品作り＝クリエイターとしての第一歩となる授業です。
ここでの取り組みが、この先の明暗を分けます。
しっかりと取り組みましょう。

専門演習 b

科目ナンバリング	3年次	2単位
ESS3002	後学期	必　修

池田幹男

授業のねらい

プログラミング言語Pythonを理解して、プログラミングが出来るようになる。

到達目標

Pythonでプログラムを作ることできるようになり、かつ、他のプログラミング言語と連携できるようになる。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法

授業時間中に課したプログラム（60％）
授業時間中の発言や貢献（40％）
必要に応じてフィードバックします。

事前・事後学習

この授業では、他のプログラミング言語（特にC言語）を習得していることが前提になっている。授業時間外に他の言語のプログラミングに関して毎週90分間演習を行うこと。また、Pythonの他の応用例を考えてPythonプログラムを毎週90分間作成、実行、デバッグすること。

授業の位置づけ

メディアに関する専門知識・技術を習得して、独自の視点で情報発信できる。

授業計画

Pythonプログラミングについて学びます
第１講　ガイダンスと履修指導
第２講　Pythonとは
第３講　Pythonの簡単なプログラミング例
第４講　式と変数
第５講　関数
第６講　変数の型（動的な変数の型）
第７講　条件判断
第８講　ループ
第９講　Pythonと他のプログラミング言語との連携（１）
第10講　Pythonと他のプログラミング言語との連携（２）
第11講　Pythonプログラミング（１）
第12講　Pythonプログラミング（２）
第13講　Pythonプログラミング（３）
第14講　Pythonプログラミング（４）
第15講　Pythonプログラミング（５）

テキスト・教材（参考文献含む）

特になし。教材はMoodleで呈示する。

担当者から一言

担当者自身もPythonプログラミングの経験は浅いので、学生諸君と一緒にプログラミングスキルを向上させていくつもりである。

専門演習ｂ	科目ナンバリング	３年次	２単位
大八木麻希	ESS3002	後学期	必　修

授業のねらい

調査結果を検討するにあたり、文献が大きなウェイトを占めるため、既往の文献にとらわれることなく、しかしじっくり吟味して考察することが重要である。専門性の高い作業であるが卒業研究で大切なポイントであるために、そのためのスキルを身につけてもらいたい。

到達目標

本演習では調査地での分析結果からデータ整理を行うための専門知識を深める。

成績評価方法･課題･フィードバックの方法

受講態度50％、レポート50％。レポートは採点後、返却する。

事前・事後学習

参考文献などで予習して、重点、問題点等を検討した上で授業に臨むことを推奨する（90分）。また、関連するニュースや書籍に日頃から関心を持ち、講義の理解に役立ててもらいたい。さらに、講義後には復習し講義内容の定着化を心掛けること（90分）。

授業の位置づけ

多様な社会の価値観を理解し、自分の考えを的確に表現し、伝えることができる。
環境に関する専門知識・技術を習得し、環境の個々の問題に取り組むことができる。

授 業 計 画

第１回　ガイダンス、
第２回　水圏関連文献（邦文）検索
第３回　水圏関連文献（邦文）購読
第４回　水圏関連文献（邦文）発表
第５回　研究･調査進捗中間報告会
第６回　卒論研究テーマに関する文献検索
第７回　卒業研究テーマに関する文献購読
第８回　卒業研究テーマに関する文献発表
第９回　フィールドワーク（施設見学）
第10回　施設見学のまとめ、プレゼン
第11回　フィールドワーク（調査地見学）
第12回　調査地見学のまとめ、プレゼン
第13回　卒業研究対象地の概要まとめ
第14回　卒業研究ポスター作製
第15回　研究･調査進捗報告会②
簡易な実習後、添削し返却を行うため、アクティブラーニング要素を含む科目である。

テキスト・教材（参考文献含む）

テキストなし。
資料配布。

担当者から一言

分析には責任を持ち、真摯な姿勢で取り組んでください。

専門演習ｂ	科目ナンバリング	３年次	２単位
片山清和	ESS3002	後学期	必　修

授業のねらい

現在スマホを始めとして音声で操作ができるようになっていて、その認識精度は極めて高くなっている。この背景にはAI技術の発展が関係している。今後このAI技術はますます発展し、我々の生活に深く関わってくると予想される。この演習ではAIで最も使われているプログラミング言語であるPythonを使いAIの基本であるNN（ニューラルネットワーク）から発展したCNN（畳み込みニューラルネットワーク）やオートエンコーダやRNN（再帰型ニューラルネットワーク）について学び、それらをPythonを用いて実現できるようにする。

到達目標

①AIの概要が説明できる
②Pythonで簡単なプログラムが作成できる
③PythonでAIのプログラムが作成できる

成績評価方法･課題･フィードバックの方法

授業への取り組み姿勢や課題提出などによって総合的に評価する。
必要に応じてフィードバックします。

事前・事後学習

講義前には、これまでに学習した内容を復習すること（60分）。
講義後には、学習した内容を十分に復習すること（120分）。

授業の位置づけ

専門技術者に求められる倫理観を身につけている。
メディアに関する専門知識・技術を習得して、独自の視点で情報発信できる。

授 業 計 画

第１講　ガイダンス、AIの概要
第２講　Pythonプログラミング（１）
第３講　Pythonプログラミング（２）
第４講　Pythonプログラミング（３）
第５講　NN演習（１）
第６講　NN演習（２）
第７講　DNN演習（１）
第８講　DNN演習（２）
第９講　CNN演習（１）
第10講　CNN演習（２）
第11講　オートエンコーダ演習（１）
第12講　オートエンコーダ演習（２）
第13講　RNN演習（１）
第14講　RNN演習（２）
第15講　まとめ

テキスト・教材（参考文献含む）

なし。（必要に応じて配布します）

担当者から一言

積み重ねの演習ですので、欠席はしないでください。

専門演習ｂ	科目ナンバリング	３年次	２単位
黒田淳哉	ESS3002	後学期	必　修

授業の位置づけ

メディアに関する専門知識・技術を習得して、独自の視点で情報発信できる。

授業のねらい

照明の本質を理解し、光をコントロールする技術だけでなく、適切なあかりや見え方の追求までを行います。さらに、卒業研究を見据え、研究や制作テーマの検討も行います。

到達目標

①自らテーマを決め、作品制作に向き合うことができる。
②卒業研究を見据えた、作品や研究に取り組む。

成績評価方法･課題･フィードバックの方法

ルーブリックによって、評価を行う。評価基準は、第１講のガイダンスにて配布します。提出物や課題等のフィードバックは次回の講義で行います。

事前・事後学習

毎回、講義の最後にキーワードを提示します。
そのキーワードをインターネットや書籍で調べてくること(90分)。
講義で配布する資料や講義ノートを見返して理解を深めること(90分)。

授 業 計 画

第１講　作品制作テーマの検討
第２講　作品制作①　計画
第３講　作品制作②　創作
第４講　作品制作③　創作
第５講　作品制作④　創作
第６講　作品完成～ディスカッション
第７講　作品制作テーマの検討
第８講　作品制作①　計画
第９講　作品制作②　創作
第10講　作品制作③　創作
第11講　作品制作④　創作
第12講　作品完成～ディスカッション
第13講　卒業研究テーマについての検討
第14講　研究計画書の作成
第15講　総括と面談

テキスト・教材（参考文献含む）

なし。(必要に応じてプリントを配布します)

担当者から一言

毎回の講義で習得する知識や技術を積み上げて進めていきますので、講義は休まないようにして下さい。

専門演習ｂ	科目ナンバリング	３年次	２単位
関根辰夫	ESS3002	後学期	必　修

授業の位置づけ

専門技術者に求められる倫理観を身につけている。
メディアに関する専門知識・技術を習得して、独自の視点で情報発信できる。

授業のねらい

スタジオ、ステージと音響機器を活用して前年次より更に高度なスタジオワークの実際を訓練し会得する。パッケージとしての最終商品(例えばCD、DVD等）の完成までのプロセスを学びその制作過程を体験する。常に進歩するデジタル音響処理技術の情報を得ると共に、それらを評価する力をつける。行事のPA運用を実践して全体の流れを把握する。

到達目標

･大学祭に向けてPA機器の操作や進行の流れを理解する。
･下級生に指導できるようなコミュニケーション能力を得る。
･４年次の卒業制作･論文の前段階として、学内コンペ向けの作品を制作･発表する。

成績評価方法･課題･フィードバックの方法

課題への取り組みや提出等によって総合評価する。すぐに評価できる課題などはその場でフィードバックをし、評価に時間のかかるものは後日コメントを含めた形でフィードバックする。

事前・事後学習

日頃から自分の好きなジャンルの音楽だけではなく、様々な音楽を意識して聞くようにすること(毎日30分程度)実習が中心になるので、毎回の授業で学んだ内容は､次回の授業でその通りに実行できるように、手順などを各自復習をする。(実習時にとったメモなどを参考にして、不明な点は参考文献やマニュアルなどで調べておくこと－60分)

授 業 計 画

第１講　ガイダンス、ゼミの進め方
第２講　DTMとDAW
第３講　様々なDAW
第４講　ProTools基本セッティング
第５講　ProTools打ち込み
第６講　ProToolsオーディオ録音
第７講　ProToolsエフェクターのセッティング
第８講　ProToolsミキシング
第９講　X32(デジタル音響調整卓)のセッティング
第10講　X32とアナログコンソールとの違い
第11講　エフェクターEQ 応用
第12講　エフェクター リバーブ 応用
第13講　エフェクター コンプレッサー 応用
第14講　PA仕込み図などの資料作成法
第15講　PA企画 授業は全体的にほぼ実習で行われます。
学内コンペを行います。

テキスト・教材（参考文献含む）

配布するプリント。

担当者から一言

基礎演習より一歩進んだ形でレコーディングとPAのエンジニアリングを学びます。また自分のセミナーに新たに加わった後輩とも積極的にコミュニケーションをとり、後輩にとって人間的にも、技術的にも尊敬できる先輩になれるように学修してください。

専門演習ｂ

科目ナンバリング	3年次	2単位
ESS3002	後学期	必　修

千葉　賢

授業のねらい
積極的に地域に出て、自分で環境問題を見て感じる機会を多く設けます。また、環境問題に取り組む人々に出会う機会を多く設けます。休日に調査に出かけることもあります。多様な観測機材を使って環境を測定し、そのデータを実験室やパソコンで分析し、結果をまとめ、発表する訓練を繰り返し行います。セミナーのメンバーで協力して調査し、議論もします。このような経験を通じて、自分の卒業研究のテーマを見つけてください。

到達目標
北勢地域の環境問題への関心と知識を高め、自分なりの見識を持てるようにします。地域の問題と世界の問題がどのように関係しているのか、そのような視点を育てることも目標とします。プレゼンテーション能力を高め、議論に慣れることも目標とします。また、環境測定に用いる情報機器の使用方法、観測結果を整理するためのPCの使い方を習得します。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法
ゼミ活動への積極参加姿勢(50%)、発表(25%)、提出物(25%)。ゼミなので対話を通じて学習進度をフィードバックする。

事前・事後学習
その時のテーマに応じて、自分から積極的に図書館やネット等で調べて事前学習(90分)や復習(90分)を行うこと。受動的な態度ではゼミについて行くことはできない。

授業の位置づけ
地域の持続的発展のために貢献できる。
環境に関する専門知識・技術を習得し、環境の個々の問題に取り組ことができる。

授業計画
第１講　ガイダンス、後期授業の説明と調査の打合せ
第２講　学外での環境調査の実施
第３講　学外での環境調査の実施
第４講　学外での環境調査の実施
第５講　学外での環境調査結果の分析と整理
第６講　答志島奈佐の浜の海岸清掃(別日程で実施)
第７講　答志島奈佐の浜の海岸清掃(別日程で実施)
第８講　農業体験(学外)
第９講　QGIS(地理情報システム)の学習
第10講　QGIS(地理情報システム)の学習
第11講　QGIS(地理情報システム)の学習
第12講　論文･報告書の書き方
第13講　論文･報告書の書き方
第14講　論文･報告書の発表
第15講　卒業研究発表会への出席

テキスト・教材（参考文献含む）
必要に応じてプリントを配布する。

担当者から一言
自然環境分野のセミナーですが、パソコンや情報機器をかなり使うので、その意識を持って参加してください。調査中心になるので、基礎学問は他の授業でしっかり学んでください。このゼミでは利他主義を大切にします。

専門演習ｂ

科目ナンバリング	3年次	2単位
ESS3002	後学期	必　修

野呂達哉

授業のねらい
調査方法の検討や野外調査の事前準備、捕獲調査や記録の残し方、データ分析等、卒業研究を進める上で必要な基礎を身に付ける。

到達目標
調査計画を立て、目的に沿った調査を実施する。演習を通して自身の研究対象やテーマを定め、進捗状況によっては卒業研究をはじめる。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法
授業、調査に対する姿勢(50%)。レポート提出を課します。レポートは採点して返却します(30%)。最終講の調査報告も評価の対象とします(20%)。

事前・事後学習
日頃から書籍や新聞、テレビ、インターネットなどで野生動物の情報をチェックし、必要な情報は保存してください(１日平均20分)。また、演習の後は、内容についての振り返りを行ってください(毎週40分)。日常生活の中で生物を見つけた際は、日時や場所、写真などの記録をとることを心がけてください。

授業の位置づけ
専門技術者に求められる倫理観を身につけている。
環境に関する専門知識・技術を習得し、環境の個々の問題に取り組むことができる。

授業計画
第１講　ガイダンス
第２講　哺乳類の調査手法とトラップや調査機器の使い方
第３講　捕獲調査計画の立て方と捕獲許可申請等の書き方
第４講　調査機器や調査票の事前準備
第５講　フィールドワーク① トラップによる哺乳類調査
第６講　フィールドワーク② トラップによる哺乳類調査
第７講　フィールドワーク③ トラップによる哺乳類調査
第８講　なごや生物多様性センター見学＊
第９講　外部形態の計測と仮剥製の作製
第10講　哺乳類のリスト作成
第11講　調査結果資料の準備
第12講　調査報告･意見交換
第13講　卒業研究に向けた情報収集（文献およびインターネットによる検索）
第14講　卒業研究のテーマを考える
第15講　卒業研究計画とスケジュールの作成
フィールドワークの日程は天候などの理由で変更することがあります。
＊見学先と調整の上、別日に実施します。

テキスト・教材（参考文献含む）
自作プリント、および関連資料配布。参考文献：「アニマル・ウォッチング―日本の野生動物（安間 繁樹）晶文社，1985」、「野生動物管理のためのフィールド調査法：哺乳類の痕跡判定からデータ解析まで」、「カメラトラップによる野生生物調査入門：調査設計と統計解析」

担当者から一言
哺乳類の捕獲調査は法律に従った許可申請が必要です。罠の設置にも土地管理者の許可が必要です。事前準備の段階でこういった側面も理解しておきましょう。また、フィールドワークには思わぬ危険が潜んでいます。細心の注意を払って行動しましょう。

専門演習ｂ

廣住豊一

科目ナンバリング	3年次	2単位
ESS3002	後学期	必　修

授業のねらい
土壌の性質を把握するための化学的性質の測定法を学ぶ。

到達目標
土壌の化学的性質を測定することができる。分析結果をまとめ、正しく報告することができる。

成績評価方法･課題･フィードバックの方法
各実験における実施態度・習熟度、調査結果をまとめたレポートなどをもとに総合的に評価する（100％）。提出されたレポートは添削し、返却する。

事前・事後学習
調査および各実験の前に測定の方法と原理を確認し、手順書を作成する(90分)。分析結果をまとめたレポートを作成する(90分)。

授業の位置づけ
専門技術者に求められる倫理観を身につけている。
環境に関する専門知識・技術を習得し、環境の個々の問題に取り組ことができる。

授 業 計 画
第１講　ガイダンス、土壌分析法の解説
第２講　土壌試料の採取
第３講　一般化学性①　pH および EC
第４講　一般化学性②　結果のまとめ
第５講　交換性塩基①　ショーレンベルガー法
第６講　交換性塩基②　結果のまとめ
第７講　陽イオン交換容量①　ホルモル滴定法
第８講　陽イオン交換容量②　結果のまとめ
第９講　有効態リン酸①　トルオーグ法
第10講　有効態リン酸②　結果のまとめ
第11講　リン酸吸収係数①　リン酸吸収係数測定
第12講　リン酸吸収係数②　結果のまとめ
第13講　アンモニア態窒素①　水蒸気蒸留法
第14講　アンモニア態窒素②　結果のまとめ
第15講　土壌分析結果のまとめ
調査･実験の進捗状況に応じて内容は変更されることがある。
全体を通してアクティブ･ラーニングの要素が含まれる。

テキスト・教材（参考文献含む）
なし。必要に応じて資料を配布する。
参考文献：日本土壌肥料学会「土壌標準分析･測定法」博友社(2004年)、渡辺和彦ほか「環境･資源･健康を考えた土と施肥の新知識」農文協（2012年)、JA全農「だれにもできる土壌診断の読み方と肥料計算」農文協(2010年)

担当者から一言
実験室での分析ではささいな油断や不注意がけがや事故につながります。細心の注意をもって調査・実験に臨んでください。白衣を必ず着用してください。

専門演習ｂ

前川督雄

科目ナンバリング	3年次	2単位
ESS3002	後学期	必　修

授業のねらい
前期「専門演習ａ」に引き続き、実環境そしてサイバースペースでメディア情報を制御するための専門的な活性の構築､また本格的な調査･研究を行える活性の構築をめざします。

到達目標
各個で定めた目標を実現するために必要なツール、基礎的な知の体系を見定め、それらを獲得･達成するアプローチを組み立てる。

成績評価方法･課題･フィードバックの方法
課題への取り組み、進捗等によって総合評価します。
定期試験を行いません。
必要に応じてフィードバックします。

事前・事後学習
試行錯誤の数だけ視野が広がり、実感・理解が深まります。思いついたらまず試してみましょう(180分)。
毎週、進捗報告と次週に向けた目標設定をしてもらいます。
冬休みに課題を出します。

授業の位置づけ
メディアに関する専門知識・技術を習得して、独自の視点で情報発信できる。
専門技術者に求められる倫理観を身につけている。
多様な社会の価値観を理解し、自分の考えを的確に表現し、伝えることができる。

授 業 計 画
第１講　ガイダンス／夏休み中の報告
第２講　目標確認／面談
第３講　自学自習／面談
第４講　自学自習／面談
第５講　自学自習／面談
第６講　見直し／面談／学内コンペ応募
第７講　自学自習／面談
第８講　自学自習／面談
第９講　自学自習／面談
第10講　進捗発表
第11講　イベント制作(卒業展準備)
第12講　イベント制作(卒業展準備)
第13講　イベント制作(卒業展準備)
第14講　イベント制作(卒業展準備)
第15講　総括／面談
(各自の方向性･進捗にあわせて異なります)
制作･開発した作品、研究調査した論文で学内コンペに参加します。

テキスト・教材（参考文献含む）
テキストはありません。

担当者から一言
広く深く探求してください。模索し､試行錯誤できるのはここまでです。後輩の指導に関与してもらう場合もあります。教えることを通じて自分の理解･技能を深めて下さい。

専門演習ｂ

科目ナンバリング	３年次	２単位
ESS3002	後学期	必　修

牧田直子

授業の位置づけ

専門技術者に求められる倫理観を身につけている。
地域の持続的発展のために貢献できる。
多様な社会の価値観を理解し、自分の考えを的確に表現し、伝えることができる。
環境に関する専門知識･技術を習得し、環境の個々の問題に取り組ことができる。
環境に関する専門知識･技術を習得し、環境の個々の問題に取り組ことができる。

授業のねらい

専門演習ｂでは、卒業研究のための調査を本格的に開始する。自分で決めた調査対象について十分な余裕を持って調査を進める。論文紹介を通してプランクトン研究の知識を広げ、各自の調査研究に役立てる。プランクトンの分類は、とにかくたくさん観ること、図鑑に慣れることから始まる。計画を立てて自主的に取り組む姿勢を重視する。

到達目標

「自信を持って調査･研究を進められる」
多少の失敗やうまく行かないことがあっても大丈夫。自由な発想で色々試し、自分の実力にしていこう。

成績評価方法･課題･フィードバックの方法

実験ノート(実習の記録)：75%、論文紹介:15%、レポート:10%
実験ノートは毎回確認する。レポートは完成までに最低３回は添削し、返却する。未完成のレポートは受け取らない。

事前・事後学習

(１)論文を読み、必要な資料や情報を調べ、準備しておく(60分以上)。
(２)プランクトンを分類し、調査・研究を進めながらデータの整理する(90分以上)。
(３)レポートは調査・研究と平行して、書ける部分から書き進めておく(30分以上)。

授 業 計 画

第１講　ガイダンスと研究計画の確認、調査準備
第２講　試料採集(１回目)
第３講　試料採集予備(１回目)と論文紹介
第４講　調査･研究方法の妥当性を検討
第５講　試料採集(２回目)
第６講　試料採集予備(２回目)と論文紹介
第７講　調査･研究方法の確認
第８講　調査･研究開始
第９講　調査･研究(継続)
第10講　調査･研究(継続２回目)
第11講　試料採集(３回目)
第12講　試料採集予備(３回目)と論文紹介
第13講　調査･研究(継続３回目)
第14講　調査･研究(継続４回目)
第15講　調査･研究のまとめ

調査･研究には、実験実習やフィールドワークを含む。
１人３回ずつ、論文紹介の機会を設ける。発表者は１講に２名まで。

テキスト・教材（参考文献含む）

田中 正明「日本淡水産動植物プランクトン図鑑」名古屋大学出版会(2002年)定価:10,450円(税込)
適宜、プリントを配布する。

担当者から一言

積極的に取り組み、自分の考えで調査を進め、実現させていくことで得られる達成感､探求する楽しみを実感しましょう。自信を持って、のびのびと活動してください。

専門演習ｂ

科目ナンバリング	３年次	２単位
ESS3002	後学期	必　修

柳瀬元志

授業の位置づけ

専門技術者に求められる倫理観を身につけている。
メディアに関する専門知識・技術を習得して、独自の視点で情報発信できる。

授業のねらい

各自がテーマを設け、一人１作品を制作します。表現形式は問いません。
企画･構成･取材･演出･撮影。編集などの力をさらに深め、クリエイターとしてのスキルを上げます。

到達目標

４年次の卒業制作に向け、自分の決めたテーマをしっかりと形にする力を身につけることを目標とします。
また取材･演出･撮影などは、後輩の指導ができるレベルに到達するよう力をつけていきます。

成績評価方法･課題･フィードバックの方法

定期試験は行いません。授業･課題への取り組み:30%
作品制作への意欲･参加度:40%　レポート、作品の内容や完成度:30%
作品は第15講に発表。総合的観点から評価を伝えます。
必要に応じてフィードバックします。

事前・事後学習

数多くのメディアに触れること。
テレビ･ラジオなど既存のメディアに限らず、大人としての鑑賞･観劇などにも励んでください。
また｢文章｣を｢読む｣｢書く｣は必須です。
新聞･雑誌･電子書籍、なんでも結構です。文章を読む癖をつけてください。

授 業 計 画

第１講:ガイダンス～作品制作に向けてロードマップ作り～
第２講:企画①テーマ決定
第３講:企画②リサーチ＆取材
第４講:企画③構成案作成
第５講:企画④構成案決定
第６講:制作撮影①
第７講:制作撮影②
第８講:制作撮影③
第９講:制作撮影④
第10講:編集①
第11講:編集②
第12講:編集③第一回試写
第13講:MA
第14講:完パケ
第15講:完成試写
制作の進捗状況によりスケジュールが変更になる可能性があります。

テキスト・教材（参考文献含む）

なし。必要に応じてテキスト及び資料の配布を行います。

担当者から一言

４年次の卒業制作に向けて、大切な授業となります。
しかし、この授業で与えられた課題をしっかりとこなし、成功させることが次へとつながります。
まずは納得のいく作品作りを目指しましょう。

専門演習ｃ	科目ナンバリング	４年次	２単位
池田幹男	ESS4001	前学期	必　修

授業の位置づけ

メディアに関する専門知識・技術を習得して、独自の視点で情報発信できる能力を身に付ける。

授業のねらい

これまでの講義・演習などで獲得した知識・技術・経験を生かして、卒業研究のテーマを検討し、決定する。決定したテーマを要素に分解して研究計画が立てられるようになる。

到達目標

①研究テーマを自分自身で設定して、研究に必要な知識を収集できるようになる。
②研究テーマに必要となる要素や問題点を自分で検討できるようになる。
②授業時間外でも、独自に研究が進められるようになる。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法

授業への取り組み姿勢や卒業研究の進捗状況などによって総合的に評価する。
必要に応じてフィードバックします。

事前・事後学習

研究の内容・進捗状況に応じて必要な知識を収集する(90分)。
時間外にも、生じた問題・課題への対応策を検討して研究を進める(90分)。

授 業 計 画

第１講　ガイダンス、卒業研究テーマの検討(１)
第２講　卒業研究テーマの検討(２)
第３講　卒業研究テーマの検討(３)
第４講　卒業研究の実施、全体検討(１)
第５講　卒業研究の実施、全体検討(２)
第６講　卒業研究の実施、全体検討(３)
第７講　卒業研究の実施、全体検討(４)
第７講　卒業研究の実施、全体検討(５)
第７講　卒業研究の実施、全体検討(６)
第10講　卒業研究の実施、全体検討(７)
第11講　卒業研究の実施、全体検討(８)
第12講　卒業研究の実施、全体検討(９)
第13講　卒業研究の中間発表会の準備(１)
第14講　卒業研究の中間発表会の準備(２)
第15講　卒業研究の中間発表会

テキスト・教材（参考文献含む）

なし。(必要に応じて指示または配布する)

担当者から一言

卒業研究はテーマを自分で決定し、自分で考えながら進めていくので、自主性が重要になる。

専門演習ｃ	科目ナンバリング	４年次	２単位
大八木麻希	ESS4001	前学期	必　修

授業の位置づけ

多様な社会の価値観を理解し、自分の考えを的確に表現し、伝えることができる。
環境に関する専門知識・技術を習得し、環境の個々の問題に取り組むことができる。

授業のねらい

基礎演習ab、専門演習abで取り組んだ内容を反芻しながら、実践的に卒業論文の執筆に取り組む。卒業論文完成に向けて、必要な知識と情報の収集について身に付ける過程で研究の楽しみに気づくことが出来れば、良い研究につながる。

到達目標

本演習では調査研究を通じて、自然環境への理解の仕方を各自習得する。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法

卒業研究や演習への取り組み姿勢、研究の進捗状況、卒業研究中間発表会での発表内容などをもとに総合的に評価する（100％)。研究の進捗状況に応じて適切な助言を行う。
必要に応じてフィードバックします。

事前・事後学習

参考文献などで予習して、重点、問題点等を検討した上で授業に臨むことを推奨する(90分)。また、関連するニュースや書籍に日頃から関心を持ち、講義の理解に役立ててもらいたい。さらに、講義後には復習し講義内容の定着化を心掛けること(90分)。

授 業 計 画

第１回　ガイダンス
第２回　文献(英文)検索
第３回　文献(英文)講読
第４回　文献(英文)発表
第５回　卒業論文目次作成
第６回　中間発表要旨作成①タイトル及び目的
第７回　中間発表要旨作成②概要及び方法
第８回　中間発表要旨作成③結果及び考察
第９回　中間発表プレゼン作成①タイトル及び目的
第10回　中間発表プレゼン作成②概要及び方法
第11回　中間発表プレゼン作成③結果及び考察
第12回　中間発表プレゼン予備発表、添削
第13回　中間発表プレゼン修正、発表
第14回　卒業論文骨子を固める
第15回　卒業研究中間発表会
実験や野外実習を行い、アクティブラーニング要素を含む科目である。

テキスト・教材（参考文献含む）

テキストなし。
資料配布。

担当者から一言

教員はサポート側に徹し、セミナー時間外の指導についても歓迎します。

専門演習 c	科目ナンバリング	4年次	2単位
片山清和	ESS4001	前学期	必　修

授業のねらい

卒業研究のテーマを自分で決定し、これまでの講義・演習などで獲得した知識・技術・経験を生かして、主体的に卒業研究を進めてもらいます。

また、演習時間内で行う全体検討において、自分の研究の進捗状況をプレゼンテーションしたり、他のゼミ生のプレゼンテーションを聞いて議論したりすることで、プレゼンテーション能力だけでなくコミュニケーション能力の向上も図ります。

到達目標

①卒業研究の中間発表会の準備ができる。
②研究の進捗状況を報告・議論できる。
③研究内容をプレゼンテーションできる。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法

授業への取り組み姿勢や卒業研究の進捗状況などによって総合的に評価する。
必要に応じてフィードバックします。

事前・事後学習

研究の内容・進捗状況に応じて必要な知識を収集すること(90分)。
研究や全体検討で生じた問題・課題への対応策を検討すること(90分)。

授業の位置づけ

専門技術者に求められる倫理観を身につけている。
メディアに関する専門知識・技術を習得して、独自の視点で情報発信できる。

授業計画

第１講　ガイダンス、卒業研究テーマの検討・決定
第２講　研究計画の立案
第３講　卒業研究の実施、全体検討（１）
第４講　卒業研究の実施、全体検討（２）
第５講　卒業研究の実施、全体検討（３）
第６講　卒業研究の実施、全体検討（４）
第７講　卒業研究の実施、全体検討（５）
第８講　ゼミ内中間発表会の準備
第９講　ゼミ内中間発表会
第10講　卒業研究の実施、全体検討（６）
第11講　卒業研究の実施、全体検討（７）
第12講　卒業研究の実施、全体検討（８）
第13講　卒業研究の実施、全体検討（９）
第14講　卒業研究の実施、全体検討(10)
第15講　卒業研究の中間発表会

テキスト・教材（参考文献含む）

なし。（必要に応じて指示または配布します）

担当者から一言

卒業研究はテーマを自分で決定し、自分で考えながら進めていきます。目標に向けて主体的に行った活動は卒業後にも必ず役立ちます。教員は演習時間外でも助言します。

専門演習 c	科目ナンバリング	4年次	2単位
黒田淳哉	ESS4001	前学期	必　修

授業のねらい

専門演習 c は、卒業制作や研究論文の準備です。テーマを明確にし、これまでに習得した照明技術や知識をもとに、卒業研究を進めていきます。

到達目標

①自主的に卒業研究の進め方を計画する。
②計画に沿って卒業研究を進めることができる。
③専門演習 d に向けて、しっかりした研究の基盤をつくる。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法

卒業研究、制作の成果及び、進捗状況をもとに評価する(100%)。
なお、研究の進捗状況に応じて適切な助言をおこなう。
必要に応じてフィードバックします。

事前・事後学習

研究論文や制作に関して必要となる知識の収集を行うこと(90分以上)。
毎回の講義時に課題を与えます。その課題に取り組むこと(90分以上)。

授業の位置づけ

専門技術者に求められる倫理観を身につけている。
メディアに関する専門知識・技術を習得して、独自の視点で情報発信できる。

授業計画

第１講　ガイダンス、研究テーマの確認
第２講　卒業研究、制作の計画書作成
第３講　卒業研究、制作の計画発表(ディスカッション)
第４講　文献の検索
第５講　卒業研究の実施
第６講　卒業研究の進行状況確認
第７講　卒業研究の実施
第８講　卒業研究の進行状況確認
第９講　卒業研究の実施
第10講　卒業研究の進行状況確認
第11講　卒業研究の実施
第12講　プレゼンテーション用資料の作成
第13講　プレゼンテーション用資料の完成
第14講　セミナー内研究報告会の準備
第15講　卒業研究の中間発表

テキスト・教材（参考文献含む）

なし。（必要に応じてプリントを配布します）

担当者から一言

卒業研究は自分でテーマを見つけ、探求し、結果を追い求めていきます。毎回の講義でディスカッションを行い、課題を与えますので講義は休まないで下さい。また、セミナーの集大成として相応しい研究内容になるよう、計画的に研究を進めて下さい。

専門演習 c	科目ナンバリング	4年次	2単位
関根辰夫	ESS4001	前学期	必　修

授業のねらい

基礎及び専門セミナーで習得した知識、技術、技能を基に、受講生一人一人が自らの制作または研究の課題を設定し、年間を通して課題達成に向けて取り組む。音にかかわる課題を策定しその問題解決や実現に必要な知識、技術、意欲、工程管理能力などを身に付けるねらいとする。又自らの課題の達成に専念するのみではなく、他のメンバー（他のセミナーも含む）との交流を図りそのテーマの理解に努力し必要な場合はお互いに協力しあう事により他の側面からの意見や助言を得てテーマに対する理解の幅を広げる。

到達目標

・自身の研究の成果の集大成である卒業論文（卒業制作）を立案、制作する。
・下級生に対して模範となるコミュニケーション能力を確立する。

成績評価方法･課題･フィードバックの方法

卒業制作、卒業研究の取り組み方や進行状況によって、総合的に評価します。制作･研究の取り組み方･進行状況などに関しては随時フィードバックします。

事前・事後学習

卒業制作、卒業研究の取り組み方や進行状況によって、総合的に評価します。制作･研究の取り組み方･進行状況などに関しては随時フィードバックします。

授業の位置づけ

専門技術者に求められる倫理観を身につけている。
メディアに関する専門知識・技術を習得して、独自の視点で情報発信できる。

授 業 計 画

第１講　ガイダンス･履修指導
第２講　ディスカッションによる、卒業制作のためのアイディア出し
第３講　アイディアをテーマにまとめる
第４講　テーマの内容の実現性検討
第５講　ディスカッションによるテーマの評価
第６講　卒業展での発表メディアの決定
第７講　制作時に必要となる機材、消耗品などの確認
第８講　卒業展のスケジュールから逆算してのスケジュールの作成
第９講　目的を明確にする
第10講　具体的な作業を列挙して計画を立てる
第11講　各自作業を行う
第12講　作業の結果を評価し計画を修正
第13講　修正結果をもとに作業を行う
第14講　作業を行い、結果を評価し計画を修正
第15講　セミナー内でのメディアチェック

テキスト・教材（参考文献含む）

特になし。

担当者から一言

卒業論文・卒業制作は論文調査からスタジオを使用しての録音や編集まで非常に幅の広い作業になります。各自進行状況を常に担当教員に報告、相談して指導を受けるように心がけると共に、計画通り進めるよう自己管理を学んで下さい。

専門演習 c	科目ナンバリング	4年次	2単位
千葉　賢	ESS4001	前学期	必　修

授業のねらい

３年生までに経験したことを基礎に、地域の環境問題を中心に自分の研究テーマを見つけ、積極的に調査研究と卒業論文制作に取り組みます。多様な観測機材を使って環境を測定し、そのデータをパソコン等で分析し、結果をまとめ、発表する訓練を繰り返し行います。セミナーのメンバーと議論もします。このような経験を通じて、研究の方法、論理的な思考方法、図表の作成方法、論理的な文章の書き方などを身に付けてください。

到達目標

北勢地域の環境問題への関心と知識を高め、自分なりの見識を持てるようにします。地域の問題と世界の問題がどのように関係しているのか､そのような視点を育てることも目標とします。プレゼンテーション能力を高め、議論に慣れることも目標とします。４年次は特に卒業論文を仕上げることを最大の到達目標とします。

成績評価方法･課題･フィードバックの方法

大学ノートを全員に配布する。このノートに、卒業研究の作業内容と就職活動の様子を記入して、毎週の講義で提出させる。成績は毎週提出するノート点（優３点、良２点、可１点、不可０点）×15回（全部良で30点）、中間発表会･最終発表会(30点)、卒業研究の内容(30点)、努力点(10点)とする。必要に応じてフィードバックします。

事前・事後学習

ゼミの時間外に毎週180分以上の研究時間を持ち、自分に誇れる論文を制作すること。

授業の位置づけ

地域の持続的発展のために貢献できる。
環境に関する専門知識・技術を習得し、環境の個々の問題に取り組ことができる。

授 業 計 画

第１講　ガイダンス、卒業研究テーマの検討･決定
第２講　卒業研究計画書の作成･提出
第３講　卒業研究計画のゼミ内発表（パワーポイント）、グループディスカッション
第４講　卒業研究の進捗状況の発表、卒業研究の個別指導
第５講　学外活動（３年生との共同調査など）
第６講　卒業研究の進捗状況の発表、卒業研究の個別指導
第７講　就職に関するグループディスカッション
第８講　卒業研究の進捗状況の発表、卒業研究の個別指導
第９講　卒業研究の進捗状況の発表、卒業研究の個別指導
第10講　学外活動（３年生との共同調査など）
第11講　卒業研究の進捗状況の発表、卒業研究の個別指導
第12講　就職に関するグループディスカッション
第13講　卒業研究の進捗状況の発表、卒業研究の個別指導
第14講　卒業研究の進捗状況の発表、卒業研究の個別指導
第15講　卒業研究の中間発表会

テキスト・教材（参考文献含む）

必要に応じてプリントを配布する。

担当者から一言

４年生になると就職で頭が一杯になりますが、卒業研究も進めなければなりません。今年も年度当初から温かく厳しく指導します。コピペ社会になりましたが、卒業研究では汗をかいて、手作りの論文を作成し、世の中に役立つ成果を残しましょう。

専門演習 c

野呂達哉

科目ナンバリング	4年次	2単位
ESS4001	前学期	必　修

授業のねらい

３年次までに習得した知識や技術を参考として目的に沿った研究計画を定め、卒業研究を進める。中間発表会に向けた分かりやすい資料を作成する。

到達目標

自身の研究対象やテーマを定め、調査計画を立て、卒業研究を実施する。資料の作成や発表の練習を通して教員や他の学生と十分議論を尽くし、中間発表を行う。

成績評価方法･課題･フィードバックの方法

卒業研究や演習への取り組み、研究の進捗状況、中間発表会での発表内容をもとに総合的に評価します（100%）。演習の時間に関係なく質問、相談等に対応します。

事前・事後学習

演習の時間に関係なく研究活動を進めてください。演習の時間は研究上の問題点や疑問を皆で議論する場と捉え、出席するよう心がけてください（90分）。演習後は議論した内容をふまえて研究を進めてください(90分)。

授業の位置づけ

専門技術者に求められる倫理観を身につけている。
環境に関する専門知識・技術を習得し、環境の個々の問題に取り組ことができる。

授 業 計 画

第１講　ガイダンス　研究の進め方
第２講　研究テーマの検討
第３講　研究計画の作成
第４講　卒業研究の実施
第５講　卒業研究の実施
第６講　卒業研究の進捗報告･議論
第７講　卒業研究の実施
第８講　卒業研究の進捗報告･議論
第９講　卒業研究の実施
第10講　卒業研究の進捗報告･議論
第11講　卒業研究論文作成　背景と目的
第12講　卒業研究論文作成　方法･途中経過
第13講　卒業研究論文　図表作成
第14講　卒業研究　中間発表会のパワーポイント作成
第15講　卒業研究　中間発表会の発表練習
卒業研究中間発表会

テキスト・教材（参考文献含む）

文献の紹介や必要に応じて論文や資料を配布します。

担当者から一言

卒論研究では自らがフィールドに赴いて活動する機会が多くなります。地域とのコミュニケーションも大切にしてください。また､フィールドワークには思わぬ危険が潜んでいます。細心の注意を払って行動しましょう。

専門演習 c

廣住豊一

科目ナンバリング	4年次	2単位
ESS4001	前学期	必　修

授業のねらい

これまでの講義･演習･実験などで得た知識･技術･経験を駆使し、自ら設定した研究課題に対して試行錯誤を繰り返しながら自分の力で遂行する。

到達目標

研究課題を設定できる。設定した研究課題を遂行する研究計画を立案できる。研究の進捗報告および議論ができる。研究の途中経過を適切に発表できる。

成績評価方法･課題･フィードバックの方法

卒業研究や演習への取り組み姿勢、研究の進捗状況、卒業研究中間発表会での発表内容などをもとに総合的に評価する（100%）。研究の進捗状況に応じて適切な助言を行う。

事前・事後学習

研究の進捗状況に応じて必要となる知識の収集（90分）。研究を実施した際に発生した課題への対応策の検討（90分）。教員から与えられた指示は期限までに必ず実行する。課題への対応が遅れると、研究計画全体の遅延につながる。

授業の位置づけ

専門技術者に求められる倫理観を身につけている。
地域の持続的発展のために貢献できる。
環境に関する専門知識・技術を習得し、環境の個々の問題に取り組ことができる。

授 業 計 画

第１講　ガイダンス　研究の進め方
第２講　研究課題の検討
第３講　研究計画の策定
第４講　卒業研究の実施
第５講　卒業研究の進捗報告および議論
第６講　卒業研究の実施
第７講　卒業研究の進捗報告および議論
第８講　卒業研究の実施
第９講　卒業研究の進捗報告および議論
第10講　卒業研究の実施
第11講　卒業研究の進捗報告および議論
第12講　卒業研究の実施
第13講　卒業研究の進捗報告および議論
第14講　卒業研究中間発表会の準備
第15講　卒業研究中間発表会の確認
卒業研究中間発表会
作業の進捗状況に応じて内容は変更されることがある。
全体を通してアクティブ･ラーニングの要素が含まれる。

テキスト・教材（参考文献含む）

研究課題に関するすべての文献。研究の遂行には、発生した課題や問題点に対して、自ら調査･検討する態度が求められる。

担当者から一言

自ら課題を発見し、解決方法を探し出す力を身につけることは、社会に出てからも役に立ちます。卒業研究はこれまでの大学生活や研究活動の集大成です。研究室の仲間や後輩と協力しながら、見事に研究を完遂してください。がんばりましょう。

専門演習ｃ

前川督雄

科目ナンバリング	4年次	2単位
ESS4001	前学期	必　修

授業のねらい

これまでの講義・演習で培った知識・技術・経験を背景にして、卒業制作あるいは卒業研究を行います。

到達目標

卒業制作・卒業研究の中間レポートを仕上げ、発表する。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法

卒業制作・卒業研究への取り組み姿勢および進捗状況を総合的に評価します。
定期試験を行いません。

事前・事後学習

授業時間は教員への報告・相談の場であり、作業時間ではありません。毎日の生活のなかで最高の優先度を置き、最大限の時間をかけて取り組んで下さい。

授業の位置づけ

メディアに関する専門知識・技術を習得して、独自の視点で情報発信できる。
専門技術者に求められる倫理観を身につけている。
多様な社会の価値観を理解し、自分の考えを的確に表現し、伝えることができる。

授業計画

第１講　ガイダンス／卒業制作・卒業研究の目標を設定
第２講　卒業制作・卒業研究
第３講　卒業制作・卒業研究／４月期総括・見直し
第４講　卒業制作・卒業研究
第５講　卒業制作・卒業研究
第６講　卒業制作・卒業研究
第７講　卒業制作・卒業研究／５月期総括・見直し
第８講　卒業制作・卒業研究
第９講　卒業制作・卒業研究
第10講　卒業制作・卒業研究
第11講　卒業制作・卒業研究／６月期総括・見直し
第12講　卒業制作・卒業研究
第13講　卒業制作・卒業研究
第14講　中間発表／中間レポート提出
第15講　夏休み・後期に向けて面談
（７月末に卒業制作・卒業研究の中間レポートを提出）

テキスト・教材（参考文献含む）

テキストはありません。

担当者から一言

前期でどこまで到達できるかが勝負です。頑張ってください。

専門演習ｃ

牧田直子

科目ナンバリング	4年次	2単位
ESS4001	前学期	必　修

授業のねらい

専門演習ｃでは、卒業研究のための調査を本格的に進める。自分で決めた調査対象について自信を持って調査を進める。これまでに学んだ知識や身につけた実験技術をもとに、各自で創意工夫し、卒業研究のデータをまとめ上げる。研究の最も楽しい時期であり、自分の考えで実習を進めることで、考える力を伸ばし、実力へとつなげたい。
定期的な論文紹介も引き続き行い、発表することに慣れてもらいたい。

到達目標

「自信を持って発表できる」
これまでに調査したデータをまとめ、他の人に分かる形で発表できるようにする。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法

卒業研究やセミナーへの取り組み姿勢、研究の進捗状況、卒業研究中間発表会での発表内容などをもとに総合的に評価する（100％）。研究の進捗状況に応じて適切な助言を行う。

事前・事後学習

（１）論文を読み、必要な資料や情報を調べ、準備しておく（60分以上）。
（２）調査・研究を進めながら、データの整理をしておく（90分以上）。
（３）調査・研究のまとめ方を考え、実験方法等、書けるところから報告書もしくは論文用に書き進める（30分）。

授業の位置づけ

専門技術者に求められる倫理観を身につけている。
地域の持続的発展のために貢献できる。
多様な社会の価値観を理解し、自分の考えを的確に表現し、伝えることができる。
環境に関する専門知識・技術を習得し、環境の個々の問題に取り組ことができる。

授業計画

第１講　ガイダンスと研究計画の確認、調査準備
第２講　各自の調査・研究
第３講　各自の調査・研究
第４講　各自の調査・研究
第５講　各自の調査・研究
第６講　各自の調査・研究の中間報告（１回目）
第７講　各自の調査・研究
第８講　各自の調査・研究
第９講　各自の調査・研究
第10講　各自の調査・研究
第11講　各自の調査・研究の中間報告（２回目）
第12講　各自の調査・研究
第13講　各自の調査・研究
第14講　分野ごとの中間発表会の準備
第15講　分野ごとの中間発表会

調査・研究には、実験実習やフォールドワークを含む。
１人３回ずつ、論文紹介の機会を設ける。発表者は１講に２名まで。

テキスト・教材（参考文献含む）

田中　正明「日本淡水産動植物プランクトン図鑑」名古屋大学出版会（2002年）定価：10,450円（税込）
適宜、プリントを配布する。

担当者から一言

積極的に取り組み、自分の考えで計画的に調査を進め、データをまとめましょう。各自に合わせて技術面の支援、研究指導をするつもりです。

専門演習 c

科目ナンバリング	4年次	2単位
ESS4001	前学期	必　修

柳瀬元志

授業のねらい

これまでのゼミを通じて習得した、知識や技術などのクリエイティブな力を生かして、個々のテーマの方向性を定め、卒業制作および卒業研究を進めます。
作品は映像のみならず、活字・マルチメディア・またはそれらの組み合わせでもよいこととします。
作品における必然性から、ゼミ内外の学生との共同制作も可とします。
大学生活の集大成となる作品制作への土台作りが狙いです。

到達目標

自ら定めたテーマに沿って作品制作、及び研究の方向性を定める。
よりよい作品制作、研究に向けての準備を進めることを目指します。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法

定期試験なし。
作品つくりに集中して取り組むかを総合的に判断して、後日総評を伝えます。

事前・事後学習

自らの制作に役立つように、様々なメディアに触れ「つくる力」「考えるクセ」を養いましょう。
また映像以外の世界、特に文字に親しみ「読む」「書く」習慣を身につけると作品制作の能力がアップします。心がけましょう。

授業の位置づけ

専門技術者に求められる倫理観を身につけている。
メディアに関する専門知識・技術を習得して、独自の視点で情報発信できる。

授業計画

第１講:ガイダンス～卒業制作および研究に向けてロードマップ作り～
第２講:卒業制作・研究　テーマの検討
第３講:卒業制作・研究　テーマのリサーチ
第４講:卒業制作・研究　テーマ決定
第５講:卒業制作・研究　実践的トライ
第６講:卒業制作・研究　テーマ再検討＆最終決定
第７講:卒業制作・研究　リサーチ
第８講:卒業制作・研究　企画検討
第９講:卒業制作・研究　構成案作成
第10講:卒業制作・研究　準備・ロケハン
第11講:卒業制作・研究　準備・構成案決定
第12講:卒業制作・研究　準備・取材交渉他
第13講:卒業制作・研究　準備。撮影
第14講:卒業制作・研究　撮影
第15講:卒業制作・研究　撮影(PV)

テキスト・教材（参考文献含む）

必要に応じて、資料・テキストの配布をします。

担当者から一言

大学生活の集大成となる作品つくりの第一歩です。
ここで手を抜いたり、いいかげんなスケジューリングをすると後で泣きを見ます。
心して取り組んでください。

専門演習 d

科目ナンバリング	4年次	2単位
ESS4002	後学期	必　修

池田幹男

授業のねらい

設定した研究テーマをこれまでの進捗状況から再検討し、卒業研究を完成させる。研究結果をまとめて他の人にも理解できるようにプレゼンテーションできるようになる。

到達目標

①卒業研究を完成させる。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法

授業への取り組み姿勢や卒業研究の内容などによって総合的に評価する。

事前・事後学習

研究の内容・進捗状況に応じて必要な知識を収集する(90分)。
時間外にも、生じた問題・課題への対応策を検討して研究を進める(90分)。

授業の位置づけ

メディアに関する専門知識・技術を習得して、独自の視点で情報発信できる能力を身に付ける。

授業計画

第１講　ガイダンス、卒業研究テーマの再検討
第２講　卒業研究テーマの再検討
第３講　卒業研究の実施、全体検討(１)
第４講　卒業研究の実施、全体検討(２)
第５講　卒業研究の実施、全体検討(３)
第６講　卒業研究の実施、全体検討(４)
第７講　卒業研究の実施、全体検討(５)
第８講　卒業研究の実施、全体検討(６)
第９講　卒業研究の実施、全体検討(７)
第10講　卒業研究の実施、全体検討(８)
第11講　卒業研究の実施、全体検討(９)
第12講　卒業研究発表会の準備(１)
第13講　卒業研究発表会の準備(２)
第14講　卒業研究発表会の準備(３)
第15講　卒業研究発表会

テキスト・教材（参考文献含む）

なし。(必要に応じて指示または配布する)

担当者から一言

卒業研究はテーマを自分で決定し、自分で考えながら進めていくので、自主性が重要になる。

専門演習ｄ	科目ナンバリング	４年次	２単位
大八木麻希	ESS4002	後学期	必　修

授業のねらい

基礎演習ab、専門演習abで取り組んだ内容を反芻しながら、実践的に卒業論文の執筆に取り組む。卒業論文完成に向けて、必要な知識と情報の収集について身に付ける過程で研究の楽しみに気づくことが出来れば、良い研究につながる。

到達目標

本演習では調査研究を通じて、自然環境への理解の仕方を各自習得する。

成績評価方法･課題･フィードバックの方法

卒業研究や演習への取り組み姿勢、研究の成果、提出された論文の内容、卒業研究発表会での発表内容などをもとに総合的に評価する(100%)。研究の進捗状況に応じて適切な助言を行う。

事前・事後学習

参考文献などで予習して、重点、問題点等を検討した上で授業に臨むことを推奨する(90分)。また、関連するニュースや書籍に日頃から関心を持ち、講義の理解に役立ててもらいたい。さらに、講義後には復習し講義内容の定着化を心掛けること(90分)。

授業の位置づけ

多様な社会の価値観を理解し、自分の考えを的確に表現し、伝えることができる。
環境に関する専門知識・技術を習得し、環境の個々の問題に取り組むことができる。

授 業 計 画

第１回　ガイダンス
第２回　卒業論文進捗中間報告会
第３回　卒業研究データまとめ
第４回　卒業研究グラフ作成
第５回　関連文献検索
第６回　関連文献購読
第７回　卒業論文進捗報告会
第８回　関連講演会への参加
第９回　卒業論文作成①目次及び方法
第10回　卒業論文作成②概要及び目的
第11回　卒業論文作成③結果及び考察
第12回　卒業研究発表プレゼン作成①目次及び方法
第13回　卒業研究発表プレゼン作成②概要及び目的
第14回　卒業研究発表プレゼン作成③結果及び考察
第15回　卒業研究発表会
実験や野外実習を行い､アクティブラーニング要素を含む科目である。

テキスト・教材（参考文献含む）

テキストなし。
資料配布。

担当者から一言

最後の最後まで粘り強く取り組むことが良い卒業論文となり、人生の糧となってくれます。全力でサポートさせていただきます。

専門演習ｄ	科目ナンバリング	４年次	２単位
片山清和	ESS4002	後学期	必　修

授業のねらい

これまでの講義･演習などで獲得した知識･技術･経験を生かして、自分で決めた卒業研究を完成させます。
また、演習時間内で行う全体検討において、自分の研究の進捗状況をプレゼンテーションしたり、他のゼミ生のプレゼンテーションを聞いて議論したりすることで、プレゼンテーション能力だけでなくコミュニケーション能力の向上も図ります。

到達目標

①卒業研究を完成させる。
②研究の進捗状況を報告･議論できる。
③研究内容をプレゼンテーションできる。

成績評価方法･課題･フィードバックの方法

授業への取り組み姿勢や卒業研究の内容などによって総合的に評価する。

事前・事後学習

研究の内容･進捗状況に応じて必要な知識を収集すること(90分)。
研究や全体検討で生じた問題･課題への対応策を検討すること(90分)。

授業の位置づけ

専門技術者に求められる倫理観を身につけている。
メディアに関する専門知識・技術を習得して、独自の視点で情報発信できる。

授 業 計 画

第１講　ガイダンス、卒業研究テーマと研究計画の再確認
第２講　卒業研究の実施、全体検討(１)
第３講　卒業研究の実施、全体検討(２)
第４講　卒業研究の実施、全体検討(３)
第５講　卒業研究の実施、全体検討(４)
第６講　卒業研究の実施、全体検討(５)
第７講　卒業研究の実施、全体検討(６)
第８講　卒業研究の実施、全体検討(７)
第９講　卒業研究の実施、全体検討(８)
第10講　卒業研究の実施、全体検討(９)
第11講　卒業研究の実施、全体検討(10)
第12講　卒業研究の実施、全体検討(11)
第13講　卒業研究の実施、全体検討(12)
第14講　ゼミ内発表会
第15講　卒業研究発表会

テキスト・教材（参考文献含む）

なし。(必要に応じて指示または配布します)

担当者から一言

卒業研究はテーマを自分で決定し､自分で考えながら進めていきます。目標に向けて主体的に行った活動は卒業後にも必ず役立ちます。教員は演習時間外でも助言します。

専門演習ｄ	科目ナンバリング	４年次	２単位
黒田淳哉	ESS4002	後学期	必　修

授業の位置づけ

専門技術者に求められる倫理観を身につけている。メディアに関する専門知識･技術を習得して、独自の視点で情報発信できる。

授業のねらい

これまでセミナーで得た技術や知識をもとに､卒業研究に取り組む。成果を収める為に必要なことを自ら考え行動できるようになること。

到達目標

①卒業研究および制作を完成させる。
②卒業展にて研究成果の発表を行う。

成績評価方法･課題･フィードバックの方法

卒業研究、制作の成果を評価する(100％)。
なお、研究の進捗状況に応じて適切な助言をおこなう。

事前・事後学習

研究論文や制作に関して必要となる知識の収集をおこなうこと（90分以上)。
毎回の講義時に課題を与えます｡その課題に取り組むこと(90分以上)。

授 業 計 画

第１講　ガイダンス、研究計画の再確認
第２講　卒業研究の進行状況確認
第３講　卒業研究の実施
第４講　卒業研究の進行状況確認
第５講　卒業研究の実施
第６講　卒業研究の進行状況確認
第７講　卒業研究の実施
第８講　卒業研究発表会の資料作成
第９講　卒業研究の提出
第10講　卒業研究発表会の発表準備①
第11講　卒業研究発表会の発表準備②
第12講　卒業研究のリハーサル(プレゼンテーション)
第13講　作品、論文の修正及び調整作業
第14講　卒業研究発表会(プレゼンテーション)
第15講　資料整理

テキスト・教材（参考文献含む）

なし。(必要に応じてプリントを配布します)

担当者から一言

卒業研究は自分で考え、探求し、結果を追い求めていきます。毎回の講義でディスカッションを行い、課題を与えますので講義は休まないで下さい。また、セミナーの集大成として相応しい研究内容になるよう計画的に研究を進めて下さい。

専門演習ｄ	科目ナンバリング	４年次	２単位
関根辰夫	ESS4002	後学期	必　修

授業の位置づけ

専門技術者に求められる倫理観を身につけている。
メディアに関する専門知識・技術を習得して、独自の視点で情報発信できる。

授業のねらい

基礎及び専門セミナーで習得した知識、技術、技能を基に、受講生一人一人が自らの制作または研究の課題を設定し、年間を通して課題達成に向けて取り組む。音にかかわる課題を策定しその問題解決や実現に必要な知識、技術、意欲、工程管理能力などを身に付けるねらいとする。又自らの課題の達成に専念するのみではなく、他のメンバー(他のセミナーも含む）との交流を図りそのテーマの理解に努力し必要な場合はお互いに協力しあう事により他の側面からの意見や助言を得てテーマに対する理解の幅を広げる。

到達目標

・自身の研究の成果の集大成である卒業論文(卒業制作)を立案、制作する。
・下級生に対して模範となるコミュニケーション能力を確立する。

成績評価方法･課題･フィードバックの方法

卒業制作、卒業研究の取り組み方や進行状況によって、総合的に評価します。制作･研究の取り組み方･進行状況などに関しては随時フィードバックします。

事前・事後学習

毎回の授業での助言や修正点などを自分自身でよく理解し、以降の卒業研究の進行に役立ててください。(45分程度）また卒業発表会においてスムーズな発表ができるように、必要となるパワーポイントなどのツールの使い方をあらかじめ習得しておくと共に、セミナー内だけではなく自宅などでも発表のリハーサルをしてください。(45分程度)

授 業 計 画

第１講　ガイダンス
第２講　卒業研究テーマの再確認
第３講　卒業研究進行状況報告相談
第４講　卒業生の制作物視聴会
第５講　業生の制作物視聴会
第６講　卒業研究進行状況報告相談
第７講　卒業研究中間報告会、意見交換
第８講　卒業研究進行状況報告相談
第９講　卒業展の時に必要なセッティングなどの確認
第10講　卒業研究進行状況報告相談
第11講　卒業展用パワーポイントファイル作成
第12講　卒業論文･制作提出(12月末)
第13講　セミナー内発表会
第14講　最終チェック(セミナー内)
第15講　発表練習(12月末に提出）（１月に卒業展予定)

テキスト・教材（参考文献含む）

特になし。

担当者から一言

卒業論文(卒業制作)は論文調査からスタジオを使用しての録音や編集まで非常に幅の広い作業になります。各自進行状況を常に担当教員に報告、相談して指導を受けるように心がけると共に、計画通り進めるよう自己管理を学んで下さい。

専門演習ｄ

科目ナンバリング	4年次	2単位
ESS4002	後学期	必　修

千葉　賢

授業のねらい

３年生までに経験したことを基礎に、地域の環境問題を中心に自分の研究テーマを見つけ、積極的に調査研究と卒業論文制作に取り組みます。多様な観測機材を使って環境を測定し、そのデータをパソコン等で分析し、結果をまとめ、発表する訓練を繰り返し行います。セミナーのメンバーと議論もします。このような経験を通じて、研究の方法、論理的な思考方法、図表の作成方法、論理的な文章の書き方などを身に付けてください。

到達目標

北勢地域の環境問題への関心と知識を高め、自分なりの見識を持てるようにします。地域の問題と世界の問題がどのように関係しているのか､そのような視点を育てることも目標とします。プレゼンテーション能力を高め、議論に慣れることも目標とします。４年次は特に卒業論文の仕上げることを最大の到達目標とします。

成績評価方法･課題･フィードバックの方法

大学ノートを全員に配布する。このノートに、卒業研究の作業内容と就職活動の様子を記入して、毎週の講義で提出させる。成績は毎週提出するノート点（優３点、良２点、可１点、不可０点）×15回（全部良で30点)、中間発表会･最終発表会(30点)、卒業研究の内容(30点)、努力点(10点)とする。必要に応じてフィードバックします。

事前・事後学習

ゼミの時間外に毎週180分以上の研究時間を持ち、自分に誇れる論文や作品を制作すること。

授業の位置づけ

地域の持続的発展のために貢献できる。
環境に関する専門知識・技術を習得し、環境の個々の問題に取り組ことができる。

授 業 計 画

第１講　ガイダンス、卒業研究の進捗状況の発表
第２講　卒業研究の進捗状況の発表、卒業研究の個別指導
第３講　卒業研究の進捗状況の発表、卒業研究の個別指導
第４講　卒業研究の進捗状況の発表、卒業研究の個別指導
第５講　学外活動(農業体験など)
第６講　卒業研究の進捗状況の発表、卒業研究の個別指導
第７講　就職に関するグループディスカッション
第８講　卒業研究の進捗状況の発表、卒業研究の個別指導
第９講　卒業研究の進捗状況の発表、卒業研究の個別指導
第10講　卒業研究の進捗状況の発表、卒業研究の個別指導
第11講　卒業研究の進捗状況の発表、卒業研究の個別指導
第12講　卒業研究の進捗状況の発表、卒業研究の個別指導
第13講　卒業研究の進捗状況の発表、卒業研究の個別指導
第14講　卒業研究の合同発表会
第15講　卒業研究の合同発表会

テキスト・教材（参考文献含む）

必要に応じてプリントを配布する。

担当者から一言

４年生になると就職で頭が一杯になりますが、卒業研究も進めなければなりません。今年も年度当初から温かく厳しく指導します。コピペ社会になりましたが、卒業研究では汗をかいて、手作りの論文を作成し、世の中に役立つ成果を残しましょう。

専門演習ｄ

科目ナンバリング	4年次	2単位
ESS4002	後学期	選　択

野呂達哉

授業のねらい

中間発表の結果や議論を踏まえ、研究計画を補足しながら卒業研究を進める。卒業論文発表会に向けた分かりやすい資料を作成する。

到達目標

フィールドワーク等で得られたデータを分析し、論理的な結論を導く。研究内容に沿った分かりやすい図表を作成し、その上で卒業論文を執筆、発表を行う。

成績評価方法･課題･フィードバックの方法

卒業研究や演習への取り組み姿勢、研究の進捗状況、卒業論文発表会での発表内容をもとに総合的に評価します（100％)。演習の時間に関係なく質問、相談等に対応します。

事前・事後学習

演習の時間に関係なく研究活動を進めてください。演習の時間は研究上の問題点や疑問を皆で議論する場と考え、出席するよう心がけてください（90分)。演習後は議論した内容を踏まえた上で研究を進めてください(90分)。

授業の位置づけ

専門技術者に求められる倫理観を身につけている。
環境に関する専門知識・技術を習得し、環境の個々の問題に取り組むことができる。

授 業 計 画

第１講　ガイダンス　研究の進め方
第２講　研究計画の確認と補足
第３講　卒業研究の実施
第４講　卒業研究の進捗報告･議論
第５講　卒業研究の実施
第６講　卒業研究の進捗報告･議論
第７講　卒業研究の実施
第８講　卒業研究の進捗報告･議論
第９講　卒業研究論文作成　背景と目的
第10講　卒業研究論文作成　方法･結果
第11講　卒業研究論文　図表作成
第12講　卒業研究論文作成　考察･要旨
第13講　卒業研究　発表用パワーポイント作成
第14講　卒業研究　発表練習
第15講　卒業研究　発表練習
卒業論文発表会

テキスト・教材（参考文献含む）

文献の紹介や必要に応じて論文や資料を配布します。

担当者から一言

卒業研究は学生生活の集大成です。教員や他の学生とも議論を尽くし、納得のいくものを作りあげましょう。疑問や分からないことがあれば遠慮せずに聞きに来てください。

専門演習ｄ	科目ナンバリング	４年次	２単位
廣 住 豊 一	ESS4002	後学期	必　修

授業の位置づけ

専門技術者に求められる倫理観を身につけている。
地域の持続的発展のために貢献できる。
環境に関する専門知識・技術を習得し、環境の個々の問題に取り組ことができる。

授業のねらい

これまでの講義･演習･実験などで得た知識･技術･経験を駆使し、自ら設定した研究課題に対して試行錯誤を繰り返しながら自分の力で遂行する。

到達目標

中間発表会で得られた課題を整理し研究計画を改善できる。研究の進捗報告および議論ができる。得られた研究成果を論文にまとめ、わかりやすく発表できる。

成績評価方法･課題･フィードバックの方法

卒業研究や演習への取り組み姿勢、研究の成果、提出された論文の内容、卒業研究発表会での発表内容などをもとに総合的に評価する(100%)。研究の進捗状況に応じて適切な助言を行う。

事前・事後学習

研究の進捗状況に応じて必要となる知識の収集 (90分)。研究を実施した際に発生した課題への対応策の検討 (90分)。教員から与えられた指示は期限までに必ず実行する。課題への対応が遅れると、研究計画全体の遅延につながる。

授 業 計 画

第１講　ガイダンス　中間発表会時の議論整理
第２講　研究計画の改定
第３講　研究計画の確認と修正
第４講　卒業研究の実施
第５講　卒業研究の進捗報告および議論
第６講　卒業研究の実施
第７講　卒業研究の進捗報告および議論
第８講　卒業研究の実施
第９講　卒業研究の進捗報告および議論
第10講　卒業研究の実施
第11講　卒業研究の進捗報告および議論
第12講　卒業研究の実施
第13講　卒業研究の進捗報告および議論
第14講　卒業研究発表会の準備
第15講　卒業研究発表会の確認
卒業研究発表会
作業の進捗状況に応じて内容は変更されることがある。
全体を通してアクティブ･ラーニングの要素が含まれる。

テキスト・教材（参考文献含む）

研究課題に関するすべての文献。研究の遂行には、発生した課題や問題点に対して、自ら調査･検討する態度が求められる。

担当者から一言

自ら課題を発見し、解決方法を探し出す力を身につけることは、社会に出てからも役に立ちます。卒業研究はこれまでの大学生活や研究活動の集大成です。研究室の仲間や後輩と協力しながら、見事に研究を完遂してください。がんばりましょう。

専門演習ｄ	科目ナンバリング	４年次	２単位
前 川 督 雄	ESS4002	後学期	必　修

授業の位置づけ

メディアに関する専門知識・技術を習得して、独自の視点で情報発信できる。
専門技術者に求められる倫理観を身につけている。
多様な社会の価値観を理解し、自分の考えを的確に表現し、伝えることができる。

授業のねらい

これまでの講義･演習で培った知識･技術･経験を背景にして、卒業制作あるいは卒業研究を行います。

到達目標

卒業制作(作品＋制作レポート)あるいは卒業研究(卒業論文)の完成及び展示･発表を見事に成し遂げる。

成績評価方法･課題･フィードバックの方法

卒業制作・卒業研究への取り組み姿勢および成果を総合的に評価します。
定期試験を行いません。

事前・事後学習

授業時間は教員への報告･相談の場であり、作業時間ではありません。毎日の生活のなかで最高の優先度を置き、最大限の時間をかけて取り組んで下さい。

授 業 計 画

第１講　ガイダンス／面談
第２講　卒業制作･卒業研究
第３講　卒業制作･卒業研究
第４講　卒業制作･卒業研究
第５講　卒業制作･卒業研究／発表様式･概要〆切(10月末)
第６講　卒業制作･卒業研究
第７講　卒業制作･卒業研究
第８講　卒業制作･卒業研究
第９講　卒業制作･卒業研究
第10講　卒業制作･卒業研究完成(11月末)
第11講　論文レポート作成
第12講　論文レポート作成／メディアチェック
第13講　論文レポート提出(12月末)
第14講　発表準備
第15講　発表準備
(12月末に提出)
(１月に卒業展･卒業研究発表会での展示･発表)

テキスト・教材（参考文献含む）

テキストはありません。

担当者から一言

大学生活の総決算です。頑張ってください。

専門演習ｄ	科目ナンバリング	４年次	２単位
牧田直子	ESS4002	後学期	必　修

授業の位置づけ

専門技術者に求められる倫理観を身につけている。
地域の持続的発展のために貢献できる。
多様な社会の価値観を理解し、自分の考えを的確に表現し、伝えることができる。
環境に関する専門知識・技術を習得し、環境の個々の問題に取り組ことができる。

授業のねらい

専門演習ｄでは、卒業研究を論文にまとめ、発表する最終段階に入ります。研究データの追加や再検討を行い、納得のいく内容で、わかりやすくまとめ上げましょう。今までの経験をもとに、社会で応用できる実力へと成長させたい。

到達目標

「わかりやすく発表し、議論(質疑応答)できる」
自分の考えをわかりやすくまとめて伝え、議論できる。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法

卒業研究や演習への取り組み姿勢、研究の成果、提出された論文の内容、卒業研究発表会での発表内容などをもとに総合的に評価する(100%)。研究の進捗状況に応じて適切な助言を行う。

事前・事後学習

(１)データの整理、作図(90分以上)。
(２)論文の執筆、発表資料等の作成(90分以上)。

授 業 計 画

第１講　ガイダンスと調査・研究の現状確認
第２講　各自の調査・研究
第３講　論文の構成と必要データの照合
第４講　各自の調査・研究(追加データの取得)
第５講　卒業研究論文の下書き完成、確認
第６講　卒業研究論文の下書きの修正
第７講　写真の画像処理
第８講　卒業研究論文の論旨の確認
第９講　卒業研究論文の図表、体裁の修正
第10講　卒業研究論文の読み直し
第11講　卒業研究論文の要旨作成
第12講　卒業研究論文と要旨の完成
第13講　発表原稿とパワーポイント資料の完成
第14講　卒業研究発表会の準備
第15講　卒業研究発表会

調査・研究には、実験実習やフォールドワークを含む。

テキスト・教材（参考文献含む）

田中 正明「日本淡水産動植物プランクトン図鑑」名古屋大学出版会(2002年)定価:10,450円(税込)
適宜、プリントを配布する。

担当者から一言

誰が読んでもわかりやすい論文に仕上げ、発表しましょう。

専門演習ｄ	科目ナンバリング	４年次	２単位
柳瀬元志	ESS4002	後学期	必　修

授業の位置づけ

専門技術者に求められる倫理観を身につけている。
多様な社会の価値観を理解し、自分の考えを的確に表現し、伝えることができる。
メディアに関する専門知識・技術を習得して、独自の視点で情報発信できる。

授業のねらい

卒業作品・卒業研究の完成を目指します。
どちらも自己満足でなく、第三者が見て鑑賞に堪えうるレベルの作品を制作します。
卒業制作はその作品のデータ(DVD)及び企画書・構成案・台本なども併せて提出します。
制作、研究とも卒業展での作品の発表を行います。

到達目標

大学生活の集大成となる自分で誇りを持てる作品、研究を目指します。
誰の目から見ても納得できる「内容」と「クオリティの高い」作品を完成させます。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法

定期試験は行いません。
作品の完成度:50%
授業＆課題への取り組む姿勢:50%
卒業展において発表。後日総評を伝えます。

事前・事後学習

本人の自覚と責任で毎日（１時間～２時間）メディアに接するようにしましょう。
スキルアップを図るため、各々工夫と努力をして、より高いレベルの「目」「耳」「口」が持てるよう努力してください。

授 業 計 画

第１講:ガイダンス＆制作ロードマップの確認
第２講:撮影①
第３講:撮影②
第４講:撮影③
第５講:全員プレビュー進捗状況確認
第６講:編集①
第７講:編集②
第８講:全員プレビュー進捗状況確認
第９講:編集④手直し
第10講:MA＆NA
第11講:MA＆NA　完パケ
第12講:完成
第13講:メディアチェック
第14講:最終仕上げ
第15講:卒業展発表に向けて
※進捗状況によって、スケジュールの変更があります。

テキスト・教材（参考文献含む）

なし。必要に応じて資料・テキストの配布を行います。

担当者から一言

この授業は、四日市大学で学んだ４年間の証です。
自分自身だけでなく、誰しも「いい作品だ」と思うことができるような作品を作ってください。
また時間管理をしっかりとして、作業の遅れがないよう自分自身でスケジュールコントロールをしてください。

地球環境学総論

科目ナンバリング	1年次	2単位
ENE2001	後学期	分野必修

廣住豊一

授業の位置づけ

専門技術者に求められる倫理観を身につけている。
地域の持続的発展のために貢献できる。
多様な社会の価値観を理解し、自分の考えを的確に表現し、伝えることができる。
環境に関する専門知識・技術を習得し、環境の個々の問題に取り組ことができる。

授業のねらい

この講義では、現在地球で生じている人間活動に起因する様々な問題について広く学ぶ。環境問題に対する基本的な考え方を身につけ、自然環境分野で開講されるより専門的な各科目の内容に円滑に接続できるようにする。また、各回の授業でレポートを課し、得られた知識や自分の考えを限られた時間で適切にまとめる能力を身につける。

授業計画

第１講　ガイダンス、いまわたしたちの地球で起きていること
第２講　地球と環境を知る①　環境問題の歴史
第３講　地球と環境を知る②　地球の構造と自然のはたらき
第４講　地球規模の環境問題①　地球温暖化
第５講　地球規模の環境問題②　オゾン層の保護
第６講　地球規模の環境問題③　大気汚染と酸性雨
第７講　地球規模の環境問題④　人口増加と貧困・格差・食糧問題
第８講　自然と生態系を守る①　森林の破壊と保護
第９講　自然と生態系を守る②　土壌劣化と砂漠化
第10講　自然と生態系を守る③　水資源問題と海洋環境汚染
第11講　自然と生態系を守る④　生物多様性と生態系の保全
第12講　生活環境を考える①　暮らしにかかわる環境問題
第13講　生活環境を考える②　人間の活動とエネルギー問題
第14講　生活環境を考える③　廃棄物の処理と資源のリサイクル
第15講　まとめ　持続可能な社会を目指して
定期試験

到達目標

現在この地球で問題になっている課題を理解し、その解決策について考えることができる。自分の考えをまとめ、正確に伝えることができる。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法

毎回の授業内で行うミニレポートの合計点と定期試験のどちらか低い方を最終評定とする。ミニレポートは次の講義までに添削して返却する。正当な理由なく欠席した場合は1回ごとに最終評定を1段階下げる。遅刻・早退・私語等には減点等の処置を講じる。

テキスト・教材（参考文献含む）

なし。授業内容の理解を助けるため、各回の講義内容に関連した書き込み式の資料を配布する。自習用教材には、環境社会検定試験（eco検定）、環境学・環境科学・地球環境に関する書籍などを推奨する。

事前・事後学習

シラバスの授業計画をよく確認し、書籍・テレビ・新聞・インターネットなどの関連する記事・ニュースで予習する（90分）。確認テストで添削された内容をよく見直し、各回の講義で配布した資料で復習する（90分）。

担当者から一言

ある一面からの視点では地球環境問題の全体像は把握できません。問題解決にはさまざまな立場から捉えることが重要です。各回の授業で課すミニレポートではその点に注意して書いてみてください。

生態学

科目ナンバリング	2年次	2単位
ENE2002	前学期	分野必修

大八木麻希

授業の位置づけ

地域の持続的発展のために貢献できる。
環境に関する専門知識・技術を習得し、環境の個々の問題に取り組むことができる。

授業のねらい

人類誕生の遥か昔から途切れることなく続いてきた生物活動の営みを理解するとともに、人間とのかかわりで生物多様性や保全活動が重要視されている。そこで、環境分野を学ぶための基礎となる科学的視点を身に着けてもらいたい。

授業計画

第１講　ガイダンス、生態学とは
第２講　生物圏と生態学
第３講　生物種の系統と進化
第４講　生物の生活資源と個体群
第５講　個体群の成長過程と密度効果
第６講　生物群集と生態系
第７講　種間競争と種の共存
第８講　生活史の進化と多様性
第９講　生態系における物質循環
第10講　バイオドーム森林の地理的植生
第11講　植生の遷移
第12講　生物多様性
第13講　人間活動とのかかわり
第14講　バイオマニュピレーションピレーション
第15講　伊勢湾の生態系

到達目標

生物基礎と社会情勢の両面から生態系を考える多角的な視点を養う。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法

小レポート30%、試験70%
小レポートは毎回添削後、本人へ返却します。

テキスト・教材（参考文献含む）

テキスト
原登志彦「大学生のための生態学入門」共立出版、2017年、2,640円

事前・事後学習

授業計画に示した各回のテーマを、参考文献などで予習して、重点、問題点等を検討した上で授業に臨むことを推奨する（90分）。また、関連するニュースや書籍に日頃から関心を持ち、講義の理解に役立ててもらいたい。さらに、講義後には復習し講義内容の定着化を心掛けること（90分）。

担当者から一言

日頃から関連するニュースや事象に興味関心を持ち、積極的な受講を望みます。

環境保全学

科目ナンバリング	2年次	2単位
ENE2003	後学期	分野必修

野呂達哉

授業の位置づけ

環境に関する専門知識・技術を習得し、環境の個々の問題に取り組ことができる。

授業のねらい

生物多様性の消失や気候変動が引き起こす問題とその背景を理解するとともに、問題解決のために現在行われている取り組みについて知識を深める。

到達目標

環境問題の原因や背景とそれらについての多様な考え方や取り組みについて理解すると同時に、授業内でのディスカッションを通して、環境問題を身近な問題として捉える契機とする。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法

授業に対する積極性(50%)、定期試験(50%)を元に総合的に評価します。授業に対する積極性は小レポートの提出や授業内でのディスカッションへの参加、発言によって評価します。質問や意見など遠慮せず積極的に発言してください。必要に応じてフィードバックします。

事前・事後学習

前回までの内容を復習した上で講義に臨んでください(毎週30分)。また、講義後に分からないことや関心を持ったことについては書籍やインターネットなどで調べ、自分の中で整理してください(1日平均30分)。

授 業 計 画

第1講　ガイダンス
第2講　生物にとっての環境とは
第3講　人による環境改変の歴史
第4講　生物の絶滅、その歴史と現在
第5講　生物多様性とは
第6講　生物多様性を脅かす危機
第7講　生物資源と遺伝資源
第8講　生態系サービスの概念
第9講　生物多様性条約とCOP10
第10講　保全生物学の考え方
第11講　生物多様性の保全と持続可能な利用に関する取り組み
第12講　気候変動による自然生態系の変化
第13講　気候変動への適応と取り組み
第14講　持続可能な社会に向けた取り組み－ESDとSDGs
第15講　まとめ
定期試験

テキスト・教材（参考文献含む）

テキストなし。自作プリント、および関連資料配布。また、映像、スライドなども併用する。
参考文献:「生物多様性という名の革命(デヴィッド・タカーチ)日経BP社，2006」、「最新 日本の外来生物(自然環境研究センター)平凡社，2019」など

担当者から一言

環境保全は社会や他人に任せるだけではなく、自身の参加が不可欠です。保全の取り組みへの学生の積極的な参加を期待します。

環境化学

科目ナンバリング	1年次	2単位
EEB2001	後学期	選　択

牧田直子

授業の位置づけ

環境に関する専門知識・技術を習得し、環境の個々の問題に取り組ことができる。

授業のねらい

物質の成り立ちや化学反応を理解し、環境に関する事柄を化学的に考える力を養うことを目標とする。具体的には、大気汚染、オゾン層破壊、地球温暖化等の化学について学ぶ。物質を構成している原子や化学反応における量の関係、エネルギーの出入りなどを学び、各種の反応へと発展させる。内容には物理化学および有機化学の基礎も含む。

関連科目は「化学概論」、「環境化学実験」など。

到達目標

(1)構造式や分子の形から、その物質の性質が考えられる。
(2)燃焼反応などの化学反応式が書ける。
(3)オゾンや酸素の役割、温室効果のメカニズムなどが化学的に説明できる。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法

宿題プリント(13回分):25%、定期試験:75%
宿題は翌週の講義開始10分以内に提出。遅れたものは受け取らない。欠席・遅刻の予定がある者は前日までに提出すればよい。宿題の評価は正解率ではなく、解答率(問題数に対する解答数)に準ずる。
宿題プリントと授業内に行った演習プリントは、採点して返却する。

事前・事後学習

(1)予習・復習のために宿題のプリントを配るので、解答する(90分)。
(2)教科書を読む(60分)。各回の講義に該当する教科書のページ数を明記した講義計画を初回の授業で配布する。
(3)ノートの見直し、まとめ(30分)。

授 業 計 画

第1講　ガイダンス、持続可能な未来のための化学
第2講　地球の空気
第3講　大気成分と化学変化
第4講　大気汚染と酸性雨
第5講　オゾン
第6講　光(電磁波)
第7講　成層圏オゾンの生成
第8講　オゾン層の破壊と対策
第9講　温室効果と分子の形
第10講　分子の振動と温室効果
第11講　温室効果ガスと地球への影響
第12講　燃焼とエネルギー
第13講　化学反応のエネルギー
第14講　燃料の化学
第15講　まとめ
定期試験

テキスト・教材（参考文献含む）

教科書:
A Project of the American Chemical Society編、廣瀬千秋 訳「改訂 実感する化学　上巻　地球感動編」NTS社(2015)、3,850円(税込み)

担当者から一言

ノートを用意して下さい(ルーズリーフは不可)。試験は自筆のノートと電卓のみ持ち込みを許可します。
講義で分からなかったことは聞きましょう。授業後の質問、プリントの事前提出・受取は6号館4階6412室へ。

環境化学実験

牧田直子

科目ナンバリング	1年次	2単位
EEB2002	前学期 後学期	選　択

授業のねらい

化学は実験によって発展した学問であり、化学教育に実験は欠かせない。この授業では、基本的な実験器具の使用法を習得し、化学実験に慣れ、「化学」を実感できることを目標とする。また、実験を通して環境に対する意識が向上することをねらいとする。

実験系科目の基礎となる科目なので、２年次の実験系科目を履修する前に、また、実験系の演習科目（セミナー）を希望する学生は是非、履修して欲しい。

関連科目は上記科目の他に「化学概論」、「環境化学」など。

到達目標

（１）実験器具を適切に取り扱える（使い方、洗い方）
（２）水溶液の成分（無機化合物）を定性反応によって判別できる
（３）水溶液の濃度を実験によって決定できる（濃度計算ができる）

成績評価方法・課題・フィードバックの方法

実習：30％、実技：15％、予習：15％、定期試験：40％
「実習」は各回の実験結果を実験ノート（プリント）のデータ欄で確認し、評価する。「実技」は設定された項目を達成した場合に、「予習」は実習プリントへの書き込み課題等で評価する。

データ整理が完了した実験ノートは、添削して次回以降の授業内で返却する。

事前・事後学習

（１）予習として実験操作をよく読み、プリントに書き込む。マーカーで線を引く等の工夫をして、実験に必要な器具、試薬等や手順を把握しておく（90分）。
（２）実験データを実験ノート（プリント）にまとめ、計算しておく（90分）。完成した実験ノートは提出する。

授業の位置づけ

専門技術者に求められる倫理観を身につけている。

環境に関する専門知識・技術を習得し、環境の個々の問題に取り組ことができる。

授業計画

第１講　ガイダンスと実験操作の基礎－質量と体積の量り方
第２講　溶液の希釈とピペットの使い方
第３講　溶液の作り方と濃度
第４講　定性分析－陰イオンの化学反応
第５講　リン酸イオンの定量分析－分光光度計の使い方
第６講　モル濃度－溶液の調整と観察
第７講　塩素イオンの定量（沈殿滴定）
第８講　酸化還元反応（１）－鉄の反応
第９講　酸化還元反応（２）－酸化還元滴定
第10講　酸化還元反応（３）－COD測定
第11講　鉄の定量（ｏ－フェナントロリン吸光光度法
第12講　廃油のリサイクル
第13講　酸と塩基（１）－pHの測定
第14講　酸と塩基（２）－中和滴定
第15講　実験操作の復習、データ整理、まとめ
定期試験

２人１組で協力して実験実習を進めるアクティブラーニング科目

テキスト・教材（参考文献含む）

教科書：
自作の実習プリントを配布する。毎回すべてのプリントを持って来ること。実習プリントは①実験操作、②実験ノート、③予習、④補助プリントの4種類を用意している。

担当者から一言

化学実験には化学の基本的な知識が必要になるので、高校で化学を学んでいることが望ましい。危険な化学薬品も使うので、緊張感を持って取り組み、安全を意識すること。白衣着用を勧めます。

自然調査法

大八木麻希

科目ナンバリング	2年次	2単位
EEB2003	前学期	選　択

授業のねらい

20世紀後半の高度経済成長期の負の遺産として浮上してきた環境問題。21世紀には環境問題を改善する手法の確立や環境負荷を減らす産業の試みが行われている。その中で、環境そのものの現状把握として、生物調査を含めた環境調査が行われている。さまざまな開発に伴う自然環境についての生物調査は注目される分野であり、これらへの理解は社会環境へも応用的理解も有している。。現代の問題に、生物調査法を通じて、幅広く対応できる人材を育成していきたい。

到達目標

本講義では、自然調査法についての理論及び実際の方法について、生物学・生態学の知識をふまえて学ぶ。そこで、自然調査法について、自身で柔軟的な視野で考え、科学的に理論を組み立てることが出来ることを目標とする。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法

小レポート30％、試験70％
小レポートは毎回添削後、本人へ返却します。

事前・事後学習

授業計画に示した各回のテーマを、参考文献などで予習して、重点、問題点等を検討した上で授業に臨むことを推奨する（90分）。また、関連するニュースや書籍に日頃から関心を持ち、講義の理解に役立ててもらいたい。さらに、講義後には復習し講義内容の定着化を心掛けること（90分）。

授業の位置づけ

地域の持続的発展のために貢献できる。

環境に関する専門知識・技術を習得し、環境の個々の問題に取り組むことができる。

授業計画

第１講　ガイダンス、生物季節観測
第２講　森林①　植生調査
第３講　森林②　森林管理
第４講　森林③　竹林問題
第５講　森林④　シカ害
第６講　森林⑤　土壌生物調査
第７講　淡水圏①　湖沼の水生植物
第８講　淡水圏②　湖沼の動植物プランクトン
第９講　淡水圏③　水生昆虫分類
第10講　淡水圏④　生物学的水質判定法
第11講　海洋①　海洋生物調査
第12講　海洋②　音響機器
第13講　海洋③　魚類形態と観察
第14講　海洋④　干潟調査
第15講　海洋⑤　化学的特性
レポート試験
簡易な実習後、添削し返却を行うため、アクティブラーニング要素を含む科目である。

テキスト・教材（参考文献含む）

なし
参考文献
柴田英昭「生態学フィールド調査法シリーズ１森林集水域の物質循環調査法」共立出版（2015）2,000円
小池伸介ほか「生態学フィールド調査法シリーズ９大型陸上哺乳類の調査法」共立出版（2017）2,600円

担当者から一言

重要語句の暗記ではなく、多角的・柔軟的な科学的視点を持つという意識を持って取り組んでほしい。簡易な実習を実施予定。

地域環境論

実務

科目ナンバリング	1年次	2単位
EEP2001	前学期	選　択

千葉　賢

授業の位置づけ

地域の持続的発展のために貢献できる。

授業のねらい

現実の環境問題に対処してきた多数の専門家を招聘して講義を行う。本講義に参加することで、自然環境、社会環境、地域環境、環境教育、環境とエネルギーの問題などについて、幅広い知識を得られる。多分野の専門家に会うことが出来、その経験談・苦労話を聞けることが本講義の魅力である。専門家の話を聞き、今後、自分としてどのように環境問題に対処してゆけば良いのかを考える機会にして欲しい。自分の進路を考える機会にもなる。

到達目標

毎週異なる講師から環境問題に関する講義を聞き、それに対する自分の見識を簡潔にレポートにまとめる訓練を行う。幅広い環境問題に関する知識を身に付け、それに対する自分の意見を持つことが到達目標である。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法

毎回の講義後に、自分と環境問題の関係性（自分の生活とどのように関わっているか）を考慮した講義内容評価のミニレポートを作成して提出させる。1回６点満点×15回＝90点（優秀レポートには加点）して成績評価する。レポートを採点してフィードバックする。遅刻者は減点する。期末試験はない。

事前・事後学習

シラバスを参照して次回の講義内容を確認し、インターネット等を利用して、予備的な知識を得ること（180分）。予備的に調べたサイトや図書があれば、その名称と内容の両方をレポートに書くことで加点する。

授 業 計 画

（各講義のタイトルは仮題。講師の都合でタイトルと順番の変更あり。）
第１講　ガイダンス、北勢地域の環境問題、千葉
第２講　四日市市の廃棄物問題、（外部講師）
第３講　三重県の廃棄物問題、（外部講師）
第４講　伊勢湾のプラスチックゴミ問題、千葉
第５講　藤前干潟の保全とゴミ問題、（外部講師）
第６講　SDGsとESD、（外部講師）
第７講　SDGsと食品ロス、（外部講師）
第８講　企業の環境対策、環境マネジメントシステム、（外部講師）
第９講　四日市市周辺の自然環境、（外部講師）
第10講　北勢地域の野生動物と外来種問題、野呂
第11講　三重県の林業と今後、（外部講師）
第12講　四日市における地域農業の展開、（外部講師）
第13講　農福連携による地域農業の展開、（外部講師）
第14講　伊勢湾の貧栄養問題と下水処理場の管理運転、（外部講師）
第15講　伊勢湾の水質環境、千葉

テキスト・教材（参考文献含む）

なし。毎回の講義で資料を配布する。

担当者から一言

話題を提供していただく講師の皆様に感謝する気持ちを持って講義に参加してください。本講義は公開授業のため、一般市民の方々も聴講されます。履修する人は、マナーに気を付けてください。

環境エネルギー論

実務

科目ナンバリング	3年次	2単位
ENE3001	後学期	選　択

森　康則

授業の位置づけ

地域の持続的発展のために貢献できる。
環境に関する専門知識・技術を習得し、環境の個々の問題に取り組むことができる。

授業のねらい

現代の生活になくてはならないエネルギーの原理や歴史を学び、身のまわりにあるエネルギーの価値を再確認するとともに、環境に対する負荷について理解を深めます。また、将来的な利用拡大が求められている新エネルギーや自然エネルギーについても、その原理や課題について学びます。講義の最後には、将来的にどのようなエネルギーパラダイムが理想形として望まれるか、自分なりの意見を持てることを目指します。

到達目標

・エネルギーとは何か、その歴史的背景を理解する
・エネルギー技術の原理について理解する
・エネルギー開発による環境負荷について理解する
・自然エネルギー、新エネルギーとは何かを理解する
・将来的なエネルギー問題について関心を持つことができる

成績評価方法・課題・フィードバックの方法

（１）各回の講義の小テスト
　　５点×15回＝75点
　（遅刻、早退は減点の対象になります）
（２）定期試験　25点
　　計100点
必要に応じてフィードバックします。

事前・事後学習

各講義の最後に、次週の講義内容に関連した課題を出題しますので、予習としてその課題を取り組み（90分）、講義終了後は、講義内容を復習として整理してください（90分）。各講義の小テストや定期試験は、講義内容あるいはそれに関連する内容から出題します。

授 業 計 画

第１講　ガイダンス・エネルギーとは
第２講　エネルギー論の基礎
第３講　エネルギーの歴史
第４講　火力発電１
第５講　火力発電２
第６講　原子力発電１
第７講　原子力発電２
第８講　自然エネルギー１
第９講　自然エネルギー２
第10講　エネルギーと地球環境１
第11講　エネルギーと地球環境２
第12講　新エネルギー１
第13講　新エネルギー１
第14講　将来のエネルギー問題１
第15講　将来のエネルギー問題２
第15講　まとめ

テキスト・教材（参考文献含む）

特になし。

担当者から一言

毎回の講義のはじめには、予習課題と小テストの答え合わせを行い、その際には受講者に発言を求めます。また、状況によってはグループワークの実施も検討します。いずれにしても、講義の中で受講者に発言を求める場面が多々ありますので、受講者には積極的な姿勢を期待します。

資源循環論

実務

村田静昭

科目ナンバリング	3年次	2単位
ENE3002	後学期	選　択

授業のねらい

社会を永続的に維持発展させていくために資源利用・資源循環・物質収支について地域レベルから地球規模に至るさまざまな範囲で学ぶことにより、地域（自身の生活圏）におけるSDGs活動の目標設定とその達成に深く関わっている持続的な資源の活用について理解し、地域を持続的に発展させていくための知識を得ます。

到達目標

我々の生活・社会を支えている資源とその品質について理解する。
資源の獲得・加工・貯蔵・使用・再生・廃棄という一連の流れと問題を理解する。
物質収支・物質循環の基礎について理解する。
SDGsの目標から資源利用と物質循環が関わる問題を整理する。
地域における資源利用の改善と資源再生活動への取り組みについて理解する。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法

授業中での口頭による課題発表とレポート提出　50%
定期試験　50%
必要に応じてフィードバックします。

事前・事後学習

授業では皆さんとのディスカッションをできるだけ取り入れていきます。授業中に課題を出しますので次回の授業にはレポートとして提出してください（60分）。一部の学生さんには授業中に内容を発表してもらいディスカッションします。この授業では日々の生活そのものも教材になりますから、授業中に扱った内容だけでなく関連するニュースや話題にも注意を払い考察を深めそれを自分の言葉で説明できるように心がけて下さい（毎日20分程度）。

授業の位置づけ

地域の持続的発展のために貢献できる。
環境に関する専門知識・技術を習得し、環境の個々の問題に取り組ことができる。

授業計画

第１講　ガイダンス・資源とは何か
第２講　基幹資源の獲得
第３講　資源の品質
第４講　資源の加工・貯蔵
第５講　資源の利用・廃棄
第６講　自然界における物質循環
第７講　資源利用と環境負荷
第８講　再生可能資源と問題
第９講　再生可能資源利用の限界
第10講　資源有効活用に向けた身近な取り組み
第11講　３Ｒ（Reduce・Reuse・Recycle）の紹介
第12講　３Ｒに関連する科学技術的問題
第13講　３Ｒに関連する社会的問題
第14講　関連するSDGsの目標と取り組み
第15講　まとめ
定期試験

テキスト・教材（参考文献含む）

テキストはありません。参考となる文献・資料・図書については都度紹介します。

担当者から一言

SDGsに取り組んでいく上での重要なベースとなる授業です。高等学校の理科（化学・物理・生物）の基本的な内容が出てきますが、分からないことがあったらその場で質問するようにしてください。

地理情報システム論

井岡幹博

科目ナンバリング	3年次	2単位
ENE3003	後学期	選　択

授業のねらい

地理空間情報の基本的な概念を修得し、データの入手方法、生成方法、分析手法、結果の表示方法などを学びます。セミナー等で取得している環境情報が、地理情報システムで解析をすると、どのような事柄が見えてくるのかを修得します。

到達目標

セミナー等で取得した環境情報を地理情報システムで解析できる。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法

提出物100%。毎回、成果物を印刷物、もしくはファイルとして提出してもらいます。提出物は、コメントを付して返却します。

事前・事後学習

授業内で提示するプリント類の熟読（予習90分）。毎回課される課題作成（復習90分）。

授業の位置づけ

地域の持続的発展のために貢献できる。
環境に関する専門知識・技術を習得し、環境の個々の問題に取り組むことができる。

授業計画

第１講　ガイダンス、地理空間情報の概要
第２講　測地系と座標系
第３講　基盤地図情報
第４講　国勢調査データ
第５講　標準地域メッシュ統計
第６講　ArcGISによる実例解析
第７講　国土数値情報
第８講　地図画像データ
第９講　座標変換と空間データの結合
第10講　地図データと属性データ
第11講　属性検索
第12講　空間データの抽出とオーバーレイ
第13講　実例解析　農業の空間分析
第14講　実例解析　衛星画像の分析
第15講　実例解析　ハンディGPSを用いたデータ作成
授業はコンピュータによる演習と座学により進めます。

テキスト・教材（参考文献含む）

プリント配布。

担当者から一言

地理空間情報の扱いは、いままでの点での環境情報収集とは違って、巨視的、空間的な見方を与えてくれます。データ解析を楽しんでください。

環境倫理学

科目ナンバリング	1年次	2単位
EEP2002	前学期	選　択

吉山青翔

授業のねらい
環境倫理学は応用倫理学の一分野であります。
本講義では、一般的な人文科学などの知識をベースにして「環境・文化・人間」を軸に、人間と環境、とくに自然環境とのあるべき関係をさぐります。

到達目標
近代的な環境思想の主な内容を把握し、環境問題の見方と環境問題の解決に関する思想的な基礎を据えることができるでしょう。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法
中間テスト(30点)　定期試験(70点)により総合評価。
必要に応じてフィードバックします。

事前・事後学習
授業前に1時間半ほどをかけて指定された資料を必ず読み、予習しておき、授業後にも1時間半ほどをかけて配布された資料とノートを必ず確認し、復習してください。

授業の位置づけ
環境に関する専門知識・技術を習得し、環境の個々の問題に取り組むことができる。
専門技術者に求められる倫理観を身につけてくる。

授業計画
第1講　ガイダンス
第2講　「自然」と「環境」概念の哲学的構造
第3講　「自然保護」に対する「保全」と「保存」の相違点
第4講　ソローの全体論的自然保護思想
第5講　ジョン・ミューアの自然保護思想と自然保護運動の開始
第6講　ギフォード・ピンチョーの自然保護思想及びジョン・ミューアとの論争
第7講　エルンスト・ヘッケルのエコロジー思想
第8講　エレン・リチャーズのエコロジー思想と環境科学の誕生
第9講　エレン・リチャーズ思想とエレンスト・ヘッケル思想の比較
第10講　アルド・レオポルドの「土地の倫理」の思想
第11講　クリストファー・ストーンの「自然の権利」の思想
第12講　ピンター・シンガーの「動物の解放」の思想
第13講　レイチェル・カーソンの環境思想
第14講　「人間環境」に関する「保全」の思想
第15講　総括
定期試験

テキスト・教材（参考文献含む）
テキスト　とくになし。
参考文献　ロデリック＝ナッシュ著、松野弘訳『自然の権利　環境倫理の文明史』（ちくま書房）

担当者から一言
授業中、必要時に資料を配布しますが、パワーポイントを使わず、板書の量が多いので、ノートを取らない者はこの講義に不向きです。

海洋学

科目ナンバリング	1年次	2単位
EEE2001	後学期	選　択

千葉　賢

授業のねらい
最初に、地球規模の大気と海洋の現象を物理的な観点から学ぶ。それに基づき、地球温暖化の仕組みや海流の発生原理などを学ぶ。続いて、沿岸海洋の物理として、潮汐や潮汐流の発生原理を学ぶ。次に水中光の物理に触れながら、それに左右される基礎生産と、基礎生産を底辺とした海洋生態系の仕組みと変動機構について学ぶ。海洋生物群については、分類学的な観点から理解を進め、その生態と生活史などを学ぶ。また、その応用として沿岸環境学についても学び、地域の持続的発展に繋がる伊勢湾の現状とその将来について考える。

到達目標
大気科学と海洋学の基礎知識を得て、地球温暖化、魚類資源の減少などの地球規模の環境問題とともに、沿岸域の水質などの環境問題などが理解できるようになる。2年次配当の「海洋調査法」を履修するために必要な知識を得る。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法
講義毎のレポート(40%)と期末試験(60%)。毎週小レポートを課すので少し大変だが、その積み重ねで知識がつく。期末試験もレポートの問題の中から主に出題する。積極的にレポートに取り組んだ者は加点する。レポートは採点して返却する。

事前・事後学習
シラバスを読み、授業週の翌週の内容を把握し、教科書やネットで予備知識を得る(90分)。授業を聴いたら、内容を復習(90分)し、理解できなかった部分を教科書やネットで調べる。

授業の位置づけ
地域の持続的発展のために貢献できる。
環境に関する専門知識・技術を習得し、環境の個々の問題に取り組ことができる。

授業計画
第1講　ガイダンス、海洋学とは
第2講　海洋の大きさと海水の物性
第3講　大気と海洋(大気の熱力学)
第4講　大気と海洋(大気中の水循環と温室効果)
第5講　大気と海洋(コリオリ力とエクマン輸送)
第6講　大気と海洋(風成循環と海流)
第7講　潮汐と潮汐流
第8講　水中の光環境と基礎生産①
第9講　水中の光環境と基礎生産②
第10講　海洋生態系と栄養段階①
第11講　海洋生態系と栄養段階②
第12講　海洋生物の分類と特徴(海藻、海草)
第13講　海洋生物の分類と特徴(刺胞・環形動物)
第14講　海洋生物の分類と特徴(節足・軟体動物)
第15講　海洋生物の分類と特徴(硬骨・軟骨魚類)

テキスト・教材（参考文献含む）
担当教員が作成した教材を配布する。
【参考文献】
横瀬久芳、「はじめて学ぶ海洋学」、朝倉書店、1,800円＋税
日本生態学会編、「海洋生態学」、共立出版、3,400円＋税

担当者から一言
地球温暖化や海洋プラスチック汚染などの地球規模の環境問題を理解する上で、海洋学の知識は必須です。2年次配当の「海洋調査法」で役立つ知識を教えるので、履修予定の人は、この科目を先に学んでください。

生物分類学

科目ナンバリング	2年次	2単位
EEE2002	後学期	選　択

大八木麻希

授業のねらい
分類学は17世紀ごろに始まり、博物学が盛んになる18世紀にはリンネによって整理された。日本の動植物はシーボルトによって西洋に広められた。近年では分子生物学によって、分類学の新たな知見が得られてきた。これまでの分類学の歴史を理解するとともに、生物同定の技術を確立する。

到達目標
本講義では、生物分類について生物学・博物学の知識をふまえて学ぶ。そこで、生き物の分類の仕方や名づけについて、体系的に理解し、技術として獲得することを目標とする。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法
小レポート30%、試験orレポート70%
小レポートは毎回添削後、本人へ返却します。

事前・事後学習
授業計画に示した各回のテーマを、参考文献などで予習して、重点、問題点等を検討した上で授業に臨むことを推奨する（90分）。また、関連するニュースや書籍に日頃から関心を持ち、講義の理解に役立ててもらいたい。さらに、講義後には復習し講義内容の定着化を心掛けること（90分）。

授業の位置づけ
地域の持続的発展のために貢献できる。
環境に関する専門知識・技術を習得し、環境の個々の問題に取り組むことができる。

授業計画
第１講　ガイダンス
第２講　分類学の研究史
第３講　博物学の研究史
第４講　生物世界の分類体系
第５講　生物世界の階層構造
第６講　生物学の種の概念
第７講　生物標準和名
第８講　国際命名規約
第９講　外来生物との交雑
第10講　学名とタイプ標本
第11講　種の構造と多様性
第12講　無セキツイ動物
第13講　新種の発見と記載
第14講　進化学との関連性
第15講　分子生物学との関連性
定期試験
簡易な実習後、添削し返却を行うため、アクティブラーニング要素を含む科目である。

テキスト・教材（参考文献含む）
テキストは無し。
参考文献
馬渡峻輔（2008）動物分類学30講、朝倉書店、3,400円＋税

担当者から一言
普段の身の回りの何気ない生物にもそれぞれ名づけが行われてきた過去の歴史や研究者の情熱を感じ取って、皆さんが学ぶ意識の向上に役立てることができればと考えています。

海洋調査法

科目ナンバリング	2年次	2単位
EEE2003	前学期	選　択

千葉　賢

授業のねらい
三重大学の勢水丸を借りて、1泊2日で伊勢湾や周辺の海域に出て、水質・底質・生物調査などを行う。そのような実習と事前事後授業を通じて、伊勢湾の環境問題についての知識を増やし、伊勢湾の環境保全の大切さを理解できるようにする。海洋調査法の基本を体験し、その後のゼミ活動や他授業で役立てられるようにします。船内で規律ある団体生活（ラジオ体操、船内清掃、配膳皿洗い等）を体験し、班分けで活動することで、社会人基礎力も養成する。

到達目標
伊勢湾の環境問題を理解できるようになる。海洋調査とデータ整理の基本技術を知る。観測内容を報告書にまとめる。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法
実習への取組み姿勢（70%）と実習報告書（30%）により評価する。実習に参加しない者、実習報告書を提出しない者には単位を与えない。事前事後授業についても、特別の事情がある場合を除いて、出席を必須とする。実習なのでフィードバックは現場で行う。

事前・事後学習
事前授業資料を授業に先立ち配布するので予習すること（180分）。事前授業では反転授業の形式を採用して、学生に予習したことを発表させるので、予習しないと困ることになる。

授業の位置づけ
環境に関する専門知識・技術を習得し、環境の個々の問題に取り組ことができる。

授業計画
第１講　ガイダンス、伊勢湾調査実習の内容説明
第２講　伊勢湾の地形・流動・水質の特徴（学内教室・事前授業）①
第３講　伊勢湾の地形・流動・水質の特徴（学内教室・事前授業）②
第４講　伊勢湾の地形・流動・水質の特徴（学内教室・事前授業）③
第５講　実習オリエンテーション（実習開会式含む）（勢水丸船内・実習１日目）
第６講　海洋調査実習（勢水丸船内・実習１日目）
第７講　海洋調査実習（船内実習１日目）①
第８講　海洋調査実習（船内実習１日目）②
第９講　海洋調査実習（船内実習１日目）③
第10講　観測データ分析（船内実習１日目）
第11講　海洋調査実習（船内清掃など）（船内実習２日目）
第12講　海洋調査実習（実習終了式含む）（船内実習２日目）
第13講　実習報告書の書き方（学内教室・事後授業）①
第14講　実習報告書の書き方（学内教室・事後授業）②
第15講　実習報告書の書き方（学内教室・事後授業）③

テキスト・教材（参考文献含む）
なし。資料を配布する。

担当者から一言
伊勢湾の水産資源が減少し、コウナゴは5年連続で禁漁になりました。伊勢湾の環境に異変が起きています。海の環境問題を知りたい人、海洋調査の手法を学びたい人は履修してください。1年次配当の「海洋学」を先に履修することを強く勧めます。

環境実験・調査ａ

廣住豊一・大八木麻希

科目ナンバリング	２年次	２単位
EEE2004	前学期	選　択

授業のねらい

この授業では、大気･水質の調査･分析に関する理論と測定方法を学び、分析結果を通して環境問題について考える。

到達目標

調査・実験を実施する上での安全管理の考え方、基本的な実験器具の取り扱いや試薬の調整方法について身につける。調査結果をまとめ、正しく報告することができる。

成績評価方法･課題･フィードバックの方法

それぞれの実験における実施態度･習熟度、分析結果をまとめたレポートなどをもとに総合的に評価する（100％）。提出されたレポートは添削し、返却する。

事前・事後学習

シラバスの授業計画をよく確認し、関連する内容を予習する（90分）。実験内容をよく見直し、それぞれの実験で配布した資料で復習する(90分)。「環境化学」･「環境化学実験」を履修していることが望ましい。

授業の位置づけ

専門技術者に求められる倫理観を身につけている。
地域の持続的発展のために貢献できる。
環境に関する専門知識・技術を習得し、環境の個々の問題に取り組ことができる。

授 業 計 画

第１講　ガイダンス　安全指導・レポート書き方・実験器具の使い方(廣住)
第２講　水質①　物理指標　水温･pH(大八木)
第３講　水質②　物理指標　浮遊懸濁物質(大八木)
第４講　水質③　生物指標　BOD(大八木)
第５講　水質④　化学指標　窒素(大八木)
第６講　水質⑤　化学指標　リン(大八木)
第７講　水質⑥　化学指標　COD(大八木)
第８講　水質⑦　分析演習　塩水と砂糖水の水質比較(大八木)
第９講　大気①　気象条件　気温と湿度(廣住)
第10講　大気②　気象条件　雨量と酸性雨(廣住)
第11講　大気③　気象条件　風(廣住)
第12講　大気④　生活環境　花粉･粉じん･PM2.5(廣住)
第13講　大気⑤　生活環境　照度(廣住)
第14講　大気⑥　生活環境　騒音(廣住)
第15講　大気⑦　生活環境　不快指数と暑さ指数(廣住)
全体を通してアクティブ･ラーニングの要素が含まれる。

テキスト・教材（参考文献含む）

なし。各講の講義内容に関連した資料を配布することがある。

担当者から一言

実験室での分析ではささいな油断や不注意がけがや事故につながります。細心の注意をもって調査・実験に臨んでください。白衣を必ず着用してください。

陸水学

大八木麻希

科目ナンバリング	２年次	２単位
EEE3001	後学期	選　択

授業のねらい

陸水学は、内陸部に存在する陸水（湖沼、河川、ダム湖、河口域、地下水、湿地、雪氷など）に関する総合科学である。日本は古来から水資源が豊かな国であり、恵まれた水環境の中で歴史を刻んできた。しかし、高度経済成長期には公害問題、80年代には富栄養化問題、そして現在ではダム建設の必要性の有無が問われているなど水環境と人との関わりの中で、さまざまな現状と直面している。そこで、学問的な自然科学である陸水学を通じて、理解を深めていきたい。

到達目標

本講義では、湖沼や河川の物質循環を理解するとともに、水域環境の現状と問題点を整理し、環境保全・環境再生や復元のための基礎理論や技術を学ぶことを目標とする。

成績評価方法･課題･フィードバックの方法

小レポート　30％　レポート　70％
小レポートについては、毎回採点し返却する。

事前・事後学習

授業計画に示した各回のテーマを、参考文献などで予習して、重点、問題点等を検討した上で授業に臨むことを推奨する（90分）。また、関連するニュースや書籍に日頃から関心を持ち、講義の理解に役立ててもらいたい。さらに、講義後には復習し講義内容の定着化を心掛けること(90分)。

授業の位置づけ

専門技術者に求められる倫理観を身につけている。
地域の持続的発展のために貢献できる。
環境に関する専門知識・技術を習得し、環境の個々の問題に取り組むことができる。

授 業 計 画

第１講　ガイダンス、陸水学の歴史
第２講　陸水の環境科学
第３講　河川管理
第４講　河川水質
第５講　河川生態系
第６講　湖沼成因
第７講　湖沼分類
第８講　湖沼の理化学的性質
第９講　古陸水学的手法
第10講　水田
第11講　ダム湖
第12講　地下水
第13講　都市の水処理
第14講　陸水域の災害
第15講　陸水環境の保全と管理
レポート試験
簡易な実習後、添削し返却を行うため、アクティブラーニング要素を含む科目である。

テキスト・教材（参考文献含む）

テキスト
松本嘉孝ほか、身近な水の環境科学(第2版)、朝倉書店、2022、3,000円
参考文献
西條八束･三田村緒佐武「新編湖沼調査法」講談社(2016)3,400円

担当者から一言

各講義では計算や簡易な実習を行うので積極的な学生の履修を望む。

森林学

科目ナンバリング	3年次	2単位
EEE3002	後学期	選　択

田中伊知郎

授業の位置づけ

環境に関する専門知識・技術を習得し、環境の個々の問題に取り組むことができる。

授業のねらい

日本の国土の7割を占める森林がどのような特徴を持ち、環境保全にどのように関連するかを明らかにしていきます。次に、経済的な問題を説明します。

到達目標

日本の環境保全を考える上で、土台となる森林に関する知識を養うこと、人間とのかかわり（森林からどのように財を生み出すかを含む）を生物学の視点から明らかにすることをこの講義の到達目標とします。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法

講義の各回の終わりに練習問題（実践課題）をやります。講義中の課題は、コメントして合格するまでやり直してもらいます。
実践課題60%　定期試験　40%

事前・事後学習

授業当日に講義内容のノートを見返して、メモした疑問点を調べてください（60分）。２・３日後に、ノートを再度読んで（30分）、その次に当たることを考えてください（30分）。講義の前日に、ノートを読み返して、ノートの空白に書き込み整理してください（60分）。

授 業 計 画

第１講　ガイダンス・四日市本来の自然林と人工林：
　　大学周辺の森の見学（フィールドワーク）
第２講　森林生態系の基礎：植物の光合成
第３講　植物同士の競争と遷移
第４講　西日本の極相：照葉樹林（mast fruitingの確認のフィールドワーク）
第５講　東日本の極相：夏緑樹林（落葉広葉樹林）
第６講　二次林：どんぐり食糧から薪炭利用へ
第７講　貧栄養土壌と松林（二次林のなれの果て）
第８講　人工林：技術発展による木材利用の変化（イケアなどの集成材）
第９講　スギ植林の問題点（挿し木杉植林について意見を述べる実習）
第10講　森林（ブナ極相林）における動物相
第11講　獣害（人を食い殺すツキノワグマやオオカミ）
第12講　コアエリア計画（積雪地のブナ林で）
第13講　ニホンジカ管理計画（非積雪地のブナ林で）
第14講　ニホンジカの利用：東京におけるジビエ料理の進展
第15講　持続可能な森林に向けて：天然更新
定期試験　持ち込み不可

テキスト・教材（参考文献含む）

なし。

担当者から一言

できるだけ日常的な言葉で説明します。「生態学」（前学期）の履修後だとわかりやすくなります。

土壌学

科目ナンバリング	3年次	2単位
EEE3003	前学期	選　択

廣住豊一

授業の位置づけ

専門技術者に求められる倫理観を身につけている。
地域の持続的発展のために貢献できる。
環境に関する専門知識・技術を習得し、環境の個々の問題に取り組ことができる。

授業のねらい

土壌は、農業・林業などによる生産機能だけでなく、環境変化に対する緩衝機能や環境汚染に対する浄化機能など、有益で重要なさまざまな機能を持っている。この講義では、土壌の基本的な性質や機能を学ぶだけでなく、土壌が地球環境や生態系のなかでどのような地位を占め、どのような役割を果たしているかを学ぶ。また、三重県の土壌についても紹介する。

到達目標

土壌の成り立ちや構造、土壌のもつ性質や機能を理解する。土壌を地球にある有限な資源のひとつとして捉え、地球環境のなかで土壌が果たす役割について考えることができる。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法

毎回の授業内で行う確認テストの合計点と定期試験のどちらか低い方を最終評定とする。確認テストは次の講義までに添削して返却する。正当な理由なく欠席した場合は１回ごとに最終評定を1段階下げる。遅刻・早退・私語等には減点等の処置を講じる。

事前・事後学習

シラバスの授業計画をよく確認し、関連する内容を参考文献などで予習する（90分）。確認テストで添削された内容をよく見直し、各回の講義で配布した資料で復習する（90分）。「化学概論」・「生物学概論」・「地学概論」・「環境化学」・「生態学」を履修していることが望ましい。

授 業 計 画

第１講　ガイダンス　土壌とは何か？
（土壌の成り立ち）
第２講　土壌の生成　――月に土壌はあるか？
第３講　土壌の分類　――世界の土、日本の土、三重の土
（土壌のつくり）
第４講　土壌の構造　――土は何でできている？
第５講　土壌生物と土壌有機物　――土のなかの生き物たち
第６講　土壌のpHと温度――住み心地はいかが？
（土壌のはたらき）
第７講　土壌の保水性　――水もちの良さはどう決まる？
第８講　土壌の排水性　――水はけのよい土わるい土
第９講　土壌の保肥性　――土はどうやって栄養を蓄える？
（土壌の種類と特徴）
第10講　いろいろな土壌①　森林の土壌
第11講　いろいろな土壌②　水田の土壌
第12講　いろいろな土壌③　畑地の土壌
第13講　いろいろな土壌④　施設・草地・樹園地の土壌
（環境と土壌）
第14講　土壌の浄化機能と土壌汚染　――土壌を守る
第15講　土壌の劣化と保全　――土壌を育む
定期試験

テキスト・教材（参考文献含む）

なし。各講の講義内容に関連した書き込み式の資料を配布する。
参考文献：松中照夫著「土壌学の基礎」農文協（2004年）、久馬一剛編著「最新土壌学」朝倉書店（1997年）、安西徹郎・犬伏和之編「土壌学概論」朝倉書店（2001年）などを推奨する。

担当者から一言

私たちの足もとにある土壌は地球の歴史とともに育まれてきました。長い時間の流れに想いを馳せながら、これから土壌とどう付き合っていくのか考えてみてください。なお、本科目は三重創生ファンタジスタ（ベーシック）資格の認定対象科目です。

食糧生産学

廣住豊一

科目ナンバリング	1年次	2単位
EFE2001	後学期	選　択

授業のねらい

世界人口の増加による食糧需要の増大、気候変動やバイオエネルギーとの競合などによる食糧供給の不安定化、生産にともなう環境の汚染や破壊など食糧への関心が高くなっている。この講義では、農業・水産業・畜産業などの食糧生産の基礎を学ぶ。

到達目標

世界の食糧事情と食糧生産システムについて理解する。農業・水産業・畜産業など食糧生産に関する産業の基礎を理解する。食糧生産に関する環境問題について考えることができる。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法

毎回の授業内で行う確認テストの合計点と定期試験のどちらか低い方を最終評定とする。確認テストは次の講義までに添削して返却する。正当な理由なく欠席した場合は１回ごとに最終評定を１段階下げる。遅刻・早退・私語等には減点等の処置を講じる。

事前・事後学習

シラバスの授業計画をよく確認し、関連する内容を参考文献などで予習する（90分）。確認テストで添削された内容をよく見直し、各回の講義で配布した資料で復習する（90分）。

授業の位置づけ

専門技術者に求められる倫理観を身につけている。
地域の持続的発展のために貢献できる。
環境に関する専門知識・技術を習得し、環境の個々の問題に取り組ことができる。

授業計画

第１講　ガイダンス、現在の食糧事情と生産体系
第２講　農業①　農耕の起源と作物
第３講　農業②　日本の農業と作物生産の特徴
第４講　農業③　作物生育と栽培環境・栽培管理
第５講　農業④　稲作と水田農業
第６講　農業⑤　野菜・果樹・花の生産
第７講　農業⑥　農業分野の新しい技術
第８講　農業⑦　農業と環境問題
第９講　水産業①　日本の漁業の歴史と特徴
第10講　水産業②　漁業の仕事と制度
第11講　水産業③　養殖と栽培漁業
第12講　水産業④　海洋の資源と環境の保全
第13講　畜産業①　畜産業と畜産物
第14講　畜産業②　世界と日本の畜産業
第15講　これからの食糧生産
定期試験

テキスト・教材（参考文献含む）

なし。各講の講義内容に関連した書き込み式の資料を配布する。
参考文献：八木宏典監修「知識ゼロからの現代農業入門」（2018年）、濱田武士監修「知識ゼロからの現代漁業入門」（2017年）、八木宏典監修「知識ゼロからの畜産入門」（2018年）などを推奨する。

担当者から一言

毎日の食卓に並ぶ料理の食材は、化学・物理学・生物学・地球科学の科学的知識と現場で培われた実践的経験を駆使して栽培・飼育・採取・捕獲されたものです。普段から、ひとつひとつの食材をよく観察し、どのようにして食卓に並んだのか考えながら、感謝しておいしくいただきましょう。

食品微生物学

大八木麻希

科目ナンバリング	2年次	2単位
EFE2002	前学期	選　択

授業のねらい

人の生活に欠かせない「食」。お酒やしょうゆのように食品を作り出す役割、感染症や食中毒を引き起こす健康を損なう存在、抗生物質など健康に役立つ存在など様功罪両面を持つ微生物を知るとともに、基礎事項について学ぶ。

到達目標

本講義では、食品微生物について、多角的に捉え、理解を深めていくことを目的とする。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法

小レポート30%、定期試験70%
毎回講義の終わりに小レポートを課し、添削後次回返却し講評を行う。

事前・事後学習

授業計画に示した各回のテーマを、参考文献などで予習して、重点、問題点等を検討した上で授業に臨むことを推奨する（90分）。また、関連するニュースや書籍に日頃から関心を持ち、講義の理解に役立ててもらいたい。さらに、講義後には復習し講義内容の定着化を心掛けること（90分）。

授業の位置づけ

専門技術者に求められる倫理観を身につけている。
環境に関する専門知識・技術を習得し、環境の個々の問題に取り組むことができる。

授業計画

第１回　ガイダンス、微生物学の歴史
第２回　微生物と病気
第３回　微生物の取り扱い法
第４回　微生物の種類と分類
第５回　微生物の構造
第６回　微生物の栄養と増殖
第７回　微生物の代謝
第８回　微生物の増殖制御と殺菌
第９回　微生物と生鮮食品の腐敗
第10回　微生物と加工食品の腐敗
第11回　微生物と酒類製造
第12回　微生物と調味料製造
第13回　予測微生物学
第14回　食品に関する微生物試験
第15回　微生物とプロバイオティクス
定期試験

テキスト・教材（参考文献含む）

テキスト指定無し、毎回関連プリント配布
予習復習用
村田容常・渋井達郎「食品微生物学」東京化学同人（2015）2,700円

担当者から一言

ノートテイクのみでは試験通過は難しいため、理解を深めるため積極的な姿勢で取り組む学生を望む。

食品衛生学

廣住豊一

科目ナンバリング	2年次	2単位
EFE2003	後学期	選　択

授業のねらい

「食」は人間の健康的な生活を支えるもっとも重要な要素のひとつである。その一方で、食中毒や食品の汚染など食に関するさまざまな問題が生じている。この講義では食品の安全性を守るために必要な食品衛生の基礎を学ぶ。

到達目標

食品の変質や食中毒の発生メカニズムを理解できる。有害物質や食品添加物、残留農薬などによる食品への影響を理解できる。食品衛生管理を行うための法律やシステムを理解できる。

成績評価方法･課題･フィードバックの方法

毎回の授業内で行う確認テストの合計点と定期試験のどちらか低い方を最終評定とする。確認テストは次の講義までに添削して返却する。正当な理由なく欠席した場合は１回ごとに最終評定を１段階下げる。遅刻･早退･私語等には減点等の処置を講じる。

事前・事後学習

シラバスの授業計画をよく確認し、関連する内容を参考文献などで予習する（90分）。確認テストで添削された内容をよく見直し、各回の講義で配布した資料で復習する(90分)。「化学概論」･「環境化学」･「食品微生物学」を履修していることが望ましい。「環境実験・調査ｂ」の履修を推奨する。

授業の位置づけ

専門技術者に求められる倫理観を身につけている。
地域の持続的発展のために貢献できる。
環境に関する専門知識・技術を習得し、環境の個々の問題に取り組ことができる。

授 業 計 画

第１講　ガイダンス、食品の安全性と食品衛生
第２講　食の安全を支える法規と行政
第３講　食品と微生物
第４講　食品の変質①　腐敗と化学的変質
第５講　食品の変質②　変質の防止
第６講　食中毒①　食中毒の概要と発生状況
第７講　食中毒②　微生物による食中毒
第８講　食中毒③　自然毒･化学物質による食中毒
第９講　有害物質による食品の汚染
第10講　食品添加物①　食品添加物の概要と安全性評価
第11講　食品添加物②　いろいろな食品添加物
第12講　残留農薬と動物用医薬品
第13講　アレルギー物質と遺伝子組換え食品
第14講　総合的な食品衛生管理システム
第15講　食品表示制度
定期試験

テキスト・教材（参考文献含む）

なし。各講の講義内容に関連した書き込み式の資料を配布する。
参考文献：一戸正勝・西島基弘「図解　食品衛生学　第５版」講談社（2016年）、田崎達明「栄養科学イラストレイテッド　食品衛生学」羊土社(2017年)などを推奨する。

担当者から一言

私たちが普段食べている食品の安全性は、さまざまな科学的知識や技術、法律に支えられています。何気なく店頭で目にする食品も違った視点で眺めてみると、いろいろと面白いかもしれませんよ。

環境実験・調査ｂ

大八木麻希・廣住豊一

科目ナンバリング	2年次	2単位
EFE2004	後学期	選　択

授業のねらい

食生活は多くの分野と関連し、食の安全を担保するうえで重要な分野の一つである。基礎実験を中心として、食品の栄養特性及び機能性を理解する。

到達目標

本実験では、知識のみでなく自身で正しい判断をできる応用力を身に付けることを求める。

成績評価方法･課題･フィードバックの方法

実験レポート100％
毎回の実験レポートを提出し、再提出の場合は合格するまで提出すること。
必要に応じてフィードバックします。

事前・事後学習

授業計画に示した各回のテーマを、参考文献などで予習して、重点、問題点等を検討した上で授業に臨むことを推奨する（90分）。また、関連するニュースや書籍に日頃から関心を持ち、講義の理解に役立ててもらいたい。さらに、講義後には復習し講義内容の定着化を心掛けること(90分)。

授業の位置づけ

専門技術者に求められる倫理観を身につけている。
環境に関する専門知識・技術を習得し、環境の個々の問題に取り組ことができる。

授 業 計 画

第１回　ガイダンス、実験の心構え･準備
第２回　洗浄実験①　合成洗剤の働き(大八木)
第３回　食品の分析①　牛乳の鮮度(大八木)
第４回　食品の分析②　清涼飲料水の糖度･酸度測定(大八木)
第５回　食品の分析③　溶液の密度測定(大八木)
第６回　食品の分析④　鶏卵の鮮度(大八木)
第７回　食品の分析⑤　変性(熱･塩）（大八木)
第８回　食品の分析⑥　ミネラルウォーターの硬度測定(大八木)
第９回　農地の調査①　野外での農地調査(廣住)
第10回　農地の調査②　農地土壌のpHとEC(廣住)
第11回　農地の調査③　農地の養分分析(廣住)
第12回　農作物の分析①　果実の糖度と酸度(廣住)
第13回　農作物の分析②　野菜や果物の水分量と灰分(廣住)
第14回　農作物の分析③　果実の抗酸化成分(廣住)
第15回　農作物の分析④　果汁中のミネラル分(廣住)
実験を行い、アクティブ･ラーニングの要素が含まれる。

テキスト・教材（参考文献含む）

テキストなし。
参考文献
谷口亜樹子ほか「基礎から学ぶ食品科学実験テキスト」建帛社（2016）2,300円

担当者から一言

実験は危険を伴うため、慎重な行動と適切な判断が必要となります。責任を持ち取り組むこと。

メディア情報と文化

科目ナンバリング	1年次	2単位
EMI2001	後学期	分野必修

山本　伸

授業の位置づけ

メディアに関する専門知識・技術を習得して、独自の視点で情報発信できる。
多様な社会の価値観を理解し、自分の考えを的確に表現し、伝えることができる。

授業のねらい

そもそもメディア情報と文化とは何をどう学ぶための授業であるかを意識しながらすすめていく。アメリカメディアにおける日米関係を史実に基づいて探ることを基軸に、現代世界におけるメディア情報が文化とどのように連関しているのかをリアルタイムで探っていく。

到達目標

メディアと文化の連関性の確認と理解をベースにして、異文化理解に際してのさまざまな側面を探るとともに、メディア情報を専門とする者としての的確な知識、あるべき姿勢、豊かな感性を伸ばす。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法

平常点（積極的に授業を受けているか等の授業態度、確認テスト等）50%、レポート(期末試験)50%で総合的に判断します。
必要に応じてフィードバックします。

事前・事後学習

前週に出された課題(テキストの熟読／わからない用語の検索等)に90分、学習した箇所の復習(テキストのおさらい／ノート整理等)に90分をそれぞれかけて準備学習をしてください。

授業計画

第１講　ガイダンス、導入「メディア情報と文化の連関／異文化理解について」
第２講　メディアにおけるアメリカの人種問題①
第３講　メディアにおけるアメリカ黒人の文化②
第４講　メディアにおけるアメリカ黒人の歴史③
第５講　黒人メディアにおける日本人と人種①
第６講　黒人メディアにおける日本の社会②
第７講　黒人メディアにおける日本の文化③
第８講　黒人メディアにおける日本の歴史①「日露戦争」
第９講　黒人メディアにおける日本の歴史②「パリ講和会議と関東大震災」
第10講　黒人メディアにおける日本の歴史③「真珠湾攻撃」
第11講　黒人メディアにおける日本の歴史④「日本人収容キャンプ」
第12講　黒人メディアにおける日本の歴史⑤「原爆投下」
第13講　黒人メディアにおける現代日本①
第14講　黒人メディアにおける現代日本②
第15講　まとめ
定期試験
(授業内におけるフロアとの質疑のインターアクションをもってアクティブラーニングとする)

テキスト・教材（参考文献含む）

レジナルド・カーニー著　山本　伸訳『20世紀の日本人―アメリカ黒人の日本人観1900-1945』五月書房 1995年　定価:1,500円(税込)

担当者から一言

現代社会にはどのようなメディアがあるかを知っておくとともに、メディアによって情報が微妙に異なっていたり、ときに真反対だったりすることもあります。メディア情報に踊らされるのではなく、メディア情報を取捨選択し、自らの力で真理へと近づけるよう心がけることが大切です。

脳・音・光の科学Ⅰ　実務

科目ナンバリング	2年次	2単位
EMI2002	前学期	分野必修

前川督雄・関根辰夫

授業の位置づけ

メディアに関する専門知識・技術を習得して、独自の視点で情報発信できる。
環境に関する専門知識・技術を習得し、環境の個々の問題に取り組ことができる。

授業のねらい

私たちが見、聴き、感じ、話し、表現する諸活動について学びます。
感覚と脳は、生物が環境の様子をうかがい、環境に働きかける仕組みが進化するなかで育まれてきました。
(1)感覚と脳の仕組みと機能の概要を学びます。
(2)音楽を含めた環境音が現代の人間にどのような影響をもたらすか、更にこれ等を理解するのに必要な音についての物理的側面を学びます。
(3)光の物理、視覚の生理・心理の基礎を学びます。

到達目標

(1)見、聴き、感じ、話し、表現する諸活動の根源にある脳について、基礎的な知識を得る。
(2)音の基本的な性質を理解し、音楽の基礎的な知識を理解する。
(3)光と視覚に関わる学問・技術の基盤となる知識を得る。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法

次の配分で総合評価します。
受講態度、学習意欲、授業中の演習問題等(45%)
定期試験(55%)
授業中の演習問題等について、事後に解説を行います。

事前・事後学習

授業中に演習問題を出し、次回の最初に答え合わせをします。授業内容を復習する(90分)とともに、配布した資料を熟読し、不明点を自分で調べて理解を深めて下さい(90分)。
後期の「脳・音・光の科学Ⅱ」で継続した内容の授業を行います。

授業計画

第１講　ガイダンス／五感と脳
第２講　脳　脳の構造と機能(１)
第３講　脳　脳の構造と機能(２)
第４講　音　物理(１)　音とは？
第５講　音　物理(２)　音の三要素
第６講　音　物理(３)　伝播
第７講　音　物理(４)　反射
第８講　音　物理(５)　屈折
第９講　音　楽器と音(１)弦楽器
第10講　音　楽器と音(２)管楽器
第11講　光　物理　光とは？
第12講　光　生理(１)　眼球構造
第13講　光　生理(２)　視細胞／視神経
第14講　光　心理(１)　視力
第15講　光　心理(２)　色覚
定期試験
(内容・順序を必要に応じて変更することがあります)

テキスト・教材（参考文献含む）

テキストはありません。
講義中にプリントを配付します。
〈参考文献〉
山内昭雄・鮎川武二「感覚の地図帳」講談社(2001年)
池谷裕二監修「脳と心のしくみ」新星出版社(2016年)
仁科エミ・河合徳枝「音楽・情報・脳」(2013年)

担当者から一言

学際的・総合的な内容になります。復習をしながら授業を進めますが、続けて休むとついて行くのが大変になります。授業はインタラクティブで受講生と議論しながら進めますので積極的に議論に参加してください。参考となる音楽・映像の視聴を行います。

ソフトウエア論

科目ナンバリング	2年次	2単位
EMI2003	後学期	分野必修

池田幹男

授業の位置づけ

メディアに関する専門知識・技術を習得して、独自の視点で情報発信できる。

授業のねらい

コンピュータがどのように動作しているかについて学びます。ソフトウェアが中心となります。コンピュータのソフトウェアの種類と構成について学びます。また、コンピュータの中でデータがどのように処理されているかを学びます。

到達目標

コンピュータの基本的なソフトウェアの構成とマルチメディア処理の基礎を理解することを目標とします。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法

授業態度と小レポート(合計40%)と定期試験(60%)によって評価します。小レポートの疑問点は出来るだけ早く授業直後に説明します。

事前・事後学習

積み上げる内容なので疑問点は小レポートに書いて質問し、次の授業までに解決すること。(疑問点はすぐに教えます)
十分な復習(180分程度)を行ってから受講すること。

授業計画

第1講　ガイダンスとコンピュータの歴史
第2講　コンピュータが出来ること
第3講　低水準プログラミング言語
第4講　高水準プログラミング言語
第5講　OS①:OSの役割、デバイスドライバー
第6講　OS②:マルチタスク・マルチスレッド
第7講　OS③:仮想記憶
第8講　OS④:ファイルシステム
第9講　各種アプリケーション・ソフトウェア
第10講　文字符号化
第11講　アナログとデジタル
第12講　オーディオ処理
第13講　画像処理
第14講　動画処理
第15講　最近のトピック
定期試験

テキスト・教材（参考文献含む）

テキストはありませんが、教育支援システム(Moodle)に資料を呈示します。

担当者から一言

この授業には特に前提知識を必要としませんが、時間やデータ量などの物理的な単位に関して理解する必要があります。
コンピュータの原理は非常に単純なもので、表面的な使い方は著しく変化しても基礎は変わりません。

メディアの歴史　実務

科目ナンバリング	1年次	2単位
EMS2001	前学期	選　択

木村眞知子

授業の位置づけ

多様な社会の価値観を理解し、自分の考えを的確に表現し、伝えることができる。

授業のねらい

古くから私たちの暮らしはメディアと深く結びついています。メディアの変化が我々人類の政治や経済、社会、文化の変容にどうかかわってきたかを学び、これからのメディアと私たちの未来を展望します。また、これまでメディアが、何を、どのように語り、描いてきたかを振り返り、メディアの役割を考察するものとします。授業内容をより理解するために、ミニレポートや課題レポートを課します。

到達目標

メディアと人類の歴史を概観することでメディアが歴史に及ぼしてきた影響を知り、変化し続けるメディア環境を生きる私たちと今の社会を理解していきます。さらに、未来に向けてメディアのあるべき姿を展望できる想像力を養います。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法

成績評価は次の通りとします。
ミニレポート・課題レポート:50%
試験:50%
課題レポートについては、以降の講義で取り上げ対応していきます。

事前・事後学習

課題レポート等のためのリサーチ・分析も事前学習と認めます。その準備として「メディア」をより理解するために、毎日30分程度、ネットやテレビ、ラジオ、新聞、雑誌などで、今、どのような情報が発信されているかを調べ、分析すること。講義後には毎回30分程度、ノートやプリント等を確認し内容を振り返り理解を深めること。不明な点は次回の講義で質問できるように準備をすること。

授業計画

第1講　ガイダンス　　メディアの歴史を読み解く意味
第2講　メディア事始め――人類が生き抜くために
第3講　文字の登場――歴史の始まり
第4講　メディアの変化と歴史1印刷革命　宗教改革へ
第5講　メディアの変化と歴史2動く映像の登場
第6講　メディアの変化と歴史3電信・ラジオ　ヒットラー＆ルーズベルト
第7講　メディアの変化と歴史4ラジオ　玉音放送
第8講　メディアの変化と歴史5テレビ　ケネディvsニクソン～ベトナム戦争
第9講　メディアが描いたもの①高度経済成長と「豊かさ」
第10講　メディアの変化と歴史6テレビ新時代　ベルリンの壁崩壊
第11講　メディアが描いたもの②広告と暮らし
第12講　メディアの変化と歴史6SNS　アラブの春
第13講　メディアが描いたもの③災害とメディア――同時性とアーカイブ
第14講　変わりゆくメディア、変わりゆく世界
第15講　まとめ――課題試験に向けて

テキスト・教材（参考文献含む）

なし。テキストとなるプリントおよび資料を配付します。

担当者から一言

温故知新――歴史を学ぶことは単に史実を知ることでなく、歴史から今の私たちへのメッセージを受け取ることです。メディアの歴史からのメッセージを読み取り、今の私たちを、社会を、時代を深く理解し、未来を見つめる力を養いましょう。

脳・音・光の科学Ⅱ 実務	科目ナンバリング	2年次	2単位
前川督雄・関根辰夫	EMS2004	後学期	選　択

授業の位置づけ

メディアに関する専門知識・技術を習得して、独自の視点で情報発信できる。
環境に関する専門知識・技術を習得し、環境の個々の問題に取り組ことができる。

授業のねらい

「脳・音・光の科学I」に引き続き、私たちが見、聴き、感じ、話し、表現する諸活動について学びます。
感覚と脳は、生物が環境の様子をうかがい、環境に働きかける仕組みが進化するなかで育まれてきました。
（1）感覚・認識に限界があることを学びます。また、脳の諸機能について学び、心の動き・文化の役割・コミュニケーションの本質について理解を深めます。
（2）音の様々な心理的効果とその応用例について学びます。
（3）目に映る光と影から世界を把握する仕組みを学び、ものが見えるとはどういうことなのかを考えます。

到達目標

（1）見、聴き、感じ、話し、表現する諸活動の根源にある脳について、基礎的な知識を得る。
（2）音の基本的な性質を理解し、音楽の基礎的な知識を理解する。
（3）光と視覚に関わる学問・技術の基盤となる知識を得る。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法

次の配分で総合評価します。
受講態度、学習意欲、授業中の演習問題等（45％）
定期試験（55％）
授業中の演習問題等について、事後に解説を行います。

事前・事後学習

前期の「脳・音・光の科学I」を先行して履修していることが望ましい。
授業中に示す次回のキーワードを事前に調べて予習して下さい（90分）。
授業内容を復習するとともに、配布した資料を熟読し、不明点を自分で調べて理解を深めて下さい（90分）。

授 業 計 画

第１講　ガイダンス／脳　生き物と環境（１）
第２講　脳　生き物と環境（２）
第３講　脳　言語と意識
第４講　脳　記憶
第５講　脳　文化と社会
第６講　脳　生命活動の制御（１）
第７講　脳　生命活動の制御（２）
第８講　音　なぜ人間の耳は左右についているのか？
第９講　音　心理的効果と応用
第10講　音　音とエンジニア
第11講　光　心理（３）　輪郭／錯視
第12講　光　心理（４）　図と地／不思議絵
第13講　光　心理（５）　三次元知覚と立体視
第14講　光　心理（６）　その他関連分野
第15講　コミュニケーションとは？
定期試験
（内容・順序を変更することがあります）

テキスト・教材（参考文献含む）

テキストはありません。
講義中にプリントを配付します。
〈参考文献〉
山内昭雄・鮎川武二「感覚の地図帳」講談社（2001年）
池谷裕二監修「脳と心のしくみ」新星出版社（2016年）
仁科エミ・河合徳枝「音楽・情報・脳」（2013年）

担当者から一言

学際的・総合的な内容になります。復習をしながら授業を進めますが、続けて休むとついて行くのが大変になります。授業はインタラクティブで受講生と議論しながら進めますので積極的に議論に参加してください。参考となる音楽・映像の視聴を行います。

グラフィックデザイン概論 実務	科目ナンバリング	2年次	2単位
池上貴文	EMS2005	前学期	選　択

授業の位置づけ

メディアに関する専門知識・技術を習得して、独自の視点で情報発信できる。

授業のねらい

コミュニケーション手法のひとつであるグラフィックデザイン。その歴史を辿りながら社会的意義を探ります。そして、著名なデザイナーの作品や言葉から最新のグラフィックデザインまでを紐解き、思考方法や表現方法について解説します。
これまで何気なく見ていた様々なメディアに対し、問題意識や分析意識を持って接していくことになります。

到達目標

デザイン思考および、ビジュアルコミュニケーション能力のスキルアップ。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法

授業内の課題（100％）。
課題の講評によってフィードバックします。

事前・事後学習

世の中の全てのメディアが教材となります。常に意識を持って接してください。
必要に応じて資料の準備などを指示します。

授 業 計 画

1．ガイダンス
2．身の回りのデザインを見つけて分析する
3．デザインの種類
4．デザインの歴史
5．グラフィックデザインの役割、意義
6．写真表現
7．絵画表現
8．図形表現
9．文字、文章表現
10．レイアウト表現
11．グラフィックデザインをしてみる
12．デザイン思考１
13．デザイン思考２
14．デザイン思考３
15．ディスカッション

テキスト・教材（参考文献含む）

実習内容に応じて教員から参考資料、作成用紙などを配布します。

担当者から一言

デザインや美術に苦手意識がある方でも、好奇心があれば大丈夫です！

コミュニケーションデザイン論 実務	科目ナンバリング	3年次	2単位
木村眞知子	EMS3001	後学期	選　択

授業の位置づけ

多様な社会の価値観を理解し、自分の考えを的確に表現し、伝えることができる。
メディアに関する専門知識・技術を習得して、独自の視点で情報発信できる。

授業のねらい

近年、「広告」は単に何かを“広告”するだけでなく、コンサルタント業務から商品企画まで、その領域は拡大し「コミュニケーションデザイン」という捉え方が、今の「広告」に最も近いと言えます。
多くの企業が様々なメッセージを発信し続け、そのメッセージは時には私たちの暮らしや考え方にも影響を与えています。それを仕掛ける「コミュニケーションデザイン」の現場の様々な活動を実践的に学ぶことで、今という時代を、社会を見つめます。

到達目標

「広告」を本来の姿である「コミュニケーションデザイン」ととらえると、その企業について別の見方が出来るようになります。「コミュニケーションデザイン」という切り口で様々なモノを様々な角度から見つめる姿勢をもつことを目標とします。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法

成績評価は次の通りとします。
授業への取組み姿勢:30%
課題:30%
試験に代わる課題レポート:40%
レポートや課題や課題レポートについてはコメントと共に後日返却。

事前・事後学習

様々な課題について考察し発表してもらうことが多々あり、それへの取組みを事前学習とします。そのため、毎日30分以上、看板やポスター、CM、ちらしなど、身の回りの様々なコミュニケーションデザイン（広告）の作品に注目し、その傾向などの分析をすること。講義後には毎回30分程度、ノートやプリント等を確認し内容を振り返り理解を深めること。不明な点は次回の講義で質問できるように準備をすること。

授 業 計 画

第１講　ガイダンス　コミュニケーションデザインとは何か
第２講　広告の始まり・広告の役割
第３講　広告とコミュニケーション
第４講　広告と消費者
第５講　広告とマーケティング
第６講　コミュニケーションデザインの実践１――製品企画＆販促企画
第７講　コミュニケーションデザインの実践１――製品企画発表（プレゼンテーション）
第８講　ブランディング
第９講　コミュニケーションデザインの実践２――ブランド研究発表（プレゼンテーション）
第10講　企業メッセージ
第11講　コミュニケーションデザインの実践３――広告コピー発表（プレゼンテーション）
第12講　広告と政治
第13講　CMから今を考える――カンヌライオンズ＆ACC賞
第14講　広告表現とジェンダー
第15講　コミュニケーションデザイン――今日から明日へ　課題に向けて

テキスト・教材（参考文献含む）

なし。テキストとなるプリントおよび資料を配付します。

担当者から一言

コミュニケーションデザイン（広告）について、単に知識を得るのでなく、事例をもとにした様々な課題に取り組んでもらいます。
発信側、受信側の中間にある「コミュニケーションデザイン」、その立ち位置から自分の目で両者をしっかり見てください。今の日本、今の世界が見えてくるかもしれません。

次世代メディア社会	科目ナンバリング	3年次	2単位
前川督雄	EMS3002	前学期	選　択

授業の位置づけ

メディアに関する専門知識・技術を習得して、独自の視点で情報発信できる。
専門技術者に求められる倫理観を身につけている。

授業のねらい

メディアを造る人の心、作品を創る人の心を考える講義です。
現代日本人は様々なメディアの存在が不可欠な日常生活を送っています。次々と新しいメディア製品・サービスが発売され、作品群が発表されます。次に何が来ようとしているのか、時代の変遷に関わらず大切なことは何なのでしょうか。偉大な先人たちは何を求めて、何に努めていて、何を守っていたのでしょうか。次世代のメディア社会について、ユーザとして、観客・視聴者として、読者として、あるいはクリエイター・アーティストとして、よく考えましょう。

到達目標

一流のプロフェッショナルが持つクリエイティビティの有り様を知り、自分の次の一歩を考察する。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法

次の配分で総合評価します。
受講態度、学習意欲、小レポート等(40%)
定期試験(60%)
講義中に意見交換を行います。

事前・事後学習

毎回の講義で示す事例を振り返るとともに調べて（90分）、自分自身の課題にどう活かしていけるか考えて下さい(90分)。

前後して「メディア情報産業論」（３年次後期開講）とあわせて受講することで、より多面的な理解が得られるでしょう。

授 業 計 画

第１講　ガイダンス／講義の概要
第２講　映画制作現場
第３講　コンピュータグラフィックス
第４講　音楽の楽しみ方
第５講　ジョブズは世界を変えた
第６講　制作プロデューサー
第７講　アニメーション制作現場
第８講　サラウンド音響
第９講　炎と花火
第10講　メディアの発達要因
第11講　メディアアート
第12講　バーチャルリアリティ(VR)
第13講　庭づくり
第14講　近未来予測
第15講　まとめ
定期試験
(内容・順序を必要に応じて変更することがあります)

テキスト・教材（参考文献含む）

テキストはありません。
講義中に、参考にする映像・音楽を視聴します。

担当者から一言

「次世代メディア社会」では主に個人の視点から、「メディア情報産業論」（３年次後期開講）では主に社会的な見地からメディア情報を捉えます。

コンピュータ音楽論 実務	科目ナンバリング	3年次	2単位
柳澤翔士	EMS3003	前学期	選　択

授業の位置づけ

メディアに関する専門知識・技術を習得して、独自の視点で情報発信できる。

授業のねらい

コンピュータ技術の発展とパーソナルコンピュータの普及により、コンピュータは現代の音楽における作曲や録音・編集・演奏・配信のほとんどに関わっており、近年はコンピュータを使った個人レベルでのDTM(DeskTop Music)による音楽制作が盛んに行われています。
本講義では、コンピュータ音楽の歴史や技術面の理解、またコンピュータでの制作時において既に用意された音源だけでなく、自分の音を創作し、音作品や映像作品等に活かせる知識と技術について、座学と実習で学びます。

到達目標

コンピュータを利用した音楽制作の歴史、作品制作のための技術や技法を、作品鑑賞や座学と実習の中で理解し、自分の音楽作品や映像作品等に活かせるシンセサイザー音のエディットや、録音素材の加工技術の基礎を習得することを目指す。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法

受講態度30%（座学の受講態度・実習に取り組む姿勢）
作品提出30%
レポート40%

小レポートのフィードバックは出来る限り翌週に行い、提出作品は当日または後日講評を行う予定。

事前・事後学習

実習ではMacを使用します。Macのある教室で授業時間内にできなかった課題制作や、操作予習をすることでMacの基本操作を理解しておくこと。(90分)
日頃から電子音楽に触れておくことで実習の際のアイデアにつながるでしょう。(90分)

授 業 計 画

※講義ではMac(Logic Pro X)を用いた実習を行います。
1．ガイダンス・講義の概要
2．コンピュータ音楽とMIDI
3．音楽を聴きこむ
4．作品を作るということ
5．デジタル信号処理・メディアの変容
6．シンセサイザーの仕組みと音作り１ Mac実習
7．シンセサイザーの仕組みと音作り２ Mac実習
8．Vocalの録音と処理 カラオケVo.録音 Mac実習
9．Vocalの録音と処理 エフェクターとは Mac実習
10. エフェクター実習 Mac実習
11. 効果音をつくる Mac実習
12. サンプリングとは 音を採る Mac実習
13. サンプリングとは 音をつくる Mac実習
14. 提出作品制作 Mac実習
15. 提出作品制作 講評

※授業計画は受講者の理解・技量の状況に合わせて内容・順序を大幅に変更する場合があります。

テキスト・教材（参考文献含む）

必ずデータ保存用にUSBメモリー（16GB以上推奨）を用意してください。
テキストは特になし。(適時プリントや資料を配布・提示します)

担当者から一言

オリジナルの音は、音楽作品、映像作品やゲーム作品の効果音等に利用することで、作品にさらなるオリジナル性がでてきます。
メディアツールＤ受講後の履修だとスムーズですが、音楽制作の基礎から学ぶので全くの初心者でも構いません。共に学びましょう。

コンピュータグラフィックス	科目ナンバリング	3年次	2単位
山本努武	EMS3004	後学期	選　択

授業の位置づけ

メディアに関する専門知識・技術を習得して、独自の視点で情報発信できる。

授業のねらい

CG映像やアニメーション、モーショングラフィックス、VFXの定番ソフトウェア、Adobe After Effectsの基本操作を習得しながら、短編映像作品を制作します。毎回サンプルデータを用いて操作方法や効果を説明し、それを元に各自が工夫して習作を制作します。

到達目標

After Effectsの習得を通して、CG映像やアニメーション、モーショングラフィックス、VFXの基礎を身につけ、多様な映像表現能力を獲得する。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法

授業姿勢:80%
作品課題:20%
課題講評会やメール、LINE、Zoomなどを用いて適宜質問やフィードバックに応じます。

事前・事後学習

この授業ではAdobe PhotoshopやIllustratorも併用しながら進行しますので、メディアツールａ，ｂ，ｃの受講を強く勧めます。

授 業 計 画

1．オリエンテーションとキーフレームアニメーション
2．多層的なキーフレームアニメーション
3．シーケンシャルアニメーション
4．関節アニメーション
5．３Ｄレイヤーアニメーション
6．動画素材を使ったエフェクト１
7．動画素材を使ったエフェクト２
8．クロマキー合成入門
9．マッチムーブアニメーション１
10. マッチムーブアニメーション２
11. 作品企画、絵コンテ作成
12. 作品企画、素材準備、制作
13. 作品制作
14. 作品制作
15. 作品鑑賞会

テキスト・教材（参考文献含む）

教員が用意します。

担当者から一言

感性と創造

実務

科目ナンバリング	1年次	2単位
ESP2001	後学期	選　択

池上貴文

授業の位置づけ

メディアに関する専門知識・技術を習得して、独自の視点で情報発信できる。

授業のねらい

文化が生まれるところには、まず最初に「遊び」があり、その遊びが社会的に評価され、継続され、文化として定着していきます。1960年代に世界的に巻き起こったロックの文化、現在のSNS文化も、元を正せばちょっとした工夫や遊びの延長線上に花開いたものです。
これまで何気なく見ていた様々なメディアに対し、問題意識や分析意識を持って接していくことになります。

到達目標

「創造力」とは誰にでも本来的に備わる力であり、絵、写真、文章、音楽など様々なアプローチで自分の中にある隠れた一面や才能を見つけ表現します。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法

授業内の課題(100%)。
課題の講評によってフィードバックします。

事前・事後学習

世の中の全てのメディアが教材となります。常に意識を持って接してください。
必要に応じて資料の準備などを指示します。

授業計画

1．ガイダンス
2．写真を読む1
3．写真を撮る1
4．写真を読む2
5．写真を撮る2
6．言葉による表現
7．絵の描き方
8．物語の考え方
9．４コマ漫画を描いてみる
10. ダメ出しを受け漫画を完成、ディスカッション
11. 音による表現
12. 絵コンテをパラパラアニメにする
13. ダメ出しを受けパラパラアニメを完成
14. パラパラアニメ撮影と提出
15. ディスカッション

テキスト・教材（参考文献含む）

実習内容に応じて教員から参考資料、作成用紙などを配布します。

担当者から一言

デザインや美術に苦手意識がある方でも、好奇心があれば大丈夫です！

表現と思想

実務

科目ナンバリング	2年次	2単位
ESP2002	前学期	選　択

木村眞知子

授業の位置づけ

多様な社会の価値観を理解し、自分の考えを的確に表現し、伝えることができる。

授業のねらい

常に変化し進化するメディア環境の中、情報の送り手、受け手という構造は崩れ「誰でもメディア」の時代になってしまいました。そんな今こそ、コミュニケーションとは何かを問い直し、自分自身を表現することの意味を考えなければなりません。
時代を読み解き人間を深く探ろうとしたこれまでの思想家たちの考えを学び、私たちの今を生きる力、表現する力を養います。授業に沿った課題とその発表に重きをおいています。特に詩作する課題は、最終週に作品発表として「詩のボクシング」を行います。

到達目標

考えること、言葉を発すること、行動すること…すべて自分を表現することです。自分自身が発信者であることを自覚し、自己表現できる存在となることを目指します。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法

成績評価は次の通りとします。
授業への取組み姿勢:30%
課題への取組み姿勢:30%
試験に代わる課題レポート:40%
レポートや課題や課題レポートについては、以降の講義で取り上げ応答していきます。

事前・事後学習

授業の中で様々なテーマの課題を出します。その課題に取り組むためには、１日最低30分程度、詩や小説、エッセイなどを読み、その感想を文章でまとめること。講義後には毎回30分程度、ノートやプリント等を確認し内容を振り返り理解を深めること。不明な点は次回の講義で質問できるように準備をすること。

授業計画

第１講　ガイダンス　メディアコミュニケーションの今
第２講　コミュニケーションの領域
第３講　身体メディアである自分の確認
第４講　ポスト構造主義――今という時代を見つめる
第５講　言語とは何か①伝えるために　言語と非言語
第６講　言語とは何か②表現するために　記号論
第７講　詩をよむ・詩をかく
第８講　詩とコピー
第９講　考えるということ・意見を持つということ(ディベート)
第10講　メッセージソング　(プレゼンテーション)
第11講　物語を組み立てる
第12講　みんなで作るモノガタリ
第13講　詩作を巡って――書くこと・推敲すること
第14講　ワークショップ
第15講　「詩のボクシング」作品発表(プレゼンテーション)
　　自らを表現することの意味とは――課題に向けて

テキスト・教材（参考文献含む）

なし。テキストとなるプリントおよび資料を配付します。

担当者から一言

本授業は、講義だけでなく、詩作など様々な形で自分を見つめ表現することに取り組み、それを人前で発表するなど、実践的な学びの場面が多々あります。苦手だからといって特別扱いはしません。チャレンジする気持ちで受けてください。

映像概論

実務

科目ナンバリング	2年次	2単位
ESP2003	前学期	選　択

柳瀬元志

授業のねらい

映像の歴史や現在地、そして新たな方向性など、映像の大枠を掴むことを軸に、様々な角度から映像を追求していきます。
座学はもちろん、各界で活躍するクリエーター（脚本家・映像作家）などを講師に招いて講義を行い、演習や映像制作、プレゼンテーションなどを通じて、映像の世界のリアルを学びます。

到達目標

①映像に関する基礎知識や最新情報を身につけ、日常生活でも常に映像に反応するアンテナが張れるようになる。
②授業を通じて、一通りの映像制作ができるスキルを習得する。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法

授業への取り組み姿勢：30％
課題への取り組みと内容：30％
定期試験もしくは試験に代わるリポート：40％
必要に応じてフィードバックします。

事前・事後学習

ジャンルを問わず、毎日映像に触れてください。
見ること＝学習です。
映像を見ることは、野球でいえばキャッチボールのようなもの。
クリエイティブの基本の「き」として見る目を養ってください。
また映像と対極にある、文字メディアの新聞を読むこと。新聞は情報の宝庫です。
一面から読み始めれば、いま世の中で起こっていること、過去に起こったこと、これから起こりそうなこと、市井の人々から専門家まで、様々な人の声を聴くことができます。

授業の位置づけ

メディアに関する専門知識・技術を習得して、独自の視点で情報発信できる。

授業計画

第１講：講義ガイダンス～映像とは・映像概論のススメ方～
第２講：映像の歴史～映像を発明した人、知ってる？○○○○だよ～
第３講：映像作品の作り方～企画・取材・撮影・編集・OA～
第４講：みんなのGWを見てみよう～プレゼンテーション～
第５講：映像技術～映像を実現するテクノロジー～（前川先生による講義）
第６講：放送の終焉と配信の台頭映像の新しい可能性～Gopro・ドローン～（操作演習）
第７講：脚本家から見た映像制作～現役ドラマ作家の視点～
第８講：ドキュメンタリーは何を伝えてきたか～四日市公害とメディア～
第９講：新聞はオワコンか～高校生が取り組む新聞活用術～
第10講：映像ビブリオバトル①
第11講：映像ビブリオバトル②
第12講：ローカルメディアの役割と使命～ケーブルテレビと地方局～
第13講：映像を描こう～絵コンテ制作～
第14講：映像を撮ろう～絵コンテをもとに撮影～
第15講：映像を見よう～作品視聴＆プレゼンテーション～
※授業の進捗状況によって、順番が入れ替わる可能性があります。

テキスト・教材（参考文献含む）

必要の応じて、テキストや資料の配布を行います。

担当者から一言

現役ディレクターとして、これまでの経験や知識・情報などを、あらゆる手段手法で映像の世界の面白さや奥深さを伝えていきます。
また希望者には、テレビ局の見学ツアーを実施。
生放送やスタジオ収録など、その緊張感や楽しさをリアルに体験してもらいます。

照明概論

実務

科目ナンバリング	2年次	2単位
ESP2004	前学期	選　択

黒田淳哉

授業のねらい

照明と我々の生活は、切り離すことのできない関係にあります。光は、我々に視覚を与えるだけでなく、快適な空間の演出や、物を印象的に見せたり等、様々な力があります。この講義では光の性質を知ることから始まり、照明演出の基礎知識や技術までを広く学びます。

到達目標

①光の性質を理解する。
②暮らしと照明の関係について理解する。
③光を使用した演出方法や、その為の知識を習得する。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法

小テスト及び課題（50％）、試験に代わる課題レポート（50％）
授業中の演習問題等については、事後に解説を行います。

事前・事後学習

毎回、講義の最後に次回までに調べてくるキーワードを提示します。そのキーワードについてインターネットや書籍で調べてくること。また、講義で配布する資料や講義内容のノートを見返して理解を深めること（180分程度）。

授業の位置づけ

メディアに関する専門知識・技術を習得して、独自の視点で情報発信できる。

授業計画

第１講　ガイダンス　～　照明とは
第２講　光源
第３講　光の単位
第４講　視覚と照明
第５講　色彩
第６講　色温度と演色性
第７講　照明計画
第８講　小テスト～これまでのまとめ
第９講　直接照明と間接照明
第10講　光と素材の関係
第11講　撮影と照明
第12講　舞台と照明
第13講　光のコントロール
第14講　光環境
第15講　小テスト～まとめ
※試験に代わるレポート

テキスト・教材（参考文献含む）

なし。（必要に応じてプリントを配布します）

担当者から一言

遅刻や、飲食、携帯電話の鳴動などは原則禁止します。これらの事が守られない者には退室を命ずることがあります。

音響概論	実務	科目ナンバリング	2年次	2単位
関根辰夫		ESP2005	後学期	選　択

授業のねらい

1)音楽(音)と人の関わりを深く考える。
2)音を聞くメカニズムを理解する。
3)音楽(音)の記録再生について理解する。
4)電気回路の基礎を身に付ける。
5)音楽の再生空間及び最新のメディアを理解する。

到達目標

・マイクやスピーカーなどの原理を理解する。
・サラウンドや音楽配信などの基礎理論を習得する。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法

次のような配分で総合評価します。
授業中の演習問題等(45%)、定期試験(55%)
なお、授業中の演習問題等については、事後に解説を行います。

事前・事後学習

授業中に演習問題を出し、次回の最初に答え合わせをします。授業内容を復習するとともに、配布した資料を熟読し、不明点を自分で調べて理解を深めて下さい(180分程度)。

授業の位置づけ

メディアに関する専門知識・技術を習得して、独自の視点で情報発信できる。

授 業 計 画

第1講　ガイダンス、講義の概要
第2講　電流の三大作用
第3講　電圧・電流・抵抗の関係
第4講　電力の効果、抵抗の直列接続
第5講　抵抗の並列接続
第6講　小テスト
第7講　ダイナミックスピーカーの構造と原理
第8講　コンデンサースピーカーの構造と原理
第9講　スピーカーのエンクロージャー、ネットワーク
第10講　超小型マイクロフォンとしての耳の構造
第11講　ダイナミックマイクロフォンとコンデンサーマイクロフォン
第12講　CDとPCM録音について
第13講　音の圧縮について
第14講　サラウンドとマルチチャンネル
第15講　模擬テスト
定期試験

テキスト・教材（参考文献含む）

配布するプリント。

担当者から一言

復習をしながら授業を進めますが、続けて休むとついて行くのが大変になります。授業はインタラクティブで受講生と議論しながら進めますので積極的に議論に参加してください。また理解を深めるため、参考になる音や音楽の聴取を行います。

クリエイティブワークⅠ	実務	科目ナンバリング	2年次	2単位
柳瀬元志		ESP3001	後学期	選　択

授業のねらい

プロの現場で使用するカメラを使ったロケや、グループを作って企画・録音・編集を自分たちの手で行うラジオCM。
また静止画と文章を組み合わせてストーリーを構成する授業などを行います。
特に、制作した作品を発表する「プレゼンテーション」の機会を多く設け、「つくる」だけでなく「伝える」ことの大切さを体験するして、メディアに必要な基本を身につけることを狙いとします。

到達目標

プロの方法論による作品制作の演習を通じて、モノづくりの楽しさ、むつかしさを体験するとともに、専門課程につながる知識や技術の習得、自己表現のスキルアップを目指します。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法

授業・課題への取り組み姿勢　30%
課題制作への意欲・参加度　30%
作品内容・完成度　20%
試験に代わる課題、もしくはレポート　20%
レポートの場合は、5段階評価にて後日返却。

事前・事後学習

作品づくりだけでなく、授業を通して継続的に創作活動を行う課題があります。
皆さんは、日々様々なメディアを利用して話題となっているイベントや展覧会、映画、CM、テレビ番組、小説、配信番組など、参考となる作品をどん欲に鑑賞し「自分なりの考察」を行う力と習慣を身につけてください。

授業の位置づけ

メディアに関する専門知識・技術を習得して、独自の視点で情報発信できる。

授 業 計 画

第1講:ガイダンス～クリエイティビティとは何か～
第2講:ポートレート①「自分自身」
第3講:ポートレート②「なりきりの自分」
第4講:ポートレート③「発表プレゼンテーション」
第5講:「こんなことできません」①企画・撮影
第6講:「こんなことできません」②撮影
第7講:「こんなことできません」③プレゼンテーション
第8講:「ラジオCM」企画・原稿作成
第9講:「ラジオCM」録音
第10講:「ラジオCM」プレゼンテーション
第11講:光で空間に絵を描く①
第12講:光で空間に絵を描く②
第13講:光で空間に絵を描く③
第14講:「フォトエッセイ」①制作
第15講:「フォトエッセイ」②プレゼンテーション
※作品の進捗状況により、内容の変更・入れ替えがあります。

テキスト・教材（参考文献含む）

必要に応じて、テキスト及び参考文献や資料を配布します。

担当者から一言

写真構成作品、ラジオCM、映像作品など、様々な制作をします。
普段から多種多様な作品に触れたり、美術鑑賞や観劇など自分自身の「見る目」を養ってください。
グループで行う作業が数多くあります。「遅刻」「欠席」をしないよう責任と自覚をもって取り組んでください。

クリエイティブワークⅡ 実務	科目ナンバリング	3年次	2単位
柳瀬元志	ESP3002	前学期	選　択

授業のねらい

演習を軸とする授業で、映像・音響・照明をベースに作品制作に取り組みます。
講義・演習を通じて、よりレベルアップしたクリエイティブな知識や技術を身につける。
また実際に作品制作を体験することで、様々なものつくりやクリエイティブワークの本質に触れ、「何を表現し、どのように個性を出すか」など、クリエイターとしての知識や感性を磨きあげていきます。

到達目標

クリエイティブワークにおける三大要素「映像」「音声」「照明」の各分野を、作品制作の経験を通してその特性を深く理解し、身につけることを目標とします。
また第三者が見て、「納得」と「満足」のいく作品を作り上げることができる人材となることを目指します。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法

授業への取り組み:40%
課題への取り組み:40%
試験に代わる課題リポート:20%
課題リポートは5段階評価の上、後日返却

事前・事後学習

作品制作の成功の可否は、事前準備や情報収集よるところが大です。したがって毎日の生活の中に、映像を見る、本を読む、新聞に目を通す、様々な音楽を聴く、舞台を鑑賞するなど、日常生活とクリエイティブが密着していることが大切です。
ゲームを楽しむことやYouTubeを見て過ごすことを否定しませんが、その中からでも何かクリエイティブな「種」を見つけてください。

授業の位置づけ

メディアに関する専門知識・技術を習得して、独自の視点で情報発信できる。

授 業 計 画

第1講:ガイダンス～実践的クリエイティブワークとは～
第2講:音響作品制作①企画
第3講:音響作品制作②制作
第4講:音響作品制作③録音
第5講:音響作品制作④発表プレゼンテーション
第6講:光で演出①光の演出にトライ
第7講:光で演出②照明演出プラン作成　撮影
第8講:光で演出③撮影
第9講:光で演出④発表プレゼンテーション
第10講:映像制作①企画・構成
第11講:映像制作②撮影準備・撮影
第12講:映像制作③撮影
第13講:映像制作④編集
第14講:映像制作⑤編集
第15講:映像制作⑥発表プレゼンテーション
※作品の制作進行状況により、講義順が変更になる可能性があります

テキスト・教材（参考文献含む）

必要に応じて、テキスト及び資料等配布します。

担当者から一言

映像・音響・照明のクリエイティブ3大要素を学びます。
その中で、作る楽しさ、大変さ、完成させる喜びを体験してほしいと思います。
共同作業が多くなるので、遅刻・欠席は許しません。
なお「クリエイティブワークⅠ」を受講していることが望ましいです。

イベント制作演習 実務	科目ナンバリング	3年次	2単位
黒田淳哉・柳瀬元志	ESP3004	後学期	選　択

授業のねらい

この講義のターゲットは、分野4年生が卒業研究・卒業制作を発表する卒業展の進行およびテクニカルなオペレーションを行うことです。演習の前半には、イベント制作について座学を行うとともにイベント企画の演習を行い、後半には全員で共同して卒業展を制作します。

到達目標

①イベント制作に必要な各ステップを把握し、経験する。
②プロジェクト進行や質が良くなるよう努めて、行動ができる。
③プロジェクトの全体像を十分に把握し、課題を発見及び発信できる。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法

・定期試験は行わない。
・成績評価はルーブリック評価を用いる。
ルーブリック評価基準は、第1講のガイダンスにて配布します。なお、提出物や課題等のフィードバックは次回の講義で行います。

事前・事後学習

年末年始の休暇期間を含め、プランニングや資料作成、連絡調整等が持ち帰り課題となる(180分程度)。

授業の位置づけ

メディアに関する専門知識・技術を習得して、独自の視点で情報発信できる。
専門技術者に求められる倫理観を身につけている。

授 業 計 画

第1講　ガイダンス～イベント制作立案① 企画立案
第2講　イベント制作立案② 資料制作
第3講　イベント制作立案③（プレゼンテーション）
第4講　卒業展について① 企画立案
第5講　卒業展について② 資料制作
第6講　卒業展について③（ディスカッション）
第7講　昨年度実績伝達
第8講　進行演出立案① 企画立案
第9講　進行演出立案②（プレゼンテーション）
第10講　部門ごとの準備①(グループワーク)
第11講　部門ごとの準備②(グループワーク)
第12講　メディアチェック
第13講　テクニカルリハーサル
第14講　最終リハーサル(実習)
第15講　卒業展(実習)

テキスト・教材（参考文献含む）

講義中に資料やワークシートを配布する。専用のクリアファイルを準備しておくこと。

担当者から一言

卒業展直前は講義時間外にも集合して課題を進めます。講義には積極的に参加して下さい。また、卒業展当日は原則として全員参加です。

ハードウエア論

片山清和

科目ナンバリング	1年次	2単位
EIF2001	後学期	選　択

授業の位置づけ

メディアに関する専門知識・技術を習得して、独自の視点で情報発信できる。

授業のねらい

コンピュータシステムはハードウェアとソフトウェアから成り立っています。この講義ではコンピュータシステムのハードウェア部分について仕組みを解説します。また、情報系の国家資格であるITパスポート取得を念頭に置いて行います。

到達目標

①コンピュータシステムの概念を説明できる
②入力装置の仕組みを説明できる
③出力装置の仕組みを説明できる
④規則装置の仕組みを説明できる
⑤インターフェイスの種類と違いを説明できる
⑥インターネットの仕組みを説明できる

成績評価方法・課題・フィードバックの方法

「小テスト」(40%)、「定期試験」(60%)
小テストは採点後、以降の講義で返却します。

事前・事後学習

講義前には、これまでに学習した内容を復習しておくこと(30分)。
講義後には、学習した内容を復習しておくこと(150分)。
「情報科学」を履修していることが望ましい。
本講義の内容をふまえ、発展した内容を「コンピュータ動作論」で学習します。

授 業 計 画

第１講　ガイダンス、コンピュータの五大装置
第２講　入力装置(ポインティングデバイス)
第３講　入力装置(キーボード、スキャナ、バーコードリーダー)
第４講　出力装置(ディスプレイ)
第５講　出力装置(プリンタ)
第６講　小テスト、中央処理装置
第７講　GPU
第８講　記憶装置(メインメモリ)
第９講　小テスト、補助記憶装置(磁気ディスク)
第10講　補助記憶装置(RAID、SSD、フラッシュメモリ)
第11講　補助記憶装置(光ディスク、光磁気ディスク、磁気テープ)
第12講　小テスト、インタフェース(パラレルインタフェース)
第13講　インタフェース(シリアルインタフェース)
第14講　小テスト、ネットワーク(イーサネット、ルータ、ハブ)
第15講　まとめ
定期試験

テキスト・教材（参考文献含む）

なし(必要に応じて配布します)
【参考文献】
春日健、舘泉雄治　「計算機システム(改訂版)」　コロナ社　￥3,080

担当者から一言

ハードウェアの基本をしっかり押さえれば、仕組みは非常に簡単です。
復習をしっかり行って理解してください。
また、出席状況が悪い場合には減点します。

プログラミング

田中雅章

科目ナンバリング	2年次	2単位
EIF2002	後学期	選　択

授業の位置づけ

メディアに関する専門知識・技術を習得して、独自の視点で情報発信できる能力を身に付ける。

授業のねらい

ほぼすべてのアプリケーション・プログラムは、プログラミング言語で記述されています。プログラミング言語の中でも、C言語はオペレーティングシステムから携帯電話など末端の応用プログラムまで、広い範囲で使用されています。このC言語を学ぶことで、アプリケーション・プログラムの動作をより理解することができます。
この講義では、C言語を用いてプログラミングの基礎を学び、アプリケーション・プログラムの動作の理解を深めると同時に、プログラム作成と通じて、論理的思考を身につけることを目指しています。

到達目標

C言語で基本的なプログラミングができるようになること。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法

「提出物」(40%)、「定期試験」(60%)
提出物は100点満点で採点後、教育支援システム（Moodle）を介して返却します。

事前・事後学習

講義前には、これまでに学習した内容を復習すること（60分）講義後には、演習問題を行うこと(120分)

授 業 計 画

第１講　ガイダンス、プログラミングとは
第２講　Ｃプログラムの入力・コンパイル・実行
第３講　変数・定数とデータ型と演算子
第４講　入力と出力
第５講　ifによる条件分岐
第６講　switchによる分岐
第７講　forによる繰り返し
第８講　whileによる繰り返し
第９講　関数(１)
第10講　関数(２)
第11講　配列
第12講　ポインタ
第13講　構造体
第14講　共用体
第15講　まとめ
定期試験

テキスト・教材（参考文献含む）

なし。(必要に応じて配布します)
【参考文献】
B.W.カーニハン、D.M.リッチー 著 石田晴久 訳「プログラミング言語 C 第２版 ANSI規格準拠」共立出版 ￥3,024
学習支援システム(Moodle)を利用します。

担当者から一言

プログラミングでは積み重ねが重要ですので、欠席しないようにしてください。また、出席状況が悪い場合には減点します。
「ソフトウェア論」「ハードウェア論」「コンピュータ動作論」を履修していることが望ましい。

コンピュータ動作論

科目ナンバリング	2年次	2単位
EIF2003	前学期	選　択

片山清和

授業の位置づけ

メディアに関する専門知識・技術を習得して、独自の視点で情報発信できる。

授業のねらい

現代社会では、ほぼあらゆるところにコンピュータが使われています。われわれは漠然とコンピュータを使っているのですが、コンピュータは一体どのようにして動作しているのでしょうか？

この講義では、コンピュータがどのように動いているのかを、数の表現方法、コンピュータの内部構成について学びます。また高速化技法としてスーパパイプラインとスーパスカラとキャッシュメモリについて学びます。さらに最新のコンピュータについても学びます。

到達目標

①コンピュータの動作原理を説明できる。
②組み合わせ論理回路を説明できる。
③順序回路を説明できる。
④記憶素子の動作原理を説明できる。

成績評価方法･課題･フィードバックの方法

「レポート･小テスト」(40%)、「定期試験」(60%)
レポート・小テストは採点し、コメントを付加して、以降の講義で返却します。

事前・事後学習

講義前には、これまでに学習した内容を復習しておくこと(60分)。
講義後には、学習した内容を復習し、課題を行うこと(120分)。
「ハードウェア論」を履修していることが望ましい。

授 業 計 画

第１講　ガイダンス、数の表現とコンピュータの五大装置
第２講　ハーバード･アーキテクチャとノイマン型アーキテクチャ
第３講　命令サイクル
第４講　論理素子とCMOS
第５講　組み合わせ回路
第６講　順序回路
第７講　制御方式(ハードワイヤード方式，マイクロプログラム方式)
第８講　命令セットとRISC，CISC
第９講　記憶素子(SRAM，DRAM)
第10講　シングルサイクルコンピュータとCPI
第11講　マルチサイクルとパイプラン処理
第12講　割り込みとプロセスの切り替え
第13講　スーパパイプラインとスーパスカラ、キャッシュメモリ
第14講　GPUと最新コンピュータの動向
第15講　まとめ
定期試験

テキスト・教材（参考文献含む）

なし。(必要に応じて配布します)
【参考文献】
馬場敬信 著「コンピュータのしくみを理解するための10章」 技術評論社　￥1,980＋税

担当者から一言

積み重ねの講義なので、欠席しないようにしてください。
また、出席状況が悪い場合には減点します。

システム管理論

科目ナンバリング	2年次	2単位
EIF2004	後学期	選　択

井岡幹博

授業の位置づけ

メディアに関する専門知識・技術を習得して、独自の視点で情報発信できる。

授業のねらい

本講義では、将来システム管理業務にあたる際に必要となる基礎知識と考え方を学ぶことを目標とします。また、ネットワークのセキュリティなど一般ユーザも理解しておくべき内容も学びます。

到達目標

･システムの信頼度向上のための知識
･システム開発とプロジェクトマネジメント
･システム運用管理
･情報セキュリティなどに関するスキルが身につくことを目標とします。

成績評価方法･課題･フィードバックの方法

小テストおよび課題50%、定期試験50%。小テストを返却し、間違いを正します。

事前・事後学習

情報技術とその利用に関する新聞記事の熟読（予習90分)。毎回課されるITパスポート過去問を解くこと(復習90分)。

授 業 計 画

第１講　ガイダンス（授業の進め方、成績評価法の説明)、関連科目履修度の確認、この後の講義で必要となる基礎理論の復習（２進数など情報に関する理論)
第２講　システムの信頼度(稼働率、冗長化)
第３講　企業活動(問題点の発見、業務分析)
第４講　第１回小テスト
第５講　第１回小テストの解説
第６講　システム開発とプロジェクトマネジメント
第７講　考え方を整理するための方法と知識
第８講　テストの方法、エラーチェック
第９講　第２回小テスト
第10講　第２回小テストの解説
第11講　パソコンとネットワーク（OSIの参照モデル、TCP/IP、インターネットで利用可能な主なサービス)
第12講　システム運用管理と情報セキュリティ
第13講　暗号化と認証
第14講　第３回小テスト
第15講　第３回小テストの解説
定期試験
小テストはITパスポート過去問による演習とその解説により進めます。

テキスト・教材（参考文献含む）

プリント配布。

担当者から一言

この講義ではコンピュータや情報ネットワークに関する項目が多く出てきますので、「インターネット論」、「情報システム論」、「ソフトウェア論」、「コンピュータ動作論」などの内容をよく理解しておくとよいでしょう。

データベースプログラミング	科目ナンバリング	3年次	2単位
田中雅章	EIF3001	前学期	選　択

授業の位置づけ

メディアに関する専門知識・技術を習得して、独自の視点で情報発信できる。

授業のねらい

実際のデータベース管理システム（DBMS）に触れることによって、データベースの仕組みを理解する。現在はリレーショナルデータベースが主流である。このリレーショナルデータベースを管理するソフトウェアをRDBMSと呼ぶ。RDBMSが提供するデータベース言語がSQLである。

到達目標

検索条件をSQL文で書けること
データの正規化ができること
データの追加、更新、削除を理解すること
データベースの基本設計ができること

成績評価方法・課題・フィードバックの方法

課題提出50％、定期試験50％
必要に応じてフィードバックします。

事前・事後学習

配布資料の熟読（90分）。毎回課される課題提出（復習90分）。

授業計画

第１回　ファイルの種類とデータベースの概念
第２回　リレーショナルデータモデル
第３回　リレーショナルデータモデル（主キーと外部キー）
第４回　リレーショナル代数
第５回　検索演習
第６回　正規化①
第７回　正規化②
第８回　SQLServer演習
第９回　表の結合①
第10回　表の結合②
第11回　集合関数
第12回　表の作成①
第13回　表の作成②
第14回　ER図
第15回　まとめ
定期試験

テキスト・教材（参考文献含む）

大滝みや子 著「基本情報　SQLドリル」￥1,047

担当者から一言

実際のデータベース管理システムに触れて、データベースとはどんなものなのかを実感してください。
学習支援システム（Moodle）を利用します。

情報システム論	科目ナンバリング	3年次	2単位
池田幹男	EIF3002	後学期	選　択

授業の位置づけ

メディアに関する専門知識・技術を習得して、独自の視点で情報発信できる。

授業のねらい

Microsoft Accessは、リレーショナル型のデータベース・ソフトウェアであり、実社会では大規模なデータベースを作成するために使われています。したがって、社会で活躍するためには、Accessを道具として使いこなす能力が必要となります。この講義では、Accessの資格試験（Microsoft Office Specialist）を受験するための演習・実習を行います。

到達目標

MOS Access 2016の資格試験の準備が整うようにします。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法

毎回の課題（40％）、模擬試験（60％）
毎回の課題は採点し、教育支援システム（Moodle）を介してフィードバックします。

事前・事後学習

講義前には、教科書の該当部分を読んで、操作を理解してくること（90分）。講義後には、講義で学習した操作を復習して、教科書付属の模擬試験を行っておくこと（90分）。

授業計画

第１講　ガイダンス
第２講　データベースの作成と管理（１）
第３講　データベースの作成と管理（２）
第４講　データベースの作成と管理（３）
第５講　テーブルの作成（１）
第６講　テーブルの作成（２）
第７講　テーブルの作成（３）
第８講　クエリの作成（１）
第９講　クエリの作成（２）
第10講　フォームの作成（１）
第11講　フォームの作成（２）
第12講　レポートの作成（１）
第13講　レポートの作成（２）
第14講　模擬試験演習（１）
第15講　模擬試験演習（２）
すべて実習です。

テキスト・教材（参考文献含む）

「Microsoft Office Specialist Microsoft Accsess 2016 対策テキスト＆問題集（よくわかるマスター）」FOM出版　￥3,024

担当者から一言

積み重ねの講義なので、欠席しないようにしてください。
「データベースプログラミング」と併せて受講することをすすめます。

メディア情報産業論

科目ナンバリング	3年次	2単位
EIF3003	後学期	選　択

前川督雄

授業のねらい

Society5.0を視野に入れた、社会のありかたを産業の側面から考える講義です。

テレビやアプリ、ゲーム、インターネットなど、私たちはメディア情報産業の恩恵に浴して暮らしています。メディア情報産業は、情報通信技術の発達によってその枠組みを大きく変化させ、また社会インフラとしてその重要性を増してきています。その歴史・背景は、また将来展望はどのようになっているのでしょうか。

この講義では、メディア情報産業の歴史･構造を概観するとともに、現代社会においてメディア情報産業が果たす役割について考えます。

到達目標

メディア情報産業の歴史・構造を知り、それぞれのメディアが果たしている（果たしてきた）社会的役割とこれからの展望・課題とを考察する。

成績評価方法･課題･フィードバックの方法

次の配分で総合評価します。

受講態度、学習意欲、小レポート等(40％)

定期試験(60％)

講義中に意見交換を行います。

事前・事後学習

講義内容を復習する（90分）とともに、配布した資料およびURL提示した参考情報を熟読し、不明点を自分で調べて理解を深めて下さい（90分）。

前後して「次世代メディア社会」（３年次前期開講）とあわせて受講することで、より多面的な理解が得られるでしょう。

授業の位置づけ

メディアに関する専門知識・技術を習得して、独自の視点で情報発信できる。

専門技術者に求められる倫理観を身につけている。

授 業 計 画

第１講　ガイダンス／講義の概要
第２講　基礎論　メディア情報が産業になるとはどういうことか
第３講　基礎論　Society5.0に向けて
第４講　産業構造　通信産業／インターネット産業
第５講　産業構造　映画産業
第６講　産業構造　テレビ産業
第７講　産業構造　出版産業
第８講　産業構造　メディア融合
第９講　産業構造　IoT
第10講　社会　マスメディアの責務
第11講　社会　知的財産／知る権利／表現の自由
第12講　事例　メディア利用動向
第13講　事例　メディア情報産業の最新トピックス
第14講　事例　最新の国際展示会レポート／メディア情報技術開発について
第15講　まとめ
定期試験
（内容･順序を必要に応じて変更します）

テキスト・教材（参考文献含む）

テキストはありません。
講義中に資料を配付します。　〈参考情報サイト〉{http://edata.jp/you/imi/}
〈参考文献〉
電通総研編「情報メディア白書2021」ダイヤモンド社（2021）
日本経済新聞社編「日経業界地図2022年版」日本経済新聞出版社（2021）

担当者から一言

「メディア情報産業論」では主に社会的な見地から、「次世代メディア社会」（３年次前期開講）では主に個人の視点からメディア情報を捉えます。

音楽史　実務

科目ナンバリング	1年次	2単位
ECF2001	前学期	選　択

関根辰夫

授業のねらい

クラシック音楽や様々な地域の音楽が互いに影響しあってどのように変遷してきたのかを学ぶ。また日本の大衆音楽を含む様々なジャンルの音楽の歴史を通し、現代の音楽の成り立ちを考察する。さらに音楽に関する著作権の歴史も学び、自らが音楽を発信するときに必要となる基礎知識を習得する。

到達目標

・現代の音楽が過去のどのような音楽に基づいて成立しているかを理解する
・様々なジャンルや国々の音楽について理解を深める

成績評価方法･課題･フィードバックの方法

次のような配分で総合評価します。授業中の演習問題等（45％）、定期試験（55％）なお、授業中の演習問題等については、事後に解説を行います。

事前・事後学習

日頃から自分の好きなジャンルの音楽だけではなく、様々な音楽を意識して聞くようにすること。(毎日30分程度)授業中に演習問題を出し、次回の最初に答え合わせをします。授業内容を復習するとともに、配布した資料を熟読し、不明点を自分で調べて理解を深めて下さい。(60分程度)

授業の位置づけ

メディアに関する専門知識・技術を習得して、独自の視点で情報発信できる。

授 業 計 画

第１講　ガイダンス、音楽の基礎知識(音楽の三要素などについて)
第２講　音楽の基礎知識(様々な音律について)
第３講　楽譜の歴史
第４講　大陸からの音楽の影響を含めた日本の音楽芸術の歴史
第５講　「こと」の歴史と世界の「こと」
第６講　西洋の音楽史(ギリシャ悲劇からアルス･ノヴァまで)
第７講　西洋の音楽史(ルネッサンスからバロックまで)
第８講　西洋の音楽史(バロックの続き)
第９講　小テスト
第10講　西洋の音楽史(古典派とロマン派)
第11講　西洋の音楽史(ロマン派の続きから、近代まで)
第12講　ラテン音楽
第13講　著作権の歴史(ベルヌ条約から最近の著作権法の改正まで)
第14講　著作権の歴史(JASRACについて)
第15講　模擬試験
定期試験

テキスト・教材（参考文献含む）

配布するプリント。

担当者から一言

音楽の歴史を通して様々な音楽に触れ、またその制作や記録の方法の変遷を知る事で、これからの音楽との関わり方を学んでください。今まで何気なく聴いていた音楽の中に様々な時代や国の音楽の要素がちりばめられている事に気がつくでしょう。

生命－情報－環境	科目ナンバリング	２年次	２単位
前川督雄	ECF2002	前学期	選　択

授業の位置づけ

メディアに関する専門知識・技術を習得して、独自の視点で情報発信できる。
専門技術者に求められる倫理観を身につけている。
多様な社会の価値観を理解し、自分の考えを的確に表現し、伝えることができる。

授業のねらい

有限な地球環境と私たち人類との関係を、情報を軸に読み解いていきます。
地球生態系38億年の歴史のなかで、また700万年におよぶ人類史のなかで生命と環境とは相互作用を重ね、互いに適合するように進化してきました。私たちは有限環境に適合した遺伝子を有しているのです。
しかし現代の物質文明は進歩や発展が無限に続くことを前提としており、その矛盾は深刻な破綻を呈しつつあります。
「生命－情報－環境」では、現代日本が直面している環境問題を「物質」「エネルギー」に「情報」を加えた３つの次元から考えていきます。

到達目標

地球生態系の一員として自分の立つ位置、そして現在の世界のなかで自分の立つ位置について考えを深める。
従来の環境観から欠落していた「情報環境」「本来性」の枠組みを得て、その観点から環境問題を捉え直す。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法

次の配分で総合評価します。
受講態度、学習意欲、小レポート等(40％)
定期試験(60％)
小レポートを課すことがあります。レポートで示された重要な論点をその後の講義で採り上げます。

事前・事後学習

毎回の講義で提示した事例・理論を振り返り復習する(90分)とともに、鵜呑みにすることなく自分でも調べ直して、理解を深めるとともによく考えて下さい(90分)。

前後して「文化論」（１年次後期開講）とあわせて履修することで、より重層的な理解が得られるでしょう。

授 業 計 画

第１講　ガイダンス／講義の概要
第２講　基礎論　感覚で感じる環境の情報的側面(情報環境)
第３講　基礎論　情報中毒と情報失調
第４講　基礎論　熱帯の森が人類のふるさと
第５講　基礎論　生物－環境系の本来・適応・自己解体モデル
第６講　基礎論　棲み分けと非棲み分け
第７講　基礎論　文明化による情報環境の変容
第８講　基礎論　ハイパーソニック・エフェクト
第９講　有限環境　食糧と環境
第10講　有限環境　環境破壊・環境汚染の源
第11講　有限環境　山・森・里・川・海
第12講　事例　人類の本来の生きかたを続ける狩猟採集民
第13講　事例　豊かな情報環境をつくりだす文化
第14講　事例　情報環境の視点を現代社会に活かす試み
第15講　まとめ
定期試験
(内容・順序を必要に応じて変更します)

テキスト・教材（参考文献含む）

テキストはありません。
〈参考文献〉
大橋　力「情報環境学」朝倉書店(1989年)
大橋　力「音と文明」岩波書店(2003年)
大橋　力「ハイパーソニック・エフェクト」岩波書店(2017年)

担当者から一言

学際的・総合的な講義内容になります。講義中に、参考とする映像・音楽の視聴を行います。
この講義では単に知識を獲得することよりも、自分で感じ、考えることを特に重視します。

索引(担当教員)　50音順

	担当教員	科目名	ページ
い	井岡幹博	情報と職業	15
		統計リテラシー	63
		地理情報システム論	168
		システム管理論	185
	池上貴文	メディアツールa	58
		メディアツールb	59
		グラフィックデザイン概論	177
		感性と創造	180
	池田幹男	コンピュータリテラシー	14
		情報倫理	14
		情報科学	15
		アプリケーション演習Ⅰ	16
		おもてなし特別講義b	53
		Webプログラミングa	61
		Webプログラミングb	62
		環境情報学概論Ⅱ	138
		専門演習a	142
		専門演習b	147
		専門演習c	153
		専門演習d	158
		ソフトウエア論	176
		情報システム論	186
	池田裕美子	介護予防スポーツ	122
	石田修二	コンピュータリテラシー	14
	伊藤晴苗	日本語中級Ⅰ	12
		日本語上級Ⅰ	13
	稲葉年計	出版文化論	134
	岩崎恭典	「人間たれ」	1
		祭りとまちづくり	109
		鉄道とまちづくり	110
		コミュニティ論	110
	岩崎祐子	入門演習Ⅰ	1
		入門演習Ⅱ	2
		キャリア基礎Ⅰ	34
		キャリア基礎Ⅱ	35
		キャリア基礎Ⅲ	36
		国際協力研修	38
		ビジネスマネジメント	51
		マーケティング演習	52
		おもてなし特別講義a	52
		おもてなし特別講義b	53
		総合政策論Ⅰ	66
		金融論	126
お	大西信行	からだとこころ	115
	大八木麻希	入門演習Ⅰ	2
		入門演習Ⅱ	3
		環境情報学概論Ⅱ	137
		基礎演習b	141

	担当教員	科目名	ページ
		専門演習a	142
		専門演習b	148
		専門演習c	153
		専門演習d	159
		生態学	164
		自然調査法	166
		生物分類学	170
		環境実験・調査a	171
		陸水学	171
		食品微生物学	173
		環境実験・調査b	174
	岡佑哉	地域社会の歴史	17
		日本史概論	28
	岡良浩	四日市学	17
		キャリア基礎Ⅰ	34
		キャリア基礎Ⅱ	35
		キャリア基礎Ⅲ	36
		ビジネスマナー	48
		サービス経営論	49
		ビジネスコミュニケーション	50
		オペレーション演習	51
		マーケティング演習	52
		おもてなし特別講義a	52
		おもてなし特別講義b	53
		環境政策	112
		観光政策/環境保全とツーリズム	112
		都市計画論/都市環境論	114
		総合政策論Ⅰ	66
		総合政策論Ⅱ	67
		地域経済論	102
		地域産業論	105
		地域開発論	106
		中小企業論	131
		起業論	133
	奥原貴士	入門演習Ⅰ	1
		入門演習Ⅱ	2
		ビジネスマネジメント	51
		政策科学入門	66
		総合政策論Ⅰ	66
		基礎演習a	67
		基礎演習b	73
		専門演習a	78
		専門演習b	84
		専門演習c	90
		専門演習d	96
		簿記入門	128
		会計学総論	129
		財務諸表論	129

	担当教員	科目名	ページ
か	楓　森博	コンピュータリテラシー	14
	柿原加代子	こころの健康	123
	片山清和	コンピュータリテラシー	14
		情報倫理	14
		Webプログラミングa	61
		微分積分	64
		データ統計処理	65
		環境情報学概論Ⅱ	138
		基礎演習a	139
		基礎演習b	140
		専門演習a	143
		専門演習b	148
		専門演習c	154
		専門演習d	159
		ハードウエア論	184
		コンピュータ動作論	185
		総合政策特別講義Ⅲ／環境特別講義Ⅲ	134
	金岩　稔	確率基礎	64
		線型代数	65
	加納　光	入門演習Ⅰ	1
		入門演習Ⅱ	2
		基礎日本語Ⅰ	4
		基礎日本語Ⅱ	5
		中国語Ⅰ	8
		中国語Ⅱ	9
		日本語中級Ⅰ	12
		日本語中級Ⅱ	12
		日本語上級Ⅰ	13
		日本語上級Ⅱ	13
		東洋文化論／アジア文化論	135
		総合政策論Ⅱ	67
	川崎綾子	入門演習Ⅰ	1
		入門演習Ⅱ	2
		経営学	20
		オペレーション演習	51
		流通論／農産流通論	132
		総合政策論Ⅰ	66
		経営管理論	125
		経営戦略論	130
		マーケティング論	130
		人事管理論	131
き	鬼頭浩文	四日市学	17
		地域防災	19
		経済学	21
		キャリア基礎Ⅱ	35
		インターンシップ	39
		公務のための経済学	45
		環境情報学概論Ⅰ	137

	担当教員	科目名	ページ
		環境政策	112
		音楽とまちづくり	109
		政策科学入門	66
		総合政策論Ⅰ	66
		基礎演習a	68
		基礎演習b	73
		専門演習a	79
		専門演習b	85
		専門演習c	91
		音楽とまちづくり	109
		経済政策	113
	木村眞知子	メディアの歴史	176
		コミュニケーションデザイン論	178
		表現と思想	180
く	工藤安史	こころの健康	123
	黒田淳哉	環境情報学概論Ⅱ	138
		基礎演習a	139
		基礎演習b	141
		専門演習a	143
		専門演習b	149
		専門演習c	154
		専門演習d	160
		照明概論	181
		イベント制作演習	183
け	ｹﾝﾄ・ｽｺｯﾄ	基礎英語Ⅰ	3
		基礎英語Ⅱ	4
こ	小泉大亮	総合政策論Ⅱ	67
		基礎演習a	68
		基礎演習b	74
		専門演習a	79
		専門演習b	85
		専門演習c	91
		専門演習d	97
		スポーツ政策論	116
		スポーツ生理学	118
		健康スポーツ論	119
		スポーツ応用科学	120
		スポーツメディカル論	121
		地域スポーツ論	121
		健康スポーツ実技	123
	ｺﾞｰﾄﾞﾝ・ﾘｰｽ	基礎英語Ⅰ	3
		基礎英語Ⅱ	4
		英語コミュニケーションⅠ	6
		英語コミュニケーションⅡ	7
		公務のための英文理解	47
		観光英語Ⅰ	53
		観光英語Ⅱ	54
		英語表現Ⅰ	55

	担当教員	科目名	ページ
		英語表現Ⅱ	56
	後藤由紀	こころの健康	123
	小林慶太郎	地域連携特別講義a	20
		政治学	21
		公務のための政治学	45
		公務のための論文・面接	48
		政策科学入門	66
		総合政策論Ⅱ	67
		基礎演習a	69
		基礎演習b	74
		専門演習a	80
		専門演習b	86
		専門演習c	92
		専門演習d	97
		地方自治論	101
		政策過程論	102
		行政法	103
		食とまちづくり	108
		マイノリティ政策	111
さ	櫻井智美	スポーツ栄養学	119
し	柴田啓文	基礎英語Ⅰ	3
		基礎英語Ⅱ	4
		英語コミュニケーションⅠ	5
		英語コミュニケーションⅡ	7
		コンピュータ英語Ⅰ	54
		コンピュータ英語Ⅱ	55
		地域福祉論	106
す	杉崎一美	からだとこころ	115
	杉谷克芳	コンピュータリテラシー	14
		文章表現論	27
		農業経営論	133
		日本経済事情	126
せ	関根辰夫	メディアリテラシー	23
		環境情報学概論Ⅱ	138
		基礎演習a	139
		基礎演習b	141
		専門演習a	144
		専門演習b	149
		専門演習c	155
		専門演習d	160
		脳・音・光の科学Ⅰ	175
		脳・音・光の科学Ⅱ	177
		音響概論	182
		音楽史	187
た	高田晴美	ジェンダー論	22
		キャリア基礎Ⅰ	35
		キャリア基礎Ⅱ	36
		キャリア基礎Ⅲ	37

	担当教員	科目名	ページ
		公務のための数的推理	43
		公務のための判断推理	44
		公務のための現代文	44
		公務のための自然科学	47
		政策科学入門	66
		総合政策論Ⅰ	66
		基礎演習a	69
		基礎演習b	75
		専門演習a	80
		専門演習b	86
		専門演習c	92
		専門演習d	98
		こころと文学	124
	田中伊知郎	コンピュータリテラシー	14
		情報倫理	14
		自然科学概論	30
		生物学概論	32
		生物と進化	33
		心理学	34
		キャリア基礎Ⅰ	34
		キャリア基礎Ⅱ	35
		キャリア基礎Ⅲ	36
		データ分析の基礎	40
		統計的分析	41
		環境情報学概論Ⅱ	137
		森林学	172
	田中麻衣	メディアツールc	59
	田中雅章	情報倫理	14
		アプリケーション演習Ⅱ	16
		Webプログラミングa	61
		Webプログラミングb	62
		インターネット論	62
		環境情報学概論Ⅱ	138
		基礎演習a	139
		基礎演習b	140
		プログラミング	184
		データベースプログラミング	186
ち	千葉賢	四日市公害論	138
		専門演習a	144
		専門演習b	150
		専門演習c	155
		専門演習d	161
		地域環境論	167
		環境政策	112
		観光政策／環境保全とツーリズム	112
		海洋学	169
		海洋調査法	170
		総合政策特別講義Ⅲ／環境特別講義Ⅲ	134

	担当教員	科目名	ページ
つ	角田延之	基礎日本語Ⅰ	4
		基礎日本語Ⅱ	5
		日本語中級Ⅰ	12
		日本語中級Ⅱ	12
		日本語上級Ⅰ	13
		日本語上級Ⅱ	13
	鶴田利恵	入門演習Ⅰ	1
		入門演習Ⅱ	2
		政策科学入門	66
		総合政策論Ⅱ	67
		基礎演習a	70
		基礎演習b	75
		専門演習a	81
		専門演習b	87
		専門演習c	93
		専門演習d	98
		現代財政学	103
		国際経済事情	124
		開発経済学	128
		農業経営論	133
と	土志田佳枝	民法入門	25
	富田与	入門演習Ⅰ	1
		入門演習Ⅱ	2
		フィールドワーク論	42
		グローバルコミュニケーション	50
		政策科学入門	66
		総合政策論Ⅱ	67
		基礎演習a	70
		基礎演習b	76
		専門演習a	81
		専門演習b	87
		専門演習c	93
		専門演習d	99
		国際関係論	125
		国際協力論	127
な	永井博	入門演習Ⅰ	1
		入門演習Ⅱ	2
		四日市学	17
		文学	26
		文章表現論	27
		キャリア基礎Ⅰ	34
		キャリア基礎Ⅱ	35
		キャリア基礎Ⅲ	36
		オペレーション演習	51
		日本文化論	135
		政策科学入門	66
		総合政策論Ⅰ	66
		総合政策論Ⅱ	67

	担当教員	科目名	ページ
	中西紀夫	日本国憲法	24
		法学	24
		キャリア基礎Ⅰ	35
		キャリア基礎Ⅱ	36
		キャリア基礎Ⅲ	37
		公務のための法学	46
		都市法／環境法	104
		政策科学入門	66
		総合政策論Ⅰ	66
		総合政策論Ⅱ	67
		基礎演習a	71
		基礎演習b	76
		専門演習a	82
		専門演習b	88
		専門演習c	94
		専門演習d	99
		行政法	103
		政策法務	105
に	西浦尚夫	ものづくり経営	132
	西尾秀樹	メディアツールa	58
		メディアツールb	59
の	野呂達哉	地域社会と環境	19
		環境情報学概論Ⅱ	137
		基礎演習a	140
		基礎演習b	141
		専門演習a	145
		専門演習b	150
		専門演習c	156
		専門演習d	161
		環境保全学	165
ひ	樋口晶子	入門演習Ⅰ	2
		入門演習Ⅱ	3
		基礎英語Ⅰ	3
		基礎英語Ⅱ	4
		英語コミュニケーションⅠ	6
		英語コミュニケーションⅡ	8
		キャリア基礎Ⅰ	34
		キャリア基礎Ⅱ	35
		キャリア基礎Ⅲ	36
		ビジネス英語Ⅰ	56
		ビジネス英語Ⅱ	57
		環境情報学概論Ⅱ	138
	廣住豊一	入門演習Ⅰ	2
		入門演習Ⅱ	3
		環境情報学概論Ⅱ	137
		基礎演習a	140
		基礎演習b	141
		専門演習a	145

	担当教員	科目名	ページ
		専門演習b	151
		専門演習c	156
		専門演習d	162
		地球環境学総論	164
		環境実験・調査a	171
		土壌学	172
		食糧生産学	173
		食品衛生学	174
		環境実験・調査b	174
ふ	ﾌｪﾘﾍﾟ･ﾌｪﾊｰﾘ	基礎英語Ⅰ	3
		基礎英語Ⅱ	4
		ポルトガル語Ⅰ	10
		ポルトガル語Ⅱ	11
		倫理学	25
		哲学	26
		総合政策論Ⅰ	66
		総合政策論Ⅱ	67
		基礎演習a	71
		基礎演習b	77
		専門演習a	82
		専門演習b	88
	藤本和弘	行政学	104
		都市政策	113
へ	別所史子	からだとこころ	115
ほ	堀内敬弘	メディアツールa	58
		Webデザインa	60
		Webデザインb	61
	本部賢一	交通政策	114
ま	前川督雄	入門演習Ⅰ	2
		入門演習Ⅱ	3
		メディアリテラシー	23
		文化論	28
		環境情報学概論Ⅱ	138
		基礎演習a	139
		基礎演習b	140
		専門演習a	146
		専門演習b	151
		専門演習c	157
		専門演習d	162
		脳・音・光の科学Ⅰ	175
		音楽とまちづくり	109
		脳・音・光の科学Ⅱ	177
		次世代メディア社会	178
		メディア情報産業論	187
		総合政策特別講義Ⅲ／環境特別講義Ⅲ	134
		生命－情報－環境	188
	前田憲司	祭りとまちづくり	109
		地域文化論	136

	担当教員	科目名	ページ
	牧田直子	化学概論	31
		キャリア基礎Ⅰ	34
		キャリア基礎Ⅱ	35
		キャリア基礎Ⅲ	36
		環境情報学概論Ⅱ	137
		基礎演習a	140
		専門演習a	146
		専門演習b	152
		専門演習c	157
		専門演習d	163
		環境化学	165
		環境化学実験	166
	松井真理子	市民教育	18
		人権論	18
		ボランティア活動a	37
		ボランティア活動b	38
		政策科学入門	66
		総合政策論Ⅰ	66
		総合政策論Ⅱ	67
		専門演習a	83
		専門演習b	89
		専門演習c	94
		専門演習d	100
		NPO論	111
み	三田泰雅	入門演習Ⅰ	1
		入門演習Ⅱ	2
		社会学	22
		ジェンダー論	22
		社会調査入門	39
		社会調査の技法	40
		社会調査実習1	42
		社会調査実習2	43
		政策科学入門	66
		総合政策論Ⅰ	66
		基礎演習a	72
		基礎演習b	77
		専門演習a	83
		専門演習b	89
		専門演習c	95
		専門演習d	100
		地域社会学	107
む	武藤和成	入門演習Ⅰ	2
		入門演習Ⅱ	3
		基礎英語Ⅰ	3
		基礎英語Ⅱ	4
		海外語学研修a（英語）	11
		検定英語Ⅰ	57
		検定英語Ⅱ	58

	担当教員	科目名	ページ
		環境情報学概論Ⅱ	138
	村田静昭	資源循環論	168
		環境社会学	108
も	森　康則	地学概論	32
		環境エネルギー論	167
や	安田由紀子	基礎日本語Ⅰ	4
		基礎日本語Ⅱ	5
		日本語中級Ⅰ	12
		日本語中級Ⅱ	12
		日本語上級Ⅰ	13
		日本語上級Ⅱ	13
	柳澤翔士	メディアツールd	60
		コンピュータ音楽論	179
		基礎演習a	139
		基礎演習b	141
		専門演習a	147
		専門演習b	152
		専門演習c	158
		専門演習d	163
		映像概論	181
		クリエイティブワークⅠ	182
		クリエイティブワークⅡ	183
		イベント制作演習	183
	山川和美	販売士講座	49
	山本敦也	コンピュータリテラシー	14
		数学概論	31
		データ解析の技法	41
		基礎数学	63
	山本　伸	メディア情報と文化	175
		西洋文化論／欧米文化論	136
		メディアツールb	59
	山本努武	コンピュータグラフィックス	179
よ	吉成　亮	国際経営論	127
	吉山青翔	中国語Ⅰ	9
		中国語Ⅱ	10
		科学的思考論	29
		科学思想史	30
		環境論	33
		キャリア基礎Ⅰ	34
		キャリア基礎Ⅱ	35
		キャリア基礎Ⅲ	36
		環境倫理学	169
り	李　修二	入門演習Ⅰ	1
		入門演習Ⅱ	2
		四日市学	17
		社会福祉概論	23
		世界史概論	29
		キャリア基礎Ⅰ	34

	担当教員	科目名	ページ
		キャリア基礎Ⅱ	35
		キャリア基礎Ⅲ	36
		公務のための人文科学	46
		社会保障論	107
わ	若山裕晃	総合政策論Ⅰ	66
		基礎演習a	72
		基礎演習b	78
		専門演習a	84
		専門演習b	90
		専門演習c	95
		専門演習d	101
		こころの科学	115
		スポーツ指導論	116
		スポーツトレーニング論	117
		スポーツ心理学	117
		スポーツ社会学	118
		アスリート育成論	120
		スポーツ実技	122

索引(科目名)　50音順

	科目名	担当教員	ページ
あ	アジア文化論	加納光	135
	アスリート育成論	若山裕晃	120
	アプリケーション演習Ⅰ	池田幹男	16
	アプリケーション演習Ⅱ	田中雅章	16
い	イベント制作演習	黒田淳哉・柳瀬元志	183
	インターネット論	田中雅章	62
	インターンシップ	鬼頭浩文	39
う	Webデザインa	堀内敬弘	60
	Webデザインb	堀内敬弘	61
	Webプログラミングa	片山清和・池田幹男・田中雅章	61
	Webプログラミングb	池田幹男・田中雅章	62
え	英語コミュニケーションⅠ	柴田啓文	5
	英語コミュニケーションⅠ	ゴードン・リース	6
	英語コミュニケーションⅠ	樋口晶子	6
	英語コミュニケーションⅡ	柴田啓文	7
	英語コミュニケーションⅡ	ゴードン・リース	7
	英語コミュニケーションⅡ	樋口晶子	8
	英語表現Ⅰ	ゴードン・リース	55
	英語表現Ⅱ	ゴードン・リース	56
	映像概論	柳瀬元志	181
	NPO論	松井真理子	111
お	欧米文化論	山本伸	136
	オペレーション演習	岡良浩・永井博・川崎綾子	51
	おもてなし特別講義a	岩崎祐子・岡良浩	52
	おもてなし特別講義b	池田幹男・岩崎祐子・岡良浩	53
	音楽史	関根辰夫	187
	音楽とまちづくり	鬼頭浩文・前川督雄	109
	音響概論	関根辰夫	182
か	海外語学研修a(英語)	武藤和成	11
	会計学総論	奥原貴士	129
	介護予防スポーツ	池田裕美子	122
	開発経済学	鶴田利恵	128
	海洋学	千葉賢	169
	海洋調査法	千葉賢	170
	化学概論	牧田直子	31
	科学思想史	吉山青翔	30
	科学的思考論	吉山青翔	29
	確率基礎	金岩稔	64
	からだとこころ	大西信行・杉崎一美・別所史子	115
	環境エネルギー論	森康則	167
	環境化学	牧田直子	165
	環境化学実験	牧田直子	166
	環境実験・調査a	大八木麻希・廣住豊一	171
	環境実験・調査b	大八木麻希・廣住豊一	174
	環境社会学	村田静昭	108
	環境情報学概論Ⅰ	鬼頭浩文	137
	環境情報学概論Ⅱ	大八木・田中伊・野呂・廣住・牧田	137

	科目名	担当教員	ページ
	環境情報学概論Ⅱ	池田・片山・黒田・関根・田中雅・樋口・前川・武藤	138
	環境特別講義Ⅲ	片山清和・千葉賢・前川督雄	134
	環境政策	岡良浩・鬼頭浩文・千葉賢	112
	環境法	中西紀夫	104
	環境保全学	野呂達哉	165
	環境保全とツーリズム	千葉賢・岡良浩	112
	環境倫理学	吉山青翔	169
	環境論	吉山青翔	33
	観光英語Ⅰ	ゴードン・リース	53
	観光英語Ⅱ	ゴードン・リース	54
	観光政策	岡良浩・千葉賢	112
	感性と創造	池上貴文	180
き	起業論	岡良浩	133
	基礎英語Ⅰ	ケント・柴田・リース・フェハーリ・樋口・武藤	3
	基礎英語Ⅱ	ケント・柴田・リース・フェハーリ・樋口・武藤	4
	基礎演習a	奥原貴士	67
	基礎演習a	鬼頭浩文	68
	基礎演習a	小泉大亮	68
	基礎演習a	小林慶太郎	69
	基礎演習a	高田晴美	69
	基礎演習a	鶴田利恵	70
	基礎演習a	富田与	70
	基礎演習a	中西紀夫	71
	基礎演習a	フェリペ・フェハーリ	71
	基礎演習a	三田泰雅	72
	基礎演習a	若山裕晃	72
	基礎演習a	片山清和・田中雅章・前川督雄	139
	基礎演習a	黒田淳哉・関根辰夫・柳瀬元志	139
	基礎演習a	野呂達哉・廣住豊一・牧田直子	140
	基礎演習b	奥原貴士	73
	基礎演習b	鬼頭浩文	73
	基礎演習b	小泉大亮	74
	基礎演習b	小林慶太郎	74
	基礎演習b	高田晴美	75
	基礎演習b	鶴田利恵	75
	基礎演習b	富田与	76
	基礎演習b	中西紀夫	76
	基礎演習b	フェリペ・フェハーリ	77
	基礎演習b	三田泰雅	77
	基礎演習b	若山裕晃	78
	基礎演習b	片山清和・田中雅章・前川督雄	140
	基礎演習b	黒田淳哉・関根辰夫・柳瀬元志	141
	基礎演習b	大八木麻希・野呂達哉・廣住豊一	141
	基礎数学	山本敦也	63
	基礎日本語Ⅰ	加納・角田・安田	4

	科目名	担当教員	ページ
	基礎日本語Ⅱ	加納・角田・安田	5
	キャリア基礎Ⅰ	岩崎・岡・永井・田中伊・樋口・牧田・吉山・李	34
	キャリア基礎Ⅰ（公務員クラス）	高田晴美・中西紀夫	35
	キャリア基礎Ⅱ	岩崎・岡・永井・田中伊・樋口・牧田・吉山・李	35
	キャリア基礎Ⅱ（公務員クラス）	高田晴美・中西紀夫	36
	キャリア基礎Ⅲ	岩崎・岡・永井・田中伊・樋口・牧田・吉山・李	36
	キャリア基礎Ⅲ（公務員クラス）	高田晴美・中西紀夫	37
	行政学	藤本和弘	104
	行政法	小林慶太郎・中西紀夫	103
	金融論	岩崎祐子	126
く	グラフィックデザイン概論	池上貴文	177
	クリエイティブワークⅠ	柳瀬元志	182
	クリエイティブワークⅡ	柳瀬元志	183
	グローバルコミュニケーション	富田与	50
け	経営学	川崎綾子	20
	経営管理論	川崎綾子	125
	経営戦略論	川崎綾子	130
	経済学	鬼頭浩文	21
	経済政策	鬼頭浩文	113
	健康スポーツ実技	小泉大亮	123
	健康スポーツ論	小泉大亮	119
	現代財政学	鶴田利恵	103
	検定英語Ⅰ	武藤和成	57
	検定英語Ⅱ	武藤和成	58
こ	交通政策	本部賢一	114
	公務のための英文理解	ゴードン・リース	47
	公務のための経済学	鬼頭浩文	45
	公務のための現代文	高田晴美	44
	公務のための自然科学	高田晴美	47
	公務のための人文科学	李修二	46
	公務のための数的推理	高田晴美	43
	公務のための政治学	小林慶太郎	45
	公務のための判断推理	高田晴美	44
	公務のための法学	中西紀夫	46
	公務のための論文・面接	小林慶太郎	48
	国際関係論	富田与	125
	国際協力研修	岩崎祐子	38
	国際協力論	富田与	127
	国際経営論	吉成亮	127
	国際経済事情	鶴田利恵	124
	こころと文学	高田晴美	124
	こころの科学	若山裕晃	115
	こころの健康	柿原加代子・工藤安史・後藤由紀	123
	コミュニケーションデザイン論	木村眞知子	178
	コミュニティ論	岩崎恭典	110

	科目名	担当教員	ページ
	コンピュータ英語Ⅰ	柴田啓文	54
	コンピュータ英語Ⅱ	柴田啓文	55
	コンピュータ音楽論	柳澤翔士	179
	コンピュータグラフィックス	山本努武	179
	コンピュータ動作論	片山清和	185
	コンピュータリテラシー	石田・楓・山本・杉谷・田中伊・池田・片山	14
さ	サービス経営論	岡良浩	49
	財務諸表論	奥原貴士	129
し	ジェンダー論	高田晴美・三田泰雅	22
	資源循環論	村田静昭	168
	システム管理論	井岡幹博	185
	次世代メディア社会	前川督雄	178
	自然科学概論	田中伊知郎	30
	自然調査法	大八木麻希	166
	市民教育	松井真理子	18
	社会学	三田泰雅	22
	社会調査実習1	三田泰雅	42
	社会調査実習2	三田泰雅	43
	社会調査入門	三田泰雅	39
	社会調査の技法	三田泰雅	40
	社会福祉概論	李修二	23
	社会保障論	李修二	107
	出版文化論	稲葉年計	134
	情報科学	池田幹男	15
	情報システム論	池田幹男	186
	情報と職業	井岡幹博	15
	情報倫理	池田・片山・田中伊・田中雅	14
	照明概論	黒田淳哉	181
	食とまちづくり	小林慶太郎	108
	食品衛生学	廣住豊一	174
	食品微生物学	大八木麻希	173
	食糧生産学	廣住豊一	173
	人権論	松井真理子	18
	人事管理論	川崎綾子	131
	心理学	田中伊知郎	34
	森林学	田中伊知郎	172
す	数学概論	山本敦也	31
	スポーツ栄養学	櫻井智美	119
	スポーツ応用科学	小泉大亮	120
	スポーツ実技	若山裕晃	122
	スポーツ指導論	若山裕晃	116
	スポーツ社会学	若山裕晃	118
	スポーツ心理学	若山裕晃	117
	スポーツ政策論	小泉大亮	116
	スポーツ生理学	小泉大亮	118
	スポーツトレーニング論	若山裕晃	117
	スポーツメディカル論	小泉大亮	121

	科目名	担当教員	ページ
せ	政策科学入門	奥原・鬼頭・小林慶・高田・鶴田・富田・永井・中西・松井・三田	66
	政策過程論	小林慶太郎	102
	政策法務	中西紀夫	105
	政治学	小林慶太郎	21
	生態学	大八木麻希	164
	生物学概論	田中伊知郎	32
	生物と進化	田中伊知郎	33
	生物分類学	大八木麻希	170
	生命－情報－環境	前川督雄	188
	西洋文化論	山本伸	136
	世界史概論	李修二	29
	線型代数	金岩稔	65
	専門演習a	奥原貴士	78
	専門演習a	鬼頭浩文	79
	専門演習a	小泉大亮	79
	専門演習a	小林慶太郎	80
	専門演習a	高田晴美	80
	専門演習a	鶴田利恵	81
	専門演習a	富田与	81
	専門演習a	中西紀夫	82
	専門演習a	フェリペ・フェハーリ	82
	専門演習a	松井真理子	83
	専門演習a	三田泰雅	83
	専門演習a	若山裕晃	84
	専門演習a	池田幹男	142
	専門演習a	大八木麻希	142
	専門演習a	片山清和	143
	専門演習a	黒田淳哉	143
	専門演習a	関根辰夫	144
	専門演習a	千葉賢	144
	専門演習a	野呂達哉	145
	専門演習a	廣住豊一	145
	専門演習a	前川督雄	146
	専門演習a	牧田直子	146
	専門演習a	柳瀬元志	147
	専門演習b	奥原貴士	84
	専門演習b	鬼頭浩文	85
	専門演習b	小泉大亮	85
	専門演習b	小林慶太郎	86
	専門演習b	高田晴美	86
	専門演習b	鶴田利恵	87
	専門演習b	富田与	87
	専門演習b	中西紀夫	88
	専門演習b	フェリペ・フェハーリ	88
	専門演習b	松井真理子	89
	専門演習b	三田泰雅	89
	専門演習b	若山裕晃	90

	科目名	担当教員	ページ
	専門演習b	池田幹男	147
	専門演習b	大八木麻希	148
	専門演習b	片山清和	148
	専門演習b	黒田淳哉	149
	専門演習b	関根辰夫	149
	専門演習b	千葉賢	150
	専門演習b	野呂達哉	150
	専門演習b	廣住豊一	151
	専門演習b	前川督雄	151
	専門演習b	柳瀬元志	152
	専門演習b	牧田直子	152
	専門演習c	奥原貴士	90
	専門演習c	鬼頭浩文	91
	専門演習c	小泉大亮	91
	専門演習c	小林慶太郎	92
	専門演習c	高田晴美	92
	専門演習c	鶴田利恵	93
	専門演習c	富田与	93
	専門演習c	中西紀夫	94
	専門演習c	松井真理子	94
	専門演習c	三田泰雅	95
	専門演習c	若山裕晃	95
	専門演習c	池田幹男	153
	専門演習c	大八木麻希	153
	専門演習c	片山清和	154
	専門演習c	黒田淳哉	154
	専門演習c	関根辰夫	155
	専門演習c	千葉賢	155
	専門演習c	野呂達哉	156
	専門演習c	廣住豊一	156
	専門演習c	前川督雄	157
	専門演習c	牧田直子	157
	専門演習c	柳瀬元志	158
	専門演習d	奥原貴士	96
	専門演習d	鬼頭浩文	96
	専門演習d	小泉大亮	97
	専門演習d	小林慶太郎	97
	専門演習d	高田晴美	98
	専門演習d	鶴田利恵	98
	専門演習d	富田与	99
	専門演習d	中西紀夫	99
	専門演習d	松井真理子	100
	専門演習d	三田泰雅	100
	専門演習d	若山裕晃	101
	専門演習d	池田幹男	158
	専門演習d	大八木麻希	159
	専門演習d	片山清和	159
	専門演習d	黒田淳哉	160

	科目名	担当教員	ページ
	専門演習d	関根辰夫	160
	専門演習d	千葉賢	161
	専門演習d	野呂達哉	161
	専門演習d	廣住豊一	162
	専門演習d	前川督雄	162
	専門演習d	柳瀬元志	163
	専門演習d	牧田直子	163
そ	総合政策特別講義Ⅲ	片山清和・千葉賢・前川督雄	134
	総合政策論Ⅰ	岩崎・岡・奥原・川崎・鬼頭・永井・高田・中西・フェハーリ・松井・三田・若山	66
	総合政策論Ⅱ	岡・加納・小泉・小林・鶴田・富田・永井・中西・フェハーリ・松井	67
	ソフトウエア論	池田幹男	176
ち	地域開発論	岡良浩	106
	地域環境論	千葉賢	167
	地域経済論	岡良浩	102
	地域産業論	岡良浩	105
	地域社会学	三田泰雅	107
	地域社会と環境	野呂達哉	19
	地域社会の歴史	岡佑哉	17
	地域スポーツ論	小泉大亮	121
	地域福祉論	柴田啓文	106
	地域文化論	前田憲司	136
	地域防災	鬼頭浩文	19
	地域連携特別講義a	小林慶太郎	20
	地学概論	森康則	32
	地球環境学総論	廣住豊一	164
	地方自治論	小林慶太郎	101
	中国語Ⅰ	加納光	8
	中国語Ⅰ	吉山青翔	9
	中国語Ⅱ	加納光	9
	中国語Ⅱ	吉山青翔	10
	中小企業論	岡良浩	131
	地理情報システム論	井岡幹博	168
て	データ統計処理	片山清和	65
	データ分析の基礎	田中伊知郎	40
	データ解析の技法	山本敦也	41
	データベースプログラミング	田中雅章	186
	哲学	フェリペ・フェハーリ	26
	鉄道とまちづくり	岩崎恭典	110
と	統計的分析	田中伊知郎	41
	統計リテラシー	井岡幹博	63
	東洋文化論	加納光	135
	都市環境論	岡良浩	114
	都市計画論	岡良浩	114
	都市政策	藤本和弘	113
	都市法	中西紀夫	104
	土壌学	廣住豊一	172

	科目名	担当教員	ページ
に	日本経済事情	杉谷克芳	126
	日本国憲法	中西紀夫	24
	日本語上級Ⅰ	伊藤・加納・角田・安田	13
	日本語上級Ⅱ	加納・角田・安田	13
	日本語中級Ⅰ	伊藤・加納・角田・安田	12
	日本語中級Ⅱ	加納・角田・安田	12
	日本史概論	岡佑哉	28
	日本文化論	永井博	135
	入門演習Ⅰ	岩崎・奥原・加納・川崎・鶴田・富田・永井・三田・李	1
	入門演習Ⅰ	大八木・樋口・廣住・前川・武藤	2
	入門演習Ⅱ	岩崎・奥原・加納・川崎・鶴田・富田・永井・三田・李	2
	入門演習Ⅱ	大八木・樋口・廣住・前川・武藤	3
	「人間たれ」	岩崎恭典	1
の	脳・音・光の科学Ⅰ	関根辰夫・前川督雄	175
	脳・音・光の科学Ⅱ	関根辰夫・前川督雄	177
	農業経営論	杉谷克芳・鶴田利恵	133
	農産流通論	川崎綾子	132
は	ハードウエア論	片山清和	184
	販売士講座	山川和美	49
ひ	ビジネス英語Ⅰ	樋口晶子	56
	ビジネス英語Ⅱ	樋口晶子	57
	ビジネスコミュニケーション	岡良浩	50
	ビジネスマナー	岡良浩	48
	ビジネスマネジメント	岩崎祐子・奥原貴士	51
	微分積分	片山清和	64
	表現と思想	木村眞知子	180
ふ	フィールドワーク論	富田与	42
	プログラミング	田中雅章	184
	文学	永井博	26
	文化論	前川督雄	28
	文章表現論	杉谷克芳	27
	文章表現論	永井博(留学生クラス)	27
ほ	法学	中西紀夫	24
	簿記入門	奥原貴士	128
	ボランティア活動a	松井真理子	37
	ボランティア活動b	松井真理子	38
	ポルトガル語Ⅰ	フェリペ・フェハーリ	10
	ポルトガル語Ⅱ	フェリペ・フェハーリ	11
ま	マーケティング演習	岩崎祐子・岡良浩	52
	マーケティング論	川崎綾子	130
	マイノリティ政策	小林慶太郎	111
	祭りとまちづくり	岩崎恭典・前田憲司	109
み	民法入門	土志田佳枝	25
め	メディア情報産業論	前川督雄	187
	メディア情報と文化	山本伸	175
	メディアツールa	池上貴文・西尾秀樹・堀内敬弘	58

	科目名	担当教員	ページ
	メディアツールb	池上貴文･西尾秀樹･山本努武	59
	メディアツールc	田中麻衣	59
	メディアツールd	柳澤翔士	60
	メディアの歴史	木村眞知子	176
	メディアリテラシー	関根辰夫･前川督雄	23
も	ものづくり経営	西浦尚夫	132
よ	四日市学	岡･鬼頭･永井･李	17
	四日市公害論	千葉賢	138
り	陸水学	大八木麻希	171
	流通論	川崎綾子	132
	倫理学	フェリペ･フェハーリ	25

学 籍 番 号　　氏　　名